

学 生 便 覧

“Student Guide”

平成22年度 (2010)



総合研究大学院大学

THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

総合研究大学院大学倫理綱領

総合研究大学院大学は、社会の付託を受けた高等教育機関であることの自覚と責任に基づき、ここに倫理綱領を定める。

一、総合研究大学院大学は、その教育研究活動を通じて、基礎学術の発展に先導的な役割を果たし、以って人類の福祉に貢献するべきである。

一、総合研究大学院大学の教員ならびに学生は、大学設立の趣旨に則り、その教育目的実現に向けて勉励するべきである。

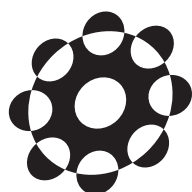
一、総合研究大学院大学において教育研究に従事する者は、他の研究者ならびに教育を受ける者の人格を尊重するべきである。

一、総合研究大学院大学に在籍する者は、良心に基づいて社会的行為規範を遵守し、自己研鑽に努めるべきである。

学 生 便 覧

“Student Guide”

平成22年度 (2010)



総合研究大学院大学

THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES

目 次 (Contents)

0. 学年暦 (Academic Calendar)

学年暦	2
-----------	---

1. 学生生活について (Student Life)

1-1. 学籍番号について.....	2
1-2. 学生証.....	3
1-3. 各種証明書(在学証明書・学割ほか).....	4
1-4. 各種変更願・変更届.....	5
1-5. 休学・復学・退学・除籍・再入学・留学.....	6
1-6. 学生相談窓口.....	8
1-7. 健康診断・健康管理.....	8
1-8. 授業料について.....	9
1-9. 入学料について.....	10
1-10. 学生保険への加入について.....	11
1-11. 留学生に対する支援について.....	11
1-12. 課外活動について.....	12
1-13. 安全について.....	12

0. Academic Calendar	13
1-1. Student Register Number	13
1-2. Student ID Card	14
1-3. Certificates	15
1-4. Applications/Notices for Change	18
1-5. Absence from School, Re-Enrollment, Withdrawal, Removal from Register, Re-Admission, and Studying Abroad	19
1-6. Counseling Service for Students	22
1-7. Health Examination/Health Management	22
1-8. Tuition Fee	23
1-9. Registration Fee	26
1-10. Student Insurances	26
1-11. Support for International Students	27
1-12. Extracurricular Activities	27
1-13. Safety	28

2. 奨学金等について (Scholarship)	
2-1. 日本学生支援機構の奨学金について	30
2-2. 日本学術振興会特別研究員制度について	31
2-3. 日本学術振興会海外特別研究員制度について	32
2-4. 国の教育ローンについて	33
2-5. その他の奨学支援(研究助成)について	33
2-6. 留学生に対する奨学金について	33
2-1. Scholarship by the Japan Student Services Organization	35
2-2. JSPS Research Fellowships for Young Scientists	37
2-3. JSPS Post Doctoral Fellowships for Research Abroad	37
2-4. National Education Loan	37
2-5. Other Scholarship Programs (Research Grants)	37
2-6. Scholarships for International Students	38
3. 履修について (Registration)	
3-1. 履修に関する一般的な留意事項	43
3-2. 修了要件・授業科目の履修	43
3-3. 各研究科・専攻に置く授業科目	46
3-4. 総合教育科目について(全学共同教育研究活動)	47
3-5. 資格取得のための授業科目の履修	48
3-6. 他大学における授業科目等の履修	48
3-7. 他大学等における研究指導	51
3-8. その他	51
3-1. General Information on Course Registration	52
3-2. Requirements for Graduation / Required Number of Credits	52
3-3. Subjects Provided by Each School / Department (Outlines of Subjects)	57
3-4. Comprehensive Subjects (Interdepartmental Activities for Research and Education)	57
3-5. Subject for Teaching Certificate	58
3-6. Studying at Other Universities	58
3-7. Receiving Research Supervision at Other Universities	61
3-8. Other	62
3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要 (<u>Outlines of Courses Provided by Each School/Department</u>)	
3-9-1. 文化科学研究科 (School of Cultural and Social Studies)	

地域文化学専攻 (Dept. Regional Studies) 授業科目概要	66
比較文化学専攻 (Dept. Comparative Studies) 授業科目概要	70
国際日本研究専攻 (Dept. Japanese Studies) 授業科目概要	74
日本歴史研究専攻 (Dept. Japanese History) 授業科目概要	76
メディア社会文化専攻 (Dept. Cyber Society and Culture) 授業科目概要	80
日本文学研究専攻 (Dept. Japanese Literature) 授業科目概要	84
3-9-2. 物理科学研究科 (School of Physical Sciences)	
構造分子科学専攻 (Dept. Structural Molecular Science) 授業科目概要	92
機能分子科学専攻 (Dept. Functional Molecular Science) 授業科目概要	94
天文科学専攻 (Dept. Astronomical Science) 授業科目概要	96
核融合科学専攻 (Dept. Fusion Science) 授業科目概要	104
宇宙科学専攻 (Dept. Space and Astronautical Science) 授業科目概要	110
研究科共通専門基礎科目 (Physical Sciences) 授業科目概要	116
コース別特別科目 (Physical Sciences) 授業科目概要	118
3-9-3. 高エネルギー加速器科学研究科 (School of High Energy Accelerator Science)	
加速器科学専攻 (Dept. Accelerator Science) 授業科目概要	122
物質構造科学専攻 (Dept. Materials Structure Science) 授業科目概要	132
素粒子原子核専攻 (Dept. Particle and Nuclear Physics) 授業科目概要	136
研究科共通専門基礎科目 (High Energy Accelerator Science) 授業科目概要	142
3-9-4. 複合科学研究科 (School of Multidisciplinary Sciences)	
統計科学専攻 (Dept. Statistical Science) 授業科目概要	148
極域科学専攻 (Dept. Polar Science) 授業科目概要	160
情報学専攻 (Dept. Informatics) 授業科目概要	172
研究科共通専門基礎科目 (Multidisciplinary Sciences) 授業科目概要	182
3-9-5. 生命科学研究所 (School of Life Science)	
遺伝学専攻 (Dept. Genetics) 授業科目概要	192
基礎生物学専攻 (Dept. Basic Biology) 授業科目概要	196
生理科学専攻 (Dept. Physiological Sciences) 授業科目概要	198
研究科共通専門科目 (Life Science) 授業科目概要	202
3-9-6. 先端科学研究科 (School of Advanced Sciences)	
生命共生体進化学専攻 (Dept. Evolutionary Studies of Biosystems) 授業科目概要	206
3-9-7. 全学共通 (All University Student)	
総合教育科目 (Comprehensive Subjects) 授業科目概要	216
4. 学位について (Degrees)	
4-1. 学位	220
4-2. 学位申請及び審査の手順	221

4-3. 学位論文等の公表	222
4-1. Degrees	224
4-2. Examination of Doctoral Dissertations	225
4-3. Publication of Doctoral Dissertations	227
5. その他 (Other)	
5-1. 非正規生(科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生、特別研究学生)	230
5-2. 学生の氏名の取扱いについて	231
5-3. 総合研究大学院大学の名称等の英語表記について	231
5-4. 各種連絡先	232
5-1. Non-Regular Research Student 【Non-Matriculated Student, Auditing Student, Special Auditing Student, Research Student, Special Non-Matriculated Student】	236
5-2. Rules for Handling the Names of Students in SOKENDAI	237
5-3. Rules for Writing the Names of the University and its Schools / Departments in Japanese	238
5-4. Contacts	239
6. 付録	
6-1. 基本的な規則	
○ 学則(Gakusoku)	245
○ 学生規則(Gakusei-Kisoku)	260
6-2. 履修規程	
○ 文化科学研究科履修規程(Bunka-Rishuu-Kitei)	268
○ 物理科学研究科履修規程(Butsuri-Rishuu-Kitei)	274
○ 高エネルギー加速器科学研究科履修規程(Kouene-Rishuu-Kitei)	282
○ 複合科学研究科履修規程(Fukugou-Rishuu-Kitei)	288
○ 生命科学研究科履修規程(Seimei-Rishuu-Kitei)	296
○ 先導科学研究科生命共生体進化学専攻履修規程(Seimeikyoseitai-Rishuu-Kitei)	302
6-3. 学位関係	
○ 学位規則(Gakui-Kisoku)	306
○ 文化科学研究科(Bunkakagaku-Kenkyuka) ～課程博士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程 (Ronbunshinsa-Kitei)	311
○ 物理科学研究科(Butsurikagaku-Kenkyuka) ～課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程	

	(Ronbunshinsa-Kitei).....	315
	～課程博士の学位授与に係る予備審査の手続きに関する細則	
	(Yobishinsa-Saisoku).....	320
○	高エネルギー加速器科学研究科(Kou-Enerugi-Kasokukikagaku-Kenkyuka)	
	～課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程	
	(Ronbunshinsa-Kitei).....	321
	～課程博士の学位授与に係る予備審査の手続きに関する細則	
	(Yobishinsa-Saisoku).....	326
○	複合科学研究科(Fukugoukagaku-Kenkyuka)	
	～課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程	
	(Ronbunshinsa-Kitei).....	327
	～課程博士の学位授与に係る予備審査の手続きに関する細則	
	(Yobishinsa-Saisoku).....	332
○	生命科学研究科(Seimeikagaku-Kenkyuka)	
	～課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程	
	(Ronbunshinsa-Kitei).....	333
○	先導科学研究科(Sendoukagaku-Kenkyuka)	
	～生命共生体進化学専攻課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程(Seimeikyoseitai-Ronbunshinsa-Kitei).....	338

6-4. その他規則

○	科目等履修生、聴講生及び研究生規則(Kenkyusei-Kisoku).....	342
○	科目等履修生、聴講生及び研究生規程(Kenkyusei-Kitei).....	345
○	国立大学法人総合研究大学院大学における授業料その他の費用等の 取扱いに関する規則(Jyugyouryou-Kisoku).....	346
○	中学校教諭・高等学校専修免許状の授与の所要資格等に関する規則 (Kyoinmenkyo-Kisoku).....	353
○	総合研究大学院大学における優れた研究業績を上げた者の在学期間の短縮の 取り扱いを定める件(Zaigakukikantanshuku-Kitei).....	354
○	総合研究大学院大学における学生の氏名の取り扱いを定める件 (Gakuseishimei-Kitei).....	355
○	総合研究大学院大学における長期履修学生の取扱いに関する裁定 (Choki-Rishu-Saitei).....	356

※ 本学ウェブサイトにも、この「学生便覧」を掲載しておりますのでご活用
下さい。

(The "Student Guide" (学生便覧) is also available on SOKENDAI's website.)

本学ウェブサイト <http://www.soken.ac.jp>

(注) この学生便覧に掲載している英訳本文は、和文の内容を参考掲載したものです。大学と
しての正式な解釈及び適用は和訳本文によります。

【Attention】

The English version in this guide is used for reference only and shall not be regarded as
a controlling document.

0. 学年暦 (Academic Calendar)

学年暦 (Academic Calendar).....	2
------------------------------	---

1. 学生生活について (Student Life)

1-1. 学籍番号について.....	2
1-2. 学生証.....	3
1-3. 各種証明書(在学証明書・学割ほか).....	4
1-4. 各種変更願・変更届.....	5
1-5. 休学・復学・退学・除籍・再入学・留学.....	6
1-6. 学生相談窓口.....	8
1-7. 健康診断・健康管理.....	8
1-8. 授業料について.....	9
1-9. 入学料について.....	10
1-10. 学生保険への加入について.....	11
1-11. 留学生に対する支援について.....	11
1-12. 課外活動について.....	12
1-13. 安全について.....	12

0. Academic Calendar	13
1-1. Student Register Number	13
1-2. Student ID Card	14
1-3. Certificates	15
1-4. Applications/Notices for Change	18
1-5. Absence from School, Re-Enrollment, Withdrawal, Removal from Register, Re-Admission, and Studying Abroad	19
1-6. Counseling Service for Students	22
1-7. Health Examination/Health Management	22
1-8. Tuition Fee	23
1-9. Registration Fee	26
1-10. Student Insurances	26
1-11. Support for International Students	27
1-12. Extracurricular Activities	27
1-13. Safety	28

0. 学年暦

本学における学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。各年度の学年暦は年度により日程が前後しますが、基本的な構成は来年度以降も同様です。

なお、平成22年度学年暦は下記のとおりです。

また、学年暦は総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)でも確認することができます。

平成22年度学年暦(Academic Calendar 2010 School year)

	2010 School year
[前学期(1st Semester)]	2010. 4. 1 ~ 2010. 9.30
春季休業(Spring Holiday)	2010. 4. 1 ~ 2010. 4. 4
入学式(Entrance Ceremony)	2010. 4. 8
前学期授業(1st Semester)	2010. 4. 5 ~ 2010. 9.30
夏季休業(Summer Holiday)	2010. 7.14 ~ 2010. 8.31
試験(Examination Period)	2010. 9.14 ~ 2010. 9.30
学位記授与式(Graduation Ceremony)	2010. 9.30
[後学期(2nd Semester)]	2010.10. 1 ~ 2011. 3.31
入学式(Entrance Ceremony)	2010.10. 7
後学期授業(2nd Semester)	2010.10. 1 ~ 2011. 2.28
冬季休業(Winter Holiday)	2010.12.16 ~ 2011. 1. 3
試験(Examination Period)	2011. 2.15 ~ 2011. 2.28
春季休業(Spring Holiday)	2011. 3. 1 ~ 2011. 3.31
学位記授与式(Graduation Ceremony)	2011. 3.24

※ 学生セミナー(春)(Student Seminars(Spring)) 2010. 4. 8~ 4. 9

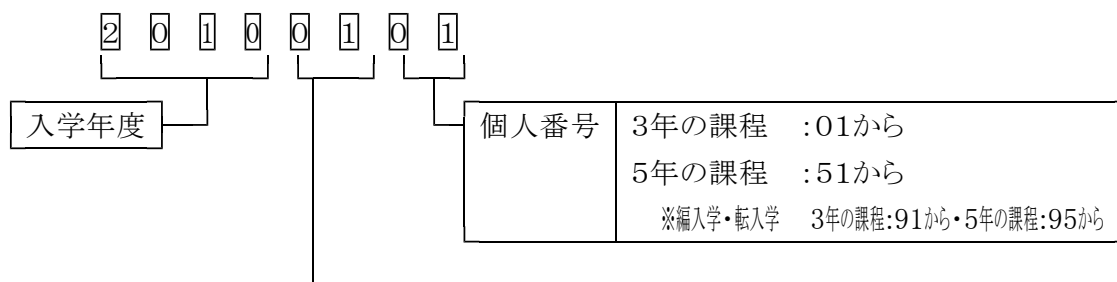
※ 学生セミナー(秋)(Student Seminars(Autumn)) 2010.10. 7~10. 8

1. 学生生活について

1-1. 学籍番号について

学籍番号は在学生個人に与えられる番号です。この番号は、各種事務手続きの際に必要となりますので、正確に記憶しておく必要があります。

※正規生の学籍番号の振り方



専攻コード					
地域文化学	01	機能分子科学	08	統計科学	15
比較文化学	02	天文科学	09	極域科学	16
国際日本研究	03	核融合科学	10	情報学	17
日本歴史研究	04	宇宙科学	11	遺伝学	18
メディア社会文化	05	加速器科学	12	基礎生物学	19
日本文学研究	06	物質構造科学	13	生理科学	20
構造分子科学	07	素粒子原子核	14	生命共生体進化学	23

※研究生の学籍番号の振り方

上4桁、下2桁は正規生と同様の振り方で行い、「専攻コード」の部分のみ下記のようになります。

専攻コード					
地域文化学	A1	機能分子科学	B2	統計科学	D1
比較文化学	A2	天文科学	B3	極域科学	D2
国際日本研究	A3	核融合科学	B4	情報学	D3
日本歴史研究	A4	宇宙科学	B5	遺伝学	E1
メディア社会文化	A5	加速器科学	C1	基礎生物学	E2
日本文学研究	A6	物質構造科学	C2	生理科学	E3
構造分子科学	B1	素粒子原子核	C3	生命共生体進化学	F3

※その他の学生の学籍番号の振り方(専攻コード)

科目等履修生は「NO」、聴講生は「OO」、特別聴講学生は「TO」、特別研究生は「KO」となります。

◆問合せ先

葉山本部・教務係 (Tel: 046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

1-2. 学生証

学生には、入学と同時に学生証が配付されます。この学生証は、本学の学生としての身分を証明するものですので、汚損や紛失などがないよう注意し、常に携帯してください。

- 学生証の有効期間は、3年(5年の課程を履修する学生にあっては5年)です。
- 修了、退学、除籍等により学生の身分を失ったときは直ちに学生証を返還しなければなりません。

- 紛失や盗難にあったとき、汚損等により使用不能となったときは、「学生証再発行願」により速やかに葉山本部・学生厚生係まで願い出てください。
- 学生証の有効期間を経過したとき、紛失等に係る学生証が見つかったとき、その他新たな学生証の交付を受けているときは、旧の学生証は無効で使用できませんので、直ちに旧の学生証を返還してください。
- 学生証再発行願は、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)からダウンロードすることができます。

◆問合せ先

葉山本部・学生厚生係 (Tel:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-3. 各種証明書

●本学で発行できる各種証明書

◎在学生の場合

在学証明書(和・英)、成績証明書(和・英)、修了見込証明書(和・英)、健康診断書(和・英)、通学証明書(和)、教員免許状取得見込証明書(和)、国費外国人留学生証明書(国費留学生で在留期間を更新する場合等)、研究状況証明書、学割証、その他の証明書

◎修了生・退学者の場合

修了証明書(和・英)、成績証明書(和・英)、退学証明書、その他の証明書

●証明書の発行手数料

無料です(平成22年4月1日現在)。ただし、葉山本部から各基盤機関^(注1)の専攻担当係^(注2)以外へ送付を希望する場合は、証明書を送付するための返信用封筒(返信先記載・切手貼付のこと)を葉山本部・教務係あて送付してください。

●証明書の発行方法

証明書発行申請書(学割の場合は、学割証発行申請書)を記載のうえ、各基盤機関の専攻担当係まで提出してください(葉山本部・教務係に直接請求することもできます)。

●証明書交付のうえでの注意

在学証明書(和文)、学割証は、各基盤機関の専攻担当係が発行し、その他の証明書は葉山本部・教務係が発行します。葉山本部で発行する証明書については、郵送等に時間がかかりますので、2週間程度の余裕をもって申請してください。なお、葉山本部では証明書発行申請書が到着してから原則3日以内(土曜、日曜、祝日、12月29日～1月3日を除く)に各基盤機関の専攻担当係あてに発送します。

●本人確認について

証明書交付の際、個人情報保護の観点から、本人確認を行っておりますので、ご協力をお願いします。

○窓口での請求

～本人確認ができる書類(学生証・運転免許証等)の提示を求められることがあります。

○メール・郵送・FAXによる請求

～証明書発行申請書に本人確認ができる書類の写しを添付のうえ、申請してくだ

さい。本人確認書類は葉山本部で確認後、証明書と併せ、返送(メールの場合は添付ファイルを削除)します。

○本人による申請が難しいときは、代理申請することができます。不明な点は各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係に問い合わせてください。

●学割証について

学割証はJRの乗車区間が片道で100^{キロ}を超えるときに利用できます。

●通学定期券の購入について

自宅と所属する専攻の所在地の最寄り駅までの通学定期券は、学生証の提示により購入することができますが、一部のバス会社等では購入できない場合があります。この場合は通学証明書を発行しますので、各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係まで証明書発行申請書により請求してください。

★留学生に係る証明書等について

●国費外国人留学生証明書について

国費外国人留学生が、ビザの更新時や、宿舍の賃貸借契約締結の際、奨学金の受給状況についての証明が必要な場合に発行します。

●私費外国人留学生学習奨励費受給証明書について

学習奨励費受給者が、ビザの更新時や、宿舍の賃貸借契約締結の際、学習奨励費の受給状況についての証明が必要な場合に発行します。

●副申書について

入国管理局において、資格外活動許可の申請をする際に、提出が求められます。留学生が日本でアルバイトをする際(RA、TA、チューター、研究補助を含む)、必ず必要です。

※**証明書発行申請書**の様式は、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)からダウンロードすることができます。

◆問合せ先

【全般】 葉山本部・教務係 (TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

【留学生関係】 〃 国際交流係(TEL:046-858-1527 kokusai@ml.soken.ac.jp)

(注1) 「基盤機関」の呼称について

本学を構成する18の研究所等の総称として、「基盤機関」と呼称しています。

(注2) 「専攻担当係」について

各基盤機関において、本学の大学院関係事務を担当する係等を置いています。

1-4. 各種変更願・変更届等

次のような場合には、変更願又は変更届等を各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係に提出してください。特に本人の住所変更は、大学から連絡をするために必要なので、速やかに届け出てください。

不明な点は各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係に問い合わせください。

○他の研究科に移籍又は転専攻したいとき…………… 「移籍・転専攻願」

3. 休学期間は在学年数に算入しません。ただし学年は休学にかかわらず進行します。
4. 授業料の徴収時期(前期は4月、後期10月)に休学が許可された場合は、当該休学許可期間の授業料は免除されます(授業料の徴収時期以降に休学する場合は、当該学期分の授業料が徴収されます)。
5. 休学しようとするときは、授業料の納入、休学・復学の時期に関連する授業科目の履修や在学期間の観点から問題が生じないように、事前に各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部まで相談してください。
6. 日本学生支援機構奨学金受給者は、「休学願」と併せ、「異動願(届)」の提出が必要です。

②復学について

1. 休学を許可された学生は、休学期間が満了したとき、所定の「復学届」に必要事項を記入し、所属専攻長に提出してください。
2. 休学中に、その事由が消滅した場合は休学許可された期間を繰り上げて、復学することができます。所定の「復学願」に必要事項を記入し、指導教員の署名のうえ、所属する専攻長に提出してください。研究科教授会の承認を得て復学することができます。
3. 日本学生支援機構奨学金が休止中の者は、「異動願(届)」の提出が必要です。

③退学について

1. 退学する場合は、所定の「退学願」に必要事項を記入し、指導教員の署名のうえ、所属する専攻長に提出してください。研究科教授会の承認を受け、退学することができます。
2. 学年の途中で退学する場合でも、原則としてその学期の授業料は徴収されます。
3. 退学しようとするときは事前に各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部まで相談してください。
4. 日本学生支援機構奨学金受給者は、「異動願(届)」及び「返還誓約書・奨学金借用書」の提出が必要です。

④除籍について

以下の事由に該当する者は除籍となります。

- ・在学年限を超えた者
- ・休学期間が2年を超え、なお修学できない者
- ・入学料の免除が不許可とされた者又は徴収猶予を許可された者が納付すべき入学料を所定の期日までに納付しなかったとき
- ・授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しなかったとき

⑤再入学について

本学の研究科を修了した者又は退学をした者で、本学の研究科に再び入学することを志願する者は、その研究科の教育研究に支障がないときに限り、選考のうえ、当該研究科の相当年次に入学が許可されます。

再入学を希望する場合は、事前に各基盤機関の専攻担当係に相談してください。

⑥研究科間の移籍等について

他研究科又は他の専攻に移籍を希望する学生は、事前に指導教員等と十分に相談の

うえ、所定の「移籍・転専攻願」に必要事項を記入し、指導教員の署名のうえ、所属する専攻長に提出してください。

⑦転学について

他の大学の大学院に転学を希望する学生は、所定の「転学願」に必要事項を記入し、指導教員の署名のうえ、所属する専攻長に提出してください。

⑧留学について

外国の大学の大学院に留学し、教育を受ける場合は、所定の「留学願」に指導教員の署名のうえ、所属する専攻長に提出してください。研究科教授会の承認を受け、留学することができます。

1. 留学期間は、原則として1年以内ですが、やむを得ない事情があると認められたときは、原則として引き続き1年以内に限り、その延長を許可することができます。
2. 留学期間中も授業料の納付が必要です。

◆問合せ先

葉山本部・教務係(Tel:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

1-6. 学生相談窓口

●一般的な学生生活上の相談について

学生生活上の一般的な相談は、各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・学生厚生係において受け付けています。

●メンタルヘルス相談について

学生生活を送るにあたって、対人関係、自分の性格等についての悩みほか、「心の健康」に関する悩み事について、本学ではメンタルヘルス相談を設けています。

メンタルヘルス相談は、各基盤機関で月1回程度、カウンセラーによる相談の機会を設けているほか、常時、Eメールによる相談も受け付けています。

※カウンセラーによるメンタルヘルス相談の実施日は、各基盤機関の専攻担当係まで問い合わせてください。

※メンタルヘルスに関するEメール相談:soudan@soken.ac.jp(本学学生専用)

●教育問題相談窓口について

セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント等の悩み事について、葉山本部に教育問題相談窓口として、常時、Eメールによる相談を受け付けています。

※教育問題相談窓口(Eメール):gakusei_consult@ml.soken.ac.jp(本学学生専用)

◆問合せ先

葉山本部・学生厚生係(Tel:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-7. 健康診断・健康管理

本学では、全学生(非正規生を除く)に年1回、健康診断を実施しています。詳細は各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・学生厚生係に問い合わせてください。

◆問合せ先

葉山本部・学生厚生係(Tel:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-8. 授業料について

①授業料の額

年額 535,800円(平成22年度の額)

※授業料が改訂された際は、改訂後の額が適用されます。

②授業料の納付方法

1. 授業料の年額のうち半期分を前・後期毎に納付いただきます。
2. 授業料は、原則として登録された預金口座から引き落としとなります。
3. 預金口座からの引き落としを行うため、「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」による届出が必要です。また、預金口座を変更する場合も同様の届出が必要です。
4. 「預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書」が必要な方は、葉山本部・経理係に請求してください。
5. 預金口座からの引き落としによらず、本学が指定する金融機関の口座へ振込により授業料を納付することもできます。希望する場合は、葉山本部・経理係まで申し出てください。ただし、振込手数料は自己負担となります。
6. 前期分授業料納付の際、後期分授業料も併せ、一括して納付することもできますので、希望する場合は葉山本部・経理係あて申し出てください。
7. いったん納付された授業料は原則として返還できません。

③納付時期

1. 授業料の預金口座からの引き落とし日は、前期分は4月27日、後期分は10月27日(当該日が金融機関の休日の場合は翌営業日)です。授業料の引き落としを行う預金口座に授業料相当額を引き落とし日の前日までに用意してください。預金残高不足等の理由により、預金口座からの引き落としができなかった場合は、翌月の27日(当該日が金融機関の休日の場合は翌営業日)になります。なお、預金口座からの引き落としに伴う手数料は不要です(本学負担)。
2. 納付期限までに授業料を納付しない者は学則の定めにより除籍されます。
3. 授業料未納の場合は、修了・休学・退学等の身分異動は認められません。
4. 授業料納付が遅れる場合は、各基盤機関の専攻担当係に相談してください。

④授業料免除・徴収猶予

●授業料免除の対象者

- (1) 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
- (2) 授業料の各期ごとの納期前6か月以内において、学生の学資を主として負担している学資負担者が死亡し又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる者
- (3) その他(2)に準ずる場合であって、学長が相当と認める事由がある者

●授業料徴収猶予の対象者

- (1) 経済的理由により納付すべき時期までに授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀であると認められる場合
- (2) 行方不明の場合
- (3) 学生又は学資負担者が災害を受け、授業料の納付が困難であると認められる場

合

(4) その他やむを得ない事情があると認められる場合

●手続き

免除又は徴収猶予を希望する者は、前期にあつては4月30日、後期にあつては10月31日までに、次の書類を葉山本部・学生厚生係に提出してください(年度により、切日が異なります。別途通知しますので、その期間内に行ってください)。

- (1) 授業料免除願(免除申請者の場合)
- (2) 授業料徴収猶予願(徴収猶予申請者の場合。免除申請者の場合も併せて必要)
- (3) 家庭調書
- (4) 証明書類(次のア～エのうち、該当する証明書類を添付すること)
 - ア 学資負担者が死亡したことにより申請する場合は、死亡診断書、死体検案書等死亡の事実を証明する書類
 - イ 災害を受けたことにより申請する場合は、罹災証明書及び罹災額の証明書類(市区町村、警察署又は消防署等発行)
 - ウ 所得等に関する証明書類
 - エ その他参考となる証明書類

●授業料免除の額

授業料の免除が許可された者は、当該学期に納付すべき授業料の全額又は半額が免除されます。

●注意事項

1. 授業料免除願を提出し、受理された者は、免除の許可又は不許可が決定されるまでの間、授業料の納付が猶予されます。
2. 審査の結果、授業料免除が許可されなかった者又は半額免除を許可された者は、納付期限までに指定された金額の授業料を納付しなければなりません。

●身分異動に伴う授業料の取扱い

休学・退学の時期により、授業料の取扱いが異なります。 →「1-5. 休学・復学・退学・除籍・再入学・留学」(6ページ)参照。

●国費外国人留学生

国費外国人留学生の奨学金を受給している者は、授業料を納付する必要がありません。

◆問合せ先

- | | |
|---------|---|
| 【全般】 | 葉山本部・教務係 (TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp) |
| 【免除・猶予】 | 〃 学生厚生係 (TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp) |
| 【留学生】 | 〃 国際交流係 (TEL:046-858-1519 kokusai@ml.soken.ac.jp) |
| 【授業料納付】 | 〃 経理係 (TEL:046-858-1514 keiri@ml.soken.ac.jp) |

1-9. 入学料について

入学手続終了の日までに入学料免除願または入学料徴収猶予願を学長に提出し、徴収猶予または免除不許可と通知された者は、9月15日(後期入学の方は3月15日)までに入学料を納付してください。この日までに入学料の納付がなかった場合は学則の定めにより、除

籍されます。

◆問合せ先

葉山本部・学生厚生係 (Tel:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-10. 学生保険への加入について

本学では、万一の事故に備え、全ての学生に対し、日本国際教育支援協会の「教育研究災害傷害保険」及び「学研災付帯賠償責任保険」への加入を義務づけています。

入学する際、標準修業年限(3年課程の者は3年、5年課程の者は5年)の期間について加入いただきます。加入期間満了日以降も本学学生として在学する場合は、再加入する必要があります。

休学等の身分異動が生じた際は、所定の手続きが必要となります(保険の適用範囲などが変動する場合があります。詳細は葉山本部・学生厚生係あて問い合わせてください)。

また、万一、事故や傷害が発生した場合は、直ちに葉山本部・学生厚生係に報告するとともに、所定の様式を請求し、届けを提出することが必要です。また、治療が完了したら、同じく葉山本部・学生厚生係で請求手続きをしてください。

○教育研究災害傷害保険

学生が教育研究活動中、通学途中・課外活動中に不慮の事故により負傷・後遺障害あるいは死亡といった災害を被った場合、治療費等の経済的負担を軽減するもの。

○学研災付帯賠償責任保険

学生が正課、学校行事、およびその往復途中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を破損したことにより被る法律上の損害賠償を補償するもの。

◆問合せ先

葉山本部・学生厚生係 (Tel:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-11. 留学生に対する支援について

●外国人留学生の宿舎について

本学には固有の留学生用宿舎はありませんが、各基盤機関にある宿舎や独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)の賃貸住宅を利用できる場合があります。

また、下記の留学生住宅総合補償制度に加入することを条件に大学が民間アパート入居の際の保証人となる制度を提供しています。

詳細は各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・国際交流係まで問い合わせてください。その他東京国際交流館等の一般公募については随時通知します。

●留学生住宅総合補償制度

本制度は、外国人留学生が民間宿舎等へ入居するにあたり、保証人を探す困難さと保証人の精神的・経済的負担を軽減し、外国人留学生の民間宿舎等への円滑な入居を支援することを目的としたものです。詳細については、下記ホームページを参照してください。

ホームページ(日本国際教育支援協会) <http://www.jees.or.jp/crifs/>

◆問合せ先

葉山本部・国際交流係 (Tel:046-858-1519/1527 kokusai@ml.soken.ac.jp)

1-12. 課外活動について

学生は、本学の教育目的に沿い、かつ課外活動を目的とする団体を設立することができます。課外活動団体に関する手続は、下記の区分により行う必要があります。

手続の種類	願い出・届出の様式	手続の時期
新たに課外活動団体を設立しようとするとき	課外活動団体許可・継続願	随時
翌年度の5月以降も課外活動団体の設立を継続するとき	課外活動団体許可・継続願	継続する年度の4月末日
課外活動団体を解散しようとするとき	課外活動団体解散届	随時
課外活動団体が他大学その他組織に加入しようとするとき	学外団体加入許可願	随時(ただし先方からの加入許可の証明等を必要とする場合は、事前に相談のこと。)

◆問合せ先

葉山本部・学生厚生係 (Tel:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-13. 安全について

各基盤機関では、消防訓練をはじめとした実地訓練を行っている機関もありますので、積極的に参加するようにしてください。

安全に関して不明な点は、各基盤機関専攻担当係又は葉山本部・学生厚生係へ問い合わせてください。

◆問合せ先

葉山本部・学生厚生係 (Tel:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

0. Academic Calendar (Gakunenreki 学年暦)

SOKENDAI's school year starts on April 1 and ends on March 31 of the following year. The schedule in the Academic Calendar may vary from one academic year to another, but the basic framework of the schedule remains the same for future school years.

The Academic Calendar for the school year 2010 is shown below.

The calendar for each year can also be checked on SOKENDAI's website. (<http://www.soken.ac.jp>).

Academic Calendar 2010 School Year

	2010 School Year
[1st Semester (Zen Gakki 前学期)]	2010. 4. 1 ~ 2010. 9.30
Spring Holiday (春季休業)	2010. 4. 1 ~ 2010. 4. 4
Entrance Ceremony (入学式)	2010. 4. 8
1st Semester Classes (前学期授業)	2010. 4. 5 ~ 2010. 9.30
Summer Holiday (夏季休業)	2010. 7.14 ~ 2010. 8.31
Examination Period (試験)	2010. 9.14 ~ 2010. 9.30
Graduation Ceremony (学位記授与式)	2010. 9.30
[2nd Semester (Kou Gakki 後学期)]	2010.10. 1 ~ 2011. 3.31
Entrance Ceremony (入学式)	2010.10. 7
2nd Semester Classes (後学期授業)	2010.10. 1 ~ 2011. 2.28
Winter Holiday (冬季休業)	2010.12.16 ~ 2011. 1. 3
Examination Period (試験)	2011. 2.15 ~ 2011. 2.28
Spring Holiday (春季休業)	2011. 3. 1 ~ 2011. 3.31
Graduation Ceremony (学位記授与式)	2011. 3.24

※ Student Seminars(Spring) (Gakusei-Seminar 学生セミナー) 2010. 4. 8~ 4. 9

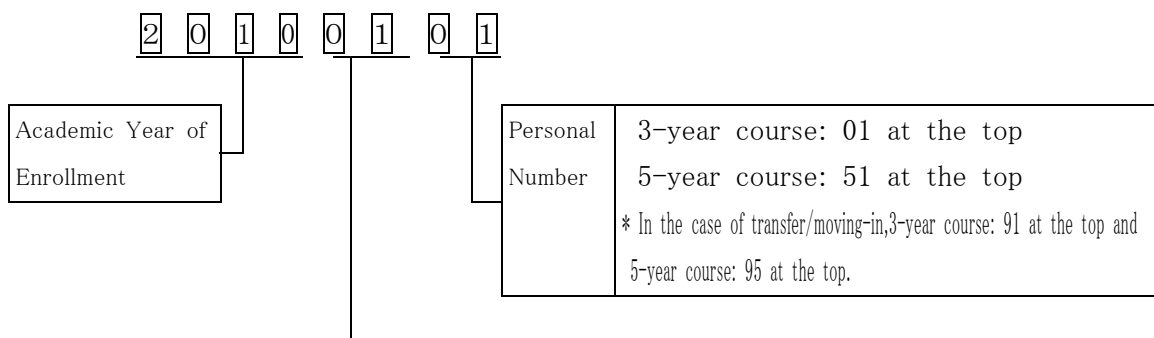
※ Student Seminars(Autumn) (Gakusei-Seminar 学生セミナー) 2010.10. 7~10. 8

1. Student Life (Gakusei-Seikatsu 学生生活)

1-1. Student Register Number (Gakuseki-Bangou 学籍番号)

A student register number is assigned to each enrolled student. This number is required for various clerical procedures and must be exactly remembered.

※Student Register Number for Regular Student (Seikisei 正規生)



Department Code					
Regional Studies	01	Functional Molecular Science	08	Statistical Science	15
Comparative Studies	02	Astronomical Science	09	Polar Science	16
Japanese Studies	03	Fusion Science	10	Informatics	17
Japanese History	04	Space and Astronautical Science	11	Genetics	18
Cyber Society and Culture	05	Accelerator Science	12	Basic Biology	19
Japanese Literature	06	Materials Structure Science	13	Physiological Sciences	20
Structural Molecular Science	07	Particle and Nuclear Physics	14	Evolutionary Studies of Biosystems	23

※Student Register Number for Research Students (Kenkyuu-Sei 研究生)

The first four digits and last two digits are assigned in the same manner as for regular students. The “department codes” for research students are as follows.

Department Code					
Regional Studies	A1	Functional Molecular Science	B2	Statistical Science	D1
Comparative Studies	A2	Astronomical Science	B3	Polar Science	D2
Japanese Studies	A3	Fusion Science	B4	Informatics	D3
Japanese History	A4	Space and Astronautical Science	B5	Genetics	E1
Cyber Society and Culture	A5	Accelerator Science	C1	Basic Biology	E2
Japanese Literature	A6	Materials Structure Science	C2	Physiological Sciences	E3
Structural Molecular Science	B1	Particle and Nuclear Physics	C3	Evolutionary Studies of Biosystems	F3

※ Assignment of Student Register Numbers (Department Codes) for Other Students

“N0” is assigned to Auditing Student with Credits (Kamokutou-Risyuu-Sei 科目等履修生), “O0” to auditing students (Choukou-Sei 聴講生), “T0” to special auditing students (Tokubetsu-Choukou-Gakusei 特別聴講学生), and “K0” to Special Research Students (Tokubetsu-Kenkyuu-Gakusei 特別研究学生).

◆ Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL: 046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

1-2. Student ID Card (Gakusei-Shou 学生証)

A student ID card (Gakusei-Shou 学生証) is distributed to each student at the time of

enrollment. This card identifies the person as a SOKENDAI student; the card must always be carried by the student, and should not be lost or damaged.

- A student ID card is effective for three years (five years if the student is in the 5-year course).
- Upon graduation, withdrawal, or removal from register from SOKENDAI, a student must immediately return his/her student ID card.
- If a student ID card is lost, stolen, or unusable due to damage, the “Application Form for Re-issue of a Student ID Card” (Gakusei-Shou-Saihakkou-Negai 学生証再発行願) should be promptly submitted to the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters.
- If the effective period of the student ID card expires, a lost student ID card is found, or a new student ID card is re-issued, the old student ID card is invalid and cannot be used. The old card must be immediately returned to the Student Welfare Section.
- The Application Form for Re-issue of a Student ID Card (Gakusei-Shou-Saihakkou-Negai 学生証再発行願) is downloadable from SOKENDAI’s website (<http://www.soken.ac.jp/student/paperwork/publication.html>)

◆ **Contact**

Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)
(TEL: 046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-3. Certificates (Shoumeisho 証明書)

● Certificates to be issued by SOKENDAI

◎ For enrolled students

Certificate of Enrollment (Zaigaku-Shoumeisho 在学証明書)(Japanese/English), Academic Transcript (Seiseki-Shoumeisho 成績証明書)(Japanese/English), Certificate for Expected Graduation (Shuryou-Mikomi-Shoumeisho 修了見込証明書)(Japanese /English), Certificate of Health Examination (Kenko-Shindansho 健康診断書) (Japanese/English), Certificate of Commutation (Tsuugaku-Shoumeisho 通学証明書) (Japanese), Certificate of Expected Teaching Certification (Kyouin-Menkyojou-Shutoku-Mikomi-Shoumeisho 教員免許状取得見込証明書)(Japanese), Certificate of Japanese Government Scholarship Student (Kokuhi-Gaikokujin-Ryuugakusei-Shoumeisho 国費外国人留学生証明書)(required for Japanese Government Scholarship Students to extend the period of stay in Japan), Certificate of Research Status (Kenkyuu-Joukyou-Shoumeisho 研究状況証明書), Student Discount Ticket (Gakuwarishou 学割証), etc.

◎ For alumni/withdrawing students

Certificate of Graduation (Shuuryou-Shoumeisho 修了証明書)(Japanese /English), Academic Transcript (Seiseki-Shoumeisho 成績証明書)(Japanese /English), Certificate of Withdrawal from the University (Taigaku-Shoumeisho 退学証明書), etc.

●Certificate issuance fee

Certificates are issued free of charge (as of April 1, 2010). If a student wishes a certificate to be delivered from the Hayama Headquarters to other than his/her Department's Administration Office (Senkou-Tantou-Gakari 専攻担当係)^(*1) at each Parent Institute (Kiban-Kikan 基盤機関)^(*2), a self-addressed stamped envelope should be provided to the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

●Issuance of certificates

The Application Form for Certificates (Shoumeisho-Hakkou-Shinseisho 証明書発行申請書) (or the Application Form for Student Discount if requesting a Student Discount Ticket (Gakuwari-Hakkou-Shinseisho 学割発行申請書)) should be submitted to his/her Department's Administration Office at his/her Parent Institute (certificates may be directly requested from the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters).

●Confirmation of identity.

When we deliver certificates, it is necessary to confirm your identity with the object of personal information protection. Please give us your cooperation.

○Application at a window

You might be requested to show us identity verification documents (student card, driver license, etc).

○Application by e-mail, physical-mail, or FAX

Please apply with an application form and a copy of identity verification document. After confirmation of a copy of identity verification document at the Hayama headquarters, we send it to you with a requested certificate.

○You can apply certificates by proxy, when it is difficult to apply yourself.

If you have any questions, please refer to the administration office at each Parent Institute, or at the Educational Affairs Section at the Hayama Headquarters.

●Considerations on the issuance of certificates

Certificates for Enrollment (Zaigaku-Shoumeisho 在学証明書) (Japanese) and Student Discount Tickets (Gakuwarishou 学割証) are issued by the applicant's Department's Administration Office at each Parent Institute. Other certificates are issued by the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters. For certificates issued at the Hayama Headquarters, processing for mail and delivery will require some time. Please submit applications approximately two weeks in advance to allow enough time. When receiving an Application Form for Certificates (Shoumeisho-Hakkou-Shinseisho 証明書発行申請書), the Hayama Headquarters will, in principle, send the certificate to the applicant's Department's Administration Office at each Parent Institute within three days of receipt of the application (excluding Saturdays, Sundays, national holidays, and the period from

December 29 to January 3).

● Student Discount Tickets

Student Discount Tickets (Gakuwarishou 学割証) may be issued for students who travel more than 100 km one way on JR lines.

● Purchase of student commuter passes

A student can use a student ID card (Gakuseishou 学生証) to purchase a commuter pass at a student discount rate for the route between his/her residence and the station nearest the location of his/her Department. However, the card may not be valid for some transportation services, including private buses. In such cases, a Certificate of Commutation (Tsuugaku-Shoumeisho 通学証明書) is available with the purchase of a student commuter pass. The Application Form for Certificates (Shoumeisho-Hakkou-Shinseisho 証明書発行申請書) should be submitted to the student's Department's Administration Office at each Parent Institute or to the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

★ Certificates for international students

● Certificate of Japanese Government Scholarship Student (Kokuhi-Gaikokujin-Ryuugakusei-Shoumeisho 国費外国人留学生証明書)

This certificate is issued to Japanese government scholarship students (Kokuhi-Gaikokujin-Ryuugakusei 国費外国人留学生) when certification of scholarship status is required for visa renewal or agreement to rent a house.

● Certificate of Receiving Honors Scholarship for Privately Financed International Students (Shihi-Gaikoujin-Ryuugakusei-Gakushuushoureihi-Jukyuu-Shoumeisho 私費外国人留学生学習奨励費受給証明書)

This certificate is issued for those receiving the scholarship when certification of the receipt of the scholarship is required for visa renewal or agreement to rent a house.

● Supporting Document (Fukushinsho 副申書)

All international students must obtain a permission to work before engaging in a part-time job, including on-campus job, such as RA, TA and tutors. This document must be submitted when international students apply at the Regional Immigration Bureau (Nyuukoku-Kanri-Kyoku 入国管理局) for getting permission to engage in activities other than those permitted under the status of residence previously granted (Shikakugai-Katsudou-Kyoka 資格外活動許可).

※ The Application Form for Certificates are downloadable from SOKENDAI's website (<http://www.soken.ac.jp/en/currentstudent/informationInternational.html#studentSupports>).

◆ Contact

【General】 Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)
(TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

【For international students】

International Affairs Section (Kokusaikouryuu-Gakari 国際交流係/Hayama)

*1) “Department’s Administration Office”(Senkou-Tantou-Gakari 専攻担当係)

Each Parent Institute has an administration office responsible for education/student affairs on behalf of the related Department of SOKENDAI.

*2) “Parent Institutes” (Kiban-Kikan 基盤機関)

The eighteen research institutes affiliated with SOKENDAI are collectively called “Parent Institutes.”

1-4. Applications/Notices for Change (Henkou-Negai/Todoke 変更願・届)

Submit appropriate applications/notices for change to the student’s Department’s Administration Office at each Parent Institute or the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters for the cases listed below. Especially, changes of address of the student must be immediately brought to the attention of SOKENDAI because correct address information is required for communication with the student.

Questions should be directed to the student’s Department’s Administration Office at each Parent Institute or to the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

Occasion	Documents to be submitted
Internal transfer	Application for Internal Transfer (Tensenkou-Negai 転専攻願)
Absence from school	Application for Absence from School (Kyuugaku-Negai 休学願)
Re-enrollment before the end of the approved absence period	Application for Re-enrollment (Fukugaku-Negai 復学願)
Re-enrollment after the end of the approved absence period	Notice for Re-enrollment (Fukugaku-Todoke 復学届)
Transfer to another university	Application for Transferring University (Tengaku-Negai 転学願)
Studying abroad at a foreign graduate school	Application for Studying Abroad (Ryuugaku-Negai 留学願)
Withdrawal from university	Application for Withdrawal from University (Taigaku-Negai 退学願)
Attending lectures at another university	Application for Attending Lectures at Another University (Tokubetsu-Choukou-Haken-Gakusei-Negai 特別聴講派遣学生願)
Finishing lectures at another university	Report for Attending Lectures at Another University (Tokubetsu-Choukou-Haken-Gakusei-Rishuuhoukokusho 特別聴講派遣学生履修報告書)
Receiving supervision at another university	Application for Receiving Supervision at Another University (Tokubetsu-Kenkyuu-Haken-Gakusei-Negai 特別研究派遣学生願)
Finishing supervision at another university	Report for Receiving Supervision at Another University (Tokubetsu-Kenkyuu-Haken-Gakusei-Kenkyushidou-Houkokusho 特別研究派遣学生研究指導報告書)
Change of address	Notice for Change of Address (Juusho-Henkou-Todoke 住所等変更届)

Change of emergency contact	Notice for Change of Emergency Contact (Kinkyuu-Rennrakusaki-Henkou-Todoke 緊急連絡先変更届)
Loss of student ID card	Application for Re-issue of a Student ID Card (Gakuseishou-Saihakkou-Negai 学生証再発行願)
Change of last (first) name	Notice for Change of Name (Kaiseimei-Todoke 改姓(名)届)
Establishing/renewing an extracurricular activity	Application for Establishing/Renewal of an Extracurricular Activity (Kagaikatsudou Dantaikyoka-Keizoku-Negai 課外活動団体許可・継続願)
Dissolving an extracurricular activity	Dissolution Notice of Extracurricular Activity (Kagaikatsudou-Dantai-Kaisan-Todoke 課外活動団体解散届)
Joining an outside party for an extracurricular Activity	Application Form for Joining an Outside Party (Gakugaidantai-Kanyuu-Kyoka-Negai 学外団体加入許可願)
Change of bank account for tuition payment	Registration Document for Bank Account (Yokinkouza-Furikae-Iraisho 預金口座振替依頼書)
Change of means or route of commutation	Commuter Information (Tsuugaku-Kukan-Todoke 通学区間届)
Traveling abroad	Notice for Visiting Foreign Countries (Tokou-Todoke 渡航届)

※ Applications/notices for change are downloadable from SOKENDAI's website (<http://www.soken.ac.jp/student/paperwork/procedure.html>).

【Note】 The Registration Document for Bank Account (Yokinkouza-Furikae-Iraisho 預金口座振替依頼書) is not available on the Website. Please contact the Accounting Section at the Hayama Headquarters to request the form.

◆Contact

【General】 Educational Affairs Section (Kyomu-Gakari 教務係/Hayama)
(TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

【Student ID card/Extracurricular activity】
Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)
(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

【Traveling abroad】
International Affairs Section (Kokusaikouryuu-Gakari 国際交流係/Hayama)
(TEL:046-858-1519 kokusai@ml.soken.ac.jp)

【Tuition payment】 Accounting Section (Keiri-Gakari 経理係/Hayama)
(TEL:046-858-1514 keiri@ml.soken.ac.jp)

1-5. Absence from School (Kyuugaku 休学), Re-Enrollment (Fukugaku 復学), Withdrawal (Taigaku 退学), Removal from Register (Joseki 除籍), Re-Admission (Sai-Nyuugaku 再入学), and Studying Abroad (Ryuugaku 留学)

In the case of prolonged absence from school due to illness or for other reasons or if withdrawing from the University, prescribed procedures must be followed.

①Absence from school (Kyuugaku 休学)

1. To be continuously absent from school for two months or more due to illness or for any other reason, the necessary information on the “Application Form for Absence from School” (Kyuugaku-Negai 休学願) should be filled in and the Form signed by the student’s supervisor (Shidou-Kyouin 指導教員) should be submitted to the student’s Head of Department (a note from a medical doctor is also required to document an absence from school due to illness). Absence from school is permitted after approval at the School Faculty Meeting.
2. Absence from school may not exceed two years in total.
3. The period of absence from school is excluded from the period of attendance at school. Regardless of absence from school, the student’s year advances.
4. If absence from school is approved before the tuition payment deadline (April for the first semester or October for the second semester), the tuition payment for the approved absence period is waived. If the absence from school begins after the tuition payment deadline (in the middle of a semester), the tuition fee for the semester must be paid.
5. Prior to application for absence from school, a student would be better off consulting the Department’s Administration Office at the Parent Institute or the Hayama Headquarters to ensure that there are no problems with tuition payment, course registration before absence from school or after re-enrollment, and the period of attendance at school.
6. Students receiving scholarships from the Japan Student Services Organization (JASSO) (Nihon-Gakusei-shien-Kikou 日本学生支援機構) must submit the “Application for Absence from School” (Kyuugaku-Negai 休学願) and the “Notice for Change of Registration Status to JASSO”(Idou-Negai /Todoke 異動願(届)) to be absent from school.

②Re-enrollment (Fukugaku 復学)

1. When the approved absence period expires, the necessary information on the “Notice Form for Re-enrollment” (Fukugaku-Todoke 復学届) should be filled in and submitted to the student’s Head of Department.
2. If the reason for absence from school is resolved before the end of the approved absence, the student may re-enroll without waiting for expiration of the approved absence period. For re-enrollment, the necessary information on the “Application Form for Re-enrollment” (Fukugaku-Negai 復学願) should be filled in and the Form signed by the student’s supervisor should be submitted to the student’s Head of Department. Re-enrollment is permitted after approval at the School Faculty Meeting.
3. Students receiving scholarships from the Japan Student Services Organization (JASSO) (Nihon-Gakusei-shien-Kikou 日本学生支援機構) must submit the “Application form for Re-enrollment” (Fukugaku-Todoke 復学届) and the “Notice for Change of Registration Status to JASSO”(Idou-Negai /Todoke 異動願(届)) to

re-enroll.

③Withdrawal (Taigaku 退学)

1. To withdraw from the University, the necessary information on the “Application Form for Withdrawal” (Taigaku-Negai 退学願) should be filled in and the Form submitted signed by the student’s supervisor to the student’s Head of Department. Withdrawal is permitted after approval at the School Faculty Meeting.
2. To withdraw from the University in the middle of a semester, the tuition fee for the semester must, in principle, be paid.
3. Prior to application for withdrawal, a student would be better off consulting the Department’s Administration Office at the Parent Institute or the Hayama Headquarters.
4. Students receiving scholarships from the Japan Student Services Organization (JASSO) (Nihon-Gakusei-Shien-Kikou 日本学生支援機構) must submit both the Notice for Change of Registration Status to JASSO (Idou-Negai/Todoke 異動願(届)) and the scholarship certificate to withdraw from the University.

④Removal from register (Joseki 除籍)

Students will be removed from register for the following causes.

- The maximum period of enrollment is exceeded.
- Re-enrollment is impossible after an absence period of two years.
- Students who are not exempted from tuition payment or who are allowed to postpone tuition payment can not pay the tuition fee by the specified deadline.
- Students fail to pay the tuition fee even after receiving a reminder.

⑤Re-admission (Sai-Nyuugaku 再入学)

If a student graduating or withdrawing from a School of SOKENDAI wishes to re-enroll in the same or another School of SOKENDAI, he/she may be permitted to enroll in the appropriate year of the School after an entrance examination unless education/research activities at the School are affected.

Prior to application for re-enrollment, an applicant would be better off consulting each Department’s Administration Office at the Parent Institute.

⑥Internal transfer (Iseki/Tensenkou 移籍・転専攻)

If a student wishes to transfer to another School or Department of SOKENDAI, the necessary information should be provided on the “Application Form for Internal Transfer” (Iseki/Tensenkou-Negai 移籍・転専攻願) after full consultation with the student’s supervisor. Then, the Form signed by the applicant’s supervisor should be submitted to the Head of Department.

⑦Transfer to another university (Tengaku 転学)

If a student wishes to transfer to another graduate school, the necessary information should be provided on the “Application Form for Transferring University” (Tengaku-Negai 転学願) and the Form signed by the student’s supervisor should be submitted to

the Head of Department.

⑧ Studying abroad (Ryuugaku 留学)

To study abroad at foreign universities, the necessary information on the "Application Form for Studying Abroad" (Ryuugaku-Negai 留学願) should be provided and the Form signed by the student's supervisor submitted to the applicant's Head of Department. Studying abroad is permitted after approval at the School Faculty Meeting.

1. Study abroad is usually limited to one year. The period may be extended for up to one more year if unavoidable circumstances are recognized.
2. The tuition fee must be paid for the period of studying abroad.

◆ Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

1-6. Counseling Services for Students (Gakusei-Soudan 学生相談)

● General student life issues

For general student life issues, counseling services are provided by each Department's Administration Office at each Parent Institute or by the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters.

● Mental health care

Mental health care services are available at SOKENDAI for students suffering from psychiatric problems arising from their lives as students, including worries about person-to-person relationships and your own personalities.

Mental health care services are provided by counselors once a month at each Parent Institute. In addition, counseling by e-mail is always available.

※ For dates of mental health services provided by counselors, the Department's Administration Office at each Parent Institute should be contacted.

※ To consult on mental health issues by e-mail, contact soudan@soken.ac.jp (available for SOKENDAI students only).

● Consultation service about educational issues.

We have a consultation service at Hayama Headquarters, which accepts 24 hours inquiries such as harassment by e-mail.

※ Consultation service about educational issues (E-mail) :

gakusei_consult@ml.soken.ac.jp (only for students of SOKENDAI)

◆ Contact

Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)

(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-7. Health Examination/Health Management (Kenkou-Sindan 健康診断)

SOKENDAI provides health examinations for all students (excluding Nom-Regular Research Students) once a year. For details, contact each Department's Administration

Office at each Parent Institute or the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters.

◆Contact

Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)
(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-8. Tuition Fee (Jugyoryou 授業料)

①Tuition fee

The annual tuition fee is 535,800 yen (for the academic year 2010)

※ The tuition fee may be revised in the future.

②Payment of the tuition fee

1. Tuition fee should be paid by installment payment, one for the first and one for the second semester.
2. Usually, the tuition fee is withdrawn from the bank account which the student registered to the university.
3. To set up automatic withdrawal from registered bank account, the student must submit the “Registration Document for Bank Account/Application for the Use of Automatic Payment.” (Yokinkouza-Furikae-Iraisho/Jidouharaikomi-Riyou-Moushikomisho 預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書) These documents are also required if the bank account for tuition fee payment is to be changed.
4. If required, request for the “Registration Document for Bank Account/Application for the Use of Automatic Payment” (Yokinkouza-Furikae-Iraisho/Jidouharaikomi-Riyou-Moushikomisho 預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書) may be made to the Accounting Section (Keiri-Gakari 経理係) at the Hayama Headquarters.
5. The tuition fee may be paid to a bank account designated by SOKENDAI, instead of being withdrawn from the student’s bank account. If it is so desired, the Accounting Section (Keiri-Gakari 経理係) at the Hayama Headquarters should be informed of the request. Note that the bank transfer fee will be borne by the student.
6. The tuition fee for the entire year may be paid at once upon tuition payment for the first semester. Requests should be made to the Accounting Section (Keiri-Gakari 経理係) at the Hayama Headquarters.
7. In principle, any tuition fees once paid may not be refunded.

③Payment deadline

1. The installments of the tuition fee for the first and second semesters will be withdrawn from the registered bank account on April 27 and October 27, respectively (or on the next business day if the bank is closed on that day). The appropriate sum should be deposited into the bank account by the day before withdrawal. If the money cannot be withdrawn from the bank account due to insufficient funds, it will be withdrawn on the 27th day of the next month (or on the

next business day if the bank is closed on that day). Note that the withdrawal fee will be borne by SOKENDAI.

2. If the tuition fee is not paid by the due date of payment, the student is removed from the register in accordance with SOKENDAI's university rules.
3. Students who have not paid tuition fee may not be approved for any change in status, including graduation, absence from school, and withdrawal from school.
4. If a delay in tuition payment is expected, the student's Department's Administration Office at the student's Parent Institute should be consulted.

④ Exemption from/postponement of tuition payment

(Jugyoryou-Menjo・Choushu-Yuuyo 授業料免除・徴収猶予)

● Students eligible to be exempted from tuition payment

- (1) A student who demonstrate financial hardship and who has maintained an excellent academic record
- (2) A student who has difficulties in paying the tuition fee because a person mainly funding his/her school expenses has died or because the student or the main funding person suffers has suffered hardship from damage caused by natural disasters, such as wind and flood, within six months prior to the due date of tuition payment for each semester
- (3) A student to whom (2) is applicable and whom the President recognizes as having reasonable cause to be exempted from tuition fee.

● Students eligible to postpone tuition payment

- (1) A student who has difficulties in paying tuition fee by the due date of payment for economic reasons and who has maintained an excellent academic record
- (2) A student who is missing
- (3) A student who has difficulties in paying the tuition fee because the student or a person mainly funding his/her school expenses has suffered hardship from damage caused by natural disasters
- (4) A student for whom unavoidable circumstances is recognized

● Proceedings

To apply for the exemption or postponement, the following documents should be submitted to the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters by April 30 for the first semester or by October 31 for the second semester (the deadline for application differs depending on the academic year and will be separately noticed; submit the documents by the appropriate deadline for each academic year).

- (1) Application for Tuition Exemption (Jugyoryou-Menjo-Negai 授業料免除願) (for exemption)
- (2) Application for Postponing Payment of Tuition (Jugyoryou-Choushu-Yuuyo-Negai 授業料徴収猶予願) (for postponement)

This application is also required at the time of application for tuition exemption.

- (3) Statement of family circumstances
- (4) Certificates (attach all applicable from (a) to (d) below.)
 - (a) To apply for the exemption/postponement because a person funding the student's school expenses has died, a document to certify the person's death, such as a certificate of death and postmortem certificate, is required.
 - (b) To apply for the exemption/postponement because the student/the funding person has suffered hardship from damage caused by natural disasters, a Certificate of Victim (Risai-Shoumeisho 罹災証明書) and a document to certify the amount of damage (issued by the appropriate municipal government, police department, or fire department) are required.
 - (c) Document to certify income status
 - (d) Other certification documents for reference

● **Amount exempted from the tuition fee**

If the exemption is approved, all or half the tuition fee for the corresponding semester is exempted.

● **Considerations**

1. When the Application for Tuition Exemption (Jugyouryou-Menjo-Negai 授業料免除願) is submitted and accepted, tuition payment may be postponed until a decision on the exemption has been made.
2. If the exemption is refused after examination, or if a half exemption of the tuition fee is approved, the specified amount of the tuition fee must be paid by the payment due date.

● **Procedures for tuition payment at the time of change in status**

Different procedures for tuition payment apply depending on the period of absence from school or withdrawal from the University. See "1-5. Absence from School, Re-Enrollment, Withdrawal, Removal from Register, Re-Admission, and Studying Abroad" (on page 19).

● **For Japanese government scholarship students (Kokuhi-Gaikokujin-Ryuugakusei 国費外国人留学生)**

Japanese government scholarship students are exempted from tuition payment.

◆ **Contact**

【General】 Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)
(TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

【Tuition exemption/postponement】
Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)
(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

【For international students】
International Affairs Section (Kokusaikouryuu-Gakari 国際交流係/Hayama)
(TEL:046-858-1519 kokusai@ml.soken.ac.jp)

【Tuition payment】 Accounting Section (Keiri-Gakari 経理係/Hayama)

1-9. Registration Fee (Nyuugakuryou 入学料)

If an application is submitted to the President for exemption from or postponement of payment of the registration fee by the deadline of registration, but is not approved for the exemption or postponement, the student must pay the registration fee by September 15 (or March 15 for registration in the second semester). If the registration fee is not paid by this date, the student will be removed from the register in accordance with SOKENDAI's university rules.

◆Contact

Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)
(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-10. Student Insurances (Gakusei-Hoken 学生保険)

SOKENDAI requires that all students take out the “Personal Accident Insurance for Students Pursuing Education and Research” (Kyouiku-Kenkyuu-Saigai-Shougai-Hoken 教育研究災害傷害保険) and the “Third Party Liability Insurance Incident to Disaster and Accident Insurance for Student Education and Research” (Gakkensai-Futaibaishou-Sekinin-Hoken 学研災付帯賠償責任保険) offered by the Japan Educational Exchanges and Services (JEES) as security against accidents.

At registration, students must purchase these insurances for the standard period of attendance at school (three years for 3-year course students and five years for 5-year course students). After the insurance period expires, a student must take out the insurances again to continuously maintain his/her status as a SOKENDAI student.

At the time of a change in status, including absence from school, the prescribed procedures regarding the insurances must be followed (the scope of insurance may be changed). For details, contact the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters.

Any accident or damage should be immediately reported to the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters. At the same time, the necessary forms should be requested and submitted to the same section. After treatment is completed, insurance claims should be filed with the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters.

○ Personal Accident Insurance for Students Pursuing Education and Research (Kyouiku-Kenkyuu-Saigai-Shougai-Hoken 教育研究災害傷害保険)

This insurance aims to reduce economic hardship, including treatment expenses, when an injury, residual disability, or death of a student occurs in the course of educational/research activities, commutation, or extracurricular activities.

○ Third Party Liability Insurance Incident to Disaster and Accident Insurance for Student Education and Research (Gakkensai-Futaibaishou-Sekinin-Hoken 学研災付)

帶賠償責任保險)

This insurance is intended to compensate for legal costs arising from a student injuring any other person or damaging any other person's property in the course of regular academic activities, school events, or related travels.

◆**Contact**

Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)
(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-11. Support for International Students (留学生支援)

● **Accommodations for international students (Ryuugakusei-Shukusha 留学生宿舎)**

SOKENDAI does not have accommodations for International Students. However, International Students may be able to utilize the accommodations of the Parent Institutes and/or a public rental housing of Urban Renaissance Agency (UR agency) if it is available. For details, they should contact the Department's Administration Office at each Parent Institute or the Hayama Headquarters. Moreover SOKENDAI may be able to provide international students with the system under which the university might be a guarantor when the students rent a private apartment, on condition that they join "Comprehensive Renter's Insurance for Foreign Students Studying in Japan" mentioned below. The Tokyo International Exchange Center (Tokyo-Kokusai-Kouryuukan 東京国際交流館) will also occasionally post information about accommodations.

● **Comprehensive Renter's Insurance for Foreign Students Studying in Japan**

(Ryuugakusei-Juutaku-Sougou-Hoshou-Seido 留学生住宅総合補償制度)

This system aims to ease international students' transition into private residences by reducing their difficulties in finding guarantors and lessening the mental/economic burden of the guarantors. For details, see the following Website.

Website of the Japan Educational Exchanges and Services

http://www.jees.or.jp/crifs/pdf/crifs_en.pdf

◆**Contact**

International Affairs Section (Kokusaikouryuu-Gakari 国際交流係/Hayama)
(TEL:046-858-1519/1527 kokusai@ml.soken.ac.jp)

1-12. Extracurricular Activities (Kagai-Katsudou 課外活動)

SOKENDAI students may establish organizations for extracurricular activities that are compatible with SOKENDAI's educational objectives. The procedures for establishing extracurricular activities are classified as follows.

Procedure	Application/notice form	Timing
Establishing new extracurricular activities	Application for Establishing/Renewal of an Extracurricular Activity (Kagaikatsudou-Dantaikyoka-Keizoku-Negai 課外活動団体許可・継続願)	As needed
Continuing extracurricular activities in May of the following academic year or later	Application for Establishing/Renewal of an Extracurricular Activity (Kagaikatsudou-Dantaikyoka-Keizoku-Negai 課外活動団体許可・継続願)	End of April in the year the activity is renewed
Dissolution of extra-curricular activities	Dissolution Notice of Extracurricular Activity (Kagaikatsudou-Dantai-Kai-san-Todoke 課外活動団体解散届)	As needed
Joining an outside Party	Application Form for Joining an Outside Party (Gakugaidantai-Kanyuu-Kyoka-Negai 学外団体加入許可願)	As needed (consult in advance if a certificate of permission to join issued by the outside party is required.)

◆Contact

Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)
(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

1-13. Safety (Gakusei-no-Anzen 学生の安全)

Some Parent Institutes also provide practical training, including firefighting training; students should not hesitate to participate actively in such training programs.

For inquiries regarding safety-related matters, contact the Department's Administration Office at each Parent Institute or the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters.

◆Contact

Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)
(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

2. 奨学金等について (Scholarship)

2-1. 日本学生支援機構の奨学金について.....	30
2-2. 日本学術振興会特別研究員制度について.....	31
2-3. 日本学術振興会海外特別研究員制度について.....	32
2-4. 国の教育ローンについて.....	33
2-5. その他の奨学支援(研究助成)について.....	33
2-6. 留学生に対する奨学金について.....	33
2-1. Scholarship by the Japan Student Services Organization	35
2-2. JSPS Research Fellowships for Young Scientists	37
2-3. JSPS Post Doctoral Fellowships for Research Abroad	37
2-4. National Education Loan	37
2-5. Other Scholarship Programs (Research Grants)	37
2-6. Scholarships for International Students	38

2. 奨学金等について

2-1. 日本学生支援機構の奨学金について

～日本人学生のみ

●日本学生支援機構について

日本学生支援機構は、法律に基づき設立された機関であり、教育の機会均等に寄与するため学資の貸与その他学生等の修学援助を行うことにより、時代の社会を担う豊かな人間性を備えた創造的人材の育成に資することを目的としています。奨学金は、経済的理由により修学に困難がある優れた学生等に対し貸与されます。また、卒業後返還された奨学金は、後輩の奨学金として再び活用されます。

●奨学金貸与の趣旨

大学院の奨学金は、教育・研究者、高度の専門性を要する職業人の育成を目的として、貸与するものです。

●貸与月額と貸与期間

(1) 貸与月額(平成22年度の額)

○第一種奨学金(無利子貸与)

区 分	貸与月額
博士課程(3年課程)	80,000円
博士課程(5年課程)3～5年次	又は 122,000円
博士課程(5年課程)1・2年次	50,000円 又は 88,000円

○第二種奨学金(有利子貸与)

月額は5万、8万、10万、13万、15万円から選択

※このほか、家計急変の事由が生じたことによる「緊急採用」、家計急変の事由による経済困難が継続すると見込まれる者に対する「応急採用」の制度があります。詳細は葉山本部・学生厚生係あて問い合わせてください。

(2) 貸与期間

貸与期間は、原則として当該課程の標準修業年限内です。

●出願資格及び出願の手続き

葉山本部・学生厚生係へ問い合わせください。

●推薦と選考

(1) 本学では、申請書類、成績その他の資料を基にして、出願者の人物・健康・学力および素質・修学困難の程度などについてその資格を検討し、学内の選考委員会に諮り「推薦基準」に合致していると認められる者を日本学生支援機構へ推薦します。

(2) 日本学生支援機構では、申請書類による書類審査を行い、採用を決定します。

●採用決定の時期と通知方法

(1) 採用決定の通知は、大学から推薦書類送付後およそ2か月以内です。

(2) 採用結果について、大学から通知します。

(3) 直接、日本学生支援機構に問い合わせても回答されません。

●奨学金の交付

(1) 銀行の本・支店・出張所で、本人名義の普通預金口座を開設してください。

(2) 奨学金は、原則として毎月1回、銀行の普通預金口座に振り込まれます。

(3) 第1回の交付は、3～4か月分を3～4か月後に一括交付となります。

●奨学生の心得

(1) 奨学生は、日本学生支援機構の定める奨学生規程、その他の規定を守り、日本学生支援機構及び大学の指示に従うとともに、奨学生としての資質の維持向上に努める必要があります。

したがって、学業成績が不振であったり、大学内外の規律を乱したり、その他性行状況が奨学生として適当でないと認められるときは、奨学金の交付が打切られます。また、家計が好転したときは、奨学金を辞退してもらうことになります。

(2) 奨学生に採用された後、定職についた場合は、原則として奨学金を辞退することとなります。

●奨学金の返還

貸与終了してから6か月经過後、定められた期間内に、郵便局又は銀行の口座振替によって返還することとなります。割賦方法は、月賦返還、月賦・半年賦併用返還の2種類があります。返還しやすい方法を選択してください。

●奨学金の返還猶予

学部及び修士・博士前期課程で奨学金の貸与を受けており、本学へ進学したときは「在学届」の提出により返還が猶予されます。

★第一種奨学金の返還免除制度について

平成16年度より、従来の教育・研究職に一定期間以上在職した場合の返還免除制度が廃止され、在学中に特に優れた業績を上げた者を対象に、奨学金の全額又は一部を返還免除する制度が新設されました(平成15年度以前に貸与を開始された方には、教育・研究職の返還免除制度が適用になります)。

この制度における特に優れた業績による返還免除の認定は、専門分野に関する論文やその他業績等を総合的に評価することにより行います。

◆問合せ先

葉山本部・学生厚生係 (TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

日本学生支援機構奨学事業相談センター TEL:0570-03-7240

2-2. 日本学術振興会特別研究員制度について

●趣旨

この制度は、優れた若手研究者が、その研学生活の初期において、自由な発想のもとに、主体的に研究課題等を選びながら、我が国の学術研究の将来を担う独創性豊かな研究者として育成されるべく、特別研究員として採用されるものです。また、特別研究員は、研究奨励金を支給されるとともに研究費(科学研究費補助金)を交付され、大学等において学術研究に専念する機会が与えられます。

●対象分野・応募資格

人文・社会科学及び自然科学分野

応募資格	採用年度の4月1日現在、34歳未満(医学、歯学又は獣医学を履修する課程に在学する者は36歳未満)	
	D	採用年度の4月1日現在、我が国の大学院博士課程に在学し、次のいずれかに該当する者(外国人も含む)
	C	①一貫制の博士課程第3年次に在学する者
	1	②後期3年の課程のみの博士課程第1年次に在学する者 ※博士課程後期等への進学予定者を含む
	D	採用年度の4月1日現在、我が国の大学院博士課程に在学し、次のいずれかに該当する者(外国人も含む)
	C	①一貫制の博士課程第4年次以上の年次に在学する者
	2	②後期3年の課程のみの博士課程第2年次以上の年次に在学する者
	※採用年度の4月1日において博士課程に標準修業年限を越えて在学することになる者は、特別研究員－PDに申請すること	
採用期間	DC1 ～3年間	DC2 ～2年間
研究奨励金	月額 200,000円(平成21年度の支給額)	
科学研究費補助金 (特別研究員奨励費)	毎年度 150万円以内(平成21年度の支給額)	

※ 日本学術振興会のホームページ(<http://www.jsps.go.jp/j-pd/main.htm>)もご覧ください。

◆問合せ先

葉山本部・研究協力係(Tel:046-858-1539 kenkyo@ml.soken.ac.jp)

日本学術振興会総務部研究者養成課 Tel:03-3263-5070

2-3. 日本学術振興会海外特別研究員制度について

●制度概要

我が国の学術の将来を担う国際的視野に富む有能な研究者が、海外の大学等研究機関において、長期間研究に専念できるよう、研究費を支援する制度です。なお、本募集は、大学等に所属する常勤研究者、又は常勤研究者を志望する者が対象です。

●対象分野・応募資格

人文・社会科学及び自然科学の全分野

	採用年度の4月1日現在、年齢34歳未満(医学、歯学又は獣医学を履修する課程に在学する者及び当該課程を修了した者については、36歳未満)で、次のいずれかに該当する者であること。 ①我が国の大学等学術研究機関、国立試験研究機関等に所属する常勤の研究者 ②我が国の大学等学術研究機関、国立試験研究機関等に
--	---

応募資格	所属する常勤の研究者を志望する者で、博士の学位を有する者あるいは採用年度の前年度末までに博士の学位を取得する見込みである者(人文・社会科学の分野の課程に在学したあるいは在学している者で、博士課程に標準修業年限以上在学し、所定の単位を修得のうえ退学した者あるいは採用年度の前年度末までにその見込みである者も含む)。
支給経費	①往復航空賃 ②滞在費・研究活動費(派遣先国によって異なる)

※日本学術振興会のホームページ(<http://www.jsps.go.jp/j-ab/main.htm>)もご覧ください。

◆問合せ先

葉山本部・研究協力係(Tel:046-858-1539 kenkyo@ml.soken.ac.jp)

日本学術振興会総務部研究者養成課 Tel:03-3263-3576

2-4. 国の教育ローンについて

本学の在学生(入学生含む)は、「国の教育ローン」を利用することができます。「国の教育ローン」は教育のために必要な資金を融資する公的な制度で、融資は、学生一人につき200万円以内、返済期間は10年以内です。

詳しくは、最寄りの日本政策金融公庫各支店または教育ローンコールセンター(ナビダイヤル0570-008656又は03-5321-8656)に問い合わせください。

ホームページ <http://www.jfc.go.jp/kyouiku/index.html>

2-5. その他の奨学支援(研究助成)について

●民間団体奨学金について

民間団体の募集する奨学支援(研究助成)に関する情報は、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp/student/index.html>)に掲載されています。応募方法は、民間団体毎で異なりますので、掲載情報を確認のうえ、十分な時間的な余裕をもって申し込んでください。

●総合研究大学院大学長倉研究奨励賞について

本学の学生のうち特に優秀な学生の研究を奨励し、先導的な学問分野を開拓することを目的に、本学の初代学長・長倉三郎氏からの寄附金をもとに設けられた褒賞制度です。各専攻からの推薦に基づき、長倉研究奨励賞選考委員会において受賞者が決定されます。

◆問合せ先

【研究助成・長倉賞】葉山本部・研究協力係(Tel:046-858-1539 kenkyo@ml.soken.ac.jp)

【奨学金】 " 学生厚生係(Tel:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

2-6. 留学生に対する奨学金等の制度について

●国費外国人留学生奨学金(国内採用)について

文部科学省では、私費外国人留学生の勉学意欲を高め、留学生交流の一層の推進を図る観点から、私費留学生の中から、特に学業成績が優秀な者を国費外国人留学生に採用しています。募集時期は例年9月頃、文部科学省への書類提出時期は12月上旬です。詳細については、下記ホームページを参照してください。

ホームページ(文部科学省)

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku

●私費外国人留学生学習奨励費について

日本学生支援機構では、我が国の大学等に在籍する私費外国人留学生等で、学業、人物ともに優秀かつ経済的理由により修業が困難である者に対する育英奨学制度を実施しています。募集時期は、例年4月頃、日本学生支援機構への書類提出締切時期は、5月下旬です。申請希望者は「民間財団等奨学金受給申請書」を前期分は4月、後期分は9月に葉山本部・国際交流係まで提出してください。詳細は、下記ホームページを参照してください。

ホームページ <http://www.jasso.go.jp/scholarship/shoureihi.html>

●民間財団等奨学金について

民間団体の募集する奨学支援(研究助成)に関する情報は、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)に掲載されています。応募方法は、民間団体毎で異なりますので、掲載情報を確認のうえ、十分、時間的な余裕をもって申し込んでください。なお、民間財団等奨学金(大学推薦)の申請を希望する場合には、「民間財団等奨学金受給申請書」を前期分については4月、後期分については9月に葉山本部・国際交流係まで提出してください。

◆問合せ先

葉山本部・国際交流係(Tel:046-858-1519/1527 kokusai@ml.soken.ac.jp)

2. Scholarship (Shougakukin 奨学金)

2-1. Scholarship by the Japan Student Services Organization

(for only Japanese Students)

● Japan Student Services Organization (Nihon-Gakusei-Shien-Kikou 日本学生支援機構)

The Japan Student Services Organization (JASSO), established by law, aims to support the development of creative individuals who are a well-rounded character and will become the leaders of society in the next generation. It provides student services, such as scholarship loan programs, to provide equal opportunities in education. JASSO offers scholarship loans to students who have difficulty pursuing their studies for economic reasons. The money refunded by those students after graduation is used to help other students in turn.

● Purpose of scholarships

The purpose of scholarship loans for graduate students is to foster educators, researchers, and professionals pursuing advanced specialties.

● Amount to be borrowed on a monthly basis and loan period

(1) Amount to be borrowed on a monthly basis (For the academic year 2010)

○Category 1 loans (interest free)

Category	Monthly amount
3-year doctoral course	80,000yen
5-year doctoral course (in the 3rd to 5 th years)	or 122,000yen
5-year doctoral course (in the 1st and 2nd years)	50,000yen or 88,000yen

○Category 2 loans (with interest)

The amount to be borrowed on a monthly basis may be set at 50,000 yen, 80,000 yen, 100,000 yen, 130,000 yen or 150,000 yen.

※ There are two additional programs: "Emergency Application (Kinkyuu-Saiyou 緊急採用)," which supports students whose household circumstances suddenly change, and "Temporary Application (Oukyuu-Saiyou 応急採用)," which supports students who may have continuous economic difficulties due to sudden changes in household circumstances. For details, contact the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters.

(2) Loan period

The loan period is usually the standard period of attendance at school.

● Eligibility and application procedures

Students should contact the Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) at the Hayama Headquarters.

● Recommendation and selection

(1) The University's selection committee may decide that a SOKENDAI student meets its "recommendation criteria" after discussion of the applicant's eligibility in terms of

his/her character, health conditions, academic ability/potential, and his/her family's economic conditions based on the application, academic transcript, and other documents. In such a case, the student will be recommended to JASSO.

(2) JASSO evaluates related documents, including applications and records of such student, in making its decision.

● **Timing of JASSO's decision and its method of notification**

(1) A notice of JASSO's decision arrives about two months after the submission of a recommendation document by SOKENDAI.

(2) Students are informed the result of selection from SOKENDAI.

(3) JASSO does not respond to any direct inquiry by an applicant.

● **How to receive a stipend**

(1) A student must have an ordinary savings account under his/her own name at a bank headquarters, branch, or sub-branch to receive a stipend.

(2) Usually, a stipend is transferred to the bank account once a month.

(3) The first transfer is three or four months after the program starts, at which time, the first three or four months of the loan are paid at once.

● **Rules for scholarship students**

(1) Scholarship students must abide by scholarship-related and other rules defined by JASSO, follow the directions of JASSO and SOKENDAI, and strive to maintain/improve their quality.

If a scholarship student fails to maintain the appropriate standards by performing poorly academically, committing disciplinary transgressions inside/outside SOKENDAI, or behaving improperly in any other way, the scholarship loan shall be terminated. When a scholarship student's family economic circumstances improve, he/she is requested to forgo further scholarship loans.

(2) A student who gains full-time employment after being selected as a scholarship loan recipient is requested to cease receiving scholarship loans.

● **Repayment**

Repayment starts six months after the end of the loan period (by deduction from the recipient's bank/postal savings account) and is to be completed within a designated period. Payment may be in monthly or a combination of monthly and semi-annual installments. Students will choose the best way to repay.

● **Postponing repayment**

If a student who has received scholarship loans for study as an undergraduate or in the first half of a masters/doctoral course is admitted to SOKENDAI, loan repayment may be deferred by submitting the "Certificate of Enrollment to JASSO."

★ Exemption from Repayment for Category 1 Loans

In the 2004 academic year, the old exemption system for recipients holding educational or research positions for a certain period of time was abolished and a new system was introduced that fully or partly forgives scholarship loans for those who have demonstrated outstanding achievement while in school (For those who became recipients in the 2003 academic year or earlier, the old exemption system is still applicable).

The academic achievements of applicants, including publications in their fields of specialty, are comprehensively evaluated to determine eligibility for forgiveness of loans under this new system.

◆Contact

Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)

(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

JASSO (Japan Student Services Organization 日本学生支援機構) TEL:0570-03-7240

2-2. JSPS Research Fellowships for Young Scientists

For details, see the following Website.

<http://www.jsps.go.jp/english/e-pd/pddc.htm>

2-3. JSPS Post Doctoral Fellowships for Research Abroad

For details, see the following Website.

<http://www.jsps.go.jp/english/e-pd/ab.htm>

2-4. National Education Loan

SOKENDAI students (including newly enrolled students) may use the "National Education Loan" program. This program is a public system for financing education expenses. Students may borrow up to 2,000,000 yen to be repaid in ten or fewer years.

For details, contact a nearby branch of the Japan Finance Corporation (Nihon-Seisaku-Kinyuu-Kouko 日本政策金融公庫) or the Educational Loan Call Center (Navidial: 0570-008656 or 03-5321-8656).

Website <http://www.jfc.go.jp/kyouiku/index.html>

2-5. Other Scholarship Programs (Research Grants) (Kenkyuu-Josei 研究助成)

●Grants offered by private foundations (Minkan-Dantai-Shougakukin 民間団体奨学金)

Information on other scholarship programs (research grants) offered by private foundations (most programs for Japanese Students only) is available on SOKENDAI's website (<http://www.soken.ac.jp/student/index.html>).

Since the application methods vary depending on the foundation, it is recommended

that prospective applicants check the information provided on the website and file applications well in advance.

● **SOKENDAI's Nagakura Research Incentive Award** (Nagakura-Shou 長倉賞)

This is an award endowed by SOKENDAI's first President, Saburo Nagakura, to encourage outstanding students and contribute to the creation of cutting-edge academic fields. The selection committee for this Award selects winners from the nominees recommended by the Heads of Departments.

◆ **Contact**

【Research Grants/Nagakura Research Incentive Award】

Research Coordination Section (Kenkyuu-Kyouryoku-Gakari 研究協力係/Hayama)
(TEL:046-858-1539 kenkyo@ml.soken.ac.jp)

【Scholarship】 Student Welfare Section (Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係/Hayama)

(TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp)

2-6. Scholarships for International Students (Ryuugakusei-no-Shougakukintou-Seido 留学生の奨学金等制度)

● **Japanese Government Scholarship Students (recruitment only in Japan)**

(Kokuhi-Gaikokujin-Ryuugakusei (Kokunai-Saiyou) 国費外国人留学生(国内採用))

In an effort to motivate privately-financed international students and promote international student exchange, the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) selects as Japanese Government Scholarship Students from among high achieving international students. Notification of recruitment to universities usually starts around September and the deadline for document submission to MEXT is early December.

Website of MEXT: http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku

(Japanese only)

● **Honors Scholarship for Privately Financed International Students**

(Shihi-Gaikokujin-Ryuugakusei-Gakushu-Shoureihi 私費外国人留学生学習奨励費)

JASSO supports a scholarship system for privately-financed international students who have demonstrated excellent academic performance and character and who attend universities or other institutions in Japan, but have difficulties in pursuing their studies for economic reasons. The acceptance of applications usually starts in April, and the deadline for document submission to JASSO is the end of May. Those who wish to apply for the scholarship should submit a "Declaration of Application for Scholarship of Private Foundations" (Minkan-Zaidantou-Shougakukin-Jyukyu-Shinseisho (民間財団等奨学金受給申請書)) to the Hayama Headquarters in April for the first semester and in September for the second semester. For details, see the following website. <http://www.jasso.go.jp/scholarship/shoureihi.html> (Japanese only)

● Scholarships from private foundations

(Minkan-Zaidantou-Shougakukin 民間財団等奨学金)

Information on other scholarship programs (research grants) offered by private foundations is available on SOKENDAI's website <http://www.soken.ac.jp/en/currentstudent/privFoundScholarship.html>). Since the application methods vary depending on the foundation, it is recommended that prospective applicants check the information provided on the website and file applications well in advance. If a student wishes to apply for a scholarship from a private foundation (recommended by the University), he/she should submit a "Declaration of Application for Scholarship of Private Foundations" (Minkan-Zaidantou-Shougakukin-Jukyuu-Shinseisho 民間財団等奨学金受給申請書) to the Hayama Headquarters in April for the first semester and in September for the second semester.

◆ Contact

International Affairs Section (Kokusaikouryuu-Gakari 国際交流係/Hayama)

(TEL: 046-858-1519/1527 kokusai@ml.soken.ac.jp)

3. 履修について (Registration)

3-1. 履修に関する一般的な留意事項	43
3-2. 修了要件・授業科目の履修	43
3-3. 各研究科・専攻に置く授業科目	46
3-4. 総合教育科目について(全学共同教育研究活動)	47
3-5. 資格取得のための授業科目の履修	48
3-6. 他大学における授業科目等の履修	48
3-7. 他大学等における研究指導	51
3-8. その他	51
3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要	65
(Outlines of Courses Provided by each School/Department.)	

3-1. General Information on Course Registration	52
3-2. Requirements for Graduation / Required Number of Credits	52
3-3. Subjects Provided by Each School / Department (Outlines of Subjects)	57
3-4. Comprehensive Subjects (Interdepartmental Activities for Research and Education)	57
3-5. Subject for Teaching Certificate	58
3-6. Studying at Other Universities	58
3-7. Receiving Research Supervision at Other Universities	61
3-8. Other	62

3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要

(Outlines of Courses Provided by Each School/Department.)

3-9-1. 文化科学研究科 (School of Cultural and Social Studies)	
地域文化学専攻 (Dept. Regional Studies) 授業科目概要	66
比較文化学専攻 (Dept. Comparative Studies) 授業科目概要	70
国際日本研究専攻 (Dept. Japanese Studies) 授業科目概要	74
日本歴史研究専攻 (Dept. Japanese History) 授業科目概要	76
メディア社会文化専攻 (Dept. Cyber Society and Culture) 授業科目概要	80
日本文学研究専攻 (Dept. Japanese Literature) 授業科目概要	84
3-9-2. 物理科学研究科 (School of Physical Sciences)	
構造分子科学専攻 (Dept. Structural Molecular Science) 授業科目概要	92

機能分子科学専攻 (Dept. Functional Molecular Science) 授業科目概要	94
天文科学専攻 (Dept. Astronomical Science) 授業科目概要	96
核融合科学専攻 (Dept. Fusion Science) 授業科目概要	104
宇宙科学専攻 (Dept. Space and Astronautical Science) 授業科目概要	110
研究科共通専門基礎科目 (Physical Sciences) 授業科目概要	116
コース別特別科目 (Physical Sciences) 授業科目概要	118
3-9-3. 高エネルギー加速器科学研究科 (School of High Energy Accelerator Science)	
加速器科学専攻 (Dept. Accelerator Science) 授業科目概要	122
物質構造科学専攻 (Dept. Materials Structure Science) 授業科目概要	132
素粒子原子核専攻 (Dept. Particle and Nuclear Physics) 授業科目概要	136
研究科共通専門基礎科目 (High Energy Accelerator Science) 授業科目概要	142
3-9-4. 複合科学研究科 (School of Multidisciplinary Sciences)	
統計科学専攻 (Dept. Statistical Science) 授業科目概要	148
極域科学専攻 (Dept. Polar Science) 授業科目概要	160
情報学専攻 (Dept. Informatics) 授業科目概要	172
研究科共通専門基礎科目 (Multidisciplinary Sciences) 授業科目概要	182
3-9-5. 生命科学研究科 (School of Life Science)	
遺伝学専攻 (Dept. Genetics) 授業科目概要	192
基礎生物学専攻 (Dept. Basic Biology) 授業科目概要	196
生理科学専攻 (Dept. Physiological Sciences) 授業科目概要	198
研究科共通専門科目 (Life Science) 授業科目概要	202
3-9-6. 先導科学研究科 (School of Advanced Sciences)	
生命共生体進化学専攻 (Dept. Evolutionary Studies of Biosystems) 授業科目概要	206
3-9-7. 全学共通 (All University Student)	
総合教育科目 (Comprehensive Subjects) 授業科目概要	216

3. 履修について

3-1. 履修に関する一般的な留意事項

1. 学生は、学期の始めに、その学期に履修しようとする授業科目を選択し、指定された期日までに履修登録を行わなければなりません。未登録のまま授業を聴講しても単位は与えられません。
2. 授業科目の履修計画及び研究計画等の作成にあたっては、主任指導教員とよく相談してください。
3. 履修登録は、「履修届」により、所定の期間に行ってください(履修登録期間は別に通知します)。履修届の提出にあたっては、主任指導教員の承認を得る必要があります。
4. 「履修届」の様式は、各基盤機関の専攻担当係、葉山本部・教務係で入手できるほか、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)からダウンロードすることができます。
5. 各専攻で開設する授業科目名及び授業科目の概要は、「3-9. 各研究科・専攻の授業科目の概要」(65ページ～)を参照してください。
6. 履修登録により、履修が認められた授業科目について、授業科目毎に定められる一定の成績を修めた学生に対して、所定の単位が与えられます。
7. 不合格となった授業科目については再履修が可能ですが、一度合格した授業科目の再履修は認められません。
8. 履修登録に関して不明な点があるときは、事前に各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係に相談して指示を受けてください。

3-2. 修了要件・授業科目の履修

1. 博士課程を修了するためには、以下の要件を満たさなければなりません。
 - 後期3年の課程に在学する者
 - 研究科に**3年以上**在学すること。
 - 研究科が専攻ごとに研究科の履修規程に定める所定の単位数以上を修得すること(単位修得の義務がない専攻を除く)。
 - 指導教員から必要な研究指導を受けた上、**博士論文**の審査及び試験に合格すること。
 - 所定の学費等を納めていること(授業料等免除者を除く)。
 - 5年の課程に在学する者
 - 本学の研究科に**5年以上**在学すること。
 - 本学の研究科の履修規程に定める30単位～42単位(専攻により異なる)以上を修得すること。
 - 指導教員から必要な研究指導を受けた上、**博士論文**の審査及び試験に合格すること。
 - 所定の学費等を納めていること(授業料等免除者を除く)。
2. 課程を修了するために各専攻が定める必要な単位数は以下のとおりです。

研究科	専攻		修了に必要な単位数及び要件		
			単位	要件	
文化科学	地域文化学専攻		16	専攻が開設する必修科目8単位、地域文化学・比較文化学専攻が開設する授業科目8単位以上を含む、計16単位以上	
	比較文化学専攻		16	専攻が開設する必修科目8単位、地域文化学・比較文化学専攻が開設する授業科目8単位以上を含む、計16単位以上	
	国際日本研究専攻		12	必修科目12単位	
	日本歴史研究専攻		12	専攻が開設する授業科目6単位以上を含む、計12単位以上	
	メディア社会文化専攻		12	専攻が開設する授業科目6単位以上を含む、計12単位以上	
	日本文学研究専攻		12	専攻が開設する授業科目8単位(「文学研究基礎論Ⅰ」又は「文学研究基礎論Ⅱ」の単位を含める)以上を含む、計12単位以上(本研究科の他専攻若しくは他の研究科の専攻の開設する授業科目を含める。)	
物理科学	構造分子科学専攻	5年課程	42	構造分子科学・機能分子科学専攻が開設する専攻専門科目、共通専門基礎科目(4単位以上を含める)、コース別特別科目(物理学特別研究Ⅰ～Ⅲの3単位を含める)、総合教育科目(1単位以上を含める)から42単位以上(注1)	
		3年課程	12	構造分子科学・機能分子科学専攻が開設する専攻専門科目、共通専門基礎科目(2単位以上を含める)、総合教育科目(1単位以上を含める)から12単位以上(注1)	
	機能分子科学専攻	5年課程	42	構造分子科学・機能分子科学専攻が開設する専攻専門科目、共通専門基礎科目(4単位以上を含める)、コース別特別科目(物理学特別研究Ⅰ～Ⅲの3単位を含める)、総合教育科目(1単位以上を含める)から42単位以上(注1)	
		3年課程	12	構造分子科学・機能分子科学専攻が開設する専攻専門科目、共通専門基礎科目(2単位以上を含める)、総合教育科目(1単位以上を含める)から12単位以上(注1)	
	天文科学専攻	5年課程	42	専攻専門科目(天文科学考究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、天文科学基礎演習から2科目、研究中間レポートの20単位を含める)及び共通専門基礎科目、コース別特別科目(物理学特別研究Ⅰ～Ⅲの3単位を含める)、総合教育科目から42単位以上(注2)	
		3年課程	12	専攻専門科目(天文科学考究Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの6単位含める)及び共通専門基礎科目、総合教育科目から12単位以上(注2)	
	核融合科学専攻	5年課程	42	専攻専門科目、共通専門基礎科目、コース別特別科目(物理学特別研究Ⅰ～Ⅲの3単位を含める)、総合教育科目から42単位以上(注3)	
		3年課程	12	専攻専門科目、共通専門基礎科目、総合教育科目から12単位以上(注3)	
	宇宙科学専攻	5年課程	42	専攻専門科目(宇宙科学特別研究Ⅰ、Ⅱの4単位を含める)、共通専門基礎科目、コース別特別科目(物理学特別研究Ⅰ～Ⅲの3単位を含める)、総合教育科目から42単位以上(注4)	
		3年課程	12	専攻専門科目(宇宙科学特別研究Ⅱの2単位を含める)、共通専門基礎科目、総合教育科目から12単位以上(注4)	
加高速工器ネ	加速器科学専攻		5年課程	30	加速器科学・物質構造科学・素粒子原子核専攻が開設する専攻専門科目、共通専門科目(高エネルギー加速器科学認定研究の4単位を含める)、総合教育科目から30単位以上
			3年課程	—	—

科 ル 学 ギ —	物質構造科学専攻	5年課程	30	加速器科学・物質構造科学・素粒子原子核専攻が開設する専攻専門科目、共通専門科目(高エネルギー加速器科学認定研究の4単位を含める)、総合教育科目から30単位以上
		3年課程	—	—
	素粒子原子核専攻	5年課程	30	加速器科学・物質構造科学・素粒子原子核専攻が開設する専攻専門科目、共通専門科目(高エネルギー加速器科学認定研究の4単位を含める)、総合教育科目から30単位以上
		3年課程	—	—
複 合 科 学	統計科学専攻	5年課程	40	専攻専門科目、共通専門基礎科目(8単位以上を含めることを推奨)から40単位以上
		3年課程	10	専攻専門科目、共通専門基礎科目から10単位以上
	極域科学専攻	5年課程	40	専攻専門科目、共通専門基礎科目(8単位を必ず含める)から40単位以上
		3年課程	10	専攻専門科目、共通専門基礎科目(4単位を必ず含める)から10単位以上
	情報学専攻	5年課程	40	専攻専門科目、共通専門基礎科目(情報学総合研究ⅡBの2単位を含める)、総合教育科目(2単位を限度とする)から40単位以上
		3年課程	10	専攻専門科目、共通専門基礎科目、総合教育科目(2単位を限度とする)から10単位以上
生 命 科 学	遺伝学専攻	5年課程	30	専攻専門科目、共通専門科目、総合教育科目から30単位以上
		3年課程	—	—
	基礎生物学専攻	5年課程	30	専攻専門科目、共通専門科目、総合教育科目から30単位以上
		3年課程	—	—
	生理科学専攻	5年課程	30	専攻専門科目、共通専門科目、総合教育科目から30単位以上
		3年課程	—	—
先 導 科 学	生命共生体進化学 専攻	5年課程	42	必修10科目、総合国際教育科目群から必修を除き3科目以上、基礎教育科目群から必修を除き4科目以上(科学英語演習の各授業科目はⅠ～Ⅴのいずれか1科目に限る)、専門教育科目群から5科目以上、計42単位以上
		3年課程	12	必修科目(先導科学考究Ⅰ・Ⅱ、先導科学プログ्रेसⅠ・Ⅱを除く)を含め12単位以上(科学英語演習の各授業科目はⅢ～Ⅴのいずれか1科目に限る)

(注1) 以下のいずれかの科目の組合せを含めること

(構造分子科学専攻、機能分子科学専攻)。

- ・「先端物理学考究」及び「先端物理科学演習」
- ・「大規模プロジェクト概論」及び「プロジェクト演習」
- ・「研究開発特論Ⅰ」、「研究開発特論Ⅱ」
- ・「科学英語演習」

(注2) 以下のいずれかの科目の組合せを含めること

(天文学専攻)。

- ・「先端物理学考究」及び「先端物理科学演習」
- ・「大規模プロジェクト概論」及び「プロジェクト演習」
- ・「研究開発特論Ⅰ」、「研究開発特論Ⅱ」
- ・「科学英語演習」、共通専門基礎科目2単位。

(注3) 以下のいずれかの科目の組合せを含めること

(核融合科学専攻)。

- ・「先端物理学考究」及び「先端物理科学演習」
- ・「大規模プロジェクト概論」及び「プロジェクト演習」
- ・「研究開発特論Ⅰ」、「研究開発特論Ⅱ」
- ・「科学技術英語」、共通専門基礎科目2単位。

(注4) 以下のいずれかの科目の組合せを含めること

(宇宙科学専攻)。

- ・「先端物理学考究」及び「先端物理科学演習」
- ・「大規模プロジェクト概論」及び「プロジェクト演習」
- ・「研究開発特論Ⅰ」、「研究開発特論Ⅱ」
- ・「科学技術英語Ⅰ」又は「科学技術英語Ⅱ」、共通専門基礎科目2単位

※修了要件は、入学時のものが適用されます。

4. 各研究科の以下の表の在学年数(休学期間を除く)を超えて在学することはできません。

研究科	専攻		在学年数
文化科学	各専攻		5年
物理科学	構造分子科学・機能分子科学・宇宙科学	3年課程	6年
		5年課程	8年
	天文科学・核融合科学	3年課程	5年
		5年課程	8年
高エネルギー加速器科学	各専攻	3年課程	5年
		5年課程	8年
複合科学	各専攻	3年課程	6年
		5年課程	8年
生命科学	遺伝学・基礎生物学	3年課程	5年
		5年課程	8年
	生理科学	3年課程	6年
		5年課程	8年
先導科学	生命共生体進化学	3年課程	5年
		5年課程	8年

5. 研究科の各専攻で授与される学位に付記する専攻分野の種類については、「4-1. 学位」(220ページ)を参照してください。
6. 所属する専攻以外の他研究科(専攻)の授業科目を履修することもできます。他研究科(専攻)で履修したい授業科目がある場合は、履修することが可能か事前に各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係まで問い合わせてください。なお、専攻の修了単位に含めることができるかは、専攻により扱いが異なります。
7. 4に掲げる表の在学年数に達し、いわゆる「単位取得退学」を希望する場合は、退学願を提出する必要があります。
8. 所属専攻において「優れた研究業績をあげた者」と認められた場合は、在学期間を短縮して修了することができます。詳細は、各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係まで問い合わせてください。

◆問合せ先

葉山本部・教務係(Tel:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-3. 各研究科・専攻に置く授業科目(授業科目の概要)

各研究科・専攻の授業科目は、各研究科の履修規程に定められており、各授業科目の内容及び担当教員については、「3-9. 各研究科・専攻の授業科目の概要」(65ページ～)に掲載されています。

「各研究科・専攻の授業科目の概要」は、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)でも確認することができます。

◆問合せ先

葉山本部・教務係(Tel:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-4. 総合教育科目について(全学共同教育研究活動)

本学では、各専攻における専門的教育研究に加え、専門を超えた総合的な教育研究を推進することを目的に大学全体あるいは研究科において、各種事業を実施しています。このうち授業科目として開講されているものが総合教育科目です。総合教育科目には、学生セミナー、総研大レクチャー等がありますが、実施時期及び内容は各年度により異なりますので、詳しくは各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係まで問い合わせてください。

また、総合教育科目(全学共同教育研究活動)については随時、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)に掲載されますので確認してください。

※授業科目の単位授与の有無・単位数は事業により異なります。また修了要件の単位数に含めるかは、研究科・専攻により異なりますので、事前に確認してください。

現在(平成22年4月1日現在)、実施されている事業について紹介します。

●学生セミナー

学生が主体となって作成する実施計画に基づき、各研究科・専攻に共通する課題について、学生及び教員等による意見発表・討議等を行うことにより、幅広い視野の修得及び相互交流を深めることを目的として、原則として前・後期各1回開講されます。セミナーに出席し、レポート課題等を提出のうえ、所定の基準に達した者には単位が与えられます。

●総研大レクチャー

新たな学問領域の開拓につながる科学の総合化、現代社会が抱える今日的な重要課題を視野に入れた人間の総合化を目的とした集中講義を開講することで、学生に総合性及び国際的通用性を修得させることを目指しています。実施内容・時期・履修方法・単位の有無などは、事業毎に取扱いが異なりますので、事前に確認してください。

●e-learning

サーバーからダウンロード又はCD-ROMの貸出しなど電磁的な機器を介して授業が行われるものを言います。e-learning形式による授業科目は、総合研究大学院大学ホームページに掲載されております。また、授業科目により取扱いが異なるので、事前に履修方法について確認してください。

平成22年3月現在、e-learning形式による授業科目として、「科学論文の書き方」(全研究科)、「発生生物学Ⅰ」、「神経科学」、「分子細胞生物学Ⅰ」、「バイオインフォマティクス概論」(以上、生命科学研究科)を開設しています。

◆問合せ先

葉山本部・教務係(Tel:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-5. 資格取得のための授業科目の履修

●教員免許状

教員免許状は、「教育職員免許法施行規則」(昭和29年文部省令第26号)に則り、文部科学省から課程認定を受けた機関において、教育職員免許法で定められた課程による教育を受け、単位を修得した者が申請し、取得することができます。

本学では、文化科学研究科地域文化学専攻及び比較文化学専攻の2専攻が課程の認定を受けています。

なお、地域文化学専攻及び比較文化学専攻以外の学生が専修免許状を取得するには、本学以外の教職課程の認定を受けている他大学に科目等履修生等により入学し、必要な単位数を修得する必要があります。

	課程 (専攻)	現に有する1種免許状	授与の所要資格を得ることができる専修免許状
文化 科学 研究 科	地域文化学専攻	高等学校教諭1種免許状 (地理歴史)	高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)
		中学校教諭1種免許状 (社会)	中学校教諭専修免許状 (社会)
	比較文化学専攻	高等学校教諭1種免許状 (公民)	高等学校教諭専修免許状 (公民)
		中学校教諭1種免許状 (社会)	中学校教諭専修免許状 (社会)

※免許状取得の要件

(注1) 本研究科入学以前に中学校教諭1種免許状又は高等学校1種免許状を取得していること(当該各免許状の所要資格を得ている者を含む)が必要です。

(注2) 各課程(専攻)が開設する授業科目について24単位以上修得すること。

(注3) 免許状の申請は、本人が住所地又は教員採用学校所在地の授与権者(都道府県教育委員会)に対して行ってください。また、免許状授与証明書の請求は授与権者に行ってください。

●その他の資格取得について

本学では、その他の資格取得に必要な授業科目は設置されていません。

◆問合せ先

葉山本部・教務係(Tel:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-6. 他大学における授業科目の履修

学生は、研究科長の許可を受けて、本学と協議(交流協定等)した他大学の授業科目を履修することができ、一定の単位数(5年の課程にあつては10単位。3年の課程にあつては4単位(授業科目の修得を要しない専攻の課程を除く))まで本学の修了要件の単位数に含めることができます。

本学と交流協定を締結している他大学の授業科目を履修する場合、他大学において入学生料・授業料は徴収されません(実験実習等に要する実費を除く)。

履修に際しては、事前に「特別聴講派遣学生願」を各基盤機関の専攻担当係へ提出して

ください。

なお、本学と交流協定を締結している大学は以下の表のとおりです。各大学における受講可能な授業科目については、各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係まで問い合わせてください。

また、他大学の授業科目の履修が終了したときは、すみやかに「特別聴講派遣学生履修報告書」を各基盤機関の専攻担当係へ提出してください。

「特別聴講派遣学生願」及び「特別聴講派遣学生履修報告書」の様式は、総合研究大学院大学ホームページ (<http://www.soken.ac.jp>) からダウンロードすることができます。

本学と交流協定を締結している大学(国内)

平成22年4月現在

交流協定を締結している大学		交流が可能な本学の研究科					
		文化	物理	高工	複合	生命	先導
東京工業大学	理工学研究科、生命理工学研究科、総合理工学研究科、情報理工学研究科、社会理工学研究科	○	○	○	○	○	○
お茶の水女子大学	全研究科	○	○	○	○	○	○
名古屋大学	医学系研究科					△1	
	工学研究科		○				
東京大学	理学系研究科		○	○	○		
	情報理工学系研究科		○	○	○	○	○
国際基督教大学	全研究科	○	○	○	○	○	○
京都大学	アジア・アフリカ地域研究研究科	△2					
大阪大学	人間科学研究科	△2					
神戸大学	国際文化学研究科、人間発達環境学研究科	△2					
千葉大学	人文社会科学研究科	△3					
	理学研究科		○				
京都文教大学	文化人類学研究科	△2					
北陸先端科学技術大学院大学	情報科学研究科				△4		
麻布大学	獣医学研究科、環境保健学研究科	○	○	○	○	○	○
神奈川大学	法学研究科、経済学研究科、経営学研究科、外国語学研究科、理学研究科、工学研究科、歴史民俗資料科学研究科	○	○	○	○	○	○
神奈川工科大学	工学研究科	○	○	○	○	○	○
関東学院大学	文学研究科、経済学研究科、法学研究科、工学研究科	○	○	○	○	○	○
北里大学	理学研究科、医療系研究科、看護学研究科、薬学研究科、獣医畜産学研究科、水産学研究科、感染制御科学府	○	○	○	○	○	○

湘南工科大学	工学研究科	○	○	○	○	○	○
専修大学	経済学研究科、法学研究科、文学研究科、 経営学研究科、商学研究科	○	○	○	○	○	○
鶴見大学	文学研究科	○	○	○	○	○	○
帝京大学	薬学研究科	○	○	○	○	○	○
桐蔭横浜大学	法学研究科、工学研究科	○	○	○	○	○	○
東海大学	文学研究科、政治学研究科、経済学研究科、 法学研究科、芸術学研究科、体育学研究科、 理学研究科、工学研究科、開発工学研究科、 海洋学研究科、健康科学研究科、人間環境 学研究科	○	○	○	○	○	○
東京工芸大学	工学研究科	○	○	○	○	○	○
日本大学	生物資源科学研究科、獣医学研究科	○	○	○	○	○	○
日本女子大学	人間社会研究科、文学研究科、理学研究科、 家政学研究科、人間生活学研究科	○	○	○	○	○	○
横浜市立大学	医学研究科、国際総合科学研究科	○	○	○	○	○	○
横浜国立大学	工学府、環境情報学府、教育学研究科、国 際社会科学研究科	○	○	○	○	○	○
明治大学	農学研究科	○	○	○	○	○	○
フェリス学院大学	人文科学研究科、国際交流研究科、音楽研 究科	○	○	○	○	○	○
情報セキュリティ大学院大学	情報セキュリティ研究科	○	○	○	○	○	○
東京都市大学	環境情報学研究科	○	○	○	○	○	○
相模女子大学	栄養科学研究科	○	○	○	○	○	○
松蔭大学	経営管理研究科	○	○	○	○	○	○
青山学院大学	理工学研究科	○	○	○	○	○	○

- (注) △1 生理科学専攻のみ
△2 地域文化化学専攻・比較文化化学専攻のみ
△3 日本歴史研究専攻・日本文学研究専攻のみ
△4 情報学専攻のみ

本学と交流協定を締結している大学(海外)

平成22年4月現在

交流協定を締結している大学 [国名]	交流が可能な本学の研究科					
	文化	物理	高エ	複合	生命	先導
日仏共同博士課程コンソーシアム [フランス]	○	○	○	○	○	○
復旦大学 [中華人民共和国]		○	○	○		○
科学技術聯合大学院大学校 [大韓民国]	○	○	○	○	○	○

チュラロンコーン大学理学部[タイ]		○				
バイロイト大学[ドイツ]	○	○	○	○	○	○

◆問合せ先

【国内の大学】葉山本部・教務係 (TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

【海外の大学】 // 国際交流係 (TEL:046-858-1519 kokusai@ml.soken.ac.jp)

3-7. 他大学等における研究指導

学生は、研究科長の許可を受けて、本学と協議(交流協定等)した他大学又は研究所等において、必要な研究指導を受けることができます。

他大学又は研究所等での研究指導を希望する場合は、事前に主任指導教員及び受入希望先の指導教員と相談し、「特別研究派遣学生願」を各基盤機関の専攻担当係へ提出してください。他大学又は研究所等への派遣期間は許可された日から1年以内となります(やむを得ない事情があると認められるときは、原則として引き続き1年以内に限り延長が許可されます)。

また、他大学又は研究所等において研究指導が終了したときは、すみやかに「特別研究派遣学生研究指導報告書」を各基盤機関の専攻担当係へ提出してください。

「特別研究派遣学生願」及び「特別研究派遣学生研究指導報告書」の様式は、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)からダウンロードすることができます。

◆問合せ先

葉山本部・教務係 (TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-8. その他

●学生移動経費について

本学の学生が、大学本部又は専攻の所在地等の場所に「授業科目の授業又は研究指導」のために移動し、交通費等が発生した場合は、交通費等の一部補助を目的とした学生移動経費の支給対象となることがあります。支給要件がありますので、事前に各基盤機関の専攻担当係までご確認ください。

●長期履修制度について

学生が職業を有している等の事情を有する場合、学生からの申し出により、標準の修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的な課程の履修を認めることがあります。

長期履修の適用は、あらかじめ長期履修適用申出書に指導教員の所見を添え、所属する専攻又は専攻長を経由して研究科長に提出し、その承認を受ける必要があります。

詳細は、各基盤機関専攻担当係又は葉山本部・教務係まで問い合わせてください。

◆問合せ先

葉山本部・教務係 (TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3. Course Registration (Rishuu 履修)

3-1. General Information on Course Registration (Rishuujou-no-Ryuuijikou 履修上の留意事項)

1. At the beginning of each semester, students must select courses for the semester and complete course registration by the designated date. No credit may be earned if students attend courses without completing registration.
2. To make a study/research plan, students should consult with their main supervisors (Shunin-Sidou-Kyouin 主任指導教員).
3. Course registration may be completed by submitting an "Application for Course Registration" (Rishuu-Todoke 履修届) within the prescribed period (this period will be established and notified separately for each semester). Before submitting an Application for Course Registration, a student must obtain his/her main supervisor's approval.
4. The form of the Application for Course Registration is available from the Department's Administration Office at each Parent Institute or from the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters. It is also downloadable from SOKENDAI's website (<http://www.soken.ac.jp/student/study/subject.html>).
5. For the titles and outlines of courses provided by each Department, refer to "3-9. Outlines of Courses Provided by each School/Department" (from page 65).
6. Students who accomplish a certain level of academic performance in registered courses earn the prescribed number of credits for each course.
7. Students may re-take any course that has been failed; however, any course already passed may not be retaken.
8. Any questions on course registration should be directed in advance to the Department's Administration Office at each Parent Institute or to the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

3-2. Requirements for Graduation/Required Number of Credits

(Shuryou-Youken /Jugyoukamoku-Rishuu 修了要件/授業科目履修)

1. To graduate from SOKENDAI, the following requirements must be met.
 - For 3-year course students
 - Enrollment in a School of SOKENDAI for **three years or more**
 - Earning the required number of credits as set forth in the course registration rules provided on a department basis by the Schools (excluding Departments that do not require the earning of credit)
 - Having undergone the necessary research supervision by a supervisor, successful examination of a **doctoral thesis** and successful completion of a final examination
 - Full payment of the required tuition fees (except for those who are exempted from tuition payment)
 - For 5-year course students
 - Enrollment in a School of SOKENDAI for **five years or more**

- Earning at least 30 to 42 credits (depending on the Department) as prescribed by the course registration rules of each School
- Having undergone the necessary research supervision by a supervisor, successful examination of a **doctoral thesis** and successful completion of a final examination
- Full payment of the required tuition fees (except for those who are exempted from tuition payment)

2. The table below shows the required number of credits for graduation specified by each department.

School	Department		Credit	Requirements
	Doctor's Course			
Cultural and Social Studies	Regional Studies (Chiiki-Bunkagaku 地域文化学)		16	16 credits or more, including 8 from the Department's compulsory subjects and 8 from the subjects provided by the Dept.Regional Studies/Dept.Comparative Studies
	Comparative Studies (Hikaku-Bunkagaku 比較文化学)		16	16 credits or more, including 8 from the Department's compulsory subjects and 8 from the subjects provided by the Dept.Regional Studies/Dept.Comparative Studies
	Japanese Studies (Kokusai-Nihon-Kenkyuu 国際日本研究)		12	12 credits from the compulsory subjects
	Japanese History (Nihon-Rekishi-Kenkyuu 日本歴史研究)		12	12 credits or more, including 6 from the subjects provided by the Department
	Cyber Society and Culture (Media-Shakai-Bunka メディア社会文化)		12	12 credits or more, including 6 from the subjects provided by the Department
	Japanese Literature (Nihon-Bungaku-Kenkyuu 日本文学研究)		12	12 credits or more, including 8 from the subjects provided by the Department (including 2 from Introduction to Literary Studies I or II)
Physical Sciences	Structural Molecular Science (Kouzou-Bunshi-Kagaku 構造分子科学)	5year	42	42 credits or more from the Dept. Structural Molecular Science/Dept. Functional Molecular Science, including 4 or more from the common specialized basic subjects, 3 or more from the course subjects including Special Study on Physical Sciences I,II,III, and 1 or more from the comprehensive subjects *1
		3year	12	12 credits or more from the Dept. Structural Molecular Science/Dept. Functional Molecular Science, including 2 or more from the common specialized basic subjects, 1 or more from the comprehensive subjects *1
	Functional Molecular Science (Kinou-Bunshi-Kagaku 機能分子科学)	5year	42	42 credits or more from the Dept. Structural Molecular Science/Dept. Functional Molecular Science, including 4 or more from the common specialized basic subjects, 3 or more from the course subjects including Special Study on Physical Sciences I,II,III, and 1 or more from the comprehensive subjects *1
		3year	12	12 credits or more from the Dept. Structural Molecular Science/Dept. Functional Molecular Science, including 2 or more from the common specialized basic subjects, 1 or more from the comprehensive subjects *1

	Astronomical Science (Tenmon-Kagaku 天文科学)	5year	42	42 credits or more from the Department's special subjects (including 2 subjects from Colloquiums I, II, III, IV,V and Basic Seminar and 20 credits for progress reports) and the common specialized basic subjects and the course subjects (including 3 subjects from Special Study on Physical Sciences I,II,III) and the comprehensive subjects *2
		3year	12	12 credits or more from the Department's special subjects (including 6 from Colloquiums III, IV,V) and the common specialized basic subjects and the comprehensive subjects *2
	Fusion Science (Kakuyugou-Kagaku 核融合科学)	5year	42	42 credits or more from the Department's special subjects, common specialized basic subjects, and the course subjects (including 3 subjects from Special Study on Physical Sciences I,II,III) , and comprehensive subjects *3
		3year	12	12 credits or more from the Department's special subjects, common specialized basic subjects, and comprehensive subjects *3
	Space and Astronautical Science (Uchuu-Kagaku 宇宙科学)	5year	42	42 credits or more from the Department's special subjects (including 4 from Thesis Progress Report I II) and the common specialized basic subjects, and the course subjects (including 3 subjects from Special Study on Physical Sciences I,II,III), and comprehensive subjects *4
		3year	12	12 credits or more from the Department's special subjects (including 2 from Thesis Progress Report II) and the common specialized basic subjects and the course subjects and comprehensive subjects *4
High Energy Accelerator Sciences	Accelerator Science (Kasokuki-Kagaku 加速器科学)	5year	30	30 credits or more from the special subjects provided by the Dept.Accelerator Science, Dept.Materials Structure Science, and Dept.Particle and Nuclear Physics, common specialized subjects (including 4 from Qualifying Research in High Energy Accelerator Science), and comprehensive subjects
		3year	—	—
	Materials Structure Science (Busshitsu-Kouzou-Kagaku 物質構造科学)	5year	30	30 credits or more from the special subjects provided by the Dept.Accelerator Science, Dept.Materials Structure Science, and Dept.Particle and Nuclear Physics, common specialized subjects (including 4 from Qualifying Research in High Energy Accelerator Science), and comprehensive subjects
		3year	—	—
	Particle and Nuclear Physics (Soryuushi-Genshikaku 素粒子原子核)	5year	30	30 credits or more from the special subjects provided by the Dept.Accelerator Science, Dept.Materials Structure Science, and Dept.Particle and Nuclear Physics, common specialized subjects (including 4 from Qualifying Research in High Energy Accelerator Science), and comprehensive subjects
		3year	—	—
Statistical Science (Toukei-Kagaku 統計科学)	5year	40	40 credits or more from the Department's special subjects and common specialized basic subjects (the inclusion of 8 credits or more is recommended.)	
	3year	10	10 credits or more from the Department's special subjects and common specialized basic subjects	

Multidis- ciplinary Sciences	Polar Science (Kyokuiki-Kagaku 極域科学)	5year	40	40 credits or more from the Department's special subjects and common specialized basic subjects (the inclusion of 8 credits is compulsory.)
		3year	10	10 credits or more from the Department's special subjects and common specialized basic subjects (the inclusion of 4 credits is compulsory.)
	Informatics (Jouhougaku 情報学)	5year	40	40 credits or more from the Department's special subjects(including 2 from Research in Informatics for Master Thesis IIB), common specialized basic subjects and comprehensive subjects(maximum of 2 credits from comprehensive subjects)
		3year	10	10 credits or more from the Department's special subjects and common specialized basic subjects and comprehensive subjects(maximum of 2 credits from comprehensive subjects)
Life Science	Genetics (Idengaku 遺伝学)	5year	30	30 credits or more from the Department's special subjects, common specialized subjects, and comprehensive subjects
		3year	—	—
	Basic Biology (Kiso-Seibutsugaku 基礎生物学)	5year	30	30 credits or more from the Department's specialized subjects, common specialized subjects, or comprehensive subjects
		3year	—	—
	Physiological Sciences (Seiri-Kagaku 生理科学)	5year	30	30 credits or more from the Department's special subjects, common specialized subjects, and comprehensive subjects
		3year	—	—
Advanced Sciences	Evolutionary Studies of Biosystems (Seimei-Kyouseitai-Shinkagaku 生命共 生体進化学)	5year	42	42 credits or more from 10 compulsory subjects, 3 or more comprehensive international education subjects, 4 or more basic education subjects (excluding compulsory subjects), and 5 or more specialized education subjects
		3year	12	12 credits or more including the compulsory subjects (excluding Advanced Science Seminar I, II or Advanced Science Progress I, II)

* 1 You should take either one of the following packages of subjects. (Dept. Structural Molecular Science and Functional Molecular Science.)

- "Seminar on Advanced Physical Science Research" and "Exercise on Advanced Physical Science Research"
- "Special Program of Big Project Research" and "Exercise on Project Research"
- "Special Program of Research and Development" and "Special Program of Research and Development II"
- "English for scientific research"

* 2 You should take either one of the following packages of subjects. (Dept. Astronomical Science)

- "Seminar on Advanced Physical Science Research" and "Exercise on Advanced Physical Science Research"
- "Special Program of Big Project Research" and "Exercise on Project Research"
- "Special Program of Research and Development" and "Special Program of Research and Development II"
- "Exercise in Scientific English" and 2 or more from the common specialized basic subjects.

* 3 You should take either one of the following packages of subjects. (Dept. Fusion Science)

- "Seminar on Advanced Physical Science Research" and "Exercise on Advanced Physical Science Research"
- "Special Program of Big Project Research" and "Exercise on Project Research"
- "Special Program of Research and Development" and "Special Program of Research and Development II"
- "Scientific English Writing and Presentation at International Conferences" and 2 or more from the common specialized basic subjects.

*4 You should take either one of the following packages of subjects. (Dept. Space and Astronautical Science)

- "Seminar on Advanced Physical Science Research" and "Exercise on Advanced Physical Science Research"
- "Special Program of Big Project Research" and "Exercise on Project Research"
- "Special Program of Research and Development" and "Special Program of Research and Development II"
- "Scientific writing I" or "Scientific writing II" and 2 or more from the common specialized basic subjects.

★As for Requirements, the one when entering a school is applied.

4. Students are not allowed to attend the courses of each School longer than the period of attendance (excluding a period of absence from school) as shown below.

School	Department Doctor's Course		Period of attendance
Cultural and Social Studies	All Departments		5 year
Physical Sciences	Structural Molecular Science (Kouzou-Bunshi-Kagaku 構造分子科学),	3 year	6 year
	Functional Molecular Science (Kinou-Bunshi-Kagaku 機能分子科学),	5 year	8 year
	Space and Astronautical Science (Uchuu-Kagaku 宇宙科学)		
	Astronomical Science (Tenmon-Kagaku 天文科学), Fusion Science (Kakuyugou-Kagaku 核融合科学)	3 year 5 year	5 year 8 year
High Energy Accelerator Sciences	All Departments	3 year	5 year
		5 year	8 year
Multidisciplinary Sciences	All Departments	3 year	6 year
		5 year	8 year
Life Science	Genetics (Idengaku 遺伝学), Basic Biology (Kiso-Seibutsugaku 基礎生物学)	3 year	5 year
		5 year	8 year
	Physiological Sciences (Seiri-Kagaku 生理科学)	3 year	6 year
		5 year	8 year
Advanced Sciences	Evolutionary Studies of Biosystems (Seimei-Kyouseitai-Shinkagaku 生命共生体進化学)	3 year	5 year
		5 year	8 year

5. For the details on the classification of the subjects that are attached to the degrees to be awarded, refer to "4-1. Degrees" (on page 224).

6. Students may also take subjects provided by other Schools (Departments). If a student wishes to take a subject provided by another School (Department), he/she should contact his/her Department's Administration Office at his/her Parent Institute or the Educational Affairs Section (Kyomu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters in advance to confirm that it is possible to take the subject. Whether such a subject may be included in credits for graduation or not depends on the Department.

7. Students who wish a "withdrawal after earning the required credits" when their period

of attendance has reached the limit shown in Table 4, must submit an Application for Withdrawal from University (Taigaku-Negai 退学願).

8. A student recognized by his/her department as a "student who has accomplished outstanding research performance" may graduate before reaching the required period of attendance. For details, contact the Department's Administration Office at each Parent Institute or the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

◆Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-3. Subjects Provided by Each School/Department (Outlines of Subjects) (Jugyoukamoku-no-Gaiyou 授業科目の概要)

Subjects provided by each School/Department are defined in each School's course registration rules. The details and supervisors of each subject are described in "3-9. Outlines of Courses Provided by Each School/Department" (from page 65).

The "outlines of courses provided by each School/Department" are also available on SOKENDAI's website (<http://www.soken.ac.jp/student/study/subject.html>). (in Japanese)

◆Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-4. Comprehensive Subjects (Interdepartmental Activities for Research and Education) (Sougou-Kyouiku-Kamoku 総合教育科目)

In addition to specialized education/research provided by each Department, SOKENDAI offers various activities at the University level or the School level to promote comprehensive, interdisciplinary education and research. Among such activities, comprehensive subjects (Sougou-Kyouiku-Kamoku 総合教育科目) are provided as a part of courses and include Student Seminars (Gakusei-Seminar 学生セミナー) and SOKENDAI Lectures (Sokendai-Lectures 総研大レクチャー). The schedules and contents of these seminars and lectures vary from one school year to another; for details, contact the Department's Administration Office at each Parent Institute or the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

Information on comprehensive subjects (Interdepartmental activities for research and education) is available on SOKENDAI's website (<http://www.soken.ac.jp/en/activities/index.html>).

- * Whether or not credits are granted for a comprehensive subject and the number of credits granted varies depending on the type of activity. Students should confirm in advance with their Schools/Departments that credits from such subjects may be counted toward graduation.

The followings are comprehensive subjects implemented as of April 1, 2010.

● Student Seminars (Gakusei-Seminar 学生セミナー)

Based on the execution plan made mainly by students, one seminar in each semester is held for the purpose of broadening perspectives and deepening understanding across the Schools and Departments through discussion and debate by students and faculty members on common issues. Credits are given to seminar attendants when their reports meet the prescribed criteria.

● SOKENDAI Lectures (Sokendai-Lectures 総研大レクチャー)

SOKENDAI Lectures are designed to encourage students to acquire a comprehensive and international perspective. To achieve this goal, students attend lectures focused on the purpose of pursuing comprehensive science directed toward the development of new disciplines. The Lectures aim to help students acquire a comprehensive perspective about the important issues facing society today. Contents, time, procedures for taking a lecture, and the possibility of earning credits vary depending on the type of Lectures and should be checked in advance.

● E-learning

E-learning is a method for delivering courses via electronic media, such as downloading from a server or CD-ROM. SOKENDAI's website lists courses provided via e-learning. Registration varies depending on the subject and must be checked in advance.

As of March 2010, five courses including "Scientific Writing" (Kagaku-Ronbun-no-Kakikata 科学論文の書き方) (for all Schools), "Developmental Biology I" (Hasei-Seibutsugaku I 発生生物学 I), "Neuroscience" (Shinkeikagaku 神経科学), "Molecular and Cellular Biology I" (Bunshi-Saibou-Seibutsugaku I 分子細胞生物学 I), and "Introduction to Bioinformatics" (Bioinformatics バイオインフォマテイクス概論) (for the School of Life Science) are provided via e-learning.

◆ Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL: 046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-5. Subject for Teaching Certificate

(Snip)

3-6. Studying at Other Universities

(Tadaigakuni-okeru-Jugyoukamoku-no-Rishuu 他大学における授業科目の履修)

A student may, with the approval of the Dean of his/her School, study at another university that has concluded an agreement with SOKENDAI (student exchange agreement, etc.). A certain number of credits (10 credits for 5-year course students and 4 credits for

3-year course students (excluding courses that do not require credit earning) can be transferred to SOKENDAI to fulfill part of the requirement for graduation.

Students studying at another university will not be charged registration/tuition fees by that university if it has concluded an exchange agreement with SOKENDAI (excluding expenses for laboratory practice, etc.).

A student wishing to study at another university should submit an Application for Attending Lectures at Another University (Tokubetsu-Choukou-Haken-Gakusei-Negai 特別聴講派遣学生願) to your Department's Administration Office at each Parent Institute in advance.

The table below shows universities that have concluded exchange agreements with SOKENDAI. For courses available at each university, contact the Department's Administration Office at each Parent Institute or the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

After completion of the course at another university, a student should immediately submit a "Report for Attending Lectures at Another University" (Tokubetsu-Choukou-Haken-Gakusei-Rishuuhoukokusho 特別聴講派遣学生履修報告書) to the Department's Administration Office.

The "Application for Attending Lectures at Another University" (Tokubetsu-Choukou-Haken-Gakusei-Negai 特別聴講派遣学生願) and "Report for Attending Lectures at Another University" (Tokubetsu-Choukou-Haken-Gakusei-Rishuuhoukokusho 特別聴講派遣学生履修報告書) are downloadable from SOKENDAI's website (<http://www.soken.ac.jp/student/study/other.html>).

Universities that have concluded exchange agreements with SOKENDAI (in Japan)

2010. 4. 1

Universities that have concluded exchange agreements with SOKENDAI		Available Schools at SOKENDAI					
University	Graduate School	Cultural and Social Studies	Physical Sciences	High Energy Accelerator Sciences	Multi-disciplinary Sciences	Life Science	Advanced Sciences
Tokyo Institute of Technology	Science and Technology, Bioscience and Biotechnology, Interdisciplinary Graduate School of Science and Technology, Information Science and Engineering, Decision Science and Technology	○	○	○	○	○	○
Ochanomizu University	All Schools	○	○	○	○	○	○
Nagoya University	Medicine					△1	
	Engineering		○				
University of Tokyo	Science		○	○	○		

	Information Science and Technology		○	○	○	○	○
International Christian University	All Schools	○	○	○	○	○	○
Kyoto University	Asian and African Area Studies	△2					
Osaka University	Human Sciences	△2					
Kobe University	Cultural Studies and Human Science	△2					
Chiba University	Social Sciences and Humanities	△3					
	Science		○				
Kyoto Bunkyo University		△2					
Japan Advanced Institute of Science and Technology	Information Science				△4		
Azabu University	Veterinary Science, Environmental Health	○	○	○	○	○	○
Kanagawa University	Law, Economics, Business Administration, Foreign Languages, Science, Engineering, History and Folklore	○	○	○	○	○	○
Kanagawa Institute of Technology		○	○	○	○	○	○
Kanto Gakuin University		○	○	○	○	○	○
Kitasato University		○	○	○	○	○	○
Shonan Institute of Technology	The Faculty of Engineering	○	○	○	○	○	○
Senshu University	Economics, Law, Humanities, Business Administration, Commerce	○	○	○	○	○	○
Tsurumi University		○	○	○	○	○	○
Teikyo University	Faculty of Pharmaceutical Science	○	○	○	○	○	○
Toin University of Yokohama		○	○	○	○	○	○
Tokai University	Letters, Political Sciences, Economics, Law, Arts, Physical Education, Science, Engineering, Human Environment Studies	○	○	○	○	○	○
Tokyo Polytechnic University	Engineering	○	○	○	○	○	○
Nihon University		○	○	○	○	○	○
Japan Women's University	Integrated Arts and Social Science, Humanities, Science, Human Economics, Human Life Science	○	○	○	○	○	○
Yokohama City University	Medicine, International Graduate School of Arts and Sciences	○	○	○	○	○	○
Yokohama National University	Engineering, Environment and Information Sciences, Education, International Graduate School of Social Science	○	○	○	○	○	○

Meiji University	Graduate Education Department of Agriculture	○	○	○	○	○	○
Ferris University		○	○	○	○	○	○
Institute of Information Security		○	○	○	○	○	○
Tokyo City University	Faculty of Environmental and Information Studies	○	○	○	○	○	○
Sagami Women's University		○	○	○	○	○	○
Shoin University		○	○	○	○	○	○
Aoyama Gakuin University	Science and Engineering	○	○	○	○	○	○

△1 Physiological Sciences (Seiri Kagaku) only.

△2 Regional Studies (Thiiki Bunkagaku) and Comparative Studies (Hikaku Bunkagaku) only.

△3 Japanese History (Nihon Rekishi Kenkyu) and Japanese Literature (Nihon Bungaku Kenkyu) only.

△4 Informatics (Jouhougaku) only.

Universities that have concluded exchange agreements with SOKENDAI (Foreign countries)

2010. 4. 1

Universities that have concluded exchange agreements with SOKENDAI [Country]	Available Schools at SOKENDAI					
	Cultural and Social Studies	Physical Sciences	High Energy Accelerator Sciences	Multi-disciplinary Sciences	Life Science	Advanced Sciences
Consortium japonais du College doctoral franco-japonais [France]	○	○	○	○	○	○
Fudan University [China]		○	○	○		○
The University of Science and Technology [Korea]	○	○	○	○	○	○
Chulalongkorn University [Thailand]		○				
University of Bayreuth [Germany]	○	○	○	○	○	○

◆Contact

【Japanese universities】

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL: 046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

【Foreign universities】

International Affairs Section (Kokusaikouryuu-Gakari 国際交流係/Hayama)

(TEL: 046-858-1519 kokusai@ml.soken.ac.jp)

3-7. Receiving Research Supervision at Other Universities

(Tadaigakutouni-okeru-Kenkyuu-Shidou 他大学等における研究指導)

A student may, with the approval of the Dean of his/her School, receive research supervision at another university that has concluded an agreement with SOKENDAI (exchange agreement, etc.).

A student wishing to receive research supervision at another university should submit an “Application for Receiving Supervision at Another University (Tokubetsu-Kenkyuu-Haken-Gakusei-Negai 特別研究派遣学生願) to his/her Department’s Administration Office at each Parent Institute, after consulting his/her main supervisor and a supervisor of the other university. The period of research supervision at another university/research institute is one year from the date of approval (an extension of not more than one year may be granted when unavoidable circumstances arise).

After completion of receiving research supervision at another university, a student should immediately submit a “Report for Receiving Supervision at Another University” (Tokubetsu-Kenkyuu-Haken-Gakusei-Kenkyuushidou-Houkokusho 特別研究派遣学生研究指導報告書) to the Department’s Administration Office.

The “Application for Receiving Supervision at Another University” (Tokubetsu-Kenkyuu-Haken-Gakusei-Negai 特別研究派遣学生願) and “Report for Receiving Supervision at Another University” (Tokubetsu-Kenkyuu-Haken-Gakusei-Kenkyuushidou-Houkokusho 特別研究派遣学生研究指導報告書) are downloadable from SOKENDAI’s website (<http://www.soken.ac.jp/student/study/other.html>).

◆Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(Tel: 046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-8. Other

●Travel expenses for students (Gakusei-Idou-Keihi 学生移動経費)

When a SOKENDAI student travels to the Hayama Headquarters or the location of the department other than the Department, which the student belongs to, for the purpose of “receiving a lecture or research supervision,” and incurs travel expenses, part of these expenses may be reimbursed as travel expenses for students. The student should contact in advance his/her Department’s Administration Office at each Parent Institute to learn the requirements for reimbursement.

●Extension of study (Chouki-Rishuu-Seido 長期履修制度)

A student who has an extenuating circumstance, such as employment, may request that a study plan should be permitted that it exceeds the standard period of attendance.

Students who wish to extend his/her period of study, must submit an Application for Extension of Study with the written support of his/her supervisor to the Dean of his/her School via his/her Department or Head of Department.

For details, contact the Department’s Administration Office at each Parent Institute or the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

◆Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL: 046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要

(Outlines of Courses Provided by Each School/Department)

3-9-1. 文化科学研究科 (School of Cultural and Social Studies)

地域文化学専攻 (Dept. Regional Studies) 授業科目概要	66
比較文化学専攻 (Dept. Comparative Studies) 授業科目概要	70
国際日本研究専攻 (Dept. Japanese Studies) 授業科目概要	74
日本歴史研究専攻 (Dept. Japanese History) 授業科目概要	76
メディア社会文化専攻 (Dept. Cyber Society and Culture) 授業科目概要	80
日本文学研究専攻 (Dept. Japanese Literature) 授業科目概要	84

地域文化学専攻授業概要

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
アジア地域文化 I	東アジア文化研究	2	台湾原住民族の文化と歴史	准教授	野林 厚志
	東アジア文化研究特論 I	2	中国における文化変容と社会	准教授	横山 廣子
	東アジア文化研究特論 II	2			
	東アジア文化研究演習 I	2	中国南部諸民族の歴史民族学的研究に関する講述	教 授	塚田 誠之
	東アジア文化研究演習 II	2	朝鮮半島を中心とした東アジアにおける社会と文化	教 授	朝倉 敏夫
	北・中央アジア文化研究	2	モンゴル遊牧社会論	教 授	小長谷有紀
	北・中央アジア文化研究特論	2	北アジア狩猟採集文化研究	教 授	佐々木史郎
	北・中央アジア文化研究演習 I	2			
北・中央アジア文化研究演習 II	2				
アジア地域文化 II	東南アジア文化研究	2	東南アジアの住文化研究	准教授	佐藤 浩司
	東南アジア文化研究特論	2			
	東南アジア文化研究演習 I	2	東南アジア諸社会における精霊信仰	教 授	田村 克己
	東南アジア文化研究演習 II	2			
	南アジア文化研究	2	インドのナショナリズムと宗教	准教授	三尾 稔
	南アジア文化研究特論	2	ネパールの現代政治と社会的包摂	准教授	南 真木人
	南アジア文化研究演習 I	2			
	南アジア文化研究演習 II	2			
	西アジア文化研究	2	中東イスラム社会における民衆文化	教 授	西尾 哲夫
	西アジア文化研究特論	2			
西アジア文化研究演習 I	2				
西アジア文化研究演習 II	2				
ヨーロッパ地域文化	ヨーロッパ文化研究	2	東欧の政治文化と宗教	准教授	新免光比呂
	ヨーロッパ文化研究特論	2	南ヨーロッパのジェンダー・セクシュアリティ	准教授	宇田川妙子
	ヨーロッパ文化研究演習 I	2	ヨーロッパ・エスノロジーの展開	教 授	森 明子
	ヨーロッパ文化研究演習 II	2			
アフリカ地域文化	アフリカ文化研究	2	人の移動に関する文化的研究	准教授	三島 禎子
	アフリカ文化研究特論	2			
	アフリカ文化研究演習 I	2	アフリカ地域の生態人類学	教 授	池谷 和信
	アフリカ文化研究演習 II	2	排除と包摂の社会科学	教 授	竹沢尚一郎
アメリカ地域文化	アメリカ文化研究	2	中米文化研究	教 授	八杉 佳穂
	アメリカ文化研究特論	2	南アメリカのエスノヒストリー	准教授	齋藤 晃
	アメリカ文化研究演習 I	2			
	アメリカ文化研究演習 II	2			

Department of Regional Studies

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Asian Studies I	Lecture (East Asian Studies)	2	The Culture and History of Taiwan Aboriginal Peoples	Assoc.Prof.	NOBAYASHI Atsushi
	Proseminar I (East Asian Studies)	2	Cultural Change and Society in China	Assoc.Prof.	YOKOYAMA Hiroko
	Proseminar II (East Asian Studies)	2			
	Seminar I (East Asian Studies)	2	The Ethnohistory of Ethnic Groups in South China.	Prof.	TSUKADA Shigeyuki
	Seminar II (East Asian Studies)	2	Culture and Society on the Korean Peninsula	Prof.	ASAKURA Toshio
	Lecture (Northern and Central Asian Studies)	2	Comparison of the Mongolian Pastoral System with Those in Other Parts of the World	Prof.	KONAGAYA Yuki
	Proseminar (Northern and Central Asian Studies)	2	Hunter-gatherer Cultures in Northern Asia	Prof.	SASAKI Shiro
	Seminar I (Northern and Central Asian Studies)	2			
	Seminar II (Northern and Central Asian Studies)	2			
Asian Studies II	Lecture (Southeast Asian Studies)	2	Houses and Their Utilization in Southeast Asia	Assoc.Prof.	SATO Koji
	Proseminar (Southeast Asian Studies)	2			
	Seminar I (Southeast Asian Studies)	2	Spirit Cult in Southeast Asian Societies	Prof.	TAMURA Katsumi
	Seminar II (Southeast Asian Studies)	2			
	Lecture (South Asian Studies)	2	Religion and Nationalism in India	Assoc.Prof.	MIO Minoru
	Proseminar (South Asian Studies)	2	Current Politics toward Social Inclusion in Nepal	Assoc.Prof.	MINAMI Makito
	Seminar I (South Asian Studies)	2			
	Seminar II (South Asian Studies)	2			
	Lecture (West Asian Studies)	2	Folklore and Islam in the Middle East	Prof.	NISHIO Tetsuo
	Proseminar (West Asian Studies)	2			
European Studies	Lecture (European Studies)	2	Politics and Religion in East Europe	Assoc.Prof.	SHINMEN Mitsuhiro
	Proseminar (European Studies)	2	Gender and Sexuality in Southern Europe	Assoc.Prof.	UDAGAWA Taeko
	Seminar I (European Studies)	2	The Formation of European Ethnology	Prof.	MORI Akiko
	Seminar II (European Studies)	2			
African Studies	Lecture (African Studies)	2	A Study of the Migration from the Cultural Perspective	Assoc.Prof.	MISHIMA Teiko
	Proseminar (African Studies)	2			
	Seminar I (African Studies)	2	Ecological Anthropology of African Regions	Prof.	IKEYA Kazunobu
	Seminar II (African Studies)	2	Reconsidering Exclusion and Inclusion in Social Sciences	Prof.	TAKEZAWA Shoichiro
American Studies	Lecture (American Studies)	2	Cultures in Middle America	Prof.	YASUGI Yoshiho
	Proseminar (American Studies)	2	Ethnohistory of South America	Assoc.Prof.	SAITO Akira
	Seminar I (American Studies)	2			
	Seminar II (American Studies)	2			

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
オセアニア地域文化	オセアニア文化研究	2	自然災害と対峙する社会と文化	准教授	林 勲男
	オセアニア文化研究特論	2	オセアニアにおける土器文化の諸相	教 授	印東 道子
	オセアニア文化研究演習Ⅰ	2			
	オセアニア文化研究演習Ⅱ	2			
基礎科目	地域文化学基礎演習Ⅰ	2	地域文化研究に関する基礎演習	教 授	塚田 誠之
	地域文化学基礎演習Ⅱ	2	地域文化研究に関する基礎演習	教 授	竹沢尚一郎
	地域文化学演習Ⅰ	2	博士論文作成のための演習	准教授	佐藤 浩司
	地域文化学演習Ⅱ	2	博士論文作成のための演習	准教授	横山 廣子
共通科目	地域文化学特論Ⅰ	2	言語と文化	教 授	八杉 佳穂
	地域文化学特論Ⅱ	2	人類学の理論と方法	教 授	竹沢尚一郎

※網掛けは必修科目

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Oceanic Studies	Lecture (Oceanic Studies)	2	Anthropological studies on socio-cultural aspects of natural disasters	Assoc.Prof.	HAYASHI Isao
	Proseminar (Oceanic Studies)	2	Anthropological Studies of Pottery in Oceania	Prof.	INTOH Michiko
	Seminar I (Oceanic Studies)	2			
	Seminar II (Oceanic Studies)	2			
Basic Seminar	Basic Seminar I (Regional Studies)	2	Regional Studies of Culture and Society	Prof.	TSUKADA Shigeyuki
	Basic Seminar II (Regional Studies)	2	Regional Studies of Culture and Society	Prof.	TAKEZAWA Shoichiro
	Seminar I (Regional Studies)	2	Seminar for Thesis Writing	Assoc.Prof.	SATO Koji
	Seminar II (Regional Studies)	2	Seminar for Thesis Writing	Assoc.Prof.	YOKOYAMA Hiroko
Shared Lecture	Lecture I (Regional Studies)	2	Language and Culture	Prof.	YASUGI Yoshiho
	Lecture II (Regional Studies)	2	Theories and Methods in Anthropology	Prof.	TAKEZAWA Shoichiro

比較文化学専攻授業概要

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
比較社会研究	比較社会研究Ⅰ	2	コミュニティの人類学	准教授	平井京之介
	比較社会研究Ⅱ	2	中国の社会人類学—欧米・日本・中国のパースペクティブ	准教授	韓 敏
	比較社会研究特論Ⅰ	2	NPOのガバナンス問題：文化、法とダイナミクス	教 授	出口 正之
	比較社会研究特論Ⅱ	2	社会・文化に関する人類学的アプローチ	教 授	岸上 伸啓
	比較社会研究演習Ⅰ	2	宗教とナショナリズム	教 授	杉本 良男
	比較社会研究演習Ⅱ	2	文化人類学の研究動向と研究課題	教 授	岸上 伸啓
	比較社会研究演習Ⅲ	2	社会と経済に関する人類学的アプローチ	准教授	鈴木 紀
比較宗教研究	比較宗教研究	2	呪術と科学の文化人類学	准教授	白川 千尋
	比較宗教研究特論	2	日本宗教と日系宗教の研究	教 授	中牧 弘允
	比較宗教研究演習Ⅰ	2	アメリカ合衆国におけるリフォーム運動とライフスタイル	教 授	鈴木 七美
	比較宗教研究演習Ⅱ	2			
比較技術研究	比較技術研究Ⅰ	2			
	比較技術研究Ⅱ	2	インカ帝国研究の動向	教 授	關 雄二
	比較技術研究特論	2	「みんぱく」のコレクションと検索システムを活用した民族技術の比較研究	教 授	近藤 雅樹
	比較技術研究演習Ⅰ	2	アジアと太平洋地域における民族植物学と技術	准教授	Matthews, Peter J.
	比較技術研究演習Ⅱ	2	手織機の型式と機織り技術	教 授	吉本 忍
比較言語研究	比較言語研究	2	フィールド言語学の基礎	准教授	菊澤 律子
	比較言語研究特論	2	言語類型論	教 授	長野 泰彦
	比較言語研究演習Ⅰ	2	少数言語のとらえ方	教 授	庄司 博史
	比較言語研究演習Ⅱ	2	オーストロネシア比較言語学	准教授	菊澤 律子
比較芸術研究	比較芸術研究Ⅰ	2	無形文化遺産の映像記録	准教授	福岡 正太
	比較芸術研究Ⅱ	2	日常的・実践的な身体技法としての芸能伝承論	准教授	笹原 亮二
	比較芸術研究特論	2			
	比較芸術研究演習Ⅰ	2	北米・ハワイのアジア系音楽	教 授	寺田 吉孝
	比較芸術研究演習Ⅱ	2			

Department of Comparative Studies

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Social/Cultural Anthropology	Lecture I (Social/Cultural Anthropology)	2	The Anthropology of Communities	Assoc.Prof.	HIRAI Kyonosuke
	Lecture II (Social/Cultural Anthropology)	2	Chinese Social Anthropology: Perspectives from Europe, America, Japan and China	Assoc.Prof.	HAN Min
	Proseminar I (Social/Cultural Anthropology)	2	The Culture, Law and Dynamics of Nonprofit Organization Governance	Prof.	DEGUCHI Masayuki
	Proseminar II (Social/Cultural Anthropology)	2	Anthropological Approaches to Culture and Society	Prof.	KISHIGAMI Nobuhiro
	Seminar I (Social/Cultural Anthropology)	2	Religion and Nationalism	Prof.	SUGIMOTO Yoshio
	Seminar II (Social/Cultural Anthropology)	2	Research Trends and Topics in Cultural Anthropology	Prof.	KISHIGAMI Nobuhiro
	Seminar III (Social/Cultural Anthropology)	2	Anthropological approaches to society and economy.	Assoc.Prof.	SUZUKI Motoi
Anthropology of Religion	Lecture (Anthropology of Religion)	2	The Cultural Anthropology of Magical and Scientific Knowledge	Assoc.Prof.	SHIRAKAWA Chihiro
	Proseminar (Anthropology of Religion)	2	Japanese Religions at Home and Abroad	Prof.	NAKAMAKI Hirochika
	Seminar I (Anthropology of Religion)	2	Lifestyle and Reform Movements in American Culture	Prof.	SUZUKI Nanami
	Seminar II (Anthropology of Religion)	2			
Anthropology of Technology	Lecture I (Anthropology of Technology)	2			
	Lecture II (Anthropology of Technology)	2	Research Trends in the Study of the Inca Empire	Prof.	SEKI Yuji
	Proseminar (Anthropology of Technology)	2	Comparison of Folk Technologies Using the Minpaku Collection and Search System	Prof.	KONDO Masaki
	Seminar I (Anthropology of Technology)	2	Ethnobotany and Technology in Asia and the Pacific	Assoc.Prof.	MATTHEWS, Peter J.
	Seminar II (Anthropology of Technology)	2	A Typology of Handloom and Weaving Techniques	Prof.	YOSHIMOTO Shinobu
Linguistic	Lecture (Linguistic)	2	Introduction to Field Linguistics	Assoc.Prof.	KIKUSAWA Ritsuko
	Proseminar (Linguistic)	2	Linguistic Typology	Prof.	NAGANO Yasuhiko
	Seminar I (Linguistic)	2	Anthropological Approaches to Minority Languages	Prof.	SHOJI Hiroshi
	Seminar II (Linguistic)	2	Comparative Austronesian Linguistics	Assoc.Prof.	KIKUSAWA Ritsuko
Anthropology of Art	Lecture I (Anthropology of Art)	2	Visual Documentation of Intangible Cultural Heritage	Assoc.Prof.	FUKUOKA Shota
	Lecture II (Anthropology of Art)	2	Performing Arts as Practical and Physical Technique in Daily Life	Assoc.Prof.	SASAHARA Ryoji
	Proseminar (Anthropology of Art)	2			
	Seminar I (Anthropology of Art)	2	Asian Music in North America and Hawai'i	Prof.	TERADA Yoshitaka
	Seminar II (Anthropology of Art)	2			

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
文化資源研究	文化資源研究	2	博物館における資料管理	教 授	園田 直子
	文化資源研究特論	2			
	文化資源研究演習Ⅰ	2	文化資源の情報モデル論、情報処理論、アーカイブズ論、知的財産権の議論、メディア・リテラシー論、などの講述と議論	教 授	久保 正敏
	文化資源研究演習Ⅱ	2	博物館情報学	准教授	山本 泰則
	博物館研究	2	博物館の歴史と政治性	准教授	川口 幸也
	博物館研究特論	2	博物館人類学	教 授	吉田 憲司
	博物館研究演習Ⅰ	2	文化人類学・民族学博物館における展示と活用	教 授	小林 繁樹
	博物館研究演習Ⅱ	2			
基礎科目	比較文化学基礎演習Ⅰ	2	比較文化研究に関する基礎演習	准教授	鈴木 紀
	比較文化学基礎演習Ⅱ	2	比較文化研究に関する基礎演習	准教授	川口 幸也
	比較文化学演習Ⅰ	2	博士論文作成のための演習	准教授	韓 敏
	比較文化学演習Ⅱ	2	博士論文作成のための演習	教 授	中牧 弘充
共通科目	比較文化学特論Ⅰ	2	アメリカ考古学における遺物分析方法の研究	教 授	關 雄二
	比較文化学特論Ⅱ	2	博物館人類学の最前線 2010 - 表象の詩学と政治学	教 授	吉田 憲司

※網掛けは必修科目

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Cultural Resources and Anthropology	Lecture (Cultural Resource Studies)	2	Management and Preservation of Museum Collections	Prof.	SONODA Naoko
	Proseminar (Cultural Resource Studies)	2			
	Seminar I (Cultural Resource Studies)	2	Information Models, Information Processing, Archiving, Intellectual Properties and Media Literacy relating to Cultural Resources.	Prof.	KUBO Masatoshi
	Seminar II (Cultural Resource Studies)	2	Museum Informatics	Assoc.Prof.	YAMAMOTO Yasunori
	Lecture (Museum Anthropology)	2	The History and Political Aspects of Museums	Assoc.Prof.	KAWAGUCHI Yukiya
	Proseminar (Museum Anthropology)	2	Advanced Studies in the Field of Museum Anthropology	Prof.	YOSHIDA Kenji
	Seminar I (Museum Anthropology)	2	Exhibition Planning and Resource Utilization at a Museum of Cultural Anthropology	Prof.	KOBAYASHI Shigeaki
	Seminar II (Museum Anthropology)	2			
Basic Seminar	Basic Seminar I (Comparative Studies)	2	Comparative Studies of Society and Culture	Assoc.Prof.	SUZUKI Matoi
	Basic Seminar II (Comparative Studies)	2	Comparative Studies of Society and Culture	Assoc.Prof.	KAWAGUCHI Yukiya
	Seminar I (Comparative Studies)	2	Seminar for Thesis Writing	Assoc.Prof.	HAN Min
	Seminar II (Comparative Studies)	2	Seminar for Thesis Writing	Prof.	NAKAMAKI Hirochika
Shared Lecture	Lecture I (Comparative Studies)	2	Studies of method to analyze archaeological remains in the American Archaeology	Prof.	SEKI Yuji
	Lecture II (Comparative Studies)	2	The Front-line of Museum Anthropology, 2010 : The po etics and politics of representation	Prof.	YOSHIDA Kenji

国際日本研究専攻授業概要

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員
国際 日本 研究	日本研究基礎論A	2	日本研究のさまざまな分野における最新のテーマおよび理論・方法を講義する。	全教員
	日本研究基礎論B	2	日本研究のさまざまな分野における最新のテーマおよび理論・方法を講義する。	全教員
	学際研究論ⅠA	1	学際的な論文作成の促進と学術的な口頭発表および質疑応答の演習を行う。	全教員
	学際研究論ⅠB	1	学際的な論文作成の促進と学術的な口頭発表および質疑応答の演習を行う。	全教員
	学際研究論ⅡA	1	学際的な論文作成の促進と学術的な口頭発表および質疑応答の演習を行う。	全教員
	学際研究論ⅡB	1	学際的な論文作成の促進と学術的な口頭発表および質疑応答の演習を行う。	全教員
	論文作成指導ⅠA	1	論文作成のために必要な講義・演習・実習を個別にプログラムし、関係教員の協力を得て実施する。	主任指導教員・副指導教員及び関係教員
	論文作成指導ⅠB	1	論文作成のために必要な講義・演習・実習を個別にプログラムし、関係教員の協力を得て実施する。	主任指導教員・副指導教員及び関係教員
	論文作成指導ⅡA	1	論文作成のために必要な講義・演習・実習を個別にプログラムし、関係教員の協力を得て実施する。	主任指導教員・副指導教員及び関係教員
	論文作成指導ⅡB	1	論文作成のために必要な講義・演習・実習を個別にプログラムし、関係教員の協力を得て実施する。	主任指導教員・副指導教員及び関係教員
	シンポジウム等運営実習A	1	国際日本文化研究センターが実施するシンポジウム・セミナー・共同研究会・講演会等の運営に参加し、その運営方法および実施などを実習する。	関係教員
	シンポジウム等運営実習B	1	国際日本文化研究センターが実施するシンポジウム・セミナー・共同研究会・講演会等の運営に参加し、その運営方法および実施などを実習する。	関係教員

※網掛けは必修科目

Department of Japanese Studies

Field	Subject	Unit	Content of subject	
Japanese Studies	Introduction to Japanese Studies A	2	Lectures on current research topics, theories, and methods of various disciplines in Japanese Studies	The entire Department faculty
	Introduction to Japanese Studies B	2	Lectures on current research topics, theories, and methods of various disciplines in Japanese Studies	The entire Department faculty
	Approaches to Interdisciplinary Studies I A	1	Seminar: encouragement of interdisciplinary approaches in dissertation writing and practice in delivery of scholarly oral presentations and response to questions	The entire Department faculty
	Approaches to Interdisciplinary Studies I B	1	Seminar: encouragement of interdisciplinary approaches in dissertation writing and practice in delivery of scholarly oral presentations and response to questions	The entire Department faculty
	Approaches to Interdisciplinary Studies II A	1	Seminar: encouragement of interdisciplinary approaches in dissertation writing and practice in delivery of scholarly oral presentations and response to questions	The entire Department faculty
	Approaches to Interdisciplinary Studies II B	1	Seminar: encouragement of interdisciplinary approaches in dissertation writing and practice in delivery of scholarly oral presentations and response to questions	The entire Department faculty
	Supervision for Dissertation Writing I A	1	Program of lectures, seminars, and research exercises individualized to meet the needs of the dissertation writer, offered by faculty members in relevant fields of study	Supervisor and related Department faculty members
	Supervision for Dissertation Writing I B	1	Program of lectures, seminars, and research exercises individualized to meet the needs of the dissertation writer, offered by faculty members in relevant fields of study	Supervisor and related Department faculty members
	Supervision for Dissertation Writing II A	1	Program of lectures, seminars, and research exercises individualized to meet the needs of the dissertation writer, offered by faculty members in relevant fields of study	Supervisor and related Department faculty members
	Supervision for Dissertation Writing II B	1	Program of lectures, seminars, and research exercises individualized to meet the needs of the dissertation writer, offered by faculty members in relevant fields of study	Supervisor and related Department faculty members
	Practical Training for Symposium Management A	1	Practicum: Students will take part in the management of symposia, seminars, team research projects, and lectures planned and implemented by International Research Center for Japanese Studies of this department, and will gain practical experience in methods of administration and implementation of such events	Supervisor and related Department faculty members
	Practical Training for Symposium Management B	1	Practicum: Students will take part in the management of symposia, seminars, team research projects, and lectures planned and implemented by International Research Center for Japanese Studies of this department, and will gain practical experience in methods of administration and implementation of such events	Supervisor and related Department faculty members

日本歴史研究専攻授業概要

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
歴史資料研究	文書史料研究 A	2	古代・中世文書の史料分析法と多国間比較の研究	准教授	高橋 一樹
	文書史料研究 B	2	近世都市史料の解読と分析	准教授	岩淵 令治
	記録・典籍史料研究 A	2	未定	准教授	小倉 慈司
	記録・典籍史料研究 B	2	文献史料に関する資料批判学の方法と内容についての研究	教 授	井原今朝男
	近現代資料研究 A	2	近現代資料の収集・整理・活用法の研究	准教授	樋口 雄彦
	近現代資料研究 B	2	大衆文化の資料学	教 授	安田 常雄
	金石文・出土文字資料研究	2	古代金石文・出土文字資料の特質と活用法の研究	教 授	仁藤 敦史
	考古資料研究 A	2	縄文・弥生時代の動物遺体の研究	教 授	西本 豊弘
	考古資料研究 B	2	中世宗教関連資料の考古学的研究	准教授	村木 二郎
	考古資料研究 C	2	未定		未定
	民俗誌研究 A	2	民俗文化における文字及び文書の意義に関する研究	准教授	小池 淳一
	民俗誌研究 B	2	近現代の社会規範形成	准教授	青木 隆浩
	民俗誌研究 C	2	民俗調査と記述の方法についての研究	准教授	松尾 恒一
資料論・展示研究	物質文化資料論 A	2	遺跡遺物論	教 授	広瀬 和雄
	物質文化資料論 B	2	「もの」の移動と伝達に関わる研究	准教授	日高 薫
	物質文化資料論 C	2	表象をめぐる物質文化研究	准教授	山田 慎也
	物質文化資料論 D	2	建築史料論	教 授	玉井 哲雄
	民俗文化資料論 A	2	未定		未定
	民俗文化資料論 B	2	俗信の研究	教 授	常光 徹
	民俗文化資料論 C	2	民俗の伝承実態に関する資料論的研究	准教授	関沢まゆみ
	映像資料論	2	映像制作の諸過程－制作準備・撮影・編集・発表－	准教授	内田 順子
	画像資料論	2	地図資料の空間と歴史	教 授	青山 宏夫
	美術工芸資料論	2	美術史的視点にもとづく画像資料の活用法の研究	教 授	大久保純一
	歴史展示研究 A	2	博物館における歴史叙述の方法に関する研究	教 授	久留島 浩
	歴史展示研究 B	2	歴史展示の特質および教育と評価の研究	教 授	小島 道裕
分析・情報科学	分析調査論 A	2	歴史資料の非破壊調査法の研究	准教授	永嶋 正春
	分析調査論 B	2	自然科学的な手法による歴史資料の研究	教 授	齋藤 努
	分析調査論 C	2	古墳時代における新来技術の研究	教 授	杉山 晋作
				准教授	上野 祥史
	年代資料学	2	年代歴史学研究	教 授	藤尾慎一郎
				准教授	坂本 稔
	資料保存科学	2	保存科学のための材質調査の研究	教 授	齋藤 努
	歴史情報科学 A	2	歴史資料情報の集成とデジタル資料論の研究	教 授	安達 文夫
歴史情報科学 B	2	エスノアーケオロジーにおける実践的データ収集の研究	准教授	西谷 大	

Department of Japanese History

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Studies of Historical Materials	Historical Archives A	2	Analytical Methods and Multinational Comparative Research on Ancient and Medieval Archival Materials	Assoc.Prof.	TAKAHASHI Kazuki
	Historical Archives B	2	Decipherment and Analysis of Materials on Early Modern Cities	Assoc.Prof.	IWABUCHI Reiji
	Books and Records A	2	undecided	Assoc.Prof.	OGURA Shigeji
	Books and Records B	2	Critical Methods and Contents for Research in Archival Materials	Prof.	IHARA Kesao
	Modern and Contemporary Resource Materials A	2	Collection, Arrangement, and Use of Modern and Contemporary Resource Materials	Assoc.Prof.	HIGUCHI Takehiko
	Modern and Contemporary Resource Materials B	2	Study of Resource Materials for Popular Culture	Prof.	YASUDA Tsuneo
	Inscriptions and Written Texts from Archaeological Sites	2	Characteristics and Use of Inscriptions and Written Texts from Archaeological Sites	Prof.	NITO Atsushi
	Archaeological Materials A	2	The Study of Faunal Remains in the Jomon and Yayoi Periods	Prof.	NISHIMOTO Toyohiro
	Archaeological Materials B	2	Archaeological Study of Belief in the Middle Ages	Assoc.Prof.	MURAKI Jiro
	Archaeological Materials C	2	undecided		undecided
	Folklore A	2	Significance of Texts and Documents in Folk Cultures	Assoc.Prof.	KOIKE Jun'ichi
	Folklore B	2	The Formation Process of the Moral Precepts in Modern Times	Assoc.Prof.	AOKI Takahiro
	Folklore C	2	Methods of Folkloric Survey and Writing	Assoc.Prof.	MATSUO Ko'ichi
Studies of Source Materials and Research on Exhibits	Source Materials: Material Culture A	2	Archaeological Sites and Remains	Prof.	HIROSE Kazuo
	Source Materials: Material Culture B	2	Studies on Movement or Transfer of Objects	Assoc.Prof.	HIDAKA Kaori
	Source Materials: Material Culture C	2	Study of representations in material culture	Assoc.Prof.	YAMADA Shinya
	Source Materials: Material Culture D	2	Historical Architectural Records	Prof.	TAMAI Tetsuo
	Source Materials: Folk Culture A	2	undecided		undecided
	Source Materials: Folk Culture B	2	Study of "Folk Belief"	Prof.	TSUNEMITSU Toru
	Source Materials: Folk Culture C	2	Oral Tradition in Folklore Studies	Assoc.Prof.	SEKIZAWA Mayumi
	Source Materials: Film	2	Stages of Filmmaking — Preproduction, Production, Postproduction, Distribution —	Assoc.Prof.	UCHIDA Junko
	Source Materials: Visual Images	2	Space and History of Map Materials	Prof.	AOYAMA Hiro'o
	Source Materials: Arts and Crafts	2	Use of Visual Materials from an Art Historical Perspective	Prof.	OKUBO Jun'ichi
	Research on Exhibits of History A	2	Methods of Historical Narrative in Museums	Prof.	KURUSHIMA Hiroshi
	Research on Exhibits of History B	2	Characteristics, Education, and Evaluation of History Exhibits	Prof.	KOJIMA Michihiro
Analytical and Information Sciences	Analytical Research Methods A	2	Non-destructive Research Methods for Studying Historical Materials	Assoc.Prof.	NAGASHIMA Masaharu
	Analytical Research Methods B	2	Study of Historical Materials through Natural Scientific Methods	Prof.	SAITO Tsutomu
	Analytical Research Methods C	2	Newly Introduced Technologies in the Kofun Period	Prof.	SUGIYAMA Shinsaku
				Assoc.Prof.	UENO Yoshifumi
	Chronological Study of Materials	2	Chronological Methods in Historical Research—Fundamentals and Applications	Prof.	FUJIO Shin'ichiro
				Assoc.Prof.	SAKAMOTO Minoru
	Preservation Science of Resource Materials	2	Analysis of Materials for Preservation Science	Prof.	SAITO Tsutomu
	Historical Information Science A	2	Assembling and Digitizing Information on Historical Materials	Prof.	ADACHI Fumio
Historical Information Science B	2	Ethno-scientific Data Research of Ethno-archaeology	Assoc.Prof.	NISHITANI Masaru	

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
社会論	古代社会論 A	2	縄文・弥生社会論	教 授	西本 豊弘
	古代社会論 B	2	古墳時代政治構造の研究	教 授	広瀬 和雄
	古代社会論 C	2	未定	准教授	小倉 慈司
	中世社会論	2	中世社会と法制・訴訟制度の研究	准教授	高橋 一樹
	近世社会論	2	近世都市社会の研究	准教授	岩淵 令治
	近現代社会論	2	近代社会の特色とその変遷の研究	准教授	樋口 雄彦
	村落社会論	2	現在の視点から近世の「村の自画像」を読み直す研究	教 授	久留島 浩
	都市社会論 A	2	古代都市の特色とその変遷についての研究	教 授	仁藤 敦史
	都市社会論 B	2	中世後期～近世初期における都市の研究	教 授	小島 道裕
技術史・環境史	古代技術史 A	2	縄文・弥生時代の技術史研究	教 授	藤尾 慎一郎
	古代技術史 B	2	古墳時代における伝統的技術の革新と展開に関する研究	教 授	杉山 晋作
				准教授	上野 祥史
	古代技術史 C	2	奈良・平安時代の金属器生産技術史研究	准教授	村木 二郎
	中世技術史	2	未定		未定
	近世技術史 A	2	近世絵画の技術の特色とその歴史的展開の研究	教 授	大久保 純一
	近世技術史 B	2	近世東アジアにおける日本の建築技術	教 授	玉井 哲雄
	工芸技術史	2	漆工・木工・金工・絵画彩色等の材料及び技法の研究	准教授	永嶋 正春
				准教授	日高 薫
	歴史環境論	2	景観の構成と変容に関する研究	教 授	青山 宏夫
	生態環境史	2	東アジア史的視点による環境利用と生業に関する研究	准教授	西谷 大
	民俗環境論 A	2	伝統産業の技術史	准教授	青木 隆浩
民俗環境論 B	2	聴取と環境認識の変容	准教授	内田 順子	
地域文化論	村落伝承論 A	2	日本の村落の地域的特色に関する研究	准教授	関沢 まゆみ
	村落伝承論 B	2	歳時記の研究	准教授	小池 淳一
	都市伝承論	2	しぐさの研究	教 授	常光 徹
	社会伝承論	2	家および家族の研究	准教授	山田 慎也
	信仰伝承論 A	2	未定		未定
	信仰伝承論 B	2	神霊と交流する身体・行為・ことばの研究	准教授	松尾 恒一
	社会意識論 A	2	慣習法・社会規範・社会教養観に関する研究	教 授	井原 今朝男
	社会意識論 B	2	戦後日本の社会意識	教 授	安田 常雄
	基礎演習 I	1	院生による研究発表	全教員	
	基礎演習 II	1	院生による研究発表	全教員	
	集中講義A	1	資料調査法－ 2010 年度		
	集中講義B	1	地域研究の方法－ 2010 年度		
	集中講義C	1	博物館とは何だろう－ 2010 年度		

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Social History	Social History of Ancient Japan A	2	The Study of Jomon and Yayoi Societies	Prof.	NISHIMOTO Toyohiro
	Social History of Ancient Japan B	2	Political Structure in the Kofun Period	Prof.	HIROSE Kazuo
	Social History of Ancient Japan C	2	undecided	Assoc.Prof.	OGURA Shigeji
	Social History of Medieval Japan	2	Judicial Institutions and Records in Medieval Japan	Assoc.Prof.	TAKAHASHI Kazuki
	Social History of Early Modern Japan	2	The society of the early modern city "Edo"	Assoc.Prof.	IWABUCHI Reiji
	Modern and Contemporary Social History	2	Characteristics and Transformation of Contemporary Society	Assoc.Prof.	HIGUCHI Takehiko
	Rural Social History	2	Re-reading the "Self-portraits of Villages" in Early Modern Japan from Today's Perspective	Prof.	KURUSHIMA Hiroshi
	Urban Social History A	2	Characteristics and Transformation of Cities in Ancient Japan	Prof.	NITO Atsushi
	Urban Social History B	2	City in Late Medieval and Early Modern Japan	Prof.	KOJIMA Michihiro
Technological and Environmental History	History of Technology in Ancient Japan A	2	History of Technology in the Jomon and Yayoi Periods	Prof.	FUJIO Shin'ichiro
	History of Technology in Ancient Japan B	2	Innovation and Development of Traditional Technology in the Kofun Period	Prof.	SUGIYAMA Shinsaku
				Assoc.Prof.	UENO Yoshifumi
	History of Technology in Ancient Japan C	2	Technique of Metalwork in Ancient Japan	Assoc.Prof.	MURAKI Jiro
	History of Technology in Medieval Japan	2	undecided		undecided
	History of Technology in Early Modern Japan A	2	Study of Technologies and Techniques of Paintings in the Edo Period	Prof.	OKUBO Jun'ichi
	History of Technology in Early Modern Japan B	2	Japanese Architectural Techniques in Early Modern East Asia	Prof.	TAMAI Tetsuo
	History of Arts and Crafts	2	Materials and Techniques: Lacquerwork, Carpentry, Metalwork, Painting, and Prints	Assoc.Prof.	NAGASHIMA Masaharu
				Assoc.Prof.	HIDAKA Kaori
	Environmental History	2	Formation and Transformation of the Landscape	Prof.	AOYAMA Hiro'o
	Ecological Environmental History	2	Relation of Environmental Recourses and Subsistence in Eastern-Asian History	Assoc.Prof.	NISHITANI Masaru
	Environmental Folklore A	2	The Technical History of Traditional Industries	Assoc.Prof.	AOKI Takahiro
Environmental Folklore B	2	Hearing and changing perception of environments	Assoc.Prof.	UCHIDA Junko	
Regional Cultures	Study of Transmission of Rural Practice A	2	Regional Variation in Rural Japan	Assoc.Prof.	SEKIZAWA Mayumi
	Study of Transmission of Rural Practice B	2	Study of <i>Sajiki</i> , Guides to the Cycle of Annual Events	Assoc.Prof.	KOIKE Jun'ichi
	Study of Transmission of Urban Practice	2	Study of Gestures	Prof.	TSUNEMITSU Toru
	Study of Transmission of Social Practice	2	Study of <i>ie</i> and family in Japan	Assoc.Prof.	YAMADA Shin'ya
	Study of Transmission of Religious Practice A	2	undecided		undecided
	Study of Transmission of Religious Practice B	2	Communication with Deities and Spirits: Body, Behavior, and Speech	Assoc.Prof.	MATSUO Ko'ichi
	Study of Social Consciousness A	2	Common Law, Social Codes, and Views of Social Education	Prof.	IHARA Kesao
	Study of Social Consciousness B	2	Social Consciousness in Post-war Japan	Prof.	YASUDA Tsuneo
	Basic Seminar I (for Freshmen)	1	Research Presentation by Students	All Faculty	
	Basic Seminar II (for Sophomores)	1	Research Presentation by Students	All Faculty	
	Intensive Lectures A	1	Material Research Methods in FY 2010		
	Intensive Lectures B	1	Methods of Regional Studies in FY 2010		
	Intensive Lectures C	1	What is Museum in FY 2010		

メディア社会文化専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
メディア文化	メディア文化論	2	文化とメディアの相互作用について、文化所作の創出と新メディア環境における女性や障害者等の社会参画の広がりや文化的変容といったテーマをどうして研究指導する。	教授	広瀬 洋子
	情報表現内容論	2	各種メディアに応じたデジタルコンテンツの特性・機能・意味・表現方法を、人文社会科学及び情報科学的視点から研究指導する。	教授	山田 恒夫
	コミュニケーション論	2	メディア社会における人と人との相互作用であるコミュニケーションの方法や技術について、理論的・実践的に研究指導する。	准教授	川淵 明美
	教材評価論	2	デジタル教育コンテンツの評価について、人文社会科学及び情報科学的視点から研究指導する。	准教授	芝崎 順司
	マルチメディア情報処理論	2	2次元画像処理を基本としたパターン認識に関する基礎理論と、3次元コンピューターグラフィックスの基礎技術および応用について研究指導を行う。	准教授	鈴木 一史
	情報表現基礎論	2	各種メディアそれによって伝達される情報の構造・特性・機能の相互関係を追究する方法論、その基本的モデル等について研究指導する。	准教授	柳沼 良知
メディア社会	遠隔教育国際比較論	2	高等教育におけるICT活用とその社会経済的な背景及び制度・政策との関連の視点から、中国を含む東アジアの国やアメリカなど先進国における事例の国際比較、及び国境を越えたプロバイダによるグローバルな市場化メカニズムやその構造・特性などについて研究指導する。	教授	苑 復傑
	ユーザ工学	2	機器やシステムを開発し、あるいはサービスを提供する際に、それを利用するユーザの視点にたつことは、システムやサービスの使い勝手を高め、ユーザに満足を与えることにつながる。システムやサービスの有効さや効率を高め、満足感を向上させるための考え方や方法論について研究指導する。	教授	黒須 正明
	情報制度論	2	著作権・知的財産権保護と情報セキュリティ・情報倫理との相関問題を通して、ユビキタスネットワーク社会における情報制度について関する研究指導する。	教授	児玉 晴男
	ネットワーク基盤論	2	ネットワークにより結ばれた高度情報社会における教育交流の方法、役割、課題に関して研究指導する	教授	近藤喜美夫
	メディア研究方法論	2	メディアがどのように使われ、どのように社会に影響を及ぼしているか、また、メディアを通してどのようなコンテンツが普及しているか、等、様々な視点から仮説を立てて、それを実証する方法論を研究指導する。	准教授	青木久美子
	ヒューマンインタフェース特論	2	ヒューマンコンピュータインタラクションに関する基本技術と応用事例を概説し、ヒューマンインタフェースの物理的側面及び認知的側面に関して研究指導する。	准教授	浅井紀久夫

Department of Cyber Society and Culture

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Media Culture	Media & Cultural Studies	2	This media culture course aims at gaining social, cultural, and historical insights into the interaction of culture and media. Moreover, this course focuses on how the development of media technology encourages social participation of people with disability and women, who used to exist far from the main stream of the society.	Prof.	Yoko Hirose
	Digital Learning Content Design	2	The course focuses on the analysis of structure and function of digital learning content and its design optimizing to various communication media.	Prof.	Tsuneo Yamada
	Communication Technology	2	Students will learn about the basic concept of the communication theory and the effective and efficient technique based on some communication models in the media society.	Assoc.Prof.	Akemi Kawafuchi
	Evaluation of Digital Learning Content	2	The meaning and roles are different who performs evaluation of digital learning contents in which process and the situation. Students will learn about some main theories of evaluation of digital learning	Assoc.Prof.	Junji Shibasaki
	Multimedia Information Processing	2	This course is designed for students who are interested in 2D image processing techniques and pattern recognition algorithms. The course provides an introduction to 3D computer graphics algorithms.	Assoc.Prof.	Motofumi Suzuki
	Introduction to Multimedia	2	In this lecture, structure, characteristics, and function of multimedia information is discussed.	Assoc.Prof.	Yoshitomo Yaginuma
Media Social	Distance Education Sociology	2	This course focuses on the use of ICT in higher education in relation with its socio-economical background and policies. From this perspective, the cases of developing countries such as China and industrialized countries including US are compared, while paying attention to providers acting beyond national borders.	Prof.	Fujie YUAN
	User Engineering	2	It is necessary to have an "eye" of the user for developing devices and systems and providing services. The user-centered design approach will improve the quality of use or the usability and will give the satisfaction to the user. In this course, logics and methods will be discussed for enhancing the effectiveness and the efficiency of the system and the service so that the degree of satisfaction on the side of the user will be increased.	Prof.	Masaaki Kurosu
	Information and Law	2	This course reviews the relationship between copyright/intellectual property and information security/ethics from the view point of its link with media environment. This course aims to examine the rational law systems in a ubiquitous network.	Prof.	Haruo Kodama
	Network System	2	In this course students will study distance education in different perspectives discussing methods, requirements and issues of educational collaboration in the networked society.	Prof.	Kimio Kondo
	Principles and Methods of Social Science Research	2	This course teaches students how to conduct empirical research, including the method to develop hypotheses and test them with empirical data. It especially focuses on the way to inquire how technologies are used and how technologies affect society.	Assoc.Prof.	Kumiko Aoki
	Human Interface	2	The basic concepts and applications on human computer interaction are surveyed, discussing the issues and prospects. The user interfaces and interaction techniques are studied from the physical and cognitive viewpoints.	Assoc.Prof.	Kikuo Asai

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
メディア認知行動	学習メディア環境デザイン論	2	さまざまな学習観と学習メディア環境のデザイン例を対比させることを通して、学習メディア環境のデザイン方法論を深め、併せてその評価方法について研究指導する。	教授	加藤 浩
	情報行動論	2	デジタル環境における情報探索行動、ブラウジング行動、情報回避行動等の情報行動のモデル化と理論生成、情報行動抽出手法について研究指導する。	教授	三輪真木子
	認知科学特論	2	人間が行う知的活動のメカニズムを認知科学的アプローチにより解明するための研究を指導する。	准教授	大西 仁
	メディア空間認知論	2	バーチャルリアリティ技術等によって作り出されたメディア空間を学習環境に応用した際の人間の認知特性を実証的に研究することを指導する。	准教授	近藤 智嗣
	心理評価論	2	各種メディアが人間の心理過程及び行動に及ぼす影響についての心理学的な評価に関して理論的・方法論的な研究指導する。	准教授	高橋 秀明
	生理評価論	2	メディア利用が人間に及ぼす影響を生理学的に評価する手法について、理論的・実践的な研究指導をする。	教授	仁科 エミ

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Media Cognitive Behavior	methodology for designing learning media environment	2	This course introduce major learning theories accompanied with the corresponding type of learning course, and then the methodology for designing learning environment and its evaluation are discussed.	Prof.	Hiroshi Kato
	Information Behavioral Research	2	This course will guide research design for modeling, theory building, and elicitation of information behavior including information seeking, browsing, and information rejection with special emphasis on exploratory approaches.	Prof.	Makiko Miwa
	Cognitive Science	2	Cognitive Science is the scientific study of intelligent systems including human beings, animals, and machines from the view point of information processing. In this class cognitive approach to intelligence and cognitive models are introduced.	Assoc.Prof.	Hitoshi Onishi
	Spatial Cognition in Media	2	The media space in 'Spatial Cognition in Media' is the space artificially made by media, such as virtual reality and mixed reality. In this lecture, empirical data collection methodology for analyzing users' action(s) in this media space is introduced.	Assoc.Prof.	Tomotsugu Kondo
	psychological evaluation	2	Lecture and discussion about theory and methodology of psychological evaluation concerning the effects of various kinds of media upon human cognitive process and behavior	Assoc.Prof.	Hideaki Takahashi
	Physiological evaluation	2	To evaluate various kinds of effect caused by audio-visual media information, it is useful to learn the latest physiological, psychological and behavioral method. Research ethics on physiological approach will be also explained.	Prof.	Emi Nishina

日本文学研究専攻授業概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
文学資源研究	書写文化論	2	写本を中心とする日本の書写文化について、書写という行為、その担い手と場、流布と享受の実態など、様々な側面から、書写文化における日本固有の特質を解明する。	教授	寺島 恒世
	出版文化論Ⅰ	2	江戸時代（近世）の後半期における出版文化の諸問題について取り上げる。江戸時代後半の出版史は、前半がレア・ブックスの書誌学的検討を基盤とするのに対して、制度中心に語られることが普通であったが、近年、それとは異なる様々な興味深い試みが現れてくるようになった。この授業では、新しい研究・提言を踏まえ、文学史との接点についても考慮しつつ、あるべき江戸時代出版史の姿を模索してみたい。	教授	大高 洋司
	出版文化論Ⅱ	2	長い伝統を持つ日本の出版文化について、著者、出版者、流通、読者の問題など、様々な側面から考察する。特に出版が古典の本文の流伝に与えた影響について、具体例に即して検討する。	准教授	落合 博志
	資源集積論Ⅰ	2	多様な文化資源の集積によって形成される拠点、たとえば各種文庫・学校・寺社・大家・素封家などの蔵書や記録資料群について、その実態の歴史的検証を通して、書物をめぐる文化的ネットワークの形成・消長ならびにその構造を解明し、今後の資源集積のあり方について考察する。	教授	高橋 実
	資源集積論Ⅱ	2	文化資源として集積された様々な蔵書や記録資料群を対象に、そのモノの科学的資料分析と技術、体系的な資源管理のあり方について考察する。具体的には、多様な原資料である文化資源の主たる組成である紙の繊維組成の分析を主に、複合材質や形態に関する測定と解析・蓄積、さらに物理的保存・修復の方法と技術について考究する。合わせて、記録紙に関する製造と流通の特質について論じる。	准教授	青木 睦
文学形成研究	作品形成論Ⅰ	2	具体的な作品本文に即して、その伝本を集成して比較検討し、それらの差異や特徴を把握することによって、本文の形成、系統、享受、混淆、流動等の具体相を解明し、その意義を検証する。	教授	伊藤 鉄也
	作品形成論Ⅱ	2	平安時代の物語、日記等の文芸作品の形成は、仮名文字の使用と密接な関係にある。授業では、仮名で書くことの意味を、仮名使用の初期的な形態を窺わせる伝本が残されている『土佐日記』と、その内容から仮名で書くことの文化的・社会的位相を読み取ることの出来る『蜻蛉日記』を中心に、「仮名と平安時代文学」について考える。	教授	今西 祐一郎
	作品形成論Ⅲ	2	江戸時代の絵本を取り上げ、古典のパロディ、雅と俗、ストーリーの絵画化、詩歌と絵、江戸のトポグラフィ、風俗と景観、デザインと実用などの問題を、テキストとイメージの関わり方から追及する。	教授	鈴木 淳

Department Of Japanese Literature

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Calligraphic Transcription	2	This course will identify the unique attributes of Japan's culture of calligraphic transcription, especially handcopying, from a variety of perspectives. Topics will include the act of handcopying, people involved in the act, places where it has been performed, and the circulation and reception of calligraphic texts.	Prof.	Tsuneyo Terashima
	Print Culture I	2	This course will consider various issues of print culture in the later Edo Period (premodern period). Traditionally, the study of the print culture of this period has focused on its institutional aspects, while research on the early Edo Period has mainly pursued the bibliographical study of rare books. Recently, interesting new approaches differing from these traditional studies have emerged. Paying attention to its connection with literary history, this course aims to clarify the reality of print culture in the Edo Period in light of new approaches and ideas.	Prof.	Yoji Otaka
	Print Culture II	2	This course will examine Japan's long-established print culture from various aspects, including authors, publishers, readers, and circulation. Using specific examples, the course will focus especially on the effect of printing on the dissemination of classic texts.	Assoc.Prof.	Hiroshi Ochiai
	Resource Accumulation I	2	Through the historical verification of research materials, including the collections of books and records, formed by the accumulation of a variety of cultural resources at libraries, schools, temples, shrines, daimyo houses, and wealthy families, this course will explore the formation, development, decline, and structure of cultural networks associated with printed materials. It will also consider the future of resource accumulation.	Prof.	Minoru Takahashi
	Resource Accumulation II	2	This course will explore scientific analysis and its techniques for various types of collections of books and records accumulated as cultural resources, as well as the systematic management of such materials. Specifically, the course will examine methods and techniques for measuring, analyzing, accumulating, and physically preserving/restoring composite materials and forms, mainly the analysis of the fiber composition of paper, a major material used for many original resources. In addition, the course will discuss the characteristics of the production and distribution of recording paper.	Assoc.Prof.	Mutsumi Aoki
	Formation of Literary Works I	2	Through the collection and comparison of variant texts of a single particular work, this course will seek to understand their differences and characteristics and thus consider the meanings of the formations of texts, textual lineages, and textual reception, as well as the intermixture and transformation of texts.	Prof.	Tetsuya Ito
	Formation of Literary Works II	2	The use of kana and the formation of literary works such as monogatari and diary in the Heian period are closely related to each other. This course will explore 'kana and Heian Period Literature' to clarify the significance of writing works in kana, especially focusing on the following literary works: remaining manuscripts of The Tosa Diary which is considered to be an initial work written in kana, and Kagerō Diary whose content identifies cultural and social development brought by kana literature.	Prof.	Yuichiro Imanishi
	Formation of Literary Works III	2	This course will examine illustrated books (ehon) from the Edo Period in terms of relationships between texts and images. It will deal with classical parodies, high and low, pictorialization of stories, poetry and illustrations, the topography of Edo, customs and scenery, and design and practical use.	Prof.	Jyun Suzuki

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
文学形成研究	作品享受論Ⅰ	2	文学作品は、和歌・散文を問わず、ある日突然に成立するものではない。前代の作品から何らかの思想や発想を受け継ぎ、場合によっては本文の一部をそのまま踏まえる形をとって表現に生かしたりしている。引歌、本歌取りなど、それがいわば成長した形のものだといえるであろう。本授業では、電子化テキストを利用しながら、個別の作品間の関係を情報処理の手法を使って調査し、研究する。どの作品を対象にどういう調べ方をするかは受講者の研究対象によって考えていくことにしたい。	教授	中村 康夫
	作品享受論Ⅱ	2	近代文学を近世から断絶したものと考えてるのではなく、連続し継続し関連する流動体として捉えることで、明治以降の文学におけるダイナミズムと諸問題の解明を目指す。前近代の文学が時には肥やしとなり、時にはくびきとなりながら、如何にして「新しい時代の文学」が模索され達成されたのか、享受と換骨奪胎と離反等の種々相を、具体的な作品に即しながら考究する。	准教授	青田 寿美
文学環境研究	文学思想論Ⅰ	2	批評・研究・理論・文学史など、文学という営為をめぐる言説や思想について、仏教、神道、儒学など、広く時代の文化全体を視野に入れて、中世以前における日本の文学思想の特質を論じる。	教授	山崎 誠
	文学思想論Ⅱ	2	中世の文学思想の在り方について、仏教・神道等の諸注釈書、室町物語・俳諧連歌・絵画資料等々を主要な素材とし、時代の文化史的背景をも視野に入れながら、その特質を考究する。	准教授	齋藤 真麻理
	文学芸術論Ⅰ	2	能楽の作品がどのような文芸環境の中で作られたかを、素材考証を中心に追究し、中世文芸史における位置づけを行い、近世文芸に展開する様相を考察する。	教授	小林 健二
	文学芸術論Ⅱ	2	上方絵本、草双紙、見立て絵本、洒落本、浮世絵などの絵画表現が含まれる作品の書誌学的位置づけ、翻刻や註釈、演劇的要素の解明など、その社会的・文学的意味を明らかにする。	教授	山下 則子
	文学芸術論Ⅲ	2	演劇は文学に接して在る、または文学を包摂して在る。この認識に立つて、近世演劇（歌舞伎・浄瑠璃）について考える。具体的には、初期歌舞伎の演技・演出を、文献・絵画・民俗の資料によって解明していきたい。授業は、受講者の博士論文テーマを視野に入れ、希望を聞きつつ進めていく。	教授	武井 協三
	文学社会論Ⅰ	2	明治に遂行された日清・日露という二つの対外戦争は日本の社会のあらゆる面に大きな変容をもたらした。外地における戦いのあり様を描くことで文学にどのような変容が生じたのか、作品の提示する時空間のあり方を中心に、具体的な作品に即しながら考察する。	教授	谷川 恵一
	文学社会論Ⅱ	2	身分・社会・制度・地域・政治・経済など、人間の生を規定する歴史的・社会的諸条件と日記・諸記録・文学作品との双方向的な関わりについて、その実態を明らかにする。	教授	大友 一雄

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Reception of Literary Works I	2	Literary works, such as waka poems and prose, did not appear out of nowhere. These works inherited ideas and concepts from previous generations of works or, in some cases, incorporated parts of previous works for expression. It can be said that <i>hikiuta</i> (poetic allusion) and <i>honkadori</i> (allusive variation) are mature techniques for quoting poems. This course will examine relationships between individual works using data processing and electronic text. Works to be studied and research methods will be determined based on students' research foci.	Prof.	Yasuo Nakamura
	Reception of Literary Works II	2	This course aims to clarify the dynamics and various issues of literature during and after the Meiji Period by considering that modern literature dynamically inherited from and was associated with premodern times. Using specific works, we will look at various phases of literature, including reception, transformation, and separation, to examine how the "literature of the new era" was explored and established under the influence of benefits and constraints provided by premodern literature.	Assoc.Prof.	Sumi Aota
	Literary Thought I	2	This course will discuss the characteristics of Japanese literary thought during and before the Medieval Period in terms of literature-related statements and ideas (such as criticism, study, theory, and literary history). We will broadly examine the culture of the age, including Buddhism, Shinto, and Confucianism.	Prof.	Makoto Yamazaki
	Literary Thought II	2	This course will explore the particular characteristics of literary thought during the Medieval Period. Remaining sensitive to the cultural climate of this period, the course will examine resources, including annotated texts (Buddhism, Shinto, and others), Muromachi tales, <i>haikai-renga</i> texts, and visual materials.	Assoc.Prof.	Maori Saito
	Art of Literature I	2	This course will investigate the literary contexts in which Noh plays were created, focusing on the examination of resources. By determining their position in medieval literary history, the course will explore how Noh plays developed into premodern literary art.	Prof.	Kenji Kobayashi
	Art of Literature II	2	This course will clarify the societal and literary meanings of literary works with pictorial presentations, such as <i>Kamigata ehon</i> (Kyoto picture books), <i>kusazoshi</i> (illustrated story books), <i>mitate ehon</i> , <i>sharebon</i> (books of wit and fashion), and <i>ukiyo-e</i> , by elucidating their bibliographic position, republication, annotation, and theatrical aspects.	Prof.	Noriko Yamashita
	Art of Literature III	2	This course will discuss premodern drama (<i>kabuki</i> and <i>yoruri</i>) under the assumption that drama exists in close proximity to or indeed encompasses literature. Specifically, we will tease out the acting and directing of early <i>kabuki</i> through documents, pictures, and folk materials. The course will be arranged taking into account students' PhD themes.	Prof.	Kyozo Takei
	Literature and Society I	2	Two foreign wars during the Meiji Period, the Sino-Japanese War and the Russo-Japanese War, significantly changed Japanese society in many areas. This course will examine how the depiction of the reality of battles in foreign lands affected Japanese literature by referencing concrete examples and emphasizing the nature of time and space presented by such works.	Prof.	Keiichi Tanikawa
	Literature and Society II	2	This course will clarify the mutual relationship between historical/social conditions that define human life (such as status, society, institutions, regions, politics, and economics) and diaries, records, and literary works.	Prof.	Kazuo Otomo

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
共通科目	文学情報論Ⅰ	2	日本文学研究において活用が進むコンピュータ、ネットワーク、統計解析などの情報処理の基本技術に加えて、情報検索やテキストマイニングなどの Web サービス技術について紹介する。	教授	古瀬 蔵
	文学情報論Ⅱ	2	文学作品・新聞雑誌・辞書・絵巻物など、多種多様な文学資源の適切な情報化の方法、およびそれらを活用した研究の展開について考察し、高度情報化社会における情報学をベースとした文化科学の可能性を探る。	准教授	野本 忠司
	文学研究基礎論Ⅰ	2	学位取得者に対する近年の要望は、専門性の卓越は勿論のことながら、広い視野による豊かな総合性にも大きく向けられている。その観点から、多数の研究者によって構成される授業を設け、学力およびその基礎となる総合力の向上を支援する。	関係教員	
	文学研究基礎論Ⅱ	2		関係教員	
	書物情報論Ⅰ	2	書物の流布および伝承の過程においての、テキストの変動を主とするさまざまな変化について、実際の書物に即して考察し、さらにこれらの問題を探る際における基本的な方法について論じる。	准教授	陳 捷
	書物情報論Ⅱ	2	書物の形態・構造・内容をどのように読み取り、記録・表現し、いかにして検索を意識したデータとして蓄積していくかを、具体的な事例の提示と分析を交えながら考察する。扱う典籍は、類書・辞書・注釈書などの古典的類聚編纂物群の中で、文化の継承・普及の営みの中で重要な役割を果たしたものを主に採りあげ、上古から近代にかけての国書および、日本で幅広く享受された漢籍について、その意義や諸本にふれつつ読み解いて行く。	助教	相田 満
	記録情報論Ⅰ	2	情報伝達の問題を歴史的に考える素材として、日本近世都市における法令・規則の伝達方法＝情報様式について考える。その場合、近年の情報論のメディア論の方法を参考に。具体的には、江戸における高札と町触を取りあげて、その情報様式の系統と展開を探る。	教授	渡辺 浩一
	記録情報論Ⅱ	2	人間の諸活動についての情報を記録化し、後世に史料として遺した伝来過程と記録情報の本質を、その時代背景の中で考察しながら、アーカイブズ資源研究（文学アーカイブズ論、歴史情報資源論等）、アーカイブズ管理研究（評価選別論、目録編成記述論等）を課題とする。	准教授	山田 哲好

※斜字は選択必修科目

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Literature as Information I	2	This course will introduce basic Information Processing technologies of computers, networks, and statistical analysis, which are increasingly used for Japanese literature study. It will also cover Web service technologies such as information retrieval and text mining.	Prof.	Osamu Furuse
	Literature as Information II	2	This course will explore the potentialities of cultural science based on information studies in the context of an advanced information society by considering appropriate methods of informatizing various literary resources, including literary works, newspapers, magazines, dictionaries, and picture scrolls, and by examining the development of research activities through the use of such information.	Assoc.Prof.	Tadashi Nomoto
	<i>Introduction to Literary Studies I</i>	2	Upon the current request, this course conducted by several researchers provides doctoral program students the opportunity to enhance their scholastic and comprehensive analytic abilities.	Related department faculty members	
	<i>Introduction to Literary Studies II</i>	2		Related department faculty members	
	Printed Materials as Information I	2	This course will examine various changes made to printed materials in the course of circulation and handing down, especially alterations to text, by using concrete examples. The course will also discuss basic approaches to exploring these issues.	Assoc.Prof.	Jie Chen
	Printed Materials as Information II	2	Through the presentation and analysis of concrete cases, this course will explore how to interpret, record, and portray the form, structure, and contents of printed materials and how to accumulate such data in a retrieval-oriented format. It will deal mainly with a group of classic historiographic works, including encyclopedias, dictionaries, and annotated texts, that played an important role in the inheritance and spread of culture. The course will also explore the significance of Japanese works from ancient to modern times, as well as Chinese classics widely received in Japan.	Assist. Prof.	Mitsuru Aida
	Documents as Information I	2	To examine communication-related issues historically, this course will discuss the methods of communication of laws and regulations (= communication patterns) in Japanese cities in premodern times. For this purpose, the course will be conducted with reference to the methodology of research on media in recent information studies. Specifically, it will focus on bulletin boards and edicts in Edo to explore the system and development of such communication patterns.	Prof.	Koichi Watanabe
	Documents as Information II	2	This course will examine the process of recording information about human activities and handing it down to posterity in the form of materials, as well as the nature of recorded information, against the historical background. At the same time, the course will address archival resource studies (literary archives and historical information resources) and studies of archives administration (appraisal and cataloging/description).	Assoc.Prof.	Tetsuyoshi Yamada

3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要
(Outlines of Courses Provided by Each School/Department)

3-9-2. 物理科学研究科 (School of Physical Sciences)

構造分子科学専攻 (Dept. Structural Molecular Science)	92
機能分子科学専攻 (Dept. Functional Molecular Science) 授業科目概要.....	94
天文科学専攻 (Dept. Astronomical Science) 授業科目概要.....	96
核融合科学専攻 (Dept. Fusion Science) 授業科目概要.....	104
宇宙科学専攻 (Dept. Space and Astronautical Science) 授業科目概要.....	110
研究科共通専門基礎科目 (School of Physical Sciences) 授業科目概要.....	116
コース別特別科目 (School of Physical Sciences) 授業科目概要	118

構造分子科学専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業概要	担当教員	
構造分子基礎理論	構造分子基礎理論	2	量子力学の基本方程式にもどって、分子の構造と反応を電子レベルから統一的に理解する。また、分子および分子集合体の構造と動力学について分子動力学法などのシミュレーション手法に基づいた解析法などを講述する。	教授	永瀬 茂
				教授	江原 正博
				准教授	信定 克幸
				准教授	奥村 久士
分子分光光学	分子分光光学	2	広い意味での分子・分子集団の構造と動的過程を明らかにする実験的手法であるレーザー分光法、各種非線形・時間分解分光法、顕微分光法について概説し、これを原子・分子・分子集合体や、タンパク質などの生体分子の機能解明および制御に適用した例を紹介する。	教授	岡本 裕巳
				教授	大島 康裕
				准教授	古谷 祐詞
基礎電子化学	基礎電子化学	2	原子や分子の集合体の示す構造と機能の発現の関係を、電子構造論の立場から論ずる。また、ナノクラスターやナノ粒子の生成法・構造評価法を概説し、ナノ物質の機能と構造の相関について実例に基づいて講述する。更に、物質およびエネルギー変換機能を付与したナノサイズの分子や金属化合物の設計・合成・評価法についても講述する。	教授	西 信之
				准教授	永田 央
				准教授	唯 美津木
極端紫外光分光光学	極端紫外光分光光学	2	放射光を用い、表面のエッチング反応とバイオセンサー素子作成、分子・クラスター・フラーレンの電子構造・光学的性質・励起状態ダイナミクス of 解明、光電子分光や赤外分光による固体の伝導機構の解明法について講述する。	教授	宇理須恆雄
				准教授	見附孝一郎
				准教授	木村 真一
物性化学	物性化学	2	機能をもつ分子性固体あるいは薄膜の構造と電子物性を、赤外・ラマン分光法、反射分光法、X線回折法、あるいは、シンクロトロン放射光やレーザーを用いた分光学的手法に基づいて解析する方法を講述する。	教授	薬師 久彌
				教授	横山 利彦
相関分子科学	相関分子科学	2	有機化学、高分子化学、生物化学、固体物理学など広範囲にわたる分子科学の基本概念、実験手法について概説し、多分野をまたがる分子設計、構造解析、物性測定、機能発現などを中心に実例に基づいて講述する。	教授	青野 重利
				准教授	鈴木 敏泰
				准教授	江 東林
錯体物性化学	錯体物性化学	2	金属と配位子の酸化還元特性を組み合わせることにより生み出される、金属錯体の特異な機能発現について講義する。例えば、配位子により酸化還元電位を制御することでオキソ配位子上にラジカルを誘起し、有機化合物の酸化反応が起こる経路などを紹介する。	教授	田中 晃二
共通	構造分子科学演習 I a・I b	2	構造分子科学の基礎・応用研究における各大学院生の固有の課題遂行のための研究討論、実験演習、理論演習など。各大学院生の教育研究指導分野に応じて担当教員が中心となって実施する。	全教授 全准教授	
	構造分子科学演習 II～V	4		全教授 全准教授	
	構造分子科学考究 I a・I b	2	構造分子科学領域における基礎～実践的な知識、考察力、展開力さらには独創的発想力を培うための少人数によるセミナー。各大学院生の教育研究指導分野に応じて担当教員が中心となって実施する。	全教授 全准教授	
	構造分子科学考究 II～V	4		全教授 全准教授	
	分子科学セミナー	1	分子科学における最先端の研究成果、分子科学の現状と将来への展望などについて、幅広い研究分野から紹介する。	全教授 全准教授	
	科学英語演習	2	分子科学領域の研究実施の基盤となる英文の読解、作文、英語による口頭討論など。多様な専門領域に共通する基礎的科学英語を含む。	全教授 全准教授	

Department of Structural Molecular Science

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Fundamental Theory of Molecular Structures	2	The structures and reactions of molecules are systematically understood based on fundamental equations of quantum mechanics. In addition, the dynamic behaviors of molecules and molecular assemblies are investigated and analyzed with the aid of computer simulations.	Prof.	Shigeru Nagase
Prof.				Masahiro Ehara	
Assoc.Prof.				Katsuyuki Nobusada	
Assoc.Prof.				Hisashi Okumura	
	Applied Molecular Spectroscopy	2	How to develop various spectroscopic methods such as laser spectroscopy, nonlinear and time-resolved spectroscopy and microscopic methods, for investigation of structures and dynamics of small molecules to biomolecules and molecular assemblies, and how to apply those methods for control of functionalities of materials.	Prof.	Hiromi Okamoto
Prof.				Yasuhiro Ohshima	
Assoc. Prof.				Yuji Furutani	
	Basic Electronic Chemistry	2	Structures and functionalities of atoms, molecules, and their assemblies are elucidated on the basis of electronic structures of the respective systems. We learn the methods of preparation and characterization of nanoclusters and nanoparticles, nano-size molecules, and metallic compounds with functions of catalytic activities and energy conversion.	Prof.	Nobuyuki Nishi
Assoc.Prof.				Toshi Nagata	
Assoc.Prof.				Mizuki Tada	
	Vacuum UV Spectroscopy	2	Synchrotron radiation induced etching and application to biosensors. Synchrotron radiation based analysis of the electrical structure, optical properties, and excited state dynamics of molecules, clusters and fullerene. Synchrotron radiation based analysis of the solid conduction mechanism using photoelectron spectroscopy and infrared spectroscopy.	Prof.	Tsuneo Urisu
Assoc.Prof.				Koichiro Mitsuke	
Assoc.Prof.				Shinichi Kimura	
	Solid state chemistry	2	We introduce the solid state properties of functional molecular conductors or thin films studied by means of infrared and Raman spectroscopy, reflection spectroscopy, x-ray diffraction, scanning probe microscope, and electron microscope.	Prof.	Kyuya Yakushi
Prof.				Toshihiko Yokoyama	
	Applied Molecular Science	2	The basic concept and experimental methods in molecular science including organic chemistry, macromolecular chemistry, biological chemistry, and solid physics are provided in this class. The case studies are also provided for the molecular design, structural analysis, measurement of molecular properties, and expression of function in the multi-disciplinary research fields.	Prof.	Shigetoshi Aono
Assoc.Prof.				Toshiyasu Suzuki	
Assoc.Prof.				Donglin Jiang	
	Coordination chemistry	2	The aim of this course is to explore chemical and physical properties of metal complexes as a function of metal and ligand oxidation states. For example, an aqua complex having a redox-active ligand allows isolation of an oxy radical species, which could be used as an oxidant.	Prof.	Koji Tanaka
	Exercise on Structural Molecular Science I a · I b	2	Discussion, experimental instructions, and/or theoretical studies for the student to perform the individual fundamental and applied research in the field of structural molecular science. This program is provided by appropriate teaching stuffs based on the research subject of the individual student.		
	Exercise on Structural Molecular Science II ~ V	4			
	Seminar on Structural Molecular Science I a · I b	2	Small size seminar to gain scientific knowledge, competence for scientific consideration, discussion, and research formance, and original scientific conceptions in the field of fundamental and applied structural molecular science. This program is provided by appropriate teaching stuffs based on the research subject of the individual student.		
	Seminar on Structural Molecular Science II ~ V	4			
	Molecular science seminar	1	This course introduces the recent results and the future prospects of the research field of molecular science.		
	English for scientific research	2	The principal aim of this course is to improve academic reading, acadimic writing, listenig, and speaking in English for scientific research.		

機能分子科学専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
基礎理論	機能分子基礎理論	2	電子状態理論や統計力学等をもとに、分子スケールの構造や反応性や凝縮系の分子機能発現の基礎的な理論を講述する。理論的基礎とともに、分子科学計算への応用に関しても講義を行う。	教授	齊藤 真司
				准教授	柳 井 毅
機能構造化学	機能構造化学	2	分子の構造がその機能とどのように関係しているかを、有機化学、生物化学、物理科学の各観点から明らかにする。	教授	平本 昌宏
				教授	加藤 晃一
				准教授	藤井 浩
				准教授	西村 勝之
錯体触媒化学	錯体触媒化学	2	分子の化学変換を司る「触媒」の構造、機能を理解することは、触媒開発に関わる基礎化学および化学プロセスへの応用の両観点から重要である。特に遷移金属錯体触媒の化学反応特性を概説する。	教授	魚住 泰広
				准教授	櫻井 英博
量子動力学	量子動力学	2	物質の量子状態の超高速 (10^{-15} 秒程度以下) 変化を光で直接観察し制御するための原理と最新の試み、および磁気共鳴法と電子スピンダイナミックスの基礎について講義する。	教授	大森 賢治
				准教授	中村 敏和
光化学	光化学	2	高強度高輝度の軟 X 線・極端紫外光 (レーザー、放射光) により新たに発現する分子の多重励起・脱励起・光電離ダイナミックスの解明と光化学反応の制御。超短パルスを使った実験手法や量子化学に基づく理論手法の開発に関する講義を行う。	教授	小杉 信博
				准教授	繁政 英治
				准教授	藤 貴夫
光物理	光物理	2	レーザー工学、光エレクトロニクス、光物性科学、光学の基礎知識、及び、相対論的電子線による光発生 (シンクロトロン放射光、自由電子レーザーなど) について講述する。	教授	加藤 政博
				准教授	平等 拓範
分子集合体論	分子集合体論	2	主として分子集合体を対象に、(1) 液体・溶液内の平衡・非平衡過程の統計学、(2) 生体分子 (蛋白質など) 溶液の物理化学、(3) 固体電子物性の理論について講述する。	教授	平田 文男
				教授	桑島 邦博
				准教授	米満 賢治
共通	機能分子科学演習 I a・I b	2	機能分子科学の基礎・応用研究における各大学院生の固有の課題遂行のための研究討論、実験演習、理論演習など。各大学院生の教育研究指導分野に応じて担当教員が中心となって実施する。	全教授 全准教授	
	機能分子科学演習 II ~ V	4		全教授 全准教授	
	機能分子科学考究 I a・I b	2	機能分子科学領域における基礎～実践的な知識、考察力、展開力さらには独創的発想力を培うための少人数によるセミナー。各大学院生の教育研究指導分野に応じて担当教員が中心となって実施する。	全教授 全准教授	
	機能分子科学考究 II ~ V	4		全教授 全准教授	
	分子科学セミナー	1	分子科学における最先端の研究成果、分子科学の現状と将来への展望などについて、幅広い研究分野から紹介する。		
	科学英語演習	2	分子科学領域の研究実施の基盤となる英文の読解、作文、英語による口頭討論など。多様な専門領域に共通する基礎的科学英語を含む。		

Department of Functional Molecular Science

Field	Subject	Unit	Content of subject			
	Theoretical/Computational Study of Molecular Functions	2	This class deals with theoretical and computational aspects of molecular functions in condensed phase, including biopolymers in solutions, via molecular dynamics simulation and electronic structure calculation.	Prof.	Shinji Saito	
				Assoc.Prof.	Takeshi Yanai	
	Structural chemistry	2	Relationship between molecular structures and their functional activities will be discussed from the view points of organic chemistry, biological chemistry, and physical chemistry.	Prof.	Masahiro Hiramoto	
				Prof.	Koichi Kato	
				Assoc.Prof.	Hiroshi Fujii	
				Assoc.Prof.	katsuyuki Nishimura	
	Complex Catalysis	2	Molecular structures and functions of complex catalysts, in particular transition metal complexes, will be overviewed to understand catalytic molecular transformations.	Prof.	Yasuhiro Uozumi	
				Assoc.Prof.	Hidehiro Sakurai	
	Quantum dynamics	2	Lecture on principles of direct observation and control of ultrafast quantum dynamics of matter (in femto- and attosecond time scale) by using light, recent experimental trials in the relevant field, and the basics of magnetic resonance and electron spin dynamics.	Prof.	Kenji Ohmori	
				Assoc.Prof.	Toshikazu Nakamura	
	Photochemistry	2	Multiple excitation/de-excitation and photodissociation dynamics of molecules by using intense and brilliant soft X-ray and vacuum ultraviolet light from laser and synchrotron radiation, and control of photochemical reaction. Experimental methods using ultra short pulse and theoretical methods based on quantum chemistry are included.	Prof.	Nobuhiro Kosugi	
				Assoc.Prof.	Eiji Sigemasa	
				Assoc.Prof.	Takao Fuji	
	Photo-physics	2	Laser technologies, photo-electronics, photo-material science, basic knowledges of optics and electromagnetic radiation from relativistic electron beams (synchrotron radiation, free electron lasers) will be described.	Prof.	Masahiro Kato	
				Assoc.Prof.	Takunori Taira	
	Molecular Assemblies	2	In this lecture, one of the following topics will be delivered : (1) Equilibrium and non-equilibrium statistical thermodynamics of liquid and (2) Quantum theory of molecular solids.	Prof.	Fumio Hirata	
				Prof.	Kunihiro Kuwajima	
				Assoc.Prof.	Kenji Yonemitsu	
	Exercise on Functional Molecular Science I a · I b	2	Discussion, experimental instructions, and/or theoretical studies for the student to perform the individual fundamental and applied research in the field of functional molecular science. This program is provided by appropriate teaching stuffs based on the research subject.			
	Exercise on Functional Molecular Science II ~ V	4				
	Seminar on Functional Molecular Science I a · I b	2		Small size seminar to gain scientific knowledge, competence for scientific consideration, discussion, and research performance, and original scientific conceptions in the field of fundamental and applied functional molecular science. This program is provided by appropriate teaching stuffs based on the research subject of the individual student.		
	Seminar on Functional Molecular Science II ~ V	4				
	Molecular science seminar	1		This course introduces the recent results and the future prospects of the research field of molecular science.		
	English for scientific research	2		The principal aim of this course is to improve academic reading, academic writing, listening, and speaking in English for scientific research.		

天文科学専攻授業科目概要

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担当教員	
光赤外線天文学	光学赤外線望遠鏡概論	2	光学・赤外線望遠鏡の原理, 設計と製作, 制御技術, 測光観測, 分光観測などの基礎を講述する。	教授	家 正則
	光赤外観測システム概論	2	光学・赤外線望遠鏡の収差と結像性能の評価, 設計制作の実際, さらに高分解能観測技術について講述する。	教授	関口 和寛
				教授	小林 行泰
				准教授	林 左絵子
				准教授	佐々木敏由紀
				准教授	宮崎 聡
	光赤外線観測天文学特論	2	光学・赤外線検出装置の原理, 設計・制作, 応用技術について講述する。	教授	小林 行泰
				教授	高見 英樹
	光赤外線天文学 I	2	天体の諸階層の光赤外線観測の現状を概観し, 光赤外線観測の基礎的事項を講述する。	教授	家 正則
				准教授	臼田 知史
	光赤外線天文学 II	2	恒星の光学観測の手法と物理量の導出方法を講述する。	教授	野口 邦男
				准教授	竹田 洋一
	光赤外線天文学 III	2	星間物質の組成・進化・運動・星形成過程に関する光赤外線天文観測について講述する。	教授	林 正彦
				准教授	田村 元秀
光赤外線天文学 IV	2	銀河の観測的性質とその物理状態の関係, 銀河の進化と形成などを観測と理論両面から講述する。	教授	有本 信雄	
			准教授	兒玉 忠恭	
			准教授	柏川 伸成	
光赤外線天文学 V	2	太陽系天体の光学観測の手法と物理量の導出方法を講述する。	准教授	渡部 潤一	
天文精密計測法	2	干渉計などを使った精密天文観測法について講述する。	教授	郷田 直輝	
			准教授	川村 静児	
光赤外線天文学演習 I	2	光赤外線天文学, 光赤外線観測システムに関する演習を行う。	有本, 家, 郷田, 小林行, 関口, 高見, 野口邦, 林正, 臼田, 柏川, 兒玉, 佐々木, 竹田, 田村, 林左, 宮崎, 渡部		
光赤外線天文学演習 II	2	光赤外線天文学, 光赤外線観測システムに関する演習を行う。	有本, 家, 郷田, 小林行, 関口, 高見, 野口邦, 林正, 臼田, 柏川, 兒玉, 佐々木, 竹田, 田村, 林左, 宮崎, 吉田, 渡部		
電波天文学	電波望遠鏡概論	2	電波望遠鏡の原理, 設計と製作, 制御技術などの基礎を講述する。	教授	川口 則幸
				准教授	浮田 信治
	電波観測システム概論	2	電波受信機とそれに関わる低温技術, デジタル処理技術を講述する。	准教授	花田 英夫
				准教授	関本 裕太郎
	電波観測基礎技術概論	2	電波分光法の原理と基礎技術を講述する。	准教授	野口 卓
				准教授	松尾 宏
	電波天文学 I	2	天体の諸階層の電波観測の現状を概観し, 電波天文学の基礎的事項を講述する。	教授	川邊 良平
				准教授	本間 希樹
電波天文学 II	2	天体の諸階層の電波観測の現状を概観し, 電波天文学の基礎的事項を講述する。	教授	小林 秀行	
			准教授	出口 修至	
電波天文学 III	2	星間分子雲などの電波源の観測手法, 輻射輸送を含め, データ解析による物理量の導出方法, また, これまでに得られた物理的・化学的知見について講述する。	教授	立松 健一	
			准教授	出口 修至	
			准教授	大石 雅寿	

Department of Astronomical Science

Field	Subject	Unit	Content of subject	
	Introduction to Optical/Infrared Telescope	2	A principle of optical and infrared telescopes is presented as well as the basics of observation such as spectroscopy and photometry.	M. Iye
	Introduction to Optics	2	Basics of optics are lectured. Topics will be aberration, and the methods to evaluate a optical system.	K. Sekiguchi, Y. Kobayashi, S. Hayashi, T. Sasaki, S. Miyazaki
	Optical/Infrared Observation Instruments	2	Principles of various detectors in optical and infrared observations are lectured.	Y. Kobayashi, H. Takami
	Optical/Infrared Astronomy I	2	An overview the present status of observational astronomy is presented for various astronomical objects in the hierarchy.	M. Iye, T. Usuda
	Optical/Infrared Astronomy II	2	Current methods of optical observation of stars are lectured as well as the methodology to know the physical quantities of stars.	K. Noguchi, Y. Takeda
	Optical/Infrared Astronomy III	2	Lecture on interstellar matter and star formation process.	M. Hayashi, M. Tamura
	Optical/Infrared Astronomy IV	2	Lecture on galactic astronomy, especially on the observational aspects of galaxies and the relation to their physical state. We will discuss the problem both from observation and theory.	N. Arimoto, T. Kodama, N. Kashikawa
	Optical/Infrared Astronomy V	2	Lecture on objects of solar system. Observational methods to obtain physical quantities are lectured.	J. Watanabe
	Precision Measurement Method	2	Lecture on the precision measurement using interferometry.	N. Goda, S. Kawamura
	Optical/Infrared Astronomy Seminar I	2	Seminar on the optical/infrared astronomy.	Staff of optical/infrared astronomy group
	Optical/Infrared Astronomy Seminar II	2	Seminar on the optical/infrared astronomy.	Staff of optical/infrared astronomy group
	Introduction to Radio Telescope	2	Lecture on the principle of radio telescope, the design and production, and basics of its control.	N. Kawaguchi, N. Ukita
	Introduction to Radio Observation System	2	Lecture on radio receivers, which includes low-temperature techniques and digital processing.	H. Hanada, Y. Sekimoto
	Introduction to Instruments of Radio Astronomy	2	Lecture on principles of various detectors in radio observations.	T. Noguchi, H. Matsuo
	Radio Astronomy I	2	Lecture on an overview of the present status of observational astronomy in radio wavelengths for various astronomical objects in the hierarchy.	R. Kawabe, M. Honma
	Radio Astronomy II	2	Lecture on an overview of the present status of observational astronomy in radio wavelengths for various astronomical objects in the hierarchy.	H. Kobayashi, S. Deguchi
	Radio Astronomy III	2	Observation methods towards radio sources such as molecular clouds, data analysis methods, including the radiative transfer, to derive physical quantities on such sources, and physical and chemical properties so far obtained will be lectured.	K. Tatematsu, S. Deguchi, M. Ohishi

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担当教員	
電波天文学	電波天文学Ⅳ	2	銀河の観測的性質とその物理状態の関係, 銀河の進化と形成などを電波観測の面から講述する。	准教授	奥村 幸子
				准教授	久野 成夫
				准教授	井口 聖
				准教授	本間 希樹
	電波天文学Ⅴ	2	太陽の電波による観測法とデータ解析を講述する。	教 授	柴崎 清登
	電波干渉計システム	2	電波干渉計の原理, 観測技術, およびデータ解析を講述する。	准教授	森田 耕一郎
准教授				井口 聖	
電波天文学特論	2	超長基線干渉計システムの原理とデータ解析方法を講述する。	教 授	真鍋 盛二	
			准教授	花田 英夫	
			准教授	関本 裕太郎	
			准教授	柴田 克典	
電波天文学演習Ⅰ	2	電波天文学, 電波観測システムに関する演習を行う。	川口, 川邊, 小林, 佐々木, 立松, 真鍋, 井口, 浮田, 奥村, 久野, 柴田, 出口, 野口卓, 花田, 本間, 森田		
電波天文学演習Ⅱ	2	電波天文学, 電波観測システムに関する演習を行う。	川口, 川邊, 小林, 佐々木, 立松, 真鍋, 井口, 浮田, 奥村, 久野, 柴田, 出口, 野口卓, 花田, 本間, 森田		
重力・重力系	一般相対性理論	2	一般相対性理論について講述する。	教 授	藤本 眞克
				教 授	郷田 直輝
				准教授	川村 静児
	重力系力学Ⅰ	2	天体力学の基礎, 力学系の一般論, 天体の軌道運動について講述する。	教 授	吉田 春夫
重力系力学Ⅱ	2	天体の自転運動, 摂動論, 力学系の数値解法について講述する。	教 授	福島 登志夫	
太陽系天文学	2	惑星の回転運動・変形などの理論と計測, 地球物理学的手法の応用について講述する。	教 授	佐々木 晶	
天体物理学	天体核物理学	2	“ 恒恒星内部構造論に基づく恒星進化、超新星爆発、銀河の化学進化など基礎物理過程からマクロな天体現象までを講述する。	准教授	梶野 敏貴
	太陽恒星系物理学	2	太陽及び恒星の内部構造と進化の理論的・観測的研究成果について講述する。	准教授	関井 隆
				准教授	竹田 洋一
				准教授	原 弘久
	天体プラズマ物理学Ⅰ	2	太陽及び恒星の表面活動・大気構造の理論的・観測的研究成果について講述する。	教 授	櫻井 隆
				教 授	柴崎 清登
				准教授	花岡 庸一郎
	天体プラズマ物理学Ⅱ	2	紫外線・X線, 電波による天文観測を用いた恒星の大気構造や表面活動の観測的研究について講述する。	准教授	末松 芳法
教 授				渡邊 鉄哉	
教 授				柴崎 清登	
准教授	原 弘久				

Field	Subject	Unit	Content of subject	
	Radio Astronomy IV	2	Lecture on observational aspects of galaxies, which includes the physical state of galaxies, evolution and formation of galaxies.	S.Okumura,N.Kuno, S.Iguchi, M.Honma
	Radio Astronomy V	2	Lecture on radio observation of our Sun, which includes data reduction.	K. Shibasaki
	Radio Interferometry	2	Principle of radio interferometers, necessary observational technology and methods of data reduction are lectured.	K. Morita, S.Iguchi
	Radio Astronomy Special Lecture	2	Lecture on Very-Long-Baseline-Interferometer. Principles and methods of data reduction are lectured.	S. Manabe, H. Hanada, Y. Sekimoto, K. Shibata
	Radio Astronomy Seminar I	2	Seminar on radio observation and its instruments.	Staff of radio astronomy group
	Radio Astronomy Seminar II	2	Seminar on radio observation and its instruments.	Staff of radio astronomy group
	General Relativity	2	Lecture on the general relativity.	M.-K. Fujimoto, N. Goda, S. Kawamura
	Gravitational Dynamical System I	2	Basics of celestial mechanics, fundamental points of dynamical system, orbits of celestial bodies are lectured.	H. Yoshida
	Gravitational Dynamical System II	2	Spin motion of celestial bodies, perturbation theory and numerical method of dynamical system are lectured.	T. Fukushima
	Solar System Astronomy	2	Spin motion and deformation of planets are lectured based on geophysical methods.	S. Sasaki
	Nuclear Astrophysics	2	The lecture aims to study structural evolution of stars, supernova explosion and Galactic chemical evolution based on the understanding of physical elementary processes and their cooperative macroscopic phenomena.	T. Kajino
	Solar/Stellar Physics	2	Interior structures of our sun and stars and their evolution are lectured.	T. Sekii, Y. Takeda, H.Hara
	Cosmic Plasma Physics I	2	Surface activity and atmospheric structure of our sun and other stars are lectured.	T. Sakurai, K. Shibasaki, Y. Hanaoka, Y. Suematsu
	Cosmic Plasma Physics II	2	Observations of the structure of stellar atmosphere by UV, X-ray, and radio wavelengths are lectured.	T. Watanabe, K. Shibasaki, H.Hara

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担当教員	
	宇宙物理学Ⅰ	2	初期宇宙の進化と素粒子・原子核過程、宇宙の大規模構造など最新の宇宙論を理論・観測両面から講述する。	教 授	牧野 淳一郎
				准教授	梶野 敏貴
	宇宙物理学Ⅱ	2	恒星、恒星系、銀河の形成と進化を理論・観測両面から講述する。	教 授	富阪 幸治
	宇宙物理学Ⅲ	2	星間物質の組成・進化・運動、惑星系や星形成過程について講述する。	教 授	観山 正見
				准教授	小久保英一郎
共通基礎	天文データ解析法Ⅰ	2	天文観測における画像処理法、ソフトウェアについて講述する。	教 授	関口 和寛
				准教授	大石 雅寿
				准教授	森田 耕一郎
	天文データ解析法Ⅱ	2	天文観測データのアーカイブと効率的利用の手法について講述する。	教 授	水本 好彦
				准教授	市川 伸一
				准教授	高田 唯史
	数値計算法概論	2	数値計算法について概説し、偏微分方程式の数値解法について講述する。	教 授	富阪 幸治
				教 授	福島 登志夫
	シミュレーション天文学	2	天文学で用いられる数値シミュレーション技法について講述する。	教 授	富阪 幸治
	パブリックアウトリーチ入門	2	研究成果の社会還元に関する実際を天文学の実例に即して講述する。	准教授	縣 秀彦
共通基礎系天文学演習Ⅰ	2	天文情報、太陽天体プラズマ、理論天文に関する演習を行う。	櫻井、柴崎、富阪、福島、藤本、牧野、水本、観山、吉田、渡邊、縣、市川、大石、梶野、川村、小久保、末松、関井、関本、高田、花岡、原、松尾		
共通基礎系天文学演習Ⅱ	2	天文情報、太陽天体プラズマ、理論天文に関する演習を行う。	櫻井、柴崎、富阪、福島、藤本、牧野、水本、観山、吉田、渡邊、縣、市川、大石、梶野、川村、小久保、末松、関井、関本、高田、花岡、原、松尾		
科学英語演習	2	受講生の英語力に合わせて、英会話、英語によるプレゼンテーション、フリーディスカッション、英語による科学論文の書き方などの指導を小人数クラス制で行う。	客員教員		
共通	天体観測装置概論	2	さまざまな波長の観測装置の原理を、その理解に必要な物理的基礎から講義する。	准教授	関本 裕太郎
				准教授	川村 静児
				准教授	末松 芳法
	天文科学考究Ⅰ	2	最新の天文科学の研究成果、天文研究の進め方、検証方法、発表方法に関する研究（コロキウム：第1年次）	全教員	
	天文科学考究Ⅱ	2	最新の天文科学の研究成果、天文研究の進め方、検証方法、発表方法に関する研究（コロキウム：第2年次）	全教員	
天文科学考究Ⅲ	2	最新の天文科学の研究成果、天文研究の進め方、検証方法、発表方法に関する研究（コロキウム：第3年次）	全教員		
天文科学考究Ⅳ	2	最新の天文科学の研究成果、天文研究の進め方、検証方法、発表方法に関する研究（コロキウム：第4年次）	全教員		

Field	Subject	Unit	Content of subject	
	Astrophysics I	2	The lecture aims to study both theoretical and observational aspects of the evolution of the early Universe and the role of particle and nuclear processes, and cosmic large scale structure based on recent modern cosmology.	J.Makino, T.Kajino
	Astrophysics II	2	Stellar system, structure and evolution of galaxies are lectured.	K. Tomisaka
	Astrophysics III	2	Lecture on interstellar matter, planetary systems and star formation.	S.Miyama, E.Kokubo
	Astronomical Data Reduction I	2	Lecture on astronomical data reduction, which includes image processing method and its software.	K.Sekiguchi, M. Ohishi, K. Morita
	Astronomical Data Reduction II	2	Lecture on data archive for observation data and astronomical database.	Y. Mizumoto, S. Ichikawa, T. Takada
	Introduction to Numerical Method	2	Brief overview on numerical method and introduction to numerical method of partial differential equations are lectured.	K. Tomisaka, T. Fukushima
	Simulation Astronomy	2	Lecture on method of simulation for various researches of astronomy.	K. Tomisaka
	Public Outreach	2	Based on various examples of astronomy, the way of research outcomes to contribute to the public (public outreach) is lectured.	H. Agata
	Common Basic Astronomies Seminar I	2	Seminar on database astronomy, solar/cosmic plasma, and theoretical astronomy.	Staff of common basic astronomies group
	Common Basic Astronomies Seminar II	2	Seminar on database astronomy, solar/cosmic plasma, and theoretical astronomy.	Staff of common basic astronomies group
	Exercise in Scientific English	2	According to the achievement of respective students, small group exercise is given on the presentation in English, conversation and scientific writing.	Visiting professor
	Introduction to Astronomical Instruments	2	Principles of observational instruments for various wavelengths are lectured from the physical basics.	Y. Sekimoto, S. Kawamura, Y. Suematsu
	<i>Colloquium I [mandatory]</i>	2	Colloquium on contemporary astronomy. Graduate students present progress of their own research and/or of their fields. (1nd year)	All the staff
	<i>Colloquium II [mandatory]</i>	2	Colloquium on contemporary astronomy. Graduate students present progress of their own research and/or of their fields. (2rd year)	All the staff
	<i>Colloquium III [mandatory]</i>	2	Colloquium on contemporary astronomy. Graduate students present progress of their own research and/or of their fields. (3th year)	All the staff
	<i>Colloquium IV [mandatory]</i>	2	Colloquium on contemporary astronomy. Graduate students present progress of their own research and/or of their fields. (4th year)	All the staff

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員
共通	<u>天文科学考究 V</u>	2	最新の天文科学の研究成果, 天文研究の進め方, 検証方法, 発表方法に関する研究 (コロキウム: 第5年次)	全教員
	<u>天文科学基礎演習 IA・IB・IC</u>	2	天文学に関する基礎的文献の輪読 (基礎セミナー)	全教員
	<u>天文科学基礎演習 IIA・IIB・IIC</u>	2	天文学に関する基礎的文献の輪読 (基礎セミナー)	全教員
	総合研究演習 I	4	最新の天文科学の研究成果, 天文研究の進め方, 検証方法, 発表方法に関する演習 (第3, 4年次)	全教員
	総合研究演習 II	2	最新の天文科学の研究成果, 天文研究の進め方, 検証方法, 発表方法に関する演習 (第4年次)	全教員
	<u>研究中間レポート</u>	6	研究の中間的進展を発表させ全担当教員が研究指導を行う。	全教員
	天文科学実習 IA・IB・IC・ID	2	天体観測、計算機、観測装置、アウトリーチなどの実習	全教員
	天文科学実習 IIA・IIB・IIC・IID	1	天体観測、計算機、観測装置、アウトリーチなどの実習	全教員
	天文学特別講義 I	2	天文学各分野の最新の研究成果を講述する。	客員教員
	天文学特別講義 II	2	天文学各分野の最新の研究成果を講述する。	客員教員
	天文学特別講義 III	2	天文学各分野の最新の研究成果を講述する。	客員教員
	天文学特別講義 IV	2	天文学各分野の最新の研究成果を講述する。	客員教員
	天文学特別講義 V	1	天文学各分野の最新の研究成果を講述する。	全教員 客員教員
	天文学特別講義 VI	1	天文学各分野の最新の研究成果を講述する。	全教員 客員教員
	天文学特別講義 VII	1	天文学各分野の最新の研究成果を講述する。	全教員 客員教員
天文学特別講義 VIII	1	天文学各分野の最新の研究成果を講述する。	全教員 客員教員	

※斜字にアンダーラインの科目は5年1貫博士課程の必修科目。

※斜字は同じく選択必修科目。

Field	Subject	Unit	Content of subject	
	<u>Colloquium V [mandatory]</u>	2	Colloquium on contemporary astronomy. Graduate students present progress of their own research and/or of their fields. (5th year)	All the staff
	<i>Basic Seminar I [choose one from A, B, C]</i>	2	Seminar on basic astronomy textbooks. (First semester of 1st year)	All the staff
	<i>Basic Seminar II [choose one from A, B, C]</i>	2	Seminar on basic astronomy textbooks. (Second semester of 1st year)	All the staff
	Interdisciplinary Research I	4	Seminar on current progress of astronomical sciences (3rd and 4th years).	All the staff
	Interdisciplinary Research II	2	Seminar on current progress of astronomical sciences (4th year).	All the staff
	<u>Progress Report [mandatory]</u>	6	This corresponds to a Master Thesis. Graduate students are asked also to have oral presentations. (2nd year)	All the staff
	Observation Experiment I A [choose one from A, B, C, D]	2	Experiment of observation at observatory.	All the staff
	Observation Experiment II A [choose one from A, B, C, D]	1	Experiment of observation at observatory.	All the staff
	Special Lecture I	2	Lecture by visiting professors of National Astronomical Observatory. A specific research area of astronomy is overviewed.	Visiting professor
	Special Lecture II	2	Lecture by visiting professors of National Astronomical Observatory. A specific research area of astronomy is overviewed.	Visiting professor
	Special Lecture III	2	Lecture by visiting professors of National Astronomical Observatory. A specific research area of astronomy is overviewed.	Visiting professor
	Special Lecture IV	2	Lecture by visiting professors of National Astronomical Observatory. A specific research area of astronomy is overviewed.	Visiting professor
	Special Lecture V	1	Lecture by visiting professors of National Astronomical Observatory. A specific research area of astronomy is overviewed.	All the staff Visiting professor
	Special Lecture VI	1	Lecture by visiting professors of National Astronomical Observatory. A specific research area of astronomy is overviewed.	All the staff Visiting professor
	Special Lecture VII	1	Lecture by visiting professors of National Astronomical Observatory. A specific research area of astronomy is overviewed.	All the staff Visiting professor
	Special Lecture VIII	1	Lecture by visiting professors of National Astronomical Observatory. A specific research area of astronomy is overviewed.	All the staff Visiting professor

Diagonal and underline [mandatory] means graduate students of astronomy department must take these.

Diagonal [choose one] means graduate students of astronomy department must choose one from a list.

核融合科学専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
装置システム・プラズマ制御・プラズマ加熱・プラズマ計測・プラズマシミュレーション・粒子シミュレーション・磁気流体シミュレーション	プラズマ物理学Ⅰ	2	高温プラズマのみならず、幅広いパラメータ領域にあるプラズマを理解する上で必要とされる基礎的な物理について学ぶ。プラズマの挙動について、荷電粒子としての運動、および流体的挙動について基礎から理解する。	教授	須藤 滋
	プラズマ物理学Ⅱ	2	プラズマの物性を理解するための、基礎的な物理概念について講述する。速度空間における分布関数表示と流体表示との関係、ランダウ減衰などのプラズマに特徴的な現象、各種の波動現象などを例として、プラズマ物理の特徴を明らかにする。	教授	武藤 敬
	プラズマ実験学Ⅰ	2	各種物理量の計測によるプラズマ診断法の原理と実際、特に基本的手法としてのプラズマから放出される光の分光、電磁波動や粒子ビーム入射に対するプラズマの応答、プラズマからの粒子放出や波動放射の計測法について講述する。	教授	居田 克巳
	プラズマ実験学Ⅱ	2	高温プラズマの実験研究では数多くの計測装置が用いられている。プラズマの代表的な計測法の原理、及び手法について講述する。また近年進歩の著しい二次元分布計測手法の例として、トモグラフィの原理及びデータ解析手法について解説する。	教授	長山 好夫
	プラズママテリアル工学Ⅰ	2	周辺プラズマに関わる諸概念について講述する。プラズマ・シース、スクレイブオフ・レイヤー、ダイバータ、不純物現象、放射損失などについてのモデリングや計測法について解説する。特にLHD装置の周辺プラズマ現象とその解析結果について詳述する。	准教授	Peterson Byron Jay
	プラズママテリアル工学Ⅱ	2	核融合実験装置におけるプラズマと材料の相互作用について概説する。材料の損耗・堆積過程及びイオン衝撃による損傷の形成と、その材料特性への影響について講ずる。また、種々の核融合炉材料の特性についても講ずる。	教授	竹入 康彦
	核融合システム工学Ⅰ	2	核融合発電炉のシステム全体、及び、基本構成要素である超伝導コイル、ダイバータ、ブランケットなどについて、それらに要求される特性や機能を概説する。超伝導コイルにおいては超伝導材料の物性や超伝導特性について、また、ダイバータやブランケットにおいては高熱流束と中性子照射に対する課題についても講述する。	教授	今川 信作
	核融合システム工学Ⅱ	2	核融合用超伝導コイルの入門となる講義を行う。核融合用超伝導コイルの特徴、これまでの開発の歴史を概説する。そして核融合エネルギー炉に向けた今後の課題を抽出し、その解決方法について議論を行う。特に、超伝導コイルシステムとしての課題として、電磁力支持構造、最大磁場強度、超伝導破壊現象、機器安全性、中性子照射効果等を話題として取り上げる。	教授	高畑 一也
	核融合炉材料工学Ⅰ	2	材料の微細組織、強度特性に関わる基礎知識、中性子照射損傷の基礎過程と複合過程、照射試験技術、低放射化材料および核融合ブランケット用機能材料の開発状況と課題について講述する。	教授	室賀 健夫
	核融合炉材料工学Ⅱ	2	プラズマ閉じ込め装置に用いられるステンレス鋼の主要な用途、機能性を中性子環境、温度環境、真空環境に注目して概説する。オーステナイト系、フェライト系、マルテンサイト系ステンレス鋼のそれぞれの基本的な特徴、ならびに溶接・接合方法を含む設計コードについて講義する。	教授	西村 新
核融合科学特論Ⅰ	2	核融合装置から発生する中性子について、その生成から人体影響までを概説する。特に、計測、遮へい、線量測定に関する話題を取り扱う。	准教授	山西 弘城	

Department of Fusion Science

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Device system / Research operation / Plasma heating / Diagnostics / Plasma simulation / Particle simulation / Magneto hydrodynamic simulation	Plasma Physics I	2	This lecture is to understand basic physics on general plasma as well as high temperature one. The theories of kinetic and hydrodynamics for understanding plasma activities are reviewed.	Prof.	Shigeru Sudo
	Plasma Physics II	2	Fundamental physics concepts for understanding plasmas will be described. Characteristic phenomena in plasma physics will be explained, such as relations between the distribution function in velocity space and the plasma fluid description, Landau damping and plasma waves.	Prof.	Takashi Mutoh
	Fundamentals of Plasma Experiment I	2	Basic principles and applications of plasma diagnostics are reviewed in focus on spectroscopy, radiation measurements and active methods using electromagnetic wave and particle beams.	Prof.	Katsumi Ida
	Fundamentals of Plasma Experiment II	2	Many types of diagnostic devices are used for the study of high temperature plasmas. Basic principles and methods of representative plasma diagnostics are reviewed. As an example of advanced two-dimensional diagnostics, the principle of tomography and its data analysis techniques are discussed.	Prof.	Yoshio Nagayama
	Plasma Material Engineering I	2	Concepts related to edge plasmas are reviewed including sheaths, scrape off layers, divertors, plasma impurities and radiation, modelling and edge plasma diagnostics. Examples of edge plasma phenomena from LHD and their analysis will be highlighted.	Assoc.Prof.	Peterson Byron Jay
	Plasma Material Engineering II	2	Plasma-material interactions in fusion devices are reviewed. Migration of materials (erosion and deposition), damage formation with ion impact and its effects on material properties, materials properties for fusion devices are discussed.	Prof.	Yasuhiko Takeiri
	Fusion System Engineering I	2	This lecture is an introduction to fusion power plants. Features and functions of the whole system and subsystems such as superconducting magnets, divertor, and blankets are reviewed. Concerning the magnets, properties of materials at low temperatures and superconductivity are discussed. Concerning the divertor and blankets, technical issues for high heat flux and neutron irradiation are discussed.	Prof.	Shinsaku Imagawa
	Fusion System Engineering II	2	This lecture is an introduction to superconducting coils for fusion. An outline is given of features of superconducting coils for fusion and the history of developments. Technical issues related to fusion energy reactors are discussed, focussing on supporting structure, the maximum field, quench protection, and irradiation effect.	Prof.	Kazuya Takahata
	Fusion Reactor Materials I	2	Fundamentals of microstructure and mechanical properties of materials, basic and combined process of neutron irradiation effects, irradiation tests technology, status and issue in developing low activation materials and functional materials for fusion blankets are reviewed.	Prof.	Takeo Muroga
	Fusion Reactor Materials II	2	Main intended use of stainless steels for fusion machine and functions are reviewed based on the practical environment. Outlines of austenitic, ferritic and martensitic stainless steel are discussed and design codes including welding and joining processes are lectured.	Prof.	Arata Nishimura
Advances in Fusion Science I	2	Neutrons generated from a fusion device are discussed from their production to the effect to human body. Methods of detection, a design of shielding and dose evaluation at workplaces are reviewed.	Assoc.Prof.	Hirokuni Yamanishi	

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
装置システム・プラズマ制御・プラズマ加熱・プラズマ計測・プラズマシミュレーション・粒子シミュレーション・磁気流体シミュレーション	核融合科学特論Ⅱ	2	核融合装置の炉心プラズマ設計において基礎となる、プラズマの圧力平衡、MHD 安定性解析などのプラズマ物理学の基本的手法を講述し、実際の閉じ込め装置への応用について解説する。またプラズマと電磁波との相互作用、高エネルギー粒子の存在下での不安定性解析などの物理課題が、核融合装置でどのように取り扱われるかについても講述する。	教授	岡村 昇一
	シミュレーション科学基礎論Ⅰ	2	多様なプラズマの振る舞いを、数値計算や運動論的または流体モデルを用いた計算機シミュレーションにより解析するための基礎的な手法について概説する。計算プログラムの具体例をもとに、手法の特徴と限界点、および数値誤差について講述する。	教授	石黒 静児
	シミュレーション科学基礎論Ⅱ	2	複雑なプラズマの運動をシミュレーションで調べるための数値手法を、特に流体運動に焦点を当てて紹介する。波動の伝播などの事例を通じて、手法ごとの特徴を紹介する。また、不安定性と数値解像度、エリアス誤差など、非線形シミュレーションで特徴的な話題について紹介する。	准教授	三浦 英昭
	数理物理学Ⅰ	2	膨大な数の荷電粒子で構成されるプラズマの運動によって様々な集団現象が発生する。本講義では、これら複雑な物理システムを記述するうえで必要な運動論や流体モデルの数学的基礎について講述する。衝突・拡散などの現象について、その基礎理論を解説する。	准教授	大谷 寛明
	数理物理学Ⅱ	2	電磁相互作用をする多数の荷電粒子からなるプラズマのような複雑な物理システムを理論的に扱う場合、様々な数理物理学的手法が用いられる。本講義では、解析力学、統計力学の解析手法を、プラズマの運動論、輸送問題等への応用例を挙げながら解説する。	教授	渡邊 智彦
	科学技術英語	2	国際協力が前提となる磁場核融合研究では、共通語としての英語によるコミュニケーション能力が21世紀の研究者たる前提条件である。本講義では、英語科学論文の書き方と国際会議でのプレゼンに必要な基礎的語学力と国際会議出張や短期・長期留学等で必要になる「現場」英会話能力の実践的知識の習得を目的とする。	教授	廣岡 慶彦
	プラズマ・核融合科学演習ⅠA・ⅠB	2	各大学院生の固有の研究課題の遂行のために必要となる、研究の経過及び得られた結果についての討論、実験演習、理論・シミュレーション演習などを、各大学院生の担当教員及び教育研究指導分野の教員が中心となって実施する。	全教員	
	プラズマ・核融合科学演習ⅡA・ⅡB	2			
	プラズマ・核融合科学演習ⅢA・ⅢB	2			
	プラズマ・核融合科学演習ⅣA・ⅣB	2			
	プラズマ・核融合科学演習ⅤA・ⅤB	2			
	プラズマ・核融合科学考究ⅠA・ⅠB	2	プラズマ・核融合科学領域における諸課題を少人数によるセミナーを通じて深く探求し、基礎知識、考察力、展開力、まとめ方など独創的研究をおこなうに必要な素養を養成する。各大学院生の教育研究指導分野に応じて担当教員が中心となって実施する。		
	プラズマ・核融合科学考究ⅡA・ⅡB	2			
プラズマ・核融合科学考究ⅢA・ⅢB	2				
プラズマ・核融合科学考究ⅣA・ⅣB	2				
プラズマ・核融合科学考究ⅤA・ⅤB	2				

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Magneto hydrodynamic simulation / Particle simulation / Plasma simulation / Diagnostics / Plasma heating / Research operation / Device system	Advances in Fusion Science II	2	Fundamental plasma physics is lectured for fusion plasmas on the topics of pressure equilibrium and MHD stability analysis. Their applications to confinement devices are explained. Plasma-wave interaction and stability analysis of plasmas with energetic beams are addressed for fusion plasmas.	Prof.	Shoichi Okamura
	Fundamentals of Simulation Science I	2	Basic numerical methods for studying a variety of plasma behaviors by means of kinetic or fluid simulation models are described. Their features, limitations, and numerical errors are also discussed with practical examples.	Prof.	Seiji Ishiguro
	Fundamentals of Simulation Science II	2	Numerical simulations of plasma dynamics are introduced with special attention to fluid descriptions of plasmas and some typical examples such as wave propagations. A special attention is paid on the numerical instability, numerical resolutions, aliasing errors and some other topics which are important in nonlinear simulations.	Assoc.Prof.	Hideaki Miura
	Mathematical Physics I	2	Various collective phenomena take place due to dynamics of plasma, which are composed by enormous charged particles. This lecture reviews mathematical bases of kinetic or fluid models to describe such complex physical systems, and explains fundamental theories for understanding the phenomena such as collisions and diffusion.	Assoc.Prof.	Hiroaki Ohtani
	Mathematical Physics II	2	Various mathematical methods are used to theoretically treat complex physical systems such as plasmas. In this lecture, theoretical methods of analytical mechanics and statistical physics are explained by illustrating examples of application to plasma kinetics and transport problems.	Prof.	Tomohiko Watanabe
	Scientific English Writing and Presentation at International Conferences	2	Because interational collaboration is required for the successful development of magnetic fusion energy, the ability of communication in English is a "prerequisite" to be a successful research scientist in the 21st century. A series of lectures will provide students with the basic knowledge to write technical papers in English to present at international conferences, and also with practical skills in English conversations during technical visits abroad.	Prof.	Yoshihiko Hirooka
	Fusion plasma science exercise I A · I B	2	Exercises of experimental, theoretical and simulation science are given by advising professors and other teachers. Discussions on the processes and results of research are guided which are necessary to complete educational course.		All teachers
	Fusion plasma science exercise II A · II B	2			
	Fusion plasma science exercise III A · III B	2			
	Fusion plasma science exercise IV A · IV B	2			
	Fusion plasma science exercise V A · V B	2			
	Fusion plasma science investigation I A · I B	2			
	Fusion plasma science investigation II A · II B	2			
	Fusion plasma science investigation III A · III B	2			
Fusion plasma science investigation IV A · IV B	2				
Fusion plasma science investigation V A · V B	2				

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員
	論 文 演 習 I A・I B	2	プラズマ・核融合科学に関連した重要論文を輪講し、この分野の基礎的学力とともに 外国語論文の読解力を習得する。また、論文のまとめ方についての実践的能力を身に付ける。	全教員
	論 文 演 習 II A・II B	2		
	論 文 演 習 III A・III B	2		
	論 文 演 習 IV A・IV B	2		
	論文演習VA・VB	2		
	プラズマ・核融合科学セミナー	2	プラズマ・核融合科学に関連したコロキウムに参加してこの分野の研究動向に関する最新情報を習得するとともに、また自ら発表することにより研究成果を取りまとめ効果的に発表するための手法を身に付ける。	

Field	Subject	Unit	Content of subject	
	Exercise of scientific paper analysis I A · I B	2	Fundamentals of scientific understanding and English reading ability are improved through group reading of important papers in fusion plasma science. Practical ability of writing scientific paper is also improved.	All teachers
	Exercise of scientific paper analysis II A · II B	2		
	Exercise of scientific paper analysis III A · III B	2		
	Exercise of scientific paper analysis IV A · IV B	2		
	Exercise of scientific paper analysis V A · V B	2		
	Fusion plasma science seminar	2	Learn latest informations on research activities by attending colloquiums on fusion plasma sciences. Improve student's ability of preparing and talking in the presentation by practicing by themselves.	

宇宙科学専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
宇宙探査理工学	宇宙探査科学特論	2	宇宙科学観測を行なう人工飛翔体の実現には、宇宙環境と飛翔体の制約を考えた設計や実験・観測技術が必要となる。本講義では、基本的な物理的考察をもとにした宇宙科学観測の評価・設計手法や実験・観測技術を紹介する。	准教授 准教授	紀伊 恒男 松崎 恵一
	宇宙システム工学特論Ⅰ	2	ロケット、人工衛星、宇宙機、宇宙探査ロボット及び気球等のシステムの基礎理論、基本技術を講述し、その応用、課題、将来展望についても言及する。	教授 准教授 准教授	吉田 哲也 齋藤 芳隆 澤井 秀次郎
	宇宙システム工学特論Ⅱ	2	ロケットシステム、惑星探査プローブ、再突入システム等、地上から大気中、そして宇宙空間を航行する宇宙航行システムの基礎理論と技術について講述する。又、飛行・軌道計画そして誘導制御、熱防御、緩降下・回収システム等の基礎理論についても解説する。さらに、その応用、課題、将来展望についても言及する。	教授 准教授	森田 泰弘 山田 哲哉
	宇宙システム工学特論Ⅲ	2	太陽系天体や人工飛翔体（人工衛星・惑星探査機）の軌道計算と軌道決定技術の基礎および応用について考究する。太陽系天体においては、様々な力学的な特徴が知られているが、それらがどのようにして生じたのかや解析の手法について紹介する。人工飛翔体については、特にその軌道決定を行うときに必要な知識や基礎的な手法について講義を行う。	准教授 准教授	吉川 真 川勝 康弘
	宇宙システム工学特論Ⅳ	2	宇宙での電力利用（発電、蓄電、送電、電力管理）について、基礎技術からエネルギーシステムへの応用までを講述する。	教授 准教授 准教授	佐々木 進 曾根 理嗣 田中 孝治
	宇宙環境科学特論	2	宇宙の科学的・実用的な利用に重大な影響を及ぼす地球周辺の宇宙環境を考究する。また、太陽活動とその地球磁気圏への影響を中心テーマとする太陽地球系物理学の基本点を講述する。	准教授 准教授	坂尾 太郎 清水 敏文
	宇宙環境利用特論	2	地上では得ることが困難な微小重力などの宇宙の環境を利用して、物質科学、生命科学などの多くの分野で科学研究が行われている。この微小重力をはじめとする宇宙環境の特質を概説し、その科学的・実用的な利用の可能性を詳述する。また、宇宙環境利用の基礎としてさまざまな分野における物理・化学・生物学的な利用方法を概説し、材料プロセスなどへの応用についても詳述する。	教授 教授 准教授 准教授 准教授 准教授	石岡 憲昭 依田 眞一 稲富 裕光 黒谷(和泉)明美 石川 毅彦 足立 聡
飛翔体天文学	飛翔体天文学概論	2	観測天文学の基礎について概観し、観測装置とデータ解析手法の基礎について講述する。さらに星と惑星系の形成について飛翔体による観測やその他の観測によって明らかになりつつあることについて考究する。	准教授	片坐 宏一
	飛翔体天文学特論Ⅰ	2	飛翔体によるX線、ガンマ線観測で明らかになった、宇宙の様々な高エネルギー現象について講述するとともに、その背景にある物理について考究する。また、飛翔体搭載のX線・ガンマ線検出器や望遠鏡の原理と実構成、およびそのデータ解析手法について講義を行う。	教授 教授 准教授	堂谷 忠晴 石田 学 国分 紀秀

Department of Space and Astronautical Science

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Space Observation Science	2	Fundamental methods of mission analysis and design for space-science experiments are lectured from the understanding of background physics and its methods.	Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Tsuneo kii Keiichi Matsuzaki
	Space Systems Engineering I	2	Basic theories and technologies for the space system including the rockets, the satellites, the spaceships, the space exploration robots and the scientific balloons will be lectured, and their applications, current subjects and future prospects will be discussed.	Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Tetsuya Yoshida Yoshitaka saito Shujiro Sawai
	Space Systems Engineering II	2	The rocket science associated with launch and reentry of space vehicles is thoroughly lectured. Flight dynamics, guidance and control, thermal protection, and recovery systems etc. are reviewed in some detail. The lecture is extended to entry systems for planetary missions. Special topics involving applications and future prospects are also discussed.	Prof. Assoc.Prof.	Yasuhiro Morita Tetsuya Yamada
	Space Systems Engineering III	2	The orbit calculation and the orbit determination of solar system bodies and man-made space probes (artificial satellites and spacecraft) are lectured. Various dynamical features are known for solar system bodies. The origins of such features and the methods of analysis will be discussed. As for the man-made space probes, the basic knowledge and methods for the orbit determination will be discussed.	Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Makoto Yoshikawa Yasuhiro Kawakatsu
	Space Systems Engineering IV	2	Space power systems and subsystems including power generation, storage, transmission, and management are lectured. The lecture covers basic and advanced power technologies, and future space energy systems for Solar Power Satellite and planetary exploration mission.	Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Susumu Sasaki Yoshitsugu Sone Koji Tanaka
	Space Environment Physics	2	Understanding the space environment around the Earth is of crucial importance for developing human activity in and usage of space. Basic points of solar-terrestrial physics are thoroughly reviewed from this viewpoint, with special attention paid to solar magnetic activity and its influence on the terrestrial magnetosphere.	Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Taro Sakao Toshifumi Shimizu
	Space Biology and Microgravity Sciences	2	Space environments provide new and useful experimental conditions for various fields of sciences. The objective of the series of lectures is to learn the properties of space environments (microgravity, vacuum, radiation, etc.) and to understand the effects of these on biological process or materials science with the description of space experiments performed before. There will be some hours for the students to discuss the potential utilization of space environments for basic and applied sciences.	Prof. Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Noriaki Ishioka Shin-ichi Yoda Yuko Inatomi Akemi Izumi Kurotani Takehiko Ishikawa Satoshi Adachi
	Introduction to Space Astronomy	2	The lecture gives an introduction to basic observational astronomy, instrumentation and principle of data analysis. The lecture also gives our current knowledge of star and planet formation from space astronomy and other observational studies.	Assoc.Prof.	Hirokazu Kataza
	Space Astronomy I	2	Give a lecture on various high-energy phenomena revealed through X-ray and Gamma-ray observations from satellites, and study the background physics behind the phenomena. Also given is a lecture on the principle and the actual configuration of X-ray and Gamma-ray instruments and the analysis methods of their data.	Prof. Prof. Assoc.Prof.	Tadayasu Dotani Manabu Ishida Motohide Kokubun

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
飛翔体天文学	飛翔体天文学特論Ⅱ	2	飛翔体による赤外線観測で得られた最新の宇宙像、とくに初期宇宙、宇宙の構造と進化、銀河・恒星・惑星系の形成と進化を考究する。また、飛翔体からの赤外線観測の原理、観測装置開発、データ解析法等について講述する。	教 授 准教授	松原 英雄 山村 一誠
	飛翔体天文学特論Ⅲ	2	飛翔体を用いた電波天文観測、とくにスペース VLBI (Very Long Baseline Interferometry) 観測技術とその科学成果を講述する。それを理解するのに必要な電波干渉計の原理、地上の観測 VLBI 観測、さらにその成果についても紹介する。	准教授	村田 泰宏
飛翔体太陽系科学	太陽系探査科学概論	2	惑星の起源と進化について、主として飛翔体での探査によって明らかにされつつある成果を研究手法などと共に考察し検討する。	教 授	藤村 彰夫
	固体惑星探査科学特論	2	太陽系固体惑星の飛翔体探査例を示しながら、研究の目的、手法を述べ、それらから得られる知見がもたらす、惑星系の起源および進化過程の研究の進展について考究する。	准教授 准教授 准教授	岩田 隆浩 田中 智明 岡田 達明
	惑星大気科学特論	2	惑星大気科学とは、惑星表面を包む流体圏である大気の構造や成り立ちを理解することを目指す研究分野である。21世紀に入って我々は、地球にとどまらず惑星大気一般の普遍的理解を目指して、他の惑星の観測にも乗り出しつつある。本特論では、これまで地球や他の惑星で得られてきた知見を概観し、今後取り組むべき未解決問題を考究する。	教 授 准教授	佐藤 毅彦 阿部 琢美
	太陽系プラズマ物理学特論	2	太陽系は、宇宙に普遍的に存在する多様な「プラズマ現象」を直接解明できる貴重な実験室である。地球の大気上層から、その周りの宇宙空間(ジオスペース)、さらには太陽大気や惑星間空間内に分布するプラズマの性質について学び、そこに起こる現象の背後にある自然の仕組みを学ぶ。また、磁化惑星(水星、地球、木星など)や非磁化惑星(火星、金星など)の探査計画の概要や、プラズマ計測の原理などについて考究する。	教 授 准教授 准教授 准教授 准教授	早川 基育 篠原 健 高島 健 松岡 彩子
宇宙工学	宇宙機推進工学概論	2	宇宙輸送系の推進技術に必要となる熱流体工学の理論・実験・数値解析に関して基礎技術から具体的な事例について講述する。	准教授 准教授 准教授	小川 博之 高木 亮治 徳留真一郎
	宇宙機推進工学特論	2	宇宙輸送系の主推進および宇宙探査機の軌道変換/姿勢制御に必要な化学推進や電気推進を含む非化学推進システムに関し、基礎研究から実用さらに将来動向について講述する。	准教授 准教授	船木 一幸 西山 和孝
	宇宙機構造・材料工学概論	2	ロケット、人工衛星及び軌道上構造物に関し、荷重・機械環境推定法から応力・振動解析法及び設計保証法までを体系的に講述する。	准教授 准教授	峯杉 賢治 石村 康生

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Space Astronomy II	2	The lecture gives an overview of the recent picture of the Universe, especially the early Universe, the large scale structure, and formation and evolution of galaxies, stars, and planets, which have been revealed by infrared and submillimeter observations from space. Also gives brief descriptions of detection principle of infrared light from space, and the unique techniques used in the observational instrumentation and the data analysis.	Prof. Assoc.Prof.	Hideo Matsuhara Issei Yamamura
	Space Astronomy III	2	The lecture gives radio astronomy observations from satellites, especially space-VLBI observations and its results. The lecture also includes basics of the radio interferometry and ground interferometers and its results to understand the space-VLBI observation.	Assoc.Prof.	Yasuhiro Murata
	Introduction to Exploring the Solar System	2	I discuss the origin and evolution of the planetary bodies on a basis of the scientific results of the recent planetary explorations, as well as a bit of the observation techniques and procedures of the scientific devices onboard the space crafts.	Prof.	Akio Fujimura
	Science of Planetary Exploration	2	The lecture gives an introduction of the area of solid planetary science, Especially, we discuss the practical methods of investigation of the surface and the internal structure of the solid planets by the space exploration. The goal of this lecture is to understand how the obtained data are related to the origin and evolution of the planets.	Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Takahiro Iwata Satoshi Tanaka Tatsuaki Okada
	Physics of Planetary Atmospheres	2	The lecture gives the basic physics of planetary atmospheres and the overview of atmospheric structures and physical processes observed so far. Unsolved problems to be addressed in future spacecraft missions will also be discussed.	Prof. Assoc.Prof.	Takehiko Satoh Takumi Abe
	Solar System Plasma Physics	2	The solar system is a laboratory where dynamics of energetic plasma in the universe can be studied in situ by state-of-the-art instruments on board spacecraft. This lecture provides basic knowledge of physical processes occurring in the plasma environment of the solar system, including the solar wind, ionospheres, and magnetospheres around the planets. Scientific objectives of space missions both for magnetized and unmagnetized planets are described, with the reference to the innovative techniques for the plasma measurements in space.	Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Hajime Hayakawa Iku Shinohara Takeshi Takashima Ayako Matsuoka
	Spacecraft Propulsion 1	2	The lecture describes theories, experimental methods and numerical simulations on thermo-fluid engineering for space transportation propulsion system. It includes specific examples as well as basic technology.	Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Hiroyuki Ogawa Ryoji Takaki Shinichiro Tokudome
	Spacecraft Propulsion 2	2	Starting from the basic concepts of both chemical and advanced propulsion systems, practical application of these concepts to space transportations and space probes are provided. Topics include state-of-the-art rocket motors, air breathing engines, propulsive method for orbital transfer vehicles, as well as in-space electric and other advanced propulsion systems.	Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Ikkoh Funaki Kazutaka Nishiyama
	Space Structures and Materials 1	2	The lecture describes how to develop rocket and spacecraft structures and mechanisms. It starts with defining requirements, then addresses design, analysis, and tests, and ends with ensuring the spacecraft is mechanically ready for launch.	Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Kenji Minesugi Kosei Ishimura

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
宇宙工学	宇宙機構造・材料工学特論	2	宇宙飛翔体を構成する各種材料について、高強度化・高靱化の手法、成形法及び信頼性評価技術について、講述する。	教授 教授 准教授	八田 博志 佐藤 英一 後藤 健
	宇宙電子情報工学概論	2	衛星搭載装置あるいは衛星システムは広範囲の分野の複合技術である。その中でも欠かすことのできないマイクロ波通信、姿勢センサーと姿勢制御、衛星システム設計工学について基礎と応用について搭載事例を紹介しながら概説する。さらに、近年衛星搭載への応用が期待されているレーザについても原理から応用まで講述する。	教授 教授 准教授	山本 善一 水野 貴秀 戸田 知朗
	宇宙電子情報工学特論Ⅰ	2	本講義においては、基礎的回路技術や半導体技術について物理的基礎に重点をおいて議論する。特に、宇宙環境における低雑音放射線計測技術や宇宙放射線環境・高温環境における電子素子の信頼性技術、通信用高周波回路、小型アンテナについて考究する。	教授 教授 准教授	池田 博一 川崎 繁男 廣瀬 和之
	宇宙電子情報工学特論Ⅱ	2	人工衛星・惑星探査機の姿勢や位置の検出法、制御法として、センサ技術、センサ情報処理技術、アクチュエータ技術および制御アルゴリズムを講述し、現状での問題や課題を整理し、研究の動向と将来展望を考究する。さらには、衛星や探査機に搭載されるレーダについて、信号処理技術を中心に講述する。	准教授 教授 准教授	坂井真一郎 吉光 徹雄 福田 盛介
専攻共通	宇宙科学考究Ⅰ a	2	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員	
	宇宙科学考究Ⅰ b	2	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員	
	宇宙科学考究Ⅱ	4	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員	
	宇宙科学考究Ⅲ	4	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員	
	宇宙科学考究Ⅳ	4	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員	
	宇宙科学考究Ⅴ	4	宇宙科学の各専門分野別に分かれて輪講形式の授業を行う。	宇宙科学専攻各教員	
	宇宙科学特別研究Ⅰ	2	5年一貫制課程の2年次の学生を対象とし、1～2年次で各自が自分の専門テーマに沿って行った研究を論文の形にまとめ、口頭発表を行う。	宇宙科学専攻各教員	
	宇宙科学特別研究Ⅱ	2	博士後期課程の2年次及び5年一貫制課程の4年次の学生を対象とし、博士論文作成のために研究している研究課題について、研究の進行状況に関する中間報告書を作成し、口頭発表を行う。	宇宙科学専攻各教員	
	科学技術英語Ⅰ	2	和文論文の構成方法及び執筆方法に関して解説する(日本人むけ講義)とともに、英語のPresentationに関して英語圏の外人講師による講義と演習を行う。	教授 教授	八田 博志 堂谷 忠晴
	科学技術英語Ⅱ	2	英文論文の書き方に関して解説・演習する。講師には、英語圏の外人講師を外部から招聘して英語による講義を行う。	教授	八田 博志
宇宙科学演習	2	幅広い知見を獲得することを目的として学生が自ら企画した実質2週間以上の外部研修を単位化する。単位化の認定は学生の企画書と研修レポートを専攻運営委員会が審議して行う。			

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Space Structures and Materials 2	2	The lecture gives strengthening and toughening methods, forming methods and reliability evaluation techniques of various materials which construct spacecrafts.	Prof. Prof. Assoc.Prof.	Hiroshi Hatta Eiichi Sato Ken Goto
	Introduction of electronics and information for space applications	2	On board equipments of a satellite or a satellite system is the compound technology of a wide range of field. Especially communication engineering, attitude sensor technology, attitude control engineering, and satellite system design engineering are indispensable technology for a satellite system. The foundation and application are lectured with introduction of an example. Furthermore, a lecture is given from a principle to application also about the laser from which the application to a satellite is expected in recent years.	Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Zen-ichi Yamamoto Takahide Mizuno Tomoaki Toda
	Electronics and information for space applications I	2	The lecture gives basic circuit design and semiconductor device technologies with special emphasis on scientific foundations locating underneath the technologies. Special interest is put on low-noise radiation measurement in a space environment, reliability issues associated with space radiation and/or high temperature and RF integrated circuits and small antennas for space communication.	Prof. Prof. Assoc.Prof.	Hirokazu Ikeda Shigeo Kawasaki Kazuyuki Hirose
	Electronics and information for space applications II	2	The lecture gives the methods of attitude determination, attitude control, navigation and guidance of spacecraft, including sensors and actuators technologies. Furthermore, the lecture gives signal processing technique for onboard radars of satellites and spacecrafts.	Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Shin-ichiro Sakai Tetsuo Yoshimitsu Seisuke Fukuda
	Space science colloquium Ia	2	In depth insight into various fields of space science through discussion of colloquium type lectures.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
	Space science colloquium Ib	2	In depth insight into various fields of space science through discussion of colloquium type lectures.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
	Space science colloquium II	4	In depth insight into various fields of space science through discussion of colloquium type lectures.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
	Space science colloquium III	4	In depth insight into various fields of space science through discussion of colloquium type lectures.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
	Space science colloquium IV	4	In depth insight into various fields of space science through discussion of colloquium type lectures.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
	Space science colloquium V	4	In depth insight into various fields of space science through discussion of colloquium type lectures.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
	Thesis Progress Report I	2	Student makes a written progress report on his/her thesis-related research that he/she has pursued in the first and second years. Oral presentation of the report is also required.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
	Thesis Progress Report II	2	Student makes a written progress report on his/her thesis-related research that he/she has pursued in the third and fourth years. Oral presentation of the report is also required.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
	Scientific writing I	2	This class explicates "how to compose and write scientific articles expressed in Japanese", followed by lectures on scientific presentation and presentation practice	Prof. Prof.	Hiroshi Hatta Tadayasu Dotani
	Scientific writing II	2	Writing techniques of scientific articles are lectured by a native English lecturer in addition to a Soken-dai Professor. (for students of English as a second language)	Prof.	Hiroshi Hatta
	Field works	2	The credit of the field work is given to students for external studies voluntary planned by the students carried over a total period longer than 2 weeks. The credit is given through examination based on the plan and resulting report by course committee members.		

物理科学研究科 共通専門基礎科目概要

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
観測天文学概論	2	可視光・赤外線を用いた恒星、銀河、銀河団などの観測や電波望遠鏡、電波干渉計を用いた星間物質、星形成領域、活動銀河などの観測から得られる最新の宇宙像を観測天文学の立場から概説する。	准教授	奥村 幸子
理論天文学概論	2	銀河の形成と進化、ビッグバン宇宙論、恒星の誕生と進化、太陽系の起源など、宇宙から恒星、惑星に至る種々の天体階層について、天文学の基礎的内容をその共通性に着目しながら理論天文学の立場から概説する。	准教授	梶野 敏貴
宇宙物理学概論	2	天文学および太陽系科学の発展を概観し、様々な問題意識を掘り下げて将来を展望するとともに、主として衛星・探査機・観測ロケットなどの飛翔体を用いた研究手法について解説する。	宇宙科学専攻各教員	
宇宙工学概論	2	宇宙科学・宇宙開発の発展を概観し、宇宙開発の将来を展望するとともに、衛星・探査機・ロケットなどの宇宙システムに関するミッション解析、軌道決定、制御方策、プロジェクト管理などを含む設計技術について講述する。	宇宙科学専攻各教員	
量子分子科学	2	電子状態理論、分子と光の相互作用、分子の構造と緩和過程など、分子科学を理解するための基礎について講述する。	教授	斉藤 真司
化学エネルギー変換論	2	光合成・呼吸などの生物エネルギー変換の分子機構、およびそれらを規範とした人工化学エネルギー変換系の分子設計について講述する。	准教授	永田 央
有機半導体デバイス	2	分子の集合体を取り扱う有機半導体エレクトロニクスでは、有機ELテレビが商品化され、有機電界効果トランジスタ有機太陽電池が次のターゲットとして精力的に研究されている。本講義では、有機半導体の基礎科学およびデバイス応用について説明する。	教授	平本 昌宏
核融合科学概論	2	核融合炉を念頭においたプラズマ物理と炉システム工学の基礎について、核融合研究の歴史及び現状について触れながら講義する。聴講学生としては主に外国人留学生を対象とし、全て英語で講義する。核融合研究全体についての基礎的理解を得ることを目的とする。	核融合科学専攻各教員	
シミュレーション科学概論	2	計算科学の誕生から最先端のシミュレーション科学の発展に至るまでの歴史、および、スーパーコンピュータや科学的可視化手法と一体化したシミュレーション研究法について講述する。また、シミュレーション研究で発見された強い非線形複雑現象や自己組織化現象、さらにはシミュレーション結果と理論モデルとの関係、プラズマ現象の階層性についても講述する。	核融合科学専攻各教員	
制御工学概論	1	本講義では、実際のシステムにおいて制御設計することを念頭におき、制御工学基礎の概要および応用について講述する。特に応用に関しては実機的设计を例にあげて講述する。	天文科学専攻、 核融合科学専攻、 宇宙科学専攻各教員	
信号処理概論	1	デジタル化された物理計測信号のデータ解析に欠かせない各種デジタル信号処理の基礎理論について学習する。アナログ/デジタル変換から誤差、コード化、発見、フィルタリング、デジタル通信等の基礎を理解する。	天文科学専攻、 核融合科学専攻、 宇宙科学専攻各教員	
英語によるプレゼンテーション	1	英語による研究発表の能力を向上させるため、英語教育専門の講師を雇用して、発表原稿の作成方法や発表技術を、実習形式で習得させる。	各専攻基本コース担当教員、 外部講師	

School of Physical Sciences

Subject	Unit	Content of subject		
Introduction to Observational Astronomy [mandatory]	2	We will give a contemporary view of the Universe, obtained from optical, infrared, and radio observations on stars, interstellar matter, galaxy and cluster of galaxies.	Assoc.Prof	Sachiko Okumura
Introduction to Theoretical Astronomy [mandatory]	2	We will give a contemporary view of the Universe from a stand point of theoretical astronomy. Subjects includes galaxy formation and evolution, big-bang cosmology, formation and evolution of stars, and the origin of Solar system.	Assoc.Prof	Toshitaka Kajino
Space Science	2	Reviews of the development of astrophysics and solar system physics are given. Scientific issues are discussed and possible future plans are introduced. Methods of investigation using satellites, spacecraft and sounding rockets are also explained.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
Space Engineering	2	Technologies for space science, exploration, and utilization are overviewed. System design of launch vehicle and spacecraft, mission analysis of space systems, orbit control and determination, and project management are lectured by professional personnel in each field.	Dept.Space and Astronautical Science All the staff	
Quantum Molecular Science	2	This course covers quantum chemistry and spectroscopy. Topics include electronic structure theories, light-matter interactions, and spectroscopies which are essential to understand chemical bonds, molecular structures, and relaxation processes.	Prof.	Shinji Saito
Chemistry of Energy Conversion	2	The molecular mechanisms of the biochemical energy conversion including photosynthesis and respiration will be described. Also presented are the designs of artificial systems for conversions of chemical energies, inspired by biological systems.	Assoc.Prof	Toshi Nagata
Organic semiconductor devices	2	Organic EL television was commercialized last year. Next target of organic electronics is organic field-effect transistors and organic solar cells. Fundamental science of organic semiconductors and device applications are explained.	Prof.	Masahiro Hiramoto
Fundamentals of Fusion Science	2	The lecture is an introduction to basic plasma physics and reactor system engineering for nuclear fusion describing the history and present status of the fusion research. Lectures are given in English to facilitate the understanding of foreign students. The objective is to obtain the overall understanding of fusion research.	Members of dept. of fusion science	
Overview of Simulation Science	2	History from the birth of numerical computation through the development of the latest simulation science is reviewed as well as research methodology of the simulation science based on super-computers and graphical visualization. Non-linear and complex plasma phenomena and self-organization dynamics are explained. Relation between theoretical models and simulation results is explored and comparison among different physical hierarchies is outlined.	Members of dept. of fusion science	
Overview of Control Engineering	1	In this lecture, it is kept in mind to do the control design in an actual system. Basic principles and their applications are lectured on the control engineering. Especially, applications are given with examples of the design in real situations.	Members of dept. of astronomical science, dept. of fusion science and dept. of space and astronautical science	
Overview of Signal Processing	1	Basic theories of digital signal processing are explained that are indispensable for digitized data analyses of physics measurements. Fundamental principles for analog-to-digital conversion, error handling, encoding, data mining, filtering, and telecommunication are also reviewed.	Members of dept. of astronomical science, dept. of fusion science and dept. of space and astronautical science	
Training of Presentation in English	1	In order to facilitate presentations in international conferences, presentation techniques are trained by specialists in English conversation. This class emphasizes practice on how to present and how to prepare presentation documents.		

物理科学研究科 コース別特別科目概要

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員
<u>物理科学特別研究 I</u>	1	5年一貫制博士課程前期の必修科目である。物理科学に関する幅広い知識と高い専門性を身に付けさせることを目的とし、博士課程後期で選択するコース別教育のための準備を行うためのラボ・ローテーションである。物理科学研究科の複数の研究室において研究に参加する。それぞれの研究室での教育参加に対して1単位を認定し、一年次、二年次にわたって実施する。	全教員
<u>物理科学特別研究 II</u>	1		
<u>物理科学特別研究 III</u>	1		
先端物理科学考究	4	先端研究指向コースを選択した大学院生に対し、各自の外部副研究指導者によって、個々の研究課題に関連する知識を深化するための先端的な実験あるいは理論に関する講習が提供される。本科目は外部副研究指導者が所属する研究機関において履修することができる。	コース担当教員
先端物理科学演習	4	先端研究指向コースを選択した大学院生に対し、各自の外部副研究指導者によって、個々の研究課題を推進する技術および能力を獲得するための先端的な実験あるいは理論に関する演習が提供される。原則として、外部副研究指導者が所属する研究機関(国外であることが望ましい)において実施される。	コース担当教員
大規模プロジェクト特論	2	大規模プロジェクトの企画・開発・運用と国の科学技術戦略を学ぶとともに、学生が自身でプロジェクトを企画・提案し、研究費の申請、チームの組織化などについても実行できる能力を付けさせる。	コース担当教員
プロジェクト演習	4	研究企画を準備している若手研究者との共同作業を行う中から、大型プロジェクトの中で、規模の大小は問わずに1件以上の研究企画提案を自分で作成して実行できるように指導する。	コース担当教員
研究開発特論 I	2	基盤機関の教員と企業の研究者による、開発研究の事例、開発現場の実態、開発の成功体験、起業方法など、研究開発の企画やマネジメントに関する講義を行う。	コース担当教員
研究開発特論 II	2	基盤機関の教員と企業の研究者による、開発研究の事例、開発現場の実態、開発の成功体験、起業方法など、研究開発の企画やマネジメントに関する講義を行う。	コース担当教員

※斜字にアンダーラインの科目は5年1貫博士課程の必修科目

School of Physical Sciences

Subject	Unit	Content of subject	
<u>Special Study on Physical Sciences I</u>	1	Compulsory subjects for five-year course students. Laboratory rotation programs in preparing for the selection of separate course education program in the latter period of graduate course, with the scope of having students obtain broader intelligence and high level speciality. Students are requested to study in three different research laboratories. One credit is given for the study in each laboratory during the first and second grade.	All faculty members
<u>Special Study on Physical Sciences II</u>	1		
<u>Special Study on Physical Sciences III</u>	1		
Seminar on Advanced Physical Science Research	4	An intensive course (seminar/lecture/instruction etc.) is individually provided to each graduate student who participates in the advanced research course in order to deepen his/her knowledge in one's specific research field(s) by his/her visiting (ad hoc) supervisor(s). This subject can be taken at the institution of the individual visiting supervisor(s).	All faculties in the course
Exercise on Advanced Physical Science Research	4	Advanced experimental and/or theoretical exercises are provided to each graduate student who participates in the advanced research course in order to acquire his/her skill and capacity to promote one's specific research subject(s) by his/her visiting (ad hoc) supervisor(s). As a general rule, this subject is taken at the institution of the individual visiting supervisor(s) appointed outside the institution of the student, hopefully in a foreign country.	All faculties in the course
Special Program of Big Project Research	2	In the program, students study the planning, development and operation of a big project and learn about the national strategy of science and technology development. Students are trained to obtain ability of making by themselves the planning and proposing a project as well as requesting funding and organizing project team.	All faculties in the course
Exercise on Project Research	4	In the exercise, students collaborate with young researchers for preparing a research planning. Based on the experience of collaboration, they are requested to make their own proposal in a big project.	All faculties in the course
Special Program of Research and Development I	2	A special program is provided by an expertised engineer who is working for a research section in a company and has performed distinguished success in developing the most advanced instruments. Students collaborate with the engineer and study the most up-to-date technology, technology managements, and planning scheme of research and development.	All faculties in the course
Special Program of Research and Development II	2	A special program is provided by an expertised engineer who is working for a research section in a company and has performed distinguished success in developing the most advanced instruments. Students collaborate with the engineer and study the most up-to-date technology, technology managements, and planning scheme of research and development.	All faculties in the course

※ Diagonal and underline [mandatory] means graduate students must take these

3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要
(Outlines of Courses Provided by Each School/Department)

3-9-3. 高エネルギー加速器科学研究科 (School of High Energy Accelerator Science)

加速器科学専攻 (Dept. Accelerator Science) 授業科目概要……………122

物質構造科学専攻 (Dept. Materials Structure Science) 授業科目概要……………132

素粒子原子核専攻 (Dept. Particle and Nuclear Physics) 授業科目概要……………136

研究科共通専門基礎科目 (School of High Energy Accelerator Science)
授業科目概要……………142

加速器科学専攻授業科目概要

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
ビーム物理学	非線形力学特論	2	高次磁場やビームの作る電磁場など非線形な場の中での粒子の運動について解析的方法を中心に講述する。さらに、ヒステリシスなどカストロフに関連する非線形現象論を論じる。	教授 准教授	平田 光司 FOREST, Etienne
	ビーム電磁場解析	2	加速器においてビームはその周りのもの（空洞など）と電磁的に相互作用してウェイク場と呼ばれる電磁場を生成する。ウェイク場はビームの運動に影響を与え、ビームの集団的不安定性を引き起こすこともある。本授業では、このウェイク場の基礎と応用に関し、電磁場の数値的計算手法を含めて講述する。	准教授	陳 栄浩
	ビーム集団現象論	2	粒子集団に起因するビーム不安定性やビーム・ビーム効果についての理論解析と測定方法を包括的に講述する。	教授	大見 和史
	放射光発生機構論	2	マックスウエル方程式から放射光生成のメカニズムを説明したうえで、各種放射光源から得られる光の性質を明らかにする。また、放射光生成に向けたプロジェクトを紹介する。	教授 教授	鎌田 進 小林 幸則
	偏極ビーム特論	2	偏極電子・陽電子ビームの生成法と高エネルギー物理実験における偏極ビームの役割、偏極ビームの加速器内での運動、シンクロトロン輻射と電子偏極の関係について解説する。	教授 講師	横谷 馨 大森 恒彦
	ビーム加速原論	2	サイクロトロンやシンクロトロンでは荷電粒子の加速のため、加速空洞に定在波として励起する高周波電圧を利用してきた。最近その原理が実証された誘導加速シンクロトロンでは高周波電圧に代わって、1対1のトランスである誘導加速セルに発生する高圧パルスで荷電粒子を加速する。そこでのビーム物理を従来の円形加速器と対比させながら議論すると共に、鍵となる誘導加速装置を解説する。	教授	高山 健
ビーム開発	ビーム計測法概論	2	主として電子・陽電子円形加速器内のビームを電氣的に測定する方法について概論する。はじめに信号処理などに必要な基礎数学及びマイクロ波技術を習得し、ビームが作り出す信号を時間領域、周波数領域で表現できるようにする。これらを使い、円形加速器で一般的に使用するモニターの原理を、KEK 加速器群に設置されているモニターを例に紹介する。	准教授	飛山 真理
	光ビーム計測特論	2	光（放射光（可視光）、X線等）を用いた荷電素粒子ビーム特性の測定に必要な理論（放射光の発生とその性質、幾何光学、波面伝達等）、測定方法（結像系、干渉計、その他）とその必要な技術（ゲートカメラ、ストリークカメラ、X線検出器等）を学ぶ。	准教授	FLANAGAN, John
	ビーム性能開発概論	2	講義の最終目標は、衝突型加速器の性能を向上させるために、どういう手段が有効であるかを理解し、将来の加速器での性能向上のための手段について考察できるようにすることである。そのために、まずビーム運転の基礎になるビーム物理の基礎の理解から始まり、KEKBを例にとり、実際のビーム運転の方法、ビーム診断の方法、ルミノシティ調整の方法についての概説へと進み、最後に将来の加速器についての議論を行いたい。	准教授	船越 義裕
	ビーム安定性特論	2	ビームが真空ダクト内の電磁波、イオンあるいは電子と相互作用したときに生じるビームの不安定性について、その理論、観測方法および対策を講述する。	教授	福間 均

Department of Accelerator Science

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Beam physics	Advanced Course for Nonlinear Dynamics	2	Particle motions in nonlinear fields created by magnets and beam are studied mainly by analytical methods. Nonlinear phenomena of beams such as hysteresis and catastrophe are also covered.	Prof. Assoc.Prof.	HIRATA,Kohji FOREST, Etienne
	Analysis of Electromagnetic Field of Beams	2	In accelerators, a beam interacts electromagnetically with its surrounding structures such as accelerating cavities and produces electromagnetic fields called wake fields. The wake fields then act back on the beam behavior and may cause an unstable collective motion of the beam. In the present class, I will lecture on the basic of the wake field theory as well as its application, including the numerical computation method of wake fields in the existence of a beam.	Assoc.Prof.	CHIN,YongHo
	Theory of Collective Motion of Beams	2	Comprehensive study of theoretical analysis and measurements about beam-beam effects and beam instabilities.	Prof.	OHMI,Kazuhito
	Generation of Synchrotron Radiation	2	Generation mechanism of synchrotron radiation will be explained based on the Maxwell's equation. Characteristics of radiation from various kind of sources will be introduced together with some interesting accelerator projects for synchrotron radiation.	Prof. Prof.	KAMADA, Susumu KOBAYASHI, Yukinori
	Advanced Course for Polarized Beams	2	Main subjects are the generation of polarized electron/positron, the role of the polarized beams in high energy physics, dynamics of polarized beams in accelerators, and the radiative polarization of electron.	Prof. Lecturer	YOKOYA, Kaoru OMORI, Tsunehiko
	Principles of Beam Acceleration	2	Since the invention of cyclotron in 1931, all high energy circular accelerators have employed RFs as accelerating mediums, where standing waves excited in an RF cavity act on charged particles. Recently, an induction synchrotron has been demonstrated, where pulse voltages generated in 1-to-1 transformers placed along the beam orbit are used instead of RFs. Its beam dynamics and key parts will be put in contrast with that of a conventional synchrotron and cyclotron.	Prof.	TAKAYAMA, Ken
Beam Development	Beam instrumentation basics	2	This course covers the principles of beam instrumentation, mainly using electrical method ranging from DC to the RF region. In the beginning, we emphasize signal processing techniques to be able to handle the beam signal in both time domain and frequency domain. Next, we study microwave engineering essentials which will be needed to understand real beam monitors. After studying the theory of the techniques, the principles of beam instrumentation widely used in circular accelerators will be reviewed by showing real beam monitors in accelerators at KEK.	Assoc.Prof.	TOBIYAMA, Makoto
	Beam measurement with photons	2	This course will cover the theory and techniques needed for the measurement of charged-particle beam properties using synchrotron radiation in both visible and x-ray regions. Theoretical topics covered include: characteristics of synchrotron radiation, geometrical optics, and wavefront propagation. Measurement techniques such as imaging and interferometry will be studied, as well as specific technologies required, such as gated cameras, streak cameras, x-ray detectors, etc.	Assoc.Prof.	FLANAGAN, John
	An introduction to development of beam performance	2	The goal of this lecture is to understand what methods have been effective to improve performance of the existing colliding accelerators and to deliberate effectiveness of those methods in the future machines. To this end, we start with the beam physics as a basis of the beam operation and move on to a quick look at methods of the beam operation such as beam diagnostics and luminosity tuning at KEKB. Based on those, we will discuss issues of the future colliders.	Assoc.Prof.	FUNAKOSHI, Yoshihiro
	Advanced Course for Beam Stability	2	This course introduces beam instabilities which are caused by the interaction of beam with electromagnetic field, ions or electrons. The course includes the theory, measurements and measures of the beam instabilities.	Prof.	FUKUMA, Hitoshi

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
加速器計画と設計	加速器設計概論	2	この講義では、加速器のビームの基本的性質を概括した上で、ビームの発生・加速・輸送・蓄積・衝突・取り出し・測定・制御に必要な基本的装置を設計するための基礎知識の概論を行う。	教 授	生出 勝宣
	線形加速器設計特論	2	マイクロ波を用いた線形加速器を基礎から学ぶ。とくに電子・陽電子線形加速器についてKEK電子・陽電子リニアックを例として原理から実際のビーム調整の手法まで幅広く解説する。電磁気学、力学などの基礎的学力を前提とするが、適宜加速器に関わる部分を勉強し直ししながら進める。	准教授	小川雄二郎
	円形加速器設計特論	2	単粒子力学を基礎に、ビーム光学系設計を中心として、円形加速器の設計方法を講述する。	教 授	小磯 晴代
	放射光源加速器特論	2	本講義は、放射光源加速器のラティス設計における基本的な知識の習得を目的に行う。	教 授	小林 幸則
	陽子加速器特論	2	大強度陽子加速器 J-PARC のビーム光学、および関連するビームダイナミクスについて講述する。J-PARCにおいて用いられている構成機器の設計や特徴についても述べる。	教 授	小関 忠
	コライダー特論	2	リング型コライダー加速器および線形コライダー加速器の設計上の特色について講義を行う。コライダーの一番の目的である高いルミノシティで運転するため、必要となるビーム技術について解説し、付随して起きてくるいろいろなビーム不安定性についてその物理過程の理解と各種対策技術について具体的例を上げながら説明を行なう。	准教授	早野 仁司
	次世代先端加速器計画・技術開発特論	2	エネルギーフロンティア粒子／量子ビーム物理を切拓く次世代先端加速器計画と、それを支える技術開発、将来への展望を講述する。そして、先端加速器科学が拓く、広範な科学技術、産業、社会生活への応用を展望する。	教 授	山本 明
加速器基礎技術	エレクトロニクス概論	2	本講義は、加速器技術とこれに関連する研究開発に必要なエレクトロニクスの基礎知識の習得を目的とする。内容は、電気回路の基礎、伝送回路、過渡現象、フィードバック、電子回路の基礎、測定装置などの基礎事項を取り上げる。特に、等価回路網による基本的な解析を通してビーム信号検出や加速空洞など、加速器の基本となる加速とビーム信号検出の原理を紹介する。また、電子回路においては、パルス信号検出に必要な回路設計、雑音解析、測定器などを取り上げ、主にビーム信号の検出回路とフィードバックに関連した回路技術を紹介する。	講 師	諏訪田 剛
	加速器制御システム概論	2	加速器及びビームの制御におけるシステム設計や運転環境の実装の方法について講述する。制御システムは加速器の全ての分野と関わりを持ち有機的に結合した加速器システムを構築する。その加速器制御を構成する計算機システム、制御ソフトウェア、ネットワークシステム、入出カインターフェース、タイミングシステム、ビーム安全システム、利用者安全システムなどをどのような方針で設計し実装するかについて実際の加速器の例を示して理解を深める。また、大型の加速器において信頼性を向上させる技術、制御システムを通してビームの安定度を向上させる技術についても議論する。	准教授 准教授 准教授 助 教	古川 和朗 山本 昇 上窪田紀彦 佐藤 政則
	超伝導・低温技術概論	2	超伝導低温技術の基礎と応用・概論：加速器科学における超伝導低温技術応用の為の基礎を講述。超伝導磁石および超伝導加速空洞の応用について概観。	教 授 准教授	荻津 透 大内 徳人

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Design of Accelerator Projects	An introduction to designing accelerator	2	Introductory lectures on the beam dynamics and primary knowledge for designing accelerators and the basic components for generation, acceleration, transportation, storage, collision, extraction, diagnostic, and control of their beams.	Prof.	OIDE, Katsunobu
	Advanced course for linear accelerator design	2	Lectures on linear accelerators (linac) with particular emphasis upon electron linacs using microwaves. They will cover not only underlying theories of linacs but various beam diagnostic methods comprising techniques of beam tuning and controls.	Assoc.Prof.	OGAWA, Yujiro
	Design of Circular Accelerators	2	Lectures on design of circular accelerators, mainly design of beam optics based on single particle dynamics.	Prof.	KOISO, Haruyo
	Basic lecture on synchrotron radiation light sources	2	This lecture is aimed to obtain basic knowledge on a lattice design of synchrotron radiation sources.	Prof.	KOBAYASHI, Yukinori
	Advanced course for proton accelerators	2	Lectures on the beam optics of the high power proton accelerator J-PARC and related beam dynamics. They include designs and characteristics of J-PARC accelerator components .	Prof.	KOSEKI, Tadashi
	Collider Accelerators	2	The design characteristics of ring collider and linear collider are lectured. The main operational parameter, luminosity, is the highest priority in the collider accelerator. In order to achieve high luminosity, required beam technologies and countermeasure technologies against beam instabilities in the collider are lectured by supplying understanding of physical process of beam instabilities and by showing realistic examples.	Assoc.Prof.	HAYANO, Hitoshi
	Advanced Accelerator Designs and Technologies in Next Generation	2	Future prospect for advanced accelerators and technologies is lectured from a view point of energy-frontier particle physics and quantum-beam physics development. The lecture is extended to prospect the application of advance accelerator science and technology in general science and industrial technology as well as in our human life.	Prof.	YAMAMOTO, Akira
Accelerator Technology	An Introduction to Electronics	2	A series of this lecture provides a comprehensive introduction to the basic theory of electrical circuits for students in the accelerator sciences. The methods of circuit analysis are clearly explained and illustrated with the aid of numerous worked examples. Applications of the theory relevant to the fields of accelerator technologies and researches are treated throughout. The lecture contents covered in the 1st semester (half a year) are that electric-circuit basic, transmission-line circuits, electrical transient response, feedback circuits, electronic-circuit basic, signal detection techniques, etc.	Lecturer	SUWADA, Tsuyoshi
	Introduction to accelerator control system	2	Introduction to the accelerator and beam control is provided. Design policies and actual implementations are explained with examples for accelerator control components such as computer system, control software, network system, input/output interface, timing system, machine-protection system, and personnel-protection system. A technique to improve the beam stabilities through the control system is also discussed.	Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof.	FURUKAWA, Kazuro YAMAMOTO, Noboru KAMIKUBOTA, Norihiko SATO, Masanori
	Introduction to superconducting technology and cryogenics engineering	2	Basics and applications of superconducting technology and cryogenic engineering: Basics of the superconducting technology and cryogenics engineering for accelerator science will be lectured. Application of superconducting magnets and superconducting RF cavities will be introduced.	Prof. Assoc.Prof.	OGITSU, Toru OHUCHI, Norihito

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
加速器基礎技術	低温技術特論	2	超伝導機器の設計に必須であるクライオスタットの設計法を通じて低温技術の基礎知識習得を目指す。講義ではこれまでに製作された超伝導機器用クライオスタットの実例を取り上げ、その設計ポイントである支持構造や断熱設計等の詳細検討を行う。演習として小型クライオスタットの設計を行う。	講 師 講 師	木村 誠宏 鈴木 敏一
	冷却技術特論	2	加速器で使用される超伝導機器を極低温に冷却するためのヘリウム液化・冷凍機の基礎を講述し、近年需要が増大している超流動ヘリウムを用いた冷却システムについて概観する。	教 授 講 師	細山 謙二 仲井 浩孝
	ビーム源概論	2	電子ビーム発生装置（電子銃）設計の基礎、及び光カソードやマイクロ波電子銃等の新技术を講述する。	教 授	大沢 哲
磁場の科学	電磁石概論	2	電磁石の基礎となる磁気回路、電磁石用強磁性体の磁気発現機構について講述。	准教授 教 授	増澤 美佳 土屋 清澄
	電磁石設計・計測特論	2	電磁石の基本設計、計算コードによる詳細設計について講述。また高精度の磁場測定法について講述。	准教授	江川 一美
	電磁石電源概論	2	加速器電磁石電源の基本設計について概説する。高電圧、大電流パルス電源やDC電源の基礎、及び速い繰り返しのシンクロトロン電磁石を励磁するために用いられる共振ネットワークの設計方法について紹介する。	准教授 准教授 助 教	徳田 登 安達 利一 三増 俊広
	超伝導磁石特論	2	加速器用超伝導磁石の基礎および設計・製法について講述する。また、エネルギーフロンティアにおける高磁場磁石や小型加速器用磁石など最近の磁石技術についても概説する。	教 授 講 師	土屋 清澄 中本 建志
高周波加速の科学	高周波システム概論	2	ビーム加速に用いる高周波システムの概要について講述。	准教授	坂中 章悟
	加速空洞概論	2	進行波型、定在波型、リエントラント型などのさまざまな高周波空洞の基礎について講述。	教 授	伊澤 正陽
	ビーム加速科学特論	2	ビーム不安定性をもたらすウェーク場やインピーダンスおよびビーム負荷の基礎概念とその対策について講述。	教 授 准教授	影山 達也 森田 欣之
	超伝導空洞特論	2	放射光源や衝突型加速器などに用いられる超伝導高周波空洞の基礎および応用について講述。	教 授 教 授	古屋 貴章 野口 修一
	大電力高周波特論	2	大電力高周波の発生、伝送、制御技術等について講述。	教 授 教 授	福田 茂樹 浦川 順治
真空の科学	真空科学概論	2	気体分子運動論、吸着現象、計測、真空排気、真空材料など真空に関する科学・技術の基礎（前期課程向け）	教 授 教 授	金澤 健一 齊藤 芳男
	真空科学応用特論	2	加速器における真空の科学と技術。圧力分布計算法や、二次電子放出（含む電子雲）、放電、摩擦、接触抵抗、接合など各種表面・界面現象の概説（後期課程向け）	教 授 教 授 准教授 准教授 准教授 准教授	金澤 健一 齊藤 芳男 末次 祐介 加藤 茂樹 堀 洋一郎 道園真一郎

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Accelerator Technology	Cryogenics Engineering with a seminar	2	It aims to study on the basic knowledge of the low temperature technology through the design method of the cryostat indispensable to design the superconducting equipment. The example of the cryostat for the superconducting equipment that has been produced is taken up in the lecture, and structure and thermal insulation technique, etc. that are the design points are examined in detail. A small cryostat is designed as a seminar.	Lecturer Lecturer	KIMURA, Nobuhiro SUZUKI, Toshikazu
	Advanced Course for Refrigeration Techniques	2	Fundamentals of helium liquefier/refrigerator for superconducting devices in accelerators, and an introduction to superfluid helium refrigeration systems.	Prof. Lecturer	HOSOYAMA, Kenji NAKAI, Hiroataka
	Introduction to Electron Beam Sources	2	Design of electron beam sources (electron guns) and related new developments, such as photocathode guns and rf guns.	Prof.	OHSAWA, Satoshi
Science of Magnetics	Introduction to magnets	2	Lectures on magnetization of ferromagnetic substances and magnetic flux circuits.	Assoc.Prof. Prof.	MASUZAWA, Mika TSUCHIYA, Kiyosumi
	Advanced course on magnets design and measurements	2	Lectures on fundamental design of magnets, and detailed computer-based designing. Precision measurement of magnetic fields is also covered.	Assoc.Prof.	EGAWA, Kazumi
	Introduction to magnet power supplies	2	Introduction to accelerator magnet power supplies. Lectures cover high power, high current pulsed power supplies and DC power supplies, as well as resonant networks for high-repetition-rate magnets.	Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof.	TOKUDA, Noboru ADACHI, Toshikazu MIMASHI, Toshihiro
	Advanced Course for superconducting magnets	2	Lectures on fundamentals, design and manufacturing of superconducting magnets for accelerators. Includes introduction to recent developments in magnetic technologies for compact accelerators and high field-strength magnets for energy-frontier machines.	Prof. Lecturer	TSUCHIYA, Kiyosumi NAKAMOTO, Tatsushi
Science of Radio-Frequency Acceleration	Introduction to Microwave Engineering	2	Introduction to high frequency circuits and high-power, high-field technology for rf acceleration systems.	Assoc.Prof.	SAKANAKA Shogo
	Introduction to Accelerating Cavities	2	Various types of accelerating cavities such as traveling wave type, standing wave type, re-entrant type, etc.	Prof.	ISAWA, Masaaki
	Advanced Course for Beam Acceleration Science	2	Basic concepts of the wake field, impedance and beam-loading and technologies to cure them by acceleration cavity design and control technique.	Prof. Assoc.Prof.	KAGEYAMA, Tatsuya MORITA, Yoshiyuki
	Advanced Course for Superconducting Cavities	2	Design principles, fabrication technology and operational aspect of superconducting cavities for light sources, colliding accelerators and other accelerators.	Prof. Prof.	FURUYA, Takaaki NOGUCHI, Shuichi
	Advanced Course for High Power Microwave Engineering	2	Basic technologies for generation, transmission and control of high power rf systems.	Prof. Prof.	FUKUDA, Shigeki URAKAWA, Junji
Vacuum Science and Technologies	Basic concepts of vacuum science and technology	2	Outline of gas molecule dynamics, molecular flow, gas-surface interactions are introduced. Methods of vacuum pressure measurement and characteristic properties of the materials for use as vacuum components are also presented.	Prof. Prof.	KANAZAWA, Ken-ichi SAITO, Yoshio
	Vacuum science and technologies applied to accelerators	2	Surface phenomena in accelerators, such as secondary electron emission, photodesorption and electrical breakdown in vacuum are described. Further, vacuum system design and pressure distribution calculation are to be studied.	Prof. Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	KANAZAWA, Ken-ichi SAITO, Yoshio SUETSUGU, Yusuke KATO, Shigeki HORI, Yoichiro MICHIZONO, Shinichiro

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
コンピュータ・サイエンス	計算科学概論	2	高エネルギー物理学分野で必要とされる計算科学の基礎と応用について講述する。	教授 准教授 准教授 助教	野崎 光昭 湯浅 富久子 森田 洋平 刈田 幸雄 岩井 剛
	ソフトウェア工学特論	2	ソフトウェア開発方法論、各種言語の概論、データベースなど、ソフトウェア工学全般に付いて講ずる。	教授 講師 助教	佐々木 節 柴田 章博 村上 直
	シミュレーション学特論	2	素粒子物理学に関連する問題を、計算機上のシミュレーションによって解く方法について、具体的な例を踏まえながら講述する。	教授 准教授 助教	金子 敏明 石川 正 松古 栄夫 村上 晃一
	データ収集法特論	2	高エネルギー物理学実験で利用されている計算機をつかったデータ収集、データ解析技術について講義する。	教授 准教授 助教	真鍋 篤 鈴木 聡 鈴木 次郎
放射線の科学	放射線遮蔽特論	2	各種放射線に対する遮蔽方法、遮蔽材料、及び放射線施設の遮蔽設計について講述し、輸送シミュレーションの実習を行う。	教授 准教授 助教	伴 秀一 波戸 芳仁 岩瀬 広
	放射線計測概論	2	各種放射線（荷電粒子、光子、中性子）の物質との相互作用及び物理化学的効果について講述し、加速器で発生する各種の放射線の種類、エネルギー、強度などを計測する原理と装置について講述する。	教授 准教授 助教	佐々木 慎一 俵 裕子 佐波 俊哉
	表面分析法概論	2	電磁波や荷電粒子などをプローブとする種々の表面および界面分析法の原理と装置、その特徴と実材料への応用例、加速器冷却水中の機器の例を講述する。	教授 講師	文珠 四郎秀昭 別所 光太郎
	放射線防護特論	2	放射線の人体に対する影響の基礎。放射線防護の観点から、加速器の利用に伴う周辺の放射線場の特徴、放射化の機構、線量評価等を講述する。	教授 助教	榎本 和義 松村 宏
加速器開発のための機械工学	機械設計工学概論	2	加速器装置を具体的に設計製作するときに、機械工学上必要な機械設計、材料力学、機械要素を扱う。	教授 准教授 助教 助教	上野 健治 東 保男 久米 達哉 江並 和宏
	機械工作基礎論	2	加速管、加速空洞などの加速部の主要な装置（部品）を製作する機械工作に関する科目、具体的には超精密加工、精密測定、切削/研削加工等を扱う。	准教授 助教 助教	東 保男 久米 達哉 江並 和宏
	表面工学基礎論	2	加速管、空洞製作に必要な表面処理技術、接合技術、溶接技術における拡散物理、固相接合、溶接等について、加速器の性能評価の立場、及び機械工学の立場の両面から扱う。	准教授 准教授 准教授	東 保男 肥後 寿泰 早野 仁司
	材料基礎論	2	加速器製作に関係する金属材料、金属材料結晶学、弾塑性変形学等について、加速管の性能に影響する放電現象との関係等を踏まえて加速器の性能評価の立場、及び機械工学の立場の両面から扱う。	教授 准教授 准教授	上野 健治 東 保男 肥後 寿泰

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Computer Science	Introduction to Computer Science	2	This course introduces an overview of computer science, basic hardware concepts, basic programming principles required in High Energy Physics Field.	Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof.	NOZAKI,Mitsuaki YUASA,Fukuko MORITA,Youhei KARITA,Yukio IWAI,Go
	Software Engineering	2	This course covers wide field of software engineering such as software development methodologies, computer languages and database.	Prof. Lecturer Assist.Prof.	SASAKI,Takashi SHIBATA,Akihiro MURAKAMI,Tadashi
	Advanced Course for Computer Simulations	2	Methods of computer simulations in elementary particle physics with practical examples.	Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof. Assist.Prof.	KANEKO,Toshiaki ISHIKAWA,Tadashi MATSUFURU,Hideo MURAKAMI,Koichi
	Data acquisition and analysis methods in High Energy Physics	2	This course covers the methodologies on on-line data acquisition and analysis techniques in High Energy Physics.	Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof.	MANABE, Atsushi SUZUKI, Soh SUZUKI, Jiro
Radiation Science	Advanced Course for Radiation Shielding	2	Shielding methods and materials for various types of radiation in matter, shield design for radiation facilities. Radiation transport simulation.	Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof.	BAN, Syuichi NAMITO, Yoshihito IWASE, Hiroshi
	Introduction to Radiation Detection and Measurement	2	Characteristics of various types of radiation (charged particles, photons, neutrons) and their interactions with matter. An introductory treatment of detection and measurement for radiation generating in accelerators which, nevertheless, extends to a detailed account of detector types, properties and functions.	Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof.	SASAKI, Shinichi TAWARA Hiroko SANAMI, Toshiya
	Introduction to Surface Analysis	2	Basic concepts, instruments, and characteristics of surface analysis techniques using electromagnetic waves and/or charged particles will be presented with their materials applications.	Prof. Lecturer	MONJYUSHIRO, Hideaki BESSHO, Kotaro
	Advanced Course for Radiation Protection	2	Introduction of radiation effect on human health. Characteristics of radiation fields, mechanism of induced radioactivity and dose estimation for radiation protection at accelerator facilities.	Prof. Assist. Prof.	MASUMOTO, Kazuyoshi MATSUMURA, Hiroshi
Mechanical Engineering for Accelerator Development	Introduction to Mechanical Design	2	This course provides an introduction to mechanical design, material strength and machine components used in mechanical engineering for the design of accelerator devices.	Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof. Assist.Prof.	UENO, Kenji HIGASHI, Yasuo KUME, Tatsuya ENAMI, Kazuhiro
	Fundamentals of Mechanical Machining	2	This course provides an introduction to ultra-precision machining, precision measurement and machining/grinding of the primary parts of accelerator cavities and structures.	Assoc.Prof. Assist.Prof. Assist.Prof.	HIGASHI, Yasuo KUME, Tatsuya ENAMI, Kazuhiro
	Fundamentals of Surface Engineering	2	Surface treatment, bonding technology and welding technology for manufacturing accelerator structures and cavities; the physics of surface cleanliness, diffusion physics, solid bonding and welding are covered from the viewpoints of both mechanical engineering and the evaluation of the structure or cavity.	Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	HIGASHI, Yasuo HIGO, Toshiyasu HAYANO, Hitoshi
	Fundamentals of Material Science	2	Metallic materials, metallic material crystallography, and elastoplasticity based on structure performance are covered from the viewpoints of both mechanical engineering and the evaluation of the structure or cavity.	Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	UENO, Kenji HIGASHI, Yasuo HIGO, Toshiyasu

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員
共 通	加速器科学特別演習ⅠA	2	KEKの諸施設を活用して、加速器科学に関する専門知識を習得する。	担当教員全員
	加速器科学特別演習ⅠB	2		
	加速器科学特別演習ⅡA	2		
	加速器科学特別演習ⅡB	2		
	加速器科学特別演習ⅢA	2		
	加速器科学特別演習ⅢB	2		
	加速器科学特別研究ⅣA	2		
	加速器科学特別研究ⅣB	2		
	加速器科学特別研究ⅤA	2		
	加速器科学特別研究ⅤB	2		

Field	Subject	Unit	Content of subject	
	Special Exercise for Accelerator Science I A	2	Exercise on accelerator science.	All Faculty Members
	Special Exercise for Accelerator Science I B	2		
	Special Exercise for Accelerator Science II A	2		
	Special Exercise for Accelerator Science II B	2		
	Special Exercise for Accelerator Science III A	2		
	Special Exercise for Accelerator Science III B	2		
	Special Exercise for Accelerator Science IV A	2		
	Special Exercise for Accelerator Science IV B	2		
	Special Exercise for Accelerator Science V A	2		
	Special Exercise for Accelerator Science V B	2		

物質構造科学専攻授業科目概要

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
放射光光源計測科学	放射光光源論Ⅰ	2	放射光発生原理、電子蓄積リングの構造と機能、光を各種実験装置へ導く加速器技術に関して講述する	教授	前澤 秀樹
	放射光光源論Ⅱ	2	各種放射光の発生原理、偏光性、可干渉性、光ビーム特性の評価と診断、自由電子型レーザー発振の機構、等について講述する	教授	山本 樹
	放射光計測論Ⅰ	2	放射光の散乱、回折、吸収等の現象を測定し解析する為の実験装置の特性、構造と機能、実験上の誤差等について講述する	教授	野村 昌治
	放射光計測論Ⅱ	2	放射光実験で用いられる放射線検出器とその使用例について講述する	准教授	岸本 俊二
	放射光回折散乱論	2	放射光の物質による回折、散乱現象の物理に関して講述する	教授	河田 洋
	X線結像光学	2	X線の吸収、散乱、位相、屈折、伝搬などを用いて物質内部を可視化するための原理と、その応用について講述する。	准教授	平野 馨一
	放射光原子分子分光光学	2	原子分子の光電離に関して、その基礎概念、及び電子相関の効果、等を講述する。	教授	柳下 明
	放射光固体分光Ⅰ	2	円偏光放射光を用いた固体分光、特にナノ物質の電子状態に関して講述する	准教授	小出 常晴
	放射光固体分光Ⅱ	2	放射光を用いた固体の光電子分光、特に磁性体の電子状態に関して講述する	准教授	小野 寛太
	X線吸収分光計測化学Ⅰ	2	放射光を用いて、物質に関する各種の化学的情報を計測する為の原理と、その応用について講述する	教授	飯田 厚夫
	X線吸収分光計測化学Ⅱ	2	X線吸収および蛍光X線発光を用いた化学研究について講述する。	教授	野村 昌治
	放射光応用医学	2	放射光を用いた医学応用に関して、社会的背景、画像情報を得るための原理とその応用、治療への応用、医学研究の倫理を講述する。	講師	兵藤 一行
放射光物質構造科学	物質構造科学原論	2	物質構造科学の基礎的概念について講述する。	教授	下村 理
	生体分子構造解析論Ⅰ	2	蛋白質等、生命体を構成する生体高分子の構造を放射光回折によって決定する方法を講述する。	教授	若槻 壮市
	生体分子構造解析論Ⅱ	2		准教授	加藤 龍一
	分子生物学Ⅰ	2	現代生物学の基礎となった分子生物学について、遺伝子と細胞レベルでの知見について講述する。	准教授	加藤 龍一
	分子生物学Ⅱ	2		准教授	加藤 龍一
	放射光生物物理	2	生物中の細胞、遺伝子、高分子が、放射光照射を受けた事により起こす変化に関して講述する。	准教授	小林 克己
	放射光構造物性論	2	放射光を利用した構造物性研究について、強い電子相関の問題等を中心にして講述する。	教授	村上 洋一
	放射光動的構造解析論	2	放射光のパルス性を用いた動的構造解析法に関して講述する。	准教授	足立 伸一
	極端紫外分子分光	2	極端紫外分光法の基礎について講述し、この手法をもちいての分子科学研究の展開について述べる。	教授	伊藤 健二
	放射光表面分光科学Ⅰ	2	放射光を利用した表面化学研究の原理とその応用に関して講述する。	准教授	間瀬 一彦
	放射光表面分光科学Ⅱ	2	回折格子を用いた軟X線分光法の基礎、およびそれを用いた表面の原子構造・電子状態の解析について講述する。	准教授	雨宮 健太

Department of Materials Structure Science

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Synchrotron Radiation Sources and Instrumentation	Fundamentals of Synchrotron Radiation I	2	Lectures on the principle of synchrotron radiation generation and the properties and function of the electron storage ring.	Prof.	MAEZAWA, Hideki
	Fundamentals of Synchrotron Radiation II	2	Lectures on the foundation of synchrotron radiation production, polarization and coherence of radiation.	Prof.	YAMAMOTO, Shigeru
	Synchrotron Radiation Instrumentation I	2	Lectures on the characteristics, mechanism, function and accuracy of devices used in a synchrotron radiation facility.	Prof.	NOMURA, Masaharu
	Synchrotron Radiation Instrumentation II	2	Lectures on the radiation detectors for synchrotron radiation experiments and on their advanced uses.	Assoc.Prof.	KISHIMOTO, Shunji
	X-ray Diffraction and Scattering by using Synchrotron Radiation	2	Lectures on the physics of X-ray diffraction/scattering phenomena by using synchrotron radiation.	Prof.	KAWATA, Hiroshi
	X-ray Imaging Optics	2	Lectures on the principle, the technique and applications of x-ray imaging optics using synchrotron radiation.	Assoc. Prof.	HIRANO, Keiichi
	Atomic and Molecular Spectroscopy with Synchrotron Radiation	2	Lectures on the basics of photo-excitation and photo-ionization of atoms and molecules by means of VUV-SX synchrotron radiation.	Prof.	YAGISHITA, Akira
	Solid State Spectroscopy Using Synchrotron Radiation I	2	Lectures on solid state spectroscopy, in particular electronic structures of nanomaterials, using circularly polarized synchrotron radiation.	Assoc.Prof.	KOIDE, Tsuneharu
	Solid State Spectroscopy Using Synchrotron Radiation II	2	Lectures on solid state spectroscopy, in particular magnetic properties, using synchrotron radiation.	Assoc.Prof.	ONO, Kanta
	X-ray Absorption Spectroscopy and Spectrometry for Chemistry I	2	Lectures on the principle, the technique and applications of analytical chemistry using synchrotron radiation.	Prof.	IIDA, Atsuo
	X-ray Absorption Spectroscopy and Spectrometry for Chemistry II	2	Lectures on the X-ray absorption and fluorescent X-ray emission spectroscopies for the chemistry.	Prof.	NOMURA, Masaharu
Medical Application of Synchrotron Radiation	2	Lectures on the principle and applications of medical imaging and radiation therapy using synchrotron radiation and the outline concerning medical ethics.	Lecturer	HYODO, Kazuyuki	
Synchrotron Radiation Materials Structure Science	Fundamentals of Materials Structure Science	2	Lectures on the basics of Materials Structure Science	Prof.	SHIMOMURA, Osamu
	Structure Biology I	2	Lectures on synchrotron X-ray crystallographic analysis of bio-macromolecules.	Prof.	WAKATSUKI, Soichi
	Structure Biology II	2		Assoc.Prof.	KATO, Ryuichi
	Molecular Biology I	2	Lectures on molecular biology from genes to cells, which is based on modern biology.	Assoc.Prof.	KATO, Ryuichi
	Molecular Biology II	2		Assoc.Prof.	KATO, Ryuichi
	Synchrotron Radiation Biophysics	2	Lectures on synchrotron radiation effects on cells, genes, and bio-polymers.	Assoc. Prof.	KOBAYASHI, Katsumi
	Synchrotron Radiation Structural Physics	2	Lectures on the structural physics by synchrotron radiation, emphasizing the importance of the strongly correlated electron system.	Prof.	MURAKAMI, Youichi
	Dynamic Aspects of Materials Structure	2	Lectures on dynamic aspects of materials structure revealed by utilizing pulsed nature of SR.	Assoc. Prof.	ADACHI, Shin-ichi
	VUV Molecular Spectroscopy	2	Basic concepts of VUV spectroscopy and its application to molecular science will be surveyed.	Prof.	ITO, Kenji
	Synchrotron Radiation Surface Spectroscopy I	2	Lectures on the principle of surface chemistry using synchrotron radiation and its applications.	Assoc. Prof.	MASE, Kazuhiko
	Synchrotron Radiation Surface Spectroscopy II	2	Lectures on the basics of soft X-ray spectroscopy with a diffraction grating and its application to atomic and electronic structure analyses of surface.	Assoc. Prof.	AMEMIYA, Kenta

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
中性子ミュオン科学	中性子回折散乱論Ⅰ	2	中性子回折、中性子散乱、等から得られる微視的情報と、物質の巨視的性質や機能との関係につき講述する。	教 授	池田 進
	中性子回折散乱論Ⅱ	2	種々の物質による中性子線の散乱、回折現象に関し基礎から応用までを講述する。	教 授	大友 季哉
	中性子回折散乱論Ⅲ	2	中性子散乱測定によって得られる物質の磁氣的励起状態に関して講述する。	准教授	伊藤 晋一
	中性子結晶学	2	複合材料、ナノ材料等における中性子結晶構造研究を講述する。	教 授	神山 崇
	中性子光学概論	2	中性子ビームの性質を制御するための分光器、ミラー、レンズなどの光学素子、それらを組み合わせた光学系について講述する。	教 授	清水 裕彦
	ソフトマター物理学基礎論	2	高分子、液晶、コロイド、両親媒性分子系などの「ソフトマター」と呼ばれる物質系を、物性物理学的な立場からどのように理解するかについて概説する。	教 授	瀬戸 秀紀
	ミュオン科学	2	ミュオンやパイオンを用いた中間子科学研究の基礎につき講述する。	教 授	三宅 康博
	ミュオン物性科学	2	ミュオン・スピンの回転、緩和、共鳴を用いた物質の磁性や水素の挙動の研究につき講述する。	教 授	門野 良典
共通	物質構造科学特別演習Ⅰa	2	高エネルギー加速器研究機構の諸施設を利用して、物質構造科学に関する基本的な手法および専門的知識を習得する。	専攻担当教員全員	
	物質構造科学特別演習Ⅰb	2			
	物質構造科学特別演習Ⅱ	4			
	物質構造科学特別研究Ⅰ	4	物質構造科学の基礎的、先端的、応用的個別研究課題について指導教員のアドバイスの下に研究する。		
	物質構造科学特別研究Ⅱ	4			
	物質構造科学特別研究Ⅲ	4			
	物質構造科学特別研究Ⅳ	4			
	物質構造科学特別研究Ⅴ	4			

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Neutron and Muon Science	Neutron Diffraction and Scattering I	2	Lectures on the relation between the microscopic information obtained by neutron diffraction/scattering and the macroscopic properties of the matter.	Prof.	IKEDA,Susumu
	Neutron Diffraction and Scattering II	2	Lectures on the fundamentals and applications of the neutron scattering/diffraction by various materials.	Prof.	OTOMO, Toshiya
	Neutron Diffraction and Scattering III	2	Lectures on the magnetic state of materials obtained by the neutron scattering.	Assoc.Prof.	ITOH,Shinichi
	Neutron Crystallography	2	Lectures on the crystallographic research of composites and nanomaterials by neutron structure analysis.	Prof.	KAMIYAMA, Takashi
	Fundamentals of Neutron Optics	2	Lectures on the functions of monochromators, mirrors and lenses for neutron instrumentation.	Prof.	SHIMIZU, Hirohiko
	Soft Condensed Matter Physics	2	Properties of soft condensed matters such as polymers, liquid crystals, colloids, and amphiphilic molecules will be explained from the viewpoint of physics.	Prof.	SETO,Hideki
	Muon Science	2	Lectures on the basics of meson physics by muon and pion interaction with matters.	Prof.	MIYAKE, Yasuhiro
	Muon-probed condensed matter physics	2	Applications of muon spin rotation, relaxation, resonance to the studies of magnetism and hydrogen-related phenomena is lectured.	Prof.	KADONO, Ryosuke
Special Exercise for Materials Structure Science Ia	2	Seminars and laboratory exercise to understand the principle and techniques in Materials Structure Science through extensive use of KEK facilities.	All Faculty Members		
Special Exercise for Materials Structure Science Ib	2				
Special Exercise for Materials Structure Science II	4				
Special Seminar for Materials Structure Science I	4	Research on the specific problems in Materials Structure Science under the guidance of faculty members.			
Special Seminar for Materials Structure Science II	4				
Special Seminar for Materials Structure Science III	4				
Special Seminar for Materials Structure Science IV	4				
Special Seminar for Materials Structure Science V	4				

素粒子原子核専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
素粒子基礎理論	場の理論概論 I	2	素粒子、原子核物理の研究に不可欠な場の理論の基礎知識を習得する。	准教授	西村 淳
	場の理論概論 II	2	素粒子、原子核物理の研究に不可欠な場の理論の基礎知識を習得する。	准教授	橋本 省二
	超弦理論 I	2	超弦理論の経路積分による共変な摂動論的定式化を説明し、非摂動論的効果を導入する。	講師	溝口 俊弥
	超弦理論 II	2	超弦理論の非摂動論的効果を説明し、非摂動論的定式化をめざすアプローチについて解説する。	助教	夏梅 誠
	超弦理論 III	2	超弦理論の経路積分による共変な摂動論的定式化を説明し、非摂動論的効果を導入する。	准教授 助教	磯 夏梅 暁 誠
	超弦理論 IV	2	超弦理論の非摂動論的効果を説明し、非摂動論的定式化をめざすアプローチについて解説する。	教授 講師	北澤 良久 溝口 俊弥
	場の理論特論 I	2	場の理論の非摂動論的な性質を研究する数値的な方法を講ずる。	准教授	磯 暁
	場の理論特論 II	2	場の理論の非摂動論的な性質を、場の配位のトポロジーによる分類等の手法を用いて研究する方法を講ずる。	准教授	筒井 泉
素粒子現象論	素粒子理論概論 I	2	素粒子物理を記述する標準模型の概要を、具体的実験事実を踏まえて説明する。	教授	萩原 薫
	素粒子理論概論 II	2	素粒子物理を記述する標準模型の概要を、具体的実験事実を踏まえて説明する。	教授	野尻美保子
	素粒子現象論 I	2	実験データと理論予言を比べる時重要となる、幾つかの概念をその技術的側面とともに解説する。	教授	岡田 安弘
	素粒子現象論 II	2	素粒子標準模型における未解決の問題を統括し、標準模型を超える理論を超対称性を中心に解説する。	教授	岡田 安弘
格子理論	格子場の理論 I	2	量子色力学を非摂動論的に定式化する格子 QCD を講ずる。	准教授 准教授	橋本 省二 太田 滋生
	格子場の理論 II	2	格子 QCD の数値的および解析的な研究手法を解説する。	准教授 准教授	橋本 省二 太田 滋生
ハドロン核理論	ハドロン原子核理論概論 I	2	ハドロンや原子核の構造と反応の基礎を講ずる。	教授	熊野 俊三
	ハドロン原子核理論概論 II	2	ハドロンや原子核の構造と反応の基礎を講ずる。	教授 准教授	熊野 俊三 森松 治
	ハドロン理論	2	量子色力学に基づくハドロン物理について解説する。	教授 准教授	熊野 俊三 森松 治
宇宙物理理論	宇宙物理学 I	2	宇宙の全体としての構造や物質構成とその起源について、進化宇宙論の立場から解説する。それを通して、宇宙研究と高エネルギー物理学研究の間の密接な連携を明らかにする。	教授	小玉 英雄
	宇宙物理学 II	2	宇宙の豊かな階層構造の基本構成要素である星の構造と進化について、高エネルギー天体現象との関連も含めて解説する。	准教授	井岡 邦仁
	宇宙物理学理論演習 I	2	宇宙物理学の理論研究において必要となる基礎知識および技術を文献輪読と演習を通して習得する。	教授 准教授 助教	小玉 英雄 井岡 邦仁 郡 和範
	宇宙物理学理論演習 II	2			
	一般相対論	2	特異点定理、ブラックホール一意性定理、高次元ブラックホール、ゲージ不変摂動論など一般相対論の諸問題を講ずる。	教授	小玉 英雄

Department of Particle and Nuclear Physics

Field	Subject	Unit	Content of subject.		
Fundamental Elementary Particle Theory	Introduction to Field Theory I	2	Basic concepts in field theory which are indispensable for studying particle and nuclear physics.	Assoc. Prof.	NISHIMURA,Jun
	Introduction to Field Theory II	2		Assoc. Prof.	HASHIMOTO,Shoji
	Superstring Theory I	2	Perturbative formulation of superstring theories in the covariant path integrals and introduction to nonperturbative effects.	Lecturer	MIZOGUCHI,Shunya
	Superstring Theory II	2	Nonperturbative effects in superstring theory and approaches aiming at constructing nonperturbative formulations.	Assist.Prof.	NATSUUME,Makoto
	Superstring Theory III	2	Perturbative formulation of superstring theories in the covariant path integrals and introduction to nonperturbative effects.	Assoc.Prof. Assist.Prof.	ISO, Satoshi NATSUUME,Makoto
	Superstring Theory IV	2	Nonperturbative effects in superstring theory and approaches aiming at constructing nonperturbative formulations.	Prof. Lecturer	KITAZAWA,Yoshihisa MIZOGUCHI,Shunya
	Advanced Field Theory I	2	Numerical methods which enable nonperturbative studies of field theory.	Assoc.Prof.	ISO, Satoshi
	Advanced Field Theory II	2	Approaches to investigate non-perturbative aspects of (quantum) field theories including the topological classification of field configurations.	Assoc.Prof.	TSUTSUI,Izumi
Phenomenological Elementary Particle Theory	Theoretical Particle Physics I	2	Lectures on the Standard Model of elementary particle physics based on experimental results.	Prof.	HAGIWARA,Kaoru
	Theoretical Particle Physics II	2		Prof.	NOJIRI,Mihoko
	Particle Phenomenology I	2	Conceptual and technical aspects of particle physics to compare experimental results with theoretical predictions.	Prof.	OKADA,Yasuhiro
	Particle Phenomenology II	2	Survey of unsolved problems in the Standard Model and attempts beyond the Standard Model such as Supersymmetry.	Prof.	OKADA,Yasuhiro
Lattice Gauge Theory	Lattice Field Theory I	2	Non-perturbative framework for quantum field theory on a discretized spacetime (the lattice spacetime) with special attention to quantum chromodynamics (QCD).	Assoc. Prof. Assoc. Prof.	HASHIMOTO,Shoji OHTA,Shigemi
	Lattice Field Theory II	2	Numerical and other approaches toward solving lattice field theories, especially lattice QCD.	Assoc. Prof. Assoc. Prof.	HASHIMOTO,Shoji OHTA,Shigemi
Hadron and Nuclear Theory	Introduction to Hadron and Nuclear Physics Theory I	2	Introduction to theories of hadron and nuclear structures and interactions.	Prof.	KUMANO,Shunzo
	Introduction to Hadron and Nuclear Physics Theory II	2		Prof. Assoc. Prof.	KUMANO,Shunzo MORIMATSU,Osamu
	Theoretical Hadron Physics	2	Hadron physics theories based on QCD.	Prof. Assoc. Prof.	KUMANO,Shunzo MORIMATSU,Osamu
Theoretical astrophysics	Cosmophysics I	2	Lectures on the structures and matter contents of the Universe and their origin from the standpoint of the evolutionary cosmology with focus on the interplay of cosmology and high energy physics.	Prof.	KODAMA,Hideo
	Cosmophysics II	2	Lectures on the stellar structure and evolution as fundamental elements of the richly layered universe, including the relevant high energy astrophysics and astro-particle physics.	Assoc. Prof.	IOKA,Kunihito
	Seminar on Theoretical Cosmophysics I	2	Seminars to learn basic knowledge and skills required in theoretical investigations of cosmophysics through exercises and reading important literature.	Prof. Assoc. Prof.	KODAMA,Hideo IOKA,Kunihito
	Seminar on Theoretical Cosmophysics II	2		Assist. Prof.	KOHR,I,Kazunori
	General Relativity	2	Lectures on various topics of general relativity such as singularity theorem, uniqueness of the black holes, higher dimensional black holes, gauge invariant perturbations.	Prof.	KODAMA,Hideo

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
物理実験学	コライダー物理実験学	2	コライダー実験に使用されている粒子検出器の基本原 理、設計、製作、運用法等について、Bファクトリーで の実例を中心に紹介する。	教授 准教授	山内 正則 宇野 彰二
	コライダー物理数値解析論	2	コライダー実験における数値解析の基礎について述べ る。Bファクトリーでの実例を豊富に紹介する。	教授 准教授	片山 伸彦 伊藤 領介
B中間子物理学	B中間子物理学	2	Bファクトリーによる最近の重要な発見について理解す ることを目標に、B中間子の崩壊について基礎から詳 説する。	教授 准教授	堺井 義秀 中尾 幹彦
	B中間子物理学特論	2	B中間子を用いて標準模型を超えた新しい物理を探る 方法について論じる。	准教授 准教授	原 隆宣 後田 裕
	ハドロン分光学	2	最近相次いで発見された新しいハドロンについて基礎 的な理解を得ることを目指し、教育研究を行う。	講師	上原 貞治
	タウレプトン物理学	2	最近のBファクトリーのデータにより、著しく理解の進ん だタウレプトンの物理について、教育研究を行う。	准教授	三原 智
高エネルギーハドロン反応	高エネルギーハドロン反応論	2	高エネルギーハドロン衝突実験を解説し、衝突におけ る素粒子反応、特に、新粒子、新現象生成反応につ いて詳説する。	教授	岩崎 博行
	高エネルギーハドロン物理学	2	高エネルギーハドロン実験に使用される粒子検出器に ついて基本原理、大型検出器の設計、製作、運用法 などについて論じる。	准教授 准教授	海野 義信 佐々木 修
超高エネルギーレプトン物理学	超高エネルギーレプトン物理学	2	超高エネルギーレプトン実験に使用される粒子検出器 について基本原理、大型検出器の設計、製作、運用法 などについて論じる。	教授 講師	徳宿 克夫 大森 恒彦
	超高エネルギーレプトン反応論	2	超高エネルギーレプトン衝突実験を解説し、衝突にお ける素粒子反応、特に、ヒッグス粒子、ゲージボソン、 トップクォークの生成反応について詳説する。	准教授 准教授	宮本 彰也 藤井 恵介
低エネルギー素粒子物理学	低エネルギー素粒子物理学	2	二重ベータ崩壊の探索等の、加速器を用いない素粒 子実験について概説する。	准教授	増田 康博
先端基盤技術	超伝導概論	2	素粒子、原子核実験の研究に不可欠な最先端の基盤 技術である超伝導に関する基礎と応用について、教育 研究を行う。	教授	春山 富義
	低温工学概論	2	素粒子、原子核実験の研究に不可欠な最先端の基盤 技術である低温工学の基礎を学ぶ。	准教授 講師	榎田 康博 石元 茂
	オンライン粒子計測論	2	素粒子、原子核実験を行う際に必要なエレクトロニクス、 トリガーの技術の概要と最近の進歩について講ずる。	准教授 教授	田中 真伸 新井 康夫
	計算機応用概論	2	素粒子、原子核実験を行う際に必要なオンライン、オ フラインの計算機利用技術について講ずる。	教授	藤井 啓文
	粒子計測概論	2	原子核・素粒子・宇宙物理学実験・観測の基礎とな る粒子の検出・計測技術を解説するとともに、それら の他分野・医療/産業への応用などについても紹介 する。	教授	幅 淳二
ビーム物理学	ビーム物理学	2	素粒子、原子核の実験的研究に不可欠な、高エネル ギービームの発生、取り出し、輸送、2次粒子ビーム 発生、選別などについて総合的に論じる。	教授 准教授 准教授	田中 万博 野村 正 里 嘉典
	ビーム制御法特論	2	ビームの冷却や、超単色ビームの生成など、素粒子 実験に使用される先端的ビーム制御法について論じ る。	准教授	田内 利明
	先端ビームダイナミクス論 I	2	大強度加速器・大強度ビーム取り出し・大強度ビーム 輸送等、ビーム強度の最前線におけるビームダイナ ミクスの基礎について解説する。	教授 教授	田中 万博 藤井 芳昭
	先端ビームダイナミクス論 II	2	超稀崩壊実験用ビーム、純度の高いストレンジネスビ ーム、ニュートリノビームなど、特殊なビームの生成にお ける基礎について解説する。	准教授 講師	山田 善一 石井 孝信

Field	Subject	Unit	Content of subject.		
Colliding Beam Experiment	Detectors for Collider Experiments	2	Introduction to basic principles, as well as design, construction, and operation, of particle detectors used in the B factory experiments in particular, and in other collider experiments.	Prof. Assoc. Prof.	YAMAUCHI, Masanori UNO, Shoji
	Methods of Numerical Analysis for Collider Experiments	2	Introduction to numerical analysis methods used in collider experiments, with a wealth of examples from the B factory experiments.	Prof. Assoc. Prof.	KATAYAMA, Nobuhiko ITOH, Ryosuke
B-Meson Physics	B-Meson Physics	2	Lectures on physics of B-meson decays, aiming at understanding the recent important observations by the B-factory experiments.	Prof. Assoc. Prof.	SAKAI, Yoshihide NAKAO, Mikihiko
	Advanced B-Meson Physics	2	Lectures on the methods to probe new physics beyond the Standard Model using B-meson decays.	Assoc. Prof. Assoc. Prof.	HARA, Takanori USHIRODA, Yutaka
	Hadron Spectroscopy	2	Lectures on recently discovered new hadrons.	Lecturer	UEHARA, Sadaharu
	Tau-Lepton Physics	2	Lectures on advanced knowledge of tau-lepton physics, obtained from the recent B factory experiments.	Assoc. Prof.	MIHARA, Satoshi
Studies of High Energy Hadron Interactions	High Energy Hadron Interactions	2	Lectures on searches for new particles and new phenomena through particle collisions at hadron colliders.	Prof.	IWASAKI, Hiroyuki
	High Energy Hadron Physics	2	Introduction to basic principles, as well as design, construction, and operation, of particle detectors used in hadron collider experiments.	Assoc. Prof. Assoc. Prof.	UNNO, Yoshinobu SASAKI, Osamu
Studies of Very High Energy Lepton Interactions	Very High Energy Lepton Physics	2	Introduction to basic principles, as well as design, construction, and operation, of particle detectors used in very high-energy lepton collider experiments.	Prof. Lecturer	TOKUSHUKU, Katsuo OMORI, Tsunehiko
	Very High Energy Lepton Interactions	2	Lectures on physics and experiments at very high-energy lepton colliders, with emphasis put on reactions involving Higgs bosons, gauge bosons, and top quarks.	Assoc. Prof. Assoc. Prof.	MIYAMOTO, Akiya FUJII, Keisuke
Low Energy Particle Physics	Low Energy Particle Physics	2	Overview of non-accelerator particle physics such as search for neutrinoless double beta decay.	Assoc. Prof.	MASUDA, Yasuhiro
Advanced Technologies for Particle Physics Experiment	Introduction to Superconductivity and its Application	2	Introduction to superconductivity and cryogenics; basics and application to particle and nuclear physics experiments.	Prof.	HARUYAMA, Tomiyoshi
	Introduction to Cryogenic Engineering	2	Introduction to cryogenic engineering for particle and nuclear physics experiments.	Assoc. Prof. Lecturer	MAKIDA, Yasuhiro ISHIMOTO, Shigeru
	Online Measurements with Particle Detectors	2	Lectures on basic technology and recent progress of online electronics and trigger techniques for particle and nuclear physics experiments.	Assoc. Prof. Prof.	TANAKA, Manobu ARAI, Yasuo
	Introduction to Computer Applications	2	Introduction to both online and offline techniques of computer application to particle and nuclear physics experiments.	Prof.	FUJII, Hirofumi
	Introduction to particle detection	2	Lectures on the basic technology of particle detection and its applications to nuclear, particle and astroparticle physics. Several applications to medical or industrial fields are also discussed.	Prof.	HABA, Junji
Beam physics	Beam Physics	2	Lectures on generation, extraction and transportation of high-energy beams, and production and selection of secondary particle beams, which are indispensable for particle and nuclear physics experiments.	Prof. Assoc. Prof. Assoc. Prof.	TANAKA, Kazuhiro NOMURA, Tadashi SATO, Yoshinori
	Advanced Beam Control Methods	2	Lectures on advanced methods of beam control, such as beam cooling and highly monochromatic beam production, used for particle physics experiments.	Assoc. Prof.	TAUCHI, Toshiaki
	Advanced Beam Dynamics I	2	Basics of the beam dynamics of very high intensity beams, such as production, extraction, and transportation, at very high intensity accelerators.	Prof. Prof.	TANAKA, Kazuhiro FUJII, Yoshiaki
	Advanced Beam Dynamics II	2	Basics of design and construction of particle beams for special purposes: pion and kaon beams for very rare decay searches, high purity kaon beams for strangeness physics experiments and neutrino beams for long baseline neutrino oscillation experiments.	Assoc. Prof. Lecturer	YAMADA, Yoshikazu ISHII, Takanobu

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
素粒子物理学 ハドロンビーム	高エネルギー物理特論	2	高エネルギー物理に不可欠な、統計処理などのデータ解析の技法に関して講ずる。	准教授	塚本 敏文
	ハドロンビーム素粒子物理学Ⅰ	2	ハドロンビームによって生成されたK中間子を用いた素粒子物理学の実験的研究に関して講ずる。	准教授	林 ケヨブ
	ハドロンビーム素粒子物理学Ⅱ	2	K中間子の稀崩壊やCP破れ等の現象の研究による標準模型の検証と新たな物理探究に関して講ずる。	准教授	小松原 健
	ミューオンビーム素粒子物理学Ⅰ	2	ミューオンビームの生成とそれを用いた精密測定について論じる。	准教授 教授	三部 勉 斉藤 直人
	ミューオンビーム素粒子物理学Ⅱ	2	ミューオンの稀な崩壊過程の探索などを行う実験測定器、解析と最近の成果について論じる。	准教授	吉村 浩司
実験 ニュートリノ	ニュートリノ物理学概論	2	ニュートリノの質量や混合角などのニュートリノ特性とその物理的起源を概観し、標準理論へのインパクトを検討する。	准教授 准教授	長谷川 琢哉 山田 善一
	ニュートリノ物理学特論	2	ニュートリノの諸特性の測定方法や、ニュートリノビームの生成方法などについて解説する。	教授	小林 隆
原子核物理学 ハドロンビーム	原子核物理学概論	2	原子核物理学の実験的研究の最前線を総合的に論じる。	准教授	澤田 真也
	ハドロンビーム原子核物理学Ⅰ	2	ストレンジネスを持つハイパー原子核などを研究する「ストレンジネス核物理」の実験の手法と最近の成果を解説する。	准教授	高橋 俊行
	ハドロンビーム原子核物理学Ⅱ	2	ハイペロン核子散乱、高密度下でのハドロン質量の減少などを研究する「ハドロン核物理」の実験手法と最近の成果を解説する。	准教授	家入 正治
不安定核 実験	短寿命核物理学	2	短寿命核のビームを用いた原子核実験の手法と最近の成果を解説し、天体核物理学などとの関連について論じる。	教授 准教授	宮武 宇也 鄭 淳諱
宇宙物理 実験	宇宙物理実験学概論	2	宇宙マイクロ波背景放射の測定技術について基礎から学んでいく。	教授	羽澄 昌史
	宇宙物理実験学特論	2	宇宙マイクロ波背景放射の偏光測定が拓くサイエンスについて焦点をあてる。原始重力波の検出とインフレーション宇宙の検証を中心に学んでいく。	教授	羽澄 昌史
理論系 共通	素粒子原子核理論演習Ⅰ	4	素粒子、原子核理論に関する基本的な文献を参考に、基本的な理論的手法を習得する。	担当教員全員	
	素粒子原子核理論演習Ⅱ	4			
	素粒子原子核理論演習Ⅲ	4			
	理論素粒子原子核物理特別研究Ⅰ	4	素粒子、原子核理論のフロンティアにある具体的理論的課題について、指導教員のアドバイスの下に研究する。		
	理論素粒子原子核物理特別研究Ⅱ	4			
実験系 共通	素粒子原子核実験演習Ⅰ	4	素粒子、原子核実験に関する基本的な手法を、KEKの諸施設を活用して習得する。	担当教員全員	
	素粒子原子核実験演習Ⅱ	4			
	素粒子原子核実験演習Ⅲ	4			
	実験素粒子原子核物理特別研究Ⅰ	4	素粒子、原子核実験のフロンティアにある具体的実験的課題について、指導教員のアドバイスの下に研究する。		
	実験素粒子原子核物理特別研究Ⅱ	4			

Field	Subject	Unit	Content of subject.		
Particle Physics with Hadron Beams	Advanced High Energy Physics	2	Lectures on techniques for data analyses such as statistical methods, which are indispensable for high energy physics experiments.	Assoc. Prof.	TSUKAMOTO, Toshifumi
	Particle Physics with Hadron Beams I	2	Lectures on particle physics experiments with kaon beams.	Assoc. Prof.	LIM, Gei Youb
	Particle Physics with Hadron Beams II	2	Lectures on testing the Standard Model and search for new physics through the studies of rare decays and CP violation of K-mesons.	Assoc. Prof.	KOMATSUBARA, Takeshi
	Particle Physics using Muon Beams I	2	Lectures on the basic properties of muon, muon beam production, and precision measurements using muon beams.	Assoc. Prof. Prof.	MIBE, Tsutomu SAITO Naohito
	Particle Physics using Muon Beams II	2	Lectures on experiments using muon beams: detectors, methods of analyses, and recent results of searches for rare muon decays.	Assoc. Prof.	YOSHIMURA, Koji
Neutrino Physics	Introduction to Neutrino Physics	2	Overview of neutrino properties such as mass and mixing and their origin, paying attention to their impact on the Standard Model .	Assoc. Prof. Assoc. Prof.	HASEGAWA, Takuya YAMADA, Yoshikazu
	Advanced Neutrino Physics	2	Lectures on measuring neutrino properties and producing neutrino beams.	Prof.	KOBAYASHI, Takashi
Nuclear Physics with Hadron Beams	Introduction to Nuclear Physics	2	Introduction to frontiers as well as fundamental concepts of experimental nuclear physics.	Assoc. Prof.	SAWADA, Shinya
	Nuclear Physics with Hadron Beams I	2	Introduction to experimental methods and recent topics on "Strangeness Nuclear Physics" with the main subject being hypernuclei, i.e., hadron many-body systems with the strangeness degree of freedom.	Assoc. Prof.	TAKAHASHI, Toshiyuki
	Nuclear Physics with Hadron Beams II	2	Lectures on methods and recent topics in "Hadron Nuclear Physics" experiments such as hyperon-nucleon scattering and new bound states of quarks.	Assoc. Prof.	IEIRI, Masaharu
Experiment with Unstable Nuclei Beams	Physics of Short-Lived Nuclei	2	Lectures on methods and recent topics in nuclear physics experiments using short-lived nuclei beams, and their relation to astronuclear physics.	Prof. Assoc. Prof.	MIYATAKE, Hiroari JEONG, Sun-Chan
Experimental astrophysics	Introduction to Experimental Cosmophysics	2	This course introduces basic experimental techniques for measuring cosmic microwave backgrounds.	Prof.	HAZUMI, Masashi
	Advanced Experimental Cosmophysics	2	This advance course focuses on science of cosmic microwave background polarization. Particular emphasis will be on the detection of primordial gravitational waves and tests of various models for the inflationary universe.	Prof.	HAZUMI, Masashi
Common Subjects for Theoretical Particle and Nuclear Physics	Special Seminar for Theoretical Particle and Nuclear Physics I	4	Studying basic methods in theoretical particle and nuclear physics through seminars and discussions based on standard textbooks and articles.	All Faculty Members	
	Special Seminar for Theoretical Particle and Nuclear Physics II	4			
	Special Seminar for Theoretical Particle and Nuclear Physics III	4			
	Special Study for Theoretical Particle and Nuclear Physics I	4	Doing research of specific problems in the frontiers of theoretical particle and nuclear physics under the guidance by faculty members .		
	Special Study for Theoretical Particle and Nuclear Physics II	4			
Common Subjects for Experimental Particle and Nuclear Physics	Special Exercise for Experimental Particle and Nuclear Physics I	4	Studying basic methods in experimental particle and nuclear physics through extensive use of KEK facilities.	All Faculty Members	
	Special Exercise for Experimental Particle and Nuclear Physics II	4			
	Special Exercise for Experimental Particle and Nuclear Physics III	4			
	Special Study for Experimental Particle and Nuclear Physics I	4	Doing research of specific problems in the frontiers of experimental particle and nuclear physics under the guidance by faculty members .		
	Special Study for Experimental Particle and Nuclear Physics II	4			

高エネルギー加速器科学研究科共通科目授業概要

授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
高エネルギー加速器科学セミナーⅠ	2	素粒子、原子核物理さらに物質科学や生命科学に関係する加速器科学の最前線の研究状況を、第一線の研究者から直接説明を受ける。	カリキュラム委員会委員長	
高エネルギー加速器科学セミナーⅡ	2	素粒子、原子核物理さらに物質科学や生命科学に関係する加速器科学の最前線の研究状況を、第一線の研究者から直接説明を受ける。	カリキュラム委員会委員長	
高エネルギー加速器科学セミナーⅢ	1	素粒子、原子核物理さらに物質科学や生命科学に関係する加速器科学の最前線の研究状況を、第一線の研究者から直接説明を受ける。	カリキュラム委員会委員長	
高エネルギー加速器科学セミナーⅣ	1	素粒子、原子核物理さらに物質科学や生命科学に関係する加速器科学の最前線の研究状況を、第一線の研究者から直接説明を受ける。	カリキュラム委員会委員長	
高エネルギー加速器科学セミナーⅤ	1	素粒子、原子核物理さらに物質科学や生命科学に関係する加速器科学と社会の相互作用について、広い立場から考えられるための基礎を学ぶ。	教授 准教授	平田 光司 菊谷 英司
高エネルギー加速器科学セミナーⅥ	1	素粒子、原子核物理さらに物質科学や生命科学に関係する加速器科学と社会の相互作用について、広い立場から考えられるための基礎を学ぶ。	教授 准教授	平田 光司 菊谷 英司
加速器概論Ⅰ	2	加速器全般への入門として、講義に加え、演習、実習、見学を交えた幅広い方法で学ぶ。当該分野の専門家がオムニバス形式で行う日本語による講義である。	加速器科学専攻 カリキュラム委員会	
加速器概論Ⅱ	2	加速器全般への入門として、講義に加え、演習、実習、見学を交えた幅広い方法で学ぶ。当該分野の専門家がオムニバス形式で行う英語による講義である。	加速器科学専攻 カリキュラム委員会	
加速器実験概論	2	加速器を利用した素粒子・原子核・放射光実験における基本的な手法、基礎知識を説明：相対性理論、散乱、反応断面積、制動放射、シンクロトロン放射、真空、放電、回折等。	教授	生出 勝宣
放射線物理学	2	放射線の発生と物質との相互作用に関する基礎を学ぶ。 1. 原子の構造と電離、2. 原子核の構造、3. 放射性壊変、4. 核反応、5. X線・ γ 線の相互作用、6. ベータ線と物質との相互作用、7. 陽子線・ α 線の相互作用、8. 中性子線の相互作用、9. エネルギーの物質への伝達、10. 放射線に関する量と単位	准教授	波戸 芳仁
ビーム物理学Ⅰ	2	ビーム物理という統一的視点から、加速器の原理、放射光の発生、さらにビームの集団運動からコヒーレント放射光などビーム現象全般を考える。Ⅰでは主に単粒子力学の立場から学び、Ⅱではビームの集団運動や放射光のコヒーレント生成を取り扱う。	教授 准教授	鎌田 進 船越 義裕
ビーム物理学Ⅱ	2		教授	大見 和史
応用数学	2	(一変数)複素関数論を主題として、他の分野も含め数学的イメージ(直観)と技術について講述する。	教授	神谷 幸秀
電磁気学	2	加速器の理解に必要な電磁気学の基礎的知識について講述する。講義内容：静電磁場/Maxwell方程式/電磁波の伝搬/立体回路-導波管と空洞共振器/荷電粒子の出す輻射/荷電粒子と電磁場の相互作用。	教授	山口 誠哉

School of High Energy Accelerator Science

Subject	Unit	Content of subject		
High Energy Accelerator Seminar I	2	Active fields of accelerator related science, such as elementary particles, nuclear physics, materials science and life science etc., will be presented by front-line researchers.		
High Energy Accelerator Seminar II	2	Active fields of accelerator related science, such as elementary particles, nuclear physics, materials science and life science etc., will be presented by front-line researchers.		
High Energy Accelerator Seminar III	1	Active fields of accelerator related science, such as elementary particles, nuclear physics, materials science and life science etc., will be presented by front-line researchers.		
High Energy Accelerator Seminar IV	1	Active fields of accelerator related science, such as elementary particles, nuclear physics, materials science and life science etc., will be presented by front-line researchers.		
High Energy Accelerator Seminar V	1	Interaction of the accelerator-based sciences, such as elementary particles, nuclear physics, materials science and life science etc., with the society will be discussed from various points of view.	Prof. Assoc.Prof.	HIRATA,Kohji KIKUTANI,Eiji
High Energy Accelerator Seminar VI	1	Interaction of the accelerator-based sciences, such as elementary particles, nuclear physics, materials science and life science etc., with the society will be discussed from various points of view.	Prof. Assoc.Prof.	HIRATA,Kohji KIKUTANI,Eiji
Introduction to Accelerators I	2	General introduction to accelerators by means of exercise, experiment and visit tour as well as lecture. Omnibus style class composed of many experts of specific fields and given in Japanese."		
Introduction to Accelerators II	2	General introduction to accelerators by means of exercise, experiment and visit tour as well as lecture. Omnibus style class composed of many experts of specific fields and given in English.		
Introduction to Experimental Methods Using Accelerators	2	Introductory lectures on basic phenomena and methods necessary in experiments of particle, nuclear, synchrotron light using accelerators. They will involve special relativity, scattering, cross section, bremsstrahlung, synchrotron radiation, vacuum, electric discharge, diffraction, etc.	Prof.	OIDE,Katsunobu
Radiation Physics	2	This class is on the basic topics about generation of radiation ray and interaction of radiation and matter. 1. Structure of atom and ionization 2. Structure of nucleus 3. Decay of radioactive nucleus 4. Nuclear interaction 5. Interaction of x ray and gamma ray 6. Interaction of beta ray 7. Interaction of proton ray and alpha ray 8. Interaction of neutron 9. Transfer of energy to material 10. Quantity and unit of radiation ray.	Assoc.Prof.	NAMITO, Yoshihito
Beam Physics I	2	Principles of accelerators, generation of synchrotron light, collective motion of beams, and coherent synchrotron radiation etc. are presented from the unified viewpoint of beam physics. Single particle dynamics is treated mainly by course I, and collective motion and coherent effects are treated mainly by course II.	Prof. Assoc.Prof.	KAMADA,Susumu FUNAKOSHI, Yoshihiro
Beam Physics II	2		Prof.	OHMI, Kazuhiro
Applied Mathematics	2	Main theme of the course is the complex analysis of one variable. In addition, related other branches will be also lectured. Through the course, mathematical image (intuition) and technique of students will be refined and advanced.	Prof.	KAMIYA, Yukihide
Electromagnetism	2	Lectures on basics of electromagnetism necessary to understand accelerators will be given. Contents:Static electromagnetic field/Maxwell equations/Transmission of electromagnetic field/Waveguides and resonant cavities/Radiation from charged particles/Interaction between charged particles and electromagnetic field.	Prof.	YAMAGUCHI, Seiya

授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
電気力学と特殊相対論	2	加速器中の粒子運動の取り扱いの基礎となる相対論的な粒子の運動理論およびその基礎となる特殊相対論を学ぶ。	准教授	山本 昇
解析力学	2	加速器を念頭において、力学系を理解しシミュレーションを遂行する技術について学ぶ。	准教授	FOREST, Etienne
量子力学	2	初等的量子力学を理解する上で重要な概念を、古典力学との違いや類似性を踏まえながら講述する：ボーアの原子模型 / ゾンマーフェルト量子化条件 / シュレディンガー方程式 / 演算子の交換関係と不確定性 / 状態遷移確率 / 経路積分と古典極限	助教	森田 昭夫
熱力学・統計力学	2	熱力学はエントロピーの概念の由来と3法則、統計力学は分配関数に至る道筋の基礎となる事項を詳しく説明した後で、表面現象や冷凍機など加速器の周辺から話題を選んで講義する予定である。	教授	金澤 健一
物質構造科学概論Ⅰ	2	物質構造科学の基礎的概念を学ぶと共に、放射光、中性子、ミュオン等の量子ビームを用いた測定の果たす役割に付いても学習する。	准教授	間瀬 一彦
物質構造科学概論Ⅱ	2	物性物理学の基礎的概念を学ぶと共に、物質の電子状態を研究する手段としての放射光、中性子、ミュオン等の量子ビームを用いた実験についても学習する。	教授	門野 良典
現代生物学概論	2	構造生物学の成果をまじえて生化学、分子生物学、細胞生物学などの現代生物学の基礎を学ぶ。	教授	若槻 壮市
高エネルギー物理学概論Ⅰ	2	原子核物理を含む広い意味の高エネルギー物理学の全豹を概観する。さらに高エネルギー物理学の諸分野を、KEK で研究されている具体例に即して解説する。	教授	堺井 義秀
高エネルギー物理学概論Ⅱ	2	原子核物理を含む広い意味の高エネルギー物理学の全豹を概観する。さらに高エネルギー物理学の諸分野を、KEK で研究されている具体例に即して解説する。	教授	山内 正則
粒子測定原理Ⅰ	2	素粒子原子核物理に不可欠な粒子測定原理とそれに基づく粒子検出器を解説する。	准教授	宇野 彰二
粒子測定原理Ⅱ	2	KEK で研究活用されている粒子検出器を具体例として、粒子測定原理を習得する。	准教授 教授	田中 真伸 新井 康夫
相対論的物理学	2	高エネルギー加速器科学の研究対象であるクォーク・レプトンの理解に不可欠な Dirac 方程式を解説し、ファインマン規則を導入する。	准教授	橋本 省二
現代量子力学	2	量子力学の数学的構造と概念的基礎に関して、重要ではあるが学部レベルの標準的な講義には含まれない話題について講義を行う。具体的には、量子化の問題、不確定性関係、実在性と非局所性・状況依存性、観測問題、マイクロ・マクロ限界問題、量子エンタングルメントの数理と物理など。(今年度は新たな話題も入れて、単位既得者の聴講にも有意義な形にする予定。)	准教授	筒井 泉
高エネルギー加速器科学認定研究	4	専門的な課題の研究を行い、その結果を認定研究レポートにまとめる。5年課程に在学する原則として2年次の学生が必ず通年で履修するものである。	指導教員	

※網掛けは必修科目

Subject	Unit	Content of subject		
Electrodynamics and Special Relativity	2	This course will cover the special theory of relativity and the theory on relativistic motion of particles which is a basis of particle motion in accelerators.	Assoc.Prof.	YAMAMOTO, Noboru
Analytical Dynamics	2	This course introduces practical techniques for the simulation and understanding of dynamical systems with special emphasis on accelerators.	Assoc.Prof.	FOREST, Etienne
Quantum Mechanics	2	Introduced will be important concepts to understand elementary quantum mechanics, such as the Bohr model of atom/ the Sommerfeld–Wilson quantization condition/ Schrödinger equation/ commutation relation of operators and uncertainty principle/ state transition probability/ path integral and classical limit. Similarity and difference to classical mechanics will be highlighted.	Assist.Prof.	MORITA, Akio
Thermodynamics/Statistical Mechanics	2	The lecture starts from the explanation of basic materials such as the entropy, thermodynamic laws, partition function, etc. As an application, selected topics related to accelerator, such as surface phenomena, refrigerator, etc will be discussed.	Prof.	KANAZAWA, Ken-ichi
Fundamentals of Materials Structure Science I	2	Fundamental concepts of materials structure science will be presented. Also, basic experimental methodologies involving synchrotron radiation, neutron beams, and muon beams will be discussed.	Assoc. Prof.	MASE, Kazuhiko
Fundamentals of Materials Structure Science II	2	Fundamental concepts for the understanding of condensed matter are presented with an introduction to the microscopic probes including synchrotron radiation, neutron and muon as tools for the study of electronic property.	Prof.	KADONO, Ryosuke
Introduction to Biology	2	Basic concepts of modern biology including biochemistry, molecular biology and cell biology with particular attention to structural biology.	Prof.	WAKATSUKI, Soichi
Introduction to High Energy Physics I	2	We present an overview of high energy physics including nuclear physics. We further provide more detailed introductions based on investigations being performed at KEK	Prof.	SAKAI, Yoshihide
Introduction to High Energy Physics II	2	We present an overview of high energy physics including nuclear physics. We further provide more detailed introductions based on investigations being performed at KEK	Prof.	YAMAUCHI, Masanori
Introduction to Particle Detectors I	2	Lectures of property of elementary particles in material and basics of particle detection	Assoc. Prof.	UNO, Shoji
Introduction to Particle Detectors II	2	We study basic principles to measure various properties of particles based on investigations being performed at KEK	Assoc. Prof. Prof.	TANAKA, Manabu ARAI, Yasuo
Relativity	2	Introduce the Dirac equation and the Feynman rule, which are essential in understanding physics of quarks and leptons.	Assoc. Prof.	HASHIMOTO, Shoji
Modern Quantum Mechanics	2	This course provides lectures on the foundation of quantum mechanics concerning the mathematical framework as well as the conceptual aspects. Topics discussed include quantizations, uncertainty relations, issues on realism and non-locality/contextuality, measurement problem and quantum entanglement.	Assoc. Prof.	TSUTSUI, Izumi
Qualifying Research in High Energy Accelerator Science	4	Students are required to perform a research on an advanced subject in accelerator science		adviser

3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要
(Outlines of Courses Provided by Each School/Department)

3-9-4. 複合科学研究科 (School of Multidisciplinary Sciences)

統計科学専攻 (Dept. Statistical Science) 授業科目概要	148
極域科学専攻 (Dept. Polar Science) 授業科目概要	160
情報学専攻 (Dept. Informatics) 授業科目概要	172
研究科共通専門基礎科目 (School of Multidisciplinary Sciences) 授業科目概要	182

統計科学専攻授業科目概要

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
モデリング	統計的学習理論Ⅱ	2	複雑な統計的・確率現象を扱うための新しい方法論について指導する。特に、グラフィカルモデル上の確率計算や近似アルゴリズムなどの基礎理論とその応用を扱う。	教 授	福水 健次
	空間統計学	2	空間に起こる事象を分析するための統計的方法である「空間統計学」に関する初等的講義を行う。応用としては生態学が中心となるが、可能な範囲で社会科学等の幅広いデータを扱う。	准教授	島谷 健一郎
	確率幾何学	2	空間に起こるさまざまな事象の統計モデルとしての空間分割・ランダム充填など、確率幾何学モデルに関する数理的基礎とその応用について講義を行う。	准教授	島谷 健一郎
	確率過程モデリング法	2	確率過程の統計的モデルと解析法について講義する。特に、突発事象のリスク予測の基礎となる点過程理論、危険強度のモデル化、推論と予測について深く触れる。	教 授	尾形 良彦
	時空間ベイズ法	2	時間・空間・時空間事象のモデル化に必要なベイズ的推定法の理論や大次元モデルのシミュレーション法の講義を行う。必要な計算プログラミングと様々な応用例に触れるように心がける。	教 授	尾形 良彦
	データ同化論	2	シミュレーションによる時間発展更新と、部分的な観測量からの時間に依存した逆問題解法を統合するデータ同化法について研究教育指導する。	教 授	樋口 知之
	ベイジアンモデリング	2	ベイズモデルにもとづく大量異種情報の統合手法と、実装に必要な逐次モンテカルロ計算技法について研究教育指導する。	教 授	樋口 知之
	情報機能論	2	「情報」をその機能の側面から考察する。統計科学的アプローチの採用によって、定量的かつ定性的な扱いが可能になる。	准教授	三分一 史和
	情報抽出論	2	「情報洪水」という言葉が言おうとしているように、多すぎる情報は「情報」でなくなるというパラドックスが存在する。このパラドックスを実用的に解消する技術が「情報抽出」である。	准教授	三分一 史和
	知的情報アルゴリズム	2	マルコフ連鎖モンテカルロ法 (MCMC) を中心に高度な確率的情報処理を実現するための計算手法とその応用、背景となる理論について述べる。	准教授	伊庭 幸人
	情報統計物理	2	統計科学・情報科学のために有用な統計物理・計算物理・応用確率論の話題を論じる。	准教授	伊庭 幸人
	コミュニケーション情報処理	2	音声言語は人間のコミュニケーションにおいて最も重要な情報である。話し言葉からテキスト情報のみならず、話者情報なども効率的に解析・処理するアルゴリズムについて研究指導を行う。	教 授	松井 知子
マルチメディア情報処理	2	高度情報化社会を迎え、テキストなどを含めた種々のマルチメディア情報が多量に利用可能になる中、それらの情報を整理する技術が求められている。マルチメディア情報を効果的に判別する技術について研究指導を行う。	教 授	松井 知子	

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Statistical Modeling	Statistical Learning Theory II	2	This course discusses new methodologies for complex statistical and probabilistic phenomena. It focuses on the theory and practice of graphical models, including probability computation and approximation algorithms.	Prof.	Kenji Fukumizu
	Spatial Statistics	2	Lectures are given on "Spatial Statistics," which is a statistical methodology for the analysis of spatial events such as point patterns in a two-dimensional space. Practical applications of "Spatial Statistics" are also given as exercises, using a wide range of spatial data such.	Assoc.Prof.	Kenichiro Shimatani
	Stochastic Geometry	2	Offers a series of lectures on statistical models of spatial events, such as the models of "Stochastic Geometry" (spatial tessellation, random packing and so on) together with their mathematical foundation and application. Exercises related to problems in "Stochastic Geometry" are also given.	Assoc.Prof.	Kenichiro Shimatani
	Statistical Modeling of Stochastic Processes	2	This lecture series is concerned with statistical modeling, estimation and prediction of datasets, based on the theory of stochastic processes, with strong emphasis on point processes that are related to the assessment and probability forecasting of various risks.	Prof.	Yosihiko Ogata
	Bayesian Space and Time Modeling	2	This lecture series is concerned with Bayesian modeling for time, space and space-time models. The Markov chain Monte Carlo simulation method and its applications are also discussed, across a variety of applied fields.	Prof.	Yosihiko Ogata
	Introduction to Data Assimilation Method	2	Introductory course to understand a unified framework for a synthesis technique of information from a dynamic numerical (i.e., simulation) model and observation data. It involves the statistical and computational methods for time-dependent inversions.	Prof.	Tomoyuki Higuchi
	Bayesian Modeling and Sequential Monte Carlo Methods	2	Advanced modeling and scientific computing to combine a wide variety of information sources within a framework of Bayesian approach. A special focus is laid on the statistical modeling for time-series analysis in geoscience, marketing, and bioinformatics.	Prof.	Tomoyuki Higuchi
	Functional Information Theory	2	Here, we study functional aspects of information. By employing statistical approach, quantitative and qualitative handling of the issue is enabled.	Assoc.Prof.	Fumikazu Miwakeichi
	Inductive Information Theory	2	Too much information is not information. This paradox is resolved by inductive reasoning.	Assoc.Prof.	Fumikazu Miwakeichi
	Algorithms for Intelligent Information Processing	2	Markov Chain Monte Carlo (MCMC) and related topics are discussed with examples and background mathematics.	Assoc.Prof.	Yukito Iba
	Statistical Physics for Information Science	2	Topics in statistical physics, computational physics and applied probability are discussed in relation to statistical science.	Assoc.Prof.	Yukito Iba
	Communication-information Processing	2	Spoken language is a crucial component of human communication. In this course, we study algorithms to process and analyze the information contained in this medium.	Prof.	Tomoko Matsui
	Multimedia Information Processing	2	The digital age has fostered the broadcasting of an ever increasing quantity of complex multimedia documents, be it through the internet or more versatile electronic channels. These evolutions have called for new tools and technologies to classify and analyze multimedia contents. We study in this course algorithms which are useful for these tasks.	Prof.	Tomoko Matsui

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
モデリング	統計的情報処理論	2	情報処理に現れる複雑なデータを扱うための統計的方法論について研究指導を行う。特に、(正定値)カーネル法や微分幾何学的手法などを用いた非線形データ解析法を中心に議論する。	教 授	福水 健次
	デジタル信号処理	2	アナログとデジタルの信号の違い、信号とシステムの応答の表現、z変換を用いた伝達関数の取り扱いを学ぶ。またデジタルフィルタの設計法を具体的に習得する。	准教授	瀧澤 由美
	情報通信システム論	2	Shannon の情報理論に沿って、情報量の工学的記述、情報源の特質と符号化、通信路の特性と符号化の初歩を学ぶ。	准教授	瀧澤 由美
	遺伝子データ解析 I	2	遺伝子データから分子系統樹を推定するための方法と、実際の生物学の問題への応用を扱う。		
	遺伝子データ解析 II	2	遺伝子の進化機構の解析、適応進化の検出法などの問題を扱う。		
	ゲノムデータ解析 I	2	統計科学の手法を応用した遺伝情報のデータ解析を行う。生物間で相同な遺伝子を比較して系統関係を推定する上で、モデルの構築方法や系統樹の最尤推定について研究する。	准教授	足立 淳
	ゲノムデータ解析 II	2	生物間のゲノム情報を比較し過去に起きてきた突然変異の歴史を解明する。その過程で、染色体や遺伝子配置の変異の歴史を推定するためのモデル構築や最適化について研究する。	准教授	足立 淳
	時系列解析特論 I	2	構造変化や状態の切り替わりを伴う時系列モデルの推定法とその応用に関して、講義、研究教育指導あるいは輪読を行う。	准教授	川崎 能典
	時系列解析特論 II	2	マルコフ切替モデルを中心的素材に、状態空間表現された時系列モデルに対するベイズ推定法とその応用に関して、講義、研究教育指導あるいは輪読を行う。	准教授	川崎 能典
	データ同化特論 I	2	アンサンブルカルマンフィルタなど逐次型データ同化手法とその実装に関する講義・輪読・演習を行う。	准教授	上野 玄太
	データ同化特論 II	2	アジョイント法など変分型データ同化手法とその実装に関する講義・輪読・演習を行う。	准教授	上野 玄太
	モデリング総合研究 I	2	セミナーや特別講義、演習などを通じて、統計科学におけるモデリングについて研究指導を行う。	モデリング分野全教員	
	モデリング総合研究 II	2			
	モデリング総合研究 III	2			
	モデリング総合研究 IV	2			
モデリング総合研究 V	2				

Field	Subject	Unit	Content of subject			
Statistical Modeling	Statistical Information Processing	2	This course discusses statistical methods for analyzing complex data, which often appear in information processing. The main topics include nonlinear data analysis using (positive definite) kernel methods and differential geometrical methods.	Prof.	Kenji Fukumizu	
	Digital Signal Processing	2	This lecture provides basic methods of treatment on signals and transfer functions based on z-transformation with practical design skill for digital filters including prediction filters.	Assoc.Prof.	Yumi Takizawa	
	Communication and Information Systems	2	This lecture provides basic study of information theory by C.E.Shannon referring to contitative expression of information, fundamental characteristics and coding methods for information source and communication channel.	Assoc.Prof.	Yumi Takizawa	
	DNA Sequence Analyses I	2	Methods for inferring phylogenetic trees from DNA sequence data and their applications to biological problems.			
	DNA Sequence Analyses II	2	Analyses of mechanisms of gene evolution and methods for detecting adaptive evolution.			
	Genomic Data Analysis I	2	Genomic data analysis using infererring phylogenies from DNA sequences and their applications to evolutionaly problems.	Assoc.Prof.	Jun Adachi	
	Genomic Data Analysis II	2	Analyses of mechanisms of genome evolution and comparison of the genome structure.	Assoc.Prof.	Jun Adachi	
	Special Topics in Time Series Analysis I	2	This class will cover the theory and applications of time series models with structural change, and of regime switching models.	Assoc.Prof.	Yoshinori Kawasaki	
	Special Topics in Time Series Analysis II	2	In this class students learn a Bayesian estimation method for state-space represented time series models. The main example throughout the course is Markov switching model..	Assoc.Prof.	Yoshinori Kawasaki	
	Special Course on Data Assimilation I	2	This is a course of lecture, seminar and practice on sequential data assimilation methods such as the ensemble Kalman filter.	Assoc.Prof.	Genta Ueno	
	Special Course on Data Assimilation II	2	This is a course of lecture, seminar and practice on variational data assimilation methods such as the adjoint method.	Assoc.Prof.	Genta Ueno	
	Statistical Modeling Research I	2	This is a general course on statistical science consisting of seminars, special lectures and drills. Special emphasis is given to statistical modeling and modeling methodologies.	All the teaching staff in the field of Statistical Modeling		
	Statistical Modeling Research II	2				
	Statistical Modeling Research III	2				
	Statistical Modeling Research IV	2				
Statistical Modeling Research V	2					

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
データ科学	多次元解析特論Ⅰ	2	多変量データの相関・回帰の構造を理解するためにデザインされた記述統計的方法（相関分析、偏相関分析、主成分分析、正準相関分析）並びに統計モデル（回帰モデル、因子モデル、）とその基礎となる線形代数などについて、紹介する。	教 授	椿 広 計
	多次元解析特論Ⅱ	2	数量化理論、双対尺度法、対応分析、等質性分析などとして知られる、質的データの解析法について講義する。		
	高次元推測論	2	最尤推定量などが適用できない、高次元母数の推定法として分離尤度、推定方程式、ベイズモデルなどが用いられる。これらを理論的な裏づけとともに講述する。		
	データ設計論	2	データの質について議論した上で、調査と実験という2つの代表的なタイプのデータ採取におけるデータの取り方あるいは統計モデルを紹介する。調査においては、概念測定の基本原理と測定モデル、実験においては実験計画法の入門的トピックを紹介する予定である。	教 授	椿 広 計
	データ解析特論Ⅲ	2	データ解析に関係する推定、検定、回帰、実験計画等の古典的推論および線形モデルに焦点を合わせる。	教 授	柏木 宣久
	データ解析特論Ⅳ	2	データ解析特論Ⅲに続く授業として、複雑あるいは大規模なデータの解析に関係するベイズ推論に焦点を合わせる。	教 授	柏木 宣久
	標本調査論Ⅰ	2	標本調査法を中心として、各種の統計的な研究デザインと取得データに基づく統計的推論について研究指導を行う。	准教授	前田 忠彦
	標本調査論Ⅱ	2	継続的な社会調査の設計と実施、継続調査データから年齢・時代・世代効果を分離し社会の変化を捉えるコウホート分析法などの複数の調査データを扱う分析方法について研究指導を行う。	教 授	中村 隆
	社会調査論Ⅰ	2	社会調査データの収集法（調査法やサンプリング）の理論や、「日本人の国民性調査」等の大規模な社会調査のためのサンプリングの実際などについて研究指導する。		
	社会調査論Ⅱ	2	社会調査の実施に関わる応用的な話題、例えば非標本誤差、調査モード間の比較、などに対する統計的なアプローチについて学ぶ。	准教授	前田 忠彦
	調査データ解析論Ⅰ	2	統計モデルの構成と情報量基準によるその評価という立場から、社会調査データ、特にカテゴリカルデータの解析法について、最近の展開を含めて、研究指導する。		
	調査データ解析論Ⅱ	2	数量化法をはじめとした尺度構成法について研究指導を行う。	准教授	土屋 隆裕
	国際比較調査論Ⅰ	2	社会調査データの国際比較可能性を追求する実践的方法論としての連鎖的比較法(CLA)について講義する。	教 授	吉野 諒三
	国際比較調査論Ⅱ	2	各国の文化や人々の意識の国際比較調査データの分析の実践としての文化多様体解析(CULMAN)について講義する。	教 授	吉野 諒三

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Data Science	Special Topics in Multidimensional Analysis I	2	Descriptive statistical methods as correlation analysis, partial and canonical correlation analyses and PCA and statistical models as regression and factor models are introduced as tools to recognize association and regression structures of multivariate data. The course will also review basic linear algebra to understand the function of these statistical methods.	Prof.	Hiroe Tsubaki
	Special Topics in Multidimensional Analysis II	2	This lecture focuses on topics related to statistical methods of qualitative data analysis known as quantification methods, dual scaling, correspondence analysis or homogeneity analysis.		
	Estimation of High-dimensional Parameters	2	Various estimation procedures have been developed to mitigate unexpected behaviors of conventional estimators of a high-dimensional parameter. A review and theoretical backgrounds are given from a unified viewpoint.		
	Design of Data	2	After discussion of the quality of data, the course will introduce how to collect data accounting their appropriate analysis. I am planning to explain fundamental principles to measure concepts by using a statistical model for survey data and introductory topics of the design of experiments for experimental data.	Prof.	Hiroe Tsubaki
	Special Topics in Data Analysis III	2	This course focuses on classical inference and the linear model regarding to data analysis such as estimation, tests, regression, and experimental design.	Prof.	Nobuhisa Kashiwagi
	Special Topics in Data Analysis IV	2	This course is the second course of "Special Topics in Data Analysis II", focusing on Bayesian inference regarding to the analysis of complex or large-scale data.	Prof.	Nobuhisa Kashiwagi
	Topics in Sampling Theory I	2	This course looks at various statistical research designs and statistical inference based on each design, with special emphasis on sampling theory.	Assoc.Prof.	Tadahiko Maeda
	Topics in Sampling Theory II	2	This course explains how to plan and conduct repeated social surveys and investigates methods of analyzing data obtained from repeated surveys, such as cohort analysis that separates the age, period, and cohort effects on social change.	Prof.	Takashi Nakamura
	Topics in Social Research I	2	In this course, we study practical statistical techniques for social research such as Japanese National Character Survey.		
	Topics in Social Research II	2	This course looks at statistical approaches to various problems in the administration of social surveys, such as non-sampling errors, survey mode comparison, and so on.	Assoc.Prof.	Tadahiko Maeda
	Survey Research Data Analysis I	2	In this course, we study techniques for categorical data analysis based on information criteria.		
	Survey Research Data Analysis II	2	In this course, we study scaling methods, including quantification methods.	Assoc.Prof.	Takahiro Tsuchiya
	On Cross-National Comparability of National Character I	2	Lecture on the paradigm called Cultural Linkage Analysis (CLA) of the cross-national comparability of social survey data.	Prof.	Ryozo Yoshino
	On Cross-National Comparability of National Character II	2	Lecture on the paradigm called Cultural Manifold Analysis (CULMAN) for the analyses of social survey data.	Prof.	Ryozo Yoshino

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
データ科学	調査データ解析特論Ⅰ	2	調査データの探索的解析法について、社会科学、医学・保健学等の分野で扱われる実際のデータを題材に、データ解析に必要な数値計算法、数値実験法も含めて研究指導を行う。	教 授	中村 隆
	調査データ解析特論Ⅱ	2	統計パッケージを用いた調査データの分析法について研究指導を行う。	准教授	土屋 隆裕
	計算統計モデル	2	計算機集約型の統計モデルを説明する。特にデータマイニングと対話的かつ視覚的なデータ操作の手法を中心に講義する。	教 授	中野 純司
	統計計算システムⅠ	2	進んだ統計計算システムを構築するための技術を説明する。インターネット上での分散処理、使いやすい並列計算、対話的データ視覚化などの問題を扱う。	教 授	中野 純司
	統計計算システムⅡ	2	統計プログラミングにおける並列化手法について研究指導を行う。応用として、モンテカルロフィルタにおける並列化や、最適化アルゴリズムへの適用などを取り上げる。	准教授	佐藤 整尚
	統計計算システムⅢ	2	符号理論及び暗号理論において統計的情報を利用した計算アルゴリズムに関する最近の論文を講読する。	准教授	丸山 直昌
	統計計算システムⅣ	2	統計計算システムⅢの継続。	准教授	丸山 直昌
	非線形時系列解析Ⅰ	2	線形／非線形時系列モデルのパラメータ推定法、モデルを用いた予測法についての研究指導を行う。金融時系列データ、脳波データ、膜電位データ等を実例とした解析演習も行う。	教 授	田村 義保
	非線形時系列解析Ⅱ	2	種々の予測モデル（閾値モデル、指数型ARモデル、RBFニューラルネット、状態空間モデル、非線形力学系、非線形確率微分方程式など）を実問題（金融経済予測、脳科学における脳画像ダイナミクスの解析など）への応用の観点から研究指導を行う。	教 授	田村 義保
	疫学方法論	2	疫学は健康科学の方法論的基礎を支える学問である。疾病頻度の尺度、バイアス、交絡および研究デザイン（横断研究、コホート研究、ケース・コントロール研究および臨床試験）などの疫学方法論について研究指導を行う。	教 授	藤田 利治
	薬剤疫学	2	薬剤のリスク評価において重要な役割を担っている薬剤疫学について、大規模データベースを活用した効率の高い研究デザインや副作用自発報告からの統計的シグナル検出などの特徴的な展開を含めて、研究指導を行う。	教 授	藤田 利治
	生物統計学	2	医学や生物学における統計的理論の構築に関する研究指導を行う。	准教授	金藤 浩司
	環境統計学	2	環境科学における統計的手法の適用方法と統計理論の構築に関する研究指導を行う。	准教授	金藤 浩司
	経済時系列論	2	多変量自己回帰モデルを使った経済時系列分析を行う。実際の経済データを取り上げ、そのデータをどのようにモデル化し、どのような考察を行うかを研究指導する。	准教授	佐藤 整尚
	ファイナンス統計学Ⅰ	2	信用リスクの計量化と制御を中心に、金融機関における統計学的問題を解決するプロセスについて、研究指導を行う。	准教授	山下 智志
ファイナンス統計学Ⅱ	2	金融マーケットのリスク評価と投資戦略について、具体的な事例を示し、問題解決の方法論について、研究指導を行う。	准教授	山下 智志	

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Data Science	Special Topics Topics in Survey Data Analysis I	2	Examines exploratory data analysis methods for data obtained from surveys in the fields of social, medical and health sciences, including methods of numerical computation and numerical experiments necessary for data analysis.	Prof.	Takashi Nakamura
	Special Topics in Survey Data Analysis II	2	We study practical techniques used in the analysis of complex surveys with statistical packages.	Assoc.Prof.	Takahiro Tsuchiya
	Computational Statistics Model	2	Statistical models which use computer intensively are explained. Techniques of data mining and interactive visual data handling are mainly discussed.	Prof.	Junji Nakano
	Statistical Computing I	2	Technologies for building advanced statistical computation systems are discussed. We focus on distributed computing over Internet, user-friendly parallel computation, and interactive data visualization.	Prof.	Junji Nakano
	Statistical Computing II	2	This course covers basic topics on Monte Carlo filter.	Assoc.Prof.	Seisho Sato
	Statistical Computing III	2	Study recent papers on algorithms using statistical information in coding theory and cryptography.	Assoc.Prof.	Naomasa Maruyama
	Statistical Computing IV	2	Continuation of "Statistical computer system III".	Assoc.Prof.	Naomasa Maruyama
	Nonlinear Time Series Analysis I	2	Linear and onlinear time series analysis, parameters identification, basic theory of prediction and its applications.	Prof.	Yoshiyasu Tamura
	Nonlinear Time Series Analysis II	2	Nonlinear time series modeling and estimations (Threshold model, EBF-AR model, RBF-neural network, nonlinear state space model, nonlinear dynamical system model, nonlinear stochastic differential equation model, etc.). Their applications to dynamic solutions of inverse problems in neuroscience and physical sciences.	Prof.	Yoshiyasu Tamura
	Epidemiology	2	Epidemiology provides the methodological basis for health sciences. We introduce the methodological issue in epidemiology, which includes measures of disease occurrence, bias, confounding and the epidemiologic design options: cohort, cross-sectional and case-control studies and clinical trials.	Prof.	Toshiharu Fujita
	Pharmacoepidemiology	2	We study pharmacoepidemiology taking an important role on in pharmaceutical risk evaluation. New pharmacoepidemiologic study designs which are efficient and convenient are investigated for providing new sampling and analysis methods.	Prof.	Toshiharu Fujita
	Biostatistics	2	We study the application of statistical methods to problems concerning the medical and biological sciences.	Assoc.Prof.	Koji Kanefuji
	Environmental Statistics	2	We study the application of statistical methods to problems concerning the environment.	Assoc.Prof.	Koji Kanefuji
	Economic Time Series Analysis	2	This course covers economic time series analysis by using the vector autoregressive model.	Assoc.Prof.	Seisho Sato
	Financial Statistics I	2	The course provides students with necessary knowledge and techniques in control and evaluation of credit financial risks. Also, the course introduces leading-edge technology in banks and other financial agencies.	Assoc.Prof.	Satoshi Yamashita
Financial Statistics II	2	The course provides students with necessary case studies and techniques in control and evaluation of financial market risks. Also, the course introduces investment statistical models in pension funds and other financial agencies.	Assoc.Prof.	Satoshi Yamashita	

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
データ科学	医療統計学Ⅰ	2	人を対象とした健康科学の研究は、大きく観察的研究と実験的研究に分けられる。本コースでは、実験的研究、とりわけ、臨床試験に焦点をあて、データ収集とデータ解析に関する固有の方法論とその背後にある統計的理論について指導研究を行う。	教 授	松井 茂之
	医療統計学Ⅱ	2	人を対象とした健康科学の研究は、大きく観察的研究と実験的研究に分けられる。本コースでは、観察的研究に焦点をあて、データ収集とデータ解析に関する固有の方法論とその背後にある統計的理論について指導研究を行う。	教 授	松井 茂之
	データ科学総合研究Ⅰ	2	セミナーや特別講義、演習などを通じて、統計科学における調査・データ解析法・統計ソフトウェア等について研究指導を行う。	データ科学分野全教員	
	データ科学総合研究Ⅱ	2			
	データ科学総合研究Ⅲ	2			
	データ科学総合研究Ⅳ	2			
データ科学総合研究Ⅴ	2				
数理・推論	推測理論Ⅰ	2	確率過程の統計的推測の研究指導を行う。特に、マルテンゲール理論と経験過程理論の両面から新たな理論体系の構築を目指す。	准教授	西山 陽一
	推測理論Ⅱ	2	確率過程の離散観測問題に関する新たなアプローチを論究する。離散観測に基づく推論が連続観測の場合と比べて同等になる場合・ならない場合の詳細な研究を行う。	准教授	西山 陽一
	推測理論Ⅲ	2	外れ値に対処するための統計的推測理論を取り扱う。単なる推定に留まらず検定やモデル選択などにも話を展開させる。	准教授	藤澤 洋徳
	多変量推測統計Ⅰ	2	多変量解析の最近の話題について講義、研究教育指導あるいは輪読を行う。(1) 分割表とグラフィカルモデル (2) 多変量分布理論、ランダム行列 (3) チューブ法 (4) QTL 解析など。	教 授	栗木 哲
	多変量推測統計Ⅱ	2	多変量解析、離散データ解析、漸近推測理論、分布理論、確率場などの数理統計、あるいは微分積分幾何学、凸解析、組合せ数学など統計学に必要な数学のテキストを輪読あるいは講義する。	教 授	栗木 哲
	多変量推測統計Ⅲ	2	一般化線型モデル、独立成分解析などを含む多変量解析法について研究指導を行う。		
	データ解析特論Ⅰ	2	自然科学におけるデータ解析について研究指導を行う。特に、計数データに対するモデルを中心に扱う。		
	データ解析特論Ⅱ	2	具体的なデータと様々な統計的推測理論との関係を取り扱う。主に遺伝子データを対象とする。	准教授	藤澤 洋徳
	統計的学習理論Ⅰ	2	ブースティング法、サポートベクターマシン、カーネル法、ベイジアンネットなどの例題から理論と応用について概説する。	教 授	江口 真透
	情報幾何学	2	幾何的な観点から不確実性のより深い理解を目指して、情報空間の上の幾何学を概説する。	教 授	江口 真透
	信号処理特論Ⅰ	2	主に、主成分分析や独立成分分析の基礎的な理論について扱う。	准教授	池田 思朗
	信号処理特論Ⅱ	2	主成分分析や独立成分分析の理論および音声信号や生体計測信号の解析法について扱う。	准教授	池田 思朗
	制御理論Ⅰ	2	線形制御の基礎的な事項（状態空間表現、可制御・可観測、正準分解と正準形、状態フィードバックと最適LQ制御、オブザーバとカルマンフィルタ、内部モデル原理に基づくサーボ系の構成など）について講義を行う。	教 授	宮里 義彦

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Data Science	Statistics in Medicine I	2	This course focuses on clinical trials and discusses related methodologies on design and data analysis with underlying statistical theory.	Prof.	Sigeyuki Matsui
	Statistics in Medicine II	2	This course focuses on observational medical studies and discusses related methodologies on design and data analysis with underlying statistical theory.	Prof.	Sigeyuki Matsui
	Data Science Research I	2	This is a general course on statistical science consisting of seminars, special lectures and drills. Special emphasis is given to methodologies on survey and sampling, data analysis and statistical software.	All the teaching staff in the field of Data Science	
	Data Science Research II	2			
	Data Science Research III	2			
	Data Science Research IV	2			
	Data Science Research V	2			
Mathematical Analysis and Statistical Inference	Theory of Statistical Inference I	2	Statistical inference for stochastic processes, especially based on the martingale theory and the empirical process theory.	Assoc.Prof.	Yoichi Nishiyama
	Theory of Statistical Inference II	2	Statistical inference for stochastic processes based on discrete time observation.	Assoc.Prof.	Yoichi Nishiyama
	Theory of Statistical Inference III	2	Robust inference against outlier, including robust estimation, test and model selection.	Assoc.Prof.	Hironori Fujisawa
	Multivariate Statistical Inference I	2	Outline of topics: (1) Contingency table and graphical model (2) Multivariate distribution theory, random matrices (3) The tube method (4) The QTL analysis.	Prof.	Satoshi Kuriki
	Multivariate Statistical Inference II	2	Seminar on a particular topic related to multivariate analysis, categorical data analysis, asymptotic inference, distribution theory, random field, and relevant mathematics such as differential geometry, convex analysis, and combinatorics.	Prof.	Satoshi Kuriki
	Multivariate Statistical Inference III	2	Multivariate analysis including generalized linear models and independent component analysis.		
	Special Topics in Data Analysis I	2	Statistical methods for analysis of data in natural sciences, especially models for analysis of count data.		
	Special Topics in Data Analysis II	2	Statistical methods for analysis of data, especially for analysis of genome data.	Assoc.Prof.	Hironori Fujisawa
	Statistical Learning Theory I	2	The theory and applications are lectured through examples of boosting method, support vector machine, kernel space method, Bayesian network.	Prof.	Shinto Eguchi
	Information Geometry	2	A framework on an information space is introduced for deeper understanding on uncertainty from a geometric viewpoint.	Prof.	Shinto Eguchi
	Special Topics in Signal Processing I	2	The main subject is to study the basic theory of the Principal Component Analysis and Independent Component Analysis.	Assoc.Prof.	Shiro Ikeda
	Special Topics in Signal Processing II	2	The main subject is to study the advanced theory of Principal Component Analysis and Independent Component Analysis and its applications to speech signal processing and biological data analysis.	Assoc.Prof.	Shiro Ikeda
	Control Theory I	2	Control Theory I provides basic preliminaries in the field of control theory, such as state space representation, controllability and observability, canonical form, state feedback and optimal LQ control, state observer and Kalman filter, and servo control based on internal model principle.	Prof.	Yoshihiko Miyasato

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
数 理 ・ 推 論	制御理論Ⅱ	2	制御理論Ⅱを基礎として、近年のアドバンス制御、特に適応制御（MRACSとSTC）、非線形制御（厳密線形化とバックステッピング）、ロバスト制御（ロバスト解析、 H_∞ 制御）、関連するシステム同定（部分空間法、逐次型同定法、閉ループ同定）について講義、あるいは関係文献の輪読を行う。	教 授	宮 里 義 彦
	システム最適化Ⅰ	2	凸解析、双対理論、数値線形代数等に基づく凸最適化の理論と応用に関する研究指導を行う。	准教授	伊 藤 聡
	システム最適化Ⅱ	2	連続的最適化、特に階層的最適化、ロバスト最適化、無限次元最適化等、に関する理論、およびその応用としての制御、信号処理その他のシステム設計に関する研究指導を行う。	准教授	伊 藤 聡
	計算推論アルゴリズム	2	最適化、数値線形代数、そして（高次元を含む）数値積分手法を中心に、計算推論の中核となる数値計算技術の基礎的な部分から最先端の現状までを概観する。さらにそれらを統計的情報処理の諸問題に実際に応用する。	教 授	土 谷 隆
	計算推論モデリング	2	最適化や数値計算などの計算的方法論に重点を置いて、統計、学習、パターン認識、制御、工学、金融等の分野におけるモデル構築やデータ解析等について研究指導する。	教 授	土 谷 隆
	応用確率論Ⅰ	2	森林などの再生可能な資源を対象に、カウンティングプロセス、待ち行列などの手法を用いたマクロ的な再生可能資源供給予測について研究指導する。	教 授	吉 本 敦
	応用確率論Ⅱ	2	オプション理論の応用による資源管理リスクに対する数理経済分析について研究指導する。	教 授	吉 本 敦
	数理・推論総合研究Ⅰ	2	セミナーや特別講義、演習などを通じて、統計科学における数理・推論・計算の諸側面について研究指導を行う。	数理・推論分野全教員	
	数理・推論総合研究Ⅱ	2			
	数理・推論総合研究Ⅲ	2			
数理・推論総合研究Ⅳ	2				
数理・推論総合研究Ⅴ	2				
専 攻 共 通	統計科学講究Ⅰ	2	各学生の研究成果の発表演習を行う。	統計科学専攻全教員	
	統計科学講究Ⅱ	2			
	統計科学講究Ⅲ	2			
	統計科学講究Ⅳ	2			
	統計科学講究Ⅴ	2			
	統計科学総合研究Ⅰ	2	セミナーや特別講義を通じて統計科学の先端的な分野について教育研究指導する。	統計科学専攻全教員	
	統計科学総合研究Ⅱ	2			
	統計科学総合研究Ⅲ	2			
	統計科学総合研究Ⅳ	2			
	統計科学総合研究Ⅴ	2			
統計数理セミナーⅠ	1	統計数理研究所で開催されている統計数理セミナーを通じ、研究における問題のたて方や研究の進め方について教育する。	統計科学専攻全教員		
統計数理セミナーⅡ	1				
統計数理セミナーⅢ	1				
統計数理セミナーⅣ	1				
統計数理セミナーⅤ	1				

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Mathematical Analysis and Statistical Inference	Control Theory II	2	Control Theory II focuses on several recent topics in the field of advanced control theory, such as adaptive control (model reference adaptive control and self tuning controller), nonlinear control (exact linearization and backstepping), robust control (robust analysis and H-infinity control), and related system identification methodology (subspace method, recursive estimation method, and closed-loop identification). Control Theory II is based on preceding Control Theory I.	Prof.	Yoshihiko Miyasato
	Systems Optimization I	2	This course is intended to serve an introduction to systems design and analysis, and focuses on the theoretical aspects of convex optimization based on convex analysis, duality theory and numerical linear algebra.	Assoc.Prof.	Satoshi Ito
	Systems Optimization II	2	We will discuss several specific topics in continuous optimization, including hierarchical optimization, robust optimization and infinite-dimensional optimization, with some applications in control, signal processing and other systems design.	Assoc.Prof.	Satoshi Ito
	Algorithms in Computational Modeling and Inference	2	We study numerical algorithms for computational modeling and inference. Special emphasis is laid on algorithms for optimization, numerical linear algebra, and (high imensional) numerical integration.	Prof.	Takashi Tsuchiya
	Computational Modeling and Inference	2	We study general aspects of computational modeling and inference in statistics, learning, pattern recognition, control, industry, finance, etc.	Prof.	Takashi Tsuchiya
	Applied Probability I	2	Through this course, applications of a counting process, queueing theory and other stochastic processes are emphasized for prediction of renewable resources supply prediction and control.	Prof.	Atsushi Yoshimoto
	Applied Probability II	2	Through this course, application of option theory and mathematical economics are studies for risk management of renewable resources.	Prof.	Atsushi Yoshimoto
	Mathematical Analysis and Statistical Inference I	2	This is a general course on statistical science consisting of seminars, special lectures and drills. Special emphasis is given to mathematical/inferential/computational aspects of statistical science.	All the teaching staff in the field of Mathematical Analysis and Statistical Inference	
	Mathematical Analysis and Statistical Inference II	2			
	Mathematical Analysis and Statistical Inference III	2			
	Mathematical Analysis and Statistical Inference IV	2			
	Mathematical Analysis and Statistical Inference V	2			
	Statistical Science Study I	2	This is a general research course of statistical science. Students are requested to present progress of their research by giving seminars and talks.	All the teaching staff of Department of Statistical Science	
	Statistical Science Study II	2			
	Statistical Science Study III	2			
Statistical Science Study IV	2				
Statistical Science Study V	2				
Statistical Science I	2	This is a general course on statistical science consisting of seminars and special lectures. Emphasis is laid on important advanced topics in statistical science.	All the teaching staff of Department of Statistical Science		
Statistical Science II	2				
Statistical Science III	2				
Statistical Science IV	2				
Statistical Science V	2				
Statistical Mathematics Seminar I	1	This is a general course of statistical science. Students are requested to attend the statistical mathematics seminar held at the institute of statistical mathematics to learn various recent developments in statistical science.	All the teaching staff of Department of Statistical Science		
Statistical Mathematics Seminar II	1				
Statistical Mathematics Seminar III	1				
Statistical Mathematics Seminar IV	1				
Statistical Mathematics Seminar V	1				

極域科学専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
極域宇宙圏、 極域気水圏、 極域地圏、 極域生物圏	磁気圏物理学	2	地球の周囲に広がる地球磁場の勢力範囲、磁気圏は、様々な特徴的な領域からなり、それらは太陽風や地球大気との相互作用により、ダイナミックに変動している。そこはまた、様々なプラズマ物理現象が生起する場所でもあり、地球磁気圏を理解することは、磁場を持つ他の天体（木星、太陽など）の理解にもつながる普遍性を持っている。この授業では、そうした磁気圏の構造や磁気圏内で生起する諸現象の概要についての知識を得ることを目的とする。	准教授	門倉 昭
	スペースプラズマ物理学	2	プラズマの基本的性質、電離層・磁気圏におけるプラズマ、電磁場、電流の基本的性質について講述する。	教授	山岸 久雄
	レーダー超高層大気物理学	2	中層大気、熱圏、電離圏を観測する各種レーダーの観測原理、およびその観測により得られる中性大気および電離大気の物理について講義する。ISレーダー、HFレーダー、MFレーダー、流星レーダー、MSTレーダーなどを取り扱う。	准教授	行松 彰
	オーロラ物理学	2	オーロラは、人間が直接肉眼で観測することができる最も美しい「宇宙現象」であるが、その複雑な動き、形、色合いには、太陽-地球系システムの謎が秘められている。こうしたオーロラ現象の多様性、複雑性とそれらを生み出す発生メカニズムについて、地上・ロケット・衛星観測をはじめ、理論、シミュレーション研究によって得られた成果を交えて講義する。	准教授	宮岡 宏
	極域プラズマ波動論	2	極域の電離圏や磁気圏、さらに惑星間空間を吹き抜ける太陽風中には様々なモードのプラズマ波動がダイナミックに生成、伝搬、消滅を繰り返しており、各領域の物理特性や質量収支などを規定する上で本質的な役割を演じている。本講義では、ジオスペース（地球近傍の宇宙空間）内で実際に観測される電磁流体波、静電プラズマ波、電磁波の基本的特性について講述するとともに、これらの波動の観測方法についても講述する。	准教授	岡田 雅樹
	地球電磁気・地球大気圏科学	2	地表から太陽系空間にいたる地球大気の構造や変動に関する我々の理解は、地表での地磁気の観測や地上からの分光観測に限られていたころから、飛翔体、地上からのリモートセンシング、さらに衛星による直接、間接計測など観測法の進展で、飛躍的に進んだ。本講義では、地球電磁気現象から地球大気の構造と種々の物理過程について現在理解されている描像を講述する。	教授	中村 卓司
	電離圏物理学	2	中性粒子や電離気体（プラズマ）が混じり合う電離圏では、オーロラを含む様々な物理・化学的現象が発生し、その影響が地表や磁気圏まで及んでいる。本授業では、電離圏の基礎的な物理を理解すると共に、各種電離圏現象がどのような物理/科学過程を経て発生及び消滅しているかを学ぶ。	講師	小川 泰信

Department of Polar Science

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Magnetospheric Physics	2	The Earth's magnetosphere—the area influenced by the magnetic field that surrounds the earth—is made up of regions with various characteristics, and it changes dynamically due to the effects of solar wind and the Earth's atmosphere. Various plasma physics phenomena occur in parts of this field, and studying the magnetosphere can reveal universal principles that help in understanding other celestial bodies with magnetic fields (e.g. Jupiter, the Sun). This subject is designed to provide general knowledge about the structure of the magnetosphere and the various phenomena that arise within it.	Assoc. Prof.	Akira Kadokura
	Space Plasma Physics	2	This subject covers the fundamental nature of plasma, and the basic properties of plasma, magnetic fields and electric currents arising in the ionosphere and magnetosphere.	Prof.	Hisao Yamagishi
	Radar Aeronomy	2	This subject covers the principles of radar observation for surveying the middle atmosphere, thermosphere and ionosphere, as well as the physics of neutral and ionized atmospheres as revealed by such radar observations. IS radar, HF radar, MF radar, meteor radar and MST radar are specifically described.	Assoc. Prof.	Akira Sessai Yukimatu
	Auroral Physics	2	Aurora is considered as one of the most beautiful space phenomena which we can see with the naked eye. Complexity in its motion, shape and color reflects secrets of the solar-terrestrial system. This lecture deals with the characteristics of auroral phenomena and the generation mechanisms based on data obtained by ground-based, rocket and satellite observations, as well as theoretical and simulation results.	Assoc. Prof.	Hiroshi Miyaoka
	Polar Plasma Wave Theory	2	In the ionosphere and magnetosphere of the polar regions, as well as in the solar winds that blow through interplanetary space, plasma waves of various modes are dynamically and repeatedly formed, propagated and extinguished. These waves play an essential role in regulating the physical characteristics and mass balance of each of these regions. This subject covers the basic characteristics of magnetohydrodynamic waves, electrostatic plasma waves and electromagnetic waves, as observed in geospace (the region of space near Earth), as well as methods of observing these waves.	Assoc. Prof.	Masaki Okada
	Geomagnetism and aeronomy	2	Our understanding of the structure and variation of the Earth's atmosphere as it extends from the surface of the earth to the outer reaches of the solar system has grown dramatically. Whereas observation was previously limited to geomagnetic observation at the Earth's surface and spectroscopic observation from the ground, advances in recent years have made possible remote sensing from spacecraft and from the ground, as well as direct and indirect measurements from satellites. This subject offers an overview of our current understanding of the structure of the Earth's atmosphere and various physical processes based on geoelectromagnetic phenomena.	Prof.	Takuji Nakamura
	Ionospheric physics	2	The ionosphere is created by the ionization of the neutral atoms and molecules of the atmosphere. The charged particles in this region are affected by numerous processes, including chemical reactions, plasma instabilities, diffusion and transportation via electric and magnetic fields. A knowledge of the processes is essential for an understanding of the behavior of ionosphere and ionospheric phenomena. In this lecture, students learn the basic physical and chemical processes occurred in the ionosphere, and also generation and depletion mechanisms of several ionospheric phenomena.	Dr.	Yasunobu Ogawa

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
極域宇宙圏、極域気水圏、極域地圏、極域生物圏	超高層大気波動基礎論	2	超高層大気波動の基礎、大気重力波、潮汐波、プラネタリー波、伝播、波動平均流相互作用、観測等について順に講述する	准教授 助 教	堤 雅基 富川 喜弘
	極域気候システム論	2	極域気候は、高緯度大気圏、海洋圏に雪氷圏を含む特異なシステムであり、地球規模の気候の中で、要となる要素を含んでいる。極域気候をシステムとしてとらえ、その構成要素から相互作用まで、気候システムについて広く講述する。極域大気のエネルギー収支から海氷や雲、大気組成等の変動とその影響、大気-雪氷相互作用、最近の変動まで広く及ぶ。	教授	山内 恭
	雪氷コア古気候論	2	南北両極及び中低緯度高山域の氷床・氷河で掘削された雪氷コアは過去の気候・環境変動に関する貴重な情報を与えてくれる。授業時間の半分程度を使って雪氷コア解析の様々な手法を紹介し、これまでの雪氷コア研究によって解明された過去の気候・環境変動について講義を行う。残りの半分程度は演習形式で最近出版された英語研究論文を読むことにより、最新の研究情報を習得する。	准教授	東 久美子
	極域対流圏現象論	2	前期に開講される「極域大気科学概論」のテキストの残りの部分について輪講形式で、学習する。終了後、大気中で起きている現象から、主として、雲、降水、エアロゾルなどに関係する現象、特に極域でこれまでどの様な研究がなされているかについて解説する。	教 授	和田 誠
	水圏化学解析論	2	大気圏 (Atmosphere)・海洋圏 (Oceanosphere)・陸圏 (Lithosphere) で生じている化学反応過程は、地球史と大きく関わっている。あらゆる現象には素過程があり、水の役割が大きい水圏 (Hydrosphere) を構成している。地球水圏に生じている現象の化学的な側面を理解し、地球上の物質循環過程を通じて、水圏の化学的素過程と変遷について具体的な例を示しながら理解を深めていく。	教 授	神山 孝吉
	雪氷圏解析論	2	地球システムの中で雪氷圏の果たす役割を理解する。雪氷圏は主に氷床、氷河、積雪、凍土、海水で構成されており、気候変動システムを大きく支配している。これらの形成機構や維持機構を理解するとともに、地球環境変動との係わりを考える。また現地観測の方法や実験室での分析法を学習し、データ整理を行う。希望者がいればフィールド観測あるいは低温実験室や雪氷・大気分析室にて実習を行う。2-3 回論文輪講を行う。	教 授	本山 秀明
	地殻進化論	2	地球表層部を形成する地殻、なかでも大陸地殻は人類の生存基盤であり、その成り立ちと変貌の歴史を知ること、人類の生存にとって不可欠である。本論では、大陸地殻が地球上にいかにか形成され、変貌を遂げて現在のような姿になったのか、南極大陸地殻を中心に地球史における地殻進化の過程を講述する。	教 授	白石 和行

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Fundamental physics on the upper-atmospheric waves	2	This subject systematically covers the fundamentals of aeronomic waves, along with atmospheric gravity waves, tidal waves and planetary waves, as well as the propagation, wave-mean flow interaction and observation of such waves.	Assoc.Prof. Assist.Prof	Masaki Tsutsumi Yoshihiro Tomikawa
	Polar climate system	2	Polar climates are unique systems, composed of a high-latitude atmosphere and oceans together with a cryosphere (snow and ice), and feature elements that play a key role in global climate. This subject presents polar climates as systems with reference to their structural elements and the interactions between them. It covers a broad range of topics, embracing the energy balance of polar atmospheres, the variation and influence of sea ice, clouds and atmospheric constituents, as well as atmosphere-cryosphere interaction and recent climate changes.	Prof.	Takashi Yamanouchi
	Ice-core paleoclimatology	2	Ice cores excavated from ice sheets and glaciers in polar regions and on high mountains at low and mid latitudes provide valuable information on climate and environmental change occurred in the past. In this subject, approximately half the time will be used to explain techniques for analyzing ice cores and discuss the climate and environmental change revealed by the ice core research conducted up to now. In the other half, students will engage in a practical exercise—studying the latest research findings by reading recently published scientific papers in English.	Assoc. Prof.	Kumiko Azuma
	Basic physics and chemistry of clouds, precipitation and aerosols in the polar troposphere.	2	In this subject, students will read, as a group, the remainder of the text for “Introduction to Polar Atmospheric Science,” started in the previous semester. They will then study various atmospheric phenomena relating principally to clouds, precipitation, and aerosols in the polar regions.	Prof.	Makoto Wada
	Hydrospheric Process in Aquatic Chemistry	2	The chemical reaction processes occurring in the atmosphere, oceanosphere and lithosphere are closely connected to the history of the Earth. All these phenomena consist of elemental processes, making up the hydrosphere, in which water plays a major role. This subject discusses the chemical aspects of the phenomena occurring in the Earth’s hydrosphere. Through the processes of water and energy transportation, it aims to provide a deeper understanding of the basic chemical processes of the hydrosphere and its transitions, with the presentation of specific examples.	Prof.	Takayoshi Kamiyama
	Cryosphere Science	2	This subject aims to develop an understanding of the role played by the cryosphere in the Earth’s system. Composed mainly of ice sheets, glaciers, snowfall, frozen ground and sea ice, the cryosphere is a key part of the climate system. In addition to understanding the mechanisms by which these phenomena are formed and maintained, this subject deals with their relationship to global environmental change. In addition, students will learn methods of field observation and laboratory analysis and of data processing. Field observation exercises or practical training in a cold laboratory or a glacier and atmosphere laboratory may be provided, dependent on demand. Twice or three times students will work in a group to read scientific papers in turn.	Prof.	Hideaki Motoyama
	Crustal Evolution	2	The crust that forms the surface layer of the Earth, in particular the continental crust, is the foundation of human existence, and understanding its origins and the history of its transformation is essential. This subject deals with the questions of how the continental crust was formed on the surface of the earth and how it has been transformed to reach its current state, exploring the process of crustal evolution in the context of the Earth’s history, focusing on the continental crust of Antarctica.	Prof.	Kazuyuki Shiraishi

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
極域宇宙圏、 極域気水圏、 極域地圏、 極域生物圏	極域海底物理学	2	大陸の離合集散機構は、地球科学の中で大きな問題の一つである。南極海の海底には、 Gondwana 分裂にともなう海洋底拡大と南極プレートの進化の記録が残されており、大陸分裂過程の解明の鍵となるものである。海洋底拡大やプレートの進化過程は、海洋底地形、地磁気異常や重力異常などの地球物理観測を通じて解読される。本講義では、地球全体のプレートの中での、南極プレートの特徴を、海底地形、地磁気異常や重力異常などの海底地球物理観測を通じて概観し、船上観測機器の構成やデータ処理を概説する。	准教授	野木 義史
	極域測地・リモートセンシング論	2	本来、測地学は地球の形状を正確に決定することを目的としていた。しかし、近年の GPS や干渉衛星合成開口レーダー、衛星高度計、衛星重力といった人工衛星を利用した測地技術の進歩により、地球の形状がわかるだけでなく、その時々刻々の変動も捉えられるようになってきた。極域は現場観測が困難であるが、リモートセンシング技術によって、新たな知見が数多く得られつつある。本講義では、測地学の基礎について解説した後、極域の測地観測に利用されているリモートセンシング技術とそれによって得られつつある成果について概観する。また、地球環境変動との関連についても述べる。	准教授	土井 浩一郎
	極域地形発達史論	2	極域の地形は極域独特の環境のもとで歴史的に形成されてきたものであり、その地形の生い立ちと成因を解読することにより極域の自然環境の変遷をひもとくことができる。本講義では、最初に地形発達史の基礎概念と研究課題について解説し、変動してきた自然環境を様々な時間・空間スケールで認識し、理解する方法について学ぶ。次いで極域の地形発達史を読みとるための具体的な概念や方法について解説し、実際の南極の地形解析やそれから得られる結果と地球規模および地域的な環境変動との関連性について議論する。	助教	三浦 英樹
	惑星物質科学	2	隕石は多種多様な種から構成されている。これらの隕石は形成過程の違いから始原隕石と分化隕石に分類される。始原隕石は融けることを経験せず、太陽系を形成した固体物質やその形成過程の情報を保持していると考えられている。一方分化隕石は母天体で融けたと考えられている。これらの隕石について分類学的に解説するとともに、構成していたと考えられる隕石母天体とその形成史について考察を加える。	教授	小島 秀康
	惑星進化論	2	同位体年代学の基本原則を理解する。実験手法およびデータ解析について紹介する。いくつかの分析例をもとに、地球型惑星の初期進化過程をモデル化する。	准教授	三澤 啓司
	岩石磁気学	2	地球磁場の概要、岩石の自然残留磁気の獲得機構、そして磁性鉱物の磁気的特長を理解する。また堆積物から判明した地磁気の永年変化や環境変動について学ぶ。南極隕石研究によって明らかになった原始惑星の進化についても学ぶ。更に、岩石の磁気測定法や古地磁気学の研究手法についても学習する。	准教授	船木 實

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Introduction to Marine Geophysics in the Antarctic Region	2	One of the greatest challenges in Earth sciences is understanding the mechanism by which continents join and separate. The seafloor of the Antarctic Ocean reveals a record of its expansion caused by the separation of Gondwana and of the evolution of the Antarctic plates—important clues in understanding the process of continental separation. The seafloor expansion and plate evolution processes are deduced through geophysical observation of seafloor morphology and geomagnetic and gravitational anomalies. This subject provides an outline of the features of the Antarctic plates in the context of the world's plate tectonics, through geophysical observation of seafloor morphology and magnetic and gravitational anomalies. It also discusses ship-based observation equipment and data processing.	Assoc. Prof.	Yoshifumi Nogi
	Geodesy in polar region and application of remote sensing techniques	2	The original purpose of geodesy was to precisely determine the shape of the Earth. However, the development in recent years of satellite-based geodesy technologies such as GPS, satellite synthetic aperture radar (SAR) interferometry, satellite altimetry and satellite gravimetry, has not only made it possible to easily measure the shape of the Earth, but also to monitor how it changes through time. Although field observations are difficult at the poles, remote sensing techniques are bringing to light large amounts of new information. This subject outlines the fundamentals of geodesy and explains the remote sensing techniques used in geodesic observation of the polar regions, including the results of such observations. In addition, it describes the relevance of this to global environmental change.	Assoc. Prof.	Koichiro Doi
	Historical development of polar region landforms	2	Historically, the topography of the polar regions was formed on the basis of an environment peculiar to these regions. Thus, by interpreting the origin and evolution of this topography, it is possible to understand the transformation of the natural polar environment. This subject firstly explains the fundamental concept of historical topographic development of the polar regions and identifies key research themes in this field. It then outlines methods for recognizing and understanding transformed natural environments on various spatial and temporal scales. Next, it explains concrete ideas and methods for interpreting the topographical evolution of polar regions. In doing this, actual topographical analyses are presented, and the correlation between the results obtained from such analysis and global and regional environmental change are explored.	Assist. Prof.	Hideki Miura
	Planetary material science	2	Meteorites are of many and various types, but they can be broadly classified as primitive or differentiated, according to the process by which they are formed. Since primitive meteorites are made of matter that was never melted, they are thought to embody information about the solid materials from which the solar system was created and the processes by which their materials were formed. On the other hand, differentiated meteorites are thought to have been melted from their parent celestial bodies. In addition to explaining the classification of meteorites, this subject examines the meteorite parent bodies are considered to be derived from and the history of meteorite formation.	Prof.	Hideyasu Kojima
	Evolution of terrestrial planets	2	This subject explains the principles of isotopic dating. It deals with experiment techniques and data analysis and features modeling of the early evolution process of terrestrial planets, with reference to several analysis examples.	Assoc. Prof.	Keiji Misawa
	Rock magnetism	2	Magnetic field of the earth, the acquisition mechanism of natural remanent magnetization and the magnetic characteristics of minerals are taken as the subject. Secular variations of the geomagnetic field and the variation of environmental changes revealed by the sediment magnetism are introduced. The evolution of protoplanets obtained by Antarctic meteorites is studied based on rock magnetism. Furthermore, the principle of rock magnetic instruments and the research techniques of paleomagnetism are instructed.	Assoc. Prof.	Minoru Funaki

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
極域宇宙圏、極域気水圏、極域地圏、極域生物圏	海水圏動物行動学	2	動物行動生態学の基礎概念と研究テーマについて解説する。そのうえで極域（主に海洋）に生息する動物の行動・生態的適応について概説し、また行動・生態と近年の極域の環境変動との関係についての知見を紹介する。さらに極域に生息する海鳥類、海生哺乳類など、海洋生態系の高次捕食動物における最新の行動学・生態学的研究について、演習形式で論文のレビューを行う。	准教授	高橋 晃周
	寒冷域生理生態学	2	生物にとっての極域環境の特性を概説し、環境への適応現象として、特に水界生物・植物の生理的適応について講義する。また、光合成等の生理活性の測定、及び、野外での研究手法に関して実習を行う。	准教授	工藤 栄
	極域海洋基礎生産論	2	海洋の基礎生産とは、主に光合成による有機物の生産過程であり、海洋における複雑な食物連鎖や食物網の源と理解されている。光合成には太陽照射が不可欠である。極域海洋では中緯度海域などに比べると、著しく太陽照射量に季節性があり、夏期間は24時間の照射がある白夜の状況となるのに対して、冬期間はその正反対の極夜となる。このような特殊な太陽照射環境における極域海洋基礎生産の過程について論ずる。	教 授	小達 恒夫
	海洋衛星データ解析論	2	“衛星データの基礎をはじめとし、海洋を対象としたセンサーや運用方法等の技術的側面からその応用解析にわたるまで講述する。また、極域海洋研究に利用されている衛星リモートセンシングデータの取得から解析までの流れを示し、南極観測等の現場での応用例も概説する。	准教授 助 教	渡邊 研太郎 飯田 高大
	極域多様性生物学	2	極域の様々な動・植物の繁殖様式、食物連鎖、群落・群集の構造と機能、分布パターン、生態系の概要を説明し、南極域、北極域の両極域と、高山域、火山噴気孔、深海等の極限環境との異同について言及する。また、近年、極限環境微生物の探索が盛んになっており、極域における生態系に果たす微生物の役割についても論考する。	教 授	神田 啓史
	極域湖沼生態学	2	生態学的な観点から極地、特に南極大陸沿岸の湖沼環境の特性を紹介する。湖沼学（陸水学）的基礎、および陸水学の中で培われてきた生態学的発見などを解説し、また、近年我々が観測を開始している昭和基地近辺での湖沼生態系について、現場観測法・実験法などを交えて講義する。	准教授	工藤 栄
	極域陸上生物解析論	2	極域陸上生態系を対象とした各種研究観測の視点、手法についての理解を深めることを目的とする。現場での経験・体験に基づいた極域における観測行動の実際についても触れる。	助 教	内田 雅己
	超高層物理学概論	2	極域は宇宙の窓であると呼ばれるように、オーロラで代表されるように、太陽風エネルギーが地球圏に流入・輸送・蓄積・消費される様相が極域で顕著に現れる。この極域で観測される様々な超高層物理現象の概要を太陽-地球系システムの視点で講義する。	教 授	佐藤 夏雄

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Animal Behaviour and Ecology in Polar Regions	2	This subject outlines the fundamentals of behavioural ecology and research themes associated with it. On this basis, it overviews the behavioural and ecological adaptation of marine animals in polar regions, and explores their responses to recent environmental changes. Students also pursue practical exercises to review recent research articles on the behaviour and ecology marine top predators, such as seabirds and marine mammals, in polar ecosystems.	Assoc. Prof.	Akinori Takahashi
	Physiological Ecology of polar photosynthetic organisms	2	This subject outlines the characteristics of polar environments in terms of biological adaptation to the environment, particularly physiological adaptation of aquatic microorganisms and flora. In addition, it provides practical training in the measurement of photosynthesis and other physiological activities and in techniques for outdoor research.	Assoc. Prof.	Sakae Kudo
	Primary production in polar oceans	2	In marine ecosystem primary production is principally the production process of organic matter due to photosynthesis, which is understood to be the starting point of the complex food chains and food webs of the sea. While solar radiation is indispensable for photosynthesis, available sunlight is far more seasonal in the polar oceans than in middle-latitude regions. Whilst summer offers 24 hours of solar radiation and features a midnight sun, winter is the exact opposite. This subject examines the process of primary production in the polar seas in light of these exceptional solar environmental conditions.	Prof.	Tsuneo Odate
	Data Analysis for Ocean Remote Sensing	2	"This subject explains the fundamentals of satellite data, covering the technical aspects of sensors and sensor operation methods, focusing on oceans. In addition, it covers applied data analysis. Also outlined are the flow of procedures that extend from the acquisition of polar ocean research data from satellite remote sensing to the analysis of the data. Applied examples of field observations at the South Pole are included."	Assoc. Prof. Assist. Prof.	Kentaro Watanabe Takahiro Iida
	Biodiversity in polar regions	2	"This subject explains the various methods of plant and animal reproduction, food chains, the structure and function of plant and animal communities, distribution patterns and ecosystems in the polar regions, and it discusses the differences between the two polar (Antarctic and Arctic) regions and the extreme environments of high mountains, volcano mouths and the deep sea. In view of the considerable energy invested in searching for microorganisms in extreme environments in recent years, the role played by microorganisms in the ecosystems of polar regions is also studied."	Prof.	Hiroshi Kanda
	Polar Limnology and Ecology	2	This subject explores the characteristics of lake environments in polar regions, particularly those along the Antarctic coast, from an ecological perspective. It explains the fundamentals of limnology and the ecological discoveries made through limnology. Also covered are field observation and experiment methods used to study the lake ecosystems around the Showa Station where NIPR began observations in recent years.	Assoc. Prof.	Sakae Kudo
	Analysis of terrestrial ecosystem in polar region	2	The objective of this subject is to deepen understanding of the various approaches to research and observation and the methods used to study polar terrestrial ecosystems. Students will be exposed to actual observation activities in polar regions, based on experience in the field.	Assist. Prof.	Masaki Uchida
	Introduction of upper atmosphere physics	2	The polar regions are described as a window to outer space. Accordingly, as typified by auroras, the inflow, transport, accumulation and consumption of solar wind in the geosphere can manifest in spectacular ways. This subject provides an outline of various aeronomic phenomena observed in the polar regions from the perspective of the Sun-Earth system.	Prof.	Natsuo Sato

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
極域宇宙圏、 極域気水圏、 極域地圏、 極域生物圏	極域大気科学概論	2	” 大気科学の研究を進めていく上で必要な、基礎となる物理過程や化学過程を 14 項の 2 冊の教科書のどちらかを利用して学習する。どちらにするかは、授業を選択した学生と話し合っ決めて。輪講形式で行う。	教 授	和田 誠
	極域海洋科学概論	2	海水域は全海洋面積の約 1 割を占めている。そこで生じる地球物理的な諸現象と共に、海水消長を通じた極域海洋の地球気候形成に果たす役割を講ずる。また、水や氷が持つ物理的な特性、および海水の形成・成長過程などに関する基礎的な解説に加えて、現地観測の様々な手法や近年の国内外における研究成果について紹介する。	准教授	牛尾 収輝
	雪氷物理学概論	2	極地氷床の雪氷物理過程についての基礎的な知識について、それに、実際の観測研究や最近の研究上のトピックを取り上げて解説や議論をすすめる。特に、極地氷床での雪・氷・フィルムについての基礎知識、極地氷床の物理プロセス、氷床コアシグナルの物理、実験や野外観測の技術の解説と議論に力点を置く。	准教授	藤田 秀二
	極域生物海洋学概論	2	海洋生態系における食物連鎖や食物網の中で、動物プランクトンは植物プランクトンを主とする海洋基礎生産者と高次捕食者との間に位置づけられる。極域海洋では基礎生産は太陽日射がある夏期間に限られるが、動物プランクトンは基礎生産に依存しながら、冬期間を通して生き残り、更に高次捕食者の重要な餌となっている。極域海洋におけるオキアミ類を含む動物プランクトンの生産過程について論じる。また、動物プランクトン観測法については船上観測研修を実施することがある。	教 授	福地 光男
	極域陸上生態学概論	2	低温・乾燥という極限環境下の生命によって構成される、極域陸上生態系の基礎的な理解を深めることを目的とする。コケ・地衣・藻類などの植物と、ダニ・トビムシ・クマムシなどの動物、およびバクテリアを主な対象とし、単純な生態系の中での繁殖構造、種間関係、変遷しを議論し、環境問題にも焦点を当てる。	准教授	伊村 智
	地殻物質科学概論	2	大陸地殻における地質学的現象を、岩石学的・鉱物学的・地球化学的な見地から概観し、とくに地殻の構成要素である岩石・鉱物に記録された過去の変動の痕跡を読み取る手法について理解するとともに、大陸地殻が地球史の中でどのように発生し進化してきたかを学ぶ。	教 授	本吉 洋一
	極域固体地球物理学概論	2	地球の内部構造には、その進化の歴史を反映した地域性が認められる。従って、南極大陸の進化の過程、現在の姿を理解するためには、地殻やマントルの構造、ジオイド、重力異常、地殻磁気異常などの地域特性を他地域との比較において理解する必要がある。本講義では南極大陸の特徴を、地震波速度構造探査による姿、地震波トモグラフィや、地殻磁気異常、フリーエア・ブーゲー重力異常による姿によって概観する。IPY2007-2008 に関連して POLENET, SALE というプロジェクトが提案されたが、調査の概要を紹介する。	教 授	澁谷 和雄

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Introduction to atmospheric science in the polar region.	2	"In this subject, students learn about the physical and chemical processes essential and fundamental to the pursuit of atmospheric science research, using one of the two text books listed in the Item 14. The choice of book will be made by discussion between the students taking the subject. Study will be done group-style."	Prof.	Makoto Wada
	Introduction to the Polar Marine Science	2	Sea ice extent in bi-polar oceans covers about 10% area in total earth surface. This subject gives a lecture on geophysical phenomena in the Arctic and Southern oceans and relationship to the global climate system through sea ice variations. Also, water and ice, having unique characteristics, and basic interpretation on sea ice formation processes will be lectured in accompanied with recent scientific topics and future studies on polar oceanography.	Assoc. Prof.	Shuki Ushio
	An introduction of Glaciology	2	"This subject features explanation and discussion of the physical processes of snow/ice formation in polar ice sheets, including fundamental principles, with presentation of actual research data and recent research topics. The order of study will be according to the flow shown on the class plan of item 8. In addition to the listed items, cutting-edge polar environmental research topics will be discussed, as required."	Assoc. Prof.	Shuji Fujita
	Biological oceanography in polar seas	2	This subject provides an outline of the physical structure of the polar seas, and aims to deepen understanding of their relationship with the movement of plant and animal plankton. In addition, it explains the flow of energy in ecosystems. In particular, the role of zooplankton in the polar marine ecosystem is outlined. Sampling and observation of zooplankton at sea will be carried out as a field course.	Prof.	Mitsuo Fukuchi
	Introduction to Terrestrial Ecology in Polar Region	2	This subject aims for a deeper fundamental understanding of polar terrestrial ecosystems, which are composed of forms of life that can withstand environments of extremely low temperature and dryness. Focusing mainly on vegetation such as moss, lichens and algae, on animals such as mites, springtails and tardigrades, and on bacteria, the reproductive structure, interspecific relationships and transformation of these life forms in simple ecosystems will be discussed, with emphasis on environmental problems.	Assoc. Prof.	Satoshi Imura
	Introduction to crustal materials and processes	2	This subject offers an outline of geological phenomena in continental crusts from petrological, mineralogical and geochemical view points. In addition to understanding techniques for interpreting the traces of past changes recorded in the rocks and minerals that make up the Earth's crust, students will learn how the continental crust originated and evolved in the course of the Earth's history.	Prof.	Yoichi Motoyoshi
	Introduction to Solid Earth Geophysics in the Antarctic Region	2	Local characteristics of the structure of the Earth's interior reflect the history of crustal evolution. Accordingly, to understand the process of Antarctic crustal evolution and its current feature, it is necessary to compare its local characteristics, such as geoid, gravitational anomalies and crustal magnetic anomalies, with those of other areas. This subject describes the characteristics of Antarctic plate, as determined by a seismic velocity survey, seismic tomography, crustal magnetic anomalies, and free-air and Bouguer gravity anomalies. Furthermore, an outline of surveys of the proposed POLENET and SALE projects associated with IPY2007-2008 will be presented.	Prof.	Kazuo Shibuya

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
極域宙空圏、 極域気水圏、 極域地圏、 極域生物圏	極域第四紀学概論	2	地球史の最新の時代である第四紀の約 260 万年間は、氷床の大規模な盛衰、海水準の著しい変動、激しい地殻変動などを通じて、現在見られる自然が形作られた時代であり、人類もこの時代に発展してきた。極域はこのような変動の原因を解くうえでの鍵となる主要な舞台のひとつである。本講義では、最初に、どのような手法と考え方で、この第四紀という時代の多彩な自然史の変動が解明され、認識されてきたのかを解説する。次いで、最近の研究動向を紹介して、地球システムの理解に果たす第四紀研究の役割、自然環境と人類の今後の変化予測の可能性、および地球史における人類の位置づけについて考えてゆく。	助 教	三 浦 英 樹
	極域科学特別研究 I	2	指導教員が学位論文作成に向けた研究指導を行う。	指導教員	
	極域科学特別研究 II	2	指導教員が学位論文作成に向けた研究指導を行う。	指導教員	
	極域科学特別研究 III	2	指導教員が学位論文作成に向けた研究指導を行う。	指導教員	
	極域科学特別研究 IV	2	指導教員が学位論文作成に向けた研究指導を行う。	指導教員	
	極域科学特別研究 V	2	指導教員が学位論文作成に向けた研究指導を行う。	指導教員	
	極域科学特別演習 I	2	極域科学の各教育研究指導分野に分かれてゼミ形式の演習を行う。	指導教員	
	極域科学特別演習 II	2	極域科学の各教育研究指導分野に分かれてゼミ形式の演習を行う。	指導教員	
	極域科学特別演習 III	2	極域科学の各教育研究指導分野に分かれてゼミ形式の演習を行う。	指導教員	
	極域科学特別演習 IV	2	極域科学の各教育研究指導分野に分かれてゼミ形式の演習を行う。	指導教員	
極域科学特別演習 V	2	極域科学の各教育研究指導分野に分かれてゼミ形式の演習を行う。	指導教員		

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	An introduction to Quaternary in the polar regions	2	The approximately 2.6 million years of the Quaternary period, the latest period in the Earth's historical evolution, has featured large-scale growth and decay in ice sheet conditions, marked variations in sea levels and dramatic change in the Earth's crust. These factors have enabled nature to take shape as we see it today and for humanity to evolve as it has. As a principal stage for these changes, the polar regions represent a key to understanding how they occurred. This subject begins by explaining the techniques and concepts used to elucidate and recognize the various changes in the evolution of nature during the Quaternary period. Next, the latest research trends are used to discuss the role of Quaternary research in understanding the system of the Earth, to assess the possibility of predicting forthcoming changes in the natural environment and human development, and to reflect on the position of humanity in the context of the Earth's history.	Assoc. Prof.	Hideki Miura
	Special Lectures for Dissertation I	2	Adviser provides research guidance to help in creating a degree thesis.		Mentor
	Special Lectures for Dissertation II	2	Adviser provides research guidance to help in creating a degree thesis.		Mentor
	Special Lectures for Dissertation III	2	Adviser provides research guidance to help in creating a degree thesis.		Mentor
	Special Lectures for Dissertation IV	2	Adviser provides research guidance to help in creating a degree thesis.		Mentor
	Special Lectures for Dissertation V	2	Adviser provides research guidance to help in creating a degree thesis.		Mentor
	Special Exercise for Dissertation I	2	Seminar-style practical exercises are conducted for each of the fields of polar science in which research guidance is provided.		Mentor
	Special Exercise for Dissertation II	2	Seminar-style practical exercises are conducted for each of the fields of polar science in which research guidance is provided.		Mentor
	Special Exercise for Dissertation III	2	Seminar-style practical exercises are conducted for each of the fields of polar science in which research guidance is provided.		Mentor
	Special Exercise for Dissertation IV	2	Seminar-style practical exercises are conducted for each of the fields of polar science in which research guidance is provided.		Mentor
	Special Exercise for Dissertation V	2	Seminar-style practical exercises are conducted for each of the fields of polar science in which research guidance is provided.		Mentor

情報学専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
情報基礎科学	情報論理学	2	プログラミング言語や仕様記述に関して重要である型理論について、その初歩を、数学的に厳密に説明する。	教授	龍田 真
	数値計算論	2	科学技術計算で重要な数値線形代数、特に大規模連立一次方程式のクリロフ部分空間反復法について、アルゴリズムとその数理的な解析について学ぶ。	教授	速水 謙
	生命情報学	2	生命体もしくは生命現象が示す階層性と連続性、特異性と共通性をもとに、分子レベル、細胞レベル、個体レベル、集団レベルで生物が行う情報処理システムについて説明する。	教授	藤山秋佐夫
	アルゴリズム	2	計算手法の理論であるアルゴリズムの基礎的な概念と技術、および実際のプログラミング、および応用分野での適用時に重要となるアルゴリズム的な事項を、例題を通じて解説する。	准教授	宇野 毅明
	数理言語学	2	自然言語の記述のために用いられる様々な文法フォーマリズムについて講義する。特に、木接合文法や多重文脈自由文法などの「穏やかな文脈依存性」を扱うことのできる文法フォーマリズムの形式的性質や効率的な構文解析アルゴリズムに焦点を当てる。時間が許せば、ラムダ計算を使って統語論と意味論を統一的に捉える抽象的範疇文法に関する最近の研究についても触れる。	准教授	金 沢 誠
	離散数学	2	離散数学は、近年の劇的な理論計算機の発展と、組合せ論の発展の両方に貢献してきた。そしてここ 20 年の間に、どの数学分野と比較しても、遜色ないような深い理論と結果が、生まれてきた。その中でもグラフ彩色理論、グラフマイナー理論は、現在では、離散数学の中でもっとも深い理論のひとつと位置づけられている。4 色定理の周辺で生まれたグラフ彩色理論、グラフマイナー理論、グラフ構造理論の最先端の成果を解説する。	教授	河原林 健一
	量子情報基礎	2	この講義は量子情報処理という新しい学問分野について、この分野に興味をもつ大学院生に向けたものです。ここでは、量子計算・情報の基本的な概念について学ぶとともに、その理論と実現化を光を用いた量子情報処理を通して理解することをめざします。	教授	根本 香絵
	高度データ構造	2	大量データを高速に処理するためのデータ構造やアルゴリズムを説明する。	准教授	定兼 邦彦
	化学情報学	2	情報学の実問題への応用分野の一つとして化学情報学を概説する。化学情報の基礎、コンピュータ表現と処理、知的システムの応用などを通じて、情報学と化学の接点や、複雑性と多様性を有する実情報の処理の実際について説明する。	准教授	佐藤 寛子
	数理論理学	2	数理論理学の初歩から中級程度の内容のうち、計算機科学への応用と関連のある話題を選んで解説する。		
量子コンピュータ	2	量子情報理論の数理的な理論について解説する。	准教授	松本 啓史	

Department of Informatics

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Foundations of Informatics	Logic in Computer Science	2	Type theory gives a fundamental framework for programming languages and software specification. This course will introduce type theory and give its explain in a mathematically rigorous way.	Prof.	TATSUTA Makoto
	Theory of Numerical Methods	2	We will study numerical linear algebra, which has fundamental importance in scientific and engineering computing. In particular, we will focus on Krylov subspace methods for large-scale linear systems of equations, with an emphasis on algorithms and their mathematical analysis.	Prof.	HAYAMI Ken
	Basis of Information Processing in Life Systems	2	Series of lectures on information-processing in life systems from molecules to populations.	Prof.	FUJIYAMA Asao
	Algorithm	2	Explain basic concepts and techniques on algorithm, which is the theory of the way of compute, by showing applications in the real world, from the view point of algorithms theory.	Assoc.Prof.	UNO Takeaki
	Mathematical Linguistics	2	This course investigates various types of grammar formalisms that are used for formal description of natural language, with a particular emphasis on the formal properties and efficient parsing algorithms concerning so-called "mildly context-sensitive" grammar formalisms, including tree-adjoining grammars and multiple context-free grammars. Time permitting, we review some ongoing work on abstract categorial grammars, a recently introduced formalism that captures syntax and semantics within a single framework using lambda calculus.	Assoc.Prof.	KANAZAWA Makoto
	Discrete Mathematics	2	Discrete mathematics has become popular in recent decades because of its applications to computer science. Concepts and notations from discrete mathematics are useful to study or describe objects or problems in computer algorithms and programming languages.	Prof.	KAWARABAYASHI Ken-ichi
	Basic concepts in quantum information	2	This course will cover the newly emerging discipline of quantum computation and quantum information processing. It is addressed to graduate students, who would like to learn more about this research area. The course will introduce the basic concepts of quantum information processing and computation and its application to optical technology. The following topics will be covered.	Prof.	NEMOTO Kae
	Advanced Data Structures	2	This course will introduce advanced data structures for processing large-scale data.	Assoc.Prof.	SADAKANE Kunihiko
	Chemoinformatics	2	Studying about an outline of chemoinformatics, informatics in chemistry, is the main issue of this course. It includes basic contents and representations of chemical information, and tactics in chemical intelligent systems for solving practical problems in chemistry.	Assoc.Prof.	SATOH Hiroko
	Mathematical Logic	2	An introductory-intermediate level course in mathematical logic. Topics are chosen among those related to applications of logic in computer science.		
Quantum Computation	2	Introduction of elementary mathematical thory of quantum information. Namely, we deal with entanglement, data compression, and state estimation.	Assoc.Prof.	MATSUMOTO Keiji	

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
情報基礎科学	量子多体問題の量子シミュレーション	2	量子多体問題を解く手法として、量子力学をデバイスにとりいれるアプローチや、量子情報の概念をつかった古典コンピュータ用のアルゴリズムを紹介する。	助 教	BYRNES Timothy
	現代暗号	2	現代暗号における基礎的な概念について解説する。		
情報基盤科学	計算機システム設計論	2	高性能、高信頼計算機システムを設計する上で必要な(1) 計算機アーキテクチャ、高性能マイクロプロセッサ、プロセッサ実装技術等の技術、(2) システムの故障が及ぼす影響を阻止し、高い信頼性を持つフォーレトトレラントシステムの設計に必要な、システム構成と回復、誤り検出、テスト生成、形式的検証等の技術について説明する。	教 授 准教授	米田 友洋 松本 尚
	情報通信システム論	2	通信システムの基本原理、アルゴリズム、および、ネットワーク設計・運用のための性能評価手法、モデリング手法について説明する。	准教授 准教授 准教授	阿部 俊二 計 宇生 福田 健介
ソフトウェア科学	プログラム構造論	2	計算機プログラムに内在する数理的構造を捉え、アルゴリズム設計における構成的手法の体系化とそれに基づくプログラミング方法論を扱う。	教 授	胡 振江
	分散システム	2	本講義では分散システムの基礎技術である分散アルゴリズム及び分散システム向けのソフトウェア技術における、最新トピックスを扱う。	教 授	佐藤 一郎
	データ工学	2	テキストデータを中心に、データの解析および処理の基礎理論を概説するとともに、テキストマイニングの最新の研究動向を取り上げて議論する。	教 授	高須 淳宏
	ソフトウェア工学	2	ソフトウェアに求められる信頼性ならびに安全性の水準を確保するための形式手法と検証の技術について、代表的な方法と仕組みを説明する。	教 授	中島 震
	シグナルプロセッサ	2	デジタル信号処理の基礎的な概念を習得する。また信号処理ハードウェア構成法の現状を講義する。	教 授	橋爪 宏達
	確率的情報処理	2	情報学において実世界のデータモデリングに重要な役割を果たす確率モデルを対象とし、確率論の基礎から応用までを扱うとともに、確率モデルを利用するために必要な学習や評価等の問題についても論じる。	准教授	北本 朝展
	制約プログラミング	2	宣言的な問題の記述に基づくプログラミング方式である制約プログラミングの概念、理論、技術、応用について論じる。	准教授	細部 博史
	サービス指向コンピューティング	2	分散オブジェクトやXMLに関する原則、基礎理論、基盤技術を踏まえながら、Web サービス技術、およびサービス指向コンピューティングの概念について論じる。またセマンティックウェブ技術やクラウドコンピューティング等との関連も含めて技術動向や応用事例を概観、議論する。	助 教	石川 冬樹
	XML データベース	2	XML データベースに関する基礎知識について概説する。	助 教	加藤 弘之
	データベースプログラミング言語	2	データベースに対する問い合わせ処理等を記述する言語について、理論的背景や実行系、最近の研究動向を概説する	助 教	日高 宗一郎
	プロセスに基づくソフトウェア開発	2	本講義では、大規模かつ高品質なソフトウェアを効率良く開発するためのプロセス(手順)を、演習を通じて学ぶ。特に、ドキュメント中心で軽量なソフトウェア開発プロセスとされる ICONIX を使用した講義とグループ演習により習得する。	助 教	鄭 顕志

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Foundations of Informatics	Quantum simulation of quantum many body problems	2	An introduction to the various approaches to solve quantum many body problems. This includes methods that use quantum technologies and modern classical algorithms that solve the problem from a quantum information viewpoint.	Assist.Prof.	BYRNES Timothy
	Modern Cryptography	2	This course will introduce basic concepts in modern cryptography.		
Information Infrastructure Science	Computer System Design	2	This course will focus on (1) advanced computer architectures, high-end microprocessor, implementation technologies on processors, and (2) fault-tolerant system architectures and techniques for error recovery, error detection, automatic test pattern generation, and formal verification, all of which are indispensable for designing highly-reliable high-performance computer systems.	Prof. Assoc.Prof.	YONEDA Tomohiro MATSUMOTO Takashi
	Information and Communication Systems	2	This course provides an introduction of the principle, algorithms, system architecture, and performance evaluation methods of information and communication systems.	Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	ABE Shunji JI Yusheng FUKUDA Kensuke
Software Science	Mathematical Structures in Programming	2	This course discusses the mathematical structures in programs and explains how mathematical reasoning plays an important role in designing efficient algorithms and constructing correct programs.	Prof.	HU Zhenjiang
	Distributed Systems	2	This lecture address several recent topics in distributed algorithms and software technologies for distributed systems.	Prof.	SATOH Ichiro
	Data Engineering	2	This course overviews basic theories for data analysis and processing and studies the recent progress in text mining.	Prof.	TAKASU Atsuhiko
	Software Engineering	2	Presents an Overview of Formal Methods, which is a Systematic Approach to Achieving Required Reliability and Safety Levels of Software Design.	Prof.	NAKAJIMA Shin
	Signal processors	2	In this course I will explain the basic concepts of digital signal processing. Also explain the current status of the art of signal processing hardware architectures.	Prof.	HASHIZUME Hiromichi
	Probabilistic Models in Informatics	2	The focus of this course is probabilistic models that play important roles in informatics for the modeling of real world data. This course deals from the basics to the application of probability theory, and discuss important topics for using probabilistic models such as learning and evaluation.	Assoc.Prof.	KITAMOTO Asanobu
	Constraint Programming	2	Concepts, theories, technologies, and applications related to constraint programming, which is a programming paradigm based on the declarative specification of problems, are discussed.	Assoc.Prof.	HOSOBIE Hiroshi
	Service-Oriented Computing	2	This course argues Web Service technology and Service-Oriented Computing, while reviewing principles, fundamental theories and techniques on distributed objects and XML. This course also discusses the current trends in related techniques and applications, including relationships with Semantic Web technology and Cloud Computing.	Assist.Prof.	ISHIKAWA Fuyuki
	XML Databases	2	This course overviews fundamental theory and techniques of XML Databases, and surveys state of arts in this research area.	Assist.Prof.	KATO Hiroyuki
	Database Programming Languages	2	This lecture overviews programming languages suitable for data-intensive processing, such as query processing of database systems, along with their theoretical background, implementations and research trends.	Assist.Prof.	HIDAKA Soichiro
	Software Development Process	2	Software development process provides a well-defined systematic way to develop software. This course introduces a lightweight software development process called ICONIX to learn how to model software according to the process, and to put it into practice.	Assist.Prof.	TEI Kenji

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
情報メディア科学	メディア基盤	2	情報メディアを扱う上で基盤となる理論・技術について講義する。具体的には、情報メディアの基本的な要素であるテキストを扱うための理論・技術、大量のメディア情報を効率的に扱うための理論・技術、安心・安全に情報メディアを活用・流通するための理論・技術等を取り上げる。	客員教授 准教授 准教授	相澤 彰子 片山 紀生 越前 功
	メディア処理基礎	2	メディア処理の全般に関わる基礎技術について、パターン認識理論および信号処理理論を中心に概説をおこなう。これらの理論は、情報メディアを解析し、特徴を抽出したり、望ましい形に変換するためには欠かせない技術である。必要に応じ演習の時間を設け、映像情報等を実際に処理してみることで、より理解を深める。	教授 准教授 助教 助教	佐藤 真一 児玉 和也 孟 洋 LE Duy Dinh
	メディア処理応用	2	メディア処理の応用例として、特に、視覚情報と密接に関わりを持った画像メディアに関して、その処理、解析、加工・編集、圧縮、伝送、呈示のための技術を学ぶ。具体的には、コンピュータ・ビジョンによる画像からの3次元情報獲得、コンピュータ・グラフィックスによる画像生成などについて、実装可能なアルゴリズムを交えて講義する。さらに、これらを組み合わせた高度な画像加工技術 (computational photography, inverse rendering 等) や映像の圧縮伝送技術の基本的概念や方法論についても講義する。	教授 准教授 准教授 助教	杉本 晃宏 佐藤 いまり 後藤田 洋伸 CHEUNG Gene
	インタラクティブメディア	2	本講義では、人間と情報システム、および、人間同士の対話におけるメディアの効用について扱う。特に、ユーザである人間の認知や社会的特性などに着目し、そのモデリング、観察、質的・量的分析、評価法など、基礎的な手法の解説から実践までを、情報検索やeラーニングなどのテーマに即して紹介する。	教授 准教授	新井 紀子 相原 健郎
	知能システム科学	人工知能基礎論	2	人工知能の基礎、とくに記号による知識の表現と推論について詳述する。	教授
推論科学		2	人工知能における高次推論について、基礎理論、実装、応用について学ぶ。	教授	佐藤 健
知識共有システム		2	本講義ではインターネットを通じて知識共有を実現するための技術の基礎と応用について学習する。基礎的な技術としてセマンティックWeb、オントロジー、社会ネットワークの分析を取り上げる。	教授	武田 英明
ヒューマンエージェントインタラクション		2	HAI (ヒューマンエージェントインタラクション) について、その基礎概念、方法論、応用例について説明、議論する。	教授	山田 誠二
クラスター分析		2	本講義では、知識発見のためのクラスター分析のテーマを取り巻く理論上、実用上の問題を扱う。アプリケーションやサポートに必要なデータ構造とともに、クラスター化戦略を比較再検討する。特に、検討するさまざまな手法のスケラビリティと適用可能性に関するデータ表現の含意とアルゴリズム的設計選択に注目する。	客員教授	HOULE Michael E

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Multimedia Information Science	Digital media infrastructure	2	The goal of this course is to provide a general view of basic theories and techniques on information media. The topics include (i) theories and techniques to manipulate textual information that is one of the basic elements of information media, (ii) those for large-scale processing of multimedia information, and (iii) those with regard to media security for fair use of multimedia content.	V.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	AIZAWA Akiko KATAYAMA Norio ECHIZEN Isao
	Fundamentals of Media Processing	2	This course explains the overview of the basic technologies related to whole aspect of media processing especially pattern recognition theory and signal processing theory. These technologies are indispensable for media analysis, feature extraction, media conversion, and so on. Project works such as video information processing will be assigned upon necessity to deepen the understanding.	Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof. Assist.Prof.	SATOH Shin'ichi KODAMA Kazuya MO Hiroshi LE Duy Dinh
	Applications of Multimedia Processing	2	As an application of media processing technologies, this course focuses on image media and gives the overview of latest topics on image processing, analysis, editing, video compression/transmission and visualization. The topics include (i) 3D information reconstruction from images using computer vision techniques, and (ii) realistic visualization of 3D information using computer graphics techniques. Computational photography and inverse rendering are also discussed which are developed by combining computer vision and computer graphics techniques. The basic concept & methodologies of video compression and transmission over heterogeneous networks are also covered.	Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof.	SUGIMOTO Akihiro SATOH Imari GOTODA Hironobu CHEUNG Gene
	Interactive Media	2	In this course participants will be introduced to media for human-machine and human-human interaction on which the course focuses cognitive and social aspects. The course will cover a broad range of topics including user modeling, techniques for experiments, methodologies of qualitative/quantitative analysis and evaluation, and case studies, such as designs of interaction in information retrieval and e-Learning systems.	Prof. Assoc.Prof.	ARAI Noriko AIHARA Kenro
Intelligent Systems Science	Logical Foundations for Artificial Intelligence	2	The principles of Artificial Intelligence are studied. In particular, symbolic representation of knowledge and inference are investigated in detail	Prof.	INOUE Katsumi
	Reasoning Science	2	We study theoretical foundations of advanced reasoning such as nonmonotonic reasoning and its implementation and applications.	Prof.	SATOH Ken
	Knowledge Sharing System	2	Firstly the concept of knowledge sharing is identified. Then key techniques are introduced; Semantic Web, Ontology and Social network analysis.	Prof.	TAKEDA Hideaki
	Human-Agent Interaction	2	This course will introduce fundamental concepts, methodologies, and applications of HAI.	Prof.	YAMADA Seiji
	Cluster Analysis	2	This course deals with the theoretical and practical issues surrounding the topic of cluster analysis for knowledge discovery. A comparative review of clustering strategies will be presented, as well as their applications, and the data structures needed to support them. Particular attention will be given to the implications of data representations and algorithmic design choices on the scalability and applicability of the various approaches studied.	V. Prof.	HOULE Michael E

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
知能システム科学	機械学習	2	知識を自動的に獲得するための機械学習に関して、決定木、素朴ベイズ学習、帰納論理プログラミングなどを取り上げ、その理論、応用、展望について考究する。	准教授	市瀬 龍太郎
	知能ロボティクス	2	本講義では、アクチュエータを持ち、実世界の中で人間を支援し活動する物理エージェントとしての知能ロボットの構成法について論じる。必要となる基本的要素技術を論じ、それらの統合システムとしてのソフトウェア工学、システム構成論、応用事例について議論する。	准教授	稲邑 哲也
	知的ウェブシステム	2	ウェブの知的処理に必要なセマンティックウェブならびにウェブマイニングの基礎について講義を行う。	准教授	大向 一輝
	自然言語処理	2	このコースでは、自然言語処理、すなわち計算的・工学的な視点から人間の言語を研究する分野の基本的技術を教える。講義内容には、品詞のタグ付け、語彙分析、解析アルゴリズム、文法フォーマリズム、語義の曖昧性解消、評価に関する事項、自然言語の機械学習などが含まれる。	准教授	COLLIER Nigel
知能システム科学	心理言語学	2	発話行為、ならびに発話と発話に伴って生起する身振りの協調関係に焦点を当てた談話分析を通して、知的インターフェースとして重要な自然言語が実際のコミュニケーション場面においてどのような振る舞いを示し、談話が発話と身振りによってどのように構造化されているかを心理言語学的モデルとして考究する。授業では、基礎的な文献購読を通してこのトピックに関する様々な見解を導入し、話者が身振りをする様子を撮影したビデオテープを実際に観察・分析することを通して、発話身振り研究が「思考と言語」という心理言語学におけるより大きな問題に対して持つ理論的な意義や、このような心理言語学的研究から示唆される教育や技術への応用の可能性について議論する。	准教授	古山 宣洋
	知的ユーザインターフェース	2	「Second Life」や OpenSimulator のような三次元（3D）仮想世界とは、ユーザがアバターとして会える模倣物理空間のことをいう。本講義では、科学研究のための仮想世界の可能性を探る。	准教授	PRENDINGER Helmut
	構文・意味解析	2	自然言語の構文と意味を自動解析するための基礎理論と技術、および構文・意味解析システムの応用について説明する。	准教授	宮尾 祐介
	コミュニケーション環境論	2	我々は対面した環境のみならず、携帯電話を介した環境、インターネットを介した環境において、人々と様々な情報をやり取りし、人と人との関係を構築している。本講義は、このような我々の日常における「コミュニケーション環境」を議論するために、関連する従来研究の多様性とその方法論について包括的に解説する。	助教	坊農 真弓
情報環境科学	デジタルパブリケーション	2	情報環境において重要な位置を占めるデジタル出版やオンライン情報資源について講義および事例研究を行う。	教授	大山 敬三
	情報検索	2	テキスト情報を対象とした情報検索の理論、検索モデル、言語横断検索、多言語情報アクセス、システム指向及び利用者指向の評価手法等について、基礎、応用、課題、展望を考究する。	教授	神門 典子
	専門用語論	2	学術分野の概念を表す用語について、複合構造とテキストコーパス内の出現統計量に基づいて用語としての重要性や用語の間の相互関係を推定し、用語を実際に活用する方法について概説する。	教授	小山 照夫
	社会・技術関連情報学	2	「人間」「社会」「情報（通信技術）」との係りを人類的、地球的視点で概観し、これらの係わりの歴史的変遷を理解するとともに、ポスト情報化社会のあり方を議論する。	教授	東倉 洋一

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Intelligent Systems Science	Machine Learning	2	In this course, we will discuss theoretical and practical aspects of machine learning. We study several machine learning techniques including decision tree, naïve Bayes and inductive logic programming.	Assoc.Prof.	ICHISE Ryutaro
	Intelligent Robotics	2	This course studied synthesis of intelligent robots which act as physical support agents in real world and daily life environments. Following elemental technologies, software engineering, system synthesis and applications are discussed.	Assoc.Prof.	INAMURA Tetsunari
	Intelligent Web Systems	2	This lecture will introduce semantic web technologies and web mining techniques.	Assoc.Prof.	OHMUKAI Ikki
	Natural Language Processing	2	This course aims to introduce the fundamental techniques of natural language processing (NLP), i.e. the study of human languages from a computational and engineering perspective. Topics include part-of-speech tagging, lexical analysis, parsing algorithms, grammar formalisms, word sense disambiguation, evaluation issues and machine learning of natural language	Assoc.Prof.	COLLIER Nigel
Intelligent Systems Science	Psycholinguistics	2	This course discusses psycholinguistic models of how natural language organizes discourse. The discussion will focus on the phenomenon called speech act and the relationship between speech and speech-accompanying spontaneous gestures. We further cover the implications of the data and the potential applications of the theories not only to psycholinguistics, but also to other adjacent areas of study such as cognitive sciences and informatics.	Assoc.Prof.	FURUYAMA Nobuhiro
	Interaction, Collaboration, and Simulation in Networked 3D Virtual Worlds	2	Three-dimensional (3D) virtual worlds like “Second Life” and OpenSimulator refer to online environments that simulate physical spaces, where users can meet in the form of avatars. This course will explore the potential of virtual worlds for scientific research.	Assoc.Prof.	PRENDINGER Helmut
	Syntactic/semantic parsing	2	This course introduces theories and technologies for the automatic analysis of syntax and semantics of natural language, and its applications in natural language processing.	Assoc.Prof.	MIYAO Yusuke
	Communication Environments	2	We exchange various kinds of information and establish human relationships not only in face-to-face conversation but also in talk via mobile phone, internet environment, and so on. This course describes a diversity of communication studies and the methodologies to discuss about communication environments in our daily lives.	Assist.Prof.	BONO Mayumi
Information Environment Science	Digital Publications	2	Students will study on digital publishing and online information resources from the viewpoint of information environment through lecture and case study.	Prof.	OYAMA Keizo
	Information Retrieval	2	Principles and methods of information retrieval. An examination of the central concept in Information Retrieval, methods, consideration for the relationship to user's context, retrieval purpose, task and need as well as characteristic of information objects.	Prof.	KANDO Noriko
	Terminology	2	This course overviews about variety of scientific terms. Based on the structural analysis of composite terms, and statistics of terms in text corpora, importance of terms and relationships among terms are discussed.	Prof.	KOYAMA Teruo
	Governance among humans, technology and social system in the ICT society	2	Information Institution with a focus relationships between information and communication technologies and legal social systems, including issues on how cutting edge technologies and services influence on legal systems and vice versa, will be discussed into a vision of the future of information institution.	Prof.	TOHKURA Yoh'ichi

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
情報環境科学	学術情報データベース	2	データベース応用において、先導的役割を果たしている学術情報の分野に注目し、学術コミュニケーションのあり方と関連させつつ、学術情報データベースの諸相に関して論じる。		
	学術情報環境論	2	研究者が作成した論文等の研究成果、研究用の実験データ・統計データ、およびこれらのメタデータである「目録」、「記事索引データベース」などを総称して学術情報とよぶ。これらの学術情報は、大学、学会、出版界、図書館界などにより、生成、蓄積、提供、共有の枠組みが作られてきた。現在、この枠組みがデジタル化の影響により変質しようとしている。これらの状況を分析し、社会的経済的環境について考究する。	教授	宮澤 彰
	ICTビジネス論	2	原則として毎回ゲスト講師を招き、ICTビジネスの理論と実践に関するプレゼンテーションを受ける。その後、受講生全員が参加して講師とディスカッションを行う。	准教授	岡田 仁志
情報環境科学	情報環境統計論	2	情報環境分野では、学術データベースに基づく書誌情報や Web データ、研究者・研究資金情報など、さまざまな情報が扱われる。そのような情報を統計的な手法を駆使して解析することによって、学術コミュニティや研究ネットワークについて、さまざまな知見を得ることができる。本講義では、基本的な統計手法を押さえた上で、書誌情報の統計的多変量解析法、エントロピー・相互情報量を中心とした情報理論を学習する。	准教授	孫 媛
	科学計量学	2	科学者の活動、科学の動向・進展はいかにして分析できるのかを、成果、資源、環境等の具体的計量・分析事例を織り込みながら解説する。また、これらの分布則を自然科学における数理モデルと対比しながら内在する要因を抽出する手法を考察し、結果の応用例とともに解説していく。	准教授	西澤 正己
	情報経済学	2	情報化の進展で変化したネットワーク産業を定量的あるいは定性的分析を行い情報化社会の諸制度や政策の理解を深める。	助教	上田 昌史
	レコード・マネジメント	2	政府、企業、教育・学術機関、非営利組織など、様々な組織における業務過程に沿って生産・管理される情報をレコード（記録）と呼ぶ。そのレコードの管理・保存・活用にかかわる研究ならびに実践の領域がレコード・マネジメント（記録管理）である。本科目では、レコード・マネジメントの基本的な考え方や手法、および実際の運用事例について学習する。		
	情報社会論	2	情報通信技術（ICT）と社会的・政治的現象の相関について、社会心理学および社会的ネットワーク論の視点から考察する。特に、ICTと社会関係資本の関連について基礎的なレベルから概説する。	助教	小林 哲郎
	情報学特別実験研究Ⅰ～ⅤA	1	情報学における学位論文を作成するための講究および指導を行う。	情報学専攻担当教員	
	情報学特別実験研究Ⅰ～ⅤB	1	情報学における学位論文を作成するための講究および指導を行う。	情報学専攻担当教員	
	情報学特別演習ⅠA・ⅡA	2	情報学の研究を進めるに際して必要となる基礎知識を習得するための演習および講究を行う。	情報学専攻担当教員	
	情報学特別演習ⅠB・ⅡB	2	情報学の研究を進めるに際して必要となる基礎知識を習得するための演習および講究を行う。	情報学専攻担当教員	
	情報学総合研究ⅠA	1	修士論文相当の情報学の論文を作成するための講究および指導を行う。	情報学専攻担当教員	
	情報学総合研究ⅠB	1	修士論文相当の情報学の論文を作成するための講究および指導を行う。	情報学専攻担当教員	
	情報学総合研究ⅡA	2	修士論文相当の情報学の論文を作成するための講究および指導を行う。	情報学専攻担当教員	
	情報学総合研究ⅡB	2	修士論文相当の情報学の論文を作成するための講究および指導を行う。	情報学専攻担当教員	

※アンダーラインの科目は5年課程の必修科目

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Information Environment Science	Scholarly Information Databases	2	With a focus on scholarly information which is leading developments in database applications, various aspects of the scholarly information databases are discussed in conjunction with the state of scholarly communication systems.		
	Academic Information Environments	2	Research papers written by researchers, experiment data or statistical data used for researches, metadata for these productions and related resources are defined as academic information in this lecture. Universities, academic societies, publishers, libraries and some other sectors have rolls in production, accumulation, dissemination and sharing of academic information. This structure of academic information flow is now facing change by the digitization. This course analyzes the situation and studies social and economical environment of academic information.	Prof.	MIYAZAWA Akira
	ICT-enabled Business	2	This course focuses on how E-business including Electronic Commerce or Electronic Money affects the economic activity or social structure. Some of the lectures will be given by guest lectures.	Assoc.Prof.	OKADA Hitoshi
Information Environment Science	Introduction to Statistical Methods in Bibliometrics	2	Bibliometrics has become a standard tool of science policy and research management in the last decades. All significant compilations of science indicators heavily rely on publication and citation statistics and other, more sophisticated bibliometric techniques. This course aims to introduce the underlying statistics, together with related multivariate analysis methods, and information theory especially focusing on entropy and mutual information.	Assoc.Prof.	SUN Yuan
	Methodology of Scientometrics	2	This course focuses on methodology and case analysis of the scientometrics for measuring scientist's research activity, research trends and development of science. We discuss technique to extract internal factor to explain the characteristics of the empirical distribution with comparing a mathematical model in natural science.	Assoc.Prof.	NISHIZAWA Masaki
	Information Economics	2	We analyse network industries qualitatively and/or quantitatively that are expanded after informatisation and understand institutions and policies in the information and network society.	Assist.Prof.	UEDA Masashi
	Records Management	2	A record is a type of information which is produced and managed through business process of any kind of organizations, including governments, corporations, schools, universities, NGOs, and so on. Records management is a research and practical field concerning management, storage, and usage of such records. This course will introduce basic theories, methodologies and practices of records management.		
	Information Society	2	This lecture discusses the relationship between ICT and social/political phenomena from the viewpoint of social psychology and social network theory. In particular, the basic concept of social capital and its relationship with ICT will be elaborated.	Assist.Prof.	KOBAYASHI Tetsuro
	Research in Informatics for PhD thesis I -- VA	1	This course gives discussions and advices for writing a PhD thesis.		All professors
	Research in Informatics for PhD thesis I -- VB	1	This course gives discussions and advices for writing a PhD thesis.		All professors
	Seminar on Basic Knowledge in Informatics IA, IIA	2	This course gives discussions and seminars in order for students to acquire basic knowledge and skills which are necessary for research in Informatics.		All professors
	Seminar on Basic Knowledge in Informatics IA, IIA	2	This course gives discussions and seminars in order for students to acquire basic knowledge and skills which are necessary for research in Informatics.		All professors
	Research in Informatics for Master Thesis IA	1	This course gives discussions and advices for writing a master-thesis-level research paper.		All professors
	Research in Informatics for Master Thesis IB	1	This course gives discussions and advices for writing a master-thesis-level research paper.		All professors
	Research in Informatics for Master Thesis II A	2	This course gives discussions and advices for writing a master-thesis-level research paper.		All professors
	Research in Informatics for Master Thesis II B	2	This course gives discussions and advices for writing a master-thesis-level research paper.		All professors

Underline [mandatory] means graduate students of informatics department must take these

複合科学研究科共通専門基礎科目概要

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
複合科学概論	2	<p>少人数でもあり、受講生の興味に合わせ、テーマの内容を変える。</p> <p>H18年度は、地球観測における多量のデータ生産とデータ管理・データマイニングについて極域科学、情報学からそれぞれ3人の教員が分担して講義を行った。極域では、センサーの種類に応じた国際的な標準化をテーマに、地震（SEED）、超伝導重力計（GGP）、合成開口レーダー（CEOS）、VLBI（MarkIV-K4）、船上物理観測（MGD77）、図形表示（GMT）の概要を講義した。</p> <p>地球観測データの管理のための基礎知識として、地理情報システムや画像・映像処理、データベースシステムなどの基本概念や利用方法について講義した。</p> <p>H19年度、H20年度は「情報伝達」をキーワードに、極域からは観測隊の輸送、事故、情報取得環境の変遷、国際協力、無人観測などの実例を講義した。</p> <p>情報学研究者が地球や生物の研究者と共同研究するための基礎知識として、リモートセンシングやバイオインフォマティクス、ニューロインフォマティクスなどの基本概念や最近の話題について講義した。</p> <p>地球観測データの管理のための基礎知識として、地理情報システムやリレーショナルデータベース、XMLの基本概念や利用方法について講義した。</p>	教授 准教授	澁谷 和雄 北本 朝展
複合モデリング科学概論	2	<p>自然現象あるいは人間と自然や社会が関わるさまざまな現象を統計情報や計算機・数理的な方法を用い、分析、予測、シミュレーション等の横断科学的アプローチを総合的かつ体系的に教育し、複合科学に取り組むための広い視野と柔軟な思考力を教育する。特に複雑な対象を記述するのに有効な確率現象の時間的または空間的变化を記述する基礎的な時系列モデルの紹介とその推定法や予測法についての基礎を中心に教育する。</p>	統計科学専攻教員	
推測数理概論Ⅰ 推測数理概論Ⅱ	2	<p>統計的推測理論の基本的な考え方についての講義を行う。具体的には、確率論入門、統計的推定理論、漸近理論、線形モデル、ベイズ統計、などを扱う。</p>	数理・推論関係 統計科学専攻教員	
データ科学概論Ⅰ データ科学概論Ⅱ	2	<p>データ科学概論Ⅰでは、データ科学の基礎となる標本抽出法、実験計画法、社会調査法、多変量解析法（回帰分析、判断分析、主成分・因子分析）、林の数量化法といったトピックを中心に講義を行う。データ科学概論Ⅱでは、統計モデル、エントロピーと情報量、赤池情報量規準、モデル選択といった情報量統計学のトピックを中心に講義を行う。</p>	データ科学関係 統計科学専攻教員	
時空間モデリング概論	2	<p>時系列解析をはじめとした、時間、空間および時空間現象の各種のダイナミックな統計モデルの目的に応じた構成とデータに基づく評価を組織的に用いて統計的推論およびそれに基づく予測・制御・管理の理論と応用、ならびに必要な計算プログラム作成のための最適化アルゴリズムについて教育する。</p>	モデリング関係 統計科学専攻教員	

School of Multidisciplinary Sciences

Subject	Unit	Content of subject		
Introduction to Multidisciplinary Science	2	<p>Due to the small number of students, topics will be adapted to the interests of participating students.</p> <p>Subject 2006 – The lecturers were responsible for production, management or mining of large quantities of data obtained from earth observation. Three from the Polar Science gave lectures on the theme of international standardization of sensor types and data formats, such as, seismic waveform (SEED), marine geophysical measurement (MGD77), etc. Three lecturers from Informatics covered the basic principles and usefulness of methods for data management, simulation, data mining, information modeling, etc.</p> <p>The lectures covered the basic principles and the usage of geographic information systems, image and video processing and database systems as the basic knowledge for the management of earth observation data.</p> <p>Subject 2007, 2008 – Polar Science focused on “information transmission,” offering real examples of logistic requirements, accidents, information acquisition environments, international cooperation and unmanned observation.</p> <p>The lectures covered the basic principles and recent advances of remotesensing, bioinformatics and neuroinformatics as the basic knowledge for collaborative research between informatics researchers and earth or biology researchers.</p> <p>The lectures covered the basic principles and the usage of geographic information systems, relational databases and XML as the basic knowledge for the management of earth observation data.</p>	Prof. Assoc.Prof.	Kazuo Shibuya Asanobu Kitamoto
Introduction to Statistical Modeling in Complex Systems	2	<p>Introductory course in interdisciplinary approaches to obtain a wide view and tough mind ready to engage in science of complex phenomena. It involves the statistical, mathematical, and computational methods to analyze, predict, and simulate complex phenomena in various fields relating to nature, human, and human society. A special focus is laid on fundamental theory of time-series models appropriate to describe the changes in temporary or spatial stochastic phenomena and on the methods of estimation and prediction of those models.</p>	Prof. Assoc.Prof.	Junji Nakano Seisho Sato
“Introduction to Statistical Inference I Introduction to Statistical Inference II”	2	<p>Statistical inference theory is lectured, ranging over probability theory, estimation, asymptotic theory, linear model, Bayes statistics, and so on.</p>	Prof. Assoc.Prof.	I. Shinto Eguchi II. Yoichi Nishiyama
“Introduction to data science I Introduction to data science II”	2	<p>Introduction to data science I lectures various methods of multivariate data analysis including principal component analysis, regression analysis, discriminant analysis, and quantification methods of qualitative data.</p> <p>Introduction to data science II studies main topics of “AIC Statistics,” such as statistical model, entropy and information quantity, AIC, and model selection.</p>	Prof. Assoc.Prof. Prof.	I. Shigeyuki Matsui Tadahiko Maeda II. Takashi Nakamura
Introduction to Space-Time Modeling	2	<p>We introduce the theory of stochastic processes and random fields that are bases of various temporal, spatial and spatio-temporal statistical models. Then, we introduce the primary statistical inferences to estimate parameters of the models, model selection procedures for an effective prediction and also diagnostic analysis for discovery of features involved in the data set. Necessary numerical programming methods will be also provided. Students will also study methods for the analysis of time series and spatio-temporal data with linear time series models and their algorithms which are useful for these methods.</p>	Prof. Assoc.Prof.	Yoshiyasu Tamura Kenichiro Shimatani

授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
計算推論科学概論 I 計算推論科学概論 II	2	計算推論科学 I では、応用線形代数、アルゴリズムと計算複雑度、大規模線形計算と最適化法、数値積分法、微分方程式の解法、乱数など計算推論の基礎について講義する。計算推論科学 II では、線形判別法、隠れマルコフモデル、カーネルマシン、グラフィカルモデル、有限混合モデル、EM アルゴリズムなど、計算推論のためのアルゴリズムやモデルについて講義する。	計算推論科学関係 統計科学専攻教員	
先端地球科学通論 I	2	極域科学全般に亘る国内外の研究現況について、各分野の先端的な課題を取り上げ講述する。	極域科学専攻教員	
先端地球科学通論 II	2	極域科学全般に亘る国内外の研究現況について、各分野の先端的な課題を取り上げ講述する。	極域科学専攻教員	
地球計測学概論	2	極域の自然環境を把握するためには、人工衛星を用いた遠隔観測を始め、様々な地球物理学的観測手段が必要になる。また、長い人類の歴史のなかで、例えば自分の位置、地面の振動、気圧などをどうやって測定し、その精度を高める工夫をこらしてきたかを知ることにも意義である。この授業では、各種地球物理学的測定（センサー）の歴史、現状、将来についての知識を得ることを目的としている。	教授	澁谷 和雄
宙空圏計測学	2	宙空圏（磁気圏、電離圏、超高層大気、中層大気）で発生する現象や、その背景となる環境について、光や電波、電磁場により地上から遠隔計測したり、飛翔体により直接計測したりする際に必要となる観測技術や基礎知識について講義する。	教授 教授 准教授 准教授 准教授 講師	山岸 久雄 中村 卓司 宮岡 宏基 堤行 雅彰 小川 松泰
極域海洋環境システム論	2	極域海洋の環境の理解は地球規模の環境を理解する上で重要である。極域にのみ見られる海水の形成は、全海洋の大循環を引き起こす原動力である。また、海水形成に密接に関連した独特の極海生態系が存在し、生態系をめぐる海洋生物生産過程が大きく海洋環境に影響を及ぼす。このような環境のシステムについて、特にプランクトン群集の生産過程について講義する。海氷上での海氷圏観測法野外研修を実施することがある。	教授	福地 光男
大気・水圏の科学概論	2	地球の大気圏、雪氷圏、海洋圏で起きている現象を理解するための、基礎となる物理学、化学の事項について取得するための授業を行う	教授 教授 教授 教授 准教授	山内 恭吉 神山 孝誠 和田 秀明 本伊藤 一
ハイパフォーマンスコンピューティング概論	2	スーパーコンピュータ、PC クラスタ、オンチップマルチプロセッサ、グリッドコンピューティング等を用いたハイパフォーマンスコンピューティング技術について、理論と実践、応用事例、課題を解説する。	教授 教授 准教授	三浦 謙一 合田 憲人 鯉淵 道紘
情報流通システムアーキテクチャ概論	2	多様なネットワークサービスを実現する情報通信ネットワークにおける(1)ネットワークアーキテクチャ、通信プロトコル、ネットワークシステムアーキテクチャ、(2)モバイルネットワークとモバイル通信技術、(3)デジタル・コンテンツを流通させるためのデジタル権利管理(DRM)技術、Creative Commons などデジタル権利表現(DRE)技術、メタデータ流通システム技術、情報信頼評価システム(WTE)技術等、デジタル・コンテンツ流通技術等を含む情報流通アーキテクチャについて概説する。	教授 教授	漆谷 重雄 山田 茂樹 曾根原 登

Subject	Unit	Content of subject		
“Computational Methodology in Statistical Inference I Computational Methodology in Statistical Inference II”	2	Computational Methodology in Statistical Inference I focuses on fundamental computational methodologies in statistical inference, such as linear algebra, optimization, numerical analysis, and state space representation. Computational Methodology in Statistical Inference II focuses on advanced methodologies in statistical computation and their applications, such as linear discrimination method, hidden Markov model, kernel machine, graphical model, finite mixture model, EM algorithm.	Prof. Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Prof. Assoc.Prof.	I. Takashi Tsuchiya Yoshihiko Miyasato Naomasa Maruyama Satoshi Ito II. Tomoko Matsui Yukito Iba
Introduction to Advanced Earth Science I	2	Topics from each research discipline are studied with special interest of international circumstances.	Academic staffs in Polar Science	
Introduction to Advanced Earth Science II	2	Topics from each research discipline are studied with special interest of international circumstances.	Academic staffs in Polar Science	
Introduction to Earth Observation Metrology	2	Various means of geophysical observation are required to assess the natural environment of the polar regions, most notably remote sensing techniques based on artificial satellites. It is also very useful to know how, in the long course of human history, people managed to measure such quantities as geographical location, vibration of the Earth’s surface and atmospheric pressure change, and how devices enabling these to be measured with enhanced precision were developed. This subject explores the history of various kinds of geophysical measurement (sensors), and discusses the current state and future of technologies for this purpose.	Prof.	Kazuo Shibuya
Measurement of space and atmosphere	2	This subject covers phenomena occurring in space (magnetosphere, ionosphere, aerosphere, middle atmosphere) and the environments in which they occur. Students will learn about the techniques and fundamental knowledge necessary for measuring these phenomena by means of light, radio waves or electromagnetic fields—remotely from the ground and directly from spacecraft.	Prof. Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Lecturer	Hisao Yamagishi Takuji Nakamura Hiroshi Miyaoka Masaki Tsutsumi Akira Yukimatu Yasunobu Ogawa
Polar Marine Environment Systems	2	Understanding polar marine environments is important for understanding the global environmental system as a whole. The formation of sea ice, observed only in polar regions, serves as a motive force for the general circulation of the world’s ocean system. The unique marine ecosystems of polar regions are closely associated with sea ice formation, and the marine biological production processes centered on these ecosystems strongly influence marine environments. This subject explores these types of environmental systems, in particular through the biological processes associated with plankton community. Field work on sea ice will be carried out.	Prof.	Mitsuo Fukuchi
Introduction to atmosphere and hydrosphere science	2	This subject is designed to provide a fundamental grounding in the physics and chemistry needed to understand phenomena occurring in the atmosphere, cryosphere and oceanosphere of the Earth.	Prof. Prof. Prof. Prof. Assoc.Prof	Takashi Yamanouchi Takayoshi Kamiyama Makoto Wada Hideaki Motoyama Hajime Ito
High-Performance Computing	2	This course gives lectures on theory, implementation, application and future directions of the high performance computing technology utilizing supercomputers, PC clusters, on-chip multiprocessors and grid computing.	Prof. Prof. Assoc.Prof.	MIURA Kenichi AIDA Kento KOIBUCHI Michihiro
Information Sharing System Architecture	2	This course will discuss information and communication network architectures, including (1) advanced networking technologies and network systems technologies for a variety of telecommunication network services, and (2) mobile networks and mobile communications technologies, network layering and each layer’s function. (3) The course will also introduce “Digital Commerce”, a system that aims at activating the market by creating a revolution in network content distribution and creating a virtuous reinforcing spiral of content transfer between commons and proprietary domains, and a new framework for exhibiting transformative content that can be used freely by attaching Digital Rights Management (DRM) using sequential content scrambling.	Prof. Prof. Prof.	URUSHIDANI Shigeo YAMADA Shigeki SONEHARA Noboru

授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
情報基礎科学概論Ⅰ	2	(1)線形代数、特に固有値、行列の標準形を中心に学ぶ。 (2)数理論理学の基礎として一階述語論理について概説する。 (3)計算論および計算量理論の基礎について概説する。	教授 教授 准教授	速水 謙 龍田 真 定兼 邦彦
情報基礎科学概論Ⅱ	2	情報学基礎、特に、量子情報、生命情報学、量子計算、グラフ彩色に関する基本問題と最新の研究状況について講義する。授業の達成目標 上記の分野を専門的に探求するための基礎知識の取得。	教授 教授 准教授	藤山 秋佐夫 河原林 健一 根本 香絵 松本 啓史
応用線形代数	2	線形代数の基礎を概観し、その応用に触れる。	教授 教授 准教授	速水 謙 佐藤 真一 根本 香絵 後藤田 洋伸
ソフトウェア科学概論Ⅰ	2	ソフトウェア科学の主要テーマ中、ソフトウェアの表現（プログラミングとモデリング）ならびにシステムについて、その技術概要を知り情報学における意義を理解する。	ソフトウェア科学関連の全教員	
ソフトウェア科学概論Ⅱ	2	データの管理・処理・解析の観点からソフトウェア科学の基礎知識を講義する	ソフトウェア科学関連の全教員	
情報メディア概論	2	情報メディア科学がカバーする学問領域に関して、情報メディア科学担当教員全員によるオムニバス講義を行う。	情報メディア科学関連の全教員	
知能システム科学概論Ⅰ	2	知能システム科学の基礎学問である。人工知能、ソフトコンピューティング、認知科学などの基礎について講義を行う。	教授 教授 准教授 准教授 准教授 准教授 客員教授	井上 克巳 山田 誠二 古山 宣洋 稲邑 哲也 市瀬龍太郎 宮尾 祐介 Houle Michel
知能システム科学概論Ⅱ	2	知能システム科学の基礎学問である。高次推論、エージェント技術、自然言語処理、インターフェースなどの基礎について講義を行う。	教授 教授 准教授 准教授 准教授 助教	佐藤 健 武田 英明 Collier Nigel Prendinger Helmut 大向 一輝 坊 農 真弓
情報環境科学概論Ⅰ	2	情報化の進展により、社会のさまざまな領域でこれまでにない変化が生じている。この講義では、経済学や政治学、政策効果論など多様な視点から情報と社会の関わりについて扱う。	准教授 教授 助教	孫 媛 岡田 仁志 上田 昌史 小林 哲郎
情報環境科学概論Ⅱ	2	情報化の進展により、社会のさまざまな領域でこれまでにない変化が生じている。この講義では、情報の生成・流通・利用・蓄積に関わる諸側面をとらえる。	教授 教授 教授 教授 准教授	宮澤 彰 大山 敬三 神門 典子 小山 照夫 西澤 正己
学術コミュニケーション	1	研究者が研究活動において必要な学術的コミュニケーションの基本的素養について考究する。すなわち、大学院教育の位置づけ、研究の意味と意義、研究における独創性、研究の計画と実施、研究論文の書き方と読み方、プレゼンテーション法、文化と学術研究、研究者倫理と著作権。		

Subject	Unit	Content of subject		
Introduction to Foundations of Informatics I	2	(1) We will study linear algebra, in particular, eigenvalues and canonical forms of matrices. (2) Basic knowledge of mathematical logic, in particular, first-order logic will be explained. (3) We overview the basic theories of computation and computational complexity.	Prof. Prof. Assoc.Prof.	HAYAMI Ken TATSUTA Makoto SADAKANE Kunihiko
Introduction to Foundations of Informatics II	2	This course will teach fundamental problems and latest topics in Foundations of Informatics, especially, Quantum Information, Bioinformatics, Quantum Computation, and Graph Coloring Problem.	Prof. Prof. Prof. Assoc.Prof.	FUJIYAMA Asao KAWARABAYASHI Ken'ichi NEMOTO Kae MATSUMOTO Keiji
Applied Linear Algebra		We will give an overview of the fundamentals of linear algebra and introduce some applications.	Prof. Prof. Prof. Assoc.Prof.	HAYAMI Ken SATOH Shin'ichi NEMOTO Kae GOTODA Hironobu
Introduction to Software Science I	2	This course presents two main themes in Software Science, representation of software (programming and modeling) and software systems.	All professors in Software Science	
Introduction to Software Science II	2	This course presents basic knowledge of Software Science focusing on the data management, data processing, and data analysis.	All professors in Software Science	
Introduction to Multimedia Information Science	2	This lecture is an omnibus lecture series by the all faculty members of Multimedia Information Science. The course will cover a broad range of topics of Multimedia Information Science.	All professors in Multimedia Information Science	
Introduction to Intelligent Systems Science I	2	This course gives knowledge on fundamental fields, AI, soft computing, cognitive science for intelligent systems science.	Prof. Prof. Assoc. Prof. Assoc. Prof. Assoc. Prof. V. Prof.	INOUE Katsumi YAMADA Seiji FURUYAMA Nobuhiro INAMURA Tetsunari ICHISE Ryutarō MIYAO Yusuke HOUL Michel
Introduction to Intelligent Systems Science II	2	This course gives knowledge on fundamental fields, such as advanced reasoning, agent technology, natural language processing and interface for intelligent systems science.	Prof. Prof. Assoc. Prof. Assoc. Prof. Assoc. Prof. Assist. Prof.	SATOH Ken TAKEDA Hideaki COLLIER Nigel PRENDINGER Helmut OHMUKAI Ikki BONO Mayumi
Introduction to Information Environment Science I	2	As the progress of information technology, interaction of society, technology and information is facing great changes. This course introduces researches on information environment from various approaches such as economics, politics and policy assessment.	Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assist.Prof. Assist.Prof.	SUN Yuan OKADA Hitoshi UEDA Masashi KOBAYASHI Tetsuro
Introduction to Information Environment Science II	2	"As the progress of information technology, interaction of society, technology and information is facing great changes. This course introduces researches on creation, distribution, usage and storage of information."	Prof. Prof. Prof. Assoc.Prof.	MIYAZAWA Akira OYAMA Keizo KANDO Noriko KOYAMA Teruo NISHIZAWA Masaki
Academic Communication	1	In this course the fundamental knowledge that will be required for scientific communication in academic activities for researchers is discussed. Topics include such as role of postgraduate education, significance and meaning of research, originality in research, goal of research, establish of research, how to write and read an academic paper, presentation method, culture and science, science and technological ethics, research collaborations.		

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
知的財産権	1	研究を進める上で知っておくべき知的財産のうち特許と著作権を中心に基礎知識を解説する。	客員教授	平出 吉洋
国際連携論	1	現代社会において科学技術の重要性は増しているが、その成果を評価するのに R&D 経費を測ることは非常に重要である。それはサービス、製造、投資を測ることよりもっと複雑である。そしてそれは諸国の統計的データを組み合わせるときなどより難しさを増す。また、R&D の結果を測るのは面倒な問題である。この講義はこれら困難を打ち勝つ手がかりとなるであろう。	客員教授	ANGELINO Henri
英語によるプレゼンテーション I, II	1	1) 適切な英文テキストを題材に読解力を磨くとともに、その題材を用いて、自己表現、討論の訓練を行う。 2) リスニングの訓練。 3) 英論文、概要、発表スライド等の英作文の訓練。 4) 各自の研究テーマ等についての英語でのプレゼンテーション、質疑応答、討論能力を培う。	研究科の担当教員（および外部講師）（科目責任者：速水 謙）	
情報セキュリティ基盤概論	2	情報通信サービスにおける情報セキュリティについて、技術、システム、法制度、経済性について概括する。	情報基盤科学関連の全教員	

Subject	Unit	Content of subject		
Intellectual property rights	1	This course provides a basic grounding in intellectual property rights generated during the course of research. Students will gain an understanding of typical intellectual property such as patents and copyright.	V. Prof.	HIRAIDE Kazuhiro
Research, Development and International collaboration in a changing world	1	The increasing importance of science and technology in a modern society explain why measuring R&D expenditures is vital for performance evaluation. Measuring science and technology expenditures is more complicated than with services, manufacturing or investments, even for a single country. It becomes increasingly difficult when you need to combine statistical data from several countries. Moreover how to measure the output of R&D activities is also a cumbersome problem. These series of lecture will give some of the “keys” to overcome these difficulties.	V. Prof.	ANGELINO Henri
Presentation in English I, II	1	1) Training of reading, self-expression and discussion using appropriate English texts. 2) Training of writing English articles, abstracts and presentation slides. 3) Training of presentation and discussion in English based on student’s research topic etc.	Teaching staff of the school, teachers from outside	
Introduction to information security infrastructure	2	Information security technology, service, system, rule, and law give a fundamental framework for providing ICT (information and communication technology) systems and services. This course will introduce information security and give its explain in an ICT governance way.	All professors in Information Infrastructure Science	

3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要
(Outlines of Courses Provided by Each School/Department)

3-9-5. 生命科学研究科 (School of Life Science)

遺伝学専攻 (Dept. Genetics) 授業科目概要	192
基礎生物学専攻 (Dept. Basic Biology) 授業科目概要	196
生理科学専攻 (Dept. Physiological Sciences) 授業科目概要	198
研究科共通専門科目 (School of Life Science) 授業科目概要	202

遺伝学専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
分子・細胞遺伝学／発生遺伝学／進化情報遺伝学／ゲノム遺伝学	分子細胞生物学Ⅱ～Ⅳ	1	遺伝子発現調節、タンパク質合成と分解、タンパク質の構造と機能、染色体構造・動態、細胞周期、オルガネラ論、メンブранаラフィック等の分子細胞生物学の基本的な諸問題について概説するとともに、論文講読とディスカッションを通じた演習を行う。	教授 荒木 弘之 教授 山尾 文宏 教授 仁木 武彦 教授 小林 竜一 教授 深川 竜郎 教授 前島 一博 准教授 鈴木 えみ子 准教授 白木 康雄 准教授 木村 明	
	発生生物学Ⅱ～Ⅳ	1	細胞運命決定、細胞分化、形態形成や個体の行動制御等の個体発生の様々な現象を、遺伝子発現調節、細胞間相互作用、細胞内情報伝達等の分子機構や進化の視点から議論し、論文講読とディスカッションを通じた演習を行う。	教授 広海 健治 教授 岩里 琢 教授 上田 龍子 教授 相賀 裕美 教授 城石 俊彦 教授 前島 一博 准教授 平田 たつみ 准教授 小出 剛良 准教授 酒井 則	
	次世代志向境界領域Ⅰ～Ⅴ		1	新分野を開拓する基盤を与えるため、生物学の融合領域での基礎的概念を系統的に講述、演習する。以下の研究課題の短講義、短演習から構成され、学生の志向に合わせて選択することができ、重複しない2研究課題を履修することに1単位を与える。	
				研究課題：染色体動態機構論	教授 荒木 弘之 教授 山尾 文宏 教授 仁木 武彦 教授 深川 竜郎
				染色体の動態を、複製・高次構造形成・分配・転移・組換えによる再編成について、原核・真核細胞を対比させながら最新の知見を交えて概説する。	
				研究課題：エピジェネティクス論	教授 深川 竜郎 教授 角谷 徹仁
				真核生物のゲノム機能を調節するDNA・クロマチンの修飾と構造変換などのエピジェネティックな機構を概説し、生命現象における役割を論ずる。	
				研究課題：構造・機能イメージング論	教授 前島 一博 准教授 鈴木 えみ子
				近年、細胞生物学、発生生物学などで、光学顕微鏡、電子顕微鏡、X線散乱、顕微鏡以外のナノテクなど、様々なイメージング技術が多用されるようになってきた。本講義では有益なイメージング技術の原理について概説し、その応用について受講者と共に議論する。	
				研究課題：構造生物学	准教授 白木 康雄
タンパク質／核酸の作動機構を構造をもとに議論する構造生物学の現状を、その歴史と将来の発展をおりませで、紹介する。					
研究課題：ゲノム生物学（微生物・植物）	教授 仁木 宏典 教授 倉田 のり 准教授 野々村 賢一				
ゲノムという単位で生物の機能や遺伝学的特性を見るためのアプローチを、植物、微生物の世界における現象の捉え方や解析の方法を中心に概説する。					
研究課題：ゲノム生物学（動物）	教授 城石 俊彦 教授 上田 龍成 教授 斎藤 成也				
動物のゲノム構造の特色と、ゲノムから見た動物の形質や行動の遺伝学について、昆虫、ほ乳類の世界を中心に概説する。					

Department of Genetics

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Molecular and Cellular Biology II ~IV	1	Basic features of molecular and cellular biology will be outlined and discussed. These include regulation of gene expression, protein synthesis and protein degradation, protein structure and function, chromosome structure and dynamics, cell cycle regulation, organelle structure and dynamics, and membrane traffic. Articles related to these subjects will be read and discussed.	Prof. Prof. Prof. Prof. Prof. Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Hiroyuki Araki Fumiaki Yamao Hironori Niki Takehiko Kobayashi Tatsuo Fukagawa Koichi Kawakami Kazuhiro Maeshima Yasuo Shirakihara Kazuo Emoto Akatsuki Kimura
	Developmental Biology II ~IV	1	Various developmental events, such as cell fate determination, cell differentiation, morphogenesis and animal behavior will be analyzed in light of gene expression, cell-cell interaction, intracellular signaling and evolution. Classes will be run by critical reading of the primary literature and discussion.	Prof. Prof. Prof. Prof. Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof. Assoc.Prof.	Yasushi Hiromi Takuji Iwasato Ryu Ueda Yumiko Saga Toshihiko Siroishi Kazuhiro Maeshima Tatsumi Hirata Tsuyoshi Koide Noriyoshi Sakai
	Perspective of Frontiers I ~ V	1	This course consists of short lecture series (projects) each of which providing fundamental principles at the boundary of biology with another field. It is designed to provide basis for students to explore the frontiers of new fields. Credits will be given when students complete two of the following lecture series.		
			<p>• <u>Chromosome Dynamics</u> Recent advances concerning chromosome dynamics in both procaryotic and eucaryotic cells, which includes chromosome replication, chromosome segregation, DNA/RNA transposition and genome rearrangement by DNA recombination, are lectured.</p>	Prof. Prof. Prof. Prof.	Hiroyuki Araki Fumiaki Yamao Hironori Niki Tatsuo Fukagawa
			<p>• <u>Epigenetics</u> Epigenetic modifications of DNA, histones, and chromatin influence the function and the integrity of the genome in Eukaryote. Mechanisms and physiological implications of the epigenetic modifications will be discussed in the lectures.</p>	Prof. Prof.	Tatsuo Fukagawa Tetsuji Kadotani
			<p>• <u>Structural and Functional Imaging</u> Recently, many imaging techniques including light and electron microscopy, and X-ray scattering, are widely used in the cell and developmental biology fields. In this course, we will teach basic principles of various useful imaging techniques and discuss their possible applications with the participants.</p>	Prof. Assoc.Prof.	Kazuhiro Maeshima Emiko Suzuki
			<p>• <u>Structure Biology</u> The current status of the structure biology, that tries to understand the working mechanism of proteins and nucleic acids based on their structures, will be described along with its history and future directions.</p>	Assoc.Prof.	Yasuo Shirakihara
			<p>• <u>Genome Biology (Microorganism, Plant)</u> Approaches for revealing biological function and genetic characteristics of organisms as a whole genome unit will be lectured in terms of ways of observation and analysis in the field of plant and microorganism research.</p>	Prof. Prof. Assoc.Prof.	Hironori Niki Nori Kurata Kenichi Nonomura
			<p>• <u>Genome Biology (Animal)</u> In this class, we study genome structure of animals and genetics of morphology and behavior of animals.</p>	Prof. Prof. Prof.	Toshihiko Siroishi Ryu Ueda Naruya Saito

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
分子・細胞遺伝学／発生遺伝学／進化情報遺伝学／ゲノム遺伝学	次世代志向境界領域Ⅰ～Ⅴ	1	<p>研究課題：遺伝子発現ゲノム論</p> <p>遺伝子発現のゲノムワイドな解析の実際と、それを通して見えてくる生命原理を、様々な形質、生理、病態および進化的側面から捉えて論じる。</p>	教授 准教授	大久保公策 池尾 一穂
			<p>研究課題：集団遺伝学特論</p> <p>理論と実験の両面から生物集団内の遺伝的多様性の保持機構や進化について解説と演習を行う。統計解析、確率論の基礎、分子集団・進化学の方法論や多型マーカーを利用した疾患感受性遺伝子の探索法などを紹介する。</p>	教授 准教授	斎藤 成也 明石 裕 高野 敏行
			<p>研究課題：システム生物学特論</p> <p>ゲノム、トランスクリプトーム、プロテオーム等の網羅的方法を通して、細胞の生理や発生・分化などの生命現象の成り立ち、調節ネットワーク、生物の多様性を論じ、ゲノム解析のためのデータベース構築の原理も概説する。</p>	教授	小原 雄治
			<p>研究課題：進化遺伝学特論</p> <p>塩基配列やタンパク質配列などの遺伝情報に基づく分子進化学の基礎と考え方を習得し、分子進化系統樹の構築や情報抽出の方法論などを議論する。</p>	教授 准教授	五條堀 孝 明石 裕 池尾 一穂
			<p>研究課題：バイオインフォマティクス特論</p> <p>バイオインフォマティクスは、生物学の諸問題をコンピュータを使って解決しようとする学問分野で、大規模データの解析に有効である。情報ソースとしてのデータベースとその利用方法の概説、および具体的データ解析方法について紹介し、バイオインフォマティクスに必要な情報科学の基礎知識を提供する。</p>	教授 准教授	中村 保一 山崎 由紀子
	遺伝学英語口頭表現演習ⅠA・ⅠB ～ⅤA・ⅤB	1	レベル別少人数クラス編成で英語会話の実践的指導をおこない、研究者として必要な英語による発表・討論能力を育成する。	准教授	平田たつみ
遺伝学英語筆記表現演習Ⅰ～Ⅲ	1	英作文、英文法、英語論文読解、科学英語論文作成等、英語筆記表現の手法を学ぶ。	教授 准教授	広海 健 明石 裕 高野 敏行	

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Perspective of Frontiers I ~ V	1	<p>• <u>Expression Profiles in Genomics</u> The process of elucidation of constraints in basic cellular processes with genome-wide measurements data will be discussed. The following topics will be covered; (1) Available gene expression data from multiple platforms (2) How to compare expression data from different species for the evolutionary study of gene expression (3) Integration of literature data for data interpretation,</p>	Prof. Assoc.Prof.	Kosaku Okubo Kazuho Ikeo
			<p>• <u>Population Genetics</u> Theoretical, empirical, and experimental approaches to study origins and maintenance mechanisms of genetic diversity and evolution in population genetics. Topics include probability theory, statistical analyses such as QTL mapping and linkage disequilibrium mapping.</p>	Prof. Prof. Assoc.Prof.	Naruya Saito Hiroshi Akashi Toshiyuki Takano
			<p>• <u>Systems Biology: Towards system-level understanding of life</u> We lecture on the system-level studies of various biological phenomena including cellular proliferation, development and differentiation, gene expression network, evolution and biodiversity through so-called 'omics' approaches (systematic analyses of genome, transcriptome, proteome, metabolome, etc.). Our lecture is extended to the basis of the construction of biological databases for 'omics' .</p>	Prof.	Yuji Kohara
			<p>• <u>Evolutionary Genetics</u> To understand the way of thinking and principles of molecular evolution by using DNA or amino acids sequences, we learn the method to construct molecular phylogenetic tree and the way to extract evolutionary process from it.</p>	Prof. Prof. Assoc.Prof.	Takashi Gojyobori Hiroshi Akashi Kazuho Ikeo
			<p>• <u>Bioinformatics</u> Bioinformatics is an academic field which strives to resolve a variety of biological problems with computers, and it is effective in analyzing large-scale data. This course covers an outline of the database as a source of information and its usage, discusses the methods of analyzing specific data, and provides basic knowledge in Computer Science which is necessary to Bioinformatics.</p>	Prof. Assoc.Prof.	Yasukazu Nakamura Yukiko Yamazaki
	Practical Spoken English IA • IB ~ VA • VB	1	An interactive seminar on spoken English instructed by native English speakers. You will practice verbal communication in English in a small group of students. The goal of this course is to develop your skills so that you can effectively discuss and present scientific matters in English.	Assoc.Prof.	Tatsumi Hirata
	Scientific Writing I ~ III	1	This course will explore principles of clear English writing that will enable you to effectively transmit the information you wish to provide to your readers.	Prof. Prof. Assoc.Prof.	Yasushi Hiromi Hiroshi Akashi Toshiyuki Takano

基礎生物学専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
細胞生物学・発生生物学・環境生物学・統御生物学・神経生物学・進化生物学・生殖発生学・性差生物学・情報・数理生物学・機能ゲノム学	基礎生物学概論	1	基礎生物学専攻による全教員により基礎生物学研究所で行われている最新の研究成果について概説する。	准教授	笹岡 俊邦
	細胞形質発現学	1	真核細胞を構成するオルガネラの構造機能及びその動的変動の分子機構を講述。	教授	西村 幹夫
			有用物質代謝の観点から植物分子細胞生物学の最近の研究情報を講述。	准教授	林 誠
			細胞内における生体分子の動的分子機構を細胞骨格と関連づけて講述。	准教授	小川 和男
			細胞生物学を支える観察手法について、古典的なものから最新のものまで、その有用性と限界について講述する。	准教授	野中 茂紀
	高次形質発現学	1	DNA再編成と遺伝子発現制御を中心に、ゲノム動態と形質発現調節の分子機構を講述。	教授	藤森 俊彦
			発生工学的手法による動物の形質転換個体の作成、標的遺伝子の機能解析に関する最新の研究情報を講述。	准教授	笹岡 俊邦
			形態形成諸現象のメカニズムについての講述。	准教授	児玉 隆治
			初期発生における体軸形成、分化誘導、形態形成運動について講述。	准教授	木下 典行
	環境情報制御学	1	動物の形態形成、性分化に影響をもたらす環境因子・および物質の分子機構を講述。	教授	井口 泰泉
				准教授	渡邊 肇
	神経生物学	1	中枢神経系の発生・分化及び回路形成の分子機構を講述。	教授	野田 昌晴
			大脳皮質領野形成の調節因子及び細胞機能に関する最新の研究情報を攻究。	教授	山森 哲雄
中枢神経系の生理機能に関する分子機構を講述。			准教授	渡辺 英治	
進化多様性ゲノム生物学	1	ゲノム動態、遺伝子進化を講述。	教授	堀内 嵩	
		植物、動物の細胞レベルでの多様性をもたらす分子機構を講述。	准教授	村田 隆	
		形態形成や表現型多様性などの高次生命現象に対して、数理・情報科学的手法を用いることで得られる理解と成果を講述。	教授	川口 正代司	
		脊椎動物を中心としたゲノム進化と遺伝子進化を講述	准教授	成瀬 清	
生殖生物学・性差生物学	1	性可塑性の基盤を与える生殖細胞・生殖腺形成機構を講述。	准教授	田中 実	
基礎生物学英語口語表現演習 I~V	1	英語で口頭発表する際の基本的な表現法やプレゼンテーションの仕方について学ぶ。	教授 准教授	吉田 松生 木下 典行	
基礎生物学英語筆記表現演習 I~V	1	英語論文を執筆する際の基本的な表現法や論理構成について学ぶ。	教授 准教授	吉田 松生 木下 典行	
アドバンスコンファレンスI~V	1	基礎生物学研究所で行われる国際会議に参加し最新の研究成果を学ぶとともに第一線の研究者と議論し研究の方向性を考究する。	教授	堀内 嵩	

Department of Basic Biology

Field	Subject	Unit	Content of subject																			
Intracellular Organization	Higher Order Regulation in Biology	Evolutionary Biology	Developmental Biology	Gene Regulation and Neurobiology	Predictive Biology	Mathematical Biology	Reproduction	Environmental Molecular Biology	Molecular Biology	Reproductive biology • Biology of sexual dimorphism	Practical Spoken English I ~ V	Scientific Writing I ~ V	Advanced Conference I ~ V	1	Introduction of research works in National Institute for Basic Biology by all professors and associate professors	Assoc.Prof.	Toshikuni Sasaoka					
																Prof.	Mikio Nishimura					
																1	Dynamics of structure and function of membrane and organelles	1	Lectures on dynamics of structure and function of plant organelles	Prof.	Mikio Nishimura	
																			This lecture describes the recent progress on molecular cell biology from the viewpoint of biogenesis for useful metabolites in plant cells	Assoc.Prof.	Makoto Hayashi	
																			Recent works on biological motors (dynein and kinesin) associated with microtubules in cells	Assoc.Prof.	Kazuo Ogawa	
																			Visualization techniques in cell biology: old and new, ability and limitation.	Assoc.Prof.	Shigenori Nonaka	
																1	Gene expression and regulation	1	Molecular mechanisms of dynamic genomes and their impact on gene regulations	Prof.	Toshihiko Fujimori	
																				The lecture will be focused on a recent advance in developing genetically modified mice by transgenic and gene targeted technology and analysis of the gene function	Assoc.Prof.	Toshikuni Sasaoka
																				Lectures on the mechanisms of morphogenetic phenomena	Assoc.Prof.	Ryuji Kodama
																				Molecular and cellular biology of axis formation, induction and morphogenesis in early vertebrate embryos	Assoc.Prof.	Noriyuki Kinoshita
																1	Environmental Molecular Biology	1	Effects of environmental factors and chemicals on animal morphogenesis and sex determination will be lectured on the basis of molecular mechanisms	Prof.	Taisen Iguchi	
																				Focus in this lecture is to understand the response of organisms to xenobiotics in molecular level	Assoc.Prof.	Hajime Watanabe
																1	Neurobiology	1	Molecular mechanisms of axon guidance	Prof.	Masaharu Noda	
																				Studies on genes that are expressed in specific areas of primate neocortex	Prof.	Tetsuo Yamamori
																				Physiological roles of the central nervous system are discussed in this lecture. The major focus is the sensory system of the higher vertebrates	Assoc.Prof.	Eiji Watanabe
																1	Evolution, diversity and genomic biology	1	Genome dynamics and gene evolution	Prof.	Takashi Horiuchi	
																				Molecular mechanisms of diversity on structure and function in eucaryotic cells	Assoc.Prof.	Takashi Murata
																				Lecturing mathematical approaches to understand higher-order phenomena in biology	Prof.	Masayoshi Kawaguchi
																				Gene and genome evolution in the vertebrate	Assoc.Prof.	Kiyoshi Naruse
																1	Reproductive biology • Biology of sexual dimorphism	1	"The lecture will be focusing on the cellular interaction during organogenesis including the process of sex differentiation"	Assoc.Prof.	Minoru Tanaka	
																1	Practical Spoken English I ~ V	1	Lectures on English presentation and communication	Prof. Assoc.Prof.	Shosei Yoshida Noriyuki Kinoshita	
1	Scientific Writing I ~ V	1	Lectures on English literacy in science	Prof. Assoc.Prof.	Shosei Yoshida Noriyuki Kinoshita																	
1	Advanced Conference I ~ V	1	Experience to join international scientific meeting and to discuss with world wide scientists	Prof.	Takashi Horiuchi																	

生理科学専攻授業科目概要

分野	授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
分子生理学・細胞生理学・情報生理学・統合生理学・大脳生理学・発達生理学	脳神経系の細胞構築	1	脳の構造を神経細胞構築、シナプス結合様式、機能分子局在を中心に概説し、脳神経機能との関わりを学ぶ。	教授	重本 隆一
				准教授	田淵 克彦
				准教授	平林 真澄
	大脳神経回路論	1	大脳皮質における神経細胞多様性やシナプス結合特性などを紹介し、局所神経回路網のしくみについて考える。	教授	川口 泰雄
				准教授	窪田 芳之
	言語思考システム研究	1	言語を中心とする人間に特有な高次脳機能の脳内機構をMRIなどの非侵襲的脳機能計測法を中心に概説する。	教授	定藤 規弘
	感覚認知機構論	1	視覚を中心として感覚、知覚および認知の脳内メカニズムを明らかにするための実験的研究について学習する。	教授	小松 英彦
				准教授	伊藤 南
	認知と行動の脳科学	1	動物の感覚入力に対する行動反応の形成機構を脳の階層性・神経伝達の修飾機構との関連で論じる	教授	伊佐 正
	神経内科学入門	1	神経科学研究には、神経疾患患者の病態生理を知る事は極めて重要である。初心者にもわかりやすい内容とする。	教授	柿木 隆介
				准教授	金桶 吉起
	神経発生と再生戦略	1	神経発生・分化機構の細胞生物学的基礎から最新の知見まで紹介し、神経変性疾患の再生医療への応用について考察する。	教授	池中 一裕
				准教授	等 誠司
	神経回路機能	1	神経回路の特性を紹介し、回路がその特性に基づいてどのように生理機能を発揮するか論じる。	教授	吉村 由美子
准教授				東島 真一	
細胞神経生物学	1	細胞形態、細胞遊走、細胞極性形成、シナプス伝達等を制御する巧妙な仕組みを細胞内シグナル伝達という観点から解説する。	教授	深田 正紀	
			准教授	深田 優子	
細胞の生と死の生理学	1	細胞はいかにしなやかに環境変化に対応し、多種の機能を果たしながら生き、そして死ぬのかを、分子レベルで解き明かす。	教授	岡田 泰伸	
行動脳科学	1	皮質運動野と、その活動を支えている大脳基底核と小脳を中心に、随意運動の脳内メカニズムについて考える。	教授	南部 篤	
			准教授	達本 徹	
分子と脳のイメージングサイエンス	1	分子、細胞、組織、脳に到る各階層のイメージング手法を概観しその特徴と有効性を紹介する。特に電子顕微鏡が中心となるが、高次機能に向かって電顕、光顕、MRI、PET、EEG/MEGなどの手法を相関させる。	教授	永山 國昭	
			准教授	村田 和義	

Department of Physiological Sciences

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Developmental Physiology • Cerebral Physiology • Integrative Physiology • Information Physiology • Cell Physiology	Cytoarchitecture and Synaptic Organization of the Central Nervous System	1	Various neuronal and glial cell types in the brain, synaptic organization, distribution of functional molecules, and their implications for the CNS function will be discussed.	Prof.	Ryuichi Shigemoto
				Assoc.Prof.	Katsuhiko Tabuchi
				Assoc.Prof.	Masumi Hirabayashi
	Cerebral Circuitry	1	This course reviews current knowledge about cell types and synaptic connections in the cerebral circuitry.	Prof.	Yasuo Kawaguchi
				Assoc.Prof.	Yoshiyuki Kubota
	Language and Cognition: System Level Investigation	1	Lectures will be focused on the neural substrates of the higher brain function including language revealed by noninvasive neuroimaging techniques such as functional MRI.	Prof.	Norihiro Sadato
	Neural Mechanisms of Perception and Cognition	1	Learning experimental studies on the neural mechanisms of perception and cognition. Particular emphasis is on vision.	Prof.	Hidehiko Komatsu
				Assoc.Prof.	Minami Ito
	Neural Mechanism of Cognition and Motor Control	1	The lectures will be focused on the neural control of movements, especially in relation to responses to sensory stimuli and their modulation by cognitive processes.	Prof.	Tadashi Isa
	Introduction of Clinical Neurology	1	Studying clinical Neurology, that is, understanding pathophysiology of various neurological diseases is very important for researchers in the field of Neuroscience. We will have simple lectures which are easy to understand even for the beginners.	Prof.	Ryusuke Kakigi
				Assoc.Prof.	Yoshiki Kaneoke
	Development and Regeneration of the Nervous System	1	We will introduce you the latest information on the molecular mechanisms governing the development of the nervous system, and discuss how these data can be utilized in the treatment of neurodegenerative diseases mainly through regeneration.	Prof.	Kazuhiro Ikenaka
				Assoc.Prof.	Seiji Hitoshi
	Functional Neural Circuits	1	We will introduce the properties of neural circuits, and discuss how these properties contribute to the emergence of function in the circuits.	Prof.	Yumiko Yoshimura
Assoc.Prof.				Shinichi Higasijima	
Molecular and Cellular Neurobiology	1	The molecular mechanisms underlying cellular morphogenesis, cell migration, cell polarity and synaptic transmission will be lectured.	Prof.	Masaki Fukata	
			Assoc.Prof.	Yuko Fukata	
Physiology in Cell Life and Death	1	Molecular investigations on how animal cells live and die in response to environmental changes.	Prof.	Yasunobu Okada	
Behavioral Neuroscience	1	The mechanism of voluntary movement will be discussed focusing on the functions of the motor cortex, basal ganglia and cerebellum.	Prof.	Atsushi Nambu	
			Assoc.Prof.	Toru Tsujimoto	
Imaging Science on Molecules and Brains	1	Various imaging techniques specialized to observe such biological levels as molecules, cells, tissues and brain are introduced to seek their characteristics and functions. Emphasis is given first to see technical aspects delineating the molecular level and toward the higher biological level observation, light microscopy, MRI, PET and MEG are correlatively detailed.	Prof.	Kuniaki Nagayama	
			Assoc.Prof.	Kazuyoshi Murata	

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
分子生理学・細胞生理学・情報生理学・統合生理学・大脳生理学・発達生理学	神経機能分子学	1	神経細胞の機能に重要な役割を果たすイオンチャネル・受容体等の膜蛋白質の構造と機能について解説する。	教 授	久保 義弘
				准教授	立山 充博
	分子神経情報学	1	神経情報伝達を担うイオンチャネル・受容体等の分子に関する知見を深めるとともに、情報科学の基礎知識を習得する。	教 授	井本 敬二
				准教授	古江 秀昌
	細胞機能学	1	刺激受容、興奮、シナプス伝達、物質輸送等の生体諸現象に関連する細胞構造および機能について解説する。	教 授	鍋倉 淳一
				准教授	石橋 仁
				准教授	小泉 周
	神経性代謝調節学	1	生体のエネルギーバランスと代謝の恒常性について脳を中心とした臓器間相互作用の観点から講述する。	教 授	箕越 靖彦
				准教授	村上 政隆
	分子感覚生理学	1	痛み刺激受容、温度受容、機械刺激受容を含めた感覚受容の分子メカニズムについて解説する。	教 授	富永 真琴
				准教授	山中 章弘
				准教授	木村 透
	生理科学研究技術特論	1	所属研究室以外の研究室で、生理科学研究に必要な様々な方法論と実験技術について、具体例に基づいて解説する。	全教授 全准教授	
	生理科学英語筆記表現演習	1	英語論文を執筆する際の基本的な表現法や論理構成について学ぶ。	全教授	
	生理科学英語口頭表現演習	1	英語で口頭発表する際の基本的な表現法やプレゼンテーションの仕方について学ぶ。	全教授	
	生理科学特別講義	1	生理科学分野の最近の進歩や最先端の研究成果について、各専門家が詳細に講述する。	全教授	
	※病態生化学	1	病態の解析、病態の生化学的基礎と薬物治療		
※腫瘍学	1	腫瘍の病態と抗腫瘍薬の薬理作用			
※内分泌学	1	臨床の領域におけるホルモン剤の取扱い			
※消化器病学	1	消化器病の病態と治療			
※循環器学	1	循環器病の病態と治療			
※腎臓病学	1	腎臓病の病態と治療			
※環境医学	1	認知・行動と環境の関連			

※印は名古屋大学大学院医学研究科との単位互換による。

Field	Subject	Unit	Content of subject		
Developmental Physiology • Cerebral Physiology • Integrative Physiology • Information Physiology • Cell Physiology • Molecular Physiology	Biophysical and Molecular Bases of Membrane Excitability	1	The bases of membrane excitability will be introduced from classic biophysical background to recent achievements of structure- function study of ion channels.	Prof.	Yoshihiro Kubo
				Assoc.Prof.	Michihiro Tateyama
	Molecular Basis of Neural Signaling	1	This course will cover the molecular aspects of neural signaling. Recent advances in the understanding of functional molecules, such as ion channels and neurotransmitter receptors, as well as basic concepts of the information theory will be discussed.	Prof.	Keiji Imoto
				Assoc.Prof.	Hidemasa Furue
	Cellular Physiology	1	Study for cellular structures and functions related to receptor, cell excitation, synaptic transmission and transporters.	Prof.	Jyunichi Nabekura
				Assoc.Prof.	Hitoshi Ishibashi
				Assoc.Prof.	Amane Koizumi
	Neuronal Regulation of Metabolism	1	Studies of hypothalamic and autonomic regulation of whole body glucose and lipid homeostasis.	Prof.	Yasuhiko Minokoshi
				Assoc.Prof.	Masataka Murakami
	Molecular Sensory Physiology	1	Molecular mechanisms of sensory perception including nociception, thermosensation, mechanosensation, tasting, olfaction and hearing would be lectured.	Prof.	Makoto Tominaga
				Assoc.Prof.	Akihiro Yamanaka
				Assoc.Prof.	Toru Kimura
	Methodology in Physiological Sciences	1	Various technology and methodology in physiological sciences will be introduced in laboratories which you do not belong to.		
	Scientific Writing	1	Basic expression and logical writing for scientific publication in English will be introduced.		
	Practical Spoken English	1	Basic expression and preparation for oral presentation in English will be introduced.		
Special Lectures in Physiological Sciences	1	Recent progress and results at the cutting edge will be introduced by experts in the physiological sciences.			
Pathological biochemistry	1	Analysis of pathological condition, its biochemical background, and medication.			
Oncology	1	Pathology of tumors and pharmacology of anti-tumor drugs.			
Endocrinology	1	Usage of hormones in clinical fields.			
Gastroenterology	1	Pathology and treatment of gastrointestinal diseases.			
Cardiology	1	Pathology and treatment of cardiovascular diseases.			
Nephrology	1	Pathology and treatment of kidney diseases.			
Environmental Medicine	1	Relationship between recognition, behavior, and environment			

※印は名古屋大学大学院医学研究科との単位互換による。

生命科学研究科共通専門科目授業概要

授業科目	単位	授業科目の内容	担当教員	
分子細胞生物学 I	2	分子生物学、細胞生物学及びその融合分野である分子細胞生物学の基礎を概説する。具体的には、細胞内のオルガネラ等の基本的構造とその機能について紹介するとともに、染色体上の遺伝情報の保持（複製・組換え・修復）とその情報が発現されて行く分子機構（転写・翻訳）の概略を説明する。	教授 教授 教授 教授	荒木 弘之 堀内 國昭 永山 宏典 仁木 幹夫 西村 文夫 山尾 文明
発生生物学 I	2	発生生物学の方法・基礎知識・概念について説明する。実験発生学や発生遺伝学の方法と論理、動植物の発生のさまざまな基礎過程と基礎用語、発生と進化やゲノムとの関連を解説し、発生生物学の原論文を理解するための基礎を作る。	教授 教授 教授 教授	小林 悟裕 池田 一 中野 直人 上野 慎 高田 治 長谷部 光泰
神経科学	2	分子、細胞、回路、個体の各階層において、神経系を構成する要素の構造と機能について概説し、生体の内部環境および外部環境の情報がどのように神経系において処理され、記憶として保存され、適応的な行動が発現するかについて理解する。	教授 教授 教授 教授 教授 教授	重本 隆一 鍋倉 淳 本山 敬 井山 二 永田 昭 岡田 泰 伊佐 伸 南 正 箕部 篤 箕越 靖 定藤 規 藤弘
バイオインフォマティクス概論	1	ゲノムの塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列の相同性・モチーフ検索、データベースの構築、遺伝子ネットワークやタンパク質相互作用などの大量解析の原理と応用を解説し、データ解析の演習を行う。	教授 教授 准教授	齊藤 成也 藤堀 孝 五條 治 小原 雄 池尾 一
生命科学プログレス IA・IB～VA・VB	2	指導教員および指導教員以外の教員が研究と研究発表に対する助言を行う。	各専攻担当教員	
生命科学実験演習 IA・IB～VA・VB	2	指導教員が研究と学位論文作成の指導を行う。	各専攻担当教員	
生命科学論文演習 IA・IB～VA・VB	2	最新の生命科学論文の紹介、解説、議論を行う。	各専攻担当教員	
生命科学セミナー I～V	1	生命科学の最先端研究を直接、当該研究者から学ぶ。不定期開催のシンポジウム、セミナーから選択し受講する。	各専攻担当教員	

School of Life Science

Subject	Unit	Content of subject		
Molecular and Cellular Biology I	2	Eight basic lectures on the molecular cell biology are presented. Main subjects are, chromatin structure, DNA replication, recombination and repair, cell cycle control, gene expression, transcription, translation, protein-folding, sorting and degradation, supra-molecular structure, dynamics of organelles.	Prof. Prof. Prof. Prof. Prof.	Hiroyuki Araki Takashi Horiuchi Kuniaki Nagayama Hironori Niki Mikio Nishimura Fumiaki Yamao
Developmental Biology I	2	Methods, basic knowledge, and concepts in developmental biology are explained. Methods and logic of experimental embryology and developmental genetics, basic processes and technical terms of animal and plant development, relation between development, evolution and genome, etc. are illustrated to form the basis for understanding original papers in developmental biology.	Prof. Prof. Prof. Prof.	Satoru Kobayashi Kazuhiro Ikenaka Naoto Ueno Shinji Takada Mitsuyasu Hasebe
Neuroscience I	2	We will introduce structure and function of neuronal elements in molecular, cellular, and systemic levels, and discuss how intrinsic and extrinsic information is processed, stored, and used in the nervous system to express adaptive behaviors.	Prof. Prof. Prof. Prof. Prof. Prof. Prof. Prof.	Ryuichi Sigemoto Jyunichi Nabekura Keiji Imoto Kuniaki Nagayama Yasunobu Okada Tadashi Isa Atsushi Nanbu Yasuhiko Minokosi Norihiro Sadato
Introduction to Bioinformatics	1	This lecture is based on e-learning web system. Lectures include homology and motif search of genomic nucleotide sequences and protein amino acid sequences, construction of databases, large-scale analysis of gene networks and protein-protein interactions. Principles and application of these analyses will be given, and students are requested to practice data analyses.	Prof. Prof. Prof. Assoc.Prof.	Naruya Saito Takashi Gojyobori Yuji Kohara Kazuho Ikeo
Life Science Progress Report IA • IB ~ VA • VB	2	Advice on research and presentation will be given by the Progress Report Committee, which is organized for each student. The Committee consists of one (for I and III) or four (for II, IV and V) faculty members of the Department of Genetics and should not include the student's supervisor.		
Life Science Experiments IA • IB ~ VA • VB	2	The supervisor of each student will teach research and thesis writing with the help of teaching staffs in the laboratory.		
Life Science Reading Seminar IA • IB ~ VA • VB	2	Recent papers in genetics will be introduced, explained, and discussed by the members of the Journal Clubs/ Textbook Reading Clubs, including the students who participate in them. See the List. Ask the organizer of each Journal Club/Textbook Reading Club for details.		
Life Science Seminar I ~ V	1	Active scientists will give presentations on their own research in life science in seminars and symposiums held within the Department.		

3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要
(Outlines of Courses Provided by Each School/Department)

3-9-6. 先端科学研究科 (School of Advanced Sciences)

生命共生体進化学専攻 (Dept. Evolutionary Studies of Biolsystems)

授業科目概要..... 206

生命共生体進化学専攻授業科目概要

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
総合・国際教育科目群	学生セミナー	1	各研究科・専攻に共通する課題について、学生及び教員等による意見発表・討議等を行うことにより、幅広い視野の修得及び相互交流を深めることを目的として、全研究科の学生を対象として開講される。	担当教員	
	総研大レクチャー	—	新たな学問領域の開拓につながる科学の総合化、現代社会が抱える今日的な重要課題を視野に入れた人間の総合化を目的とした集中講義を開講することで、学生に総合性及び国際的通用性を修得させることを目指している。	担当教員	
	科学論文の書き方	1	一流の国際誌に掲載される論文は質の高さに加え、表現的技法にも優れている。この講義では、英語論文に関する様々な技法を演習する。		
	生命科学と社会	2	生物学の歴史を概観するとともに、生物学上の発見、生物学の発展と社会との関係を考察する。生命現象は、遺伝子レベルから生態系レベルまで多岐にわたり、現在の生物学は非常に細分化され、急速に発展している。これらすべての知識を統合する理論的枠組みは、もちろん、進化である。生物学の知識は、人間とは何かの考察に寄与し、私たちの生き方に大きな影響を与える。本講義では、いくつかの話題を取り上げて、生物学と社会の関係について討論していきたい。(毎年開講)	教授	長谷川真理子
	科学・技術と社会Ⅰ	1	科学の歴史を社会との関連で見直し、科学が人類史において果たした役割を客観的に把握し、あるべき科学者の社会的責任について考察する。(毎年開講)	教授	池内 了
	科学・技術と社会Ⅱ	1		教授	池内 了
	科学における社会リテラシー	2	研究者は専門のことだけ知っていれば良い、という時代ではなくなっている。研究者が知っておくべき「科学と社会」「学問と社会」についての知識を学び、さらに自分の考えを構築する基礎を与える。「科学史入門」、「科学哲学入門」、などを講義するほか、研究所の見学を行い、研究の現場にふれ、また、研究者との議論を行う。(毎年開講)	教授	平田 光司
	総合先導科学特論	2	学内はもとより国内外で開かれるさまざまな学術集会のうち、先導科学にふさわしい内容をそなえたものに参加して討論を行うことで、生命共生体進化学の研究者として独立できる基盤を養う一助とする。(毎年開講)	担当教員	
基礎教育科目群	科学・技術と倫理	2	生命科学を中心とした諸科学の社会的歴史的研究を題材とし、科学者が直面する倫理的問題を考える学問的基盤の習得と実践的トレーニングを目標とする。講義のほかに、教室内討論を重視する。(毎年開講)	准教授	伊藤 憲二
	総合人類学	2	「人間とは何か」を歴史、社会、生物学的側面から総合的に詳述する。人類学における研究データの情報化について習得する。(毎年開講)	教授 准教授	及川 昭文 本郷 一美

Department of Evolutionary Studies of Biosystems

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Student Seminars	1	These seminars are organized by students, who nominate and invite lecturers. Guest lecturers, students and faculty discuss and debate common issues in current research in the schools and departments to acquire a deeper understanding of various fields of research.		
	SOKENDAI Lectures	—	Sokendai lectures are provided to postgraduates all over Japan. Since lectures are designed to foster creative researchers with a wide perspective and to promote academic exchange between graduate schools, you can receive basic classes on pioneering theme		
	Scientific Writing	1	This e-learning course explores a new methodology for considering writing from the most relevant perspective, that of readers. With this approach, you will not bother with learning how to increase the appearance of elegance or the mere sound of power; instead you will learn to predict how most readers will go about the act of interpreting your prose. Research in many fields has demonstrated that readers of English derive most of their clues for interpretation not from individual words in isolation but from the structural locations of those words in sentences, paragraphs, and documents. Coming to know consciously as a writer that which native speakers of English know intuitively as readers will give you greater and more consistent control over your written communication in English.		
	Life Science & Society	2	This is an introductory course on the brief history of biology and its relation to human society. Biology has long been a part of natural history but changed into modern science with numerous branches rather rapidly after the 19th century. And the idea of evolution has, in no doubt, the most important implication to our thoughts on ourselves. Several topics of bioethics will also be discussed with the history of the ideas.	Prof.	Mariko Hasegawa
	Science,Technology and Society I	1	We reexamine the history of science in relation to the society, and understand the role of science in the development of human life.	Prof.	Satoru Ikeuchi
	Science,Technology and Society II	1		Prof.	Satoru Ikeuchi
	Social Literacy in Science	2	Researchers (including cultural scientists) cannot survive any longer only with the professional knowledge. You should know something about the Society and the societal aspects of the science. This lecture provides you the minimum necessary knowledge about the Science and Society and basis to construct your own thoughts. The lecture covers sociology of science, science communication, this year, and visit to science laboratories including discussions with researchers and students there.	Prof.	Kouji Hirata
	Integrated Topics of Advanced Sciences	2	By attending top-rank scientific meetings, either domestic or international, students will develop the basis as independent researchers in the field of evolutionary studies of biosystems.		
	Science and Technology and Human Values	2	The course aims to provide theoretical bases and practical exercises to think about ethical issues that scientists might face. In addition to attending lectures, enrollees are expected to actively participate in classroom discussion.	Assoc.Prof.	Kenji Ito
	Anthropology	2	Seven lectures in various aspects of anthropology, combining historical, social and biological points of view. Also discuss data processing in anthropological research.	Assoc.Prof. Prof.	Hitomi Hongou Akifumi Oikawa

分野	授 業 科 目	単位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
基礎教育科目群	生物統計学	2	生物現象に関連したデータを処理するにあたり必要な確率および統計学の基礎を講義する。統計学の基礎となる確率論、実用的な統計方法を実際の応用例を含めて紹介する。(毎年開講)	教 授	佐々木 顕
	ミクロ生物学	2	生化学、分子生物学、細胞生物学、生理学、発生生物学の各分野について、内容を厳選した15回の系統的講義を行う。(毎年開講)	准教授	大田 竜也
	マクロ生物学	2	地球・生命史、遺伝学、動物行動学、生態学の各分野について、内容を厳選した15回の系統的講義を行う。(毎年開講)	教 授	蟻川 謙太郎
	先導科学実習	2	生物学に関する基礎的な技術を実習形式で学ぶ。臨海実習、分子生物学、細胞生物学、生化学、生理学、プログラミング基礎を含む。(毎年開講)	助 教	木下 充代
	科学英語演習 I ~ V	2	英語を外国語とする者を対象に、英語論文執筆のための英語文章力を養成する。受講者は定期的に宿題を提出し、最後に課題文を書かなければならない。自分自身の研究上の考えを英語で表現する能力をつけることに重点が置かれる。成績は主として最後の課題文に基づくが、平常点も重視する。(毎年開講)	講師 (非常勤)	Sachi Sri Kantha
総合人類学特論群	総合人類学特論 I (人類進化学特論)	1	現生人類へ至る系統がチンパンジーと分岐した後の600万年にわたる人類の進化を生物的側面と社会的側面の両方から詳述する。人類化石に基づく形態進化、現生人類へいたる過程での遺伝子・ゲノムの進化、食料生産の開始が人類進化に及ぼした影響、地球環境の中での人類の生態学的な位置、心理、社会性、言語の発達など現生人類の特性について探る。【隔年開講／22年度休講】	教 授 教 授 准教授	長谷川 眞理子 颯田 葉子 本郷 一美
	総合人類学特論 II (進化心理学特論)	1	人類の進化史について、ゲノムレベルから個体の行動、集団としての生態系とのかかわりまで、統合的な理解に向けた講義を行う。【隔年開講】	教 授	長谷川眞理子
	総合人類学特論 III (動物考古学特論)	1	遺跡から出土した動物骨から過去の人間と動物の関係に関して得られる情報について学ぶ。比較標本を用いた骨形態比較の実習を含む。【隔年開講／22年度休講】	准教授	本郷 一美
	総合人類学特論 IV (先史人類学特論)	1	考古学のさまざまな資料のデータベース化、電子化されたデータを数量的に分析する手法について講義する。具体的な資料の収集、分析などの実習も行う。【隔年開講】	教 授	及川 昭文
	総合人類学特論 V (環境人類学特論)	1	先史時代から現代までの、人間と人間をとりまく自然環境および社会環境との関係について考える。【3年毎開講／22年度休講／次回23年度予定】	教 授 准教授	長谷川眞理子 本郷 一美
進化生物学特論群	進化生物学特論 I (進化生理学特論)	1	進化生理学特論。生理現象を分子進化学の観点から概説する。特に感覚系の受容体分子、免疫系の分子、代謝関連分子に焦点を当てる。【隔年開講】	教 授	颯田 葉子
	進化生物学特論 II (細胞生物学特論)	1	細胞生物学特論。染色体やクロマチンなどの細胞内における超分子構造体について概説し、細胞周期動態、染色体ダイナミクス研究などについて講述する。【隔年開講／22年度休講】	准教授	田辺 秀之
	進化生物学特論 III (ゲノム遺伝学特論)	1	ゲノムレベルでの突然変異や遺伝子重複、遺伝子欠損、ゲノムの重複などの現象を概説し、これらが果たした進化的役割について詳述する。【3年毎開講／22年度休講／次回24年度予定】	教 授 (兼任)	斎藤 成也
	進化生物学特論 IV (保全生態学特論)	1	保全生態学は、基礎理学としての生態学の知見をもとに、地球の生態環境と生物多様性を保全して持続可能な社会をつくるにはどうしたらよいかを考える応用科学である。本講義では、生態学の基礎、保全生態学の理念とともに、各地での実践的試みについて考察する。【3年毎開講】	講師 (非常勤)	小池 裕子

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Biostatistics	2	Introduction to probability theory and statistics, based on the framework of general linear model. Include data manipulation and stochastic tests of biological data.	Prof.	Akira Sasaki
	Microscopic biology	2	Organized 15 basic lectures in the field of biochemistry, molecular biology, cellular biology, physiology and developmental biology.	Assoc.Prof.	Tatsuya Ota
	Macroscopic Biology	2	Organized 15 basic lectures in the field of history of earth and life, genetics, animal behavior and ecology.	Prof.	Kentaro Arikawa
	Laboratory of Basic Biology	2	Laboratory courses of basic biology. The program will include marine biology, molecular biology, cellular biology, biochemistry, physiology, and computer programming.	Assist.Prof.	Michiyo Kinoshita
	Academic English Writing I ~ V	2	The course is designed for non-native speakers of English' to develop their ability for academic writing. Enrollees are expected to submit writing assignments regularly and to complete a final essay. The focus is to develop enrollees' skills to express their own research ideas. The final grade will be mainly based on the final essay, but attendance and regular writing assignments will constitute a considerable portion of the final grade.	Lecturer	Sachi Sri Kantha
	Anthropology I (Evolutionary Anthrpology)	1	Discuss the course of human evolution from both biological and social aspects in the post 6 million years after the divergence of chimpanzees and humans.	Prof. Prof. Assoc.Prof.	Mariko Hasegwa Yoko Satta Hitomi Hongou
	Anthropology II (Evolutionary Psychology)	1	Introductory lectures on the basic courses of human evolution from the genome level, to individual behavior and the interactions between human populations and ecosystems.	Prof.	Mariko Hasegawa
	Anthropology III (Zooarchaeology)	1	Methods in zooarchaeology and interpretation of faunal data excavated from archaeological site. Lectures combined with laboratory practice on iidentification of faunal remains.	Assoc.Prof.	Hitomi Hongou
	Anthropology IV (Mathematical Archaeology)	1	Introductory lectures on the archeological database and quantitative analysis based on archaeological digital contents. Some laboratory works about quantitative analysis.	Prof.	Akifumi Oikawa
	Anthropology V (Environmental Anthropology)	1	Discuss various topics in environmental anthropology concerning the relationship between humans and their natural and social environments.	Prof. Assoc.Prof.	Mariko Hasegawa Hitomi Hongou
	Evolutionary Biology I (Evolutionary Physiology)	1	Topics in evolutionary physiology. In this course, an overview of organismal phenomena is given from the viewpoint of molecular evolution. Evolution of sensory receptors, immune molecules, and components in metabolic system is addressed.	Prof.	Yoko Satta
	Evolutionary Biology II (Cell Biology)	1	Topics in molecular cytogenetics. A series of lectures will include molecular structure and function of the intra-cellular supermolecules, chromatin, and chromosomes in relation to gene expression, cell cycle dynamics, and evolution.	Assoc.Prof.	Hideyuki Tanabe
	Evolutionary Biology III (Genomic Genetics)	1	Topics in genomic genetics. In this course, genomic phenomena at molecular level, such as mutations, gene and genome duplication, gene loss are summarized. Evolutionary roles of these genomic events are addressed.	Prof.	Naruya Saitou
	Evolutionary Biology IV (Conservation Ecology)	1	Conservation ecology is a field of applied science which explores how to build up a sustainable society by preserving natural environment and biological diversity. This course provides a theoretical framework of conservation ecology and considers the exam	Lecturer	Yuko Koike

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
進 特 化 論 群 生 物 学	進化生物学特論V (進化発生学特論)	1	本講義では、進化学的な観点から生物の発生を捉える近年の研究を紹介し、現存する多細胞生物の形態等の多様性が生じる分子生物学的機構について解説する。【3年毎開講／22年度休講／次回23年度予定】	講師 (非常勤)	倉谷 滋
行 動 生 物 学 特 論 群	行動生物学特論I (神経行動学特論)	1	神経行動学特論。動物行動の基礎にある神経メカニズムを、特に視覚情報処理を題材にして学ぶ。【隔年開講／22年度休講】	教 授	蟻川謙太郎
	行動生物学特論II (環境適応科学特論)	1	生物の環境認知と適応の基盤を なす環境センサーシステムと行動・応答システムについて、現象論から分子実 体論まで、微生物・植物・動物界にわたって進化的見地から展望する。【隔年開講】	教 授	渡邊 正勝
	行動生物学特論III (認知脳科学特論)	1	脳における情報処理機構について、認知の現象に立脚した最近の研究に関する講義を行う。【3年毎開講／22年度休講／次回23年度予定】	講師 (非常勤)	川崎 雅司
	行動生物学特論IV (進化行動生態学特論)	1	行動生態学特論。動物行動のもつ意味について、とくに動物を用いた言語に関する研究を題材にして学ぶ。【隔年開講】	助 教	沓掛 展之
	行動生物学特論V (行動生理学特論)	1	生物の時間認識システムについて、生理学的現象論から分子生物学的実体論さらには生化学的再構成システムに至る、研究の歴史と最前線状況を展望する。【3年毎開講／22年度休講／次回24年度予定】	講師 (非常勤)	岡野 俊行
理 論 生 物 学 特 論 群	理論生物学特論I (集団遺伝学特論)	1	集団遺伝学は、進化プロセスの最小単位である世代レベルでの対立遺伝子の頻度変化を説明することによって、進化のメカニズムを説明しようという学問である。集団遺伝学の歴史、基礎理論、そして今後の展望などについて講義する。【隔年開講／22年度休講予定】	准教授	印南 秀樹
	理論生物学特論II (分子進化学特論)	1	分子進化学の研究を紹介し、分子進化の中立説、自然選択、分子時計など分子進化のパターンや内在する進化機構について理解を深める。【隔年開講／22年度休講予定】	准教授	大田 竜也
	理論生物学特論III (数理生物学特論)	1	生物の個体群動態、群集生態学、形質置換・種分化の動態、行動の進化のゲーム理論、性選択、細胞レベルの反応動態、形態・パターン形成の数理、集団遺伝学の確率過程など数理生物学の基本を具体的研究をもとに論じる。【隔年開講】	教 授	佐々木 顕
	理論生物学特論IV (物理生物学特論)	1	未定【隔年開講】	講師 (非常勤)	未定
	理論生物学特論V (バイオインフォマティクス)	1	DNA Data Bank of Japan (DDBJ) へのアクセス等、基本的なデータベースの使い方から解析ツールの使い方について実践をもとに修得する。基本的に遺伝研で開かれる講習会を受講する。(毎年開講)	准教授	印南 秀樹
科 学 と 社 会 科 目 群	科学社会論特論I (サイエンス・コミュニケーション特論)	1	サイエンスコミュニケーションには科学を「一般庶民」に伝えるためのノウハウが含まれる。その前提としても、コミュニケーションの観点から科学を見直すことが必要である。「科学的考え方」をむしろ異文化としてとらえ、異文化をいかに伝えるかという人類学的なアプローチ、異文化間のコミュニケーションをいかに行うか、というコミュニケーション論のアプローチによって、科学を相対的にとらえる仕方を講義する。自分を相対化することが対話の始まりである。【隔年開講】	教 授	平田 光司

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Evolutionary Biology V (Evolutionary and Developmental Biology)	1	In this course, recent researches on developmental biology are introduced from the viewpoint of evolutionary biology and the molecular mechanisms to produce the diversity of multicellular organisms are discussed.	Lecturer	Shigeru Kuratani
	Behavioral Biology I (Neuroethology)	1	Topics in neuroethology. A series of lectures will be provided about neural mechanisms underlying animal behavior using the studies on vision as the model case.	Prof.	Kentaro Arikawa
	Behavioral Biology II (Environmental Adaptation)	1	Biological sensory and response systems which the basis for environmental recognition and adaptation by diverse living organisms are reviewed from phenomenology to molecular characterizations in evolutionary perspective.	Prof.	Masakatsu Watanabe
	Behavioral Biology III (Cognitive Brain Science)	1	Topics in cognitive neuroscience. A series of lectures will be provided about neural mechanisms underlying cognition in animals and humans.	Lecturer	Masashi Kawasaki
	Behavioral Biology IV (Evolutionary Behavioral Ecology)	1	Overviewing recent theories and concepts in evolutionary /behavioral ecology in animals.	Assist.Prof.	Nobuyuki Kutsukake
	Behavioral Biology V (Behavioral Physiology)	1	Biological time-recognition systems will be reviewed at levels ranging from phenomenology to molecular characterizations based on the research history up to the current leading edge.	Lecturer	Toshiyuki Okano
	Advanced Theoretical Biology I (Population Genetics)	1	Population genetics primarily considers the changes of allele frequencies in a population as a factor of evolution. This class introduces the history and basic theories of population genetics, and the near-future perspective will be discussed.	Assoc.Prof.	Hideki Innan
	Advanced Theoretical Biology II (Molecular Evolution)	1	Fundamental concepts of molecular evolution (i.e. neutral theory of molecular evolution, natural selection, molecular clock etc) are introduced with deepening the knowledge on pattern and underlying molecular mechanism of evolution.	Assoc.Prof.	Tatsuya Ota
	Advanced theoretical Biology III (Mathematical Biology)	1	Introduction to population demography, dynamics of interacting species, epidemics, character displacement and speciation, behavioural ecology and game theory, sexual selection, biological pattern formation, and stochastic process in population genetics.	Prof.	Akira Sasaki
	Advanced Theoretical Biology IV (Physical Biology)	1	undecided	Lecturer	undecided
	Advanced Theoretical Biology V (Bioinformatics)	1	Topics in bioinformatics. In this course, very basic techniques to access DNA Data bases and to use common tools for analyses are learned in a practical frame. Participants will take a technical course for DDBJ usage held in NIG.	Assoc.Prof.	Hideki Innan
	Social Studies of Science I (Science Communication)	1	The word "science communication" includes the technique to explain scientific achievements to the "lay-people". As its very basis, reflections are indispensable on the science from the communication point of view. "Scientific way of thinking" is not unique. It should be considered as an alien culture when communicating with "lay-people" and "scientists in the different people". The lecture shows how to re-conceive the science in relativistic way by basing on Anthropology and Communication Theory. The communication starts by questioning yourself.	Prof.	Kouji Hirata

分野	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
科学と社会科学目群	科学社会論特論Ⅱ (科学社会学特論)	1	社会における科学の位置づけについて学問的に考察することを目的として、科学社会学をはじめ、社会理論、政治理論、公共哲学、法哲学等、社会科学の諸文献を講読する。授業を通じて、社会科学的研究のために必須となる、論理的思考力、討議能力、文献読解能力、批判的コメント力等を養うことを目標とする。具体的な題材については受講者の関心に応じて定めるが、何らかの形で自然科学を対象とする人文社会系の研究であればいかなる分野であっても対応可能である。【隔年開講／22年度休講】	講師 (非常勤)	瀧川 裕貴
	科学社会論特論Ⅲ (科学史特論)	1	科学社会論分野を専攻する大学院生を対象に科学史の入門として、基本的な文献を読むリーディングセミナーを実施する。基礎的な必読文献に加えて、とくに環境についての科学史文献に重点を置く。【隔年開講／22年度休講】	准教授	伊藤 憲二
	科学社会論特論Ⅳ (科学技術社会論特論)	1	「科学と社会」分野の大学院生を主たる対象とし、科学技術社会論の研究者となるための基礎的な訓練を行う。【隔年開講】	准教授	伊藤 憲二
	科学社会論特論Ⅴ (応用倫理学特論)	1	倫理的思考の本質とは何かという問いから出発し、生命、環境、情報といった現代社会に特有の問題領域を俯瞰しつつ、研究者にとっての倫理について考察を展開する。【隔年開講／22年度休講】	講師 (非常勤)	柴崎 文一
先導科学考究	先導科学考究Ⅰ	2	先導的な研究を行っている国内外の研究者によるオムニバス講義。講師は、本専攻の基幹となる5つの分野を網羅する。年間を通じて8回おこない、1回は1時間半の講義と1時間半の討論で構成される。(毎年開講)	全教員	
	先導科学考究Ⅱ	2			
	先導科学考究Ⅲ	2			
	先導科学考究Ⅳ	2			
	先導科学考究Ⅴ	2			
先導科学プロGRESS	先導科学プロGRESSⅠ	2	院生の研究報告に基づいたセミナー。(毎年開講)	全教員	
	先導科学プロGRESSⅡ	2			
	先導科学プロGRESSⅢ	2			
	先導科学プロGRESSⅣ	2			
	先導科学プロGRESSⅤ	2			
先導科学特別研究	先導科学特別研究Ⅰ	4	博士論文のための研究。(毎年開講)	全教員	
	先導科学特別研究Ⅱ	4			
	先導科学特別研究Ⅲ	4			
	先導科学特別研究Ⅳ	4			
	先導科学特別研究Ⅴ	4			
	副論文特別研究	4	博士論文を作成する専門分野と異なる分野(科学と社会系または生命系)の研究論文(副論文)を履修者毎に配置される指導教員のもと、1年間かけて作成する研究。	全教員	
修士論文特別研究	4	修士論文のための研究(通常は開講しない)	全教員		

※網掛けは必修科目

※総研大レクチャーの単位数は、その実施要項等において、定められる。

Field	Subject	Unit	Content of subject		
	Social Studies of Science II (Sociology of Science)	1	A seminar on sociology of science. We will read a broad range of social sciences papers focusing on natural sciences in society. This course is designed to provide an opportunity to develop research skills in social sciences.	Lecturer	Hiroki Takigawa
	Social Studies of Science III (History of Science)	1	This is an introductory reading seminar of the history of science primarily intended for graduate students who seek a Ph. D. degree in science and technology studies. In addition to rudimentary essential readings, this year's emphasis will be on environmental history.	Assoc.Prof.	Kenji Ito
	Social Studies of Science IV (Science, Technology and Society)	1	This is an introductory and intensive seminar for graduate students specialized in science and technology studies.	Assoc.Prof.	Kenji Ito
	Social Studies of Science V (Lecture on the study of science, technology and society: Applied ethics)	1	I will talk about the true nature of ethical thinking and the ethics for researchers by analyzing the matter of life, information and environment in the contemporary society.	Lecturer	Fumikazu Shibasaki
	Special Seminar Series I	2	Series of eight lectures by leading scientists. Speakers are selected from five areas of the department. Each lecture consists of 1.5 hr talk followed by 1.5 hr discussion session.		All the Staff
	Special Seminar Series II	2			
	Special Seminar Series III	2			
	Special Seminar Series IV	2			
	Special Seminar Series V	2			
	Progress Report I	2	Seminars based on progress report of students.		All the Staff
	Progress Report II	2			
	Progress Report III	2			
	Progress Report IV	2			
	Progress Report V	2			
	Specific Research I	4	Research for Doctoral thesis.		All the Staff
	Specific Research II	4			
	Specific Research III	4			
	Specific Research IV	4			
	Specific Research V	4			
	副論文特別研究	4			All the Staff
	Research for Master thesis	4	Research for Master's thesis.		All the Staff

3-9. 「各研究科・専攻の授業科目」の概要
(Outlines of Courses Provided by Each School/Department)

3-9-7. 全学共通 (All University Student)

総合教育科目 (Comprehensive Subjects) 授業科目概要…………… 216

総合教育科目（全学共通）

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目 の 内 容	担 当 教 員	
科学論文の書き方	1	一流の国際誌に掲載される論文は質の高さに加え、表現的技法にも優れている。この講義では、英語論文に関する様々な技法を演習する。		
生命科学と社会	2	生物学の歴史を概観するとともに、生物学上の発見、生物学の発展と社会との関係を考察する。生命現象は、遺伝子レベルから生態系レベルまで多岐にわたり、現在の生物学は非常に細分化され、急速に発展している。これらすべての知識を統合する理論的枠組みは、もちろん、進化である。生物学の知識は、人間とは何かの考察に寄与し、私たちの生き方に大きな影響を与える。本講義では、いくつかの話題を取り上げて、生物学と社会の関係について討論していきたい。（毎年開講）	教 授	長谷川眞理子
科学・技術と社会Ⅰ	1	科学の歴史を社会との関連で見直し、科学が人類史において果たした役割を客観的に把握し、あるべき科学者の社会的責任について考察する。	教 授	池 内 了
科学・技術と社会Ⅱ	1		教 授	池 内 了
科学における社会リテラシー	2	研究者は専門のことだけ知っていれば良い、という時代ではなくなっている。研究者が知っておくべき「科学と社会」「学問と社会」についての知識を学び、さらに自分の考えを構築する基礎を与える。「科学史入門」、「科学哲学入門」、などを講義するほか、研究所の見学を行い、研究の現場にふれ、また、研究者との議論を行う。（毎年開講）	教 授	平 田 光 司
学生セミナー	1	学生が主体となって計画し、各研究科・専攻に共通する教育研究に関する諸課題について、招待講演者を中心に学生及び教員等による意見発表、討議等を行い、相互の理解を深めるとともに幅広い視野を身につけることを目的に実施する。開講テーマは年度により異なる。	セミナー担当教員	
総研大レクチャー	—	総研大レクチャーは、学問分野を横断し、新たな学問領域の開拓につながる科学の総合化を目的とした集中講義です。本学の学生に総合性及び国際的通用性を習得させるとともに、他の大学院学生等に広く開放して学術交流に貢献することを目的としています。開講テーマは年度により異なるが、これまで科学の総合化、現代社会が抱える今日的な重要課題を視野に入れた人間の総合化をテーマとしてきた。	レクチャー担当教員	

※総研大レクチャーの単位数は、レクチャー毎に、その実施要項等において別に定められる。

Comprehensive Subjects (All Members)

Subject	Unit	Content of subject		
Scientific Writing	1	This e-learning course explores a new methodology for considering writing from the most relevant perspective, that of readers. With this approach, you will not bother with learning how to increase the appearance of elegance or the mere sound of power; instead you will learn to predict how most readers will go about the act of interpreting your prose. Research in many fields has demonstrated that readers of English derive most of their clues for interpretation not from individual words in isolation but from the structural locations of those words in sentences, paragraphs, and documents. Coming to know consciously as a writer that which native speakers of English know intuitively as readers will give you greater and more consistent control over your written communication in English.		
Life Science & Society	2	This is an introductory course on the brief history of biology and its relation to human society. Biology has long been a part of natural history but changed into modern science with numerous branches rather rapidly after the 19th century. And the idea of evolution has, in no doubt, the most important implication to our thoughts on ourselves. Several topics of bioethics will also be discussed with the history of the ideas.	Prof.	Mariko Hasegawa
Science,Technology and Society I	1	We reexamine the history of science in relation to the society, and understand the role of science in the development of human life.	Prof.	Satoru Ikeuchi
Science,Technology and Society II	1		Prof.	Satoru Ikeuchi
Social Literacy in Science	2	Researchers (including cultural scientists) cannot survive any longer only with the professional knowledge. You should know something about the Society and the societal aspects of the science. This lecture provides you the minimum necessary knowledge about the Science and Society and basis to construct your own thoughts. The lecture covers sociology of science, science communication, this year, and visit to science laboratories including discussions with researchers and students there.	Prof.	Kouji Hirata
Student Seminars	1	These seminars are organized by students, who nominate and invite lecturers. Guest lecturers, students and faculty discuss and debate common issues in current research in the schools and departments to acquire a deeper understanding of various fields of research.		
Sokendai Lectures	—	Sokendai lectures are provided to postgraduates all over Japan. Since lectures are designed to foster creative researchers with a wide perspective and to promote academic exchange between graduate schools, you can receive basic classes on pioneering themes while lodging at Hayama Campus for several days		

4. 学位について (Degrees)

4-1. 学位	220
4-2. 学位申請及び審査の手順	221
4-3. 学位論文等の公表	222
4-1. Degrees	224
4-2. Examination of Doctoral Dissertations	225
4-3. Publication of Doctoral Dissertations	227

4. 学位について

4-1. 学位

1. 本学において、学位を取得するためには、①研究科に所定の年限以上在学し、所定の単位数以上の修得及び必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること(課程博士)、及び②本学の研究科を経ずに博士論文の審査を申請してその審査に合格すること(論文博士)の2つの方法があります。在学生の方は①の「課程博士」の方法により学位取得を目指すこととなります。
2. 博士課程を修了した学生には「博士(〇〇)」の学位が授与されます。(〇〇)には学位に付記する専攻分野の名称が入ります。研究科の各専攻で与える学位に付記する専攻分野は以下の表によります。

研究科	専攻	付記する専攻分野	
文化科学	地域文化学専攻	文 学	博士論文の内容によつては学術
	比較文化学専攻	文 学	
	国際日本研究専攻	学 術	
	日本歴史研究専攻	文 学	博士論文の内容によつては学術
	メディア社会文化専攻	学 術	
	日本文学研究専攻	文 学	
物理科学	構造分子科学専攻	理 学	博士論文の内容によつては学術
	機能分子科学専攻	理 学	
	天文科学専攻	学 術	博士論文の内容によつては理学 又は工学
	核融合科学専攻	学 術	
	宇宙科学専攻	理学・工学	博士論文の内容によつては学術
高エネルギー 加速器 科学	加速器科学専攻	学 術	博士論文の内容によつては理学 又は工学
	物質構造科学専攻	学 術	
	素粒子原子核専攻	理 学	博士論文の内容によつては学術
複合科学	統計科学専攻	統計科学	博士論文の内容によつては学術
	極域科学専攻	理 学	
	情報学専攻	情報学	
生命科学	遺伝学専攻	理 学	博士論文の内容によつては学術
	基礎生物学専攻	理 学	
	生理科学専攻	学術・理学	博士論文の内容によつては医学
先導科学	生命共生体進化学専攻	理学・学術	

※ 本学が授与する博士の学位の英文表記はいずれも「Doctor of Philosophy」となります。

3. 修士の学位について

本学は修士課程を置いておらず、本学の5年の課程に入学した場合でも修士の学位は授与されません。ただし、本学の物理科学、高エネルギー加速器科学、複合科学、生命科学、先導科学の各研究科の5年課程に入学し、退学を許可された者が大学院設置

基準第16条に規定する修士課程の修了要件を満たした場合は、修士の学位を授与することができます。この場合において修士の学位に付記する専攻分野は各専攻において博士の学位に付記する専攻分野に準じます。出願期間・学位審査方法・手続等は、おおむね博士の学位審査に準じたものとなっておりますが、詳細は各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係へ問い合わせてください。

参考：大学院設置基準(昭和49年6月20日文部省令第28号)抜粋

第16条 修士課程の修了の要件は、大学院に2年・・・(中略)・・・以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、・・・当該大学院の行う修士論文の審査及び試験に合格することとする。(以下略)

2 前項の場合において、当該修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

◆問合せ先

葉山本部・教務係(Tel:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

4-2. 学位論文審査

学位論文審査は各研究科において、学期毎に行われます。審査手順は各研究科により異なりますが、本学では基本的に予備審査及び本審査の2回の審査を行っています。

学位論文審査の日程は、各研究科毎に定められており、各研究科が定める出願期間内に出願手続を行わなければなりません。

各研究科における出願手続の方法及び出願書類の様式は、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)からダウンロードすることができます。

下記に学位論文審査の流れについて紹介します。

◎学位論文審査の流れ(丸数字は学生が行うもの)

①予備審査の出願 (研究科により「予備審査」と呼称しないことがあります)

各専攻が定める締切日まで申請を行う。

↓

●予備審査委員会における審査

各専攻が定める日に行う。

↓

②本審査の出願

規程に定められた出願期間中に行う。

→ ※「本審査の出願期間」の表参照

↓

●本審査委員会における審査

出願書類を受理した日から3か月以内で、各専攻が定める日に審査

↓

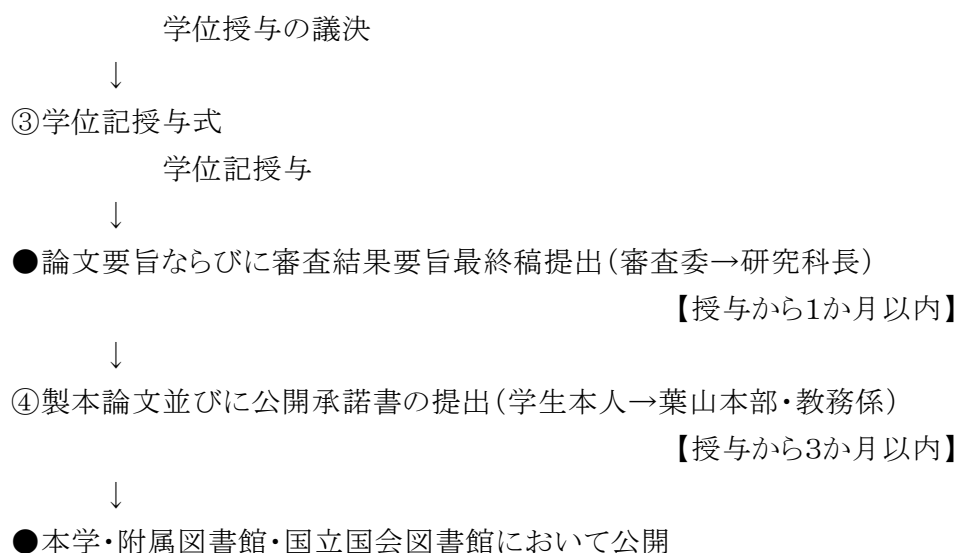
●本審査委員会における審査結果報告

↓

●専攻委員会による審議・承認

↓

●教授会による審議・承認



※本審査の出願期間(平成22年4月現在)

研究科	3月修了者	9月修了者
文化	前年の11月上旬	その年の6月上旬
物理	前年の12月下旬～1月上旬	その年の6月中旬～6月下旬
高エネ	前年の11月下旬～12月上旬	その年の5月下旬～6月上旬
複合	極域科学専攻 前年の11月下旬～12月上旬	極域科学専攻 その年の5月下旬～6月上旬
	統計科学専攻・情報学専攻 前年の12月下旬～1月上旬	統計科学専攻・情報学専攻 その年の6月中旬～6月下旬
生命	前年の12月下旬～1月上旬	その年の6月中旬～6月下旬
先導	前年の12月下旬～1月上旬	その年の6月中旬～6月下旬

※修士の学位論文審査は、博士の場合と異なります。詳細は、各基盤機関の専攻担当係又は葉山本部・教務係へ問い合わせてください。

◆問合せ先

葉山本部・教務係(Tel:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

4-3. 学位論文等の公表

●製本された論文の提出について

博士の学位を授与された者は、学位授与された博士論文を印刷公表する必要があります。本学では、所定の形式により印刷製本のうえ、製本された博士論文をいただくこととしております。

必要な手続方法は、総合研究大学院大学ホームページ(<http://www.soken.ac.jp>)で確認してください。

●博士論文の公開について

製本され、提出された博士論文は、国立国会図書館及び本学・附属図書館において

公開されることとなります。

製本された博士論文の提出の際、文献複写や電子媒体に変換してネットワーク上での公開の可否について「博士論文の公開に関する承諾書」により、提出してください。

参考：学位規則(昭和28年4月1日文部省令第9号)抜粋

第8条 大学・・・(中略)・・・は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3月以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表するものとする。

第9条 博士の学位を授与された者は、当該学位を授与された日から1年以内に、その論文を印刷公表するものとする。ただし、当該学位を授与される前に既に印刷公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、当該博士の学位を授与した大学・・・(中略)・・・の承認を受けて、当該論文の全文に代えてその内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合、当該大学・・・(中略)・・・は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

◆問合せ先

葉山本部・教務係(Tel:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

4. Degrees (Gakui 学位)

4-1. Degrees (Gakui 学位)

A doctoral degree is granted by SOKENDAI if a student: (1) has been in a Department of SOKENDAI for specified number of years or more, has acquired the required number of credits or more, has received the required supervision, and then passed doctoral thesis examinations (Doctor (Katei-Hakase 課程博士)) or (2) has applied for examination of his/her doctoral thesis without being in a Department of SOKENDAI and has passed the examination (Doctor by dissertation (Ronbun-Hakase 論文博士)). Enrolled students should aim to obtain a doctoral degree by the first method (1) (“Doctor” (Katei-Hakase 課程博士)).

School	Department	Degree
Cultural and Social Studies	Regional Studies Comparative Studies Japanese Studies Japanese History Cyber Society and Culture Japanese Literature	Doctor of Philosophy
Physical Sciences	Structural Molecular Science Functional Molecular Science Astronomical Science Fusion Science Space and Astronautical Science	
High Energy Accelerator Sciences	Accelerator Science Materials Structure Science Particle and Nuclear Physics	
Multidisciplinary Sciences	Statistical Science Polar Science Informatics	
Life Science	Genetics Basic Biology Physiological Sciences	
Advanced Sciences	Evolutionary Studies of Biosystems	

3. Master's degree

SOKENDAI does not offer any master's program; therefore, basically, no master's degree is awarded. However, students who have registered in the five-year courses in Departments in the School of Physical Sciences, the School of High Energy Accelerator

Science, the School of Multidisciplinary Sciences, the School of Life Science, or the School of Advanced Sciences of SOKENDAI and who are permitted to withdraw from SOKENDAI and have satisfied the requirements for obtaining a master's degree as set forth in Article 16 of the Standards for the Establishment of Graduate Schools may be awarded a master's degree. Information on degree examinations and procedures is available from the Department's Administration Office at each Parent Institute or the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

◆Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

4-2. Examination of Doctoral Dissertations (Gakui-Ronbun-Shinsa 学位論文審査)

The examination of doctoral dissertations is conducted every semester in each School. The Schools have different examination procedures; however, SOKENDAI uses a basic scheme of two-staged examination, which consists of preliminary and final examinations.

The date of doctoral dissertation examination is decided by each School. The student must complete the appropriate application process within the application period established by his/her School.

The application procedure/form for each School is available at SOKENDAI's website. (<http://www.soken.ac.jp/en/currentstudent/doctoralThesis.html>)

The flow of the examination is outlined below.

◎The Process of doctoral dissertation examination (steps with circled numbers are to be completed by students)

①Application for preliminary examination (Note that some Schools have a different name for the preliminary examination.)

The application is accepted until the deadline set by each Department.

↓

●Examination by the Preliminary Examination Committee

The preliminary examination is conducted on the date set by each Department.

↓

②Application for final examination

The application is accepted within a prescribed application period.

→ ※ See the table "Application Period for Final Examination."

↓

●Examination by the Final Examination Committee

The final examination is conducted on the date set by each Department within three months of application acceptance.

↓

- Report of the examination result by the Final Examination Committee
- ↓
- Discussion and approval by the Department Committee
- ↓
- Discussion and approval at the Faculty Meeting
Deciding whether a doctoral degree shall be awarded
- ↓
- ③ Graduation Ceremony (Awarding a degree certificate)
- ↓
- Submission of the abstract of the examined doctoral dissertation and the final manuscript of the abstract of the examination result (from the Final Examination Committee to the Deans of each School)
【Within one month from the award of the doctoral degree】
- ↓
- ④ Submission of a written consent for printing/binding and publishing the doctoral dissertation (from students to the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters)
【Within three months from the award of the doctoral degree】
- ↓
- Publication at SOKENDAI, the Library, and the National Diet Library (NDL)(Kokuritsu-Kokkai-Toshokan 国立国会図書館)

※Application Period for Final Examination (as of April 2010)

School	Student who completes the course in March	Student who completes the course in September
Cultural and Social Studies	Early November of the preceding year	Early June of the year of completion
Physical Sciences	Late December of the preceding year to early January of the year of completion	Mid to late June of the year of completion
High Energy Accelerator Sciences	Late November of the preceding year to early December of the year of completion	Late May of the preceding year to early June
Multidisciplinary Sciences	Polar Science Late November of the preceding year to early December of the year of completion	Polar Science Late May of the preceding year to early June
	Statistical Science, Informatics Late December of the preceding year to early January of the year of completion	Statistical Science, Informatics Mid to late June of the year of completion
Life Science	Late December of the preceding year to early January of the year of completion	Mid to late June of the year of completion
Advanced Sciences	Late December of the preceding year to early January of the year of completion	Mid to late June of the year of completion

※The examination procedure for a master's degree differs from the one for doctoral degrees. For details, contact the Department's Administration Office at each Parent Institute or the Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係) at the Hayama Headquarters.

◆Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

4-3. Publication of Doctoral Dissertations (Gakui-Ronbuntou-no-Kouhyou 学位論文等の公表)

● Submission of printed/bound doctoral dissertations (Seihon-Ronbun-Teishutsu 製本論文提出)

Printing and binding of the doctoral dissertation for publication is required of students awarded a doctoral degree. Print and bind the awarded dissertation in a prescribed form and submit it to SOKENDAI.

The required procedures may be found at SOKENDAI's website

(<http://www.soken.ac.jp/student/study/binding.html>).

● Publication of doctoral dissertations (Hakase-Ronbun-no-Koukai 博士論文の公開)

A printed/bound doctoral dissertation is published at the National Diet Library (Kokuritsu-Kokkai-Toshokan 国立国会図書館) and the Library of SOKENDAI.

Upon submission of the printed/bound doctoral dissertation, a "Letter of Consent for Publication of Doctoral Dissertation" (Hakase-Ronbun-no-Koukai-ni-Kansuru Shoudakusho 博士論文の公開に関する承諾書) should be submitted to determine if the submitted dissertation may be copied, converted into digital form, and made public on networks.

◆Contact

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

5. その他 (Other)

5-1. 非正規生(科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生、特別研究学生).....	230
5-2. 学生の氏名の取扱いについて.....	231
5-3. 総合研究大学院大学の名称等の英語表記について.....	231
5-4. 各種連絡先.....	232

5-1. Non-Regular Research Student 【Non-Matriculated Student, Auditing Student, Special Auditing Student, Research Student, Special Non-Matriculated Student】	236
5-2. Rules for Handling the Names of Students in SOKENDAI	237
5-3. Rules for Writing the Names of the University and its Schools / Departments in Japanese	238
5-4. Contacts	239

5. その他

5-1. 非正規生(科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生、特別研究学生)

非正規生は、本学の研究科の課程に入学した学生(正規生)以外の学生の総称です。

本学では非正規生として、科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生、特別研究学生の5種を置いています。

○科目等履修生

本学の課程の学生以外の学生で、本学の授業科目を履修し、単位を修得する者。

○聴講生

本学の課程の学生以外の学生で、本学の授業科目を聴講する者(単位なし)。

○特別聴講学生

聴講生のうち、本学との協定等に基づき、本学に受入れる他大学の学生であって、本学の授業科目を聴講し、単位を修得する者。

○研究生

本学の課程の学生以外の学生で、本学において特定の事項について研究する者。

○特別研究学生

研究生のうち、本学との協定等に基づき、本学に受入れる他大学の学生であって、本学において研究指導を受ける者。

●非正規生の授業料について

学長が定める日までに、以下の表の授業料の額を納付する必要があります。ただし、本学と協定その他事前の協議において、特別聴講学生又は特別研究学生の授業料を相互に不徴収とされている場合は、授業料は徴収されません(実験実習に要する費用は自己負担となります)。

また、非正規生の授業料免除・徴収猶予の制度はありません。

区分	授業料(平成22年度の額)
科目等履修生	1単位について 14,800円
聴講生	1単位に相当する授業について 14,800円
特別聴講学生	1単位に相当する授業について 14,800円
研究生	月額 29,700円
特別研究学生	月額 29,700円

※授業料が改訂された際は、改訂後の額が適用されます。

●非正規生の退学・懲戒・除籍

正規生に準じます。

●非正規生への証明書発行について

正規生に準じます。

●研究生及び特別研究学生の研究期間について

研究生及び特別研究学生の研究期間は、入学を許可された日から1年以内です。ただし、研究期間が終了した際、引き続き研究を継続しようとする者は、学長の許可を受けて研究期間の延長をすることができます。

◆問合せ先

5-2. 本学における学生氏名の取扱いについて

本学学生の氏名は、戸籍簿記載の氏名により取扱うことを原則としていますが、学生からの申し出により、旧姓名を使用することができます。旧姓名の使用が認められた学生に係る証明書等各種文書には、旧姓名が使用されます。

◆問合せ先

葉山本部・教務係(Tel:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

5-3. 総合研究大学院大学の名称等の英語表記について

●大学名

総合研究大学院大学 The Graduate University for Advanced Studies
(Grad.Univ.Advanced Studies)

※略称

総研大 SOKENDAI 又は Sokendai

●研究科名

文化科学研究科	School of Cultural and Social Studies
物理科学研究科	School of Physical Sciences
高エネルギー加速器科学研究科	School of High Energy Accelerator Science
複合科学研究科	School of Multidisciplinary Sciences
生命科学研究所	School of Life Science
先端科学研究科	School of Advanced Sciences

●専攻名

○文化科学研究科

地域文化学専攻	Department of Regional Studies
比較文化学専攻	Department of Comparative Studies
国際日本研究専攻	Department of Japanese Studies
日本歴史研究専攻	Department of Japanese History
メディア社会文化専攻	Department of Cyber Society and Culture
日本文学研究専攻	Department of Japanese Literature

○物理科学研究科

構造分子科学専攻	Department of Structural Molecular Science
機能分子科学専攻	Department of Functional Molecular Science
天文科学専攻	Department of Astronomical Science
核融合科学専攻	Department of Fusion Science
宇宙科学専攻	Department of Space and Astronautical Science

○高エネルギー加速器科学研究科

加速器科学専攻	Department of Accelerator Science
物質構造科学専攻	Department of Materials Structure Science
素粒子原子核専攻	Department of Particle and Nuclear Physics

- 複合科学研究科
 - 統計科学専攻 Department of Statistical Science
 - 極域科学専攻 Department of Polar Science
 - 情報学専攻 Department of Informatics
- 生命科学研究科
 - 遺伝学専攻 Department of Genetics
 - 基礎生物学専攻 Department of Basic Biology
 - 生理科学専攻 Department of Physiological Sciences
- 先導科学研究科
 - 生命共生体進化学専攻 Department of Evolutionary Studies of Biosystems

●学会報告、学術論文における本学の記載

- 学会報告
 - 和文:総合研究大学院大学
 - 英文:The Graduate University for Advanced Studies(Sokendai)
or Grad. Univ. Advanced Studies

- 学術論文
 - 和文:総合研究大学院大学[…………]専攻
[基盤機関の住所]
 - 英文:Department of[…………]

The Graduate University for Advanced Studies(Sokendai)
[address:基盤機関のaddress]

※本学の学生が行った研究、本学の各種プログラムによる研究成果に対しては、上記体裁にて本学の名称を記載すること。

※本学の各種プログラムにより行われた研究を公表する場合には、その旨の謝辞を述べること。

(例) 本学「共同研究」等に対する謝辞

The present study was (partially) supported by the Joint Studies Program of The Graduate University for Advanced Studies(Sokendai).

※発表論文等は、1部を本部(図書館保管)へ送付すること。

5-4. 各種連絡先

●総研大・葉山本部の各種問い合わせ先 (2010.3現在)

項目	担当部署
総合研究大学院大学 事務局 附属図書館 葉山高等研究センター 〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)	
学生の身分異動(休学・退学等)	学務課教務係 TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp
履修・成績(他大学における履修を含む)	
学位	
証明書発行	
教員免許	

学生相談	学務課学生厚生係 TEL:046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp
授業料等免除	
厚生補導	
課外活動	
各種奨学金(日本学生支援機構)	
学生教育研究災害傷害保険	
学生証の発行	
授業料の納付、督促	財務課経理係 TEL:046-858-1514 keiri@ml.soken.ac.jp
授業料振替口座の届出、口座の変更	
日本学術振興会特別研究員	学務課研究協力係 TEL:046-858-1539 kenkyo@ml.soken.ac.jp
各種奨学金(民間財団ほか)	
知的財産権	
留学生関係 (留学生に関する資格申請・証明書発行・奨学金・支援)	学務課国際交流係 TEL:046-858-1519 kokusai@ml.soken.ac.jp
全学事業 (学生セミナー・総研大レクチャーほか)	全学事業推進室 TEL:046-858-1503 oida@ml.soken.ac.jp
図書館関係	附属図書館 TEL:046-858-1540 lib@ml.soken.ac.jp
先導科学研究科関係	葉山共通事務室 TEL:046-858-1595 hayamajimu@ml.soken.ac.jp

●各種問合わせ先 (2010.3月現在)

研究科	専攻	連絡先
文化科学研究科	地域文化学専攻 比較文化学専攻	国立民族学博物館 研究協力課研究協力係 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1 TEL:06-6878-8236 souken@idc.minpaku.ac.jp
	国際日本研究専攻	国際日本文化研究センター 研究協力課研究支援係 〒610-1192 京都府京都市西京区御陵大枝山町3-2 TEL:075-335-2052 senkou@nichibun.ac.jp
	日本歴史研究専攻	国立歴史民俗博物館 研究協力課研究教育係 〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117番地 TEL:043-486-4361 soken@ml.rekihaku.ac.jp
	メディア社会文化専攻	放送大学学園 教育研究支援部 ICT活用教育支援課研究協力・産学連携係 〒261-8586 千葉県千葉市美浜区若葉2-11

		TEL:043-298-3452 senko@nime.ac.jp
	日本文学研究専攻	国文学研究資料館 総務課研究支援室教育支援係 〒190-0014 東京都立川市緑町10-3 TEL:050-5533-2915 edu-ml@nijl.ac.jp
物理科学研究科	構造分子科学専攻 機能分子科学専攻	自然科学研究機構 岡崎統合事務センター 国際研究協力課大学院係 〒444-8585 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38 TEL:0564-55-7139 r7139@orion.ac.jp
	天文科学専攻	国立天文台 総務課研究支援係 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 TEL:0422-34-3661 kenkyu@nao.ac.jp
	核融合科学専攻	核融合科学研究所 研究推進課大学院連携係 〒509-5292 岐阜県土岐市下石町322-6 TEL:0572-58-2042 kenkyou1@nifs.ac.jp
	宇宙科学専攻	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究本部 研究教育支援課大学院係 〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1 TEL:042-759-8012 graduate@jaxa.jp
高エネルギー加速器科学研究科	加速器科学専攻 物質構造科学専攻 素粒子原子核専攻	高エネルギー加速器研究機構 研究協力課大学院教育係 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1 TEL:029-864-5128 kyodo2@mail.kek.jp
複合科学研究科	統計科学専攻	統計数理研究所 総務課研究協力係 〒190-8562 東京都立川市緑町10-3 TEL:050-5533-8514 kenkyo@ism.ac.jp
	極域科学専攻	国立極地研究所 総務課学術振興係 〒190-8518 東京都立川市緑町10-3 TEL:042-512-0613 kyokuiki@nipr.ac.jp
	情報学専攻	国立情報学研究所 総務部研究促進課国際・教育支援チーム 〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 TEL:03-4212-2110 daigakuin@nii.ac.jp
生命科学研究科	遺伝学専攻	国立遺伝学研究所 研究推進課総務・教育チーム 〒411-8540 静岡県三島市谷田1111 TEL:055-981-6720 info-soken@lab.nig.ac.jp
	基礎生物学専攻 生理科学専攻	自然科学研究機構岡崎統合事務センター 国際研究協力課大学院係 〒444-8585 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38 TEL:0564-55-7139 r7139@orion.ac.jp
先導科学	生命共生体進化学	葉山本部 葉山共通事務室

研究科	専攻	〒240-0193 神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村) TEL:046-858-1595 hayamajimu@ml.soken.ac.jp
-----	----	---

5. Other

5-1. Nom-Regular Research Student (Hiseiki-Sei 非正規生)【Auditing Student with Credit (Kamokutou-Rishuu-Sei 科目等履修生), Auditing Student (Choukou-Sei 聴講生), Special Auditing Student (Tokubetsu-Choukou-Gakusei 特別聴講学生), Research Student (Kenkyuu-Sei 研究生), Special Research Student (Tokubetsu-Kenkyuu-Gakusei 特別研究学生)】

Nom-Regular Research Students (Hiseikisei 非正規生) collectively include students other than those who register in the Schools of SOKENDAI (regular student: Seikisei 正規生).

SOKENDAI recognizes five categories of Nom-Regular Research Students: Auditing Student with Credits (Kamokutou-Rishuusei 科目等履修生), Auditing Students (Choukousei 聴講生), Special Auditing Students (Tokubetsu-Choukou-Gakusei 特別聴講学生), Research Students (Kenkyuusei 研究生), and Special Research Students (Tokubetsu-Kenkyuu-Gakusei 特別研究学生).

○Auditing Student with Credits (Kamokutou-Risyuusei 科目等履修生)

Students, who are not in courses provided by SOKENDAI but take classes and acquire credits at SOKENDAI

○Auditing Students (Choukousei 聴講生)

Students, who are not in courses provided by SOKENDAI but audit classes at SOKENDAI (not acquiring credits)

○Special Auditing Students (Tokubetsu-Choukou-Gakusei 特別聴講学生)

Students, who are auditing students accepted from other universities under agreements between those universities and SOKENDAI and who audit classes and acquire credits at SOKENDAI.

○Research Students (Kenkyuusei 研究生)

Students, who are not in courses provided by SOKENDAI, but conduct research activities on specific themes at SOKENDAI.

○Special Research Students (Tokubetsu-Kenkyuu-Gakusei 特別研究学生)

Students, who are research students accepted from other universities under agreements between those universities and SOKENDAI and who receive supervision at SOKENDAI

●Tuition fee for Nom-Regular Research Students (Hiseikisei-no-Jugyouryou 非正規生の授業料)

Nom-Regular Research Students (Hiseikisei 非正規生) must pay the tuition fee listed below by the date determined by the President. Special Auditing Students (Tokubetsu-Choukou-Gakusei 特別聴講学生) and Special Research Students (Tokubetsu-Kenkyuu-Gakusei 特別研究学生) may be exempted from tuition fee if SOKENDAI and the student's university have mutually agreed that no tuition fee is required under an

agreement or with a preliminary arrangement between SOKENDAI and the university (the costs and expenses for laboratory practice will be borne by the student).

Tuition exemption/postponement is not available to Nom-Regular Research Students (Hiseikisei 非正規生).

Category	Tuition Fee 2010
Auditing Student with Credits (Kamokutou-Risyuusei 科目等履修生)	14,800 yen per credit
Auditing Students (Choukousei 聴講生)	14,800 yen per class equivalent to a credit
Special Auditing Students (Tokubetsu-Choukou-Gakusei 特別聴講学生)	14,800 yen per class equivalent to a credit
Research Students (Kenkyuusei 研究生)	29,700 yen per month
Special Research Students (Tokubetsu-Kenkyuu-Gakusei 特別研究学生)	29,700 yen per month

● **Withdrawal, punishment, and removal from register of Nom-Regular Research Students**
(Hiseikisei 非正規生)

The rules are the same as for Regular Students (Seikisei 正規生).

● **Issuance of certificates for Nom-Regular Research Students**

The rules are the same as for regular students.

● **Research period for research students/Special Research Students**

Research Students and Special Research Students may conduct research for one year from the date of admission. If such students wish to continue research activities at SOKENDAI after the end of the research period, the research period may be extended at the discretion of the President.

◆ **Contact**

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL: 046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

5-2. Rules for Handling the Names of Students in SOKENDAI

SOKENDAI uses the name of each student that is registered in the official family registration. A student may, however, request that SOKENDAI use his/her original family name. When SOKENDAI accepts the use of the original family name, SOKENDAI issues all certificates/documents with the original family name.

◆ **Contact**

Educational Affairs Section (Kyoumu-Gakari 教務係/Hayama)

(TEL: 046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp)

5-3. Rules for Writing the Names of the University and its Schools/Departments in Japanese

●Name of the University

The Graduate University for Advanced Studies

(Sougou-Kenkyuu-Daigakuin-Daigaku 総合研究大学院大学)

Abbreviated Name: SOKENDAI /Sokendai

●Names of the Schools

School of Cultural and Social Studies(Bunka-Kagaku-Kenkyuuka 文化科学研究科)

School of Physical Sciences (Butsuri-Kagaku-Kenkyuuka 物理科学研究科)

School of High Energy Accelerator Science

(Kou-Enerugi-Kasokuki-Kagaku-Kenkyuuka 高エネルギー加速器科学研究科)

School of Multidisciplinary Sciences(Fukugou-Kagaku-Kenkyuuka 複合科学研究科)

School of Life Science (Seimei-Kagaku-Kenkyuuka 生命科学研究科)

School of Advanced Sciences (Sendou-Kagaku-Kenkyuuka 先端科学研究科)

●Names of the Departments

○School of Cultural and Social Studies

Dept. Regional Studies (Chiiki-Bunkagaku-Senkou 地域文化学専攻)

Dept. Comparative Studies (Hikaku-Bunkagaku-Senkou 比較文化学専攻)

Dept. Japanese Studies (Kokusai-Nihon-Kenkyuu-Senkou 国際日本研究専攻)

Dept. Japanese History (Nihon-Rekishi-Kenkyuu-Senkou 日本歴史研究専攻)

Dept. Cyber Society and Culture (Media-Shakai-Bunka-Senkou メディア社会文化専攻)

Dept. Japanese Literature (Nihon-Bungaku-Kenkyuu-Senkou 日本文学研究専攻)

○School of Physical Sciences

Dept. Structural Molecular Science (Kouzou-Bunshi-Kagaku-Senkou 構造分子科学専攻)

Dept. Functional Molecular Science (Kinou-Bunshi-Kagaku-Senkou 機能分子科学専攻)

Dept. Astronomical Science (Tenmon-Kagaku-Senkou 天文科学専攻)

Dept. Fusion Science (Kakuyuugou-Kagaku-Senkou 核融合科学専攻)

Dept. Space and Astronautical Science (Uchuu-Kagaku-Senkou 宇宙科学専攻)

○School of High Energy Accelerator Science

Dept. Accelerator Science (Kasokuki-Kagaku-Senkou 加速器科学専攻)

Dept. Materials Structure Science (Busshitsu-Kouzou-Kagaku-Senkou 物質構造科学専攻)

Dept. Particle and Nuclear Physics (Soryuushi-Genshikaku-Senkou 素粒子原子核専攻)

○School of Multidisciplinary Sciences

Dept. Statistical Science (Toukei-Kagaku-Senkou 統計科学専攻)

Dept. Polar Science (Kyokuiki-Kagaku-Senkou 極域科学専攻)

Dept. Informatics (Jouhougaku-Senkou 情報学専攻)

○School of Life Science

Dept. Genetics (Idengaku-Senkou 遺伝学専攻)

Dept. Basic Biology (Kiso-Seibutsugaku-Senkou 基礎生物学専攻)

Dept. Physiological Sciences (Seiri-Kagaku-Senkou 生理科学専攻)

○School of Advanced Sciences

Dept. Evolutionary Studies of Biosystems

(Seimei-Kyouseitai-Shinkagaku-Senkou 生命共生体進化学専攻)

● **Indication in academic journals and papers**

○ Academic journals

English : The Graduate University for Advanced Studies(Sokendai)
or Grad. Univ. Advanced Studies

Japanese : 総合研究大学院大学

○ Academic papers

English : Department of[……………]

The Graduate University for Advanced Studies (Sokendai)
[address:Parent Institutes' s address]

Japanese : 総合研究大学院大学 [……………]専攻
[基盤機関の住所]

※ The name of the University should be indicated as described above in research published by SOKENDAI students and the results of programs organized by SOKENDAI.

※ The University should be acknowledged in publications resulting from research conducted through programs organized by SOKENDAI.

(Example) Acknowledgement for the "joint research" program organized by SOKENDAI

The present study was (partially) supported by the Joint Studies Program of The Graduate University for Advanced Studies(Sokendai).

※ Send one copy of the published work to the Headquarters (to be preserved by the Library).

5-4. Contacts (各種連絡先)

● Contact list of the Hayama Headquarters of SOKENDAI (2010.3)

Item	Charge Post
The Graduate University for Advanced Studies Administration Office , Library , Hayama Center for Advanced Studies Shonan Village, Kanagawa,240-0193 Japan	
Change in registration status (absence from school, withdrawal, etc.)	Educational Affairs Section (Kyomu-Gakari 教務係) TEL:046-858-1523 kyomu@ml.soken.ac.jp
Course registration/academic transcript (including course registration at another university)	
Degree	
Issuance of certificates	
Teaching certificate	
Counseling services for students	Student Welfare Section

Tuition exemption	(Gakuseikousei-Gakari 学生厚生係) TEL: 046-858-1525 kousei@ml.soken.ac.jp
Welfare guidance	
Extracurricular activities	
Scholarships (Japan Student Services Organization (JASSO))	
Personal Accident Insurance for Students Pursuing Education and Research	
Student ID Card	
Tuition payment and reminder	Accounting Section (Keiri-Gakari 経理係) TEL: 046-858-1514 keiri@ml.soken.ac.jp
Registration of/change in the bank account for tuition payment	
Postdoctoral Fellowship of Japan Society for Promotion of Science (JSPS)	Research Coordination Section (Kenkyuukyoryoku-Gakari 研究協力係) TEL: 046-858-1539 kenkyo@ml.soken.ac.jp
Scholarships (private foundations)	
Intellectual property rights	
International students (application for permissions, issuance of certificates, scholarships, and other supports)	International Affairs Section (Kokusaikouryu-Gakari 国際交流係) TEL: 046-858-1519 kokusai@ml.soken.ac.jp
Inter-departmental activities (Student Seminars, SOKENDAI Lectures, etc.)	The Office for Inter-departmental Activities (Zengaku-Jigyo-Suishin-shitsu 全学事業推進室) TEL: 046-858-1503 oida@ml.soken.ac.jp
Library	Library (Fuzoku Toshokan 附属図書館) TEL: 046-858-1540 lib@ml.soken.ac.jp
School of Advanced Sciences	School of Advanced Sciences (Hayama-Kyotsuu-Jimushitsu 葉山 共通事務室) TEL: 046-858-1595 hayamajimu@ml.soken.ac.jp

●Department's Administration Office at the Parent Institute (2010.3)

School	Department	Contact
Cultural and Social Studies	Regional Studies, Comparative Studies	Kokuritsu Minzokugaku Hakubutsukan (National Museum of Ethnology) 10-1 Senri Expo Park, Suita, Osaka, 565-8511 Japan TEL: 06-6878-8236 souken@idc.minpaku.ac.jp
	Japanese Studies	Kokusai Nihon Bunka Kenkyuu Senta (International Research Center for Japanese Studies) 3-2, Oeyama-cho, Goryo, Nishikyo-ku, Kyoto, 610-1192 Japan TEL: 075-335-2052 senkou@nichibun.ac.jp
	Japanese History	Kokuritsu Rekishi Minzoku Hakubutsukan (National Museum of Japanese History) 117 Jonai-cho, Sakura, Chiba, 285-8502 Japan TEL: 043-486-4361 soken@ml.rekihaku.ac.jp
	Cyber Society and Culture	ICT Katsuyou Enkakukyouiku Senta (The Open University of Japan Center of ICT and Distance Education) 2-11, Wakaba, Mihama-ku, Chiba, 261-8586 Japan TEL: 043-298-3452 senko@nime.ac.jp
	Japanese Literature	Kokubungaku Kenkyuu Shiryoukan (National Institute of Japanese Literature) 10-3, Midori-cho Tachikawa, Tokyo, 190-0014 Japan TEL: 050-5533-2915 edu-ml@nijl.ac.jp
Physical Sciences	Structural Molecular Science Functional Molecular Science	Bunshi Kagaku Kenkyuusho(Institute for Molecular Science) 38 Nishigonaka, Myodaiji, Okazaki, Aichi, 444-8585 Japan TEL: 0564-55-7139 r7139@orion.ac.jp
	Astronomical Science	Kokuritsu Tenmondai (National Astronomical Observatory) 2-21-1, Osawa, Mitaka, Tokyo, 181-8588 Japan TEL: 0422-34-3661 kenkyu@nao.ac.jp
	Fusion Science	Kakuyugo Kagaku Kenkyuusho (National Institute for Fusion Science) 322-6, Oroshi-cho, Toki, Gifu, 509-5292 Japan TEL: 0572-58-2042 kenkyou@nifs.ac.jp
	Space and Astronautical Science	Uchu-Koukuu Kenkyukaihatsu Kikou (Institute of Space and Astronautical Science) 3-1-1, Yoshinodai, Sagamihara, Kanagawa, 229-8510 Japan TEL: 042-759-8012 graduate@jaxa.jp

High Energy Accelerator Science	Accelerator Science Materials Structure Science Particle and Nuclear Physics	Ko-Enerugii Kasokuki Kenkyuu Kikou (High Energy Accelerator Research Organization) 1-1 Oho, Tsukuba, Ibaraki, 305-0801 Japan TEL: 029-864-5128 kyodo2@mail.kek.jp
Multi- disciplinary Sciences	Statistical Science	Toukei Suuri Kenkyuujo (The Institute of Statistical Mathematics) 10-3, Midori-cho Tachikawa, Tokyo, 190-8562 Japan TEL: 050-5533-8514 kenkyo@ism.ac.jp
	Polar Science	Kokuritsu Kyokuchi Kenkyuusho (National Institute of Polar Research) 10-3, Midori-cho Tachikawa, Tokyo, 190-8518 Japan TEL: 042-512-0612 kyokuiki@nipr.ac.jp
	Informatics	Kokuritsu Jouhougaku Kenkyuusho (National Institute of Informatics) 2-1-2, Hitotsubashi, Chiyoda-ku, Tokyo, 101-8430 Japan TEL: 03-4212-2110 daigakuin@nii.ac.jp
Life Science	Genetics	Kokuritsu Idengaku Kenkyuusho (National Institute of Genetics) 1111 Yata, Mishima, Shizuoka, 411-8540 Japan TEL: 055-981-6713 info-soken@lab.nig.ac.jp
	Basic Biology, Physiological Sciences	Kiso Seibutugaku Kenkyuusho (National Institute of Basic Biology) Seirigaku Kenkyusho (National Institute for Physiological Sciences) 38 Nishigonaka, Myodaiji, Okazaki, Aichi, 444-8585 Japan TEL: 0564-55-7139 r7139@orion.ac.jp
Advanced Sciences	Evolutionary Studies of Biosystems	Hayama Campus (Hayama Headquarter) School of Advanced Sciences (Hayama-Kyotsuu-Jimushitsu) Shonan Village, Kanagawa, 240-0193 Japan TEL: 046-858-1595 hayamajimu@ml.soken.ac.jp

6. 付録

6-1. 基本的な規則

- 学則(Gakusoku).....245
- 学生規則(Gakusei-Kisoku).....260

6-2. 履修規程

- 文化科学研究科履修規程(Bunka-Rishuu-Kitei).....268
- 物理科学研究科履修規程(Butsuri-Rishuu-Kitei).....274
- 高エネルギー加速器科学研究科履修規程(Kouene-Rishuu-Kitei).....282
- 複合科学研究科履修規程(Fukugou-Rishuu-Kitei).....288
- 生命科学研究科履修規程(Seimei-Rishuu-Kitei).....296
- 先導科学研究科生命共生体進化学専攻履修規程(Seimeikyouseitai-Rishuu-Kitei)・302

6-3. 学位関係

- 学位規則(Gakui-Kisoku).....306
- 文化科学研究科(Bunkakagaku-Kenkyuka)
～課程博士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程
(Ronbunshinsa-Kitei).....311
- 物理科学研究科(Butsurikagaku-Kenkyuka)
～課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程
(Ronbunshinsa-Kitei).....315
～課程博士の学位授与に係る予備審査の手続きに関する細則
(Yobishinsa-Saisoku).....320
- 高エネルギー加速器科学研究科(Kou-Enerugi-Kasokukikagaku-Kenkyuka)
～課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程
(Ronbunshinsa-Kitei).....321
～課程博士の学位授与に係る予備審査の手続きに関する細則
(Yobishinsa-Saisoku).....326
- 複合科学研究科(Fukugoukagaku-Kenkyuka)
～課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程
(Ronbunshinsa-Kitei).....327
～課程博士の学位授与に係る予備審査の手続きに関する細則
(Yobishinsa-Saisoku).....332
- 生命科学研究科(Seimeikagaku-Kenkyuka)
～課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程
(Ronbunshinsa-Kitei).....333
- 先導科学研究科(Sendoukagaku-Kenkyuka)

～生命共生体進化学専攻課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程(Seimeikyoseitai-Ronbunshinsa-Kitei).....338

6-4. その他規則

- 科目等履修生、聴講生及び研究生規則(Kenkyusei-Kisoku).....342
- 科目等履修生、聴講生及び研究生規程(Kenkyusei-Kitei).....345
- 国立大学法人総合研究大学院大学における授業料その他の費用等の取扱いに関する規則(Jyugyouryou-Kisoku).....346
- 中学校教諭・高等学校専修免許状の授与の所要資格等に関する規則(Kyoinmenkyo-Kisoku).....353
- 総合研究大学院大学における優れた研究業績を上げた者の在学期間の短縮の取り扱いを定める件(Zaigakukikantanshuku-Kitei).....354
- 総合研究大学院大学における学生の氏名の取り扱いを定める件(Gakuseishimei-Kitei).....355
- 総合研究大学院大学における長期履修学生の取扱いに関する裁定(Choki-Rishu-Saitei).....356

〔平成16年4月1日
学則第1号〕

- 一部改正 16.11.2/17.3.18
- 17.7.5/17.11.1
- 18.3.14/18.7.4
- 19.3.14/20.3.14
- 20.4.1/21.3.25
- 21.6.4/22.3.25

総合研究大学院大学学則（平成元年4月1日学則第1号）の全部を改正する。

目次

- 第1章 総則
 - 第1節 理念及び目的（第1条－第2条）
 - 第2節 位置（第3条）
 - 第3節 教育研究組織等（第4条－第7条）
 - 第4節 職員（第8条－第9条）
 - 第5節 運営会議及び教授会等（第10条－第11条）
 - 第6節 自己評価及び結果公表等（第12条－第13条）
- 第2章 研究科
 - 第1節 課程、その目的及び修業年限等（第15条－第16条の2）
 - 第2節 専攻（第17条）
 - 第3節 講座及び教員組織（第18条－第20条）
 - 第4節 修業年限及び収容定員（第21条）
 - 第5節 学年、学期及び休業日（第22条－第24条）
 - 第6節 入学資格、入学時期及び入学選抜等（第25条－第27条）
 - 第7節 教育方法、履修方法及び在学年限（第28条－第36条）
 - 第8節 修了の要件及び学位（第37条－第43条）
 - 第9節 再入学、転入学及び退学等（第44条－第49条）
 - 第10節 授業料その他の費用等（第50条－第58条）
 - 第11節 表彰、懲戒及び除籍（第59条－第61条）
- 第3章 科目等履修生、聴講生及び研究生（第62条－第65条）
- 第4章 雑則（第66条）

第1章 総則

第1節 理念及び目的

（理念）

第1条 総合研究大学院大学（以下「本学」という。）は、国立大学法人法（平成15年法律第112号。以下「法」という。）第4条及び別表第1備考第2に基づき、次の表に掲げる大学共同利用機関法人及び独立行政法人（以下「機構等法人」という。）が設置する大学の共同利用の研究その他の機関（以下「基盤機関」という。）との緊密な連絡及び協力の下に、世界最高水準の国際的な大学院大学として学術の理論及び応用を教育研究して、文化の創造と発展に貢献することを理念とする。

機構等法人	基盤機関
大学共同利用機関法人人間文化研究機構	国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、国立民族学博物館
大学共同利用機関法人自然科学研究機構	国立天文台、核融合科学研究所、基礎生物学研究所、生理学研究所、分子科学研究所
大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構	素粒子原子核研究所、物質構造科学研究所、加速器研究施設、共通基盤研究施設
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構	国立極地研究所、国立情報学研究所、統計数理研究所、国立遺伝学研究所
独立行政法人宇宙航空研究開発機構	宇宙科学研究所

（目的）

第2条 本学は、前条の理念に基づき基礎学術分野において国際的に通用する高度の研究的資質を持つ幅広い視野を備えた研究者の育成を目的とし、学融合により従来の学問分野の枠を越えた国際的な学術研究の推進並びに学際的で先導的な学問分野の開拓を目指す。

2 本学は、前項の目的を達成するため、研究科に置く専攻の自主性及び自律性を尊重しつつ、研究科その他の組織との一体的な運営を図り、本学職員の適切な役割分担及び組織的な連携協力体制により、その機能を総合的に発揮するものとする。

第2節 位置

（位置）

第3条 本学の位置は、本学を設置する国立大学法人総合研究大学院大学（以下「法人」という。）の主たる事務所を置く神奈川県三浦郡葉山町とし、その事務所を大学本部と称する。

技術職員

第3節 教育研究組織等

(大学院の研究科及び専攻)

第4条 本学の大学院に、次に掲げる研究科を置く。

文化科学研究科
物理科学研究科
高エネルギー加速器科学研究科
複合科学研究科
生命科学研究科
先導科学研究科

2 前項の研究科に、第17条に規定する専攻を置く。

(附属図書館)

第5条 本学に、附属図書館を置く。

2 附属図書館は、第3条に規定する大学本部に置く図書館並びに第1条に規定する機構等法人又は基盤機関に置く図書室のうち学長が別に定める図書室をいう。

3 附属図書館に関する事項は、本学の附属図書館規則に定める。

(学融合推進センター)

第6条 本学に、学融合推進センターを置く。

2 学融合推進センターは、第2条第1項に規定する目的を推進するため、本学の学術交流の教育研究拠点として、学融合による学際的な学問分野の開拓を行う全学共同教育研究施設とする。

3 学融合推進センターに関する事項は、本学の学融合推進センター規則に定める。

(事務局)

第7条 本学に事務局を置く。

2 事務局に関する事項は、本学の事務局規則に定める。

第4節 職員

(職員)

第8条 本学に、次に掲げる職員を置く。

学長
副学長
教授
准教授
講師
助教
助手
事務職員

(組織の長等)

第9条 本学に、研究科長、附属図書館長、学融合推進センター長及び事務局長を置く。

2 前項に規定する組織の長に関する事項は、学長が別に定める。

3 第1項の規定にかかわらず、学長が別に定めるところにより学長特別補佐を置くことができる。

第5節 運営会議及び教授会等

(運営会議)

第10条 本学に、運営会議を置く。

2 運営会議は、法人が定めた本学の運営方針に基づき、その権限に属された事項を審議し、及びその処理に当たる。

3 運営会議に関する事項は、本学の運営会議規則に定める。

(研究科教授会)

第11条 本学の研究科に、学校教育法（昭和22年法律第26号）第93条の規定に基づく研究科教授会を置く。

2 研究科教授会は、研究科の教育研究に関する重要事項を審議する。

3 研究科教授会に関する事項は、本学の研究科の組織運営等に関する規則に定める。

第6節 自己評価、認証評価及び結果公表等

(自己評価等)

第12条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、第2条第1項、第14条の2及び第17条の2に規定する目的及び社会的使命を達成するため、本学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備等（以下「教育研究活動等」という。）の状況について自ら点検及び評価を行うものとする。

2 前項の点検及び評価の項目並びにその実施体制等については、学長が別に定める。

(認証評価)

第13条 前条第1項の措置に加え、本学の教育研究活動等の総合的な状況について、7年以内の期間ごとに、文部科学大臣の認証を受けた機関による評価を受けるものとする。ただし、当該認証を受けた機関が存在しない場合その他特別の事由がある場合であって、文部科学大臣の定める措置を講じているときは、この限りではない。

(結果公表等)

第14条 本学は、前2条の実施結果その他本学における教育研究活動等の状況について、積極的に情報を公表する。

2 前項の公表すべき情報の項目は、学長が別に定める。

第2章 研究科
 第1節 研究科の目的、課程、課程の目的及び修業年限等
 (研究科の目的)

第14条の2 本学の研究科の目的は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科	研究科の目的
文化科学研究科	人間の文化活動並びに人間と社会、技術及び自然との関係に係る総合的教育研究を行い、国際的通用性を持つ幅広い視野を備えた高度な研究者及び高度な研究能力をもって社会に貢献する人材の育成を目的とする。
物理学研究科	物質、宇宙、エネルギーに関する物理及び化学現象を対象とした学問分野において、広い視野を備え世界の第一線で活躍する研究者及び高度の専門知識をもって社会に貢献する人材の育成を目的とする。
高エネルギー加速器科学研究科	高エネルギー加速器を用いて、自然界各階層に存在する物質の構造、機能及びその原理を解明する実験的研究及び理論的研究、並びに加速器及び関連装置の開発研究に係る教育研究を行い、科学の進展に寄与するとともに、社会に貢献する人材の育成を目的とする。
複合科学研究科	地球、環境、社会等人間社会の変容に関わる重要課題を対象とした横断型の教育研究を行い、情報とシステムの観点からこれら課題解決に貢献する研究能力又は研究開発能力を備えた次世代を担う研究者及び高度専門家の育成を目的とする。
生命科学研究科	生命現象を分子から個体、集団に至る様々なレベルで解明するための教育研究を行い、国際的通用性を持つ幅広い視野を備えた次世代の生命科学研究者を担う研究者の育成を目的とする。
先導科学研究科	本学創設の理念及び目的に基づき、学融合により従来の学問分野の枠を越えた国際的な学術研究の推進及び学際的で先導的な学問分野の開拓を行い、国際的に通用する高度な専門性と広い視野を備えた人材の育成を目的とする。

第15条 本学の研究科の課程は、博士課程とする。

2 前項の課程は、前条の表に掲げる研究科の目的を達成するため、専攻分野について、第2条第1項に規定する研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

(課程の修業年限等)

第16条 前条第1項の課程の修業年限は、3年又は5年を標準とする。
 2 前項の標準の修業年限を3年とする課程は、第25条第1項に規定する者(次項に規定する課程の3年次に編入学する者を含む。)が履修する課程(以下「後期3年の課程」という。)とする。
 3 第1項の標準の修業年限を5年とする課程は、第25条第2項に規定する者が履修する課程(以下「5年の課程」という。)とする。
 4 本学の研究科の専攻の修業年限は、第21条に定める。

(長期にわたる課程の履修)

第16条の2 前条の規定にかかわらず、学生が職業を有している等の事情により、標準の修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。
 2 前項の学生(以下第35条、第46条第3項、第47条第5項、第50条第2項及び第61条第1号において「長期履修学生」という。)に関する事項は、学長が別に定める。

第2節 専攻及び専攻の目的
 (専攻)

第17条 本学の研究科の専攻(次項及び第3項に規定する先導科学研究科の専攻を除く。)、専攻を置く基盤機関及び専攻の所在地は、次の各号の表に掲げる通りとする。

(1)文化科学研究科

専攻	専攻を置く基盤機関	専攻の所在地
地域文化化学専攻	国立民族学博物館	大阪府吹田市
比較文化化学専攻		
国際日本研究専攻	国際日本文化研究センター	京都府京都市
日本歴史研究専攻	国立歴史民俗博物館	千葉県佐倉市
日本文学研究専攻	国文学研究資料館	東京都立川市

(2) 物理科学研究科

専攻	専攻を置く基盤機関	専攻の所在地
構造分子科学専攻	分子科学研究所	愛知県岡崎市
機能分子科学専攻		
天文学専攻	国立天文台	東京都三鷹市
核融合科学専攻	核融合科学研究所	岐阜県土岐市
宇宙科学専攻	宇宙科学研究所	神奈川県相模原市
備考		
<p>1 第1条に規定する大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所、生理学研究所及び分子科学研究所が設置する統合バイオサイエンスセンター及び計算科学研究センター（所在地は愛知県岡崎市）は、構造分子科学専攻及び機能分子科学専攻の教育研究を行うものとする。</p> <p>2 天文学専攻の教育研究の実施については、当該専攻に所属する学生の研究活動計画等により、必要に応じて前項に規定する大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台が設置する水沢観測センター（所在地は岩手県奥州市）、野辺山宇宙電波観測所及び野辺山太陽電波観測所（所在地は長野県南佐久郡南牧村）、岡山天体物理観測所（所在地は岡山県浅口市）及びハワイ観測所（所在地はアメリカ合衆国ハワイ州ヒロ）において行うものとする。</p> <p>3 宇宙科学専攻の教育研究の実施については、当該専攻に所属する学生の研究活動計画等により、必要に応じて第1条に規定する独立行政法人宇宙航空研究開発機構が設置する航空宇宙技術研究センター（所在地は東京都調布市）及び筑波宇宙センター（所在地は茨城県つくば市）において行うものとする。</p>		

(3) 高エネルギー加速器科学研究科

専攻	専攻を置く基盤機関	専攻の所在地
加速器科学専攻	加速器研究施設 共通基盤研究施設	茨城県つくば市
物質構造科学専攻	物質構造科学研究所	
素粒子原子核専攻	素粒子原子核研究所	

備考 加速器科学専攻、物質構造科学専攻及び素粒子原子核専攻の教育研究の実施については、当該専攻に所属する学生の研究活動計画等により、必要に応じて第1条に規定する大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構東海キャンパス（所在地は茨城県那珂郡東海村）において行うものとする。

(4) 複合科学研究科

専攻	専攻を置く基盤機関	専攻の所在地
統計科学専攻	統計数理研究所	東京都立川市
極域科学専攻	国立極地研究所	東京都立川市
情報科学専攻	国立情報学研究所	東京都千代田区
備考		
<p>1 第1条に規定する大学共同利用機関法人情報・システム研究機構が設置する新領域融合研究センター（所在地は東京都港区）は、第1欄に掲げる専攻の教育研究に協力することができる。</p> <p>2 極域科学専攻の教育研究の実施については、当該専攻に所属する学生の研究活動計画等により、必要に応じて南北極域における極域研究観測施設等において行うことができる。</p>		

(5) 生命科学科学研究科

専攻	専攻を置く基盤機関	専攻の所在地
遺伝学専攻	国立遺伝学研究所	静岡県三島市
基礎生物学専攻	基礎生物学研究所	愛知県岡崎市
生理科学専攻	生理学研究所	
備考		
<p>1 第1条に規定する大学共同利用機関法人自然科学研究機構基礎生物学研究所、生理学研究所及び分子科学研究所が設置する統合バイオサイエンスセンター、計算科学研究センター、動物実験センター及びアイトープ実験センター（所在地は愛知県岡崎市）は、基礎生物学専攻及び生理科学専攻の教育研究を行うものとする。</p> <p>2 第1条に規定する大学共同利用機関法人情報・システム研究機構が設置する新領域融合研究センター（所在地は東京都港区）は、遺伝学専攻の教育研究に協力</p>		

することができる。

2 本学の先導科学研究科の専攻、専攻の所在地並びに専攻の教育研究の実施に当たって緊密な連携及び協力を行う機構等法人は、次の表に掲げるとおとしとする。

専攻	専攻の所在地	専攻の教育研究の実施に当たって緊密な連携及び協力を行う機構等法人
生命共生体進化学専攻	神奈川県三浦郡葉山町	大学共同利用機関法人人間文化科学研究機構、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構、独立行政法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所

備考 第1欄に掲げる専攻の教育研究の実施については、当該専攻に所属する学生の研究活動計画等により、当該専攻の要請に応じ、第3欄に掲げる機構等法人が設置する基盤機関において行うことができる。

(専攻の目的)

第17条の2 本学の研究科の専攻の目的は、次の各号の表に掲げるとおとしとする。

(1) 文化科学研究科

専攻	専攻の目的
地域文化学専攻	民族学・文化人類学の分野を中心とする隣接諸科学に関して高度な専門知識を持ち、諸地域における多様な文化についての現地研究等を通じて、高度な研究を行える研究者及び高度な専門性をもって国際的に社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
比較文化学専攻	民族学・文化人類学の分野を中心とする隣接諸科学に関して高度な専門知識を持ち、人類社会に共通する文化についての比較研究等を通じて、高度な研究を行える研究者及び高度な専門性をもって国際的に社会に貢献できる人材の育成を目的とする。
国際日本研究専攻	国際日本文化研究センターがもつ多様な研究者と優れた研究環境を基に、国際的・学際的な視野で日本の文化について教育研究を行い、高度で視野の広い国際性豊かな研究者

の育成を目的とする。

日本歴史研究専攻
 広義の日本歴史の分野に関して、広い視野及び国際的な通用性を兼ね備え、特定の専門分野について資料に基づいた高度な研究を行える研究者及び高い研究能力をもって社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

日本文学研究専攻
 日本文学及びその周辺分野において深い専門知識を持ち、文化資源に基づいて国際的な基盤に立脚した高度な研究を行い、社会に貢献できる人材の育成を目的とする。

(2) 物理科学研究科

専攻	専攻の目的
構造分子科学専攻	分子及び分子集合体の構造の解析に基づき、物質の静的・動的諸性質を分子レベルで解明するための教育研究を行い、広い視野と国際的に高い水準の能力を備えた次世代分子科学を担う研究者の育成を目的とする。
機能分子科学専攻	分子及び分子集合体の機能発現を分子レベルで解明し、新たな機能分子の設計指針を確立するための教育研究を行い、広い視野と国際的に高い水準の能力を備えた次世代分子科学を担う研究者の育成を目的とする。
天文科学専攻	世界最先端の観測装置やスーパーコンピュータを有する研究環境の下で、天文学及び関連する分野の観測的、理論的研究を通して、世界第一線で活躍できる研究者の育成、新たな観測装置の開発など先端技術の発展に資する人材の育成及び高度な専門知識を背景に科学の普及に努める人材の育成を目的とする。
核融合科学専攻	核融合エネルギーの実現のため、プラズマ物理学に基づく高温プラズマの閉じ込め、安定性等に関わる物理実験及び理論的研究、これら物理現象解明のためのシミュレーション科学研究、加熱、計測、超伝導及び材料技術を含む核融合炉技術全般に関わる要素研究において、国際的にリーダーシップを発揮できる質の高い研究者及び高度な専門知識をもって社会に貢献する人材の育成を目的とする。
宇宙科学専攻	宇宙飛翔体を用いた宇宙観測科学、宇宙探査理工学、宇宙

工学及びこれらの学際領域において、広い視野と国際的に高い水準の能力を備えた研究者及び高度の専門知識をもって社会に貢献する人材の育成を目的とする。
--

(3) 高エネルギー加速器科学研究科

専攻	専攻の目的
加速器科学専攻	先端的な粒子ビームの加速方式、加速技術の開発研究及びその関連応用分野の研究において、高度な専門知識及び研究能力を修得し、次世代の加速器開発研究の最先端を担い、この分野の発展に貢献する優れた研究者の育成とともに、幅広い関連諸分野の発展に貢献する人材の育成を目的とする。
物質構造科学専攻	粒子加速器から発生する各種の量子ビームを利用する物質構造科学の研究分野において、次世代の実験的及び理論的研究の最先端を担い、これらの分野の発展に貢献する優れた研究者の育成とともに、物質構造科学の関連諸分野の発展に貢献する広い視野を備えた人材の育成を目的とする。
素粒子原子核専攻	最先端の高エネルギー加速器を用いた素粒子原子核物理の実験及び理論に係る教育研究を行い、開拓精神と広い視野を備えた国際性豊かな研究者及び高度な研究能力をもって社会に貢献する人材の育成を目的とする。

(4) 複合科学研究科

専攻	専攻の目的
統計科学専攻	データに基づく、現実世界からの情報乃至知識の抽出を實現するために、モデリング、予測、推論、データ収集の設定及びこれらへの基礎、教理、応用に係る教育研究を行い、複雑に相互に絡み合うさまざまな重要課題の解決に貢献する独創性豊かな研究能力を備えた人材の育成を目的とする。
極域科学専攻	地球システム変動における多様な現象及び要因について物理学、化学及び生物学を用いた教育研究を行い、これらの相互作用を地球システムとして探求する研究能力及び具体的な方法論を極域環境に対応して企画、立案し、実施する

情報学専攻	研究遂行能力を備えた研究者の育成を目的とする。
	情報科学、情報工学、人文社会情報学等の基礎から応用に至る研究を行い、高度情報社会の達成に関わる重要課題の解決に貢献する高度な研究又は開発能力を備えた人材の育成を目的とする。

(5) 生命科学研究科

専攻	専攻の目的
遺伝学専攻	遺伝学に係る専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
基礎生物学専攻	基礎生物学に係る専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。
生理科学専攻	生理科学に係る専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行うために必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を養うことを目的とする。

(6) 先導科学研究科

専攻	専攻の目的
生命共生体進化学専攻	生命の時空的な広がりを通して生物、人間及び社会に関する専門知識及び研究能力の修得を基本として現代社会での科学と技術のあり方を考究する教育研究を行い、新しい生命観、人間観を切り拓くとともに、これからの持続可能な社会の構築に貢献する高度な専門性及び広い視野を備えた人材の育成を目的とする。

第3節 講座、教育研究指導領域及び教員組織
(講座及び教育研究指導領域)

第18条 本学の研究科の専攻（次項に規定する専攻を除く。）に置く講座は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科	専攻	専攻に置く講座
文化科学研究科	地域文化学専攻	アジア地域文化学講座、ヨーロッパ・アフリカ地域文化学講座、アメリカ・オセアニア地域文化学講座
	比較文化学専攻	民族社会・宗教学講座、民族技術学講座、民族言語・芸術学講座、文化資源学講座
	国際日本研究専攻	国際日本研究講座
	日本歴史研究専攻	日本歴史研究講座
	日本文学研究専攻	日本文学研究講座
	構造分子科学専攻	電子構造学講座、物質化学講座
	機能分子科学専攻	分子動力学講座、電子動力学講座
	天文学専攻	光赤外線天文学系講座、電波天文学系講座、共通基礎天文学系講座
	核融合科学専攻	核融合システム講座、核融合シミュレーション講座
	宇宙科学専攻	宇宙探査理工学講座、宇宙観測科学講座、宇宙工学講座
高エネルギー物理学研究科	加速器科学専攻	加速器科学講座
	物質構造科学専攻	放射光源計測講座、中性子ミュオン科学講座、放射光物質構造科学講座
	素粒子原子核専攻	素粒子原子核理論講座、高エネルギー実験講座、素粒子実験講座、原子核ハドロン実験講座
複合研究科	統計科学専攻	統計科学講座
	極域科学専攻	極域科学講座

生命科学研究科	情報学専攻	情報学講座
	遺伝学専攻	分子・細胞遺伝学講座、発生遺伝学講座、進化情報遺伝学講座、ゲノム遺伝学講座
	基礎生物学専攻	細胞形質発現学講座、高次形質発現学講座、環境情報制御学講座、形質制御学講座、進化多様性生物学講座、生殖発生学講座、数理予測生物学講座
	生理科学専攻	分子生理学講座、細胞生理学講座、情報生理学講座、統合・調節生理学講座、大脳生理学講座、発達生理学講座

2 先導科学研究科生命共生体進化学専攻は、研究科が別に定めるところにより、教育研究指導領域を置く。

(教員組織)

第19条 前条第1項の表に掲げる専攻に置く講座及び同条第2項の専攻に、本学の教育研究に必要な教員（第8条に規定する教授、准教授、講師、助教又は助手をいう。以下同じ。）を置く。

2 前条第1項の表に掲げる専攻の講座に置く教員は、第17条第1項各号の表に掲げる専攻を置く基礎機関の長及びその機関に所属する本学の教育研究に従事する職員をもつて充てる。

3 前条第2項に規定する先導科学研究科の専攻に置く教員は、法人に置かれる研究院に所属する教員及び第17条第2項の表に掲げる機構等法人が設置する基礎機関に所属する本学の教育研究に従事する職員並びに学長が別に定める教育研究に従事する者をもつて充てる。

4 第2項及び前項に規定するもののほか、学長が別に定めるところにより、法人の役員及び第1条に規定する機構等法人の役員を本学の教員に充てることができる。

5 第2項から前項までの規定にかかわらず、本学の教員は、第17条の表に掲げる専攻又は第6条に規定する学融合推進センターの要請に応じ、その専攻又は学融合推進センターにおける教育研究の実施に協力することができる。

(授業等を担当しない教員)

第20条 本学の教育研究上必要があるときは、授業又は博士論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）を担当しない教員を置くことができる。

第4節 修業年限及び収容定員

(修業年限及び収容定員)

第21条 本学の研究科の専攻の標準の修業年限並びに研究科及び専攻の5年の課程の学生

の入学定員、後期3年の課程の学生の入学定員（物理科学研究科、複合科学研究科、生命科学科学研究科及び先導科学研究科においては3年次編入学定員をいう。）、その収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

研究科	専攻	標準の修業年限	5年の課程の入学定員	後期3年の課程の入学定員	収容定員
文化科学研究科	地域文化学専攻	3年	-	3人	9人
	比較文化学専攻	3年	-	3人	9人
	国際日本研究専攻	3年	-	3人	9人
	日本歴史研究専攻	3年	-	3人	9人
	日本文学研究専攻	3年	-	3人	9人
	計		-	15人	45人
物理科学研究科	構造分子科学専攻	3年又は5年	2人	3人	19人
	機能分子科学専攻	3年又は5年	2人	3人	19人
	天文科学専攻	3年又は5年	2人	3人	19人
	核融合科学専攻	3年又は5年	2人	3人	19人
	宇宙科学専攻	3年又は5年	2人	3人	19人
	計		10人	15人	95人
高エネルギー加速器科学研究科	加速器科学専攻	5年	2人	-	10人
	物質構造科学専攻	5年	3人	-	15人
	素粒子原子核専攻	5年	4人	-	20人
	計		9人	-	45人
複合科学研究科	統計科学専攻	3年又は5年	2人	3人	19人
	極域科学専攻	3年又は5年	2人	1人	13人
	情報科学専攻	3年又は5年	4人	6人	38人
	計		8人	10人	70人
生命科学科学研究科	遺伝学専攻	3年又は5年	3人	6人	33人
	基礎生物学専攻	3年又は5年	3人	6人	33人

先導科学研究科	生理科学専攻		3年又は5年		6人	33人
	計		計			
生命共生体進化化学専攻	5年		5人	1人	6人	28人
	計		5人	1人	6人	28人
合計			41人	59人	6人	382人

備考

- 先導科学研究科生命体科学専攻は、平成19年3月31日に在学する者が当該専攻の課程を修了して在学しなくなる日又は退学（3年以上在学し、所定の単位数以上を修得した者に限る。）により在学しなくなる日から2年を経過した日のいずれか遅い日まで存続するものとする。
- 文化科学研究科メディア社会文化専攻は、平成21年3月31日に在学する者が当該専攻の課程を修了して在学しなくなる日又は退学（3年以上在学し、所定の単位数以上を修得した者に限る。）により在学しなくなる日から3年を経過した日のいずれか遅い日まで存続するものとする。

2 前項に掲げる表のほか、高エネルギー加速器科学研究科の専攻の収容定員には、3年次に編入学する者を含むものとする。

第5節 学年、学期及び休業日（学年）

第22条 本学の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

（学期）

第23条 前条の学年を、次の学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

（休業日）

第24条 本学の休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 春期、夏期、冬期及び臨時の休業日

2 前項第3号の休業日は、学長が別に定める。

第6節 入学資格、入学時期及び入学選抜等
(入学資格)

第25条 本学の後期3年の課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 文部科学大臣の指定した次に定める者
 - ア 大学を卒業し、大学、研究所等において、2年以上研究に従事した者で、本学において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同等以上の学力がある者と認められた者
 - イ 外国において学校教育における16年の課程を修了した後、又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後、大学、研究所等において2年以上研究に従事した者で、本学において、当該研究の成果等により、修士の学位を有する者と同以上の学力があると認められた者
- (6) 本学において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、24歳に達したものと
- 2 本学の5年の課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。
 - (1) 学校教育法第83条に定める大学を卒業した者
 - (2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者
 - (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目と我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者
 - (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するもの当該課程を修了した者
 - (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たす者に限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者
 - (7) 文部科学大臣の指定した者
 - (8) 学校教育法第83条に定める大学に3年以上在学した者（これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む。）であつて、本学において、当該大学の所定の単位を優秀な成績で修得したと認められたもの
 - (9) 学校教育法第102条第2項の規定により他の大学院に入学した者で、本学において教育を受けるにふさわしい学力があると認められたもの

(10) 本学において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力がある者と認められた者で、22歳に達したものと

(入学時期)

第26条 本学の入学の時期は、毎年4月及び10月とする。

(入学者の選抜及び入学許可)

第27条 本学に入学を志願する者については、研究科が別に定めるところにより入学者の選抜を行う。

2 入学の許可は、研究科教授会の議を経て学長が行う。

3 第3章に定める科目等履修生、聴講生及び研究生の入学の許可は、前項を準用する。

第7節 教育課程及び在学年限等

(教育課程の編成方針)

第27条の2 本学の研究科は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成にあたっては、本学の研究科は、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮しなければならない。

(教育方法)

第28条 本学の研究科の教育は、本学の教授、准教授、講師又は助教が担当する授業科目の授業及び研究指導によつて行う。

2 前項の授業は、文部科学大臣が定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 前2項に規定するもののほか、授業又は研究指導を補助する助手を置くことができる。

(授業科目、その単位数、履修方法等)

第29条 前条の授業科目及びその単位数、履修方法等は、研究科が専攻ごとに別に定める。

2 前項の単位数を定めるに当たつては、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもつて1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもつて1単位とする。ただし、個人指導による実技の授業については、研究科が専攻ごとに別に定める時間の授業をもつて1単位とする。
- (3) 前2号の規定にかかわらず、研究指導等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、研究科が専攻ごとに単位数を別に定める。

3 前項の規定にかかわらず、一の授業科目について、講義、演習、実験、実習及び実技

のうち二以上の方法の併用により行う場合の単位数を計算するに当たっては、その組み合わせに応じ、前項各号に規定する基準を考慮して研究科が専攻ごとに定める時間の授業をもつて1単位とする。

(授業科目の単位の授与)

第30条 前条の授業科目を履修した学生に対しては、試験の上単位を与える。ただし、前条第2項第3号の授業科目については、研究科が専攻ごとに別に定める適切な方法により学修の成果を評価して単位を与えることができる。

(研究指導及びその指導教員等)

第31条 研究指導は、学生1人ごとにその内容が定められるものとし、その研究指導については、原則として2人以上の教授、准教授、講師又は助教が担当するものとする。

2 研究指導を担当する教授又は准教授のうち1人は、主任指導教員とする。

3 前項によるもののほか、教育研究上の組織編制として適切と認められる場合には、講師又は助教を主任指導教員とすることができる。

(成績評価基準等の明示等)

第31条の2 本学の研究科は、学生に対して、授業及び研究指導の方法及び内容並びに1年間の授業及び研究指導の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学の研究科は、第30条に規定する授業科目の単位の授与のための学修の成果及び学位论文に係る評価並びに第40条に規定する終了の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第31条の3 本学の研究科は、当該研究科において行う授業及び教育研究指導(第31条に規定する教員の研究指導を含む。)の改善及び向上を図るため、研修及び研究等を実施するものとする。

(他の大学院における授業科目の履修等)

第32条 学生は、教育上有益と認められるときは、研究科長の許可を受けて、本学が協議をした他の大学の大学院及び文部科学大臣が指定した教育施設の授業科目を履修することができる。

2 前項の規定に基づき履修した授業科目について修得した単位は、研究科が専攻ごとに別に定める範囲で、本学の研究科において修得したものとみなすことができる。

(他大学の大学院等における研究指導等)

第33条 学生は、教育上有益と認められるときは、研究科長の許可を受けて、本学が協議をした他の大学の大学院又は研究所等において、必要な研究指導を受けることができる。

2 前項の規定に基づき受けた研究指導は、本学の研究科において受けた研究指導の一部とみなすことができる。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第34条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を研究科長の許可を受けて、本学の研究科において修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定に基づき修得したものとみなすことができる単位は、第44条及び第45条に規定する場合を除き、研究科が専攻ごとに別に定める単位を超えないものとする。

(在学年限)

第35条 学生(第16条の2に規定する長期履修学生を除く。)が本学の研究科に在学することができるとする年限は、研究科が専攻ごとに別に定めるところにより後期3年の課程にあつては5年又は6年とし、5年の課程にあつては8年とする。ただし、第44条、第45条及び第46条の規定により再入学、転入学又は研究科間の移籍等を許可された者の在学年限については、当該年次の在学者にかかる在学年限と同年数とする。

(教育方法、履修方法及び在学年限に関する規則)

第36条 前8条に規定する教育方法、履修方法その他単位の設定及び他の大学院における授業科目の履修等並びに在学年限に関し必要な事項は、本学の研究科の履修規程に定める。

第8節 修了の要件及び学位

(後期3年の課程の修了の要件)

第37条 本学の研究科の後期3年の課程の修了の要件は、本学の研究科に3年以上在学し、研究科が専攻ごとに本学の研究科の履修規程に定める授業科目について所定の単位数以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に關しては、優れた研究業績を上げた者については、他の大学の大学院の修士課程又は博士課程の前期2年の課程における在学期間(その課程に2年以上在学し、当該課程を修了した者であつては、当該課程における在学期間で2年を限度とする。)を通算して3年以上在学すれば足りるものとする。

2 前項の規定にかかわらず、第25条第1項第2号、第3号、第4号又は第5号の規定により、本学への入学資格に關し修士の学位若しくは専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者又は専門職学位課程を修了した者が、本学に入学した場合の研究科の修了の要件は、本学の研究科に3年(法科大学院の課程を修了した者にあつては2年)以上在学し、研究科が専攻ごとに本学の研究科の履修規程に定める授業科目について所定の単位数以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に關しては、優れた研究業績を上げた者については、1年(標準修業年限が1年以上2年未満の期間を減じた期間)以上在学すれば足りるものとする。

(後期3年の課程の修了の要件に関する特例)
 第38条 高エネルギー加速器科学研究科又は生命科学科学研究科の課程の3年次に編入学した者については、前条中「以上在学し、研究科が専攻ごとに本学の研究科の履修規程に定める授業科目について所定の単位数以上を修得し、かつ、必要な研究指導」とあるのは「以上在学し、必要な研究指導」と読み替えて適用する。

(5年の課程の修了の要件)
 第39条 本学の研究科の5年の課程の修了の要件は、本学の研究科に5年以上在学し、研究科が専攻ごとに本学の研究科の履修規程に定める授業科目について所定の単位数以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、研究科に3年以上在学すれば足りるものとする。

(修了の認定)
 第40条 修了の認定は、研究科教授会の議を経て学長が行う。

(学位)
 第41条 本学の研究科を修了した者には、博士の学位を授与する。
 2 前項の規定に基づき本学が授与する博士の学位には、その学位を授与される者が修了した研究科の専攻の区分に応じ、次の表に掲げる専攻分野を付記するものとする。

研究科	専攻	付記する専攻分野
文化科学研究科	地域文化学専攻	文文学術学
	比較文化学専攻	
	国際日本研究専攻	博士論文の内容によつては学術学
	日本歴史研究専攻	
	日本文学研究専攻	
物理学研究科	構造分子科学専攻	理学学術学
	機能分子科学専攻	
	天文科学専攻	博士論文の内容によつては学術学 博士論文の内容によつては理学又は工学 博士論文の内容によつては学術学・工学
	核融合科学専攻	
	宇宙科学専攻	
高エネルギー加速器科学研究科	加速器科学専攻	理学学術学 博士論文の内容によつては理学又は工学 博士論文の内容によつては学術学
	物質構造科学専攻	
	素粒子原子核専攻	
複合科学研究科	統計科学専攻 極域科学専攻	統計科学 理学

生命科学研究科	情報学専攻	情報学
生命科学研究科	遺伝学専攻 基礎生物学専攻 生理学専攻	理学 理学 学術・理学
	生命共生体進化学専攻	
先導科学研究科	生命共生体進化学専攻	理学 学術

3 前2項の規定にかかわらず、本学の研究科の5年の課程に在学し、第48条の規定に基づき退学を許可された者が、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第16条に規定する修士課程の修了要件を満たした場合は、学長が別に定めるところにより、修士の学位を授与することができる。

(論文博士)
 第42条 前4条（前条第3項を除く。）に定めるもののほか、前条に規定する博士の学位は、本学の研究科を修了した者であつても、本学に博士論文の審査を申請してその審査に合格し、かつ、本学の研究科を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者に対し、授与することができる。

(学位に関する規則)
 第43条 第37条本文、第41条第3項及び前条に規定する学位論文の審査及び試験の方法並びに修士の学位の授与要件その他本学が授与する学位に関し必要な事項は、本学の学位規則に定める。

第9節 再入学、転入学、休学及び退学等
 (再入学)
 第44条 本学の研究科を修了した者又は退学した者で、本学の研究科に再び入学することを志願する者がある場合は、その研究科の教育研究に支障がないときに限り、選考の上、当該研究科の相当年次に入学を許可することができる。

2 再入学を許可された者が在学すべき年数及び履修の必要な単位数その他必要事項については、研究科が別に定める。

(転入学)
 第45条 他の大学の大学院及び文部科学大臣が指定した教育施設（第25条に規定する者に限る。）に在学している者で、本学の研究科に転入学することを志願する者がある場合は、その研究科の教育研究に支障がないときに限り、選考の上、当該研究科の相当年次に入学を許可することができる。

2 転入学を許可された者が在学すべき年数及び履修の必要な単位数その他必要事項については、研究科が別に定める。

(研究科間の移籍等)

第46条 本学の学生で、他の研究科に移籍を志願する者がある場合は、その研究科の教育研究に支障がないときに限り、選考の上、当該研究科の相当年次に移籍を許可することができる。

2 本学の学生で、転専攻を志願する者がある場合は、その専攻の教育研究に支障がないときに限り、選考の上、当該専攻の相当年次に転専攻を許可することができる。

3 本学の学生で、第16条の2に規定する長期履修学生の適用を希望する旨を申し出る者又は長期履修学生であった者が適用を希望しない旨を申し出る者がある場合は、選考の上、当該申し出を許可することができる。

4 研究科の移籍又は転専攻若しくは長期履修学生の適用に係る申し出を許可された者の在学すべき年数及び履修に必要な単位数その他必要事項については、当該研究科が別に定める。

(休学)

第47条 病気その他やむを得ない事由のため、引き続き2ヶ月以上修学することができない場合は、研究科長の許可を受けて休学することができる。

2 病気その他の事由により、学修することが不適当と認められる学生に対しては、研究科長は休学を命ずることができる。

3 休学の期間の途中において、その事由が消滅した場合は、復学することができる。

4 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。

5 休学の期間は、第21条に規定する修業年限及び第35条に規定する在学年限(第16条の2に規定する長期履修学生に定められた在学年限を含む。)に算入しない。

(退学)

第48条 退学しようとする学生は、研究科教授会の議を経て学長の許可を受けなければならない。

(学生に関する規則)

第49条 研究科間の移籍等、休学及び退学等その他学生の取扱いに関し必要な事項は、本学の学生規則に定める。

第10節 授業料その他の費用等

(授業料、入学料及び検定料の額)

第50条 本学の授業料、入学料及び検定料の額は、次のとおりとする。

授業料	535,800円(年額)
入学料	282,000円
検定料	30,000円

2 前項の規定にかかわらず、第16条の2に規定する長期履修学生に適用する授業料の額は、学長が別に定める。

(授業料)

第51条 授業料は、学長が別に定める期日までに納付しなければならない。

(休学者の授業料)

第52条 休学した学生については、学長が別に定めるところにより、授業料の納付を免除することができる。

(退学者の授業料)

第53条 学期の途中において、第48条の規定に基づき退学し、又は第60条第2項に規定する放学を命ぜられた場合は、学長が別に定めるところにより、授業料を納付しなければならない。

2 第60条第2項に規定する停学を命ぜられた場合は、その期間中の授業料を納付しなければならない。

(入学料)

第54条 入学者の選抜並びに再入学及び転入学の選考に合格した者は、学長が別に定める期日までに入学料を納付しなければならない。

(入学料及び授業料の免除又は徴収猶予)

第55条 入学料及び授業料は、学長が別に定めるところにより、免除又は徴収猶予することができ。

(検定料)

第56条 本学に入学、再入学又は転入学を出願する者は、学長が別に定める期日までに検定料を納付しなければならない。

(授業料、入学料及び検定料の不返還)

第57条 第51条、第54条及び第56条の規定により納付した授業料、入学料及び検定料は返還しない。ただし、学長が別に定めるところにより、納付した授業料に相当する額の全部又は一部を返還することができる。

(授業料その他の費用並びに免除及び猶予等に関する規則)

第58条 授業料その他の費用及び徴収方法並びに免除又は徴収猶予の取扱い等に関して必要な事項は、本学の授業料その他の費用等の取扱いに関する規則の定めるところによる。

第11節 表彰、懲戒及び除籍

(表彰)

第59条 学長は、別に定めるところにより、学生として特に表彰に価する行為があった者に対して表彰することができる。

(懲戒)

第60条 学長は、教育上必要があると認めるときは、その学生の所属する研究科教授会の議を経て、学生を懲戒することができる。

2 前項に規定する懲戒の種類は、放學、停學及び訓告とする。

3 前項に規定する放學は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込がないと認められる者
- (2) 卒業を怠り、成業の見込がないと認められない者
- (3) 正当の理由がなくなつて出席常でない者
- (4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

(除籍)

第61条 学長は、次の各号の一に該当する者を除籍する。

- (1) 在學期間が第35条に規定する在學年限（第16条の2に規定する長期履修学生に定めたる在學年限を含む。）を超えた者
- (2) 休學期間が第47条第4項に規定する期間を超えた者
- (3) 入學料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は半額免除若しくは徴収猶予を許可された者が、納付すべき入學料を所定の期日までに納付しなかつたとき
- (4) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しなかつた者

第3章 科目等履修生、聴講生及び研究生

(科目等履修生)

第62条 本学の学生以外のもので本学の授業科目のうち又は複数の授業科目を履修し、単位を修得することを志願する者があるときは、授業科目を開設する研究科の教育研究に支障がない場合に限り、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

(聴講生)

第63条 本学の学生以外のもので本学の授業科目のうち一又は複数の授業科目を聴講することを志願する者があるときは、授業科目を開設する研究科の教育研究に支障がない場合に限り、選考の上、聴講生として入学を許可することができる。

(研究生)

第64条 本学において、特定の事項について研究することを志願する者があるときは、当該研究生を受け入れる研究科の教育研究に支障がない場合に限り、選考の上、研究生として入学を許可することができる。

(科目等履修生等に関する規則)

第65条 科目等履修生、聴講生及び研究生の出願の資格、入学許可、学生納付金等その他の学生の取扱いに関し必要な事項は、本学の科目等履修生、聴講生及び研究生規則に定め

る。

第4章 雑則

(雑則)

第66条 法及び学校教育法（昭和22年法律第26号）その他の法令又はこの学則に定めるもののほか、この学則の実施のために必要な事項は、規則、規程又は細則で定める。

附則 改正平成16年11月2日

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行の際、改正前の第3条に規定する数物科学研究科の廃止に伴う経過措置は、別に定める。
- 3 この学則施行の際現に生命科学研究科に在學する学生は、施行日において改正後の第16条第2項に規定する後期3年の課程を履修する学生となるものとする。
- 4 改正後の第21条の規定にかかわらず、文化科学研究科日本文学研究専攻及び物理科学研究科宇宙科学専攻並びに生命科学研究科の専攻の取容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

区 研 究 科	分 専 攻	収 容 定 員			
		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
文化科学研究科	日本文学研究専攻	6人	-	-	-
物理科学研究科	宇宙科学専攻	12人	-	-	-
生命科学研究所	遺伝学専攻 分子生物機構論専攻 生理科学専攻	21人 21人 21人	24人 - 24人	27人 - 27人	30人 - 30人

5 改正後の第42条の規定にかかわらず、文化科学研究科日本文学研究専攻、物理科学研究科宇宙科学専攻及び複合科学情報科学専攻における論文博士の学位の授与は、改正後の第41条の規定に基づく学位の授与が行われた後に行うものとする。

6 この学則施行の際現に本学の学生である者に係る必要な措置その他学則の施行に関して必要な経過措置は、別に定める。

附則（平成16年11月2日学則第2号）

1 この学則の規定は、次の各号に掲げる区分に従い、それぞれ当該各号に定める日から

- 施行する。
- (1) 第11条から第12条の2まで、第27条第2項、第40条、第48条及び第60条に係る規定
平成16年11月2日
- (2) 第41条第2項の表の複合科学研究科に係る規定 平成16年11月2日
- (3) 基礎生物学専攻に係る規定 平成17年4月1日
- 2 第21条の規定にかかわらず、生命科学研究所基礎生物学専攻の収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

区 分		収 容 定 員			
研 究 科	専 攻	平成17年 度	平成18年 度	平成19年 度	
生命科学研究所	基礎生物学専攻	24人	27人	30人	

- 附 則 (平成17年3月18日学則第1号)
- 1 この学則の規定は、次の各号に掲げる区分に従い、それぞれ次の各号に定める日から施行する。
- (1) 第25条に係る規定 平成16年12月13日
- (2) 第16条の2、第35条、第46条第3項及び第4項、第47条第5項、第50条、第61条第1号に係る規定 平成17年4月1日
- 2 この学則施行の際現に在学する学生が第16条の2に規定する長期履修学生の適用に係る申し出る場合の取扱いは、学長が別に定める。
- 3 この学則施行の際現に平成11年3月31日に在学する者に係る授業料の額は、第50条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

- 附 則 (平成17年7月5日学則第2号)
- 1 この学則は、平成17年7月5日から施行する。ただし、物理学研究所、高エネルギー加速器科学研究科及び複合科学研究科に係る改正規定及び次項から第4項までの規定は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 この学則施行の際現に物理学研究所、高エネルギー加速器科学研究科及び複合科学研究科に在学する学生は、施行日において改正後の第16条第2項に規定する後期3年の課程を履修する学生となるものとする。
- 3 改正後の第21条の規定にかかわらず、物理学研究所、高エネルギー加速器科学研究科及び複合科学研究科の専攻の収容定員(改正前の第21条に規定する収容定員に係る経過措置の定員を含む。以下「経過措置定員」という。)は、次の表に掲げるとおりとする。

区 分	収 容 定 員			
	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
物理学専攻	17人	16人	15人	17人
物理学構造分子科				
物理学情報学専攻	17人 (経過措置定員12人)	16人 (経過措置定員6人)		

機能分子科学専攻	17人 (経過措置定員12人を含む)	16人 (経過措置定員6人を含む)	15人	17人
天文学専攻	17人 (経過措置定員12人を含む)	16人 (経過措置定員6人を含む)	15人	17人
核融合科学専攻	17人 (経過措置定員12人を含む)	16人 (経過措置定員6人を含む)	15人	17人
宇宙科学専攻	17人 (経過措置定員12人を含む)	16人 (経過措置定員6人を含む)	15人	17人
高エネルギー加速器科学研究科	14人 (経過措置定員12人を含む)	10人 (経過措置定員6人を含む)	6人	8人
物質構造科学専攻	9人 (経過措置定員6人を含む)	9人 (経過措置定員3人を含む)	9人	12人
素粒子原子核専攻	16人 (経過措置定員12人を含む)	14人 (経過措置定員6人を含む)	12人	16人
複合科学研究科	13人 (経過措置定員8人を含む)	14人 (経過措置定員4人を含む)	15人	17人
極域科学専攻	9人 (経過措置定員6人を含む)	9人 (経過措置定員3人を含む)	9人	11人
情報学専攻	22人 (経過措置定員12人を含む)	26人 (経過措置定員6人を含む)	30人	34人

- 4 この学則施行の際現に物理学研究所、高エネルギー加速器科学研究科及び複合科学研究科に在学する学生に係る必要な措置その他学則の施行に必要な経過措置は、別に定める。

附 則 (平成17年11月1日学則第3号)

この学則は、次の各号に掲げる区分に従い、それぞれ次の各号に定める日から施行する。

- (1) 第17条に係る規定 平成17年11月1日
- (2) 第25条第2項に係る規定 平成17年9月9日
- 附 則 (平成18年3月14日学則第1号)
- この学則は、平成18年4月1日から施行する。

の表に掲げるとおとりとする。

区 分		収 容 定 員	
研 究 科	専 攻	平成21年度	平成22年度
文化科学研究科	メディア社会文化専攻	6 人	3 人

附 則（平成18年7月4日学則第2号）

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年3月14日学則第1号）

1 この学則は、平成19年4月1日から施行する。

2 この学則による改正前の先導科学研究科生命体科学専攻及び光科学専攻は、改正後の第17条第2項の規定にかかわらず、平成19年3月31日に在学する者が当該専攻の課程を修了して在学しなくなり又は退学（3年以上在学し、所定の単位数以上を修得した者に限る。）により在学しなくなり又は退学（3年以上在学し、所定の単位数以上を修得した日）を経過した日（この間、継続するものとする）とする。

3 前項に規定する先導科学研究科生命体科学専攻及び光科学専攻に係る学則施行後の適用については、なお、従前の例による。

4 改正後の第21条第1項の規定にかかわらず、先導科学研究科生命共生体進化学専攻の収容定員は、次の表に掲げるとおとりとする。

区 分		収 容 定 員			
研 究 科	専 攻	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
先導科学研究科	生命共生体進化学専攻	6 人	1 2 人	1 8 人	2 3 人

5 この学則施行の際、先導科学研究科生命共生体進化学専攻における第42条に規定する論文博士の学位の授与は、第41条の規定に基づく学位の授与が行われた後に行うものとする。

6 この学則施行の際現に本学の学生である者に係る必要な措置その他学則の施行に関し必要な経過措置は、別に定める。

附 則（平成20年3月14日学則第1号）

この学則は、平成20年3月14日から施行する。

附 則（平成20年4月1日学則第2号）

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月25日学則第1号）

1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。

2 この学則による改正前の文化科学研究科メディア社会文化専攻（以下「メディア社会文化専攻」という。）は、改正後の第17条第1項の規定にかかわらず、平成21年3月31日に在学する者が当該専攻の課程を修了して在学しなくなり又は退学（3年以上在学し、所定の単位数以上を修得した者に限る。）により在学しなくなり又は退学（3年以上在学し、所定の単位数以上を修得した日）を経過した日（この間、継続するものとする）とする。

3 前項に規定するメディア社会文化専攻に係る改正後の学則の適用については、なお、従前の例による。

4 改正後の第21条第1項の規定にかかわらず、メディア社会文化専攻の収容定員は、次

5 この学則施行の際現に本学の学生である者に係る必要な措置その他学則の施行に関し必要な経過措置は、別に定める。

附 則（平成21年6月4日学則第2号）

この学則は、平成21年10月1日から施行する。

附 則（平成22年3月25日学則第1号）

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

〔平成16年4月14日
大学規則第1号〕

一部改正 17.3.18/19.3.14/22.3.25

目次

- 第1章 総則 (第1条)
- 第2章 学生の在籍に関する手続き (第2条～第7条)
- 第3章 特別聴講派遣学生及び特別研究派遣学生 (第8条～第15条)
- 第4章 学生に関する記録 (第16条～第17条)
- 第5章 学生証 (第18条～第19条)
- 第6章 学生の課外活動団体 (第20条～第24条)
- 第7章 学生及び課外活動団体の活動の原則 (第25条)
- 第8章 学生保険 (第26条)

附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、総合研究大学院大学規則(平成16年学則第1号。以下「学則」という。)第49条の規定に基づき、総合研究大学院大学(以下「本学」という。)における学生の休学及び退学その他学生の身分等の取扱い並びに学生及び学生の課外活動団体の行為に関する基準等について必要な事項を定めるものとする。

第2章 学生の在籍に関する手続き

(研究科間の移籍等)

第2条 本学学生が学則第46条第1項及び第2項の規定に基づき、他の研究科に移籍又は転専攻を志願するときは、移籍・転専攻願(別記様式1)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出し、学長の許可を受けなければならない。

2 本学学生が学則第46条第3項に規定する長期履修学生の適用に係る申し出をするときの手続きは、学長が別に定める。

(休学)

第3条 本学学生が学則第47条の規定に基づき、休学するときは、休学願(別記様式2)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出し、その許可を受けなければならない。

(復学)

第4条 前条の規定により休学の許可を受けた本学学生が復学するときは、復学願(別記様式3)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、休学を許可された期間が満了する日以降に復学するときは、復学届(別記様式4)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出すれば足りるものとする。

(転学)

第5条 本学学生が他の大学の大学院に転学するときは、転学願(別記様式5)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出し、その許可を受けなければならない。

(留学)

第6条 本学学生が外国の大学の大学院に留学(第3章に規定する特別聴講派遣学生及び特別研究派遣学生を除く。)するときは、留学願(別記様式6)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 前項の規定により留学の許可を受けた本学学生に関する取扱いについては、第11条から第15条の規定を準用する。この場合において、「派遣」とあるのは「留学」と読み替えて適用する。

3 留学の許可を受けた期間は、学則第16条に規定する修業年限及び第35条に規定する在学年限(学則第11条の2に規定する長期履修学生に定めた在学年限を含む。)に算入する。

(退学)

第7条 本学学生が学則第48条の規定に基づき、退学するときは、退学願(別記様式7)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出し、学長の許可を受けなければならない。

第3章 特別聴講派遣学生及び特別研究派遣学生

(特別聴講派遣学生及び特別研究派遣学生の定義)

第8条 この章において「特別聴講派遣学生」とは、学則第32条第1項の規定により他の大学の大学院(外国の大学の大学院を含む。以下「他大学院」という。)の授業科目について、本学との間における大学間交流協定その他事前の協議に基づき履修する学生をいう。

2 この章において「特別研究派遣学生」とは、学則第33条第1項の規定により他の大学の大学院及び研究所等(外国の大学の大学院及び研究所等を含む。以下「他大学院等」という。)において、本学との間における大学間交流協定その他事前の協議に基づき研究指導を受ける学生をいう。

(他の大学院との協定又は協議)

第9条 前条第1項に規定する本学との間における大学間交流協定その他事前の協議は、

次に掲げる事項について、あらかじめ協定の締結又は協議しなければならない。

- (1) 授業科目の範囲
 - (2) 学生数
 - (3) 単位の認定方法
 - (4) 履修期間
 - (5) 検定料、入学料及び授業料等の徴収方法
 - (6) その他の必要な事項
- 2 前条第2項に規定する本学との間における大学間交流協定その他事前の協議は、次に掲げる事項について、あらかじめ協定の締結又は協議しなければならない。
- (1) 研究題目
 - (2) 学生数
 - (3) 研究指導を行う期間
 - (4) 検定料、入学料、授業料等の聴取方法
 - (5) その他の必要な事項

(出願手続及び派遣許可)

第10条 特別聴講派遣学生として他大学院の授業科目を履修しようとする者は、特別聴講派遣学生願(別記様式8)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出し、その派遣の許可を受けなければならない。

2 特別研究派遣派遣学生として他大学院等において研究指導を受けようとする者は、特別研究派遣学生願(別記様式9)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出し、その派遣の許可を受けなければならない。

(派遣期間)

第11条 前条の規定による特別聴講派遣学生及び特別研究派遣派遣学生の派遣期間は、許可された日から1年以内とする。ただし、やむを得ない事情があると認められたときは、原則として引き続き1年以内に限りその延長を許可することができる。

2 特別聴講派遣派遣学生及び特別研究派遣派遣学生の派遣期間は、本学の在学期間(学則第11条の2に規定する長期履修学生に定めた在学期間を含む。)に含めるものとする。

(報告書等の提出)

第12条 特別聴講派遣派遣学生は、他大学院の授業科目の履修が終了したときは、すみやかに(外国の他大学院で履修した特別聴講派遣学生にあつては、帰国の日から1月以内に)特別聴講派遣派遣学生履修報告書(別紙様式10)及び当該他大学院の長が交付した学業成績証明書等を所属する専攻長を経由して研究科長に提出しなければならない。

2 特別研究派遣派遣学生は、他大学院等において研究指導が終了したときは、すみやかに(外国の他大学院等において研究指導を受けた者にあつては帰国の日から1月以内)特別研究派遣派遣学生研究指導報告書(別紙様式11)及び当該他大学院等の長が交付した研究指導状況報告書等を所属する専攻長を経由して研究科長に提出しなければならない。

(単位及び研究指導の認定)

第13条 前条第1項の規定により特別聴講派遣派遣学生が他大学院において修得した授業科目の単位は、当該学業成績証明書等に基づき、学則第32条第2項の規定により本学の研究科において修得したものと認定する。

2 前条第2項の規定により特別研究派遣派遣学生が他大学院等において受けた研究指導は、当該研究報告書及び研究指導状況報告書等に基づき、学則第33条第2項の規定により本学の研究科において受けた研究指導の一部として認定する。

(特別研究派遣派遣学生の授業料)

第14条 特別研究派遣派遣学生は、本学の学生として授業料を納付しなければならない。

(派遣許可の取消し)

第15条 研究科長は、特別聴講派遣派遣学生又は特別研究派遣派遣学生が次の各号の一に該当する場合は、当該他大学院又は他大学院等との協議により、その派遣の許可を取り消すことができる。

- (1) 授業科目の履修又は研究指導計画の完了の見込みがないと認められるとき。
- (2) 派遣を許可された当該他大学院又は他大学院等の規則等に違反し、又はその本分に反する行為があると認められるとき。
- (3) その他特別聴講派遣派遣学生又は特別研究派遣派遣学生の趣旨に反する行為があると認められるとき。

第4章 学生に関する記録

(記録事項の変更)

第16条 本学学生の氏名に変更があつたときは、すみやかに改姓(名)届(別記様式12)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出しなければならない。

2 本学学生の住所に変更があつたときは、すみやかに住所等変更届(別記様式13)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出しなければならない。

3 本学学生の緊急連絡先に変更があつたときは、すみやかに緊急連絡先変更届(別記様式14)を所属する専攻長を経由して研究科長に提出しなければならない。

(旧姓名の使用)

第17条 本学学生の氏名は、戸籍簿記載の氏名により取り扱うものとする。ただし、学長が別に定めるところにより、学生の申出に基づき旧戸籍簿記載の氏名の使用を認めることができる。

2 前項ただし書の規定に基づき、本学学生が旧戸籍簿記載の氏名を使用しようとする場合は、前条第1項に規定する改姓(名)届にその旨を付記して提出しなければならない。

第5章 学生証

(学生証の所持)

第18条 本学学生は、学生証を常に所持するとともに、本学関係者又は学生が所属する研究科の専攻を置く大学共同利用機関（以下「学生所属機関」という。）の関係者から請求があったときは、これを提示しなければならない。

2 学生証は、他人に貸与し、または譲渡してはならない。

(学生証の取扱い)

第19条 学生証の有効期限は、3年（学則第16条第3項に規定する5年の課程を履修する学生にあつては5年）とし、有効期限を経過したものは、更新するものとする。

2 学生証を紛失したときは、すみやかに学生証再発行願（別記様式15）を学長に提出して再交付を受けなければならない。

3 課程の修了、退学等により学生の身分を失ったときは、直ちに学生証を返還するものとする。

第6章 学生の課外活動団体

(設立の許可)

第20条 本学学生が課外活動のための団体（以下「課外活動団体」という。）を設立しようとするときは、次の各号に掲げるすべての要件を満たすものとし、課外活動団体許可・継続願（別記様式16）を学長に提出して、設立の許可を受けなければならない。

- (1) 本学の教育目的に沿い、かつ課外活動を目的として組織されているものであること
- (2) 本学の学生を組織の対象としていること
- (3) 年間活動計画に基づき、日常的に活動するものであること
- (4) 原則として、3人以上の構成員を有するものであること
- (5) 本学の教員を顧問としていること

(許可の期限及び継続等)

第21条 前条の規定により設立された課外活動団体の許可の期限は、当該課外活動団体が許可を受けた日の属する年度の翌年度の5月末日までとする。

2 課外活動団体は、前項の期限が満了する日以降、引き続き課外活動団体の設立を継続しようとするときは、その年度の4月末日（その日が本学の休業日であるときは、その日以降の最初の業務日とする。）までに課外活動団体許可・継続許可願（別記様式16）を学長に提出し、1年ごとに更新することができる。

3 前項に規定する提出の期日までに課外活動団体許可・継続許可願の提出がないときは、当該課外活動団体は解散したものとみなす。

(解散)

第22条 課外活動団体が解散しようとするときは、課外活動団体解散届（別記様式17）を学長に提出しなければならない。

(活動の停止命令又は解散命令)

第23条 学長は、課外活動団体が次の各号の一に該当するときは、当該課外活動団体の活動停止を命ずることができる。

- (1) 学則その他本学の規則又は学生所属機関が定めた規則に反する行為を行ったとき
- (2) 課外活動団体の活動中に事故が発生するなど課外活動団体の運営が不適切と認められるとき

(3) 課外活動団体の構成員が不祥事に関係し、それが課外活動団体の活動と密接な関連があると認められるとき

2 学長は、課外活動団体の行為が第20条各号に掲げる要件を著しく反し、若しくは本学及び学生所属機関の教育研究活動を妨げ、又は前項に規定する活動停止命令に反したときは、当該学生団体に対し、解散を命ずることができる。

(学外団体への加入)

第24条 課外活動団体が、本学以外の大学その他の組織に加入しようとするときは、学外団体加入許可願（別記様式18）を学長に提出しなければならない。

第7章 学生及び課外活動団体の活動の原則

(教育研究環境の理解と保全)

第25条 本学学生又は課外活動団体は、本学が学則第1条に規定する大学共同利用機関との緊密な連係及び協力の下に、教育研究を行う大学であることを理解し、本学及び学生所属機関の教育研究を妨げてはならない。

2 学生又は課外活動団体は、学則その他本学の規則を遵守するとともに、学生所属機関が定める規則を遵守しなければならない。

3 学生又は課外活動団体は、その活動中に本学又は学生所属機関の職員から安全管理及び事故防止その他環境保全に関する指示があったときは、その指示に従わなければならない。

第8章 学生保険

(学生保険への加入)

第26条 本学学生は、入学時に財団法人日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険及び学研災付帯賠償責任保険に加入しなければならない。

2 前項の規定により、加入した保険の加入期間が満了する日以降に、本学学生として在学する場合は、当該保険に再加入しなければならない。

附 則

1 この規則は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。ただし、この規則施行の際、平成16年3月31日に在学する本学学生が平成16年4月1日に在学する場合は、その学生に対して第26条の規定は適用があるものとする。

別記様式1 移籍・転専攻願（第2条関係）

移籍・転専攻願

総合研究大学院大学長 殿

氏名				年	月	日
入学年度	年度	学籍番号	第			号
研究科						研究科
専攻						専攻
現住所	〒			電話 ()		
指導教員						印
専攻長						印

私は、下記により移籍・転専攻したいので、許可くださるようお願いいたします。

記

志望理由			
志望研究科	研究科		
志望専攻	専攻		

(備考) 学生が所属する専攻長に提出すること。

別記様式2 休学願（第3条関係）

休学願

総合研究大学院大学○○○○研究科長 殿

氏名				年	月	日
入学年度	年度	学籍番号	第			号
研究科						研究科
専攻						専攻
現住所	〒			電話 ()		
休学中の連絡先	〒			電話 ()		
指導教員						印
専攻長						印

私は、(理由：) のため、下記のとおり休学したいので、許可くださるようお願いいたします。

記

休学期間 年 月 日から 年 月 日まで

(備考) 1. 学生が所属する専攻長に提出すること。
 2. 病気の場合は、医師の診断書を添付すること。
 3. 日本学生支援機構奨学金受給者は、異動願(届)を添付すること。

2 この規則施行の際現に存する学生の課外活動のために学長から許可を受けた団体は、この規則に基づき設立の許可を受けた課外活動団体とみなし、その許可の期限は平成16年5月31日までとする。

3 この規則施行の際現に本学学生が休学及び退学その他学生の在籍に関する手続き、特別聴講派遣学生及び特別研究派遣学生の派遣許可並びに前項の規定する団体が設立又は継続の手続きを行っている場合は、この規則の規定に基づき手続きがなされたものとみなす。

附 則 (平成17年3月18日大学規則第4号)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年3月14日大学規則第1号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成22年3月25日大学規則第1号)

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

別紙様式11 特別研究派遣学生研究指導報告書 (第12条関係)
特別研究派遣学生研究指導報告書

総合研究大学院大学○○○○研究科長 殿

年 月 日

氏名	年度	学籍番号	第	号
入学年度	研究科	専攻		
現住所	〒	電話	()	
指導教員			印	
専攻長			印	

私は、特別研究派遣学生として、下記のとおり研究指導が終了しましたので、報告書を提出します。

記

派遣先学校・機関名	年 月 日～	年 月 日
派遣許可期間		
研究指導者名		
研究題目		
報告内容		

(備考) 1. 学生が所属する専攻長にすみやかに提出すること。
2. 派遣先学校・機関が交付した研究指導状況報告書等を添付すること。

別記様式13 住所等変更届 (第16条関係)

総合研究大学院大学長 殿

住所等変更届

年 月 日

氏名	年度	学籍番号	第	号
入学年度	研究科	専攻		

私は、下記のとおり住所を変更しましたので提出します。

記

旧住所	〒	電話	()
新住所	〒	電話	()
通学方法	<input type="checkbox"/> 交通機関利用 <input type="checkbox"/> 自動車等利用 <input type="checkbox"/> 徒歩		
通学経路図 (交通機関 利用者の 利用者の み記入す ること)			

(備考) 学生が所属する専攻長に提出すること。

別記様式14 緊急連絡先変更届 (第16条関係)

緊急連絡先変更届

年 月 日

氏名	年度	学籍番号	第	号
入学年度	研究科	専攻		

私は、下記のとおり緊急連絡先を変更しましたので提出します。

記

旧氏名	住所	〒	電話	()	印
新氏名	住所	〒	電話	()	印
本人との続柄					
生年月日					
職業					

(備考) 1. 学生が所属する専攻長に提出すること。
2. 変更となる該当欄のみ記入すること。

別記様式12 改姓(名)届 (第16条関係)

改姓(名)届

年 月 日

氏名	年度	学籍番号	第	号
入学年度	研究科	専攻		
現住所	〒	電話	()	

私は、下記のとおり改姓(名)しましたので提出します。

記

旧姓(名)	
新姓(名)	

(備考) 1. 学生が所属する専攻長に提出すること。
2. 日本学生支援機構奨学金受給者は改氏名届を添付するか、又は取扱銀行に申し出て振込口座の名義人の改氏名手続きを行うこと。
3. 旧戸籍簿記載の氏名を使用しようとする場合は、その旨を付記すること。

別記様式15 学生証再発行願（第19条関係）

総合研究大学院大学長 殿				年	月	日
氏名	年度	学籍番号	第	号		
入学年度	研究科	専攻				
現住所	〒	電話	()			

学生証再発行願

下記の理由により、学生証の再発行をお願いします。

理由

(備考) 1. 学生が所属する専攻長に提出すること。
2. 汚損等による使用不能のため再発行を願い出るときは、使用不能になった学生証を添付すること。
3. 再発行後に、紛失・盗難等に係る学生証がみつかったときは直ち返還すること。

別記様式17 課外活動団体解散届（第22条関係）

総合研究大学院大学長 殿				年	月	日
代表者 所属研究科・専攻 学籍番号 氏名						

課外活動団体解散届

下記のとおり課外活動団体を解散したいので提出します。

記

団体名	年	月	日
解散年月日			
解散理由			
顧問教員	印		

別記様式16 課外活動団体許可・継続願（第20条、第21条関係）

総合研究大学院大学長 殿				年	月	日
代表者 所属研究科・専攻 学籍番号 氏名						

課外活動団体許可・継続願

下記により課外活動団体として、許可・継続して下さるようお願いいたします。

記

団体名	年	月	日
目的	継続願として提出する場合		
課外活動団体としての設立許可年月日	年	月	日
活動の概要			
会員数	人		
役員名			
顧問教員	印		

(備考) 1. 団体の規則、会員の名簿及び年間活動計画書（活動場所と日時を必ず記入）を添付すること。
2. 継続願として提出する場合は、年間活動報告書を添付すること。

別記様式18 学外団体加入許可願（第24条関係）

総合研究大学院大学長 殿				年	月	日
団体名 代表者 所属研究科・専攻 学籍番号 氏名 顧問教員				印		

学外団体加入許可願

下記の団体に、年 月 日（予定日）に加入したいので、許可くださるようお願いいたします。

記

加入団体名	年	月	日
事務所所在地			
目的及び事業			
組織・会費等			
主要役員名			
出版物等			

(備考) 加入しようとする学外団体の規則及び活動状況を示す資料を添付すること。

平成元年4月3日
規程文研第 2 号

- 一部改正 4. 2. 26 / 4. 4. 15 / 7. 2. 20
10. 2. 27 / 11. 3. 24 / 13. 2. 23
14. 3. 1 / 15. 2. 28 / 16. 4. 14
17. 2. 25 / 17. 3. 24 / 17. 9. 16
18. 2. 24 / 18. 3. 17 / 18. 5. 19
18. 9. 15 (大学規程文研第6号) /
18. 9. 15 (大学規程文研第8号) /
19. 2. 23 / 19. 9. 14 / 20. 2. 22 /
20. 9. 19 / 21. 2. 27 / 22. 2. 26

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第36条の規定に基づき、文化科学研究科（以下「本研究科」という。）における教育方法、履修方法その他単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等並びに在学年限その他必要な事項について定めるものとする。

(教育方法)

第2条 本研究科における教育は、授業科目の授業及び博士論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によつて行う。
2 前項に規定する授業のうち、研究科が定める授業科目は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(主任指導教員)

第3条 学生の研究指導を担当するとともに、学生の授業科目の履修指導等に当たるため、学生1人ごとに主任指導教員が定められるものとする。
2 主任指導教員は、教授又は准教授とする。
3 前項によるもののほか、教育研究上の組織編成として適切と認められる場合には、講師又は助教を主任指導教員とすることができる。

(授業科目及び単位数)

第4条 本研究科の各専攻の授業科目、単位数、履修方法等は、別表1及び別表2のとおりとする。

(履修の手続き)

第5条 学生は、每学期初めに、履修しようとする授業科目を履修届（別紙様式）により

主任指導教員の承認を受けるとともに、所属の専攻の専攻長（以下「所属専攻長」という。）を經由して研究科長に提出しなければならない。

2 学生は、主任指導教員の承認及び所属専攻長を經由して研究科長の許可を受けて、別表1に掲げる本研究科の他の専攻の授業科目及び本学の他の研究科の授業科目を履修することができる。

(他大学の大学院における授業科目の履修の手続き等)

第6条 学生は、本研究科が協議をした他の大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）の授業科目を履修しようとするときは、主任指導教員の承認及び所属専攻長を經由して研究科長の許可を受けなければならない。
2 前項の規定により他の大学の大学院において修得した単位は、4単位を超えない範囲で本研究科の各専攻で修得したものとみなすことができる。
3 第1項の規定による協議及び単位の認定等については、総合研究大学院大学学生規則（平成16年大学規則第1号。以下「学生規則」という。）の定めるところによる。

(授業科目の履修の認定及び単位の授与等)

第7条 授業科目の履修の認定は、試験又は研究報告により行う。ただし、平常の学修の成果の評価をもつて試験又は研究報告に代えることができる。
2 授業科目の成績は、100点満点をもつて評価し、60点以上を合格とする。ただし、点数をもつて評価し難い場合は、合格及び不合格の評価をもつて行うことができる。
3 授業科目の履修の認定に合格した者には、所定の単位を与える。

(研究指導)

第8条 研究指導は、学生1人ごとにその内容が定められるものとし、その研究指導については、主任指導教員のほか、原則として1人以上の教授、准教授、講師又は助教が担当する。

(他大学の大学院等における研究指導の手続き等)

第9条 学生は、本研究科が協議をした他の大学の大学院及び研究所等（外国の大学の大学院及び研究所を含む。）において研究指導を受けようとするときは、主任指導教員の承認及び所属専攻長を經由して研究科長の許可を受けなければならない。
2 前項の規定により他の大学の大学院及び研究所等において受けた研究指導は、本研究科の各専攻において受けた研究指導の一部とみなすことができる。
3 第1項の規定による協議及び研究指導の認定については、学生規則の定めるところによる。

(修了の要件)

第10条 本研究科の修了の要件は、本研究科の専攻に3年以上在学し、別表1に規定するところにより所定の単位数以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績

を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学則第37条に規定する在学期間以上で足りるものとする。

2 前項に規定する博士論文の審査及び試験については、総合研究大学院大学学位規則（平成元年規則第2号）の定めるところによる。

（成績評価基準等及びその明示等）

第11条 本研究科の各専攻における学修の成果及び博士論文に係る評価並びに修了の認定の基準等については、授業計画その他各専攻長が別に定める。

2 前項の授業計画には、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画等を定め、あらかじめ本研究科の学生に対して明示するものとする。

（在学年限）

第12条 学生（長期履修学生及び長期履修の適用を解除された学生を除く。）は、本研究科の専攻に5年を超えて在学することができない。

（雜則）

第13条 この規程に定めるもののほか、教育方法、履修方法、単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等の実施に関して必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

附 則

この規程は、平成元年4月3日から施行し、平成元年4月1日から適用する。

附 則（平成4年2月26日規程文研第1号）

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則（平成4年4月15日規程文研第2号）

この規程は、平成4年4月15日から施行し、平成4年4月1日から適用する。

附 則（平成7年2月20日規程文研第1号）

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成10年2月27日規程文研第1号）

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則（平成11年3月24日規程文研第3号）

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則（平成13年2月23日規程文研第1号）

この規程は、平成13年4月1日から施行する。ただし、湘南レクチャラーの単位認定に係る改正については平成12年4月1日から適用する。

附 則（平成14年3月1日規程文研第1号）

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年2月28日規程文研第3号）

この規程は、平成15年4月1日から施行する。ただし、日本文学研究専攻の設置に伴う改正については、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成16年4月14日大学規程文研第1号）

この規程は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則（平成17年2月25日大学規程文研第1号）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成17年3月24日大学規程文研第2号）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成17年9月16日大学規程文研第3号）

この規程は、平成17年9月16日から施行する。

1 この規程は、平成17年9月16日から施行する。
2 この規程施行の際現に日本歴史研究専攻、メディア社会文化専攻及び日本文学研究専攻の学生である者に係る必要な経過措置については、専攻が別に定める。

附 則（平成18年2月24日大学規程文研第1号）

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成18年2月24日大学規程文研第2号）

この規程は、平成18年2月24日から施行する。

附 則（平成18年3月17日大学規程文研第3号）

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成18年5月19日大学規程文研第4号）

この規程は、平成18年5月19日から施行し、平成18年4月1日から適用する。

附 則（平成18年9月15日大学規程文研第6号）

この規程は、平成18年10月15日から施行する。

附 則（平成18年9月15日大学規程文研第8号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年2月23日大学規程文研第1号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

1 この規程は、平成19年4月1日から施行する。
2 この規程施行の際、地域文化専攻及び比較文化専攻に現在在学する学生に係る履修方法は、改正後の別表1にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成19年9月14日大学規程文研第5号）

この規程は、平成19年10月1日から施行する。

附 則（平成20年2月22日大学規程文研第2号）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年9月19日大学規程文研第6号）

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則（平成21年2月27日大学規程文研第1号）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成22年2月26日大学規程文研第1号）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。
2 この規程施行の際、日本文学研究専攻に現在在学する学生に係る履修方法は、改正後の別表1にかかわらず、なお従前の例による。

別表1 (第4条関係)
(1) 地域文化学専攻専門科目

教育研究指導分野	授業科目	単位数		備考	
		必修	選択		
アジア地域文化 I	東アジア文化研究		2		
	東アジア文化研究特論 I		2		
	東アジア文化研究特論 II		2		
	東アジア文化研究演習 I		2		
	東アジア文化研究演習 II		2		
	北・中央アジア文化研究		2		
	北・中央アジア文化研究特論		2		
	北・中央アジア文化研究演習 I		2		
	北・中央アジア文化研究演習 II		2		
	アジア地域文化 II	東南アジア文化研究		2	
		東南アジア文化研究特論		2	
		東南アジア文化研究演習 I		2	
		東南アジア文化研究演習 II		2	
		南アジア文化研究		2	
南アジア文化研究特論			2		
南アジア文化研究演習 I		2			
南アジア文化研究演習 II		2			
西アジア文化研究		2			
西アジア文化研究特論		2			
西アジア文化研究演習 I		2			
西アジア文化研究演習 II		2			
ヨーロッパ地域文化	ヨーロッパ文化研究		2		
	ヨーロッパ文化研究特論		2		
	ヨーロッパ文化研究演習 I		2		
	ヨーロッパ文化研究演習 II		2		
アフリカ地域文化	アフリカ文化研究		2		
	アフリカ文化研究特論		2		
	アフリカ文化研究演習 I		2		
	アフリカ文化研究演習 II		2		
アメリカ地域文化	アメリカ文化研究		2		
	アメリカ文化研究特論		2		

オセアニア地域文化	アメリカ文化研究演習 I		2	
	アメリカ文化研究演習 II		2	
	オセアニア文化研究		2	
	オセアニア文化研究特論		2	
基礎科目	オセアニア文化研究演習 I		2	
	オセアニア文化研究演習 II		2	
	地域文化学基礎演習 I	2		
	地域文化学基礎演習 II	2		
共通科目	地域文化学演習 I		2	
	地域文化学演習 II		2	
	地域文化学特論 I		2	
	地域文化学特論 II		2	

(2) 比較文化学専攻専門科目

教育研究指導分野	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
比較社会研究	比較社会研究 I		2	
	比較社会研究 II		2	
	比較社会研究特論 I		2	
	比較社会研究特論 II		2	
	比較社会研究演習 I		2	
	比較社会研究演習 II		2	
比較宗教研究	比較社会研究演習 III		2	
	比較宗教研究		2	
	比較宗教研究特論		2	
	比較宗教研究演習 I		2	
比較技術研究	比較宗教研究演習 II		2	
	比較技術研究 I		2	
	比較技術研究 II		2	
	比較技術研究特論		2	
	比較技術研究演習 I		2	
	比較技術研究演習 II		2	

比較言語研究	比較言語研究 比較言語研究特論 比較言語研究演習 I 比較言語研究演習 II	2 2 2 2	
比較芸術研究	比較芸術研究 I 比較芸術研究 II 比較芸術研究特論 比較芸術研究演習 I 比較芸術研究演習 II	2 2 2 2 2	
文化資源研究	文化資源研究 文化資源研究特論 文化資源研究演習 I 文化資源研究演習 II 博物館研究 博物館研究特論 博物館研究演習 I 博物館研究演習 II	2 2 2 2 2 2 2 2	
基礎科目	比較文化学基礎演習 I 比較文化学基礎演習 II 比較文化学演習 I 比較文化学演習 II	2 2 2 2	
共通科目	比較文化学特論 I 比較文化学特論 II	2 2	

(3) 国際日本研究専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	単 位 数		備 考
		必修	選択	
国際日本研究	日本研究基礎論 A	2		
	日本研究基礎論 B	2		
	学際研究論 I A	1		
	学際研究論 I B	1		
	学際研究論 II A	1		
	学際研究論 II B	1		
	論文作成指導 I A	1		
	論文作成指導 I B	1		

論文作成指導 II A	1	
論文作成指導 II B	1	
シンポジウム等運営実習 A		1
シンポジウム等運営実習 B		1

(4) 日本歴史研究専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	単 位 数		備 考	
		必修	選択		
歴史資料研究	文書史料研究 A		2		
	文書史料研究 B		2		
	記録・典籍史料研究 A		2		
	記録・典籍史料研究 B		2		
	近現代資料研究 A		2		
	近現代資料研究 B		2		
	金石文・出土文字資料研究		2		
	考古資料研究 A		2		
	考古資料研究 B		2		
	考古資料研究 C		2		
	民俗誌研究 A		2		
	民俗誌研究 B		2		
	民俗誌研究 C		2		
	資料論・展示研究	物質文化資料論 A		2	
物質文化資料論 B			2		
物質文化資料論 C			2		
物質文化資料論 D			2		
民俗文化資料論 A			2		
民俗文化資料論 B			2		
民俗文化資料論 C			2		
映像資料論			2		
画像資料論			2		
美術工芸資料論			2		
歴史展示研究 A			2		
歴史展示研究 B			2		
分析・情報科学		分析調査論 A		2	
		分析調査論 B		2	
	分析調査論 C		2		

年代資料学	2		
資料保存科学	2		
歴史情報科学A	2		
歴史情報科学B	2		
社会論	2		
古代社会論A	2		
古代社会論B	2		
古代社会論C	2		
中世社会論	2		
近世社会論	2		
近現代社会論	2		
村落社会論	2		
都市社会論A	2		
都市社会論B	2		
技術史・環境史	2		
古代技術史A	2		
古代技術史B	2		
古代技術史C	2		
中世技術史	2		
近世技術史A	2		
近世技術史B	2		
工業技術史	2		
歴史環境論	2		
生態環境史	2		
民俗環境論A	2		
民俗環境論B	2		
地域文化論	2		
村落伝承論A	2		
村落伝承論B	2		
都市伝承論	2		
社会伝承論	2		
信仰伝承論A	2		
信仰伝承論B	2		
社会意識論A	2		
社会意識論B	2		
基礎演習 I	1	1年次担当	
基礎演習 II	1	2年次担当	
集中講義A	1		
集中講義B	1		

集中講義C

(5) メディア社会文化専攻専門科目

教育研究指導分野	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
メディア文化	メディア文化論		2	
	情報表現基礎論		2	
	情報表現内容論		2	
	教材評価論		2	
	コミュニケーション論		2	
	マルチメディア情報処理論		2	
メディア社会	遠隔教育国際比較論		2	
	ネットワーク基礎論		2	
	ヒューマンインタフェース特論		2	
	ユーザ工学		2	
	メディア研究方法論		2	
	情報制度論		2	
メディア認知行動	認知科学特論		2	
	学習メディア環境デザイン論		2	
	心理評価論		2	
	生理評価論		2	
	メディア空間認知論		2	
	情報行動論		2	

(6) 日本文学研究専攻専門科目

教育研究指導分野	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
文学資源研究	書写文化論		2	
	出版文化論 I		2	
	出版文化論 II		2	
	資源集積論 I		2	
	資源集積論 II		2	
文学形成研究	作品形成論 I		2	

別表2 総合教育科目（第4条関係）

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
科学論文の書き方		1	総研大レクチャーの単位数は、その実施要項等において定める。
生命科学と社会		2	
科学・技術と社会Ⅰ		1	
科学・技術と社会Ⅱ		1	
科学における社会リテラシー		2	
学生セミナー		1	
総研大レクチャー			

別紙様式（第5条関係）

文化科学研究科 長	年 月 日
履修届	
文化科学研究科 〇〇〇〇〇〇専攻 学籍番号 ふりがな 氏 名	
年度 学期に、下記の授業科目を履修したいので提出します。	
授業科目名	担当教員名
主任指導教員	
(備考) 主任指導教員欄に自筆署名した場合は、押印を省略することができる。	

作品形成論Ⅱ	2
作品形成論Ⅲ	2
作品享受論Ⅰ	2
作品享受論Ⅱ	2
文学思想論Ⅰ	2
文学思想論Ⅱ	2
文学芸術論Ⅰ	2
文学芸術論Ⅱ	2
文学芸術論Ⅲ	2
文学社会論Ⅰ	2
文学社会論Ⅱ	2
文学研究基礎論Ⅰ	2
文学研究基礎論Ⅱ	2
文学情報論Ⅰ	2
文学情報論Ⅱ	2
書物情報論Ⅰ	2
書物情報論Ⅱ	2
記録情報論Ⅰ	2
記録情報論Ⅱ	2

(7) 履修方法

- ① 地域文化学専攻及び比較文化学専攻の学生は、所属する専攻が開設する必修科目8単位、地域文化学専攻及び比較文化学専攻が開設する授業科目について8単位以上合計16単位以上を修得しなければならない。
- ② 国際日本研究専攻の学生は、必修科目について12単位を修得しなければならない。
- ③ 日本歴史研究専攻の学生は、所属する専攻が開設する授業科目6単位以上を含む12単位以上を修得しなければならない。
- ④ メディア社会文化専攻の学生は、所属する専攻が開設する授業科目6単位以上を含む12単位以上（本研究科の他専攻若しくは他の研究科の専攻の開設する授業科目を含める。）を修得しなければならない。
- ⑤ 日本文学研究専攻の学生は、所属する専攻が開設する授業科目について8単位以上（「文学研究基礎論Ⅰ」「文学研究基礎論Ⅱ」のどちらか2単位以上を含む。）を含む12単位以上（本研究科の他専攻若しくは他の研究科の専攻の開設する授業科目を含むことができる。）を修得しなければならない。

平成16年4月14日
大学規程物研第1号

一部改正 17.3.24/18.2.23/
18.9.14/19.2.22/
20.2.20/21.2.26/
22.2.25

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第36条の規定に基づき、物理学研究科（以下「本研究科」という。）における教育方法、履修方法その他単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等並びに在学年限その他必要な事項について定めるものとする。

(研究科の課程)

- 第2条 本研究科の博士課程は、標準の修業年限3年又は5年の課程とする。
- 2 前項の標準の修業年限を3年とする本研究科の課程は、学則第25条第1項に規定する者が3年次に編入学して履修する課程（以下「後期3年の課程」という。）とする。
- 3 第1項の標準の修業年限を5年とする本研究科の課程は、学則第25条第2項に規定する者が履修する課程（以下「5年の課程」という。）とする。

(教育方法)

第3条 本研究科における教育は、授業科目の授業及び博士論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によつて行う。

2 前項に規定する授業のうち、研究科が定める授業科目は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(主任指導教員)

- 第4条 学生の研究指導を担当するとともに、学生の授業科目の履修指導等に当たるため、学生1人ごとに主任指導教員が定められるものとする。
- 2 主任指導教員は、教授又は准教授とする。
- 3 前項によるもののほか、教育研究上の組織編成として適切と認められる場合には、講師又は助教を主任指導教員とすることができる。

(授業科目及び単位数)

第5条 本研究科の各専攻の授業科目、単位数、履修方法等は、別表1、別表2、別表3及び別表4のとおりとする。

(履修の手続き)

第6条 学生は、每学期初めに、履修しようとする授業科目を履修届（別紙様式）により主任指導教員の承認を受けるとともに、所属の専攻の専攻長（以下「所属専攻長」という。）を経由して研究科長に提出しなければならない。

2 学生は、主任指導教員の承認及び所属専攻長を経由して研究科長の許可を受けて、別表1に掲げる本研究科の他の専攻の授業科目及び本学の他の研究科の授業科目を履修することができる。

(他大学の大学院における授業科目の履修の手続き等)

第7条 学生は、本研究科が協議をした他の大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）の授業科目を履修しようとするときは、主任指導教員の承認及び所属専攻長を経由して研究科長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により他の大学の大学院において修得した単位は、後期3年の課程を履修する学生にあつては4単位、5年の課程を履修する学生にあつては10単位を超えない範囲で本研究科の各専攻で修得したものとみなすことができる。

3 第1項の規定による協議及び単位の認定等については、総合研究大学院大学学生規則（平成16年大学規則第1号。以下「学生規則」という。）の定めるところによる。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第8条 学生は、本研究科に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を、主任指導教員の承認及び所属専攻長を経由して研究科長の許可を受けて、本研究科の各専攻で修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定に基づき修得したものとみなすことができる単位は、再入学又は転入学した者を除き、専攻が別に定めるもののほか後期3年の課程を履修する学生にあつては4単位、5年の課程を履修する学生にあつては10単位を超えないものとする。

(授業科目の履修の認定及び単位の授与等)

第9条 授業科目の履修の認定は、試験又は研究報告により行う。ただし、平常の学修の成果の評価をもつて試験又は研究報告に代えることができる。

2 授業科目の成績は、100点満点をもつて評価し、60点以上を合格とする。この場合において、次の区分により、優、良及び可を合格、不可を不合格として評価することができる。

80点以上	優
70点～79点	良
60点～69点	可
59点以下	不可

3 前項の規定にかかわらず、点数をもつて評価し難い場合は、合格及び不合格の評価をもつて行うことができる。

4 授業科目の履修の認定に合格した者には、所定の単位を与える。

(研究指導)

第10条 研究指導は、学生1人ごとにその内容が定められるものとし、その研究指導に当たっては、主任指導教員のほか、原則として1人以上の教授、准教授、講師又は助教が担当する。

(他大学の大学院等における研究指導の手続き等)

第11条 学生は、本研究科が協議をした他の大学の大学院及び研究所等（外国の大学の大学院及び研究所等を含む。）において研究指導を受けようとするときは、主任指導教員の承認及び所属専攻長を経由して研究科長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により他の大学の大学院及び研究所等において受けた研究指導は、本研究科の各専攻において受けた研究指導の一部とみなすことができる。

3 第1項の規定による協議及び研究指導の認定については、学生規則の定めるところによる。

(修了の要件)

第12条 本研究科の後期3年の課程の修了の要件は、本研究科の専攻に3年以上在学し、別表1に規定するところにより12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学則第37条に規定する在学期間以上で足りるものとする。

2 本研究科の5年の課程の修了の要件は、本研究科の専攻に5年以上在学し、別表1に規定するところにより42単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、研究科の専攻に3年以上在学すれば足りるものとする。

3 前2項に規定する博士論文の審査及び試験については、総合研究大学院大学学位規則（平成元年規則第2号）の定めるところによる。

(成績評価基準等及びその明示等)

第13条 本研究科の各専攻における学修の成果及び博士論文に係る評価並びに修了の認定の基準等については、授業計画その他各専攻長が別に定める。

2 前項の授業計画その他各専攻長の定めには、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画等定め、あらかじめ本研究科の学生に対して明示するものとする。

(在学年限)

第14条 学生は、所属する専攻の区分に応じ、別表5に掲げる年限を超えて在学することができない。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、教育方法、履修方法、単位の認定及び他の大学院

における授業科目の履修等の実施に関して必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則（平成17年3月24日大学規程物研第1号）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成18年2月23日大学規程物研第1号）

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 この規程施行の際現に本研究科に在学する学生は、総合研究大学院大学学則の一部を改正する学則（平成17年学則第2号）附則第2項の規定に基づき、改正後の第2条第2項に規定する後期3年の課程を履修する者として適用する。ただし、授業科目の単位の修得方法については、改正前の別表1に掲げる各専攻の規定を適用する。

附 則（平成18年9月14日大学規程物研第4号）

この規程は、平成18年9月14日から施行する。ただし、別表3の総研大レクチャーに係る改正規定は、平成18年9月14日から施行する。

附 則（平成19年2月22日大学規程物研第1号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年2月22日大学規程物研第3号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年2月20日大学規程物研第1号）

1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。

2 この規程施行の際、宇宙科学専攻に現に在学する学生に係る履修方法は、改正後の別表1にかかわらず、なお従前の例による。

附 則（平成21年2月26日大学規程物研第1号）

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成22年2月25日大学規程物研第1号）

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 この規程施行の際、研究科の専攻に現に在学する学生に係る授業科目の単位の修得方法は、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表 1 (第 5 条関係)
構造分子科学専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数	
			必修	選択
構造分子基礎理論	構造分子基礎理論	1・2・3・4・5		2
分子分光学	分子分光学	1・2・3・4・5		2
基礎電子化学	基礎電子化学	1・2・3・4・5		2
極端紫外分光光学	極端紫外分光光学	1・2・3・4・5		2
物性化学	物性化学	1・2・3・4・5		2
相関分子科学	相関分子科学	1・2・3・4・5		2
錯体物性化学	錯体物性化学	1・2・3・4・5		2
	構造分子科学演習 I a	1		2
	構造分子科学演習 I b	1		2
	構造分子科学演習 II	2		4
	構造分子科学演習 III	3		4
	構造分子科学演習 IV	4		4
	構造分子科学演習 V	5		4
	構造分子科学考究 I a	1		2
	構造分子科学考究 I b	1		2
	構造分子科学考究 II	2		4
	構造分子科学考究 III	3		4
	構造分子科学考究 IV	4		4
	構造分子科学考究 V	5		4
	分子科学セミナー	1・2・3・4・5		1
	科学英語演習	1・2・3・4・5		2

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 後期 3 年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び機能分子科学専攻において開設する専攻専門科目及び別表 2 の共通専門基礎科目 (2 単位以上を含める。) 及び別表 3 のコース別特別科目並びに別表 4 の総合教育科目 (1 単位以上を含める。) に掲げる授業科目から 12 単位以上修得しなければならない。ただし、第 8 条の入学前の既修得単位の規定は適用しない。
- ② 5 年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び機能分子科学専攻において開設する専攻専門科目及び別表 2 の共通専門基礎科目 (4 単位以上を含める。) 及び別表 3 のコース別特別科目 (物理科学特別研究 I、物理科学特別研究 II、物理科学特別研究 III の 3 単位を含める。) 並びに別表 4 の総合教育科目 (1 単位以上を含める。) に掲げる授業科目から、42 単位以上修得しなければならない。

- ③ ①及び②の単位数には、別表 3 のコース別特別科目に掲げる授業科目から、先端物理科学考究、先端物理科学演習、又は大規模プロジェクト特論、プロジェクト演習、ないしは研究開発特論 I、研究開発特論 II のいずれかの組み合わせから 2 科目以上を含まなければならない。ただし、これによりがたい場合は、上記(1)の専攻専門科目に掲げる科学英語演習の 2 単位の修得と読み替えることができる。

- ④ ①及び②の単位数には、天文化学専攻、核融合科学専攻及び宇宙科学専攻において開設する専攻専門科目は、4 単位まで含めることができる。

機能分子科学専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数	
			必修	選択
機能分子基礎理論	機能分子基礎理論	1・2・3・4・5		2
機能構造化学	機能構造化学	1・2・3・4・5		2
錯体触媒化学	錯体触媒化学	1・2・3・4・5		2
量子動力学	量子動力学	1・2・3・4・5		2
光化学	光化学	1・2・3・4・5		2
光物理	光物理	1・2・3・4・5		2
分子集合体論	分子集合体論	1・2・3・4・5		2
	機能分子科学演習 I a	1		2
	機能分子科学演習 I b	1		2
	機能分子科学演習 II	2		4
	機能分子科学演習 III	3		4
	機能分子科学演習 IV	4		4
	機能分子科学演習 V	5		4
	機能分子科学考究 I a	1		2
	機能分子科学考究 I b	1		2
	機能分子科学考究 II	2		4
	機能分子科学考究 III	3		4
	機能分子科学考究 IV	4		4
	機能分子科学考究 V	5		4
	分子科学セミナー	1・2・3・4・5		1
	科学英語演習	1・2・3・4・5		2

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 後期 3 年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び構造分子科学専攻において開設する専攻専門科目及び別表 2 の共通専門基礎科目 (2 単位以上を含める。) 及び別表 3 のコース別特別科目並びに別表 4 の総合教育科目 (1 単位以上を含める。) に掲げる授業科目から 12 単位以上修

得しななければならない。ただし、第8条の入学前の既修得単位の規定は適用しない。

② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び構造分子科学専攻において開設する専攻専門科目及び別表2の共通専門基礎科目(4単位以上を含める。)及び別表3のコース別特別科目(物理科学特別研究Ⅰ、物理科学特別研究Ⅱ、物理科学特別研究Ⅲの3単位を含める。)並びに別表4の総合教育科目(1単位以上を含める。)に掲げる授業科目から42単位以上修得しなければならない。

③ ①及び②の単位数には、別表3のコース別特別科目に掲げる授業科目から、先端物理科学専攻、先端物理科学演習、又は大規模プロジェクト特論、プロジェクト演習、ないしは研究開発特論Ⅰ、研究開発特論Ⅱのいずれかの組み合わせから2科目以上を含めなければならない。ただし、これによりがたい場合は、上記(1)の専攻専門科目に掲げる科学英語演習の2単位の修得と読み替えることができる。

④ ①及び②の単位数には、天文化学専攻、核融合科学専攻及び宇宙科学専攻において開設する専攻専門科目は、4単位まで含めることができる。

天文科学専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授業科目	配当年次	単位数		
			必修	選択	
光赤外線天文学	光赤外線望遠鏡概論	1・2・3・4・5		2	
	光赤外線観測の概論	1・2・3・4・5		2	
	光赤外線観測天文学特論	1・2・3・4・5		2	
	光赤外線天文学Ⅰ	1・2・3・4・5		2	
	光赤外線天文学Ⅱ	1・2・3・4・5		2	
	光赤外線天文学Ⅲ	1・2・3・4・5		2	
	光赤外線天文学Ⅳ	1・2・3・4・5		2	
	光赤外線天文学Ⅴ	1・2・3・4・5		2	
	天文精密計測法	1・2・3・4・5		2	
	光赤外線天文学演習Ⅰ	1・2		2	
	光赤外線天文学演習Ⅱ	3・4・5		2	
	電波天文学	電波望遠鏡概論	1・2・3・4・5		2
		電波観測システム概論	1・2・3・4・5		2
電波観測基礎技術概論		1・2・3・4・5		2	
電波天文学Ⅰ		1・2・3・4・5		2	
電波天文学Ⅱ		1・2・3・4・5		2	
電波天文学Ⅲ	1・2・3・4・5		2		
電波天文学Ⅳ	1・2・3・4・5		2		
電波天文学Ⅴ	1・2・3・4・5		2		

電波干渉計システム	1・2・3・4・5	2		
電波天文学特論	1・2・3・4・5	2		
電波天文学演習Ⅰ	1・2	2		
電波天文学演習Ⅱ	3・4・5	2		
重力・重力系	一般相対性理論	1・2・3・4・5	2	
	重力系力学Ⅰ	1・2・3・4・5	2	
	重力系力学Ⅱ	1・2・3・4・5	2	
	太陽系天文学	1・2・3・4・5	2	
	天体物理学	天体核物理学	1・2・3・4・5	2
		太陽恒星系物理学	1・2・3・4・5	2
		天体プラズマ物理学Ⅰ	1・2・3・4・5	2
天体プラズマ物理学Ⅱ		1・2・3・4・5	2	
宇宙物理学Ⅰ		1・2・3・4・5	2	
宇宙物理学Ⅱ	1・2・3・4・5	2		
宇宙物理学Ⅲ	1・2・3・4・5	2		
共通基礎	天文データ解析法Ⅰ	1・2・3・4・5	2	
	天文データ解析法Ⅱ	1・2・3・4・5	2	
	数値計算法概論	1・2・3・4・5	2	
	シミュレーション天文学	1・2・3・4・5	2	
	パブリッシングリポート入門	1・2・3・4・5	2	
	共通基礎系天文学演習Ⅰ	1・2	2	
	共通基礎系天文学演習Ⅱ	3・4・5	2	
	共通	天体観測装置概論	1・2・3・4・5	2
		天文学考究Ⅰ	1	2
		天文学考究Ⅱ	2	2
天文学考究Ⅲ		3	2	
天文学考究Ⅳ		4	2	
天文学考究Ⅴ		5	2	
天文学基礎演習ⅠA		1・2・3	2	
天文学基礎演習ⅠB		1・2・3	2	
天文学基礎演習ⅠC		1・2・3	2	
天文学基礎演習ⅡA		1・2・3	2	
天文学基礎演習ⅡB		1・2・3	2	
天文学基礎演習ⅡC		1・2・3	2	
総合研究演習Ⅰ		3	4	
総合研究演習Ⅱ		4	2	
研究中間レポート		2・3	6	
科学英語演習		1・2・3・4・5	2	
天文学実習ⅠA		1・2・3・4・5	2	
天文学実習ⅠB		1・2・3・4・5	2	

にあっては天文学専攻Ⅴを総合研究演習Ⅱに読み替えるものとする。

核融合科学専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次		単位数
		必修	選択	
装置システム プラズマ制御 プラズマ加熱 プラズマ計測 シミュレーション科学 粒子シミュレーション 磁気流体シミュレーション	プラズマ物理学Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	プラズマ物理学Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	プラズマ実験Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	プラズマ実験Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	プラズママテリアル工学Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	プラズママテリアル工学Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	核融合システム工学Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	核融合システム工学Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	核融合炉材料工学Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	核融合炉材料工学Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	核融合科学特論Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	核融合科学特論Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	シミュレーション科学基礎論Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	シミュレーション科学基礎論Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	数理解物理学Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	数理解物理学Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	科学技術英語	1・2・3・4・5		2
フラスマ・核融合科学演習ⅠA	1		2	
フラスマ・核融合科学演習ⅠB	1		2	
フラスマ・核融合科学演習ⅡA	2		2	
フラスマ・核融合科学演習ⅡB	2		2	
フラスマ・核融合科学演習ⅢA	3		2	
フラスマ・核融合科学演習ⅢB	3		2	
フラスマ・核融合科学演習ⅣA	4		2	
フラスマ・核融合科学演習ⅣB	4		2	
フラスマ・核融合科学演習ⅤA	5		2	
フラスマ・核融合科学演習ⅤB	5		2	
フラスマ・核融合科学考究ⅠA	1		2	
フラスマ・核融合科学考究ⅠB	1		2	
フラスマ・核融合科学考究ⅡA	2		2	
フラスマ・核融合科学考究ⅡB	2		2	
フラスマ・核融合科学考究ⅢA	3		2	
フラスマ・核融合科学考究ⅢB	3		2	
フラスマ・核融合科学考究ⅣA	4		2	

天文学実習ⅠC	1・2・3・4・5	2
天文学実習ⅠD	1・2・3・4・5	2
天文学実習ⅡA	1・2・3・4・5	1
天文学実習ⅡB	1・2・3・4・5	1
天文学実習ⅡC	1・2・3・4・5	1
天文学実習ⅡD	1・2・3・4・5	1
天文学特別講義Ⅰ	1・2・3・4・5	2
天文学特別講義Ⅱ	1・2・3・4・5	2
天文学特別講義Ⅲ	1・2・3・4・5	2
天文学特別講義Ⅳ	1・2・3・4・5	2
天文学特別講義Ⅴ	1・2・3・4・5	1
天文学特別講義Ⅵ	1・2・3・4・5	1
天文学特別講義Ⅶ	1・2・3・4・5	1
天文学特別講義Ⅷ	1・2・3・4・5	1

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目(天文学専攻Ⅲ、天文学専攻Ⅳ、天文学専攻Ⅴの6単位を含む)及び別表2の共通専門基礎科目及び別表3のコース別特別科目並びに別表4の総合教育科目に掲げる授業科目から12単位以上修得しなければならない。
- ② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目(天文学専攻Ⅰ、天文学専攻Ⅱ、天文学専攻Ⅲ、天文学専攻Ⅳ、天文学専攻Ⅴ、天文学専攻Ⅵ)及び別表2の共通専門基礎科目及び別表3のコース別特別科目(物理科学特別研究Ⅰ、物理科学特別研究Ⅱ、物理科学特別研究Ⅲの3単位を含む。)並びに別表4の総合教育科目に掲げる授業科目から42単位以上を修得しなければならない。
- ③ ①及び②の単位数には、別表3のコース別特別科目に掲げる授業科目から、先端物理科学研究、先端物理科学演習、又は大規模プロジェクト特論、プロジェクト演習、ないしは研究開発特論Ⅰ、研究開発特論Ⅱのいずれかの組み合わせから2科目以上を含めなければならない。ただし、これによりがたい場合は、上記(1)の専攻専門科目に掲げる科学英語演習の2単位及び別表2の共通専門基礎科目に掲げる授業科目から2単位の修得と読み替えることができる。
- ④ 別表3のコース別特別科目に掲げる授業科目から、先端物理科学研究の単位を修得したときは、当該学年で修得すべき天文学専攻の単位を修得したとみなすことができる。
- ⑤ ①及び②の単位数のほか、他の専攻において開設する専攻専門科目に掲げる授業科目は、修得しなければならない単位数に含めることができる。
- ⑥ 第12条第2項ただし書の規定により3年次又は4年次に修了の要件を満たす者については、3年次にあっては天文学専攻Ⅳ・Ⅴを総合研究演習Ⅰに、4年次に

ブラザー・核融合科学考究IV B	4	2
ブラザー・核融合科学考究V A	5	2
ブラザー・核融合科学考究V B	5	2
論文演習 I A	1	2
論文演習 I B	1	2
論文演習 II A	2	2
論文演習 II B	2	2
論文演習 III A	3	2
論文演習 III B	3	2
論文演習 IV A	4	2
論文演習 IV B	4	2
論文演習 V A	5	2
論文演習 V B	5	2
ブラザー・核融合科学セミナー	1・2・3・4・5	2

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び別表2の共通専門基礎科目及び別表3のコース別特別科目並びに別表4の総合教育科目に掲げる授業科目から12単位以上修得しなければならない。
- ② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び別表2の共通専門基礎科目及び別表3のコース別特別科目(物理科学特別研究I、物理科学特別研究II、物理科学特別研究IIIの3単位を含める。)並びに別表4の総合教育科目に掲げる授業科目から42単位以上修得しなければならない。
- ③ ①及び②の単位数には、別表3のコース別特別科目に掲げる授業科目から、先端物理科学考究、先端物理科学演習、又は大規模プロジェクト特論、プロジェクト演習、ないしは研究開発特論I、研究開発特論IIのいずれかの組み合わせから2科目以上を含めなければならない。ただし、これによりがたい場合は、上記(1)の専攻専門科目に掲げる科学技術英語の2単位及び別表2の共通専門基礎科目に掲げる授業科目から2単位の修得と読み替えることができる。
- ④ ①及び②の単位数のほか、他の専攻において開設する専攻専門科目に掲げる授業科目は、修得しなければならない単位数に4単位まで含めることができる。

宇宙科学専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授業科目	単位数	
		必修	選択
宇宙探査理工学理論	宇宙探査科学特論	1・2・3・4・5	2
飛翔体天文学	宇宙シミュレーション I	1・2・3・4・5	2
飛翔体太陽系科学	宇宙シミュレーション II	1・2・3・4・5	2
宇宙工学	宇宙シミュレーション III	1・2・3・4・5	2

宇宙シミュレーション工学特論IV	1・2・3・4・5	2
宇宙環境科学特論	1・2・3・4・5	2
宇宙環境利用特論	1・2・3・4・5	2
飛翔体天文学概論	1・2・3・4・5	2
飛翔体天文学特論 I	1・2・3・4・5	2
飛翔体天文学特論 II	1・2・3・4・5	2
飛翔体天文学特論 III	1・2・3・4・5	2
太陽系探査科学概論	1・2・3・4・5	2
固体惑星探査科学特論	1・2・3・4・5	2
惑星大気科学特論	1・2・3・4・5	2
太陽系プラズマ物理学特論	1・2・3・4・5	2
宇宙機推進工学概論	1・2・3・4・5	2
宇宙機推進工学特論	1・2・3・4・5	2
宇宙機構造・材料工学概論	1・2・3・4・5	2
宇宙機構造・材料工学特論	1・2・3・4・5	2
宇宙電子情報工学概論	1・2・3・4・5	2
宇宙電子情報工学特論 I	1・2・3・4・5	2
宇宙電子情報工学特論 II	1・2・3・4・5	2
宇宙科学考究 I a	1	2
宇宙科学考究 I b	1	2
宇宙科学考究 II	2	4
宇宙科学考究 III	3	4
宇宙科学考究 IV	4	4
宇宙科学考究 V	5	4
宇宙科学特別研究 I	2	2
宇宙科学特別研究 II	4	2
科学技術英語 I	1・2・3・4・5	2
科学技術英語 II	1・2・3・4・5	2
宇宙科学演習	1・2・3・4・5	2

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目(宇宙科学特別研究IIの2単位を含める。)及び別表2の共通専門基礎科目及び別表3のコース別特別科目並びに別表4の総合教育科目に掲げる授業科目から12単位以上修得しなければならない。
- ② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目(宇宙科学特別研究I、宇宙科学特別研究IIの4単位を含める。)及び別表2の共通専門基礎科目及び別表3のコース別特別科目(物理科学特別研究I、物理科学特別研究II、物理科学特別研究IIIの3単位を含める。)並びに別表4の総合教育科目に掲げる授業科目から42単位以上修得しなければならない。

- ③ ①及び②の単位数には、別表3のコース別特別科目に掲げる授業科目から、先端物理科学学究、先端物理科学演習、又は大規模プロジェクト特論、プロジェクト演習、新しい研究開発特論Ⅰ、研究開発特論Ⅱのいずれかの組み合わせから2科目以上を含むなければならない。ただし、これによりがたい場合は、上記(1)の専攻専門科目に掲げる科学技術英語Ⅰ又は科学技術英語Ⅱの2単位及び別表2の共通専門基礎科目に掲げる授業科目から2単位の修得と読み替えることができる。
- ④ ①及び②の単位数のほか、他の専攻において開設する専攻専門科目に掲げる授業科目は、修得しなければならない単位数に後期3年の課程にあっては4単位、5年の課程にあっては14単位まで含めることができる。

別表2 共通専門基礎科目 (第5条関係)

授 業 科 目	配当年次	単 位 数		備 考
		必修	選択	
観測天文学概論	1・2・3・4		2	
理論天文学概論	1・2・3・4		2	
宇宙物理学概論	1・2・3・4		2	
宇宙工学概論	1・2・3・4		2	
量子分子科学	1・2・3・4		2	
化学エネルギー変換論	1・2・3・4		2	
有機半導体デバイス	1・2・3・4		2	
核融合科学概論	1・2・3・4		2	
シミュレーション科学概論	1・2・3・4		2	
制御工学概論	1・2・3・4		1	
信号処理概論	1・2・3・4		1	
英語によるプレゼンテーション	1・2・3・4		1	

別表3 コース別特別科目 (第5条関係)

授 業 科 目	配当年次	単 位 数		備 考
		必修	選択	
物理科学特別研究Ⅰ	1・2	1		
物理科学特別研究Ⅱ	1・2	1		
物理科学特別研究Ⅲ	1・2	1		
先端物理科学学究	3・4		4	
先端物理科学演習	3・4		4	
大規模プロジェクト特論	3・4		2	
プロジェクト演習	3・4		4	
研究開発特論Ⅰ	3・4		2	
研究開発特論Ⅱ	3・4		2	

別表4 総合教育科目 (第5条関係)

授 業 科 目	配当年次	単 位 数		備 考
		必修	選択	
科学論文の書き方	1・2・3・4・5		1	
生命科学と社会	1・2・3・4・5		2	
科学・技術と社会Ⅰ	1・2・3・4・5		1	
科学・技術と社会Ⅱ	1・2・3・4・5		1	
科学における社会リテラシー	1・2・3・4・5		2	
学生セミナー	1・2・3・4・5		1	
総研大レクチャー	1・2・3・4・5			総研大レクチャーの単位数は、その実施要項等において別に定める。

別表5 在学年限 (第14条関係)

専 攻	在学年数		備 考
	後期3年の課程	6年	
構造分子科学専攻	5年の課程	8年	
機能分子科学専攻	後期3年の課程	6年	
	5年の課程	8年	
天文科学専攻	後期3年の課程	5年	
	5年の課程	8年	
核融合科学専攻	後期3年の課程	5年	
	5年の課程	8年	
宇宙科学専攻	後期3年の課程	6年	
	5年の課程	8年	

別紙様式（第6条関係）

履 修 届	年 月 日
物理科学研究科長 殿	
物理科学研究科 〇〇〇〇科学専攻 学籍番号 ふりがな 氏 名	
年度 学期に、下記の授業科目を履修したいので提出します。	
授 業 科 目 名	担当教員名
主任指導教員 ㊟	
(備考) 主任指導教員欄に自筆署名した場合は、押印を省略することができる。	

〔平成16年4月14日
大学規程高研第1号〕

- 一部改正 16.9.16 / 17.2.24 / 18.2.23
18.3.20 / 18.6.15 / 18.7.20
18.9.14(大学規程高研第6号)
18.9.14(大学規程高研第8号)
18.10.2 / 19.2.22 / 20.2.21
20.9.18 / 21.2.25 / 21.9.16
22.2.24

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学則(平成16年学則第1号。以下「学則」という。)第36条の規定に基づき、高エネルギー加速器科学研究科(以下「本研究科」という。)における教育方法、履修方法その他単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等並びに在学年限その他必要な事項について定めるものとする。

(研究科の課程)

- 第2条 本研究科の博士課程は、標準の修業年限5年の課程とする。ただし、学則第21条第2項の規定に基づき、標準の修業年限3年の課程を置くものとする。
- 2 前項本文の標準の修業年限を5年とする本研究科の課程は、学則第25条第2項に規定する者が履修する課程(以下「5年の課程」という。)とする。
- 3 第1項ただし書の標準の修業年限を3年とする本研究科の課程は、学則第25条第1項に規定する者が3年次に編入学して履修する課程(以下「後期3年の課程」という。)とする。

(教育方法)

- 第3条 本研究科における教育は、授業科目の授業及び博士論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によつて行う。
- 2 前項に規定する授業のうち、研究科が定める授業科目は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(主任指導教員)

- 第4条 学生の研究指導を担当するとともに、学生の授業科目の履修指導等に当たるため、学生1人ごとに主任指導教員が定められるものとする。
- 2 主任指導教員は、教授又は准教授とする。
- 3 前項によるもののほか、教育研究上の組織編成として適切と認められる場合には、講師又は助教を主任指導教員とすることができる。

(授業科目及び単位数)

第5条 本研究科の各専攻の授業科目、単位数、履修方法等は、別表1、別表2及び別表3のとおりとする。

(履修の手続き)

- 第6条 学生は、毎学期初めに、履修しようとする授業科目を履修届(別紙様式)により主任指導教員の承認を受けるとともに、所属の専攻の専攻長(以下「所属専攻長」という。)を經由して研究科長に提出しなければならない。
- 2 学生は、主任指導教員の承認及び所属専攻長を經由して研究科長の許可を受けて、別表1に掲げる本研究科の他の専攻の授業科目及び本学の他の研究科の授業科目を履修することができる。

(他大学の大学院の授業科目の履修の手続き等)

- 第7条 学生は、本研究科が協議をした他の大学の大学院(外国の大学の大学院を含む。)の授業科目を履修しようとするときは、主任指導教員の承認及び所属専攻長を經由して研究科長の許可を受けなければならない。
- 2 前項の規定により他の大学の大学院において修得した単位(5年の課程を履修する者に限る。)は、10単位を超えない範囲で本研究科の各専攻で修得したものとみなすことができる。
- 3 第1項の規定による協議及び単位の認定等については、総合研究大学院大学学生規則(平成16年大学規則第1号。以下「学生規則」という。)の定めるところによる。

(入学前の既修得単位の取扱い)

- 第8条 学生は、本研究科に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位(5年の課程を履修する者に限る。)を、主任指導教員の承認及び所属専攻長を經由して研究科長の許可を受けて、本研究科の各専攻で修得したものとみなすことができる。
- 2 前項の規定に基づき修得したものとみなすことができる単位は、再入学又は転入学した者を除き、10単位を超えないものとする。

(授業科目の履修の認定等及び単位の授与等)

- 第9条 授業科目の履修の認定は、試験又は研究報告により行う。ただし、平常の学修の成果の評価をもつて試験又は研究報告に代えることができる。
- 2 授業科目の成績は、100満点をもつて評価し、60点以上を合格とする。この場合において、次の区分により、優、良及び可を合格、不可を不合格として評価することができる。
- | | |
|---------|---|
| 80点以上 | 優 |
| 70点～79点 | 良 |
| 60点～69点 | 可 |

課程にあつては8年、後期3年の課程にあつては5年を超えて在学することができない。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、教育方法、履修方法、単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等の実施に関して必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則 (平成16年9月16日大学規程高研第5号)

この規程は、平成16年10月1日から施行する。

附 則 (平成17年2月24日大学規程高研第1号)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年2月23日大学規程高研第1号)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
2 この規程施行の際現に本研究科に在学する学生は、総合研究大学院大学学則の一部を改正する学則(平成17年学則第2号)附則第2項の規定に基づき、改正後の第2条第3項に規定する後期3年の課程を履修する者として適用する。ただし、授業科目の単位の修得方法については、改正前の別表1に掲げる各専攻の規定を適用する。

附 則 (平成18年3月20日大学規程高研第2号)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年6月15日大学規程高研第3号)

この規程は、平成18年7月1日から施行する。

附 則 (平成18年7月20日大学規程高研第4号)

この規程は、平成18年10月1日から施行する。ただし、総研大レクチャーに係る改正規定は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年9月14日大学規程高研第6号)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年9月14日大学規程高研第8号)

この規程は、平成18年9月14日から施行する。

附 則 (平成18年10月2日大学規程高研第9号)

この規程は、平成18年10月2日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

附 則 (平成19年2月22日大学規程高研第1号)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年2月21日大学規程高研第1号)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成20年9月18日大学規程高研第4号)

この規程は、平成20年10月1日から施行する。

附 則 (平成21年2月25日大学規程高研第1号)

59点以下 不可

3 前項の規定にかかわらず点数をもつて評価し難い場合は、合格及び不合格の評価をもつて行うことができる。

4 授業科目の履修の認定に合格した者には、所定の単位を与える。

(研究指導)

第10条 研究指導は、学生1人ごとにその内容が定められるものとし、その研究指導については、主任指導教員のほか、原則として1人以上の教授、准教授、講師又は助教が担当するものとする。

(他大学の大学院等における研究指導の手続き等)

第11条 学生は、本研究科が協議をした他の大学の大学院及び研究所等(外国の大学の大学院及び研究所等を含む。)において研究指導を受けようとするときは、主任指導教員の承認及び所属専攻長を経由して研究科長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により他の大学の大学院及び研究所等において受けた研究指導は、本研究科の各専攻において受けた研究指導の一部とみなすことができる。

3 第1項の規定による協議及び研究指導の認定については、学生規則の定めるところによる。

(修了の要件)

第12条 本研究科の5年の課程の修了の要件は、本研究科の専攻に5年以上在学し、別表1に規定するところにより30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、研究科の専攻に3年以上在学すれば足りるものとする。

2 本研究科の後期3年の課程の修了の要件は、本研究科の専攻に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学則第37条に規定する在学期間以上で足りるものとする。

3 前2項に規定する博士論文の審査及び試験については、総合研究大学院大学学位規則(平成元年規則第2号)の定めるところによる。

(成績評価基準等及びその明示等)

第13条 本研究科の各専攻における学修の成果及び博士論文に係る評価並びに修了の認定の基準等については、授業計画その他各専攻長が別に定める。

2 前項の授業計画その他各専攻長の定めには、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画等を定め、あらかじめ本研究科の学生に対して明示するものとする。

(在学年限)

第14条 学生(長期履修学生及び長期履修の適用を解除された学生を除く。)は、5年の

- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際、研究科に現在在学する学生に係る高エネルギー加速器科学認定研究の履修方法は、改正後の別表2にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成21年9月16日大学規程高研第2号)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。

附 則 (平成22年2月24日大学規程高研第1号)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

別表1 (第5条関係)

加速器科学専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数	
			必修	選択
ビーム物理学	非線形力学特論	1・2・3		2
	ビーム電磁場解析	1・2・3		2
	ビーム集団現象論	1・2・3		2
	放射光発生機構論	1・2・3		2
	偏極ビーム特論	1・2・3		2
	ビーム加速原理	1・2・3		2
	ビーム計測法概論	1・2・3		2
	光ビーム計測特論	1・2・3		2
加速器計画と設計	ビーム性能開発概論	1・2・3		2
	ビーム安定性特論	1・2・3		2
	加速器設計概論	1・2・3		2
	線形加速器設計特論	1・2・3		2
	円形加速器設計特論	1・2・3		2
	放射光源加速器特論	1・2・3		2
	陽子加速器特論	1・2・3		2
	コライダー特論	1・2・3		2
加速器基礎技術	次世代先端加速器計画・技術開発特論	1・2・3		2
	エレクトロニクス概論	1・2・3		2
	加速器制御システム概論	1・2・3		2
	超伝導・低温技術概論	1・2・3		2
	低温技術特論	1・2・3		2
	冷却技術特論	1・2・3		2
	ビーム源概論	1・2・3		2
	電磁石概論	1・2・3		2
磁場の科学	電磁石設計・計測特論	1・2・3		2

高周波加速の科学	電磁石電源概論	1・2・3	2
	超伝導磁石特論	1・2・3	2
	高周波システム概論	1・2・3	2
	加速空洞概論	1・2・3	2
	ビーム加速科学特論	1・2・3	2
	超伝導空洞特論	1・2・3	2
真空の科学	大電力高周波特論	1・2・3	2
	真空科学概論	1・2・3	2
	真空科学応用特論	1・2・3	2
コンピュータ・サイエンス	計算科学概論	1・2・3	2
	ソフトウェア工学特論	1・2・3	2
	シミュレーション学特論	1・2・3	2
	データ収集法特論	1・2・3	2
	放射線遮蔽特論	1・2・3	2
放射線の科学	放射線計測概論	1・2・3	2
	表面分析法概論	1・2・3	2
	放射線防護特論	1・2・3	2
	機械設計工学概論	1・2・3	2
加速器開発のための機械工学	機械工作基礎論	1・2・3	2
	表面工学基礎論	1・2・3	2
	材料基礎論	1・2・3	2
共通	加速器科学特別演習 I A	1	2
	加速器科学特別演習 I B	1	2
	加速器科学特別演習 II A	2	2
	加速器科学特別演習 II B	2	2
	加速器科学特別演習 III A	3	2
	加速器科学特別演習 III B	3	2
	加速器科学特別演習 IV A	4	2
	加速器科学特別演習 IV B	4	2
	加速器科学特別研究 V A	5	2
	加速器科学特別研究 V B	5	2

(備考) 第3欄に掲げる配当年次とは、標準的に履修が望ましい年次を示す。

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、上記(1)の専攻専門科目並びに物質構造科学専攻及び素粒子原子核専攻において開設する専攻専門科目、別表2の共通専門科目(高エネルギー加速器科学認定研究の4単位を含める。)及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目から30単位以上を修得しなければならない。
- ② 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、授業科目を修得すること

とは要しない。ただし、主任指導教員の承認を受けて、上記(1)の専攻専門科目並びに物質構造科学専攻及び素粒子原子核専攻において開設する専攻専門科目、別表2の共通専門科目及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目を履修することができ。

物質構造科学専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数		
			必修	選択	
放射光光源計測科学	放射光光源論 I	1・2・3		2	
	放射光光源論 II	1・2・3		2	
	放射光計測論 I	1・2・3		2	
	放射光計測論 II	1・2・3		2	
	放射光回折散乱論	1・2・3		2	
	X線結像光学	1・2・3		2	
	放射光原子分子分光学	1・2・3		2	
	放射光固体分光学 I	1・2・3		2	
	放射光固体分光学 II	1・2・3		2	
	X線吸収分光計測化学 I	1・2・3		2	
	X線吸収分光計測化学 II	1・2・3		2	
	放射光応用医学	1・2・3		2	
	放射光物質構造科学	物質構造科学原論	1・2・3		2
生体分子構造解析論 I		1・2・3		2	
生体分子構造解析論 II		1・2・3		2	
分子生物学 I		1・2・3		2	
分子生物学 II		1・2・3		2	
放射光生物物理		1・2・3		2	
放射光構造物性論		1・2・3		2	
放射光動的構造解析論		1・2・3		2	
極端紫外分子分光学		1・2・3		2	
放射光表面分光科学 I		1・2・3		2	
放射光表面分光科学 II		1・2・3		2	
中性子ミュオン科学		中性子回折散乱論 I	1・2・3		2
		中性子回折散乱論 II	1・2・3		2
	中性子回折散乱論 III	1・2・3		2	
	中性子結晶学	1・2・3		2	
	中性子光学概論	1・2・3		2	
	ソフトマター物理学基礎論	1・2・3		2	
	ミュオン科学	1・2・3		2	

共通	ミュオン物性科学	1・2・3	2
	物質構造科学特別演習 I a	1・2・3	2
	物質構造科学特別演習 I b	1・2・3	2
	物質構造科学特別演習 II	1・2・3・4・5	4
	物質構造科学特別研究 I	1・2・3・4・5	4
	物質構造科学特別研究 II	1・2・3・4・5	4
	物質構造科学特別研究 III	1・2・3・4・5	4
	物質構造科学特別研究 IV	1・2・3・4・5	4
	物質構造科学特別研究 V	1・2・3・4・5	4

(備考) 第3欄に掲げる配当年次とは、標準的に履修が望ましい年次を示す。

(2) 授業科目の単位の修得方法

① 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、上記(1)の専攻専門科目並びに加速器科学専攻及び素粒子原子核専攻において開設する専攻専門科目、別表2の共通専門科目(高エネルギー加速器科学認定研究の4単位を含める。)及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目から30単位以上を修得しなければならない。

② 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、授業科目を修得することとは要しない。ただし、主任指導教員の承認を受けて、上記(1)の専攻専門科目並びに加速器科学専攻及び素粒子原子核専攻において開設する専攻専門科目、別表2の共通専門科目及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目を履修することができ。

素粒子原子核専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数	
			共通	選択
素粒子基礎理論	場の理論概論 I	1・2・3		2
	場の理論概論 II	1・2・3		2
	超弦理論 I	1・2・3		2
	超弦理論 II	1・2・3		2
	超弦理論 III	1・2・3		2
	超弦理論 IV	1・2・3		2
	場の理論特論 I	1・2・3		2
素粒子現象論	場の理論特論 II	1・2・3		2
	素粒子理論概論 I	1・2・3		2
	素粒子理論概論 II	1・2・3		2
	素粒子現象論 I	1・2・3		2
	素粒子現象論 II	1・2・3		2

格子ゲージ理論	格子場の理論Ⅰ	1・2・3	2
	格子場の理論Ⅱ	1・2・3	2
ハドロン原子核理論	ハドロン原子核理論概論Ⅰ	1・2・3	2
	ハドロン原子核理論概論Ⅱ	1・2・3	2
	ハドロン理論	1・2・3	2
宇宙物理論	宇宙物理学Ⅰ	1・2・3	2
	宇宙物理学Ⅱ	1・2・3	2
	宇宙物理学理論演習Ⅰ	1・2・3	2
	宇宙物理学理論演習Ⅱ	1・2・3	2
	一般相対論	1・2・3	2
コライダー物理学実験	コライダー物理学実験学	1・2・3	2
学	コライダー物理学数値解析論	1・2・3	2
B中間子物理学	B中間子物理学	1・2・3	2
	B中間子物理学特論	1・2・3	2
	ハドロン分光学	1・2・3	2
	タウレプトン物理学	1・2・3	2
高エネルギーハドロン反応	高エネルギーハドロン反応論	1・2・3	2
	高エネルギーハドロン物理学	1・2・3	2
超高エネルギーレプトン物理学	超高エネルギーレプトン物理学	1・2・3	2
	超高エネルギーレプトン反応論	1・2・3	2
低エネルギー素粒子物理学	低エネルギー素粒子物理学	1・2・3	2
学			
先端基盤技術	超伝導概論	1・2・3	2
	低温工学概論	1・2・3	2
	オンライン粒子計測論	1・2・3	2
	計算機応用概論	1・2・3	2
	粒子計測概論	1・2・3	2
ビーム物理学	ビーム物理学	1・2・3	2
	ビーム制御法特論	1・2・3	2
	先端ビーム計測論Ⅰ	1・2・3	2
	先端ビーム計測論Ⅱ	1・2・3	2
ハドロンビーム素粒子物理学	高エネルギー物理学特論	1・2・3	2
	ハドロン素粒子物理学Ⅰ	1・2・3	2
	ハドロン素粒子物理学Ⅱ	1・2・3	2
	ニュートン素粒子物理学Ⅰ	1・2・3	2
	ニュートン素粒子物理学Ⅱ	1・2・3	2
ニュートリノ実験	ニュートリノ物理学概論	1・2・3	2
	ニュートリノ物理学特論	1・2・3	2
ハドロンビーム原子核物理学	原子核物理学概論	1・2・3	2
	ハドロン原子核物理学Ⅰ	1・2・3	2

不安定原子核実験	短寿命核物理学	1・2・3	2
宇宙物理実験	宇宙物理実験学概論	1・2・3	2
	宇宙物理実験学特論	1・2・3	2
理論系共通	素粒子原子核理論演習Ⅰ	1	4
	素粒子原子核理論演習Ⅱ	2	4
	素粒子原子核理論演習Ⅲ	3	4
	理論素粒子原子核物理特別研究Ⅰ	4	4
	理論素粒子原子核物理特別研究Ⅱ	5	4
実験系共通	素粒子原子核実験演習Ⅰ	1	4
	素粒子原子核実験演習Ⅱ	2	4
	素粒子原子核実験演習Ⅲ	3	4
	実験素粒子原子核物理特別研究Ⅰ	4	4
	実験素粒子原子核物理特別研究Ⅱ	5	4

(備考) 第3欄に掲げる配当年次とは、標準的に履修が望ましい年次を示す。

(2) 授業科目の単位の修得方法

① 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、上記(1)の専攻専門科目並びに加速器科学専攻及び物質構造科学専攻において開設する専攻専門科目、別表2の共通専門科目(高エネルギー加速器科学認定研究の4単位を含める。)及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目から30単位以上を修得しなければならない。

② 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、授業科目を修得することとは要しない。ただし、主任指導教員の承認を受けて、上記(1)の専攻専門科目並びに加速器科学専攻及び物質構造科学専攻において開設する専攻専門科目、別表2の共通専門科目及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目を履修することができ。

別表2 共通専門科目(第5条関係)

授業科目	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
高エネルギー加速器科学セミナーⅠ	1・2・3		2	
高エネルギー加速器科学セミナーⅡ	1・2・3		2	
高エネルギー加速器科学セミナーⅢ	1・2・3		1	
高エネルギー加速器科学セミナーⅣ	1・2・3		1	
高エネルギー加速器科学セミナーⅤ	1・2・3		1	
高エネルギー加速器科学セミナーⅥ	1・2・3		1	
加速器概論Ⅰ	1・2・3		2	
加速器概論Ⅱ	1・2・3		2	

別紙様式（第6条関係）

履 修 届				
年 月 日				
高エネルギー加速器科学研究科長 殿				
高エネルギー加速器科学研究科 ○○○○○○専攻 学籍番号 ふりがな 氏 名				
年度 学期に、下記の授業科目を履修したいので提出します。				
<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%;">授 業 科 目 名</td> <td style="width: 50%;">担 当 教 員 名</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	授 業 科 目 名	担 当 教 員 名		
授 業 科 目 名	担 当 教 員 名			
<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%;">主任指導教員</td> <td style="width: 50%;">印</td> </tr> </table>	主任指導教員	印		
主任指導教員	印			

(備考) 主任指導教員欄に自筆署名した場合は、押印を省略することができる。

加速器実験概論	1・2・3	2
放射線物理学	1・2・3	2
ビーム物理学Ⅰ	1・2・3	2
ビーム物理学Ⅱ	1・2・3	2
応用数学	1・2・3	2
電磁気学	1・2・3	2
電気力学と特殊相対論	1・2・3	2
解析力学	1・2・3	2
量子力学	1・2・3	2
熱力学・統計力学	1・2・3	2
物質構造科学概論Ⅰ	1・2・3	2
物質構造科学概論Ⅱ	1・2・3	2
現代生物物理学概論	1・2・3	2
高エネルギー物理学概論Ⅰ	1・2・3	2
高エネルギー物理学概論Ⅱ	1・2・3	2
粒子測定原理Ⅰ	1・2・3	2
粒子測定原理Ⅱ	1・2・3	2
相対論的物理学	1・2・3	2
現代量子力学	1・2・3	2
高エネルギー加速器科学認定研究	2	4

(備考) 第3欄に掲げる配当年次とは、標準的に履修が望ましい年次を示す。

別表3 総合教育科目（第5条関係）

授 業 科 目	配当年次	単 位 数		備 考
		必修	選択	
科学論文の書き方	1・2・3・4・5		1	総研大レクチャ ーの単位数は、 その実施要項等 において別に定 める。
生命科学と社会	1・2・3・4・5		2	
科学・技術と社会Ⅰ	1・2・3・4・5		1	
科学・技術と社会Ⅱ	1・2・3・4・5		1	
科学における社会リテラシー	1・2・3・4・5		2	
学生セミナー	1・2・3・4・5		1	
総研大レクチャー	1・2・3・4・5			

平成16年4月14日
大学規程複研第1号

- 一部改正 17.2.23/18.2.24/18.6.26
18.9.15 (大学規程複研第6号)
18.9.15 (大学規程複研第8号)
19.2.23/19.9.14/20.2.22/
20.9.19/21.2.27/21.9.18/
22.2.26

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第36条の規定に基づき、複合科学研究科（以下「本研究科」という。）における教育方法、履修方法その他単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等並びに在学年限その他必要な事項について定めるものとする。

(研究科の課程)

- 第2条 本研究科の博士課程は、標準の修業年限3年又は5年の課程とする。
2 前項の標準の修業年限を3年とする本研究科の課程は、学則第25条第1項に規定する者が3年次に編入学して履修する課程（以下「後期3年の課程」という。）とする。
3 第1項の標準の修業年限を5年とする本研究科の課程は、学則第25条第2項に規定する者が履修する課程（以下「5年の課程」という。）とする。

(教育方法)

- 第3条 本研究科における教育は、授業科目の授業及び博士論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によつて行う。
2 前項に規定する授業のうち、研究科が定める授業科目は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(主任指導教員)

- 第4条 学生の研究指導を担当するとともに、学生の授業科目の履修指導等に当たるため、学生1人ごとに主任指導教員が定められるものとする。
2 主任指導教員は、教授又は准教授とする。
3 前項によるもののほか、教育研究上の組織編成として適切と認められる場合には、講師又は助教を主任指導教員とすることができる。

(授業科目及び単位数)

第5条 本研究科の各専攻の授業科目、単位数、履修方法等は、別表1、別表2及び別表

3のとおりとする。

(履修の手続き)

第6条 学生は、每学期初めに、履修しようとする授業科目を履修届（別紙様式）により主任指導教員の承認を受けるとともに、所属の専攻の専攻長（以下「所属専攻長」という。）を経由して研究科長に提出しなければならない。

2 学生は、主任指導教員の承認及び所属専攻長を経由して研究科長の許可を受けて、別表1に掲げる本研究科の他の専攻の授業科目及び本学の他の研究科の授業科目を履修することができる。

(他大学の大学院における授業科目の履修の手続き等)

第7条 学生は、本研究科が協議をした他の大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）の授業科目を履修しようとするときは、主任指導教員の承認及び所属専攻長を経由して研究科長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により他の大学の大学院において修得した単位は、後期3年の課程を履修する学生にあつては4単位、5年の課程を履修する学生にあつては10単位を超えない範囲で本研究科の各専攻で修得したものとみなすことができる。

3 第1項の規定による協議及び単位の認定等については、総合研究大学院大学学生規則（平成16年大学規則第1号。以下「学生規則」という。）の定めるところによる。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第8条 学生は、本研究科に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を、主任指導教員の承認及び所属専攻長を経由して研究科長の許可を受けて、本研究科の各専攻で修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定に基づき修得したものとみなすことができる単位は、再入学又は転入学した者を除き、後期3年の課程を履修する学生にあつては4単位、5年の課程を履修する学生にあつては10単位を超えないものとする。

(授業科目の履修の認定及び単位の授与等)

第9条 授業科目の履修の認定は、試験又は研究報告により行う。ただし、平常の学修の成果の評価をもつて試験又は研究報告に代えることができる。
2 授業科目の成績は、100点満点をもつて評価し、60点以上を合格とする。この場合において、次の区分により、優、良及び可を合格、不可を不合格として評価することができる。

80点以上	優
70点～79点	良
60点～69点	可
59点以下	不可

3 前項の規定にかかわらず、点数をもつて評価し難い場合は、合格及び不合格の評価をもつて行うことができる。

含めることができる。

附 則(平成21年9月18日大学規程複研第2号)

この規程は、平成21年10月1日から施行する。ただし、この規程施行の際、情報学専攻に現に在学する学生に係る授業科目の単位修得方法は、改正後の規程にかかわらず、別表1の(1)専攻専門科目「情報学総合研究ⅡA」及び「情報学総合研究ⅡB」に就いては、なお従前の例による。

附 則(平成22年2月26日大学規程複研第1号)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

別表1(第5条関係)
統計科学専攻

(1) 専攻専門科目

専攻専門科目	授業科目	配当年次	単位数	
			必修	選択
モデリング	統計的学習理論Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	空間統計学	1・2・3・4・5		2
	確率幾何学	1・2・3・4・5		2
	確率過程モデリング法	1・2・3・4・5		2
	時空間ベイズ法	1・2・3・4・5		2
	データ同化論	1・2・3・4・5		2
	ベイジアンモデリング	1・2・3・4・5		2
	情報機能論	1・2・3・4・5		2
	情報抽出論	1・2・3・4・5		2
	知的情報アルゴリズム	1・2・3・4・5		2
	情報統計物理	1・2・3・4・5		2
	コミュニケーション情報処理	1・2・3・4・5		2
	マルチメディア情報処理	1・2・3・4・5		2
	統計的情報処理論	1・2・3・4・5		2
	ディジタル信号処理	1・2・3・4・5		2
	情報通信システム論	1・2・3・4・5		2
	遺伝子データ解析Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	遺伝子データ解析Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	ゲノムデータ解析Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	ゲノムデータ解析Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	非線形時系列解析Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	非線形時系列解析Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	データ同化特論Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	データ同化特論Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	モデリング総合研究Ⅰ	1・2・3・4・5		2
モデリング総合研究Ⅱ	1・2・3・4・5		2	
モデリング総合研究Ⅲ	1・2・3・4・5		2	
モデリング総合研究Ⅳ	1・2・3・4・5		2	
モデリング総合研究Ⅴ	1・2・3・4・5		2	
データ科学	多次元解析特論Ⅰ	1・2・3・4・5		2
	多次元解析特論Ⅱ	1・2・3・4・5		2
	高次元推測論	1・2・3・4・5		2
	データ設計論	1・2・3・4・5		2
	データ解析特論Ⅲ	1・2・3・4・5		2
データ解析特論Ⅳ	1・2・3・4・5		2	

標本調査論 I	1・2・3・4・5	2
標本調査論 II	1・2・3・4・5	2
社会調査論 I	1・2・3・4・5	2
社会調査論 II	1・2・3・4・5	2
調査データ解析論 I	1・2・3・4・5	2
調査データ解析論 II	1・2・3・4・5	2
国際比較調査論 I	1・2・3・4・5	2
国際比較調査論 II	1・2・3・4・5	2
調査データ解析特論 I	1・2・3・4・5	2
調査データ解析特論 II	1・2・3・4・5	2
計算統計モデル	1・2・3・4・5	2
統計計算システム I	1・2・3・4・5	2
統計計算システム II	1・2・3・4・5	2
統計計算システム III	1・2・3・4・5	2
統計計算システム IV	1・2・3・4・5	2
非線形時系列解析 I	1・2・3・4・5	2
非線形時系列解析 II	1・2・3・4・5	2
疫学方法論	1・2・3・4・5	2
薬剤疫学	1・2・3・4・5	2
生物統計学	1・2・3・4・5	2
環域統計学	1・2・3・4・5	2
経済時系列論	1・2・3・4・5	2
ファイナンス統計学 I	1・2・3・4・5	2
ファイナンス統計学 II	1・2・3・4・5	2
医療統計学 I	1・2・3・4・5	2
医療統計学 II	1・2・3・4・5	2
データ科学総合研究 I	1・2・3・4・5	2
データ科学総合研究 II	1・2・3・4・5	2
データ科学総合研究 III	1・2・3・4・5	2
データ科学総合研究 IV	1・2・3・4・5	2
データ科学総合研究 V	1・2・3・4・5	2
推測理論 I	1・2・3・4・5	2
推測理論 II	1・2・3・4・5	2
推測理論 III	1・2・3・4・5	2
多変量推測統計 I	1・2・3・4・5	2
多変量推測統計 II	1・2・3・4・5	2
多変量推測統計 III	1・2・3・4・5	2
データ解析特論 I	1・2・3・4・5	2
データ解析特論 II	1・2・3・4・5	2
統計的学習理論 I	1・2・3・4・5	2

情報幾何学	1・2・3・4・5	2
信号処理特論 I	1・2・3・4・5	2
信号処理特論 II	1・2・3・4・5	2
制御理論 I	1・2・3・4・5	2
制御理論 II	1・2・3・4・5	2
システム最適化 I	1・2・3・4・5	2
システム最適化 II	1・2・3・4・5	2
計算推論アルゴリズム	1・2・3・4・5	2
計算推論モデリング	1・2・3・4・5	2
応用確率論 I	1・2・3・4・5	2
応用確率論 II	1・2・3・4・5	2
数理解・推論総合研究 I	1・2・3・4・5	2
数理解・推論総合研究 II	1・2・3・4・5	2
数理解・推論総合研究 III	1・2・3・4・5	2
数理解・推論総合研究 IV	1・2・3・4・5	2
数理解・推論総合研究 V	1・2・3・4・5	2
専攻共通		
統計科学講義 I	1・2・3・4・5	2
統計科学講義 II	1・2・3・4・5	2
統計科学講義 III	1・2・3・4・5	2
統計科学講義 IV	1・2・3・4・5	2
統計科学講義 V	1・2・3・4・5	2
統計科学総合研究 I	1・2・3・4・5	2
統計科学総合研究 II	1・2・3・4・5	2
統計科学総合研究 III	1・2・3・4・5	2
統計科学総合研究 IV	1・2・3・4・5	2
統計科学総合研究 V	1・2・3・4・5	2
統計数理セミナー I	1	1
統計数理セミナー II	2	1
統計数理セミナー III	3	1
統計数理セミナー IV	4	1
統計数理セミナー V	5	1

- (2) 授業科目の単位の修得方法
- ① 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び別表2の共通専門基礎科目に掲げる授業科目から10単位以上修得しなければならない。
 - ② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び別表2の共通専門基礎科目(8単位以上を含めることを推奨する)に掲げる授業科目から40単位以上を修得しなければならない。
 - ③ 別表3の総合教育科目に掲げる授業科目については、上記①又は②の修得すべ

き単位数に含めることができる。

極域科学専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数	
			必修	選択
極域宇宙圏 極域気水圏 極域地圏 極域生物圏	磁気圏物理学	1・2・3・4・5		2
	スペースプラズマ物理学	1・2・3・4・5		2
	レーダー超高層大気物理学	1・2・3・4・5		2
	オーロラ物理学	1・2・3・4・5		2
	極域プラズマ波動論	1・2・3・4・5		2
	地球電磁気・地球大気圏科学	1・2・3・4・5		2
	電離圏物理学	1・2・3・4・5		2
	超高層大気波動基礎論	1・2・3・4・5		2
	極域気候システム論	1・2・3・4・5		2
	雪米コア古気候論	1・2・3・4・5		2
	極域対流圏現象論	1・2・3・4・5		2
	水圏化学解析論	1・2・3・4・5		2
	雪水圏解析論	1・2・3・4・5		2
	地殻進化論	1・2・3・4・5		2
	極域海底物理学	1・2・3・4・5		2
	極域測地・リモートセンシング論	1・2・3・4・5		2
	極域地形発達史論	1・2・3・4・5		2
	惑星物質科学	1・2・3・4・5		2
	惑星進化論	1・2・3・4・5		2
	岩石磁気学	1・2・3・4・5		2
海水圏動物行動学	1・2・3・4・5		2	
寒冷域生理生態学	1・2・3・4・5		2	
極域海洋基礎生産論	1・2・3・4・5		2	
海洋衛星データ解析論	1・2・3・4・5		2	
極域多様性生物学	1・2・3・4・5		2	
極域湖沼生態学	1・2・3・4・5		2	
極域陸上生物解析論	1・2・3・4・5		2	
超高層物理学概論	1・2・3・4・5		2	
極域大気科学概論	1・2・3・4・5		2	
極域海洋科学概論	1・2・3・4・5		2	
雪米物理学概論	1・2・3・4・5		2	
極域生物海洋学概論	1・2・3・4・5		2	
極域陸上生態学概論	1・2・3・4・5		2	

地殻物質科学概論	1・2・3・4・5	2
極域固体地球物理学概論	1・2・3・4・5	2
極域第四紀学概論	1・2・3・4・5	2
極域科学特別研究 I	1	2
極域科学特別研究 II	2	2
極域科学特別研究 III	3	2
極域科学特別研究 IV	4	2
極域科学特別研究 V	5	2
極域科学特別演習 I	1	2
極域科学特別演習 II	2	2
極域科学特別演習 III	3	2
極域科学特別演習 IV	4	2
極域科学特別演習 V	5	2

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び別表2の共通専門基礎科目(4単位を必ず含める。)に掲げる授業科目から10単位以上修得しなければならない。
- ② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び別表2の共通専門基礎科目(8単位を必ず含める。)に掲げる授業科目から40単位以上を修得しなければならない。
- ③ 他の研究科及び専攻において開設する専攻専門科目又は研究科共通基礎科目若しくは研究科共通科目に掲げる授業科目は、第7条第2項により他大学の大学院において修得したものとみなす単位数と合わせて、後期3年の課程を履修する者であっては4単位、5年の課程を履修する者であっては10単位を限度として、上記①又は②の修得すべき単位数に含めることができる。
- ④ ①から③までの単位数のほか、別表3の総合教育科目に掲げる授業科目については、4単位を限度として、上記①又は②の修得すべき単位数に含めることができる。

情報学専攻

(1) 専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数	
			必修	選択
情報基礎科学	情報論理学 数値計算論 生命情報学 アルゴリズム 数理言語学	1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5 1・2・3・4・5		2 2 2 2 2

離散数学	1・2・3・4・5	2
高度データ構造	1・2・3・4・5	2
化学情報学	1・2・3・4・5	2
数理論理学	1・2・3・4・5	2
量子情報基礎	1・2・3・4・5	2
量子コンピュータ	1・2・3・4・5	2
量子多体問題の量子ハミルトニオン	1・2・3・4・5	2
現代暗号	1・2・3・4・5	2
情報基盤科学	計算機システム設計論 情報通信システム論	2 2
ソフトウェア科学	分散システム データ工学 ソフトウェア工学 シグナルプロセッサ 確率的情報処理 制約プログラミング ホビ指向コンピュティング XMLデータベース データベースの設計言語 プログラムの構造論 アプリケーションに基づくソフトウェア開発	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
情報メディア科学	メディア基礎 メディア処理基礎 メディア処理応用 インタラクティブメディア	2 2 2 2
知能システム科学	人工知能基礎論 推論科学 知識共有システム ヒューマン・エントインテリジェン クラスター分析 機械学習 知能ロボティクス 自然言語処理 心理言語学 知的エージェント 知的ウェアブルシステム コミュニケーション環境論 構文・意味解析	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
情報環境科学	デジタルメディアリテラシー 情報検索	2 2

社会・技術情報学	1・2・3・4・5	2
学術情報データベース	1・2・3・4・5	2
学術情報環境論	1・2・3・4・5	2
情報社会学	1・2・3・4・5	2
科学計量学	1・2・3・4・5	2
ICTビジネス論	1・2・3・4・5	2
情報経済学	1・2・3・4・5	2
レコード・マネジメント	1・2・3・4・5	2
情報環境統計論	1・2・3・4・5	2
専門用語論	1・2・3・4・5	2
共通	情報学特別実験研究 I A 情報学特別実験研究 I B 情報学特別実験研究 II A 情報学特別実験研究 II B 情報学特別実験研究 III A 情報学特別実験研究 III B 情報学特別実験研究 IV A 情報学特別実験研究 IV B 情報学特別実験研究 V A 情報学特別実験研究 V B 情報学特別演習 I A 情報学特別演習 I B 情報学特別演習 II A 情報学特別演習 II B 情報学総合研究 I A 情報学総合研究 I B 情報学総合研究 II A 情報学総合研究 II B	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 2 2 2 1 1 1 2

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び別表2の共通専門基礎科目に掲げる授業科目から10単位以上を修得しなければならない。
- ② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の専攻専門科目及び別表2の共通専門基礎科目に掲げる授業科目から情報学総合研究ⅡBの2単位を含めた40単位以上を修得しなければならない。
- ③ ①又は②の単位数のほか、別表3の総合教育科目に掲げる授業科目については、2単位を限度として、上記①又は②の修得すべき単位数に含めることができる。

別表2 共通専門基礎科目 (第5条関係)

授 業 科 目	配当年次	単 位 数		備 考
		必修	選択	
複合科学概論	1・2・3		2	履修奨励科目
複合モデリング科学概論	1・2・3		2	履修奨励科目
推測数理概論 I	1・2・3		2	
推測数理概論 II	1・2・3		2	
データ科学概論 I	1・2・3		2	
データ科学概論 II	1・2・3		2	
時空間モデリング概論	1・2・3		2	
計算推論科学概論 I	1・2・3		2	
計算推論科学概論 II	1・2・3		2	
先端地球科学通論 I	1・2・3		2	
先端地球科学通論 II	1・2・3		2	
地球計測学概論	1・2・3		2	
宙空間計測学	1・2・3		2	
極域海洋環境システム論	1・2・3		2	
大気・水圏の科学概論	1・2・3		2	
情報基礎科学概論 I	1・2・3		2	
情報基礎科学概論 II	1・2・3		2	
ハイパフォーマンスコンピューティング概論	1・2・3		2	
情報流通のテクノロジー概論	1・2・3		2	
ソフトウェア科学概論 I	1・2・3		2	
ソフトウェア科学概論 II	1・2・3		2	
情報メディア概論	1・2・3		2	
知能システム科学概論 I	1・2・3		2	
知能システム科学概論 II	1・2・3		2	
情報環境科学概論 I	1・2・3		2	
情報環境科学概論 II	1・2・3		2	
学術コミュニケーション	1・2・3		1	
知的財産権	1・2・3		1	
国際連携論	1・2・3		1	
英語によるプレゼンテーション I	1・2・3・4・5		1	
英語によるプレゼンテーション II	1・2・3・4・5		1	
情報セキュリティ概論	1・2・3・4・5		2	
応用線形代数	1・2・3・4・5		2	

別表3 総合教育科目 (第5条関係)

授 業 科 目	配当年次	単 位 数		備 考
		必修	選択	
科学論文の書き方	1・2・3・4・5		1	
生命科学と社会	1・2・3・4・5		2	
科学・技術と社会 I	1・2・3・4・5		1	
科学・技術と社会 II	1・2・3・4・5		1	
科学における社会リテラシー	1・2・3・4・5		2	
学生セミナー	1・2・3・4・5		1	
総研大レクチャー	1・2・3・4・5		1	総研大レクチャーの単位数は、その実施要項等において別に定める。

別紙様式（第6条関係）

履 修 届 複合科学研究科長 殿 複合科学研究科 ○○○学専攻 学籍番号 ふりがな 氏 名	年 月 日	
年度 学期に、下記の授業科目を履修したいので提出します。		
授 業 科 目 名		担 当 教 員 名
主任指導教員 ㊟		
(備考) 主任指導教員欄に自筆署名した場合、押印を省略することができる。		

平成元年4月20日
規程生研第3号

- 一部改正 4.2.25 / 4.5.22 / 6.2.23
7.2.21 / 9.2.21 / 11.2.23
12.2.22 / 13.2.27 / 14.2.26
15.2.25 / 16.4.14 / 17.2.22
17.3.28 / 18.2.21 / 18.9.12
(大学規程生研第3号) / 18.9.12
(大学規程生研第5号) / 19.4.18
20.2.19 / 21.2.24 / 22.2.23

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第36条の規定に基づき、生命科学研究所（以下「本研究科」という。）における教育方法、履修方法その他単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等並びに在学年限その他必要な事項について定めるものとする。

(研究科の課程)

- 第2条 本研究科の博士課程は、標準の修業年限3年又は5年の課程とする。
2 前項の標準の修業年限を3年とする本研究科の課程は、学則第25条第1項に規定する者が3年次に編入学して履修する課程（以下「後期3年の課程」という。）とする。
3 第1項の標準の修業年限を5年とする本研究科の課程は、学則第25条第2項に規定する者が履修する課程（以下「5年の課程」という。）とする。

(教育方法)

第3条 本研究科における教育は、授業科目の授業及び博士論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によつて行う。

2 前項に規定する授業のうち、研究科が定める授業科目は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させるものとする。

(主任指導教員)

- 第4条 学生の研究指導を担当するとともに、学生の授業科目の履修指導等に当たるため、学生1人ごとに主任指導教員が定められるものとする。
2 主任指導教員は教授又は准教授とする。
3 前項によるもののほか、教育研究上の組織編成として適切と認められる場合には、講師又は助教を主任指導教員とすることができる。

(授業科目及び単位数)

第5条 本研究科の各専攻の授業科目、単位数、履修方法等は、別表1、別表2及び別表3のとおりとする。

(履修の手続き)

第6条 学生は、毎学期初めに、履修しようとする授業科目を履修届（別紙様式）により主任指導教員の承認を受けるとともに、所属の専攻の専攻長（以下「所属専攻長」という。）を經由して研究科長に提出しなければならない。

2 学生は、主任指導教員の承認及び所属専攻長を經由して研究科長の許可を受けて、別表1に掲げる本研究科の他の専攻の授業科目及び本学の他の研究科の授業科目を履修することができる。

(他大学の大学院における授業科目の履修の手続き等)

第7条 学生は、本研究科が協議をした他の大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）の授業科目を履修しようとするときは、主任指導教員の承認及び所属専攻長を經由して研究科長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により他の大学の大学院において修得した単位（5年の課程を履修する者に限る。）は、10単位を超えない範囲で本研究科の各専攻で修得したものとみなすことができる。

3 第1項の規定による協議及び単位の認定等については、総合研究大学院大学生規則（平成16年大学規則第1号。以下「学生規則」という。）の定めるところによる。

(入学前の既修得単位の取扱い)

第8条 学生は、本研究科に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位（5年の課程を履修する者に限る。）を、主任指導教員の承認及び所属専攻長を經由して研究科長の許可を受けて、本研究科の各専攻で修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定に基づき修得したものとみなすことができる単位は、再入学又は転入学した者を除き、10単位を超えないものとする。

(授業科目の履修の認定及び単位の授与等)

第9条 授業科目の履修の認定は、試験又は研究報告により行う。ただし、平常の学修の成果の評価をもつて試験又は研究報告に代えることができる。

2 授業科目の成績は、100点満点をもつて評価し、60点以上を合格とする。ただし、点数をもつて評価し難い場合は、合格及び不合格の評価をもつて行うことができる。

3 授業科目の履修の認定に合格した者には、所定の単位を与える。

(研究指導)

第10条 研究指導は、学生1人ごとにその内容が定められるものとし、その研究指導については、主任指導教員のほか、原則として1人以上の教授、准教授、講師又は助教が担

当するものとする。

(他大学の大学院等における研究指導の手続き等)

第11条 学生は、本研究科が協議をした他の大学の大学院及び研究所等(外国の大学の大学院及び研究所等を含む。)において研究指導を受けようとするときは、主任指導教員の承認及び所属専攻長を経由して研究科長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により他の大学の大学院及び研究所等において受けた研究指導は、本研究科の各専攻において受けた研究指導の一部とみなすことができる。

3 第1項の規定による協議及び研究指導の認定については、学生規則の定めるところによる。

(修了の要件)

第12条 本研究科の後期3年の課程の修了の要件は、本研究科の専攻に3年以上在学し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学則第37条に規定する在学期間以上で足りるものとする。

2 本研究科の5年の課程の修了の要件は、本研究科の専攻に5年以上在学し、別表1に規定するところにより所定の単位数以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、研究科の専攻に3年以上在学すれば足りるものとする。

3 前2項に規定する博士論文の審査及び試験については、総合研究大学院大学学位規則(平成元年規則第2号)の定めるところによる。

(成績評価基準等及びその明示等)

第13条 本研究科の各専攻における学修の成果及び博士論文に係る評価並びに修了の認定の基準等については、授業計画その他各専攻長が別に定める。

2 前項の授業計画その他各専攻長の定めには、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画等を定め、あらかじめ本研究科の学生に対して明示するものとする。

(在学年限)

第14条 学生は、所属する専攻の区分に応じ、別表4に掲げる年限を超えて在学することができない。

(雑則)

第15条 この規程に定めるもののほか、教育方法、履修方法、単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等の実施等に関して必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

この規程は、平成元年4月20日から施行し、平成元年4月1日から適用する。

附 則 (平成4年2月25日規程生研第1号)

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則 (平成4年5月22日規程生研第2号)

この規程は、平成4年5月22日から施行し、平成4年4月1日から適用する。

附 則 (平成6年2月23日規程生研第1号)

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則 (平成7年2月21日規程生研第1号)

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則 (平成9年2月21日規程生研第1号)

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 (平成11年2月23日規程生研第1号)

この規程は、平成11年2月23日から施行する。

附 則 (平成12年2月22日規程生研第2号)

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年2月27日規程生研第1号)

この規程は、平成13年4月1日から施行する。ただし、湘南レクチャーの単位認定に係る改正については平成12年4月1日から適用する。

附 則 (平成14年2月26日規程生研第1号)

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年2月25日規程生研第1号)

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成16年4月14日大学規程生研第1号)

1 この規程は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

2 この規程施行の際現に本研究科に在学する学生は、総合研究大学院大学学則(平成16年学則第1号)附則第3項の規定に基づき、改正後の第2条第2項に規定する後期3年の課程を履修する者として適用する。ただし、授業科目の単位の修得方法については、改正前の別表1に掲げる各専攻の規定を適用する。

附 則 (平成17年2月22日大学規程生研第1号)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年3月28日大学規程生研第3号)

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年2月21日大学規程生研第1号)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年9月12日大学規程生研第3号)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年9月12日大学規程生研第5号)

この規程は、平成18年10月1日から施行する。ただし、総研大レクチャーに係る改正規定は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年4月18日大学規程生研第4号)

この規程は、平成19年4月18日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

附 則 (平成20年2月19日大学規程生研第1号)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則 (平成21年2月24日大学規程生研第1号)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則 (平成22年2月23日大学規程生研第1号)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

別表1 (第5条関係)

遺伝学専攻

(1) 遺伝学専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数	
			必修	選択
分子・細胞遺伝学 発生遺伝学 進化情報遺伝学 ゲノム遺伝学	分子細胞生物学Ⅱ	1・2・3・4・5		1
	分子細胞生物学Ⅲ	1・2・3・4・5		1
	分子細胞生物学Ⅳ	1・2・3・4・5		1
	発生生物学Ⅱ	1・2・3・4・5		1
	発生生物学Ⅲ	1・2・3・4・5		1
	発生生物学Ⅳ	1・2・3・4・5		1
	次世代志向境界領域Ⅰ	1・2・3・4・5		1
	次世代志向境界領域Ⅱ	1・2・3・4・5		1
	次世代志向境界領域Ⅲ	1・2・3・4・5		1
	次世代志向境界領域Ⅳ	1・2・3・4・5		1
	次世代志向境界領域Ⅴ	1・2・3・4・5		1
	遺伝学英語口頭表現演習ⅠA	1		1
	遺伝学英語口頭表現演習ⅠB	1		1
	遺伝学英語口頭表現演習ⅡA	2		1
	遺伝学英語口頭表現演習ⅡB	2		1
	遺伝学英語口頭表現演習ⅢA	3		1
	遺伝学英語口頭表現演習ⅢB	3		1
遺伝学英語口頭表現演習ⅣA	4		1	
遺伝学英語口頭表現演習ⅣB	4		1	
遺伝学英語口頭表現演習ⅤA	5		1	
遺伝学英語口頭表現演習ⅤB	5		1	
遺伝学英語筆記表現演習Ⅰ	1・2・3・4・5		1	
遺伝学英語筆記表現演習Ⅱ	1・2・3・4・5		1	
遺伝学英語筆記表現演習Ⅲ	1・2・3・4・5		1	

備 考

次世代志向境界領域の授業科目は、本専攻が別に定める研究課題のうち2課題について履修を認定された者に対して単位を授与するものとする。この場合において単位を授与した場合は、授業科目名の後に履修を認定した研究課題の名称を付記するものとする。

(2) 授業科目の単位の修得方法

① 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、授業科目を修得すること

は要しない。ただし、主任指導教員の承認を受けて、上記(1)の専攻専門科目、別表2の共通専門科目及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目を履修することができる。

② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、上記(1)の専攻専門科目、別表2の共通専門科目及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目から30単位以上を修得しなければならない。

基礎生物学専攻

(1) 基礎生物学専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数	
			必修	選択
細胞生物学	基礎生物学概論	1・2・3・4・5		1
発生生物学	細胞形質発現学	1・2・3・4・5		1
環境生物学	高次形質発現学	1・2・3・4・5		1
統御生物学, 神経生物学	環境情報制御学	1・2・3・4・5		1
進化生物学	神経生物学	1・2・3・4・5		1
生殖発生学・性差生物学	進化多様性ゲノム生物学	1・2・3・4・5		1
情報・数理生物学・機能ゲノム学	生殖生物学・性差生物学	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語口語表現演習Ⅰ	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語口語表現演習Ⅱ	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語口語表現演習Ⅲ	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語口語表現演習Ⅳ	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語口語表現演習Ⅴ	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語筆記表現演習Ⅰ	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語筆記表現演習Ⅱ	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語筆記表現演習Ⅲ	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語筆記表現演習Ⅳ	1・2・3・4・5		1
	基礎生物学英語筆記表現演習Ⅴ	1・2・3・4・5		1
	アドバンストコンファレンスⅠ	1・2・3・4・5		1
	アドバンストコンファレンスⅡ	1・2・3・4・5		1
	アドバンストコンファレンスⅢ	1・2・3・4・5		1
	アドバンストコンファレンスⅣ	1・2・3・4・5		1
	アドバンストコンファレンスⅤ	1・2・3・4・5		1

(2) 授業科目の単位の修得方法

① 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、授業科目を修得すること
は要しない。ただし、主任指導教員の承認を受けて、上記(1)の専攻専門科目、別

表2の共通専門科目及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目を履修することができる。

② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、上記(1)の専攻専門科目、別表2の共通専門科目及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目から30単位以上を修得しなければならない。

生理科学専攻

(1) 生理科学専攻専門科目

教育研究指導分野	授 業 科 目	配当年次	単位数	
			必修	選択
分子生理学	脳神経系の細胞構築	1・2・3・4・5		1
細胞生理学	大脳神経回路論	1・2・3・4・5		1
情報生理学	言語思考システム研究	1・2・3・4・5		1
統合生理学	感覚認知機構論	1・2・3・4・5		1
大脳生理学	認知と行動の脳科学	1・2・3・4・5		1
発達生理学	神経内科学入門	1・2・3・4・5		1
	神経発生と再生戦略	1・2・3・4・5		1
	神経回路機能	1・2・3・4・5		1
	細胞神経生物学	1・2・3・4・5		1
	細胞の生と死の生理学	1・2・3・4・5		1
	行動脳科学	1・2・3・4・5		1
	分子と脳のイオンチャンネル	1・2・3・4・5		1
	神経機能分子学	1・2・3・4・5		1
	分子神経情報学	1・2・3・4・5		1
	細胞機能学	1・2・3・4・5		1
	神経性代謝調節学	1・2・3・4・5		1
	分子感覚生理学	1・2・3・4・5		1
	生理科学研究技術特論	1・2・3・4・5		1
	生理科学英語筆記表現演習	1・2・3・4・5		1
	生理科学英語口頭表現演習	1・2・3・4・5		1
	生理科学特別講義Ⅰ	1		1
	生理科学特別講義Ⅱ	2		1
	生理科学特別講義Ⅲ	3		1
	病態生化学	1・2・3・4・5		1
	腫瘍学	1・2・3・4・5		1
	内分泌学	1・2・3・4・5		1
	消化器病学	1・2・3・4・5		1

循環器病学	1・2・3・4・5	1
腎臓病学	1・2・3・4・5	1
環境医学	1・2・3・4・5	1
備考	本研究所と名古屋大学大学院医学研究科との間における学生交流協定に関する協定書（平成7年4月3日締結）に基づいて、病態生化学、腫瘍学、内分泌学、消化器病学、循環器病学、腎臓病学及び環境医学の授業科目の履修を認定され、単位を修得した場合は、本専攻の授業科目を履修したものと取り扱う。	

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、授業科目を修得することは要しない。ただし、主任指導教員の承認を受けて、上記(1)の専攻専門科目、別表2の共通専門科目及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目を履修することができる。
- ② 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するには、上記(1)の専攻専門科目、別表2の共通専門科目及び別表3の総合教育科目に掲げる授業科目から30単位以上を修得しなければならない。

別表2 共通専門科目（第5条関係）

授業科目	配当年次	単位数		備考
		必修	選択	
分子細胞生物学I	1・2・3		2	第3条第2項に規定する授業科目
発生生物学I	1・2・3		2	
神経科学	1・2・3		2	
バイオインフォマティクス概論	1・2・3		1	
生命科学プログレスIA	1		2	
生命科学プログレスIB	1		2	
生命科学プログレスIIA	2		2	
生命科学プログレスIIB	2		2	
生命科学プログレスIIIA	3		2	
生命科学プログレスIIIB	3		2	
生命科学プログレスIVA	4		2	
生命科学プログレスIVB	4		2	
生命科学プログレスVA	5		2	
生命科学プログレスVB	5		2	
生命科学実験演習IA	1		2	

生命科学実験演習IB	1		2
生命科学実験演習IIA	2		2
生命科学実験演習IIB	2		2
生命科学実験演習IIIA	3		2
生命科学実験演習IIIB	3		2
生命科学実験演習IIIA	4		2
生命科学実験演習IIB	4		2
生命科学実験演習IIB	5		2
生命科学論文演習IA	1		2
生命科学論文演習IIB	1		2
生命科学論文演習IIA	2		2
生命科学論文演習IIB	2		2
生命科学論文演習IIIA	3		2
生命科学論文演習IIIB	3		2
生命科学論文演習IIIA	4		2
生命科学論文演習IIB	4		2
生命科学論文演習IIB	5		2
生命科学論文演習IIB	5		2
生命科学セミナーI	1		1
生命科学セミナーII	2		1
生命科学セミナーIII	3		1
生命科学セミナーIV	4		1
生命科学セミナーV	5		1

別表3 総合教育科目 (第5条関係)

授 業 科 目	配当年次	単 位 数		備 考
		必修	選択	
科学論文の書き方 生命科学と社会 科学・技術と社会Ⅰ 科学・技術と社会Ⅱ 科学における社会リテラシー 学生セミナー 総研大レクチャー	1・2・3・4・5		1	総研大レクチャーの単位数は、その実施要項等において別に定める。
	1・2・3・4・5		2	
	1・2・3・4・5		1	
	1・2・3・4・5		1	
	1・2・3・4・5		2	
	1・2・3・4・5		1	

別表4 在学年限 (第14条関係)

専 攻	在学年数	備 考
遺伝学専攻	後期3年の課程	5年
	5年の課程	8年
基礎生物学専攻	後期3年の課程	5年
	5年の課程	8年
生理学専攻	後期3年の課程	6年
	5年の課程	8年

別紙様式 (第6条関係)

履 修 届 生命科学研究科長 殿 生命科学専攻 ○○○○○専攻 学籍番号 ふりがな 氏 名	年 月 日	
年度 学期に、下記の授業科目を履修したいので提出します。		
授 業 科 目 名	担当教員名	

(注) 遺伝学専攻の専攻専門科目「次世代志向境界領域」を履修する学生は、授業科目名に研究課題名を付記してください。

主任指導教員

(備考) 主任指導教員欄に自筆署名した場合は、押印を省略することができる。

平成19年2月21日
大学規程先研第1号

一部改正 19.5.29/21.2.17/
22.2.16

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学則（平成16年学則第1号。以下「学則」という。）第36条の規定に基づき、先導科学研究科（以下「研究科」という。）の生命科学 主体進化学専攻（以下「本専攻」という。）における教育方法、履修方法その他の単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等並びに在学年限その他の必要な事項について定めるものとする。

(専攻の課程)

- 第2条 本専攻の博士課程は、標準の修業年限5年又は3年の課程とする。
- 2 前項の標準の修業年限を5年とする本専攻の課程は、学則第25条第2項に規定する者が履修する課程（以下「5年の課程」という。）とする。
- 3 第1項の標準の修業年限を3年とする本専攻の課程は、学則第25条第1項に規定する者が3年次に編入学して履修する課程（以下「後期3年の課程」という。）とする。

(教育方法)

- 第3条 本専攻における教育は、授業科目の授業及び博士論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行う。
- 2 前項に規定する授業のうち、本専攻が定める授業科目は、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。
- （指導教員及びアカデミックアドバイザー）
- 第4条 学生の研究指導を担当するとともに、学生の授業科目の履修指導等に当たるため、本専攻が別に定めるところに従い、学生1人ごとに主任指導教員を定めるものとする。
- 2 主任指導教員は、教授又は准教授とする。
- 3 前項によるもののほか、教育研究上の組織編成として適切と認められる場合には、講師又は助教を主任指導教員とすることができる。
- 4 前3項に規定するもののほか、学生の教育活動上又は研究活動上の指導もしくは助言等を行うアカデミックアドバイザーを置く。

(教育研究指導領域及び教育課程)

第5条 本専攻に教育研究指導領域を置き、総合人類学、進化生物学、行動生物学、理論生物学、科学社会論の5領域とする。

- 2 本専攻の教育課程は、総合・国際教育科目群、基礎教育科目群、専門教育科目群、先導科学研究、先導科学プログラム及び先導科学特別研究とし、専門教育科目群に前項の教育研究指導領域に置く特論群又は科目群を置く。
- 3 授業科目、配当年次、単位数及び履修方法等は、別表のとおりとする。

(履修の手続き)

- 第6条 学生は、毎学期初めに、履修しようとする授業科目を履修届（別紙様式）により主任指導教員（ただし、主任指導教員が定められていない場合は、アカデミックアドバイザーとする。）の承認を受けるとともに、専攻長を経由して研究科長に提出しなければならない。
- 2 学生は、主任指導教員の承認及び専攻長を経由して研究科長の許可を受けて、本学他の研究科の授業科目を履修することができる。

(他大学の大学院における授業科目の履修の手続き等)

- 第7条 学生は、研究科が協議をした他の大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）の授業科目を履修しようとするときは、主任指導教員の承認及び専攻長を経由して研究科長の許可を受けなければならない。
- 2 前項の規定により他の大学の大学院において修得した単位は、5年の課程を履修する学生にあつては10単位、後期3年の課程を履修する学生にあつては4単位を超えない範囲で本専攻で修得したものとみなすことができる。
- 3 第1項の規定による協議及び単位の認定等については、総合研究大学院大学学生規則（平成16年大学規則第1号。以下「学生規則」という。）の定めるところによる。

(入学前の既修得単位の取扱い)

- 第8条 学生は、本専攻に入学する前に大学院において履修した授業科目について修得した単位を、主任指導教員の承認及び専攻長を経由して研究科長の許可を受けて、本専攻で修得したものとみなすことができる。
- 2 前項の規定に基づき修得したものとみなすことができる単位は、再入学又は転入学した者を除き、5年の課程を履修する学生にあつては10単位、後期3年の課程を履修する学生にあつては4単位を超えないものとする。

(授業科目の履修の認定及び単位の授与等)

- 第9条 授業科目の履修の認定は、試験又は研究報告により行う。ただし、平常の学修成果の評価をもつて試験又は研究報告に代えることができる。
- 2 授業科目の成績は、100点満点をもつて評価し、60点以上を合格とする。この場合において、次の区分により、優、良及び可を合格、不可を不合格として評価することができる。

80点以上	優
70点～79点	良
60点～69点	可

59点以下

不可

- 3 前項の規定にかかわらず、点数をもつて評価し難い場合は、合格及び不合格の評価をもつて行うことができる。
- 4 授業科目の履修の認定に合格した者には、所定の単位を与える。

(研究指導)

第10条 研究指導は、学生1人ごとにその内容が定められるものとし、その研究指導については、第4条第1項に規定する主任指導教員のほか、複数の教授、准教授、講師又は助教が担当するものとする。

(他大学の大学院等における研究指導の手続き等)

第11条 学生は、研究科が協議をした他の大学の大学院及び研究所等(外国の大学の大学院及び研究所等を含む。)において研究指導を受けようとするときは、主任指導教員の承認及び専攻長を逡由して研究科長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により他の大学の大学院及び研究所等において受けた研究指導は、本専攻において受けた研究指導の一部とみなすことができる。

3 第1項の規定による協議及び研究指導の認定については、学生規則の定めるところによる。

(修了の要件)

第12条 本専攻の5年の課程の修了の要件は、本専攻に5年以上在学し、別表に規定するところにより42単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、研究科の専攻に3年以上在学すれば足りるものとする。

2 本専攻の後期3年の課程の修了の要件は、本専攻に3年以上在学し、別表に規定するところにより12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学則第37条に規定する在学期間以上で足りるものとする。

3 前2項に規定する博士論文の審査及び試験については、総合研究大学院大学学位規則(平成元年規則第2号)の定めるところによる。

(成績評価基準等及びその明示等)

第13条 本専攻における学修の成果及び博士論文に係る評価並びに修了の認定の基準等については、授業計画その他専攻長が別に定める。

2 前項の授業計画には、授業及び研究指導の方法及び内容並びに一年間の授業及び研究指導の計画等を定め、あらかじめ本専攻の学生に対して明示するものとする。

(3年次進学資格審査及び退学勧告)

第14条 本専攻の5年の課程に在学する学生は、本専攻が別に定めるところによる3年次

進学資格審査に合格しなければならない。

2 研究科長は、前項の審査に合格しない学生に対して退学の勧告を行い、別表において指定する授業科目の履修を奨励することができる。

(在学年限)

第15条 学生は、本専攻に5年の課程にあつては8年、後期3年の課程にあつては5年、を超えて在学することができない。

(雜則)

第16条 この規程に定めるもののほか、教育方法、履修方法、履修方法、単位の認定及び他の大学院における授業科目の履修等の実施に関して必要な事項は、専攻長が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年5月29日大学規程先研第7号)

この規程は、平成19年6月1日から施行する。

附 則 (平成21年2月17日大学規程先研第1号)

1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。

2 この規程施行の際、現に在学する学生に係る履修方法は、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成22年2月16日大学規程先研第1号)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

別表 (第5条関係)

(1) 授業科目

科目群・科目区分	授 業 科 目	配当年次		単位数	
		必修	選択	必修	選択
総合・国際教育科目群	学生セミナー	1			1
	総研大レクチャー	1・2			
	科学論文の書き方	1・2			1
	生命科学と社会	1・2・3			2
	科学・技術と社会Ⅰ	1・2・3		1	
	科学・技術と社会Ⅱ	1・2・3		1	
	科学における社会リテラシー	1・2・3			2
	総合先端科学特論	1・2			2
	科学・技術と倫理	1・2・3			2
基礎教育科目群	総合人類学	1・2・3			2
	生物統計学	1・2・3			2

ミクロ生物学	1・2・3	2
マクロ生物学	1・2・3	2
先導科学実習	1・2・3	2
科学英語演習 I	1	2
科学英語演習 II	2	2
科学英語演習 III	3	2
科学英語演習 IV	4	2
科学英語演習 V	5	2
専門教育科目群		
総合人類学特論群		
総合人類学特論 I	1・2・3	1
総合人類学特論 II	1・2・3	1
総合人類学特論 III	1・2・3	1
総合人類学特論 IV	1・2・3	1
総合人類学特論 V	1・2・3	1
進化生物学特論群		
進化生物学特論 I	1・2・3	1
進化生物学特論 II	1・2・3	1
進化生物学特論 III	1・2・3	1
進化生物学特論 IV	1・2・3	1
進化生物学特論 V	1・2・3	1
行動生物学特論群		
行動生物学特論 I	1・2・3	1
行動生物学特論 II	1・2・3	1
行動生物学特論 III	1・2・3	1
行動生物学特論 IV	1・2・3	1
行動生物学特論 V	1・2・3	1
理論生物学特論群		
理論生物学特論 I	1・2・3	1
理論生物学特論 II	1・2・3	1
理論生物学特論 III	1・2・3	1
理論生物学特論 IV	1・2・3	1
理論生物学特論 V	1・2・3	1
科学と社会科目群		
科学社会論特論 I	1・2・3	1
科学社会論特論 II	1・2・3	1
科学社会論特論 III	1・2・3	1
科学社会論特論 IV	1・2・3	1
科学社会論特論 V	1・2・3	1
先導科学考究		
先導科学考究 I	1	2
先導科学考究 II	2	2
先導科学考究 III	3	2
先導科学考究 IV	4	2
先導科学考究 V	5	2
先導科学プログラム	1	2

先導科学プログラム II	2	2
先導科学プログラム III	3	2
先導科学プログラム IV	4	2
先導科学プログラム V	5	2
先導科学特別研究 I	1	4
先導科学特別研究 II	2	4
先導科学特別研究 III	3	4
先導科学特別研究 IV	4	4
先導科学特別研究 V	5	4
副論文特別研究	1・2・3・4・5	4
修士論文特別研究	2・3・4・5	4
備考		
1 総合・国際教育科目群の総研大レクチャラーの単位数は、その実施要項等において別に定める。		
2 総合・国際教育科目群の科学論文の書き方は、第3条第2項に規定する授業科目とする。		
3 専門教育科目群の各特論群又は科目群は、授業の内容を適切に明示する名称を付記するものとし、第13条第1項に規定する授業計画において定める。		
4 先導科学特別研究の修士論文特別研究は、本専攻を退学する旨の届出を提出する予定の学生又は第14条第2項の規定により当該授業科目の履修を奨励された学生が履修する授業科目とする。		
5 配当年次とは、本専攻の学生が標準的に履修が望ましい年次を示し、当該年次以外の学生の履修を妨げるものではない。		

(2) 授業科目の単位の修得方法

- ① 5年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の授業科目に掲げる必修10科目及び総合・国際教育科目群から必修を除き3科目以上、基礎教育科目群から必修を除き4科目以上(科学英語演習の各授業科目は、I～Vのいずれか1科目に限る。)、専門教育科目群から5科目以上を履修し、42単位以上を修得しなければならない。ただし、第12条第1項ただし書を適用する場合の先導科学プログラムの各授業科目の履修については、上記(1)の必修欄に掲げる4年次及び5年次に2単位とあるのは、選択欄に掲げるものと読み替えて適用する。
- ② 後期3年の課程を履修する者が本専攻を修了するためには、上記(1)の授業科目に掲げる必修科目(先導科学考究 I、先導科学考究 II、先導科学プログラム I 及び先導科学プログラム II)を除く。本号において同じ。)を含め12単位以上(科学英語演習の各授業科目は、III～Vのいずれか1科目に限る。)修得しなければならない。ただし、第12条第2項ただし書を適用する場合の先導科学プログラムの各授業科目の履修については、上記(1)の必修欄に掲げる4年次及び5年次に2単位とあるのは、選択欄に掲げるものと読み替えて適用する。
- ③ 他の研究科及び専攻において開設する専攻専門科目又は研究科共通基礎科目若

しくは研究科共通科目に掲げる授業科目は、第7条第2項により他大学の大学院において修得したものとみなす単位数と合わせて、5年の課程を履修する者であっては10単位、後期3年の課程を履修する者であっては4単位を限度として、上記①又は②の修得すべき単位数に含めることができる。

履 修 届	年 月 日	
先導科学研究科長 殿		先導科学研究科 生命共生体進化学専攻 学籍番号 ふりがな 氏 名
年度	学期	下記の授業科目を履修したいので提出します。
授 業 科 目 名	担 当 教 員 名	

(注) 1. 専門教育科目群の各特論群又は科目群の授業科目を履修する学生は、授業科目名に授業計画(シラバス)に定める名称を付記してください。
2. 先導科学特別研究の修士論文特別研究を履修する学生は、退学予定日を記入してください。

主任指導教員又はアカデミックアドバイザー	印
----------------------	---

(備考) 主任指導教員又はアカデミックアドバイザー欄に自筆署名した場合は、押印を省略することができる。

〔平成元年4月1日
規則第2号〕

- 一部改正 3.6.27/4.3.16/4.5.29
5.1.26/5.3.23/9.3.24
10.3.24/10.4.9/11.3.24
13.3.23/13.3.30/14.3.22
15.1.31/16.4.14/16.11.2
18.7.4/19.3.14/21.3.25

目次

- 第1章 総則 (第1条-第2条)
第2章 学位授与の要件等 (第3条-第5条)
第3章 学位授与の審査手続き等 (第6条-第17条)
第4章 学位授与の公表等 (第18条-第21条)
第5章 雑則 (第22条-第23条)

附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、総合研究大学院大学則(平成16年学則第1号。以下「学則」という。)第43条の規定に基づき、総合研究大学院大学(以下「本学」という。)における学位論文の審査及び試験の方法並びに修士の学位授与の要件その他本学が授与する学位について必要な事項を定めるものとする。

(授与する学位)

第2条 本学が授与する学位は、博士の学位とする。

2 前項の学位に付記する専攻分野は、「文学」、「学術」、「理学」、「工学」、「統計科学」、「情報学」又は「医学」とする。

第2章 学位授与の要件等

(博士の学位授与の要件等)

第3条 前条に規定する博士の学位は、本学の研究科に所定の修業年限以上在学し、所定の単位数以上を修得(学則第38条に規定する後期3年の課程の修了の要件に関する特別を適用する者(以下「後期3年の課程特別適用者」という。)を除く。)し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格して、その研究科を修了した

者に授与する。

2 前項の規定に基づき、本学が授与する博士の学位には、その学位を授与される者が修了した研究科の専攻(以下「専攻」という。)の区分に応じ、次の表に掲げる専攻分野を付記するものとする。

研究科	専攻	攻	付記する専攻分野
文化科学研究科	地域文化学	攻	博士論文の内容によつては学術
	比較文化学	攻	
	国際日本研究	攻	
	日本歴史研究	攻	
物理解学研究科	分子科学	攻	博士論文の内容によつては学術
	機能分子科学	攻	
	天文科学	攻	
	核融合科学	攻	
高エネルギー加速器科学研究科	加速器科学	攻	博士論文の内容によつては理学
	物質構造科学	攻	
	素粒子原子核	攻	
	素粒子核	攻	
複合科学研究科	統計科学	攻	博士論文の内容によつては学術
	極域科学	攻	
	情報科学	攻	
	情報科学	攻	
生命科学研究科	遺伝学	攻	博士論文の内容によつては学術
	基礎生物学	攻	
	生理科学	攻	
	生理学	攻	
先導科学研究科	生命共生体	攻	博士論文の内容によつては医学
	進化化学	攻	

(論文博士の学位授与の要件等)

第4条 前条に定めるもののほか、第2条に規定する博士の学位は、本学の研究科を修了した者(以下「後期3年の課程特別適用者」という。)を除く。)し、かつ、本学の研究科を修了した者と同等以上の学力を有することを確認された者に対し、授与することができる。

2 前項の規定により博士の学位を授与する場合は、前条第2項の規定を準用する。この場合において、同項中「その学位を授与される者が修了した研究科の専攻」とあるのは「その博士論文の主題等に適合する研究科の専攻」と読み替えて適用する。

(修士の学位授与の特例及び授与要件等)

第5条 第2条の規定にかかわらず、学則第16条第3項に規定する5年の課程(以下「5年の課程」という。)に在学し、学則第48条の規定に基づき退学を許可された者が、研究科に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文又は特定課題研究(特定の課題についての研究の成果をいう。以下同じ。)の審査及び試験に合格した場合、修士の学位を授与することができる。

2 前項の規定により修士の学位を授与する場合は、第3条第2項の規定(「医学」を除く。)を準用する。この場合において、同項中「博士の学位」とあるのは「修士の学位」と、「修了した研究科の専攻」とあるのは「在学した研究科の専攻」と、「博士論文」とあるのは「修士論文又は特定課題研究」と読み替えて適用する。

第3章 学位授与の審査手続き等

(博士論文審査出願等の手続き)

第6条 第3条第1項の規定に基づき博士論文の審査及び試験を受けようとする者は、研究科が別に定める期日までに、その博士論文及び博士論文審査出願書を、その者が所属する専攻の専攻長を經由して、研究科長に提出しなければならない。

2 第4条第1項の規定に基づき、本学に博士論文の審査を申請し、及び本学の研究科を修了した者と同等以上の学力を有することの確認(以下「学力の確認」という。)を受けようとする者は、その博士論文及び博士論文審査申請書を学長に提出するとともに、学長が別に定める博士論文審査手数料を納付しなければならない。

3 本学の研究科に所定の修業年限以上在学し、所定の単位数以上を修得(後期3年の課程特別適用者を除く。)して退学した者が、本学に博士論文の審査を申請し、及び学力の確認を受けようとするときは、前項の規定を適用する。この場合において、その者が退学後1年以内の者であるときは博士論文審査手数料の納付は要しないものとする。

4 前3項の規定により提出した博士論文、博士論文審査出願書又は博士論文審査申請書並びに納付した博士論文審査手数料は返還しない。

(提出する博士論文等)

第7条 前条の規定により提出する博士論文は、1編とする。ただし、参考として他の著者又は共著の論文を添付することができる。

2 学長又は研究科長は、博士論文の審査のため必要があるときは、その博士論文の翻訳、その博士論文の内容に関係のある模型、標本等の参考資料の提出を求めることができる。

(博士論文等の受理及び審査の付託)

第8条 研究科長は、第6条第1項の規定に基づき提出された博士論文及び博士論文審査

出願書を受理したときは、研究科教授会にその博士論文の審査及び試験を付託するものとする。

2 学長は、第6条第2項及び第3項の規定に基づき提出された博士論文及び博士論文審査申請書を受理したときは、審査の申請があつた博士論文の主題等に応じて研究科を指定し、その研究科の研究科長にその博士論文の審査及び学力の確認を委嘱するものとする。

3 研究科長は、前項の委嘱を受けたときは、研究科教授会にその博士論文の審査及び学力の確認を付託するものとする。

(審査委員)

第9条 研究科教授会は、前条第1項の規定に基づき博士論文の審査及び試験の付託を受けたときは、その博士論文ごとに、その博士論文を提出した者が所属する専攻の専攻委員会(第13条において所属専攻委員会という。)の意見を聴いて、研究科に所属する教員(本学の教授、准教授、講師又は助教をいう。以下同じ。)のうちから3人以上の者を審査委員として選出し、その博士論文の審査及び試験に当たらせるものとする。

2 研究科教授会は、前条第3項の規定に基づき博士論文の審査及び学力の確認の付託を受けたときは、その博士論文ごとに、その博士論文の主題等に適合する専攻の専攻委員会(第19条において該当専攻委員会という。)の意見を聴いて、研究科に所属する教員のうちから3人以上の者を審査委員として選出し、その博士論文の審査及び学力の確認に当たらせるものとする。

3 研究科教授会は、必要があると認めるときは、前2項の審査委員に加えて、本学の他の研究科に所属する教員又は他の大学の大学院、研究所等の教員等を審査委員に委嘱することができる。

(試験)

第10条 第8条第1項に規定する試験は、博士論文の審査が終了した後に、その博士論文を中心として、これに関連のある専門分野について、筆記又は口述により行うものとする。

(学力の確認)

第11条 第8条第2項及び第3項に規定する学力の確認は、その博士論文を中心として、これに関連のある専門分野について、筆記、口述等適宜の方法により行うものとする。

2 学力の確認は、研究科が別に定めるところにより、外国語の能力についても行うことができる。

3 第6条第3項の規定に基づき提出した者で退学後3年以内の者その他研究科教授会が差し支えないと認めた者については、学力の確認を免除することができる。

(審査期間)

第12条 第6条第1項の規定に基づき提出された博士論文の審査及び試験は、その博士論文を提出した者が在学すべき所定の期間内に終了するものとする。

「修士の学位」と、「博士論文」とあるのは「修士論文又は特定課題研究」と、「試験又は学力の確認」とあるのは「試験」と読み替えて適用する。

(修士論文又は特定課題研究の審査等の特例)

第17条 前条の規定により第9条第1項、第10条を準用する審査委員及び試験の適用については、研究科が別に定めるところにより、研究科に所属する複数の教員により行う研究指導をもって、審査委員の選出及び試験に代えることができる。

第4章 学位授与の公表等

(博士論文要旨等の公表)

第18条 学長は、博士の学位を授与したときは、文部科学大臣に所定の報告をするとともに、その学位を授与した日から3月以内に、その博士論文の内容の要旨及びその審査の結果の要旨を公表するものとする。

(博士論文の印刷公表)

第19条 博士の学位を授与された者は、その学位を授与された日から1年以内に、その博士論文を印刷公表しなければならない。ただし、その学位を授与される前に既に印刷公表したときは、この限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、研究科教授会がやむを得ないと認めるときは、博士論文の全文に代えて、その内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合において、研究科長は、その博士論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

(学位の名称)

第20条 本学の学位を授与された者が学位の名称を用いるときは、「総合研究大学院大学」と付記しなければならない。

(学位授与の取消及び公表)

第21条 本学の学位を授与された者が、不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは、学長は、研究科教授会の議を経て、その学位の授与を取消し、学位記を返還させ、かつ、その旨を公表するものとする。

第5章 雑則

(学位記及び出願書等の様式)

- 第22条 学位記の様式は、別記様式第1、別記様式第2及び別記様式第3のとおりとする。
- 2 第6条第1項に規定する博士論文審査出願書その他必要な様式は、研究科が別に定める。
- 3 第6条第2項に規定する博士論文審査申請書その他必要な様式は、学長が別に定める。
- 4 第16条第1項に規定する修士論文・特定課題研究審査出願書その他必要な様式は、研

2 第6条第2項及び第3項の規定に基づき提出された博士論文の審査及び学力の確認は、その博士論文を受理した日から1年以内に終了するものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、特別の理由があるときは、研究科教授会の議を経て、博士論文の審査並びに試験又は学力の確認に要する期間を延長することができる。この場合において、研究科長は、期間を延長する博士論文を提出した者に対して、その理由を添えて通知しなければならない。

(審査結果の報告)

第13条 審査委員は、博士論文の審査並びに試験又は学力の確認を終了したときは、それらの結果に博士の学位を授与できるか否かの意見を添え、所属専攻委員会又は該専攻委員会に報告し、研究科教授会に報告するものとする。

(博士の学位授与の議決)

第14条 研究科教授会は、前条の報告に基づき、博士の学位授与の可否について審議し、議決するものとする。

2 前項の議決は、研究科教授会の構成員の3分の2以上の出席を必要とし、かつ、出席者の3分の2以上の賛成を必要とするものとする。ただし、出張を命じられた者、長期療養中の者その他研究科教授会がやむを得ないと認められた者は、構成員の数から除くものとする。

3 研究科長は、第1項の結果に次の各号に掲げる事項を記載した書類を添えて、学長に報告するものとする。

- (1) 博士論文の要旨
- (2) 博士論文の審査結果の要旨
- (3) 試験又は学力の確認の結果の要旨

4 学長は、前項の報告に基づき、博士の学位授与の可否について、博士論文を提出した者に通知する。

(博士の学位授与)

第15条 学長は、博士の学位を授与する者に対して、第22条に規定する学位記を交付する。

(修士論文又は特定課題研究の審査出願等の手続き等の準用)

第16条 第5条第1項に規定する修士の学位授与の要件を満たし、修士論文又は特定課題研究の審査及び試験を受けようとする者は、その者が退学を許可された日までに、その修士論文又は特定課題研究並びに修士論文・特定課題研究審査出願書を、その者が所属する専攻の専攻長を経由して、研究科長に提出しなければならない。

2 提出する修士論文又は特定課題研究、修士論文又は特定課題研究の審査の付託、審査委員、試験及び審査結果の報告、修士の学位授与の議決及び修士の学位授与については、第7条、第8条第1項、第9条第1項及び第3項、第10条、第13条、第14条並びに第15条の規定を準用する。

3 前項の規定により準用する場合において、これらの規定中「博士の学位」とあるのは

第23条 この規則の適用に関し必要な事項は、学長又は研究科が別に定める。

(雑則)

第23条 この規則の実施に関し必要な事項は、学長又は研究科が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成元年4月1日から施行する。

2 第4条第1項の規定に基づく学位の授与は、第3条第1項の規定に基づく学位の授与が行われた後に行うものとする。

附 則 (平成3年6月27日規則第5号)

この規則は、平成3年7月1日から施行する。

附 則 (平成4年3月16日規則第3号)

この規則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則 (平成4年5月29日規則第4号)

この規則は、平成4年5月29日から施行し、平成4年5月1日から適用する。

附 則 (平成5年1月26日規則第1号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則 (平成5年3月23日規則第3号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則 (平成9年3月24日規則第3号)

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則 (平成10年3月24日規則第2号)

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

2 この規則による改正前の数物科学研究科の放射光科学専攻で平成10年3月31日に在学する者については、改正後の第3条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成10年4月9日規則第4号)

この規則は、平成10年4月9日から施行する。

附 則 (平成11年3月24日規則第1号)

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年3月23日規則第4号)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年3月30日規則第5号)

この規則は、平成13年3月30日から施行し、平成13年1月6日から適用する。

附 則 (平成14年3月22日規則第3号) 改正 平成14年10月31日

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年1月31日規則第2号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成16年4月14日大学規則第8号)

1 この規則は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

2 この規則による改正前の数物科学研究科で平成16年3月31日以前に在学した者については、改正後の第3条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成16年11月2日大学規則第9号)

この規則の規定は、次の各号に掲げる区分に従い、それぞれ当該各号に定める日から施行する。

(1) 第2条及び第3条の表の複合科学研究科に係る規定 平成16年11月2日

(2) 第3条の表の基礎生物学専攻に係る規定 平成17年4月1日

附 則 (平成18年7月4日大学規則第6号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年3月14日大学規則第2号)

1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。

2 この規則による改正前の先導科学研究科生命体科学専攻及び光科学専攻に平成19年3月31日以前に在学した者については、改正後の第3条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成21年3月25日大学規則第2号)

1 この規則は、平成21年4月1日から施行する。

2 この規則による改正前の文化科学研究科メディア社会文化専攻に平成21年3月31日以前に在学した者については、改正後の第3条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別記様式第1（第3条第1項の規定により授与する学位記）

学	位	記	号
年	月	日	総研大甲第
年	月	日	氏名
年	月	日	日生
<p>本学大学院○○○○○研究科○○○○○専攻の博士課程を修了したので博士（○○）の学位を授与する</p>			
年	月	日	
<p>総合研究大学院大学長</p>			
<p>○ ○ ○ ○</p>			
<p>総合研究大学院大学長之印</p>			

別記様式第2（第4条第1項の規定により授与する学位記）

学	位	記	号
年	月	日	総研大乙第
年	月	日	氏名
年	月	日	日生
<p>本学に学位論文を提出し所定の審査及び試験に合格したので博士（○○）の学位を授与する</p>			
年	月	日	
<p>総合研究大学院大学長</p>			
<p>○ ○ ○ ○</p>			
<p>総合研究大学院大学長之印</p>			

別記様式第3（第5条第1項の規定により授与する学位記）

学	位	記	号
年	月	日	総研大修第
年	月	日	氏名
年	月	日	日生
<p>本学大学院○○○○○研究科○○○○○専攻において博士課程の前期課程の修了に相当する要件を満たしたので修士（○○）の学位を授与する</p>			
年	月	日	
<p>総合研究大学院大学長</p>			
<p>○ ○ ○ ○</p>			
<p>総合研究大学院大学長之印</p>			

〔平成3年3月13日
規程文研第2号〕

一部改正 3.9.25/ 4.4.15/ 5.2.24
9.9.19/10.9.18/11.3.24
13.3.23/14.3.1/15.2.28
16.4.14/18.2.24/18.9.15

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学位規則（平成元年規則第2号）第23条の規定に基づき、文化科学研究科（以下「本研究科」という。）の各専攻の所定の課程を修了した者に授与する博士の学位に係る論文審査等の手続きその他必要な事項について定めるものとする。

(学位の授与)

第2条 本研究科の専攻を修了した者には、博士の学位を授与する。

2 博士の学位には、審査の出願があつた博士論文1編につき一専攻分野を付記するものとする。

3 前項の規定により付記する専攻分野は、次の各号に掲げる分野とする。

- (1) 地域文化学専攻
「文学」とする。ただし、地域文化学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とすることができる。
- (2) 比較文化学専攻
「文学」とする。ただし、比較文化学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とすることができる。
- (3) 国際日本研究専攻
「学術」とする。
- (4) 日本歴史研究専攻
「文学」とする。ただし、日本歴史研究に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とすることができる。
- (5) メディア社会文化学専攻
「学術」とする。
- (6) 日本文学研究専攻
「文学」とする。

(出願の資格)

第3条 博士論文の審査及び試験に出願することができる者（以下「出願資格者」とい

う。）は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本研究科の各専攻における修了までの在学期間が3年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、総合研究大学院大学学則（平成16年学則第1号）第37条に規定する在学期間以上で足りるものであること。

(2) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき所定の単位数以上を次条に規定する出願の期間までに修得していること又は修了見込みの日までに修得することが確実であること。

(3) 必要な研究指導を受けていること。

2 国際日本研究専攻、日本歴史研究専攻、メディア社会文化専攻及び日本文学研究専攻においては、前項の各号に掲げるもののほか、専攻が別に定めるところにより、当該専攻が行う予備審査に合格していることを要する。

(出願期間)

第4条 出願の期間は、3月末に修了見込みの出願資格者にあつてはその前年の11月1日から11月6日まで、9月末に修了見込みの出願資格者にあつてはその年の6月15日から6月20日までとする。

2 研究科教授会は、特にやむを得ないと認められる者について、出願の期間を別に定めることができる。

(出願に必要な書類)

第5条 出願資格者は、次に掲げる書類を、出願資格者が所属する専攻の専攻長を経由して、研究科長に提出するものとする。

- (1) 博士論文審査出願書（別紙様式1） 1部
5部
- (2) 博士論文 5部
- (3) 博士論文目録（別紙様式2） 5部
- (4) 博士論文要旨（別紙様式3） 5部
- (5) 履歴書（別紙様式4） 5部
- (6) 参考となる他の論文等 5部

2 研究科長は、前項各号の書類を受理したときは、直ちにその博士論文の審査及び試験を研究科教授会に付託するとともに、審査及び試験に当たる審査委員の選出について、博士論文審査委員推薦依頼書（別紙様式5）により、その出願を受理された者（以下「出願者」という。）が所属する専攻の意見を聴くものとする。

(審査委員及び審査委員会)

第6条 研究科教授会は、前条第2項の規定に基づき出願者が所属する専攻から提出のあった博士論文審査委員推薦書（別紙様式6）により、審査委員を選出するものとする。

2 前項の規定により選出された審査委員は、審査委員会を組織し、その審査委員会を運営するために主査を置くものとする。

3 前項に規定する主査は、審査委員会です選する。

4 第1項の規定により出願者の研究指導を担当する教員が審査委員に選出されているときは、その教員は主査にはならないものとする。

(指導教員の意見の聴取等)

第7条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験に当たり、その出願者の研究指導を担当する教員の意見を聴くものとする。ただし、審査委員会に当該教員が審査委員として選出されている場合には、これを要しないものとする。

2 審査委員会は、必要と認めるときは、審査委員以外の本学の教員及び他の大学、研究所等の教員等に博士論文の審査の一部を委託し、又はその審査に関する意見を聴くことができる。

3 次条に規定する試験を行う前に、論文公開発表会を行うものとする。

(試験)

第8条 試験は、博士論文の審査が終了した後、その博士論文を中心としてそれに関連がある専門分野及びその基礎となる分野に関する学識について、口述又は筆記により行うものとする。

(専攻委員会及び研究科教授会の審査)

第9条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を、研究科長が第5条第1項に規定する博士論文審査の出願に必要な書類を受理した日から3ヶ月以内に終了させなければならぬ。

2 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を前項の期間内に終了させることができなない特別の理由があるときは、研究科教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

3 審査委員会は、博士論文の審査及び試験の終了後、それらの結果等を博士論文審査等報告書(別紙様式7)により専攻委員会へ通知するものとし、専攻委員会はその通知に基づき、学位授与の可否について審議するものとする。

4 審査委員会は、前項の専攻委員会を博士論文審査等報告書の該当欄に記載し、その報告書により研究科教授会に報告するものとする。

5 研究科教授会は、前項の報告に基づき、学位授与の可否について審議し、議決するものとする。

(博士論文評価基準及びその明示等)

第10条 本研究科の博士論文に係る評価の基準等については、授業計画その他専攻長が別に定める。

2 前項に規定する評価の基準等は、あらかじめ出願資格者に明示するものとする。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、博士の学位に係る論文審査等の手続き等の実施に關して必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則 (平成3年9月25日規程文研第3号)

この規程は、平成3年9月25日から施行し、平成3年7月1日から適用する。

附 則 (平成4年4月15日規程文研第3号)

この規程は、平成4年4月15日から施行し、平成4年4月1日から適用する。

附 則 (平成5年2月24日規程文研第1号)

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則 (平成9年9月19日規程文研第1号)

この規程は、平成9年9月19日から施行する。

附 則 (平成10年9月18日規程文研第2号)

この規程は、平成10年9月18日から施行する。

附 則 (平成11年3月24日規程文研第4号)

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則 (平成13年3月23日規程文研第4号)

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則 (平成14年3月1日規程文研第2号)

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則 (平成15年2月28日規程文研第1号)

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成16年4月14日大学規程文研第4号)

この規程は、平成16年4月14日から施行する。

附 則 (平成18年2月24日大学規程文研第3号)

この規程は、平成18年2月24日から施行する。

1 この規程は、平成18年2月24日から施行する。
2 総合研究大学院大学文化科学研究科における博士課程の学位授与に係る予備審査の手続き等に関する細則(平成3年3月13日細則文研第2号)は廃止する。

附 則 (平成18年9月15日大学規程文研第7号)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

別紙様式1 博士論文審査出願書 (第5条関係)

博士論文審査出願書	年 月 日		
文化科学研究科長 殿	<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">主任指導教員 確 認 印</td> <td style="text-align: center;">専 攻 長 確 認 印</td> </tr> </table>	主任指導教員 確 認 印	専 攻 長 確 認 印
主任指導教員 確 認 印	専 攻 長 確 認 印		
出願者 文化科学研究科〇〇〇〇専攻 氏 名 (学籍番号)			
総合研究大学院大学学位規則第6条第1項の規定に基づき、下記の関係書類を添え、博士論文審査を出願します。			
1 提出書類 学位申請論文 5部 博士論文目録 5部 博士論文要旨 5部 履歴書 5部 参考となる他の論文等 取得希望学位 (付記する専攻分野) 博士 ()	2 (備考) 1 付記する専攻分野を複数有する専攻の出願者は取得希望の付記する専攻分野を記入すること。 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。		

別紙様式3 博士論文要旨 (第5条関係)

博士論文要旨	年 月 日
出願者 文化科学研究科〇〇〇〇専攻 氏 名 (学籍番号)	
論文題目	
要旨	
(備考) 1 和文で作成する場合は2,000字～3,000字、英文で作成する場合は700語～2,000語程度で作成すること。 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。	

別紙様式2 博士論文目録 (第5条関係)

博士論文目録		年 月 日
出願者	文化科学研究科〇〇〇〇専攻 氏 名 (学籍番号)	男・女
学位申請博士論文		
(1) 題目		
(2) 目次		
(3) 冊数		
(4) 発表論文リスト		
(5) その他		
(備考) 1 「目次」及び「発表論文リスト」は別紙で添付すること。 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。		

別紙様式4 履歴書 (第5条関係)

履 歴 書		年 月 日
出願者	文化科学研究科〇〇〇〇専攻 氏 名	男・女
生年月日	年 月 日 生	
現住所	〒 電話 ()	
連絡先	〒 電話 ()	
年 月	学 歴 ・ 職 歴	
年 月	研 究 歴	
備 考		
(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。		

別紙様式5 博士論文審査委員推薦依頼書 (第5条関係)

博士論文審査委員推薦依頼書

文化科学研究科長 殿

年 月 日 印

下記の者の博士論文審査に係る審査委員候補者を推薦願います。

記

出願者 文化科学研究科〇〇〇〇専攻
氏名 (学籍番号)

論文題目 _____

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式7 博士論文審査等報告書 (第9条関係)

博士論文審査等報告書

文化科学研究科長 殿

年 月 日

出願者	文化科学研究科〇〇〇〇専攻	(学籍番号)
論文題目	主 査	
審査委員氏名	印 印 印 印 印 印	
授与する学位 (付記する 専攻分野)	博 士 ()	
(論文審査結果)	[年 月 日実施]	
(試験結果)	[年 月 日実施]	
(専攻委員会の審議結果)	[年 月 日実施]	
年 月 日	文化科学研究科〇〇〇〇専攻長 確認 印	

(備考) 1 審査委員氏名欄に自筆署名した場合は、押印を省略すること
ができる。
2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式6 博士論文審査委員推薦書 (第6条関係)

博士論文審査委員推薦書

文化科学研究科長 殿

年 月 日 印

文化科学研究科〇〇〇〇専攻長

年 月 日付けで依頼のありました審査委員候補者を下記のとおり
推薦します。

記

出願者 文化科学研究科〇〇〇〇専攻
氏名 (学籍番号)

論文題目 _____

研究所属の教員(3人以上)

所 属	氏 名

他研究所・他大学等の教員等 (短則第9条第3項の規定による者)

所 属	氏 名

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

〔平成16年4月14日
大学規程物研第4号〕

一部改正 18.23/19.2.22

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学位規則(平成元年規則第2号。以下「規則」という。)第23条の規定に基づき、物理科学研究科(以下「本研究科」という。)の各専攻の所定の課程を修了した者に授与する博士の学位及び特別授与する修士の学位に係る論文審査等の手続きその他必要な事項について定めるものとする。

(博士の学位授与)

第2条 本研究科の専攻を修了した者には、博士の学位を授与する。
2 博士の学位には、審査の出願があつた博士論文1編につき一専攻分野を付記するものとする。

3 前項の規定により付記する専攻分野は、次の各号に掲げる分野とする。

- (1) 構造分子科学専攻
「理学」とする。ただし、構造分子科学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とする。
- (2) 機能分子科学専攻
「理学」とする。ただし、機能分子科学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とする。
- (3) 天文科学専攻
「学術」とする。ただし、天文科学に係る理学又は工学の分野を主な内容とする博士論文については、「理学」又は「工学」とする。
- (4) 核融合科学専攻
「学術」とする。ただし、核融合科学に係る理学又は工学の分野を主な内容とする博士論文については、「理学」又は「工学」とする。
- (5) 宇宙科学専攻
「理学」又は「工学」とする。ただし、宇宙科学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とする。

(修士の学位の特例授与)

第3条 前条の規定にかかわらず、規則第5条第1項に規定する授与要件を満たす者には、修士の学位を授与することができる。
2 修士の学位には、審査の出願があつた修士論文又は特定課題研究1編につき一専攻分野を付記するものとする。

3 前項の規定により付記する専攻分野は、次の各号に掲げる分野とする。

- (1) 構造分子科学専攻
「理学」とする。ただし、構造分子科学に係る学際的分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「学術」とする。
- (2) 機能分子科学専攻
「理学」とする。ただし、機能分子科学に係る学際的分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「学術」とする。
- (3) 天文科学専攻
「学術」とする。ただし、天文科学に係る理学又は工学の分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「理学」又は「工学」とする。
- (4) 核融合科学専攻
「学術」とする。ただし、核融合科学に係る理学又は工学の分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「理学」又は「工学」とする。
- (5) 宇宙科学専攻
「理学」又は「工学」とする。ただし、宇宙科学に係る学際的分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「学術」とする。

(博士論文審査等の出願資格)

第4条 総合研究大学院大学学位規則(平成16年学位規則第1号。以下「学位規則」という。)第16条第2項に規定する後期3年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験に出願することができるときは、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

- (1) 本研究科の各専攻における修了までの在学期間が3年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学位規則第37条に規定する在学期間以上で足りるものであること。
 - (2) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき所定の単位数以上を次条に規定する出願の期間までに修得していること又は修了見込みの日までに修得することが確実であること。
 - (3) 必要な研究指導を受けていること。
 - (4) 本研究科が別に定めるところにより、専攻が行う予備審査に合格していること。
- 2 学位規則第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。
- (1) 本研究科の各専攻における修了までの在学期間が5年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者についての在学期間は、3年以上で足りるものであること。
 - (2) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき所定の単位数以上を次条に規定する出願の期間までに修得していること又は修了見込みの日までに修得することが確実であること。
 - (3) 必要な研究指導を受けていること。
 - (4) 本研究科が別に定めるところにより、専攻が行う予備審査に合格していること。

(博士論文審査の出願期間)

第5条 博士論文審査の出願の期間は、3月末に修了見込みの前条に規定する出願資格を有する者（以下「出願資格者」という。）にあつてはその前年の12月20日からその年の1月10日まで、9月末に修了見込みの出願資格者にあつてはその年の6月16日から6月30日までとする。

2 研究科教授会は、特にやむを得ないと認められる者について、出願の期間を別に定めることができる。

（博士論文審査の出願に必要な書類）

第6条 出願資格者は、次に掲げる書類を、出願資格者が所属する専攻の専攻長を経由して、研究科長に提出するものとする。

(1) 博士論文審査出願書（別紙様式1） 1部

(2) 博士論文 5部

(3) 博士論文目録（別紙様式2） 5部

(4) 博士論文要旨（別紙様式3） 5部

(5) 履歴書（別紙様式4） 5部

(6) 参考となる他の論文等 5部

2 研究科長は、前項各号の書類を受理したときは、直ちにその博士論文の審査及び試験を研究科教授会に付託するとともに、審査及び試験に当たる審査委員の選出について、博士論文審査委員推薦依頼書（別紙様式5）により、その出願を受理された者（以下「出願者」という。）が所属する専攻の意見を聴くものとする。

3 第1項第2号の博士論文は、出願者が主体的に行つた研究について審査制度の確立した学術雑誌に掲載されたもの又は掲載され得るものを基礎に独自に作成されたものとする。

（審査委員及び審査委員会）

第7条 研究科教授会は、前条第2項の規定に基づき出願者が所属する専攻から提出のあった博士論文審査委員推薦書（別紙様式6）により、審査委員を選出するものとする。

2 前項の規定により選出された審査委員は、審査委員会を組織し、その審査委員会を運営するために主査1人を互選するものとする。この場合において、出願者の研究指導を担当する教員が審査委員に選出されているときは、当該審査委員会の主査にならないものとする。

（指導教員等の意見の聴取等）

第8条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験に当たり、その出願者の研究指導を担当する教員の意見を聴くものとする。ただし、審査委員会に当該教員が審査委員として選出されている場合には、これを要しないものとする。

2 審査委員会は、必要と認めるときは、審査委員以外の本学の教員及び他の大学、研究所等の教員等に博士論文の審査に関する意見を聴くことができる。

（論文発表会の開催）

第9条 審査委員会は、その出願者による論文の発表会について、出願者の所属する専攻の専攻長と協議するものとする。

2 専攻長は、前項の協議に基づき、公開の論文発表会を開催するものとする。

（試験）

第10条 試験は、博士論文の審査が終了した後に、その博士論文を中心としてそれに関連がある専門分野及びその基礎となる分野に関する学識について、筆記又は口述により行うものとする。

（専攻委員会及び研究科教授会の審査）

第11条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を、研究科長が第5条第1項に規定する博士論文審査の出願に必要な書類を受理した日から3ヶ月以内に終了させなければならない。

2 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を前項の期間内に終了させることができなない特別の理由があるときは、研究科教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

3 審査委員会は、博士論文の審査及び試験の終了後、それらの結果等を博士論文審査等報告書（別紙様式7）により専攻委員会へ通知するものとし、専攻委員会はその通知に基づき、学位授与の可否について審議するものとする。

4 審査委員会は、前項の専攻委員会の審議結果等を博士論文審査等報告書の該当欄に記入し、その報告書により研究科教授会に報告するものとする。

5 研究科教授会は、前項の報告に基づき、学位授与の可否について審議し、議決するものとする。

（修士論文審査等の出願資格）

第12条 学則第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、修士論文又は特定課題研究の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本研究科を退学する旨の届出を提出した者であること。

(2) 本研究科の各専攻における退学までの在学期間が2年以上であること。

(3) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき30単位以上を修得していること又は退学予定の日までに修得することが確実であること。

(4) 必要な研究指導を受けていること。

（修士論文審査の出願その他論文審査等の準用）

第13条 修士論文審査の出願に必要な書類、審査委員及び審査委員会、指導教員の意見の聴取等、試験並びに専攻委員会及び研究科教授会の審査については、第6条（同条第3項を除く。）から第8条まで、第10条及び第11条の規定を準用する。

2 前項の規定を準用する場合において、これらの規定中「博士論文」とあるのは「修士論文又は特定課題研究」と、「出願資格者」とあるのは「第12条に規定する出願資格を有する者」と読み替えて適用する。

(修士論文審査等の特例)
 第14条 前条の規定にかかわらず、審査委員及び審査委員会並びに試験については、研究科の各専攻が別に定めるところにより、研究科に所属する複数の教員により行う研究指導等をもって、審査委員及び審査委員会並びに試験に代えることができる。この場合において、第6条第2項、第7条及び第10条の規定を準用しない。
 2 前項の場合において、第8条及び第11条中「審査委員会」とあるのは「複数の教員」と読み替えて適用する。

(博士論文評価基準等及びその明示等)
 第15条 博士論文もしくは修士論文又は特定課題研究に係る評価の基準等については、授業計画その他専攻長が別に定める。
 2 前項に規定する評価の基準等は、あらかじめ出願資格者に明示するものとする。

(雑則)
 第16条 この規程に定めるもののほか、博士の学位に係る論文審査等の手続き等の実施に関して必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

附 則
 この規程は、平成16年4月14日から施行する。
 附 則 (平成18年2月23日大学規程物研第2号)
 1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。
 2 この規程施行の際現に本研究科に在学する学生は、総合研究大学院大学学則の一部を改正する学則(平成17年学則第2号)附則第2項の規定に基づき、改正後の第4条第1項に規定する後期3年の課程を履修する者として適用する。ただし、出願資格の要件については、改正前の第3条の規定を適用する。
 附 則 (平成19年2月22日大学規程物研第2号)
 この規程は、平成19年4月1日から施行する。

別紙様式1 博士論文審査出願書(第6条関係)

博士論文審査出願書		年 月 日
物理科学研究所長 殿		
主任指導教員 確認印	専 攻 長 確認印	
<p>出願者 物理科学研究所○○○○科学専攻 <small>ふりがな</small> 氏 名 (学籍番号)</p> <p>総合研究大学院大学学位規則第6条第1項の規定に基づき、下記の関係書類を添え、博士論文審査を出願します。</p> <p>1 提出書類 学位申請論文 5部 博士論文目録 5部 博士論文要旨 5部 履歴書 5部 参考となる他の論文等 5部 2 取得希望学位(付記する専攻分野) 博士 ()</p> <p>(備考) 1 付記する専攻分野を複数有する専攻の出願者は取得希望の付記する専攻分野を記入すること。 2 修士の学位の特例授与の出願者は「規則第6条」を「規則第16条」に、「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。 3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。</p>		

別紙様式2 博士論文目録(第6条関係)

博士論文目録		年 月 日
出願者	物理科学研究所○○○○科学専攻 <small>ふりがな</small> 氏 名 (学籍番号)	
<p>学位申請博士論文</p> <p>(1) 題 目</p> <p>(2) 目 次</p> <p>(3) 冊 数</p> <p>(4) 発表論文リスト</p> <p>(5) その他</p>		

- (備考) 1 「目次」及び「発表論文リスト」は別紙で添付すること。
 2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
 3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式3 博士論文要旨 (第6条関係)

博士論文要旨 年 月 日 出願者 物理学研究科○○○○科学専攻 氏名 (学籍番号)
論文題目 _____ _____
要旨 _____ _____ _____

(備考) 1 和文で作成する場合は2,000字～3,000字、英文で作成する場合は700語～2,000語程度で作成すること。
 2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
 3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式4 履歴書 (第6条関係)

履 歴 書		年 月 日
出 願 者	物理学研究科○○○○科学専攻 氏名	男・女
生年月日	年 月 日生	
現住所	〒 電話 ()	
連絡先	〒 電話 ()	
年 月	学 歴 ・ 職 歴	

年 月	研 究 歴
備 考	

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式5 博士論文審査委員推薦依頼書 (第6条関係)

博士論文審査委員推薦依頼書		年 月 日
物理学研究科○○○○科学専攻 殿	物理学研究科長	印
下記の者の博士論文審査に係る審査委員候補者を推薦願います。		
記		
出 願 者	物理学研究科○○○○科学専攻	(学籍番号)
論文題目	_____	
(備考) 1 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。		

別紙様式6 博士論文審査委員推薦書 (第7条関係)

博士論文審査委員推薦書		年 月 日
物理学研究科長 殿	物理学研究科○○○○科学専攻長	印
年 月 日付けで依頼のありました審査委員候補者を下記のとおり推薦します。		
記		
出 願 者	物理学研究科○○○○科学専攻	(学籍番号)
論文題目	_____	
研究科所属の教員(3人以上) 所 属 氏 名 _____ _____		

他研究科・他大学等の教員等（規則第9条第3項の規定による者）
所 属
氏 名

(備考) 1 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特
定課題研究」に読み替えて作成すること。
2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

年 月 日
〇〇〇〇研究科〇〇〇〇専攻長 確認 印

(備考) 1 審査委員氏名欄に自筆署名した場合は、押印を省略することが
できる。
2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特
定課題研究」に読み替えて作成すること。
3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式7 博士論文審査等報告書（第11条関係）

物理学研究科長 殿		年 月 日
博士論文審査等報告書		
出 願 者	物理学研究科〇〇〇〇科学専攻 氏 名 (学籍番号)	
論 文 題 目	主 査	印 印 印 印 印 印
審査委員氏名		
授与する学位 (付記する 専攻分野)	博 士 ()	
(論文審査結果) [年 月 日実施]	
(試験結果) [年 月 日実施]	
(専攻委員会の審議結果) [年 月 日実施]	

総合研究大学院大学物理科学研究科における課程博士の学位授与に係る
予備審査の手続きに関する細則

〔平成16年4月14日
大学細則物研第1号〕

一部改正 18.2.23/19.2.22

(趣旨)

第1条 この細則は、総合研究大学院大学物理科学研究科における課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程（平成16年大学規程物研第4号。以下「規程」という。）第4条第1項第4号若しくは同条第2項第4号及び第15条の規定に基づき、物理科学研究科の専攻が行う課程博士の学位授与に係る予備審査の手続きについて定めるものとする。

(必要な書類)

第2条 規程第4条第1項第4号若しくは同条第2項第4号に規定する専攻が行う予備審査を受けようとする者は、各専攻が別に定める日までに、主任指導教員の承認を得、次の各号に掲げる書類を専攻長に提出するものとする。

- (1) 博士論文審査出願論文草稿等 1部
- (2) その他の参考資料 1部

(予備審査委員会)

第3条 専攻長は、前条各号の書類を受理したときは、専攻委員会の議を経て、次の各号に掲げる者で予備審査委員会を組織するものとする。

- (1) 専攻の教授、准教授、講師又は助教
- (2) 予備審査を出願した者（以下「出願者」という。）の研究指導を担当する教員
- (3) その他の専攻委員会が必要と認めた者

(予備審査委員会の審査等)

第4条 予備審査委員会は、出願者の在学期間、単位修得状況、研究指導を受けた状況等の確認を行うとともに、博士論文の審査及び試験に出願することの適否について審査するものとする。

2 前項の審査は、規程第5条第1項に規定する出願期間の最初の日の前日までに行うものとする。

(専攻長への報告等)

第5条 予備審査委員会は、前条第1項の結果を専攻長に報告するものとする。

2 専攻長は、予備審査の結果を出願者に通知するものとする。

(予備審査の評価基準とその明示)

第6条 予備審査に係る評価の基準等については、授業計画その他専攻長が別に定める。
2 前項に規定する評価の基準等は、あらかじめ出願資格者に明示するものとする。

(雑則)

第7条 この細則に定めるもののほか、出願期間及び必要な様式等予備審査の手続きの実施に関して必要な事項は、専攻が別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月14日から施行する。

附 則 (平成18年2月23日大学細則物研第1号)

この細則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年2月22日大学細則物研第1号)

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

平成16年4月14日
大学規程高研第4号

一部改正 17.9.14/18.9.14

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学位規則(平成元年規則第2号。以下「規則」という。)第23条の規定に基づき、高エネルギー加速器科学研究所(以下「本研究科」という。)の各専攻の所定の課程を修了した者に授与する博士の学位及び特別授与する修士の学位に係る論文審査等の手続きその他必要な事項について定めるものとする。

(博士の学位の授与)

第2条 本研究科の専攻を修了した者には、博士の学位を授与する。

第3条 博士の学位には、審査の出願があつた博士論文1編につき一専攻分野を付記するものとする。

第4条 前項の規定により付記する専攻分野は、次の各号に掲げる分野とする。

(1) 加速器科学専攻

「学術」とする。ただし、加速器科学に係る理学又は工学の分野を主な内容とする博士論文については、「理学」又は「工学」とする。

(2) 物質構造科学専攻

「学術」とする。ただし、物質構造科学に係る理学又は工学の分野を主な内容とする博士論文については、「理学」又は「工学」とする。

(3) 素粒子原子核専攻

「理学」とする。ただし、素粒子原子核に係る学際的分野とする博士論文については、「学術」とする。

(修士の学位の特別授与)

第3条 前条の規定にかかわらず、規則第5条第1項に規定する授与要件を満たす者には、修士の学位を授与することができる。

第4条 修士の学位には、審査の出願があつた修士論文又は特定課題研究1編につき一専攻分野を付記するものとする。

第5条 前項の規定により付記する専攻分野は、次の各号に掲げる分野とする。

(1) 加速器科学専攻

「学術」とする。ただし、加速器科学に係る理学又は工学の分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「理学」又は「工学」とする。

(2) 物質構造科学専攻

「学術」とする。ただし、物質構造科学に係る理学又は工学の分野を主な内容とする

る修士論文又は特定課題研究については、「理学」又は「工学」とする。

(3) 素粒子原子核専攻

「理学」とする。ただし、素粒子原子核に係る学際的分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「学術」とする。

(博士論文審査等の出願資格)

第4条 総合研究大学院大学学位規則(平成16年学位規則第1号。以下「学位規則」という。)第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本研究科の各専攻における修了までの在学期間が5年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者については在学期間は、3年以上で足りるものであること。

(2) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき所定の単位数以上を次条に規定する出願の期間までに修得していること又は修了見込みの日までに修得することが確実であること。

(3) 必要な研究指導を受けていること。

(4) 本研究科が別に定めるところにより、専攻が行う予備審査に合格していること。

第5条 学位規則第16条第2項に規定する後期3年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本研究科の各専攻における修了までの在学期間が3年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学位規則第37条に規定する在学期間以上で足りるものであること。

(2) 必要な研究指導を受けていること。

(3) 本研究科が別に定めるところにより、専攻が行う予備審査に合格していること。

(博士論文審査の出願期間)

第6条 博士論文審査の出願の期間は、3月末に修了見込みの前条に規定する出願資格を有する者(以下「出願資格者」という。)にあつてはその前年の11月26日からその年の12月10日まで、9月末に修了見込みの出願資格者にあつてはその年の5月26日から6月10日までとする。

第7条 研究科教授会は、特にやむを得ないと認められる者について、出願の期間を別に定めることができる。

(博士論文審査の出願に必要な書類)

第8条 出願資格者は、次に掲げる書類を、出願資格者が所属する専攻の専攻長を經由して、研究科長に提出するものとする。

(1) 博士論文審査出願書(別紙様式1)

(2) 博士論文

(3) 博士論文目録(別紙様式2)

(4) 博士論文要旨(別紙様式3)

(5) 履歴書(別紙様式4)

1部
5部
5部
5部
5部

5 部

(6) 参考となる他の論文等

2 研究科長は、前項各号の書類を受理したときは、直ちにその博士論文の審査及び試験を研究科教授会に付託するとともに、審査及び試験に当たる審査委員の選出について、博士論文審査委員推薦依頼書（別紙様式5）により、その出願を受理された者（以下「出願者」という。）が所属する専攻の意見を聴くものとする。

3 第1項第2号の博士論文は、出願者が主体的に行った研究について審査制度の確立した学術雑誌に掲載されたもの又は掲載され得るものを基礎に独自に作成されたものとする。

(審査委員及び審査委員会)

第7条 研究科教授会は、前条第2項の規定に基づき出願者が所属する専攻から提出のあった博士論文審査委員推薦書（別紙様式6）により、審査委員を選出するものとする。

2 前項の規定により選出された審査委員は、審査委員会を組織し、その審査委員会を運営するために主査1人を互選するものとする。この場合において、出願者の研究指導を担当する教員が審査委員に選出されているときは、当該審査委員会の主査にならないうものとする。

(指導教員等の意見の聴取等)

第8条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験に当たり、その出願者の研究指導を担当する教員の意見を聴くものとする。ただし、審査委員会に当該教員が審査委員として選出されている場合には、これを要しないものとする。

2 審査委員会は、必要と認めるときは、審査委員以外の本学の教員及び他の大学、研究所等の教員等に博士論文の審査に関する意見を聴くことができる。

(論文発表会の開催)

第9条 審査委員会は、その出願者による論文の発表会について、出願者の所属する専攻の専攻長と協議するものとする。

2 専攻長は、前項の協議に基づき、公開の論文発表会を開催するものとする。

(試験)

第10条 試験は、博士論文の審査が終了した後に、その博士論文を中心としてそれに関連がある専門分野及びその基礎となる分野に関する学識について、筆記又は口述により行うものとする。

(専攻委員会及び研究科教授会の審査)

第11条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を、研究科長が第6条第1項に規定する博士論文審査の出願に必要な書類を受理した日から3ヶ月以内に終了させなければならぬ。

2 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を前項の期間内に終了させることができないう特別の理由があるときは、研究科教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

3 審査委員会は、博士論文の審査及び試験の終了後、それらの結果等を博士論文審査等報告書（別紙様式7）により専攻委員会へ通知するものとし、専攻委員会はその通知に基づき、学位授与の可否について審議するものとする。

4 審査委員会は、前項の専攻委員会の審議結果等を博士論文審査等報告書の該当欄に記入し、その報告書により研究科教授会に報告するものとする。

5 研究科教授会は、前項の報告に基づき、学位授与の可否について審議し、議決するものとする。

(修士論文審査等の出願資格)

第12条 学則第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、修士論文又は特定課題研究の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本研究科を退学する旨の届出を提出した者であること。

(2) 本研究科の各専攻における退学までの在学期間が2年以上であること。

(3) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき30単位以上を修得していること又は退学予定の日までに修得することが確実であること。

(4) 必要な研究指導を受けていること。

(修士論文審査の出願その他論文審査等の準用)

第13条 修士論文審査の出願に必要な書類、審査委員及び審査委員会、指導教員の意見の聴取等、試験並びに専攻委員会及び研究科教授会の審査については、第6条(同条第3項を除く。)から第8条まで、第10条及び第11条の規定を準用する。

2 前項の規定を準用する場合において、これらの規定中「博士論文」とあるのは「修士論文又は特定課題研究」と、「出願資格者」とあるのは「第12条に規定する出願資格を有する者」と読み替えて適用する。

(修士論文審査等の特例)

第14条 前条の規定にかかわらず、審査委員及び審査委員会並びに試験については、研究科の各専攻が別に定めるところにより、研究科に所属する複数の教員により行う研究指導をもって、審査委員及び審査委員会並びに試験に代えることができる。この場合において、第6条第2項、第7条及び第10条の規定を準用しない。

(博士論文評価基準及びその明示等)

第15条 博士論文もしくは修士論文又は特定課題研究に係る評価の基準等については、授業計画その他専攻長が別に定める。

2 前項に規定する評価の基準等は、あらかじめ出願資格者に明示するものとする。

(雑則)

第16条 この規程に定めるもののほか、博士の学位に係る論文審査等の手続き等の実施に關して必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

別紙様式1 博士論文審査出願書（第6条関係）

博士論文審査出願書	年 月 日
高エネルギー加速器科学研究科長 殿	主任指導教員 専攻 長 確 認 印 確 認 印
出願者 高エネルギー加速器科学研究科○○○○専攻 氏 名 (学籍番号)	
総合研究大学院大学学位規則第6条第1項の規定に基づき、下記の関係書類を添え、博士論文審査を出願します。	
1	提出書類 学位申請論文 5部 博士論文目録 5部 博士論文要旨 5部 履歴書 5部 参考となる他の論文等 2 取得希望学位（付記する専攻分野） 博士（ ）
記	
<p>(備考) 1. 付記する専攻分野を複数有する専攻の出願者は取得希望の付記する専攻分野を記入すること。</p> <p>2. 修士の学位の特例授与の出願者は「規則第6条」を「規則第16条」に、「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。</p> <p>3. 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。</p>	

附 則

この規程は、平成16年4月14日から施行する。

附 則（平成17年9月14日 大学規程高研第2号）

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 この規程施行の際現に本研究科に在学する学生は、総合研究大学院大学学位の一部を改正する学則（平成17年学則第2号）附則第2項の規定に基づき、改正後の第4条第1項に規定する後期3年の課程を履修する者として適用する。ただし、出願資格の要件については、改正前の第3条の規定を適用する。

附 則（平成18年9月14日 大学規程高研第7号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

別紙様式2 博士論文目録（第6条関係）

博士論文目録		年 月 日
出 願 者	高エネルギー加速器科学研究科○○○○専攻 氏 名 (学籍番号)	
学位申請博士論文		
(1) 題 目		
(2) 目 次		
(3) 冊 数		
(4) 発表論文リスト		
(5) その他		

(備考) 1 「目次」及び「発表論文リスト」は別紙で添付すること。
 2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
 3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

年	月	研	究	歴
備	考			

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式3 博士論文要旨 (第6条関係)

博士論文要旨

年 月 日

出願者 高エネルギー加速器科学研究科○○○○専攻
ふりがな 氏名 (学籍番号)

論文題目 _____

要旨 _____

(備考) 1 和文で作成する場合は2,000字～3,000字、英文で作成する場合は700語～2,000語程度で作成すること。
 2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
 3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式5 博士論文審査委員推薦依頼書 (第6条関係)

博士論文審査委員推薦依頼書

年 月 日

高エネルギー加速器科学研究科○○○○専攻長 殿 印
 高エネルギー加速器科学研究科長

下記の者の博士論文審査に係る審査委員候補者を推薦願います。

記

出願者 高エネルギー加速器科学研究科○○○○専攻
ふりがな 氏名 (学籍番号)

論文題目 _____

(備考) 1 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式6 博士論文審査委員推薦書 (第7条関係)

博士論文審査委員推薦書

年 月 日

高エネルギー加速器科学研究科長 殿
 高エネルギー加速器科学研究科○○○○専攻長 印

年 月 日付けで依頼のありました審査委員候補者を下記のとおり推薦します。

記

出願者 高エネルギー加速器科学研究科○○○○専攻
ふりがな 氏名 (学籍番号)

論文題目 _____

研究所属の教員(3人以上)

所	属	氏	名

別紙様式4 履歴書 (第6条関係)

履歴書

年 月 日

出願者	高エネルギー加速器科学研究科○○○○専攻 <small>ふりがな</small> 氏名	男・女
生年月日	年 月 日生	
現住所	〒 電話 ()	
連絡先	〒 電話 ()	
年 月	学 歴 ・ 職 歴	

他研究科・他大学等の教員等（規則第9条第3項の規定による者）
所 属 氏 名

(備考) 1 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

(専攻委員会の審議結果) [年 月 日実施]

年 月 日
高エネルギー加速器科学研究科〇〇〇〇専攻長 確認 印

(備考) 1 審査委員氏名欄に自筆署名した場合は、押印を省略すること
が
2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式7 博士論文審査等報告書 (第11条関係)

博士論文審査等報告書

高エネルギー加速器科学研究科長 殿	年 月 日
出 願 者 高エネルギー加速器科学研究科〇〇〇〇専攻 氏 名 (学籍番号)	
論 文 題 目 主 査	印
審査委員氏名	印 印 印 印 印 印
授与する学位 (付記する 専攻分野)	博 士 ()
(論文審査結果) [年 月 日実施]	
(試験結果) [年 月 日実施]	

〔平成16年4月14日
大学細則高研第1号〕

一部改正 17.9.14/18.9.14

(趣旨)

第1条 この細則は、総合研究大学院大学高エネルギー加速器科学研究科における課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手續き等に関する規程（平成16年大学規程高研第4号。以下「規程」という。）第4条第1項第4号若しくは同条第2項第3号及び第15条の規定に基づき、高エネルギー加速器科学研究科の専攻が行う課程博士の学位授与に係る予備審査の手續きについて定めるものとする。

(必要な書類)

第2条 規程第4条第1項第4号若しくは同条第2項第3号に規定する専攻が行う予備審査を受けようとする者は、各専攻が別に定める日までに、主任指導教員の承認を得て、次の各号に掲げる書類を専攻長に提出するものとする。

- (1) 博士論文審査出願論文草稿等 1部
- (2) その他の参考資料 1部

(予備審査委員会)

第3条 専攻長は、前条各号の書類を受理したときは、専攻委員会の議を経て、次の各号に掲げる者で予備審査委員会を組織するものとする。

- (1) 専攻の教授、准教授、講師又は助教
- (2) 予備審査を出願した者（以下「出願者」という。）の研究指導を担当する教員
- (3) その他の専攻委員会が必要と認めた者

(予備審査委員会の審査等)

第4条 予備審査委員会は、出願者の在学期間、単位修得状況、研究指導を受けた状況等の確認を行うとともに、博士論文の審査及び試験に出願することの適否について審査するものとする。

2 前項の審査は、規程第5条第1項に規定する出願期間の最初の日の前日までに行うものとする。

(専攻長への報告等)

第5条 予備審査委員会は、前条第1項の結果を専攻長に報告するものとする。

2 専攻長は、予備審査の結果を出願者に通知するものとする。

(予備審査の評価基準とその明示等)

第6条 予備審査に係る評価の基準等については、授業計画その他専攻長が別に定める。

2 前項に規定する評価の基準等は、あらかじめ出願者に明示するものとする。

(雑則)

第7条 この細則に定めるもののほか、出願期間及び必要な様式等予備審査の手續きの実施に関して必要な事項は、専攻が別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月14日から施行する。

附 則（平成17年9月14日大学細則高研第1号）

この細則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則（平成18年9月14日大学細則高研第7号）

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

平成16年4月22日
大学規程複研第4号

一部改正 16.9.15/18.2.24/18.9.15

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学位規則(平成元年規則第2号。以下「規則」という。)第23条の規定に基づき、複合科学研究科(以下「本研究科」という。)の各専攻の所定の課程を修了した者に授与する博士の学位及び特別授与する修士の学位に係る論文審査等の手続きその他必要な事項について定めるものとする。

(博士の学位の授与)

- 第2条 本研究科の専攻を修了した者には、博士の学位を授与する。
- 2 博士の学位には、審査の出願があつた博士論文1編につき一専攻分野を付記するものとする。
- 3 前項の規定により付記する専攻分野は、次の各号に掲げる分野とする。

- (1) 統計科学専攻
「統計科学」とする。ただし、統計科学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文1編については、「学術」とする。
- (2) 極域科学専攻
「理学」とする。ただし、極域科学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とする。
- (3) 情報学専攻
「情報学」とする。ただし、情報学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とする。

(修士の学位の特例授与)

- 第3条 前条の規定にかかわらず、規則第5条第1項に規定する授与要件を満たす者には、修士の学位を授与することができる。
- 2 修士の学位には、審査の出願があつた修士論文又は特定課題研究1編につき一専攻分野を付記するものとする。
- 3 前項の規定により付記する専攻分野は、次の各号に掲げる分野とする。

- (1) 統計科学専攻
「統計科学」とする。ただし、統計科学に係る学際的分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「学術」とする。
- (2) 極域科学専攻
「理学」とする。ただし、極域科学に係る学際的分野を主な内容とする修士論文

は特定課題研究については、「学術」とする。

(3) 情報学専攻

「情報学」とする。ただし、情報学に係る学際的な分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「学術」とする。

(博士論文審査等の出願資格)

第4条 総合研究大学院大学学位規則(平成16年学位規則第1号。以下「学位規則」という。)第16条第2項に規定する後期3年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

- (1) 本研究科の各専攻における修了までの在学期間が3年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学位規則第37条に規定する在学期間以上で足りるものであること。
- (2) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき所定の単位数以上を次条に規定する出願の期間までに修得していること又は修了見込みの日までに修得すること。が確実であること。
- (3) 必要な研究指導を受けていること。
- (4) 本研究科が別に定めるところにより、専攻が行う予備審査に合格していること。

2 学位規則第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

- (1) 本研究科の各専攻における修了までの在学期間が5年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者についての在学期間は、3年以上で足りるものであること。
- (2) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき所定の単位数以上を次条に規定する出願の期間までに修得していること又は修了見込みの日までに修得すること。が確実であること。
- (3) 必要な研究指導を受けていること。
- (4) 本研究科が別に定めるところにより、専攻が行う予備審査に合格していること。

(博士論文審査の出願期間)

第5条 博士論文審査の出願の期間は、別表のとおりとする。

2 研究科教授会は、特にやむを得ないと認められる者について、出願の期間を別に定めることができる。

(博士論文審査の出願に必要な書類)

第6条 出願資格者は、次に掲げる書類を、出願資格者が所属する専攻の専攻長を経由して、研究科長に提出するものとする。

- (1) 博士論文審査出願書(別紙様式1) 1部
- (2) 博士論文 5部
- (3) 博士論文目録(別紙様式2) 5部
- (4) 博士論文要旨(別紙様式3) 5部
- (5) 履歴書(別紙様式4) 5部

(6) 参考となる他の論文等

5 部

2 研究科長は、前項各号の書類を受理したときは、直ちにその博士論文の審査及び試験を研究科教授会に付託するとともに、審査及び試験に当たる審査委員の選出について、博士論文審査委員推薦依頼書（別紙様式5）により、その出願を受理された者（以下「出願者」という。）が所属する専攻の意見を聴くものとする。

3 第1項第2号の博士論文は、出願者が主体的に行なった研究について審査制度の確立した学術雑誌に掲載されたもの又は掲載され得るものを基礎に独自に作成されたものとする。

（審査委員及び審査委員会）

第7条 研究科教授会は、前条第2項の規定に基づき出願者が所属する専攻から提出のあった博士論文審査委員推薦書（別紙様式6）により、審査委員を選出するものとする。

2 前項の規定により選出された審査委員は、審査委員会を組織し、その審査委員会を運営するために主査1人を互選するものとする。

（指導教員等の意見の聴取等）

第8条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験に当たり、その出願者の研究指導を担当する教員の意見を聴くものとする。ただし、審査委員会に当該教員が審査委員として選出されている場合には、これを要しないものとする。

2 審査委員会は、必要と認めたときは、審査委員以外の本学の教員及び他の大学、研究所等の教員等に博士論文の審査に関する意見を聴くことができる。

（論文発表会の開催）

第9条 審査委員会は、その出願者による論文の発表会について、出願者の所属する専攻の専攻長と協議するものとする。

2 専攻長は、前項の協議に基づき、公開の論文発表会を開催するものとする。

（試験）

第10条 試験は、博士論文の審査が終了した後、その博士論文を中心としてそれに関連がある専門分野及びその基礎となる分野に関する学識について、筆記又は口述により行うものとする。

（専攻委員会及び研究科教授会の審査）

第11条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を、研究科長が第5条第1項に規定する博士論文審査の出願に必要な書類を受理した日から3ヶ月以内に終了させなければならぬ。

2 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を前項の期間内に終了させることができなない理由があるときは、研究科教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

3 審査委員会は、博士論文の審査及び試験の終了後、それらの結果等を博士論文審査等報告書（別紙様式7）により専攻委員会へ通知するものとし、専攻委員会はその通知に

基づき、学位授与の可否について審議するものとする。

4 審査委員会は、前項の専攻委員会の審議結果等を博士論文審査等報告書の該当欄に記載し、その報告書により研究科教授会に報告するものとする。

5 研究科教授会は、前項の報告に基づき、学位授与の可否について審議し、議決するものとする。

（修士論文審査等の出願資格）

第12条 学則第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、修士論文又は特定課題研究の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本研究科を退学する旨の届出を提出した者であること。

(2) 本研究科の各専攻における退学までの在学期間が2年以上であること。

(3) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき30単位以上を修得していること又は退学予定の日までに修得することが確実であること。

(4) 必要な研究指導を受けていること。

（修士論文審査の出願その他論文審査等の準用）

第13条 修士論文審査の出願に必要な書類、審査委員及び審査委員会、指導教員の意見の聴取等、試験並びに専攻委員会及び研究科教授会の審査については、第6条（同条第3項を除く。）から第8条まで、第10条及び第11条の規定を準用する。

2 前条の規定を準用する場合において、これらの規定中「博士論文」とあるのは「修士論文又は特定課題研究」と、「出願資格者」とあるのは「第12条に規定する出願資格を有する者」と読み替えて適用する。

（修士論文審査等の特例）

第14条 前条の規定にかかわらず、審査委員及び審査委員会並びに試験については、研究科の各専攻が別に定めるところにより、研究科に所属する複数の教員により行う研究指導等をもって、審査委員及び審査委員会並びに試験に代えることができる。この場合において、第6条第2項、第7条及び第10条の規定を準用しない。

（博士論文評価基準等及びその明示等）

第15条 博士論文もしくは修士論文又は特定課題研究に係る評価の基準については、授業計画その他専攻長が別に定める。

2 前項に規定する評価の基準等は、あらかじめ出願資格者に明示するものとする。

（雑則）

第16条 この規程に定めるもののほか、博士の学位に係る論文審査等の手続き等の実施に關して必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月22日から施行する。

附 則（平成16年9月15日大学規程複研第5号）

この規程は、平成16年11月2日から施行する。

附 則（平成18年2月24日大学規程複研第2号）

1 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

2 この規程施行の際現に本研究科に在学する学生は、総合研究大学院大学学則の一部を改正する学則（平成17年学則第2号）附則第2項の規定に基づき、改正後の第4条第1項に規定する後期3年の課程を履修する者として適用する。ただし、出願資格の要件については、改正前の第3条の規定を適用する。

附 則（平成18年9月15日大学規程複研第7号）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

専攻の区分	出願資格者の区分	出 願 期 間
極域科学専攻	3月末に修了見込みの者	その前年の11月26日から12月10日まで
	9月末に修了見込みの者	その年の5月26日から6月10日まで
統計科学専攻 情報学専攻	3月末に修了見込みの者	その前年の12月20日からその年の1月10日まで
	9月末に修了見込みの者	その年の6月16日から6月30日まで

別紙様式1 博士論文審査出願書（第6条関係）

博士論文審査出願書

複合科学研究科長 殿

主任指導教員 専 攻 長
確 認 印 確 認 印

年 月 日

出願者 複合科学研究科○○○学専攻
氏 名 (学籍番号)

総合研究大学院大学学位規則第6条第1項の規定に基づき、下記の関係書類を添え、博士論文審査を出願します。

記

1 提出書類
学位申請論文 5部
博士論文目録 5部
博士論文要旨 5部
履 歴 書 5部
参考となる他の論文等

2 取得希望学位（付記する専攻分野） 博士（ ）

（備考）1 付記する専攻分野を複数有する専攻の出願者は取得希望の付記する専攻分野を記入すること。
2 修士の学位の特例授与の出願者は「規則第6条」を「規則第16条」に、「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式2 博士論文目録（第6条関係）

博 士 論 文 目 録

年 月 日

出 願 者	複合科学研究科○○○学専攻 氏 名 (学籍番号)
学位申請博士論文	
(1) 題 目	
(2) 目 次	
(3) 冊 数	
(4) 発表論文リスト	
(5) その他	

- (備考) 1 「目次」及び「発表論文リスト」は別紙で添付すること。
 2 修士の学位の特例授与の申請者は「博士論文」を「修士論文又は特
 定課題研究」に読み替えて作成すること。
 3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式3 博士論文要旨 (第6条関係)

博士論文要旨	
年 月 日	
出願者 複合科学研究科○○○学専攻 氏 名 (学籍番号)	
論文題目	
要旨	
(備考) 1 和文で作成する場合は2,000字～3,000字、英文で作成する場 合は700語～2,000語程度で作成すること。 2 修士の学位の特例授与の申請者は「博士論文」を「修士論文又は 特定課題研究」に読み替えて作成すること。 3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。	

年 月 日	研 究 歴
備考	
(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。	

別紙様式5 博士論文審査委員推薦依頼書 (第6条関係)

博士論文審査委員推薦依頼書	
年 月 日	
複合科学研究科○○○学専攻長 殿	複合科学研究科長 印
下記の者の博士論文審査に係る審査委員候補者を推薦願います。	
記	
出願者 複合科学研究科○○○学専攻 氏 名 (学籍番号)	
論文題目	
(備考) 1 修士の学位の特例授与の申請者は「博士論文」を「修士論文又は 特定課題研究」に読み替えて作成すること。 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。	

別紙様式6 博士論文審査委員推薦書 (第7条関係)

博士論文審査委員推薦書	
年 月 日	
複合科学研究科長 殿	複合科学研究科○○○学専攻長 印
年 月 日 付けで依頼のありました審査委員候補者を下記のとおり 推薦します。	
記	
出願者 複合科学研究科○○○学専攻 氏 名 (学籍番号)	
論文題目	
研究科所属の教員 (3人以上)	
所 属	氏 名

別紙様式4 履歴書 (第6条関係)

履 歴 書		年 月 日
出願者 複合科学研究科○○○学専攻 氏 名		男・女
生年月日	年 月 日生	
現住所	〒 電話 ()	
連絡先	〒 電話 ()	
年 月	学 歴 ・ 職 歴	

総合研究大学院大学複合科学研究科における課程博士
の学位授与に係る予備審査の手続きに関する細則

〔平成16年4月22日
大学細則複研第1号〕

一部改正 18.2.24/18.9.15

(趣旨)

第1条 この細則は、総合研究大学院大学複合科学研究科における課程博士及び修士の学位授与に係る論文審査等の手続き等に関する規程（平成16年大学規程複研第4号。以下「規程」という。）第4条第1項第4号若しくは同条第2項第4号並びに第15条の規定に基づき、複合科学研究科の専攻が行う課程博士の学位授与に係る予備審査の手続きについて定めるものとする。

(必要な書類)

第2条 規程第4条第1項第4号若しくは同条第2項第4号に規定する専攻が行う予備審査を受けようとする者は、各専攻が別に定める日までに、主任指導教員の承認を得て、次の各号に掲げる書類を専攻長に提出するものとする。

- (1) 博士論文審査出願論文草稿等 1部
- (2) その他の参考資料 1部

(予備審査委員会)

第3条 専攻長は、前条各号の書類を受理したときは、専攻委員会の議を経て、次の各号に掲げる者で予備審査委員会を組織するものとする。

- (1) 専攻の教授、准教授、講師又は助教
- (2) 予備審査を出願した者（以下「出願者」という。）の研究指導を担当する教員
- (3) その他の専攻委員会が必要と認めた者

(予備審査委員会の審査等)

第4条 予備審査委員会は、出願者の在学期間、単位修得状況、研究指導を受けた状況等の確認を行うとともに、博士論文の審査及び試験に出願することの適否について審査するものとする。

2 前項の審査は、規程第5条第1項に規定する出願期間の最初の日の前日までに行うものとする。

(専攻長への報告等)

第5条 予備審査委員会は、前条第1項の結果を専攻長に報告するものとする。

2 専攻長は、予備審査の結果を出願者に通知するものとする。

(予備審査の評価基準等とその明示等)

第6条 予備審査に係る評価の基準等については、授業計画にその他専攻長が別に定める。2 前項に規定する評価の基準等は、あらかじめ出願者に明示するものとする。

(雑則)

第7条 この細則に定めるもののほか、出願期間及び必要な様式等予備審査の手続きの実施に関して必要な事項は、専攻が別に定める。

附 則

この細則は、平成16年4月22日から施行する。

附 則 (平成18年2月24日大学細則複研第1号)

この細則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年9月15日大学細則複研第2号)

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

〔平成29年9月26日
規程生研第1号〕

一部改正 3.9.26/4.5.22/4.9.17
10.9.16/11.3.24/16.4.14
17.2.22/18.9.12/19.3.19

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学位規則（平成元年規則第2号。以下「規則」という。）第23条の規定に基づき、生命科学研究所（以下「本研究科」という。）の各専攻の所定の課程を修了した者に授与する博士の学位及び特例授与する修士の学位に係る論文審査等の手続きその他必要な事項について定めるものとする。

(博士の学位授与)

第2条 本研究科の専攻を修了した者には、博士の学位を授与する。

2 博士の学位には、審査の出願があつた博士論文1編につき一専攻分野を付記するものとする。

3 前項の規定により付記する専攻分野は、次の各号に掲げる分野とする。

(1) 遺伝学専攻

「理学」とする。ただし、遺伝学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とする。

(2) 基礎生物学専攻

「理学」とする。ただし、基礎生物学に係る学際的分野を主な内容とする博士論文については、「学術」とする。

(3) 生理科学専攻

「学術」又は「理学」とする。ただし、生理科学に係る医学の分野を主な内容とする博士論文については、「医学」とする。

(修士の学位の特例授与)

第3条 前条の規定にかかわらず、規則第5条第1項に規定する授与要件を満たす者には、修士の学位を授与することができる。

2 修士の学位には、審査の出願があつた修士論文又は特定課題研究1編につき一専攻分野を付記するものとする。

3 前項の規定により付記する専攻分野は、次の各号に掲げる分野とする。

(1) 遺伝学専攻

「理学」とする。ただし、遺伝学に係る学際的分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「学術」とする。

(2) 基礎生物学専攻

「理学」とする。ただし、基礎生物学に係る学際的分野を主な内容とする修士論文又は特定課題研究については、「学術」とする。

(3) 生理科学専攻

「学術」又は「理学」とする。

(博士論文審査等の出願資格)

第4条 総合研究大学院大学学位規則（平成16年学位規則第1号。以下「学位規則」という。）第16条第2項に規定する後期3年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本研究科の各専攻における修了までの在学期間が3年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学位規則第37条に規定する在学期間以上で足りるものであること。

(2) 必要な研究指導を受けていること。

2 学位規則第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本研究科の各専攻における修了までの在学期間が5年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者についての在学期間は、3年以上で足りるものであること。

(2) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき所定の単位数以上を次条に規定する出願の期間までに修得していること又は修了見込みの日までに修得することが確実であること。

(3) 必要な研究指導を受けていること。

(博士論文審査の出願期間)

第5条 博士論文審査の出願の期間は、3月末に修了見込みの前条に規定する出願資格を有する者（以下「出願資格者」という。）にあつてはその前年の12月20日からその年の1月10日まで、9月末に修了見込みの出願資格者にあつてはその年の6月16日から6月30日までとする。

2 研究科教授会は、特に必要があると認められる者について、出願の期間を別に定めることができる。

(博士論文審査の出願に必要な書類)

第6条 出願資格者は、次に掲げる書類を、出願資格者が所属する専攻の専攻長を経由して、研究科長に提出するものとする。

(1) 博士論文審査出願書（別紙様式1） 1部

(2) 博士論文 5部

(3) 博士論文目録（別紙様式2） 5部

(4) 博士論文要旨（別紙様式3） 5部

(5) 履歴書（別紙様式4） 5部

(6) 参考となる他の論文等 5部

2 研究科長は、前項各号の書類を受理したときは、直ちにその博士論文の審査及び試験を研究科教授会に付託するとともに、審査及び試験に当たたる審査委員の選出について、博士論文審査委員推薦依頼書（別紙様式5）により、その出願を受理された者（以下「出願者」という。）が所属する専攻の意見を聴くものとする。

（審査委員及び審査委員会）

第7条 研究科教授会は、前条第2項の規定に基づき出願者が所属する専攻から選出のあった博士論文審査委員推薦書（別紙様式6）により、審査委員を選出するものとする。

2 前項の規定により選出された審査委員は、審査委員会を組織し、その審査委員会を運営するために主査1人を互選するものとする。

（指導教員の意見の聴取等）

第8条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験に当たり、その出願者の研究指導を担当する教員の意見を聴くものとする。ただし、審査委員会に当該教員が審査委員として選出されている場合には、これを要しないものとする。

2 審査委員会は、必要と認めたときは、審査委員以外の本学の教員及び他の大学、研究所等の教員等に博士論文の審査の一部を委託し、又はその審査に関する意見を聴くことができる。

（論文発表会の開催）

第9条 審査委員会は、その出願者による論文の発表会について、出願者の所属する専攻の専攻長と協議するものとする。

2 専攻長は、前項の協議に基づき、公開の論文発表会を開催するものとする。

（試験）

第10条 試験は、博士論文の審査が終了した後に、その博士論文を中心としてそれに関連がある専門分野及びその基礎となる分野に関する学識並びに課程修了相当の外国語の能力について、筆記又は口述により行うものとする。

2 前項の外国語の種類は、審査委員会が出願者の主任指導教員と協議して定めるものとする。

（専攻委員会及び研究科教授会の審査）

第11条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を、研究科長が第6条第1項に規定する博士論文審査の出願に必要な書類を受理した日から3ヶ月以内に終了させなければならぬ。

2 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を前項の期間内に終了させることができない特別の理由があるときは、研究科教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

3 審査委員会は、博士論文の審査及び試験の終了後、それらの結果等を博士論文審査等報告書（別紙様式7）により専攻委員会へ通知するものとし、専攻委員会はその通知に基づき、学位授与の可否について審議するものとする。

4 審査委員会は、前項の専攻委員会の審議結果等を博士論文審査等報告書の該当欄に記入し、その報告書により研究科教授会に報告するものとする。

5 研究科教授会は、前項の報告に基づき、学位授与の可否について審議し、議決するものとする。

（修士論文審査等の出願資格）

第12条 学則第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、修士論文又は特定課題研究の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本研究科を退学する旨の届出を提出した者であること。

(2) 本研究科の各専攻における退学までの在学期間が2年以上であること。

(3) 本研究科の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき30単位以上を修得していること又は退学予定の日までに修得することが確実であること。

(4) 必要な研究指導を受けていること。

（修士論文審査の出願その他論文審査等の準用）

第13条 修士論文審査の出願に必要な書類、審査委員及び審査委員会、指導教員の意見の聴取等、試験並びに専攻委員会及び研究科教授会の審査については、第6条から第8条まで、第10条第1項及び第11条の規定を準用する。

2 前条の規定を準用する場合において、これらの規定中「博士論文」とあるのは「修士論文又は特定課題研究」と、「出願資格者」とあるのは「第12条に規定する出願資格を有する者」と読み替えて適用する。この場合において、第10条第1項に規定する外国語の能力に関する試験については適用しない。

（修士論文審査等の特例）

第14条 前条の規定にかかわらず、審査委員及び審査委員会並びに試験については、研究科の各専攻が別に定めるところにより、研究科に所属する複数の教員により行う研究指導をもつて、審査委員及び審査委員会並びに試験に代えることができる。この場合において、第6条第2項、第7条及び第10条第1項の規定を準用しない。

（博士論文評価基準等及びその明示等）

第15条 博士論文もしくは修士論文又は特定課題研究に係る評価の基準等については、授業計画その他の各専攻長が別に定める。

2 前項に規定する評価の基準等は、あらかじめ出願資格者に明示するものとする。

（雑則）

第16条 この規程に定めるもののほか、学位の授与に係る論文審査等の手続き等の実施に

関して必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

別紙様式1 博士論文審査出願書 (第6条関係)

博士論文審査出願書		年	月	日
生命科学研究所長 殿		主任指導教員 専攻 長		
		確認印 確認印		
出願者 生命科学研究所○○○○専攻 氏名 (学籍番号)				
総合研究大学院大学学位規則第6条第1項の規定に基づき、下記の関係書類を添え、博士論文審査を出願します。				
1	提出書類	記		
	学位申請論文	5部		
	博士論文目録	5部		
	博士論文要旨	5部		
	履歴書	5部		
	参考となる他の論文等	5部		
2	取得希望学位 (付記する専攻分野)	博士 ()		
(備考) 1 付記する専攻分野を複数有する専攻の出願者は取得希望の付記する専攻分野を記入すること。				
2 修士の学位の特例授与の出願者は「規則第6条」を「規則第16条」に、「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。				
3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。				

この規程は、平成2年9月26日から施行する。

この規程は、平成3年9月26日から施行し、平成3年7月1日から適用する。

この規程は、平成4年5月22日から施行し、平成4年4月1日から適用する。

この規程は、平成4年9月17日から施行し、平成4年5月1日から適用する。

この規程は、平成10年9月16日規程生研第1号

この規程は、平成10年9月16日から施行する。

この規程は、平成11年3月24日規程生研第2号

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

この規程は、平成16年4月14日大学規程生研第4号

この規程は、平成16年4月14日から施行する。

この規程は、平成17年2月22日大学規程生研第2号

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

この規程は、平成18年9月12日大学規程生研第4号

この規程は、平成18年9月12日から施行する。

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

この規程は、平成19年3月19日大学規程生研第1号

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

別紙様式2 博士論文目録 (第6条関係)

博士論文目録		年	月	日
出願者	生命科学研究所○○○○専攻	(学籍番号)		
氏名				
学位申請博士論文				
(1) 題目				
(2) 目次				
(3) 冊数				
(4) 発表論文リスト				
(5) その他				
(備考) 1 「目次」及び「発表論文リスト」は別紙で添付すること。				
2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。				
3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。				

別紙様式3 博士論文要旨 (第6条関係)

博士論文要旨	年 月 日
出願者 生命科学研究所○○○○専攻 氏名 (学籍番号)	
論文題目	
要旨	
<p>(備考) 1 和文で作成する場合は2,000字～3,000字、英文で作成する場合は700語～2,000語程度で作成すること。</p> <p>2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」と、「2,000字～3,000字」を「500字～3,000字」と、「700語～2,000語」を「200語～2,000語」に読み替えて作成すること。</p> <p>3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。</p>	

備考

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式5 博士論文審査委員推薦依頼書 (第6条関係)

博士論文審査委員推薦依頼書	年 月 日
生命科学研究所○○○○専攻長 殿 生命科学研究所長 印	
下記の者の博士論文審査に係る審査委員候補者を推薦願います。	
記	
出願者 生命科学研究所○○○○専攻 氏名 (学籍番号)	
論文題目	
<p>(備考) 1 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。</p> <p>2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。</p>	

別紙様式6 博士論文審査委員推薦書 (第7条関係)

博士論文審査委員推薦書	年 月 日												
生命科学研究所長 殿 生命科学研究所○○○○専攻長 印													
年 月 日付けで依頼のありました審査委員候補者を下記のとおり推薦します。													
記													
出願者 生命科学研究所○○○○専攻 氏名 (学籍番号)													
論文題目													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">研究所所属の教員 (3人以上)</td> </tr> <tr> <td>所 属</td> <td>氏 名</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>		研究所所属の教員 (3人以上)		所 属	氏 名								
研究所所属の教員 (3人以上)													
所 属	氏 名												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td colspan="2">他研究科・他大学等の教員等 (規則第9条第3項の規定による者)</td> </tr> <tr> <td>所 属</td> <td>氏 名</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>		他研究科・他大学等の教員等 (規則第9条第3項の規定による者)		所 属	氏 名								
他研究科・他大学等の教員等 (規則第9条第3項の規定による者)													
所 属	氏 名												

別紙様式4 履歴書 (第6条関係)

履 歴 書		年 月 日
出願者 生命科学研究所○○○○専攻 氏名	男・女	
生年月日	年 月 日生	
現住所	電話 ()	
連絡先	電話 ()	
年 月	学 歴 ・ 職 歴	
年 月	研 究 歴	

- 2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
- 3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

- (備考) 1 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
- 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式7 博士論文審査等報告書 (第11条関係)

生命科学研究所長 殿
博士論文審査等報告書

年 月 日

出 願 者	生命科学研究所○○○○専攻 氏 名 (学籍番号)	印
論 文 題 目	主 査	印
審査委員氏名		印
授与する学位 (付記する 専攻分野)	博 士 ()	印
(論文審査結果) [年 月 日実施]	印
(試験結果) [年 月 日実施]	
(専攻委員会の審議結果) [年 月 日実施]	
年 月 日	生命科学研究所○○○○専攻長	確認 印

(備考) 1 審査委員氏名欄に自筆署名した場合は、押印を省略することができます。

〔平成19年2月21日〕
大学規程先研第3号
19.2.21/19.5.29/
22.2.16
一部改正

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学学位規則（平成元年規則第2号。以下「規則」という。）第23条の規定に基づき、先導科学研究科（以下「研究科」という。）の生命共生体進化学専攻（以下「本専攻」という。）の所定の課程を修了した者に授与する博士の学位及び特例授与する修士の学位に係る論文審査等の手続きその他必要な事項について定めるものとする。

(博士の学位の授与)

第2条 本専攻を修了した者には、博士の学位を授与する。
2 博士の学位には、審査の出願があつた博士論文1編につき一専攻分野を付記するものとする。
3 前項の規定により付記する専攻分野は、「理学」又は「学術」とする。

(修士の学位の特例授与)

第3条 前条の規定にかかわらず、規則第5条第1項に規定する授与要件を満たす者には、修士の学位を授与することができる。
2 修士の学位には、審査の出願があつた修士論文又は特定課題研究1編につき一専攻分野を付記するものとする。
3 前項の規定により付記する専攻分野は、「理学」又は「学術」とする。

(博士論文審査等の出願資格)

第4条 総合研究大学院大学学位規則（平成16年学位規則第1号。以下「学位規則」という。）第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

- (1) 本専攻における修了までの在学期間が5年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者についての在学期間は、3年以上で足りるものであること。
 - (2) 本専攻の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき所定の単位数以上を次条に規定する出願の期間までに修得していること又は修了見込みの日までに修得することが確実であること。
 - (3) 必要な研究指導を受けていること。
- 2 学位規則第16条第2項に規定する後期3年の課程を履修する者で、博士論文の審査及び試験

験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

(1) 本専攻における修了までの在学期間が3年以上であること。ただし、優れた研究業績を上げた者又は修業年限の調整が認められる者については、学位規則第37条に規定する在学期間以上で足りるものであること。

(2) 本専攻の履修規程に定める所定の授業科目について、修得すべき所定の単位数以上を次条に規定する出願の期間までに修得していること又は修了見込みの日までに修得することが確実であること。

(3) 必要な研究指導を受けていること。

(博士論文審査の出願期間)

第5条 博士論文審査の出願の期間は、3月末に修了見込みの前条に規定する出願資格を有する者（以下「出願資格者」という。）にあつてはその前年の12月20日から1月10日まで、9月末に修了見込みの出願資格者にあつてはその年の6月16日から6月30日までとする。

2 研究科教授会は、特にやむを得ないと認められる者について、出願の期間を別に定めることができる。

(博士論文審査の出願に必要な書類)

第6条 出願資格者は、次に掲げる書類を専攻長を経由して、研究科長に提出するものとする。

- (1) 博士論文審査出願書（別紙様式1） 1部
- (2) 博士論文 5部
- (3) 博士論文目録（別紙様式2） 5部
- (4) 博士論文要旨（別紙様式3） 5部
- (5) 履歴書（別紙様式4） 5部
- (6) 参考となる他の論文等 5部

2 研究科長は、前項各号の書類を受理したときは、直ちにその博士論文の審査及び試験を研究科教授会に付託するとともに、審査及び試験に当たたる審査委員の選出について、博士論文審査委員推薦依頼書（別紙様式5）により本専攻の意見を聴くものとする。

3 第1項第2号の博士論文は、その出願を受理された者（以下「出願者」という。）が主体的に行つた研究について審査制度の確立した学術雑誌に掲載されたもの又は掲載され得るものを基礎に独自に作成されたものとする。

(審査委員及び審査委員会)

第7条 研究科教授会は、前条第2項の規定に基づき本専攻から提出のあつた博士論文審査委員推薦書（別紙様式6）により、審査委員を選出するものとする。

2 前項の規定により選出された審査委員は、審査委員会を組織し、その審査委員会を運営するために主査1人を互選するものとする。

3 第1項の規定により出願者の研究指導を担当する教員が審査委員に選出されているときは、その教員は主査にはならないものとする。

- (3) 本専攻の履修規程に定める所定の授業科目について、修士論文特別研究を含む修得すべき30単位以上を修得していること又は退学予定の日までに修得することが確実にあること。
- (4) 必要な研究指導を受けていること。

(修士論文審査の出願その他論文審査等の準用)

第13条 修士論文審査の出願に必要な書類、審査委員及び審査委員会、指導教員等の意見の聴取等、論文発表会の開催、試験並びに専攻委員会及び研究科教授会の審査については、第6条(同条第3項を除く。)、第7条から第11条までの規定を準用する。

- 2 前項の規定を準用する場合において、これらの規定中「博士論文」とあるのは「修士論文又は特定課題研究」と、「出願資格者」とあるのは「第12条に規定する出願資格を有する者」と読み替えて適用する。この場合において、第10条第1項に規定する課程修了相当の外国語の能力に係る試験については適用しない。

(修士論文審査等の特例)

第14条 前条の規定にかかわらず、審査委員及び審査委員会、論文発表会の開催並びに試験については、本専攻が別に定めるところにより、研究科に所属する複数の教員により行う研究指導等をもって、審査委員及び審査委員会、論文発表会の開催並びに試験に代えることができる。この場合において、第6条第2項、第7条、第9条及び第10条は準用しない。

- 2 前項の場合において、第8条及び第11条中「審査委員会」とあるのは「複数の教員」と読み替えて適用する。

(博士論文評価基準等及びその明示等)

第15条 博士論文もしくは修士論文又は特定課題研究に係る評価の基準等については、授業計画その他専攻長が別に定める。

- 2 前項に規定する評価の基準等は、あらかじめ出願資格者(第12条に規定する出願資格を有する者を含む。)に明示するものとする。

(雜則)

第16条 この規程に定めるもののほか、学位の授与に係る論文審査等の手続き等の実施に關して必要な事項は、本専攻が別に定める。

附 則 (平成19年2月21日大学規程先研第3号)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則 (平成19年5月29日大学規程先研第8号)

この規程は、平成19年6月1日から施行する。

附 則 (平成22年2月16日大学規程先研第2号)

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

(指導教員等の意見の聴取等)

第8条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験に当たり、その出願者の研究指導を担当する教員の意見を聴くものとする。ただし、審査委員会に当該教員が審査委員として選出されている場合には、これを要しないものとする。

- 2 審査委員会は、必要と認めるときは、審査委員以外の本学の教員及び他の大学、研究所等の教員等に博士論文の審査に関する意見を聴くことができる。

(論文発表会の開催)

第9条 審査委員会は、その出願者による論文の発表会について、専攻長と協議するものとする。

- 2 専攻長は、前項の協議に基づき、公開の論文発表会を開催するものとする。

(試験)

第10条 試験は、博士論文の審査が終了した後に、その博士論文を中心としてそれに関連がある専門分野及びその基礎となる分野に関する学識並びに課程修了相当の外国語の能力について、筆記又は口述により行うものとする。

- 2 前項の外国語の種類は、審査委員会が出願者の主任指導教員と協議して定めるものとする。

(専攻委員会及び研究科教授会の審査)

第11条 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を、研究科長が第5条第1項に規定する博士論文審査の出願に必要な書類を受理した日から3ヶ月以内に終了させなければならない。

- 2 審査委員会は、博士論文の審査及び試験を前項の期間内に終了させることができないう特別の理由があるときは、研究科教授会の議を経て、その期間を延長することができる。

3 審査委員会は、博士論文の審査及び試験の終了後、それらの結果等を博士論文審査等報告書(別紙様式7)により専攻委員会へ通知するものとし、専攻委員会はその通知に基づき、学位授与の可否について審議するものとする。

4 審査委員会は、前項の専攻委員会を審議結果等を博士論文審査等報告書の該当欄に記入し、その報告書により研究科教授会に報告するものとする。

- 5 研究科教授会は、前項の報告に基づき、学位授与の可否について審議し、議決するものとする。

(修士論文審査等の出願資格)

第12条 学則第16条第3項に規定する5年の課程を履修する者で、修士論文又は特定課題研究の審査及び試験に出願することができる者は、次の各号に掲げるすべての要件を満たす者とする。

- (1) 本専攻を退学する旨の届出を提出した者であること。
- (2) 本専攻における退学までの在学期間が2年以上であること。

別紙様式1 博士論文審査出願書 (第6条関係)

博士論文審査出願書

先導科学研究科長 殿

年 月 日

主任指導教員 確認印	専攻 確認印	長 確認印
---------------	-----------	----------

出願者 先導科学研究科生命共生体進化学専攻
氏名 (学籍番号)

総合研究大学院大学学位規則第6条第1項の規定に基づき、下記の関係書類を添え、博士論文審査を出願します。

記

- 提出書類
学位申請論文 5部
博士論文目録 5部
博士論文要旨 5部
履歴書 5部
参考となる他の論文等
- 取得希望学位 (付記する専攻分野) 博士 ()

(備考) 1 修士の学位の特例授与の出願者は「規則第6条」を「規則第16条」に、「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式3 博士論文要旨 (第6条関係)

博士論文要旨

年 月 日

出願者 先導科学研究科生命共生体進化学専攻
氏名 (学籍番号)

論文題目

要旨

(備考) 1 和文で作成する場合は2,000字～3,000字、英文で作成する場合は700語～2,000語程度で作成すること。
2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」と、「2,000字～3,000字」を「250字～3,000字」と、「700語～2,000語」を「200語～1,000語」に読み替えて作成すること。
3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式4 履歴書 (第6条関係)

履 歴 書

年 月 日

出願者	先導科学研究科生命共生体進化学専攻			男・女
氏名	氏名			
生年月日	年 月 日	出生	電話 ()	
現住所	〒			
連絡先	〒			
年 月	学 歴 ・ 職 歴			
年 月	研 究 歴			
備考				

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式5 博士論文審査委員推薦依頼書 (第6条関係)

博士論文審査委員推薦依頼書
 先導科学研究科生命共生体進化化学専攻長 殿
 先導科学研究科長 印

年 月 日

下記の者の博士論文審査に係る審査委員候補者を推薦願います。

記

出願者 先導科学研究科生命共生体進化化学専攻
 氏名 _____ (学籍番号)
 論文題目 _____

(備考) 1 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式6 博士論文審査委員推薦書 (第7条関係)

博士論文審査委員推薦書
 先導科学研究科長 殿
 先導科学研究科生命共生体進化化学専攻長 印

年 月 日

下記の者を依りて推薦願います。

記

出願者 先導科学研究科生命共生体進化化学専攻
 氏名 _____ (学籍番号)
 論文題目 _____

研究科所属の教員(3人以上)

所 属	氏 名

他研究科・他大学の教員等

所 属	氏 名

(備考) 1 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

別紙様式7 博士論文審査等報告書 (第11条関係)

博士論文審査等報告書
 先導科学研究科長 殿
 先導科学研究科生命共生体進化化学専攻
 氏名 _____ (学籍番号)

年 月 日

出願者	先導科学研究科生命共生体進化化学専攻 氏名	印
論文題目	主査	印
審査委員氏名		印
授与する学位 (付記する 専攻分野)	博 士 ()	印
(論文審査結果) [年 月 日実施]	印

(試験結果) [年 月 日実施]

(専攻委員会の審議結果) [年 月 日実施]

先導科学研究科生命共生体進化化学専攻長 確認 印

(備考) 1 審査委員氏名欄に自筆署名した場合は、押印を省略することができます。
 2 修士の学位の特例授与の出願者は「博士論文」を「修士論文又は特定課題研究」に読み替えて作成すること。
 3 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦型とすること。

〔平成16年4月14日
大学規則第 3 号〕

一部改正 17.3.18

目次

- 第1章 総則 (第1条－第2条)
- 第2章 科目等履修生 (第3条－第7条)
- 第3章 聴講生及び特別聴講学生 (第8条－第13条)
- 第4章 研究生及び特別研究生 (第14条－第21条)
- 第5章 授業料その他の費用等 (第22条－第27条)
- 第6章 雑則 (第28条)

附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、総合研究大学院大学規則(平成16年学則第1号。以下「学則」といふ。)第65条の規定に基づき、総合研究大学院大学(以下「本学」といふ。)における科目等履修生、聴講生及び研究生について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この規則において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 科目等履修生 本学の課程の学生(学則第15条に規定する研究科の課程に入学した学生をいう。本条において同じ。)以外の学生で、本学の授業科目のうち一又は複数の授業科目を履修し、単位を修得する者をいう。
- (2) 聴講生 本学の課程の学生以外の学生で、本学の授業科目のうち一又は複数の授業科目を聴講する者をいう。
- (3) 特別聴講学生 前号に規定する聴講生のうち、本学との間における大学間交流協定その他事前の協議に基づき本学に受入れる他の大学の大学院(外国の大学の大学院を含む。以下同じ。)の学生であつて、本学の授業科目を聴講し、単位を修得する者をいう。
- (4) 研究生 本学の課程の学生以外の学生で、本学において特定の事項について研究する者をいう。
- (5) 特別研究生 前号に規定する研究生のうち、本学との間における大学間交流協定その他事前の協議に基づき本学に受入れる他の大学の大学院の学生であつて、本学において研究指導を受ける者をいう。

第2章 科目等履修生

(科目等履修生の出願資格等)

第3条 科目等履修生は、選択した授業科目を履修するに十分な学力を有する者でなければならぬ。

2 科目等履修生の出願手続き及び入学の選考については、学長が別に定める。

(科目等履修生の入学許可)

第4条 科目等履修生の入学の許可は、所定の入学手続きを完了した者に学長が行う。

2 科目等履修生の入学の時期は、毎年4月又は10月とする。ただし、集中講義等特別の事情があるときは、学期の途中とすることができる。

(科目等履修生の授業科目の単位の授与)

第5条 科目等履修生が履修した授業科目の単位の授与は、学則第30条の規定を準用する。

(科目等履修生の退学)

第6条 科目等履修生が退学しようとするときは、学長の許可を受けなければならない。

(科目等履修生の懲戒及び除籍)

第7条 学則第60条に規定する懲戒及び学則第61条に規定する除籍(第4号の規定に該当する場合に限る。)は、科目等履修生に準用する。

第3章 聴講生及び特別聴講学生

(聴講生の出願資格等の準用)

第8条 聴講生に係る出願資格等、入学許可、退学、懲戒及び除籍については、第3条、第4条、第6条及び第7条の規定を準用する。この場合において、これらの規定中「科目等履修生」とあるのは「聴講生」と読み替えて適用する。

(特別聴講学生の受入れに係る他の大学院との協定又は協議)

第9条 特別聴講学生を受入れる場合は、本学と他の大学の大学院との間において、次の各号に掲げる事項をあらかじめ協定を締結又は協議しなければならない。

- (1) 授業科目の範囲
- (2) 学生数
- (3) 単位の認定方法
- (4) 履修期間
- (5) 授業料の徴収方法
- (6) その他の必要な事項

(特別研究学生の受入れに係る他の大学院との協定又は協議)
第18条 特別研究学生を受入れる場合は、本学と他の大学の大学院との間において、次の各号に掲げる事項をあらかじめ協定を締結又は協議しなければならない。

- (1) 研究題目
- (2) 学生数
- (3) 研究指導を行う期間
- (4) 授業料の徴収方法
- (5) その他の必要な事項

(特別研究学生の入学許可)
第19条 前条に規定する協定又は協議に基づき、当該他の大学の大学院から特別研究学生の受入れ依頼があったときは、学長が入学を許可するものとする。

(特別研究学生の研究指導状況報告書)
第20条 特別研究学生が所定の研究指導を終了したときは、研究指導状況報告書を交付する。

(特別研究学生の退学等の準用)
第21条 特別研究学生に係る退学、懲戒及び除籍、入学許可の取消し並びに研究期間及び研究期間の延長、指導教員については、第6条、第7条、第12条、第15条及び第16条の規定を準用する。この場合において、第6条及び第7条中「科目等履修生」とあるのは「特別研究学生」と、第12条第1号中「単位の修得」とあるのは「研究指導計画の完了」と、同条第3号中「特別聴講学生」とあるのは「特別研究学生」と、第15条第1項及び第16条中「研究生」とあるのは「特別研究学生」と読み替えて適用する。

第5章 授業料その他の費用等

(授業料、入学科及び検定料の額)
第22条 本学の科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生及び特別研究学生の授業料、入学科及び検定料は、別表のとおりとする。

(授業料)

第23条 科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生及び特別研究学生は、学長が別に定める期日まで授業料を納付しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第9条又は第18条の規定に基づき本学との間における大学間交流協定その他事前の協議において、特別聴講学生又は特別研究学生の授業料を相互に不徴収とされている場合には限り、授業料を徴収しないものとする。

(入学科)

第24条 科目等履修生、聴講生及び研究生の入学の選考に合格した者は、学長が別に定め

(特別聴講学生の入学許可)
第10条 前条に規定する協定又は協議に基づき、当該他の大学の大学院から特別聴講学生の受入れ依頼があったときは、学長が入学を許可するものとする。

(特別聴講学生の学業成績証明書)
第11条 特別聴講学生が所定の授業科目を聴講し、単位を修得したときは、学業成績証明書を交付する。

(特別聴講学生の入学許可の取消し)
第12条 学長は、特別聴講学生が次の各号の一に該当する場合は、当該他の大学の大学院との協議により、その入学の許可を取り消すことができる。

- (1) 単位の修得の見込みがないと認められるとき
- (2) 本学の規則等に違反し、又はその本分に反する行為があると認められるとき
- (3) その他特別聴講学生の趣旨に反する行為があると認められるとき

(特別聴講学生の単位授与等の準用)

第13条 特別聴講学生に係る授業科目の単位の授与、退学、懲戒及び除籍については、第5条から第7条までの規定を準用する。この場合において、これらの規定中「科目等履修生」とあるのは「特別聴講学生」と読み替えて適用する。

第4章 研究生及び特別研究学生

(研究生の出願資格等)

第14条 研究生は、選択した事項について研究するに十分な学力を有する者でなければならぬ。

2 研究生の出願手続き及び入学の選考については、学長が別に定める。

(研究生の研究期間及び研究期間の延長)

第15条 研究生の研究期間は、入学を許可された日から1年以内とする。
2 前項の規定にかかわらず、許可された研究期間が終了した後、引き続き研究を継続しようとする者は、研究期間の延長を許可することができる。

(研究生の指導教員)

第16条 研究生の指導教員は、研究科が別に定める。

(研究生の入学許可等の準用)

第17条 研究生に係る入学許可、退学、懲戒及び除籍については、第4条、第6条及び第7条の規定を準用する。この場合において、これらの規定中「科目等履修生」とあるのは「研究生」と読み替えて適用する。

別表（第25条関係）

区分	授業料	入学料	検定料
科目等履修生	1単位について 14,800円	28,200円	9,800円
聴講生	1単位に相当する授業について 14,800円	28,200円	9,800円
特別聴講学生	1単位に相当する授業について 14,800円	—	—
研究生	月額 29,700円	84,600円	9,800円
特別研究生	月額 29,700円	—	—

る期日までに入学料を納付しなければならぬ。

2 特別聴講学生、特別研究生及び第15条の規定に基づき研究期間の延長を許可された研究生に係る入学料は、徴収しないものとする。

（検定料）

第25条 科目等履修生、聴講生及び研究生に入学を申請する者は、学長が別に定める期日までに検定料を納付しなければならない。

2 特別聴講学生、特別研究生及び第15条の規定に基づき研究期間の延長を許可された研究生に係る検定料は、徴収しないものとする。

（授業料、入学料及び検定料の不返還）

第26条 前3条の規定により納付した授業料、入学料及び検定料は返還しない。ただし、学長が別に定めるところにより、納付した授業料に相当する額の全部又は一部を返還することができる。

（実験実習の費用）

第27条 第23条第2項の規定により授業料を不徴収とされた特別聴講学生又は特別研究生に係る実験又は実習に要する費用は、特別聴講学生又は特別研究生の自己負担とすることができる。

第6章 雑則

（雑則）

第28条 この規則に定めるもののほか、科目等履修生、聴講生及び研究生に関する出願手続き、入学の選考及び授業料その他の費用に係る徴収手続きその他必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

2 この規則施行の際現に科目等履修生、聴講生、特別聴講学生、研究生及び特別研究生として入学の許可並びに研究生及び特別研究生として研究期間の延長の許可を受けている者は、この規則の規定により許可があつたものとみなす。

附 則（平成17年3月18日大学規則第3号）

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

〔平成16年4月14日
大学規程第 1 号〕

(趣旨)

第1条 この規程は、総合研究大学院大学科目等履修生、聴講生及び研究生規則（平成16年大学規則第3号。以下「規則」という。）第28条の規定に基づき、総合研究大学院大学（以下「本学」という。）における科目等履修生、聴講生及び研究生に関する出願手続及び入学の選考その他必要な事項を定めるものとする。

(科目等履修生及び聴講生の出願手続)

第2条 本学に科目等履修生又は聴講生として入学を出願する者は、次の各号に掲げる書類に規則第22条に規定する検定料を添えて、選択した授業科目を開設する研究科の専攻（以下「専攻」という。）の専攻長を経由して研究科長に提出しなければならない。

- (1) 入学願書
- (2) 履歴書
- (3) 卒業証明書等
- (4) 主な研究歴

2 前項にかかわらず、複数の研究科において開設する授業科目及び学長が別に定める授業科目を選択する場合は、学長に提出しなければならない。

(科目等履修生及び聴講生の入学の選考等)

第3条 前条第1項の規定により出願の書類を受理した研究科長は、当該志願する者の研究能力等についての入学の選考を行う。

2 前条第2項の規定により出願の書類を受理した学長は、当該志願する者が選択した授業科目を開設する研究科ごとに研究能力等の確認についての入学の選考を付託する。

3 研究科長は、前2項に規定する入学の選考又は研究能力等の確認の結果を学長に報告する。

(研究生の出願手続)

第4条 本学に研究生として入学を出願する者は、次の各号に掲げる書類に規則第22条に規定する検定料を添えて、研究を志願する専攻の専攻長を経由して研究科長に提出しなければならない。

- (1) 入学願書
- (2) 履歴書
- (3) 卒業証明書等
- (4) 主な研究歴
- (5) 健康診断書
- (6) 所属長の承認書（定職に就いている者に限る。）

(研究生の入学の選考等)

第5条 前条の規定により出願の書類を受理した研究科長は、当該志願する者の研究能力等についての入学の選考を行い、合格と判定したときは、指導教員を定めるものとする。

2 研究科長は、前項に規定する入学の選考の結果及び指導教員の氏名を学長に報告する。

(研究生の研究期間の延長手続等)

第6条 研究生として許可された研究期間が終了した後、引き続き研究を継続しようとする者は、第4条第1号、第5号及び第6号に掲げる書類に理由書を添えて、研究を継続しようとする専攻の専攻長を経由して研究科長に提出しなければならない。

2 研究生の研究期間の延長に係る選考については、前条の規定を準用する。

(運用及び改正)

第7条 学長は、この規程の運用及び規程の改正に当たっては、教育研究評議会の意見を聴かなければならない。

(出願様式)

第8条 第2条及び第4条に規定する出願手続に必要な様式等は、学長が別に定める。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、入学の選考及び研究期間延長の選考の実施その他必要な事項は、研究科又は専攻が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

平成16年4月14日
法人規則第111号

(授業料の徴収方法)

第3条 授業料の徴収は、各年度に係る授業料について、前期及び後期の二期に区分して行うものとし、それぞれの期において徴収する額は、年額の2分の1に相当する額（その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。以下「半期授業料の額」という。）とする。

2 前項の授業料の徴収の時期は、前期にあつては4月、後期にあつては10月とし、徴収の時期前とはそれぞれ4月1日前、10月1日前を、徴収の時期後とはそれぞれ5月1日以降次の徴収時期前まで、11月1日以降次の徴収の時期前までを指すものとする。

3 前2項の規定にかかわらず、学生の申出があつたときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。

4 入学年度の前期又は後期に係る授業料については、第1項及び第2項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があつたときは、入学を許可するときに徴収するものとする。

(入学の時期が徴収の時期後である場合における授業料の額及び徴収方法)

第4条 特別の事情により、入学の時期が徴収の時期後である場合に前期又は後期において徴収する授業料の額は、授業料の年額の12分の1に相当する額（その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。以下「月割授業料の額」という。）に入学した日の属する月から次の徴収の時期前までの月数を乗じて得た額とし、入学の日の属する月に徴収するものとする。

(復学等の場合における授業料の額及び徴収方法)

第5条 前期又は後期中途において復学、転学、編入学、再入学又は転入学（以下「復学等」という。）をした者から前期又は後期において徴収する授業料の額は、月割授業料の額に復学等の日の属する月から次の徴収の時期前までの月数を乗じて得た額とし、復学等の日の属する月に徴収するものとする。

(学年の途中で課程を修了する場合における授業料の額及び徴収方法)

第6条 特別の事情により、学年の途中で課程を修了する者から徴収する授業料の額は、月割授業料の額に在学する月数を乗じて得た額とし、当該学年の始めの月に徴収するものとする。ただし、課程を修了する月が後期であるときは、後期の在学期間に係る授業料は、後期の徴収の時期に徴収するものとする。

(退学の場合における授業料の額)

第7条 後期の徴収の時期前に退学する者から徴収する授業料の額は、半期授業料の額とする。

(入学料の徴収方法)

一部改正 17.3.18/ 19.3.14

20.3.27/ 21.6.11

目次

第1章 総則（第1条）

第2章 授業料その他の費用及び徴収方法等

第1節 授業料その他の費用及び徴収方法（第2条～第10条）

第2節 長期履修学生に係る授業料及び徴収方法の特例（第10条の2～第10条の3）

第3章 授業料の免除及び徴収猶予

第1節 授業料の免除（第11条～第19条の2）

第2節 授業料の徴収猶予（第20条～第23条の2）

第4章 入学料の免除及び徴収猶予

第1節 入学料の免除（第24条～第28条）

第2節 入学料の徴収猶予（第29条～第32条）

第3節 徴収の猶予等（第33条）

第4節 死亡等による入学料の免除（第34条）

第5章 雑則（第35条～第37条）

附則

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学等の授業料その他の費用に関する省令（平成16年文部科学省令第16号）及び国立大学法人総合研究大学院大学基本通則（平成16年基本通則第1号）第38条の規定に基づき、総合研究大学院大学（以下「大学」という。）における授業料その他の費用及び徴収方法並びに免除又は徴収猶予の取扱い等に関して必要な事項を定めるものとする。

第2章 授業料その他の費用及び徴収方法等

第1節 授業料その他の費用及び徴収方法

(授業料、入学料及び検定料の額)

第2条 大学において徴収する授業料、入学料及び検定料の額は、次のとおりとする。

授業料 535,800円（年額）

入学料 282,000円

第8条 入学科は、入学を許可するときに徴収するものとする。

(検定料の徴収方法)

第9条 検定料は、入学、転学、編入学、再入学又は転入学の出願を受理するときに徴収するものとする。

(授業料、入学科及び検定料の不返還)

第10条 第2章の規定により徴収した授業料、入学科及び検定料は返還しない。ただし、第3条第3項の規定により前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収した者が、後期に係る授業料の徴収の時期前に休学又は退学した場合は、後期に係る授業料に相当する額を返還する。

2 前項の規定にかかわらず、入学を許可するときに授業料を納付した者が、3月31日までに入学を辞退した場合は、納付した者の申し出によりその授業料に相当する額を返還する。

3 第1項の規定にかかわらず、第2章の規定により徴収された者が、徴収の時期に休学が許可された場合は、第17条の規定に基づき免除額を返還する。

第2節 長期履修学生に係る授業料及び徴収方法の特例

(長期履修学生に係る授業料の年額の特例)

第10条の2 総合研究大学院大学学則(平成16年学則第1号。以下「学則」という。)第16条の2に規定する長期履修学生から徴収する授業料の年額は、当該在学を認められた期間(以下「長期在学期間」という。)に限り、第2条の規定にかかわらず、同条に規定する授業料の年額に学則第16条第1項に規定する標準の修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期在学期間の年数で除した額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。)とする。

(長期履修学生に係る授業料及び徴収方法の特例)

第10条の3 長期履修学生が学年の途中で課程を修了する場合に徴収する授業料の額は、前条に定められた授業料の年額の12分の1に相当する額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。)に在学する月数を乗じて得た額とし、当該学年の始めの月に徴収するものとする。ただし、課程を修了する月が後期であるときは、後期の在学期間に係る授業料は、後期の徴収の時期に徴収することができるものとする。

2 長期履修学生が長期在学期間を短縮することを認められる場合には、当該短縮後の期間に応じて同条の規定により算出した授業料の年額に当該学生が在学した期間の年数(その期間に1年に満たない端数があるときは、これを切り上げるものとする。以下同じ。)を乗じて得た額から当該学生が在学した期間(学年の中途にあつては、当該学年の終了までの期間とする。以下同じ。)に納付すべき授業料の総額を控除した額を、長期在学期間の短縮を認めるときに徴収するものとする。ただし、当該短縮後の期間が標準の修業年限に相当する期間の場合には、第2条に規定する授業料の年額に当該学生が在学した期間の年数を乗じて得た額から当該学生が在学した期間に納付すべき授業料の

総額を控除した額を徴収するものとする。

第3章 授業料の免除及び徴収猶予

第1節 授業料の免除

(経済的理由による免除)

第11条 大学の学生(学則第16条の2に規定する長期履修学生及び総合研究大学院大学科目等履修生、聴講生及び研究生規則(平成16年大学規則第3号。以下「科目等履修生等規則」という。)第2条に規定する学生を除く。以下同じ。)が経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合は、授業料を免除することができる。

(免除の手続き)

第12条 授業料の免除を受けようとする者は、授業料免除願(別記様式第1号)に次の各号に掲げる書類を添付して、前期に係る授業料の免除にあつては4月30日、後期に係る授業料の免除にあつては10月31日までに学長に提出しなければならない。

- (1) 家庭調査書(別記様式第2号)
- (2) 所得に関する証明書(市区町村長発行のもの)
- (3) その他大学が必要と認める書類

(免除の許可)

第13条 授業料の免除は、前条の規定により授業料免除願を提出した者について、運営会議の議を経て、学長が許可する。

(免除の額)

第14条 授業料の免除の額は、原則として前期又は後期において、半期授業料の額の全額又は半額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。)とする。

(免除の許可の取消し)

第15条 授業料の免除を許可された者が免除の許可を受けた後その理由が消滅したと認められる場合は、学長は、運営会議の議を経て、その許可を取り消すものとする。

(学資負担者の死亡等による免除)

第16条 学生が次の各号の一に該当する特別な事情により、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合は、その事由の発生した日の属する期の次の徴収の期に係る授業料を免除することができる。ただし、その事由の発生時期がその期の徴収の時期前であり、かつ、その期において授業料を徴収していない場合は、その期に係る授業料を免除することができる。

(1) 授業料の各期ごとの徴収の時期前6月以内(新たに大学に入学した者に対する入学

した日の属する期の免除に係る場合は、入学前1年以内)において、学生の学資を主として負担している者(以下「学資負担者」という。)が死亡し、又は学生若しくは学生の学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前号に準ずる場合であつて、学長が相当と認める事由がある場合

2 前項の規定により授業料の免除を受けようとする者については、第12条の規定を準用する。この場合において、同条各号に掲げる書類に加えて、学生の学資負担者の死亡を証明する書類(医師又は市区町村長又は警察署長若しくは消防署長発行のもの。以下同)を添付しなければならない。

3 第1項の規定による授業料の免除の許可及び免除の額については、第13条及び第14条の規定を準用する。

(休学による免除)

第17条 休学を許可された学生が次の各号の一に該当する場合は、休学した日の属する翌月から復学した日の属する前月までの月割授業料の額の全額を免除する。ただし、休学した日が月の初日である場合は、休学した月から免除する。

(1) 休学の許可が授業料の徴収の時期前又は徴収の時期にされた場合

(2) 第20条の規定により授業料の徴収猶予を許可された者が休学を許可された場合

(退学による免除)

第18条 次の各号の一に該当する場合は、退学した日の属する翌月からの月割授業料の額の全額を免除する。

(1) 退学の許可が授業料の徴収の時期にされた場合

(2) 第20条の規定により授業料の徴収猶予を許可された者が退学を許可された場合

(除籍等による免除)

第19条 学生が次の各号の一に該当する場合は、徴収すべき授業料の全額を免除する。

(1) 入学料又は授業料の未納により除籍された場合

(2) 死亡した場合

(長期履修学生に係る授業料の免除の特例)

第19条の2 学則第16条の2に規定する長期履修学生に係る授業料の免除については、当該学生以外の学生との均衡等を考慮して、学長が別に定める。

と認められる場合

(2) 行方不明の場合

(3) 学生又は学資負担者が災害を受け、授業料の納付が困難であると認められる場合

(4) その他やむを得ない事情があると認められる場合

2 特別の事情がある場合は、前項の規定による徴収猶予を月割授業料の額の分割徴収とすることができる。

(徴収猶予の期限)

第21条 授業料の徴収猶予(月割授業料の額の分割徴収を除く。)の期限は、前期にあつては9月15日、後期にあつては3月15日とする。

2 授業料の月割授業料の額の分割徴収は、毎月末日までに徴収するものとする。

(徴収猶予の手続き)

第22条 授業料の徴収猶予を受けようとする者は、授業料徴収猶予(月割徴収)願(別記様式第3号)を第12条の規定に準じて提出しなければならない。

(徴収猶予の許可及び許可の取消し)

第23条 授業料の徴収猶予の許可及び許可の取消しについては、第13条及び第15条の規定を準用する。

(長期履修学生に係る授業料の徴収猶予の特例)

第23条の2 学則第16条の2に規定する長期履修学生に係る授業料の徴収猶予については、当該学生以外の学生との均衡等を考慮して、学長が別に定める。

第4章 入学料の免除及び徴収猶予

第1節 入学料の免除

(経済的理由等による免除)

第24条 大学に入学する者(科目等履修生等規則第2条に規定する学生として入学する者を除く。以下「入学者」という。)が、経済的理由によって入学料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合は、入学料を免除することができる。ただし、本項において適用から除かれた者であっても、次の各号の一に該当する特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる場合は、免除の対象とすることができる。

(1) 入学前1年以内に、入学者の学資負担者が死亡し、又は入学者若しくは入学者の学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前号に準ずる場合であつて、学長が相当と認める事由がある場合

(免除の手続き)

第25条 入学料の免除を受けようとする者は、入学料免除願(別記様式第4号)に次の各号に掲げる書類を添付して、入学手続き終了の日までに学長に提出しなければならない。

- (1) 第12条各号に掲げる書類
(2) 前条第1号に該当する場合は、入学者の学資負担者の死亡を証明する書類又は災害の被害程度が判断できる罹災証明書

(免除の許可)

第26条 入学科の免除は、前条の規定により入学科免除願を提出した者について、運営会議の議を経て、学長が許可する。

(免除の額)

第27条 入学科の免除の額は、原則として入学科の額の全額又は半額（その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。）とする。

(免除の許可の取消し)

第28条 入学科の免除の取消しについては、第15条の規定を準用する。

第2節 入学科の徴収猶予

(徴収猶予)

第29条 入学者が、次の各号の一に該当する場合は、入学科の徴収を猶予することができる。

- (1) 経済的理由によって納付すべき時期までに入学科の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合
(2) 入学前1年以内、入学者の学資負担者が死亡し、又は入学者若しくは入学者の学資負担者が風水害等の災害を受け、納付すべき時期までに入学科の納付が困難であると認められる場合
(3) その他やむを得ない事情があると認められる場合

(徴収猶予の手続き)

第30条 入学科の徴収猶予を受けようとする者は、入学科徴収猶予願（別記様式第5号）に次の各号に掲げる書類を添付して、入学手続き終了の日までに学長に提出しなければならない。ただし、入学科の免除を申請した者であって、免除を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者については、不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に入学科の徴収猶予の申請を行うことができるものとする。

- (1) 第12条各号に掲げる書類
(2) 前条第2号に該当する場合は、入学者の学資負担者の死亡を証明する書類又は災害の被害程度が判断できる罹災証明書

(徴収猶予の許可及び許可の取消し)

第31条 入学科の徴収猶予の許可及び許可の取消しについては、第26条及び第28条の規定を準用する。

(徴収猶予の期限)

第32条 入学科の徴収猶予の期限は、4月入学者にあつては9月15日、10月入学者にあつては3月15日とする。

第3節 徴収の猶予等

(徴収の猶予等)

第33条 入学科免除願又は入学科徴収猶予願を提出した者に係る入学科は、免除又は徴収を許可し又は不許可とするまでの間、徴収を猶予する。

- 2 入学科の免除又は徴収猶予を許可されなかつた者及び半額免除を許可された者（第30条ただし書の規定により徴収猶予の申請をした者を除く。）は、免除若しくは徴収猶予の不許可又は半額免除の許可を告知した日から起算して14日以内に、納付すべき入学科を納付しなければならない。

第4節 死亡等による入学科の免除

(死亡等による入学科の免除)

第34条 入学科免除願又は入学科徴収猶予願を提出した者が、次の各号の一に該当する場合は、徴収すべき入学科の全額を免除する。

- (1) 第32条及び前条第1項の規定による猶予の期間内に死亡した場合
(2) 免除若しくは徴収猶予を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者が、前条第2項に規定する期間内に死亡した場合
(3) 免除若しくは徴収猶予を許可されなかつた者又は半額免除を許可された者が、納付すべき入学科を納付しないことにより除籍された場合

第5章 雑則

(科目等履修生等の授業料その他の費用の額及び徴収方法)

第35条 大学の科目等履修生、聴講生及び研究生に係る授業料その他の費用の額は、科目等履修生等規則に定める。

- 2 前項に規定する授業料その他の費用に係る徴収方法については、科目等履修生等規則に定めるもののほか、この規則を準用する。

(学位論文審査手数料及び徴収方法)

第36条 総合研究大学院大学学位規則（平成元年規則第2号）第6条第2項に規定する博士論文審査手数料（以下「手数料」という。）の額は、57,000円とする。

- 2 手数料は、博士論文審査の申請を受理するときに徴収するものとする。
3 前項の規定により納付した手数料は返還しない。

別記様式第1号 (第12条関係)

授 業 料 免 除 願

年 月 日

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。
- 2 この規則施行の際現に平成11年3月31日に在学する者に係る授業料の額は、第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
 - 附 則 (平成17年3月18日法人規則第3号)
- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 この規則施行の際現に在学する学生が学則第16条の2に規定する長期履修学生の適用に係る申し出る場合の取扱いは、学長が別に定める。
- 3 この規則施行の際現に平成11年3月31日に在学する者に係る授業料の額は、第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
 - 附 則 (平成19年3月14日法人規則第5号)
- この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 附 則 (平成20年3月27日法人規則第6号)
- この規則は、平成20年4月1日から施行する。
- 附 則 (平成21年6月11日法人規則第9号)
- この規則は、平成21年4月1日から施行する。

総合研究大学院大学長 殿

入学年度： 年度
 学籍番号：
 研究科： 研究科
 専攻：
 [本人]
 住所：〒
 氏名：

年度 期分授業料を下記の理由により免除していただきたいので、家庭調書及び証明書類を添えてお願いします。

【理由】(具体的に記入のこと)

.....

別記様式第2号 (第12条関係) 家庭調書は別掲載

授業料徴収猶予(月割徴収)願

年 月 日

総合研究大学院大学長 殿

入学年度： 年度
学籍番号：
研究科： 研究科
専攻：
[本人]

住所：〒
氏名：

年度 期分授業料を下記の理由により所定の期日までに納入できませんので、
徴収猶予(月割分納)をお願いします。

【理由】(具体的に記入のこと)

入学料免除願

年 月 日

総合研究大学院大学長 殿

入学年度： 年度
学籍番号：
研究科： 研究科
専攻：
[本人]

住所：〒
氏名：

年度入学料を下記の理由により免除していただきたいので、家庭調書及び証明書
類を添えてお願いします。

【理由】(具体的に記入のこと)

別記様式第5号（第30条関係）

入 学 料 徴 収 猶 予 願

年 月 日

総合研究大学院大学長 殿

入学年度： 年度

学籍番号：

研究科：.....研究科

専攻：.....

[本人]

住所：〒.....

氏名：.....

年度入学科を下記の理由により所定の期日までに納入できませんので徴収猶予を
お願いいたします。

【理由】（具体的に記入のこと）

.....
.....
.....
.....
.....
.....

総合研究大学院大学における中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状の授与の所要資格等に関する規則

〔平成3年3月27日
規則 第1号〕

一部改正 4.5.29/5.6.22/6.6.27
10.3.24/16.4.14

(趣旨)

第1条 この規則は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)第5条の規定に基づき、総合研究大学院大学において授与の所要資格を得ることができる中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状に関する事項について定めるものとする。

(授与の所要資格及び免許状の種類)

第2条 次の表の第1欄に掲げる課程に所属する者で、現に第2欄に掲げる中学校教諭1種免許状又は高等学校教諭1種免許状を有する者(当該各免許状の所要資格を得ている者を含む。以下同じ。)は、第1欄に掲げる課程の区分に応じ、それぞれ、当該各課程が開設する授業科目について24単位以上を修得したときは、第3欄に掲げる中学校教諭専修免許状又は高等学校教諭専修免許状の授与の所要資格を得ることができる。

第1欄 課 程	第2欄	第3欄
文化科学 研究科	現に有する1種免許状 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史)	授与の所要資格を得ることが のできる専修免許状 高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)
	中学校教諭1種免許状 (社 会)	中学校教諭専修免許状 (社 会)
比較文化学専攻	高等学校教諭1種免許状 (公 民)	高等学校教諭専修免許状 (公 民)
	中学校教諭1種免許状 (社 会)	中学校教諭専修免許状 (社 会)

(証明書の交付)

第3条 免許状の授与を受けようとする者から願出があったときは、その者の学力に関する証明書を交付する。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則 (平成4年5月29日規則第5号)

この規則は、平成4年5月29日から施行し、平成4年4月1日から適用する。

附 則 (平成5年6月22日規則第5号)

この規則は、平成5年6月22日から施行し、平成5年4月1日から適用する。

附 則 (平成6年6月27日規則第7号)

この規則は、平成6年6月27日から施行し、平成6年4月1日から適用する。

附 則 (平成10年3月24日規則第3号)

1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。

2 この規則による改正前の数物科学研究科放射光科学専攻で平成10年3月31日に在学する者については、改正後の規則第2条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成16年4月14日大学規則第2号)

この規則は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

平成16年4月14日
学 長 裁 定

総合研究大学院大学学生規則（平成16年大学規則第1号。以下「規則」という。）第17条第1項ただし書の規定により、総合研究大学院大学（以下「本学」という。）における学生の氏名の取り扱いを次のように定める。

第1 本学学生の氏名は、規則第17条第1項の規定により戸籍簿記載の氏名（以下「戸籍氏名」という。）により取り扱うものとするが、同項ただし書の規定により学生の申出に基づき旧戸籍簿記載の氏名（以下「旧姓名」という。）の使用を認めることができる。

なお、旧姓名の使用を認められた学生に係る証明書等各種文書には、旧姓名を用いることとする。その場合は、原則として修了までに旧姓名を用いることとする。

第2 本学在学中に氏名に変更が生じた場合は、改正(名)届の記載に基づき、学生簿の氏名を変更する。

なお、上記の場合であっても規則第17条第2項により旧姓名を使用したい旨の申出があった場合は、学籍簿の氏名を変更せず、改正(名)届の記載に基づき、学籍簿の摘要欄に戸籍氏名及び届出年月日を記載し、旧姓名使用の旨を注記する。

第3 本学入学前に氏名に変更が生じていた場合で、旧姓名を使用したい旨の申出があった場合の氏名の確認、学籍簿の取り扱い等については、前記第2の取り扱いに準ずる。

第4 学位記の氏名については、本人の申出により旧姓名と戸籍氏名との併記によることのできる。

第5 旧姓名を使用する学生に係る大学発行の証明書等各種文書に記載された旧姓名と戸籍氏名との同一性の証明については、学生の自己責任とする。

附 則

- 1 この学長裁定は、平成16年4月14日から施行し、平成16年4月1日から適用する。
- 2 この学長裁定施行の際現に旧姓名の使用を認められた学生については、この学長裁定に基づき申出があったものとみなす。

平成17年9月7日
学 長 裁 定

第11号。以下「規則」という。) 第2章第2節の規定による。

(雑則)

第7条 この裁定に定めるもののほか、長期履修に関して必要な事項は、研究科長が別に定める。

(趣旨)

第1条 この裁定は、総合研究大学院大学規則(平成16年学則第1号。以下「学則」という。)第16条の2第2項及び第46条第3項並びに総合研究大学院大学学生規則(平成16年大学規則第1号)第2条第2項の規定に基づき、総合研究大学院大学の学生が職業を有している等の事情により、標準の修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的な課程の履修(以下「長期履修」という。)を認める学生(以下「長期履修学生」という。)の取扱いその他必要な事項を定めるものとする。

(長期履修の対象となる者の要件)

第2条 長期履修の対象となる者の要件は、研究科ごとに研究科長が定める。

(適用の申し出)

第3条 長期履修の適用を希望する旨を申し出る者は、長期履修適用申出書(別紙様式1)に前条の規定により研究科長が定めた要件が確認できる書類及び長期履修が適用された場合の履修計画その他研究科が別に定める書類を添えて、所属する専攻又は出願する専攻の専攻長を経由して研究科長に提出し、その承認を受けなければならない。

2 長期履修学生が、長期履修が認められた期間の延長又は短縮(以下「期間変更」という。)を申し出るときは、長期履修期間変更申出書(別紙様式2)に要件の変更等が確認できる書類及び長期履修の期間変更した場合の履修計画を添えて、所属する専攻長を経由して研究科長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 研究科長は、前2項の申し出を承認するときは、当分の間、学長と協議するものとする。

(長期履修の期間及び在学年限)

第4条 長期履修を認める期間及び在学できる最長の年限(休学期間を除く。)は、学期の区分に従い学生ごとに、研究科長が定める。

(申し出の時期)

第5条 長期履修の適用又は期間変更の申し出の時期は、研究科長が定める。

(長期履修学生に係る授業料及び徴収方法等)

第6条 長期履修学生に係る授業料の年額及び徴収方法については、国立大学法人総合研究大学院大学における授業料その他の費用等の取扱いに関する規則(平成16年法人規則

附 則

この裁定は、平成17年10月1日から施行する。

別紙様式1 長期履修適用申出書 (第3条第1項関係)

長期履修適用申出書 ○○科学研究科長 殿 ○○科学研究科○○専攻 学籍番号 氏 名 印	年 月 日
下記の事情により、長期履修の適用を希望したいので申し出ます。	
【入学年月日】 年 月 日 入学 【長期履修の適用を希望する期間】 年 月 日 ～ 年 月 日 【長期履修が適用された際の修業期間】 年 月 日 ～ 年 月 日 (年 ヶ月。うち長期履修期間 年 ヶ月) 【長期履修の適用を希望する事情】	
【指導教員の所見】 年 月 日 指導教員氏名 印	
【専攻長の承認】 年 月 日 専攻長名 印 (備考) 1 この申出書のほか、「職業を有している等の事情が確認できる書類」、「長期履修が適用された場合の履修計画」、ほか研究科で指定する必要な書類を提出して下さい。 2 自筆署名した場合は、押印を省略することができます。	

別紙様式2 長期履修期間変更申出書 (第3条第2項関係)

長期履修期間変更申出書 ○○科学研究科長 殿 ○○科学研究科○○専攻 学籍番号 氏 名 印	年 月 日
下記の事情により、長期履修期間を変更したいので申し出ます。	
【入学年月日】 年 月 日 入学 【これまでの長期履修期間】 年 月 日 ～ 年 月 日 (年 ヶ月) 【変更を希望する学期】 年 月 【変更後の長期履修期間】 年 月 日 ～ 年 月 日 (年 ヶ月) 【長期履修期間を変更する事情】	
【指導教員の所見】 年 月 日 指導教員氏名 印	
【専攻長の承認】 年 月 日 専攻長名 印 (備考) 1 この申出書のほか、「長期履修期間を変更した場合の履修計画」ほか研究科で指定する必要な書類を提出して下さい。 2 自筆署名した場合は、押印を省略することができます。	

(注) この学生便覧に掲載している英訳本文は、和文の内容を参考掲載したものです。
大学としての正式な解釈及び適用は和訳本文によります。

【Attention】

The English version in this guide is used for reference only and shall not be regarded as a controlling document.

学生便覧 “Student Guide”

(平成22年度版) 2010

平成22年4月発行

編集・発行 国立大学法人総合研究大学院大学

学務課教務係 (Kyoumu-Gakari/Hayama)

TEL 046-858-1523

FAX 046-858-1541

E-mail kyomu@ml.soken.ac.jp